

神戸市外国語大学博士論文

複合名詞のアクセントについて
— 連濁との関係を中心に —

2023年11月30日

神戸市外国語大学大学院

外国語学研究科

文化交流専攻言語コース

劉汝源

論文内容の要旨

学位申請者氏名 劉汝源

本研究では、東京方言における一般名詞の複合名詞のアクセントについて、連濁現象との関係を幅広く議論した。複合名詞のアクセントに影響する「連濁」という要因を新たに指摘した。

検証するデータについては、『NHK 日本語発音アクセント新辞典』(2016)に基づく7万語ほどの単語アクセントデータベースを作成し、研究対象となる語彙を選別して分析を行った。アクセントデータベースに、アクセント辞典に記載がある語彙・読み・アクセントなどの他、新たに品詞大分類、形態素分析(前・後部要素の切れ目、前・後部要素それぞれの品詞、語種、アクセント)、連濁などの情報も加えた。

アクセントデータベースを用い、複合名詞のアクセントに影響する「連濁」要因について、仮説を立てて検証した。その結果、「連濁」要因が複合名詞のアクセントに影響することを明らかにした。「連濁」要因は主に以下の3点にまとめられる。

- ①「連濁は、複合語の前・後部要素の境界を示し、連濁するとアクセント核も各要素の境界を示せる所に置かれやすい」(連濁を生じる語は、アクセント核が語境界の1拍前後に置かれる傾向がみられる)
- ②「後部要素が3・4拍かつ中大型語の場合において、連濁を生じると、後部要素のアクセント核位置が保存されず、アクセント核は後部要素の語頭拍に置くという傾向がみられる」
- ③「連濁は尾高型を回避し、生産性が高いアクセント型が現れやすい」(短い複合語の生産性が高いアクセント型とは、平板型の場合と、語境界の1拍前後にアクセント核を置く場合である)

そして、複合名詞のアクセントの規則性を整理し、比較分析する際に、規則性が明らかにしていない所について、今までの研究と異なる視点で、例外や不明な所を説明できるように試みをした。その結果、前・後部要素の特定の語彙が、複合名詞のアクセントを決定する力があることが、新たに発見された。従来の研究では、短い複合名詞について、前部要素のアクセントが、複合名詞全体のアクセントを決定する力を持つことだと、よく主張されている。本研究は、前・後部要素のアクセントに関係せず、前・後部要素である特定の語彙が、複合名詞全体のアクセントを決定する力もあると、新たに指摘した。

また、連濁現象に関して、ローゼン(2001)による語の3分類(**rendaku immune**・**rendaku hater**・**rendaku lover**)について、アクセントデータベースを使用し、網羅的に語彙を扱って再考察した(主に金田一(1974)アクセント語類表に見られる2拍和語名詞)。その結果、ローゼンが扱っている語の問題点を指摘した。一方、ローゼンが扱っていない語について、3分類の分類方法を用い、分類した。さらに、金田一(1974)アクセント語類表に見られる2拍和語を後部要素とし、作成したアクセントデータベースを用い、語類と連濁と複合名詞アクセントの関係について、語彙を分析しながら考察も行

った。その結果、アクセント語類と複合名詞アクセントの関係について、語類別で複合名詞アクセントの出現率が異なることを明らかにした。アクセント語類と連濁と複合名詞アクセントについて、

第1類と第2類語において、連濁を生じることによって、複合名詞アクセントの平板型の生起率が上がる傾向が見られる。

第3類語において、連濁を生じることによって、逆に平板型の生起率が下がり、前部末型の生起率が上がる。

(第4類語の場合、連濁と複合名詞アクセントとの関係が見られない)

第5類語において、連濁を生じることによって、平板型の生起率が下がり、後部頭高型の生起率が上がる傾向が見られる

というような傾向性があると指摘した。

そのほか、上級日本語学習者における後部要素が3・4拍の複合名詞のアクセントの習得状況の研究を進めた。その場合の複合名詞のアクセントについて、1単位の複合名詞における「後部要素の語頭拍に核を置く」という規則は、学習者にとってもっとも習得しやすいことが分かった。一方、学習者には、後部要素のアクセント型に関わらず「複合名詞を平板化する」という問題点がある。

目次

第一章	序章	1
1.	本研究の背景と動機	1
2.	研究の方法（アクセントデータベースの作成について）	1
3.	研究対象として扱う語彙	1
3. 1	一般名詞について	2
3. 2	前・後部要素のアクセントについて	2
3. 3	連濁について	3
3. 4	対象範囲語のまとめ	3
4.	本研究が使用する記号	4
5.	論文の構成	5
第二章	先行研究	6
0.	はじめに	6
1.	複合名詞のアクセントに関する研究	7
2.	音韻とアクセントの関係	17
3.	連濁	19
3. 1	「連濁」という音韻交替	19
3. 2	音韻的要因	20
3. 2. 1	ライマンの法則	20
3. 2. 2	ローゼンの法則	22
3. 2. 3	同一性の回避	23
3. 3	語彙層	23
3. 3. 1	語源と語彙層	23
3. 3. 2	和語	23
3. 3. 3	オノマトペ	24
3. 3. 4	外来語	24
3. 3. 5	漢語	24
3. 4	形態・意味的要因	25
3. 4. 1	右枝条件	25
3. 4. 2	オノマトペ以外の豊語	26
3. 4. 3	並列複合語	26
3. 4. 4	動詞・形容詞の要素を含む複合語	27
3. 4. 5	名詞+動詞の複合名詞	27
3. 4. 6	拘束の前部要素	28
3. 4. 7	後部要素の多義性	28
3. 5	不規則性	28
3. 5. 1	変異する実在語	28
3. 5. 2	個別後部要素の不安定な振る舞い	29
3. 5. 3	連濁の生産性	29
4.	アクセント語類	29
第三章	複合名詞のアクセントーアクセント規則と連濁についてー	31
0.	はじめに	31
1.	癒合名詞（前・後部要素ともに2拍以下の語）	32

1. 1	後部要素が1拍かつ前部要素が1拍の語（1拍和・漢語+1拍和語）	32
1. 1. 1	1拍和語+1拍和語	32
1. 1. 1	1拍漢語+1拍和語	36
1. 2	後部要素が1拍かつ前部要素が2拍の語（2拍和・漢語+1拍和語）	37
1. 2. 1	2拍和語+1拍和語	38
1. 2. 2	2拍漢語+1拍和語	40
1. 3	後部要素が2拍かつ前部要素が1拍の語（1拍和・漢語+2拍和語）	41
1. 3. 1	1拍和語+2拍和語	42
1. 3. 2	1拍漢語+2拍和語	45
1. 4	後部要素が2拍かつ前部要素が2拍の語（2拍和・漢語+2拍和語）	46
1. 4. 1	2拍和語+2拍和語	48
1. 4. 2	2拍漢語+2拍和語	55
1. 4. 3	2拍外来語+2拍和語	57
2.	結合名詞	59
2. 1	後部要素が1・2拍かつ前部要素が3拍以上の語	59
2. 1. 1	3拍以上語+1拍和語	59
2. 1. 2	3拍以上語+2拍和語	61
2. 2	後部が3・4拍の語（前部の拍数には無関係）	67
2. 2. 1	～+3・4拍の和語	68
2. 2. 2	～+3・4拍の漢語	69
3.	まとめ	70
第四章	後部要素が3・4拍の複合名詞の核位置保存について一連濁との関係を中心に	71
0.	はじめに	71
1.	検証結果と分析	72
2.	まとめ	76
第五章	連濁とアクセント	77
0.	はじめに	77
1.	連濁の規則性	77
2.	連濁と意味のまとまりとアクセント	80
2. 1	連濁のマーク機能	81
2. 1. 1	畳語の連濁	81
2. 1. 2	前接漢字語のモーラ数	82
2. 1. 3	形容詞素性の形態素	82
2. 1. 4	並列複合語と同音異義語	82
2. 1. 5	枝分かれ	83
2. 1. 6	名詞+動詞連用形	83
2. 2	連濁とアクセント	84
2. 2. 1	後部要素が2拍の同音異義語	85
2. 2. 2	格関係と連濁とアクセント	85
2. 2. 3	3つの仮説	85
3.	まとめ	87
第六章	アクセント語類と連濁	88
0.	はじめに	88

1. ローゼンの法則.....	88
2. 金田一（1974）による2拍和語名詞のアクセント語類.....	90
3. アクセント語類と複合名詞アクセントに関する先行研究.....	94
4. 3者の比較.....	96
4. 1 金田一の語彙分類表に基づく単語リスト.....	96
4. 2 アクセント語類と連濁の3分類.....	98
4. 3 アクセント語類と連濁と複合名詞のアクセント.....	99
4. 4 3者比較のまとめ.....	102
5. アクセントデータベースを用いる再考察.....	102
5. 1 ローゼンの分類方法による筆者の分類.....	121
5. 2 アクセント語類と連濁と複合名詞アクセントについて再考察.....	122
第七章 上級日本語学習者における後部要素が3・4拍かつ中高型の複合名詞のアクセント規則の把握状況について.....	127
0. はじめに.....	127
1. 複合名詞の3タイプ分け.....	127
2. 複合名詞アクセントに影響する要因に関する先行研究.....	127
3. 調査方法とアンケートの構成.....	128
3. 1 被調査者.....	128
3. 2 アクセント調査用紙の構成.....	129
3. 3 聞き取りテストの音声.....	129
4. アンケート調査の結果と分析.....	130
4. 1 「問題一」テスト結果と分析.....	130
4. 1. 1 「問題一」調査項目別の得点率.....	130
4. 1. 2 「問題一」複合名詞アクセント型別の得点率.....	131
4. 2 「問題二」テスト結果と分析.....	134
4. 2. 1 「問題二」調査項目別の得点率.....	134
4. 2. 2 「問題二」複合名詞アクセント型別の得点率.....	135
4. 3 全項目の得点率.....	137
4. 4 誤答パターン.....	138
5. 分析しなかった先行研究の複合名詞アクセントに影響する要因.....	140
6. 学生別得点率とアクセント規則の選択状況.....	140
7. 得点率と日本語学習歴.....	142
8. まとめ.....	142
第八章 終章.....	143
参考文献.....	145
付録 前・後部要素語彙別リスト.....	148
付録 ローゼン連濁語彙.....	317
付録 アクセント調査用紙.....	365

第一章 序章

1. 本研究の背景と動機

日本語アクセントに関する研究は数多く見られており、アクセント辞典にも詳しくアクセント規則が載せられている。単純名詞のアクセントが、複合して複合名詞になる場合、アクセントが変わる場合がある。複合名詞のアクセントに影響する要因が多いが、一般的に、前部要素と後部要素の、それぞれの拍数、語種、アクセントによって、複合名詞のアクセントの規則性が整理されている。名詞全体では一般名詞のほか、数詞・助数詞・人名・地名及び動詞連用形複合形式も含まれているが、本研究では、一般名詞の複合を中心に検討する。

さらに、名詞が複合する際に、連濁現象が発生することが見られる。「山川」のような複合語は、連濁を生じる「ヤマガワ」の場合と、連濁を生じない「ヤマカワ」の場合がある。「ヤマガワ」は山の中の川を意味し、アクセントが平板である。一方、「ヤマカワ」は山と川の並列の意味をし、アクセントは「ヤマ」の後に下がり目（アクセント核）がある。このような特定の例だけではなく、複合名詞全体において、連濁とアクセントの関係を探りたい。

2. 研究の方法（アクセントデータベースの作成について）

アクセント規則に関する研究が多く、アクセント辞書にアクセント規則が記載されることもある。『新明解日本語アクセント辞典』（2015）には、アクセント規則が詳しく記載されている。一方、『NHK 日本語発音アクセント新辞典』（2016）には、アクセント規則の記載は、網羅的に扱うことがない。やや新しく出版された『NHK 日本語発音アクセント新辞典』（2016）に基づき、単語アクセントデータベースを作成した。そして、『新明解日本語アクセント辞典』（2015）のアクセント規則を整理し、『NHK 日本語発音アクセント新辞典』（2016）から作り出したデータで検証することが、本研究の主な研究方法である。さらに、連濁がその規則での位置づけを議論する。

検証するデータについては、『NHK 日本語発音アクセント新辞典』（2016）に基づく7万語ほどの単語アクセントデータベースを作成し、研究対象となる語彙を選別して分析を行う。アクセントデータベースに、アクセント辞典に記載がある語彙・読み・アクセントなどの他、品詞大分類、形態素分析（前・後部要素の切れ目、前・後部要素それぞれの品詞、語種、アクセント）、連濁などの情報を新たに加えた。

3. 研究対象として扱う語彙

本研究は複合語の一般名詞を対象とし、アクセント規則の細かいところまで議論する。その上、連濁現象が複合名詞アクセントにどのような影響を与えるかも検討する。そのため、複合語の定義、一般名詞の定義が必要である。連濁現象に関して、和語の連濁が生産的であるため、さらに分析対象とした語彙を選定する必要がある。

名詞が単純語か複合語かを判断することに難題がある。一般的に、「生牡蠣ナマガキ」のような複合語は、前部要素の「生ナマ」と後部要素の「牡蠣カキ」という単語は、どちらでも単純語であり、複合して複合語になる。一方、「雌鯛メゴチ」のような単語は、前部要素としての「雌メ」が、単独で扱われることがないため、単純語として成り立たない。そのため、「雌鯛メゴチ」が複合語だと言えない。便宜上、『NHK 日本語発音アクセント新辞典』（2016）に前・後部要素がそれぞれ単独の語として使用された場合の、アクセントの記載がある項目を、複合語と定義し、本研究の扱う対象語彙となる。

3. 1 一般名詞について

人名・地名はやや特殊な名詞であり、アクセント規則も別扱いされているため、研究対象から除外した。地名の判定基準は、『NHK 日本語発音アクセント新辞典』(2016)の語彙項目に、後ろが「(地名)」という表記があるものを地名だと判断する。

そして、「数詞」+「助数詞」の場合、一般名詞と異なるアクセント規則が適用されるため、研究対象として扱わない。

さらに、接頭辞「御オ」「御オン」「御ゴ」などについては、連濁を生じることがほとんどなく、比較的明確なアクセント規則もあるため、研究対象の範囲から除外した。接頭辞の定義については、『新明解日本語アクセント辞典』(2015)によると、①程度を表わす接頭辞のついたもの、「生ナマ」「素ス」など、②敬語・丁寧語について(「御オ」「御オン」「御ゴ」)などのついたものの、主に2つの種類がある。①の程度を表わす接頭辞「大オー」「小コ」「真マ」「不フ」「素ス」などについて、一般名詞と同じアクセント規則が適用されることはあるが、一般名詞の例外として扱う(個別で分析することになる)。

『新明解日本語アクセント辞典』(2015)による接頭辞は、以下のようなものがある。「不フ」のつく3拍名詞は多く頭高型になるが、それ以外は漢語の結合名詞の法則と和語の結合名詞の法則に準じる。

「真マ」のつく3拍名詞は多く平板型になるが、4拍以上は名詞の法則に準じるものが多い。

「大オー」感情をこもったものは頭高型になる傾向があるが、拍数の多いものは複合語の法則に準じる傾向がある。

「準ジュン」「非ヒ」「超チョー」形容詞的な語につくものは、頭高型になる場合と、2語連続アクセントとなる場合がある。更に複合の度合いが強くなると、それぞれ複合名詞の法則に準じる傾向がある。

「御(オ)」4拍以上の語につく場合、平板型、頭高型が後部頭高型に、中高型が保存で、尾高型が尾高型保存か平板化になる。後部要素の尾高型が保存せず、平板化することになる。

「御(ゴ)」主として漢語名詞。原則として、後部要素アクセントが保存される。最後2拍は重音節が原因で、複合して、後部要素の中高型が保存せず、平板化することになる。

3. 2 前・後部要素のアクセントについて

本研究では、複合名詞を前・後部要素と分け、それぞれの拍数やアクセントが、複合してどのように複合名詞のアクセントに影響するか、アクセント規則をより明らかにすることが目的である。その際に、前・後部要素のアクセント情報が必要となる。従来の研究によれば、長い複合語のアクセントは、主に後部要素が関与している。しかし、短い複合語の場合、前部要素のアクセントもある程度関与している。それに、短い複合語の場合、前・後部要素が単独で使われているかどうか、判断することが難しい。つまり、前・後部要素が単純語として成り立っているかどうかのことを、判断する必要がある。3節のはじめのところに述べたように、『NHK 日本語発音アクセント新辞典』(2016)に、前・後部要素がそれぞれ単独の語として使用された場合の、アクセントの記載がある項目を、複合語と定義する。

語彙に複数のアクセントが付いている場合は、統計の便宜上、第1アクセントだけを採用する。ただし、前・後部要素の個別分析の時、複数のアクセントを持っている語の

場合が、前・後部要素に複数のアクセントが競合して複合語のアクセントに影響する可能性がある。そのため、語彙の前・後部要素の個別分析の時、複数のアクセントを持っている語について、それぞれのアクセントを分析することとなる。例えば、「鹿笛シカブエ」のような語の前部要素の「鹿シカ」が、第 1 アクセントは平板型であり、第 2 アクセントが尾高型である。統計の時に第 1 アクセントとしての平板型だけを採用する。そして、前部要素の個別分析をする際に、第 2 アクセントの尾高型も考慮して分析を行う。

3. 3 連濁について

日本語の形態素を語源によっていくつかの層に分け、各層の音韻的特徴を個別に分析する研究は多い (McCawley 1968 pp62-75; Itô & Mester 1995 p817; Irwin 2011 pp4-14)。その際、(普通の)和語、オノマトペ、漢語、および外来語の 4 層に分類するのが典型的である。この 4 層の語が複合語の後部要素とする際、連濁の確率が違っている。今までの研究でよく知られているのは、①和語の連濁の確率が高い；②オノマトペは、音象徴が関与するため、原則的に一切連濁しない；③漢語は時々連濁する；④外来語はほぼ連濁しないが、例外がある。以上の 4 点以外に、畳語は常に連濁する (例：「先々サキザキ」)。

本研究は後部要素に連濁を生じない外来語とオノマトペ、常に連濁を生じる畳語を研究対象外としている。また、連濁を生じない「先サキ」「姫ヒモ」「紐ヒモ」などの和語要素については、語彙の連濁生起率を明らかにすることも、本研究の目的であるため、研究対象の範囲に入る。

そのほか、後部要素が 2 拍以下の漢語の連濁について、連語語の数が少なく、連濁に歴史や漢字音などの要因が関与されているため、本研究では扱わないことにする。

なお、複合名詞のタイプにより、「2 語連続」¹の語は、一切連濁現象を生じないため、対象範囲語から除外する。また、後部要素が 5 拍以上のものは、原則として連濁しないため、対象範囲語から除外する。

3. 4 対象範囲語のまとめ

研究対象となる範囲の語の条件をまとめると、以下ようになる。

- ・特殊なアクセント規則が適用される項目
 - 人名・地名 →除外
 - 「数詞」+「助数詞」 →除外
 - (単独で扱わない語→接頭辞の定義)
 - 接頭辞「御 (オ、オン、ゴなど)」 →除外
 - 接頭辞「真 (マ)」「素 (ス)」「不 (フ)」「小 (コ)」 など →例外扱い
- ・連濁に関して
 - 後部要素の外来語 (歌留多、煙管など連濁を生じる外来語もあるが) →除外
 - オノマトペ →除外
 - 後部要素の 2 拍以下の漢語 →除外
 - 畳語 →除外
 - 「2 語連続」 →除外
 - 後部要素が 5 拍以上のもの →除外

¹アクセントの面から、複合名詞を 3 分類することができる。「2 語連続」はその一つであり、特徴は前部要素・後部要素のアクセントが、複合してそのまま残されていることである。詳しくは第二章の 1 節を参照する。

一般名詞の複合名詞であることは、本研究の基本対象となる。したがって、一般名詞以外の人名、地名や「数詞+助数詞」の名詞を除外した。前部要素が接頭辞である複合語については、接頭辞は敬語、丁寧語を表わす場合の「御」などを除外した。一方、程度を表わす接頭辞の語は、前部要素として複合する際に、一般名詞の複合語のアクセント規則が適用される場合があるが、例外扱いとする。複合名詞のアクセント規則を整理するのが本研究の目的の1つであるが、連濁との関係を中心に議論したい。研究対象の複合名詞を選別する際に、後部要素としての語彙は、連濁できるかどうか、あるいは連濁の生起率が重要な条件である。

複合名詞の後部要素によって、複合名詞を「連濁」語、「不連濁」語、「連濁不関与」語に分けられる。「連濁」語は、連濁現象が起こった語である。一方、後部要素としての語は、連濁し得るが、連濁しない語は、「不連濁」語である。「不連濁」語の中に、ライマンの法則²で、連濁しないものがある。残りの、複合名詞の後部要素に、「アイウエオナマヤラワ」で始まる語は、いわゆる「連濁不関与」語である。

一切連濁を生じない「2語連続」、ほぼ一切連濁を生じない外来語、オノマトペを除外した。稀に連濁を生じる短い漢語は、絡んでいる要因が複雑であり、対象となる漢語の数も少ないため、除外することとなる。また、常に連濁を生じる畳語は、先行研究によると、規則性が明瞭であるため、研究対象の範囲から除外することとなる。

4. 本研究が使用する記号

「\」: アクセント核

(単語のアクセントに「\」がない場合、平板型を示す)

A型: 1単位の複合名詞

B型: 不完全複合名詞

AB型: 後部要素のアクセント核が保存される複合名詞のアクセントと、後部要素のアクセント核が保存されない複合名詞のアクセントが共存する場合、このタイプの複合名詞をAB型としている。

「-○」型: 「-」+「数字」のアクセントは、語の後ろから数えて、第「数字」拍目のところにアクセント核が置かれる。たとえば、「-2」型は、後ろに数えて第2拍目にアクセント核を置くことを示す。「日本ニホ\ン」はそのような例である。

「・」: 2語連続の語の間の境界を示す。たとえば、「画竜点睛ガ\リョー・テンセー」

X: 複合語の前部要素 (X、Y、Zの表記は、主に表の中で使用する)

Y: 複合語の後部要素

Z: 複合語

「第+数字+アクセント」: 『NHK 日本語発音アクセント新辞典』(2016)により、第1アクセント、第2アクセント、第3アクセントなど、アクセントがどの順位のアクセントのことを示す。例:「戸ロト\グチ(第2トグチ)」。第2は、「戸ロ」の第2アクセントは「トグチ」のことを示す。普通の場合、前の「ト\グチ」のアクセントは、第1アクセントを指している。

「#」: 語の形態素の切れ目を示す。

「⊙」: ○に囲まれた仮名は、無声化する拍を示す。

²ライマンの法則について、第二章3節では詳しく紹介する。

5. 論文の構成

本論文は、序章にあたる第一章および終章にあたる第八章を除き、本論の部分にあたる第二章から第七章までの内容を、以下のようにまとめる。

第二章では、複合名詞アクセントや連濁をめぐる先行研究を概観する。複合名詞アクセントをめぐる先行研究について、複合名詞の3タイプの分類と、アクセント辞典によるアクセント規則などを中心に、関連する先行研究を紹介する。連濁をめぐる先行研究について、音韻的要因、語彙層、形態・意味的要因と分け、連濁に関係する先行研究を紹介する。また、音韻とアクセントの関係、アクセント語類とアクセントの関係についての先行研究も取り扱っている。

第三章では、『NHK 日本語発音アクセント新辞典』(2016)に基づいたアクセントデータベースを用い、『新明解日本語アクセント辞典』(2015)に記載される規則を検証する。そして、3つの仮説を立て、連濁と複合名詞アクセントの関係を論じる。さらに、後部要素が短い語におき、前・後部要素語彙別で分析を行い、特定な語彙が複合名詞アクセントに及ぼす影響について検討する。

第四章では、第三章の内容の一部から見られる現象(仮説③)について、詳しく検討を行う。後部要素が3・4拍かつ中高型の複合名詞において、連濁と複合名詞アクセントとの関係について、対象語彙を分析しながら検討する。

第五章では、連濁とアクセントとの関係をめぐって議論を行う。連濁の規則を網羅的に扱い、連濁のマーク機能や、個別な現象に見られる連濁とアクセントの関係、第三章と第四章で立てた3つの仮説について、詳しく検討する。

第六章では、先行研究が扱っている後部要素が2拍和語の複合名詞と、金田一語類分類表にある2拍和語と、ローゼンの3分類に見られる2拍和語と、対照しながらアクセント語類と複合名詞アクセントの関係について検討を行う。さらに、作成したアクセントデータベースを用い、金田一が挙げられた後部要素が2拍和語名詞の単一形態素が複合名詞になる時の、3分類のどちらかに属するべきかを再考察する。その上で、語類と連濁とアクセントの関係について、語彙を分析しながら再考察を行う。

第七章では、日常的によく使われる後部要素が3・4拍の複合名詞について、上級日本語学習者の、そのアクセント規則の把握状況を調べる。

第二章 先行研究

0. はじめに

東京方言における複合名詞のアクセントは、アクセントの面から、「1 単位の複合名詞」、「不完全複合名詞」、「2 語連続」の3タイプに分類できる。

「1 単位の複合名詞」は前部要素と後部要素ともにアクセント核が消え、全体のアクセント核を後部要素の語頭拍に置く。

例：「料理リョ\ーリ」＋「学校ガッコー」→「料理学校リョーリガ\ッコー」

それに対し、「2 語連続」は前部要素と後部要素の各語のアクセント核位置が保存される。

例：「男女ダ\ンジョ」＋「平等ビョードー」→「男女平等ダ\ンジョ・ビョードー」

中間的な「不完全複合名詞」は、前部要素のアクセント核が消え、後部要素の核位置が保存される。

例：「親オヤ\」＋「不孝フコ\ー」→「親不孝オヤフコ\ー」

また、複合名詞の前・後部要素の拍数によって、前・後部要素ともに2拍以下のものと、前・後部要素ともに2拍以下のものを除くものの、2タイプに分類できる。さらに、前・後部要素の語種やアクセントによって、より詳しく複合名詞を分類できる。1節では、複合名詞に関する研究を整理し、複合名詞のアクセント規則をより明確に示す。

複合名詞のアクセント規則を考察する際に、音韻³により、語のアクセント核がずれることがある。これは、音韻とアクセントの間に密接な関係があるためであり、音韻とアクセントを分けることができない。2節では、音韻とアクセントの関係についての先行研究を紹介する。

連濁はピッチアクセントや母音交替などとともに、日本語の複合語の指標となるさまざまな現象の1つだとよく知られている（鈴木 2017 p25）。連濁に関する研究が多く、連濁する傾向や連濁の規則性が多く発見されたが、連濁には予測不可能である性質は確かである。例えば、ライマンの法則は、ほとんど例外なく連濁現象に適用されるが、ローゼンの法則⁴には例外がやや多く、まだ議論する余地がある。3節は、連濁の研究史を整理し、語の連濁がある程度予測される性質と、予測不可能な性質両方を紹介する。連濁とアクセントの関係については、特定な例に、連濁とアクセントは同時に生じない現象があると指摘されることがある（田中 2005）。例：「山川ヤマガワ」「山川ヤマ\カワ」。「山川ヤマガワ」は連濁現象が起こった語であるが、アクセント核がない。一方、「山川ヤマ\カワ」は連濁が起らない語であり、アクセント核がある。3節の後半は、連濁とアクセントの関係がある現象を紹介する。

その他、アクセント語類⁵と複合名詞アクセントの関係についての先行研究は、4節で紹介する。

³ここでは、狭い意味の音韻を指している。「segments」、「分節音」、「音素」を意味する。詳しくは2節を参照する。

⁴ローゼンの法則については、詳しくは3節及び第六章で詳しく紹介する。

⁵金田一春彦（1974 pp61-64）によると、今、現在諸方言で、同じ型に属している語を同じ「類」の語と呼ぶ。詳しくは4節及び第六章を参照する。

1. 複合名詞のアクセントに関する研究

一般名詞の複合名詞のアクセントについて、様々な要因が絡んでいる。前部要素と後部要素の、それぞれの拍数、語種、アクセントによって、複合名詞のアクセントの規則性が整理されている。よく論じているのは、やや長い（前・後部要素ともに2拍以下のものを除く）複合名詞のアクセント規則である。この類の複合名詞は、数が比較的に多く、日常にもよく使われている。先行諸研究によって、その類の複合名詞アクセント規則がはっきりとされ、規則に反する例外は少ない。それに比べて、短い複合名詞（前・後部要素ともに2拍以下のもの）のアクセント規則はやや複雑であり、例外的なものが比較的に多い。

まず、全体的なアクセントの面から、複合名詞のアクセント規則に関する先行研究を紹介する。そして、『新明解日本語アクセント辞典』（2015）に記載されている複合名詞のアクセント規則を整理し、短い複合名詞のアクセント規則を詳しく検討する。

松森など（2012）、上野（1996）によると、一般名詞からなる東京方言の複合名詞のアクセントには、大きく分けて次のような3つのタイプがある。

3種類の複合名詞のアクセント（東京方言）

a. 2語連続

カ\クサ + ゼセー → カ\クサ・ゼセー（格差是正）

b. 不完全複合名詞

タ\イヨー + エネ\ルギー → タイヨーエネ\ルギー（太陽エネルギー）

c. 1単位の複合名詞

カ\タ + クルマ → カタグ\ルマ（肩車）

まず「2語連続」とは、前部要素と後部要素の各語を単独で発音したときのアクセント型が、複合名詞になっても、両方そのまま残されるものを言う。たとえば、「格差是正」という複合名詞では、前部要素の「カ\クサ」と後部要素の「ゼセー」の本来のアクセントが頭高型と平板型であり、複合名詞になると、アクセント核がそのまま保存され、「カ\クサ・ゼセー」のようになる。東京方言には、語の始まりや区切りが入ったところで、最初の拍にピッチがない限り、高いはずの最初の拍が、やや低く発音される。「ゼセー」は単独で発音されるときもそのようになる。したがって、「カ\クサ・ゼセー」の場合、後部要素最初拍の「ゼ」は高い音ではない。このように、1つの複合名詞の中に、2つの高い音調の山が生じることが、2語連続の語の特徴でもある。

それに対して、「不完全複合名詞」では、複合名詞全体が1つ高い音調の山にまとまる。このタイプの複合名詞の特徴は、「前部要素のアクセント型が消え、後部要素のアクセント型が残る」ことである。これにより、複合名詞全体のアクセントが1つにまとまる。たとえば、東京方言の「太陽エネルギー」のアクセントは、「タイヨーエネ\ルギー」だが、前部要素「タ\イヨー」のアクセント型は消滅する。後部要素「エネ\ルギー」のアクセントは、そのまま複合名詞に残されている。

「1単位の複合名詞」は、「不完全複合名詞」と同じく、複合語のアクセントが1つにまとまる。前・後部要素ともに、本来持っているアクセント型が消滅する。このタイプの複合名詞は、全体のアクセントが、前・後部要素の持つ本来のアクセント型とは無関係に、新たに特定の位置にアクセント核を置くことによってつくられる。たとえば、「肩車」のアクセント「カタグ\ルマ」は、前部要素「カ\タ」のアクセント核が消え、後部要素「クルマ」の平板型アクセントも残されていない。「カタグ\ルマ」は、後部要素の第

1 拍目（つまり「+グ\ルマ」）に新たなアクセント核を生じることにより、1つのアクセントの山だとまとまる。

上野（1999）により、以上の3タイプの複合名詞のアクセントに関する説を整理すると、以下のように示す（音韻的な一語性を（ ）を使って表わす）。

（前部要素 後部要素）：

非自立 + 非自立 -1 単位（通常の複合名詞、1 単位の複合名詞）

（前部要素（後部要素））：

非自立 + 自立 - 中間タイプ（第3の複合名詞、不完全複合名詞）

（前部要素）（後部要素）：

自立 + 自立 -2 単位（2 語連続）

「1 単位の複合名詞」は、完全に1つの括弧に位置しており、前・後部要素が1つの語になっている。

「不完全複合名詞」は、全体として1つの語になるが、後部要素に（ ）があり、自立性（アクセント核が保存される）を保っている。

「2 語連続」は、完全に前部要素と後部要素が、それぞれの（ ）に囲まれ、自立性を保っている。形式上には1語になったが、実際は2つの語の繋がりが、「2 語連続」の本質である。

上野（1999）が窪菌（1997）の主張を補足し、後部要素のアクセント核の保存は、後部要素の拍数などにより、分類して分析を行った。窪菌（1997）は、後部要素が3拍以上の複合名詞について、「1 単位の複合名詞」になるのが普通だと主張している。上野（1999）はその上で、さらに後部要素を「3・4 拍のもの」「5 拍以上のもの」「3 形態素のもの」と分類した。後部要素が3・4 拍のものについては、たまに後部要素のアクセント型が保存される現象が発見された。後部要素が5 拍以上の長い複合名詞と、後部要素が3 形態素のものについて、後部要素のアクセントが保存されることが普通だと主張している。（上野は後部要素が3 拍の例を挙げてないが、ここでは、「黒胡椒」「西日本」の例を挙げる）

従来の分析	新しい分析（上野(1999)）	
後部要素≥3 拍	後部要素=3~4 拍	後部要素≥5 拍 or 3 形態素
南ア\メリカ	南ア\メリカ	南カリフォルニア
地方ダ\ンタイ	地方ダ\ンタイ	大政治家
エチルア\ルコール	大和ナデ\シコ	イソップモノガ\タリ
大和ナデ\シコ	(黒胡椒クロコ\ショー)	市立図書\館
イソップモノガ\タリ	(西日本ニシニホ\ン)	
市立図書\館		
例外		例外
南カリフォルニア		エチルア\ルコール
大政治家		

従来の分析では、例外が2つ出た。それに対し、上野による新しい分析では、後部要素が外来語のアルコールだけが例外となる。新しい分析により、後部要素が5拍以上、

或いは3形態素以上であれば、後部要素のアクセント型が保存される。例の「市立図書館」は、後部要素が3・4拍であるが、形態素が3つ以上である条件を満たしたため、アクセント型が保存される。(後部要素が3・4拍のものに、後部要素のアクセント型が保存される現象について、第四章で詳しく検討する)

また、上野(1999)は複合名詞のアクセント型の保存に関する複合度という規則を示した。

一度「複合語化」(複合語アクセント規則の適用)によりアクセントが与えられた単語…は、それがさらに大きな複合語の後部要素になっても、複合語アクセント規則の適用は1回だけであって繰り返されず、…その…アクセント核の位置が保存されるのが原則である。つまり、後部要素が「1次複合語」であれば、上位の1次複合語に後部要素として組み込まれても、そのアクセント型が保存される。

例：針\師、庭\師 女針\師、見習い庭\師、…
米\屋、そば\屋 貧乏米\屋、激辛そば\屋、…

以上のように、後部要素が複合名詞であれば、さらに複合して、複合名詞になると、後部要素のアクセント型が保存される。後部要素としての語自身が、「複合語」であることによって、そのアクセント核が保存された。

上野(1999)の立場から、複合名詞アクセント規則を「後部要素」に応じて分類すると、以下ようになる。後部要素が複合語であれば、拍の長さに関係しない。それを除いた単純語が、長さで下位分類される。

複合語 (アクセント的複合語)	— (5拍以上は複合語扱い)	— 型保存
単純語 (アクセント的非複合語)	3~4拍	— 部分的に交替
	1~2拍	— ほとんど交替

次は、短い複合名詞のアクセント規則を紹介する。前・後部要素の拍数によって複合語を分類する方法がよく知られている。『新明解日本語アクセント辞典』(2015) pp(1)-(2)のところに、複合語を癒合語、結合語と分類した：

癒合語 (前・後部要素ともに2拍以下のもの) は、複合の度合がもっとも強く、もとの語のアクセントの影響があまりみられないようなものと定義されている。例：青葉、七くさ、秋物、秋晴れ

結合語 (前・後部要素ともに2拍以下のものを除く) は、複合の度合が中間で、もとの語のアクセントによって定まるものと定義されている。例：葉桜、七草がゆ、雨上がり、七五調、アイスクリーム、晴れ上がる、青白い、物すごい

『新明解日本語アクセント辞典』(2015) pp(1)-(2)に、癒合語、結合語以外に、接合語という類もあるが、それは、本研究を対象とする一般名詞の複合名詞の範囲外となる類である。

接合語は、複合の度合がもっとも弱く、前部の語のアクセントを生かす傾向があるものと定義されている。例：木の葉、青い鳥、我が子、雨風 (アマカゼ)、七つ八つ、物言う、見て取る

しかし、雨風という例は、前部要素の雨 (ア\メ) のアクセントを生かす傾向がみら

れていないため、接合語の分類に入るべきかどうか疑問がある。全体から見ると、接合語は、複合名詞ではないものがほとんどであり、本研究の対象外とする。

そして、『新明解日本語アクセント辞典』（2015）p(4)のアクセント習得法則の目次に、本研究を対象として扱う語彙（1章3節に参照）の、一般名詞の複合語アクセントに関する項目を整理し、以下のようになる：

- ①名詞+和語名詞 の癒合名詞（前・後部ともに2拍以下の語） pp(14)-(16)
- ②後部が和語名詞でできた結合名詞（前・後部ともに2拍以下のものを除く） pp(22)-(24)
- ③後部が漢語二字の結合名詞（主に後部要素の拍数が3・4拍のものが研究対象） p(26)

①について、「名詞+和語名詞」の癒合名詞（前・後部とも2拍以下の語）のアクセント規則は、前・後部要素の拍数やアクセント型によって、その規則性を示している。このグループがもっとも法則を立てにくい。一般の語では、「複合語の前部のアクセントの型・後部のアクセントの型の組合せによって決まる」という法則がみられ、前部のアクセントの式によって決まる傾向がある。すなわち、「前部が平板式の語は平板式に、前部が起伏式の語は起伏式になる」傾向がある。

I 後部が1拍の語

(1)前部が1拍の語—前部平板型は全体が平板型に、前部頭高型は全体が頭高型になる。

カ →カヤ（蚊帳・蚊屋）	ハ →ハネ（羽根）
ケ →ケバ（毛羽）	イ\ →イ\ド（井戸）
キ\ →キ\ド（木戸）	ノ\ →ノ\ビ（野火）
ユ\ →ユ\バ（湯葉）	ヨ\ →ヨ\メ（夜目）

(2)前部が2拍の語

(イ)前部平板式—平板型。

サト→サトゴ（里子）	コシ→コシユ（腰湯）
トリ→トリメ（鳥目）	クチ→クチビ（口火）

(ロ)前部起伏式—多く中高型。

タマ\ →タマ\ゴ（玉子）	ツキ\ →ツキ\ヨ（月夜）
イロ\ →イロ\メ（色目）	スミ\ →スミ\ビ（炭火）
ア\メ→アマ\ド（雨戸）	ソ\バ→ソバ\ユ（蕎麦湯）
ア\メ→アマ\ヨ（雨夜）	タ\ネ→タネ\ビ（種火）

注①但し、前部頭高型の語は全体が頭高型に、前部尾高型の語は全体が平板型（時に頭高型）にも発音される。

ア\サ→ア\サヒ（朝日）	ム\ネ→ムネゲ（胸毛）
マ\ツ→マ\ツバ（松葉）	ユ\ビ→ユビワ（指輪）
マ\ユ→マ\ユゲ（眉毛）	ハ\ナ→ハ\ナビ（花火）

II 後部が2拍の語

(1)前部が1拍の語

(イ) 前部平板型—多く平板型。

コウシ (子牛)	ケアシ (毛脚)	ケイト (毛糸)
トダナ (戸棚)	コイヌ (子犬)	ナマエ (名前)
チャバコ (茶箱)	ネイロ (音色)	ヒカゲ (日陰)

注②但し、後部頭高型はまれに中高型。

ヒガ\サ (日傘) コネ\コ (子猫)

(ロ) 前部頭高型—多く起伏式。頭高型が多いが、後部が尾高型のものには尾高型が、後部が頭高型のものには中高型がみられる。

テ\クビ (手首)	メ\ガネ (眼鏡)	ヒ\バナ (火花)
メ\ボシ (目星)	ノ\ハラ (野原)	ヨ\ツユ (夜露)
テシタ\ (手下)	ネモト\ (根元)	メダマ\ (目玉)
ナタ\ネ (菜種)	ヒダ\ネ (火種)	ユオ\ケ (湯桶)

注③但し、「小コ」のつくものは、平板型と頭高型の両様。

コウタ (小唄) コウマ (小馬) コユビ (小指)
コ\カブ (小蕪) コ\カベ (小壁) コ\ダチ (小太刀)
コミチ, コ\ミチ (小道)

注④「手テ」のつくものは多く頭高型。

テ\キズ (手傷) テ\ジナ (手品) テ\ハズ (手筈)

(2) 前部が2拍の語

(イ) 前部平板型—多く平板型。

○○ + ○○ →平板型
(傷口・桐箱・竹籠・鶏・鼻水)

○○ + ○○\ →平板型
(飴玉・里親・城山・庭石・水音)

○○ + ○\○ →平板型だが○○○\○型も。
ハナイキ (鼻息) ミズウ\ミ (湖)
ヒトナカ (人中) タケバ\シ (竹箸)

(ロ) 前部尾高型—多く中高型だが平板型も。

○○\ + ○○ →○○\○○型だが平板型も。
エリ\クビ (襟首) ハナ\ヨメ (花嫁)
ヤマ\ドリ (山鳥) ヤマ\ミチ (山道)
イモガユ (芋粥) アミダナ (網棚)

○○\ + ○○\ →○○\○○型だが平板型も。
コナ\ユキ (粉雪) ヤマイヌ (山犬)
イロ\ガミ (色紙) カワシモ (川下)

モノ\ゴト (物事) カワオト (川音)

○○\ + ○\○ →○○○\○型及び平板型。
ハナム\コ (花婿) オヤブネ (親船)
マメツ\ブ (豆粒) カワカミ (川上)
タマネ\ギ (玉葱) アサイト (麻糸)

(ハ) 前部頭高型

○\○ + ○○ →○○\○○型。
アサ\ガオ (朝顔) イト\グチ (糸口)
ハル\カゼ (春風) マツ\ムシ (松虫)

○\○ + ○○\ →○○\○○型及び平板型。
ハト\ムネ (鳩胸) ソトマゴ (外孫)
ソラ\マメ (空豆) ソラミミ (空耳)

○\○ + ○\○ →○○○\○型及び平板型。
アマガ\サ (雨傘) キヌイト (絹糸)
マツカ\ゲ (松陰) テンマド (天窓)

注⑤前部が起伏式の漢語及び第2拍が特殊な拍のものには頭高型がみられる。

ギ\ンガミ (銀紙) ト\ーナス (唐茄子)
マ\イアサ (毎朝) カ\ンヌシ (神主)
シ\ンミ (親身) オ\ーテ (玉手・大手)
ホ\ーバ (朴歯)

注⑥複合の度合の強いものは、平板型になる傾向がある。

ハルサメ (春雨) コダマ (木霊)
ケモノ (獣) オナゴ (女子)
ポンズ (ポン酢)

注⑦「穴」「犬・戌」「色」「型」「組」「時」「年」「鍋」「箱」「山」などがつくものは、平板型になる傾向がある。

タテアナ (竪穴) ユキヤマ (雪山)

②については、後部が和語名詞でできた結合名詞（原則として前・後部ともに2拍以下のものを除く）の規則を示している。原則として、前部に関係なく後部によってアクセントが定まる。

I 後部が1・2拍語のもの（前部3拍以上）

(1) 一般グループ—普通の場合には前部の最後の拍まで高い。

(イ) 後部1拍語

ミドリ\ゴ (嬰兒) アワセ\ズ (合わせ酢)
ナワシロ\ダ (苗代田) クグリ\ド (潜り戸)

イトキリ\バ (糸切り歯) アブラ\ナ (油菜)
シンサツ\ビ (診察日) ノコリ\ビ (残り火)

(ロ) 後部2拍語

アキタ\イヌ (秋田犬) コモリ\ウタ (子守歌)
スミダ\ガワ (隅田川) ニギリ\ズシ (握り鮓)
ハリマ\ナダ (播磨灘) オーテ\マチ (大手町)
クツワ\ムシ (轡虫) ヒトサシ\ユビ (人差指)

(2) 特殊グループ-後部の語により決定される。

(イ) 平板化グループ-「芋」「色」「形カタ・型」「髪」「側」「切れ」「際ギワ」「種グサ」「組」「腰」「先」「縞」「玉」「面ヅラ」「寺」「沼」「腹」「節フシ」「縁ベリ」「骨」「村」「山」「小屋」「部屋」など(多く〇〇\型の語)がつく場合。

ミドリイロ (緑色) ニホンガミ (日本髪)
ハコネヤマ (箱根山) トナリムラ (隣村)

注① 「手」「場」「目」「湯」などのつくものは平板型になりやすい。

オトコデ (男手) シゴトバ (仕事場)
キザミメ (刻み目) オンナユ (女湯)

(ロ) …〇\〇化グループ-後部が頭高型の「汗」「雨」「糸」「笠・傘」「粕カス」「黍キビ」「雲」「声」「頃」「空」「汁」「杖」「鶴」「凧タコ」「船」「前」「窓」「麦」「婿」などがつく場合。

アブラア\セ (脂汗) ニワカア\メ (俄雨)
ガラスマ\ド (ガラス窓) ムスメム\コ (娘婿)
ニュードグ\モ (入道雲)

(ハ) その他、「物」「者」などがついて尾高型になるものがあるが、これらは人により〇〇〇〇\〇型や平板型になる傾向がみられる。

ツクリモノ\, ツクリモ\ノ, ツクリモノ (作り物)
ヒトリモノ\, ヒトリモ\ノ (独り者)

注② 「口」などがつくものは人により、(1)にも(2)(イ)にも、「顔」のつくものは平板型が多いが、語によって(1)になるものもある。

ジョーシャグチ, ジョーシャ\グチ (乗車口)
ナキガオ, ナキガ\オ (泣き顔)
ウリザネガオ, ウリザネ\ガオ (瓜実顔)

注③ 「腰」「坂」「島」「沼」などのつくものは平板型が多いが、語によって(1)になるものもある。

・平板型 (連濁する)

ヤナギゴシ (柳腰) ノボリザカ (登り坂)
サクラジマ (桜島) インバヌマ (印旛沼)
カワナカジマ (川中島)

・○…○\○○型

ギックリ\ゴシ (ぎっくり腰)

イツク\シマ (巖島)

ゴシキ\ヌマ (五色沼)

ショード\シマ (小豆島)

注④「池」「川」「島」「橋」「浜」「姫」「村」「山」などのつく固有名詞のものも、以上の法則に従うが若干の例外がある。I (1)にあげた「川」「橋」「町」には以下のような平板型がみられる。

・○○…○○型—江戸川, 衣川, 滝野川…, 京橋, 水道橋, 太鼓橋, 日本橋, 柳橋, 両国橋…, 麴町, 信濃町…

I (2)にあげた「山」には前部の最後の拍まで高い型がみられる。

・○○…\○○型—河内山, 郡山, 畠山, 常陸山, かちかち山…

なお、前部が漢字一字または2拍のものも便宜上ここに送ったが、多く平板型。

タメイケ (溜池)

トネガワ (利根川)

ツキシマ (月島)

ヨコハマ (横浜)

センヒメ (千姫)

シロヤマ (城山)

注⑤特殊グループの(ロ)から一般化グループに転向しつつあるものもある。

サトーキ\ビ → サト\ーキビ (砂糖黍)

ニュードグ\モ → ニュード\グモ (入道雲)

II 後部が3拍以上の語 (前部の拍数には無関係)

(1)一般グループ

(イ) 後部が平板型・尾高型・頭高型のもの—普通の場合、後部の最初の1拍までが高い。

・後部平板型

メグ\スリ (目薬)

ニグ\ルマ (荷車)

ハルガ\スミ (春霞)

ミズケ\ムリ (水煙)

ヤマザ\クラ (山桜)

ユキヤ\ナギ (雪柳)

オンナザ\カリ (女盛り)

ロードーク\ミアイ (労働組合)

・後部尾高型

ゴガ\タキ (碁敵)

コバ\ナシ (小話・小咄)

イシア\タマ (石頭)

ウラド\ーリ (裏通り)

ナツヤ\スミ (夏休み)

シューギブ\クロ (祝儀袋)

・後部頭高型

ハレス\ガタ (晴れ姿)

カンツ\バキ (寒椿)

キミ\ドリ (黄緑)

ハナダ\ヨリ (花便り)

ヤマトダ\マシー (大和魂)

(ロ) 後部が中高型の語—普通の場合、もとの高さの切れめまで高い。但し、複合の度

合の強いもの、拍数の多いものや、高さの切れめが前にずれる傾向がある。

ヒガサ → オンバヒガ\サ (乳母日傘)
モノガタリ → イセモノガ\タリ (伊勢物語)
サカイ → クニザ\カイ (国境)
マゴ\コロ (真心) ヤキハマ\グリ (焼き蛤)
エドムラ\サキ (江戸紫)
シブウチ\ワ, シブウ\チワ (渋団扇)

(2) 特殊グループ-平板化グループ、尾高化グループなどがあるが、ほとんどは、一般グループのようにも発音され、中年層・若年層は特にその傾向が強い。

○○○○○\型 (または○○○○○型) → ○○○\○○型
ミズグスリ\ → ミズグ\スリ (水薬)
ヤキドーフ\ → ヤキド\ーフ (焼き豆腐)

注⑥「魚」「所」「心地」などがつくものは人により、(1)にも(2)にも発音される。

ヤキザカナ\ → ヤキザ\カナ, ヤキザカナ (焼き魚)
ニザカナ\ → ニザ\カナ, ニザカナ (煮魚)

③については、後部が漢語二字の結合名詞に関するアクセント規則が示されている。前部には関係なく、後部によりアクセントが決定される。すべて規則型のみ。(後部が漢語二字の結合名詞の規則を示しているが、本研究が対象となるのが、後部要素が3拍以上のもののみである)

I 多くの場合、すなわち後部が平板型・尾高型・頭高型の語は、後部の最初の第1拍まで高い。

(1) 平板型のもの

ニッキ → エニツ\キ (絵日記)
ジダイ → エドジ\ダイ (江戸時代)
カイシャ → ホケンガ\イシャ (保険会社)
ガッコウ → コートーガ\ッコー (高等学校)
コーエン → コクリツコ\ーエン (国立公園)

(2) 尾高型のもの

サイク\ → タケザ\イク (竹細工)
ジゴク\ → ジュケンジ\ゴク (受験地獄)
ドーグ\ → ハナヨメド\ーグ (花嫁道具)
ショーガツ\ → ハツカショ\ーガツ (二十日正月)

(3) 頭高型のもの

カ\シ → ヒガ\シ (干菓子)
シュ\ギ → リコシュ\ギ (利己主義)
モ\ジ → カシラモ\ジ (頭文字)
リョ\ーリ → ニホンリョ\ーリ (日本料理)

注 但し、前・後部とも2拍以下の語には例外が多いが、4拍語は多く平板型になる。

コモジ (小文字) ヨコモジ (横文字)
ザイス (座椅子) シンデシ (新弟子)
メ\イシャ (目医者) シロミソ (白味噌)

Ⅱ 後部が中高型の語の場合に限り、もとの高さの切れめまで高い。但し、この場合も拍数の多いものや、無声化で中高型になった語などは、高さの切れめが前にずれる。

ニホ\ン → ニシニホ\ン (西日本)
ショク\ブツ → ラシショク\ブツ (裸子植物)
ショー\ベン → ネショーベ\ン (寝小便)
チョーチ\ン → ボンジョ\ーチン (盆提灯)
タクサ\ン → コダ\クサン (子沢山)
チホ\ー → カントーチホ\ー, カントチ\ホー (関東地方)
ジング\ー → イセジング\ー, イセジ\ングー (伊勢神宮)

例外 サト\ー → カクザ\トー (角砂糖)

ショタ\イ → シンジョ\タイ (新所帯)

まとめ

先行研究によると、複合名詞のアクセント規則について、前・後部要素の拍数やアクセント型によって、複合名詞を分類する方法を用いて、アクセント規則をまとめられる。全体的に大きく3分類することができ、①「1単位の複合名詞」②「不完全複合名詞」③「2語連続」のようになる。

①「1単位の複合名詞」

範囲がもっとも広く、短い語から長い語まで、このようなタイプの複合語が見られる。前・後部要素のアクセント的な自立性をともに失うことが、「1単位の複合名詞」の特徴であり、複合して全体のアクセントが1つにまとまる。

②「不完全複合名詞」

後部要素が長い場合によく見られる。前部要素のアクセント的な自立性を失い、後部要素のアクセント型が保存されることがその特徴である。

③「2語連続」

本質的に2つ語の連続であり、前・後部要素のアクセント的な自立性をともに保っている(2語連続の語は連濁しないため、本研究の扱う範囲から除外する)。

そして、『新明解日本語アクセント辞典』(2015)のアクセント規則によって、以下のようによまとめられる。

①名詞+和語名詞 の癒合名詞 (前・後部とも2拍以下の語)

「前部が平板式の語は平板式に、前部が起伏式の語は起伏式になる」傾向がある

②後部が和語名詞でできた結合名詞 (前・後部とも2拍以下のものを除く)

原則として、前部に関係なく後部によって複合名詞のアクセントが定まる。

③後部が漢語二字の結合名詞 (主に後部要素の拍数が3拍以上のものが研究対象)

前部には関係なく、後部により複合名詞のアクセントが決定される。すべて規則型のみ。

さらに、前・後部要素の拍やアクセントによって、複合名詞のアクセントが決定されることが多いが、例外も存在する。例外を説明するため、他に複合名詞のアクセントに影響する要因を探り出す必要がある。直接に影響する要因について、音韻とアクセントの関係も考える必要があり、次節で音韻とアクセントの関係に関する研究を紹介する。

また、例外を説明する際に、連濁に着目し、連濁とアクセントの関係性を明らかにすることが、本研究の目的の1つである。連濁に関する先行研究は、3節で紹介する。

2. 音韻とアクセントの関係

複合名詞のアクセントを考察する際に、音韻とアクセントの間に密接な関係がある。「音韻」というのは、「狭い意味」と「広い意味」がある。「狭い意味」の音韻とは、「segments」を指し、母音や子音などのことを意味する。一方、「広い意味」の音韻は、「phonology」全般の意味を指している。アクセント、拍数などのことも含まれている。ここでは、「狭い意味」の音韻に注目し、音韻とアクセントの関係に関する先行研究を紹介する。

音韻とアクセントの研究が多く、よく研究されているのは以下の2つである。

- ①特殊な拍とアクセントとの関係
- ②母音の無声化する拍とアクセントとの関係

①特殊な拍とアクセントとの関係

長音（一）、撥音（ン）、促音（ッ）、二重母音の二つ目の母音（ア+イ）のような拍は、アクセント核が置きにくい。そのような拍にアクセント核が置くと、原則として、アクセント核がずれる。多くの場合は、その特殊な拍の前にずれる。

松森など（2012）は、特殊な拍とアクセントの関係について、ア 東京方言の句音調による上昇と特殊拍、イ 東京方言の下降と特殊拍 の2つに分けて論じている。

ア 東京方言の句音調による上昇と特殊拍

東京方言の句音調により、第1拍目が低く始まって第2拍目から上昇することが期待されるが、特殊拍を含む音節から語が始まっているような場合（促音以外の場合）、以下のようなになる。

普通の場合	ゆっくり発音した場合
サン ^一 ポ	サン ^一 ポ
ト ^一 ーフ	ト ^一 ーフ
ナイ ^一 ショ	ナイ ^一 ショ
オ ^一 ッ下	オ ^一 ッ下

第2拍目が特殊拍の語は、いきなり出だしの拍から高く現れることが普通である。ただし、その最初の音節が促音を含む特殊拍のときは、逆に上昇が遅れている。促音の場合、ゆっくり発音でも、普通の発音でも、上昇が遅れるようである。

イ 東京方言の句音調による下降と特殊拍

特殊拍は、「その直後にピッチの下降を出現させることができない」という性質を持つために、その前の音節主母音—つまり特殊拍の属している音節の中心となる母音—の直後に、下降が生じることが多い。

例：日本海「ニホシカイ」 地中海「チチューカイ」

『新明解日本語アクセント辞典』(2015) p(6)では、引き音（一）、撥音（ン）、促音（ッ）のような拍はアクセントの頂点がおきにくい。そのため、アクセントの高さの切れめがそこにくると、その位置が原則として前にずれると記載されている。

(1) 引き音

ニチヨ一\ビ	→ニチヨ一\ービ（日曜日）
ドーソ一\カイ	→ドーソ一\ーカイ（同窓会）
コーツ一\ヒ	→コーツ一\ーヒ（交通費）
ゴジュ一\ダイ	→ゴジュ一\ーダイ（五十代）
ゲッキュー\トリ	→ゲッキュー\ートリ（月給取り）

(2) 撥音

シンブン\シャ	→シンブン\ンシャ（新聞社）
セーネン\ダン	→セーネン\ンダン（青年団）
イチバン\ノリ	→イチバン\ンノリ（一番乗り）

(3) 促音

ジューイッ\サイ	→ジューイ\ッサイ（十一歳）
シカッ\ケイ	→シカ\ッケイ（四角形）

②母音の無声化する拍とアクセントとの関係

母音の無声化とは、狭母音（/i//u/）が2つの無声子音（/s//k//t//h//p/）に挟まれた時に起こった現象である。母音の中で比較的聞こえ度低い/i//u/が、無声子音の間に置くと、さらに声帯の響きをなくして「無声化する」ことが行われる。

無声化現象が起こった拍に、母音がやや聞こえないようになり、アクセント核がその拍に置きにくいとよく言われる。そのため、アクセント核が前か後ろにずれることが多い。

松森など（2012）によると、無声化した母音には高さの山が実現しない傾向がある。それに、アクセント核が前にずれる場合と、後ろに遅らせる場合がある。

例：前にずれる場合

ナガサ㊦\シ	→ナガサ\㊦シ（長崎市）
タカマ㊧\シ	→タカマ\㊧シ（高松市）

後ろにずれる場合

ム㊨\ケン	→ム㊨ケ\ン（無試験）
ア㊩\クビ	→ア㊩ク\ビ（足首）

『新明解日本語アクセント辞典』(2015) pp(8-9)によれば、母音の無声化するような拍は、アクセントの頂点がおきにくい。そのため、アクセントの高さの切れめがそこに

くると、その位置が原則として後ろにずれると主張している。ただし、アクセントの高さの切れめが、複合語の前部の語の最後の拍にきた場合は、原則として前にずれる。

例：前にずれる場合

ナガサ[⊕]\ケン →ナガサ\[⊕]ケン（長崎県）

後ろにずれる場合

カ[⊕]\ス →カ[⊕]ス\（隠す）

3. 連濁

連濁は日本語の複合語の指標の 1 つとなる現象として、それに関する様々な研究が行われている。連濁・非連濁を決める規則や傾向が発見されているが、例外的なものは多く存在する。連濁は、規則がありながら、予測できないという性質もある。「ライマンの法則」、「ローゼンの法則」、同一性回避、語種、形態・意味的な要因など様々な要因が絡んでいる。ティモシー・J・バンス・金子恵美子・渡邊靖史（2017）は、連濁に関連する現象を網羅的に扱っているため、それを整理しながら、連濁の研究史を紹介する。

3. 1 「連濁」という音韻交替

音声的には、清音は無声阻害音で始まり、濁音は有声阻害音で始まるモーラである。しかし、平仮名と片仮名が平安初期（およそ 1100 年前）に使われるようになって以来、様々な音韻変化が起こり、現代日本語、すなわち共通語になっている東京語は昔の平安京語とは大分異なる。清濁の音声的具現は、その大きな相違点の一つである。(1) に示されているように、各濁音とそれに対応する清音の違いは有声性の有無だけではない場合が多い（Vance 2014 pp139-141 ; 2015 pp397-398）。つまり、濁音化は単なる有声化とは言えない。

- | | | | |
|--------|--------|------------|---------------|
| (1) a. | 「口」くち | 「窓口」まど+ぐち | [k]→[g]~[ŋ] |
| b. | 「空」そら | 「星空」ほし+ぞら | [s]→[dz]~[z] |
| c. | 「品」しな | 「手品」て+じな | [ɛ]→[dz] |
| d. | 「寺」てら | 「尼寺」あま+でら | [t]→[d] |
| e. | 「力」ちから | 「底力」そこ+ぢから | [tɕ]→[dz] |
| f. | 「綱」つな | 「命綱」いのち+づな | [ts]→[dz]~[z] |
| g. | 「篋」へら | 「竹篋」たけ+べら | [h]→[b] |
| h. | 「鱗」ひれ | 「尾鱗」お+びれ | [ç]→[b] |
| i. | 「笛」ふえ | 「口笛」くち+ぶえ | [ϕ]→[b] |

ここでは、(1) の b、c、d、e だけは無声子音の有声化と言える。

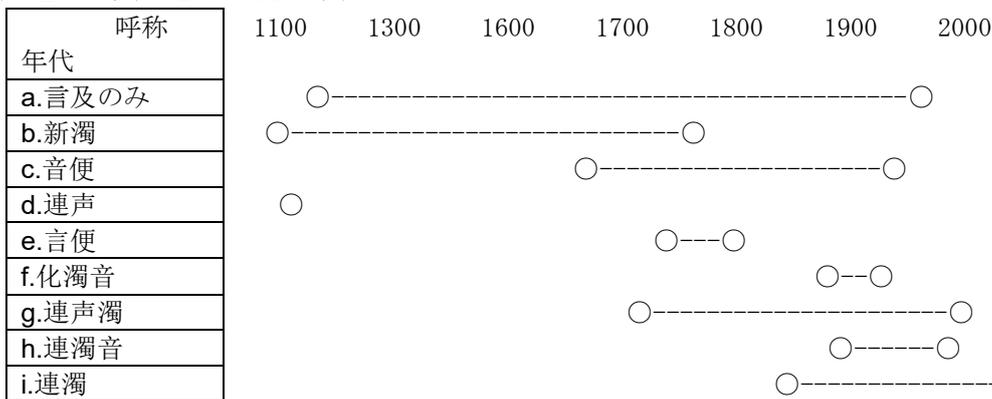
鈴木（2017）は、連濁、非連濁について、その歴史に関する記述が以下ようになる。

連濁の呼称

連濁に関する記述は平安時代から見られるが、連濁が他の音韻現象と区別され、「連濁」という呼称が定着するまでにはさまざまな異称が用いられていた。呼称として最初に使用されたものは「新濁」であったが、初期には連濁についての言及があっても、「にごり」などが使用され、特別な呼称が使われない場合も多かった。次に「音便」や「連声」が続き、「連濁」が述語として確立するのは、それよりずっと後のことである。(2) は連濁現象についての記述のある文献から採取した用例を、a.呼称なし、b.新濁、c.音便、d.連声、e.言便、f.化濁音、g.連声濁、h.連濁音、i.連濁 に分類し、原則として歴史的にそ

の使用が早い順に配列したものである。c.音便、d.連声、e.言便は、その用例を見れば明らかのように、「音便」「連声」などがそのまま連濁現象を示すわけではなく、音便あるいは連声によって生じた濁音として説明されている、という意味である。また、「音便」「連声」は現代の日本語史研究上の意味とは違い、より広義の音韻変化を示す語である。「連声」や「音便」という用語によって説明されていた連濁現象は、「連声濁」という専用の語によって表されるようになった。「連濁」が成立するまでの系譜の関係と認められるのは、「連声の濁」>「連声濁」>「連濁」と「連声の濁音」>「連声濁音」>「連濁音」の二系列であるが、前者が残り、後者は「連濁」に吸収されたと考えられる。「連濁音」は「連濁」と併用されることが多いが、ほぼ同義に用いられているようであり、連濁現象と連濁によって生じた濁音という意味を区別しているわけではない。「連濁」の用例には「いわゆる」などの表現を用いて正式な述語ではないことをことわっているものがあるが、佐久間（1959）を最後にその種の記述は見られなくなる。20世紀も後半にいたって、ようやく名実ともに述語としての地位が確立したといえよう。「連濁」は氏家（1834以前）、大槻（1897）以前に使用例が見いだせないが、「連声濁」の初出が『和字大観抄』であることから、「連濁」の成立は18世紀後半以降ということになる。またこの頃、和語の連濁も「連声濁」「連濁」で説明されるようになったと考えられる。

(2) 連濁の異称とその使用年代



非連濁の呼称（本研究では不連濁）

連濁しうる条件下（後部要素頭が清音）でも連濁が起らないことがある。これまでの連濁研究諸文献において、「連濁」に対して連濁しないことを「非連濁」「非濁」「不連濁」「不濁」「連清」の呼称が用いられてきた。また、「連濁形」に対しては「非連濁形」「不連濁形」「連清形」「不濁形」「非濁形」が用いられた。

3. 2 音韻的要因

3. 2. 1 ライマンの法則

「複合語後部要素の第2音節以下にすでに濁音が含まれている場合は連濁しない」というのは、一般的に「ライマンの法則」と呼ばれている。ライマン氏は、連濁・不連濁について、4つの法則を立てて考察を行った。その中の第1則が現代よく知られている「ライマンの法則」となっている。他の則は、「連濁・不連濁の意味条件」、「有声音の脱落による連濁」などが、複合語にどのような影響を与えることから法則を立てた。しかし、第1則だけの例外が少なく、よく評価されている。

ライマンの法則その1（不連濁規則1）

直後（すなわち後部要素の第2拍目）に/b//d//g//j//p//z/があるか、後部要素

のその他の位置（すなわち第3拍目以降）に濁音があれば、連濁はおきない。

ライマンの法則その2（不連濁規則2）

後部要素が漢語である場合、連濁を生じにくい。

ただし、直前の拍（前部要素の末の拍）が撥音であれば連濁しやすい。

直前の拍が撥音でなければ、時々連濁も起こる。

ライマンの法則その3（不連濁規則3）

①複合動詞では、連濁するほうが少ない。

②前部・後部要素とも動詞性の名詞としてもものは連濁を生じないが、例外が多い。

サ変動詞は連濁を生じないが、前部要素が漢字一字のものは連濁を生じる場合もある。

③文法的な結合をしている語は、連濁を生じない。

ライマンの法則その4（不連濁規則123以外の場合）

不連濁規則123の対象以外の語例について、連濁している語は、連濁していない語の2.2倍ぐらいある。

4つの法則の中で、ライマンの法則その1だけが、現代において「ライマンの法則」（以下の「ライマンの法則」は、「ライマンの法則その1」を指している）と呼ばれている。例外が少なく、かなり強力な法則になっているが、全く例外がないと言えない。まず、ライマンの法則が適用される例を紹介し、次にライマンの法則の例外となる例も紹介する。

ライマンの法則（鈴木 2017）によると、複合語の後部要素の自立形が清音ではじまっても、その後部要素に濁音が含まれると連濁は阻止される。

(3) a. 「風」かぜ 「海風」うみ+かぜ（×うみ+がぜ）

E1+E2のE2の自立形に濁音がある→E1+E2は連濁しない

b. 「亀」かめ 「海亀」うみ+がめ

E1+E2のE2の自立形に濁音がない→E1+E2は連濁する

そして、鈴木（2017）によると、ライマンの法則の例外を、(4)のA まったくの例外、B 撥音の後、C ライマンの法則に直接は反しないものの、複合に際して元来の濁音を清音に転じたもの、の3種に分類する。

(4) ライマンの法則の例外

A	B	C
なわばしご（縄梯子）	ふんじばる（踏縛）	したづつみ（舌鼓）
れいでがみ（礼手紙）	ふんじがる（踏一）	はらづつみ（腹鼓）
わかじらが（若白髪）	ふんぞべる	あとじさり・
ともじらが（共白髪）	れんざぶろ（練三郎）	あとずさり（後退）
くちずさび・	など	など
くちずさぶ（口遊）		
など		

現代日本語では、ライマンの法則の例外はきわめて少ない（鈴木 2005 ; Vance 2015

pp404-405)。上代語、すなわち奈良時代の日本語においては、ライマンの法則と似てはいるが、異なった制約が働いていた。この制約は、複合語の前部要素と後部要素の境界にまたがって濁音が連続することを禁止するものである。(Ramsey&Unger 1972 pp287-289) に従い、(5) a のような複合語と同様に (5) b のような複合語も連濁しなかった。

- (5) a. 「秋風」 あき+かぜ (×あき+がぜ)
 b. 「鈴船」 すず+ふね (×すず+ぶね)

一方、現代日本語においては、境界直前の濁音は連濁を阻止しない。例証として (6) のような複合語がいくつでも挙げられる。

- (6) a. 「筋金」 すじ+がね
 b. 「鍋底」 なべ+ぞこ
 c. 「レジ袋」 レジ+ぶくろ

3. 2. 2 ローゼンの法則

ティモシー・J・バンス・金子恵美子・渡邊靖史 (2017) によると、ローゼンの法則を以下のようにまとめられる。

Rosen (2003) は和語名詞の単一形態素を、連濁の頻度により、(1) 連濁しやすい要素 (rendaku lover)、(2) 連濁しにくい要素 (rendaku hater)、(3) 一切連濁しない (すなわち連濁に免疫がある) 要素 (rendaku immune)、の3種類に分けた。その上で、複合語の前部要素と後部要素が両方とも和語名詞の単一形態素であれば、どちらか (または両方) が3モーラ以上の場合、後部要素の連濁のしやすさに拘らず、必ず連濁すると主張した。ただし、連濁免疫がある後部要素は、一切連濁しないので、この限りではない。

上の Rosen の主張は、「ローゼンの法則」としてよく知られている。ほかには、Rosen (2003 pp6-13) は *Blocking of rendaku by resisters in short-short compounds & Failure of blocking by resisters in long compounds* (短い複合語は連濁を阻止し、複合語は長くなると連濁する) と主張している。よく知られている例としては、後部要素が「草」の例である。

Short-short compounds with kusa that do not voice:

First conjunct	Compound
aki 'autumn'	aki kusa 'autumn plants'
ao 'green'	ao kusa 'green grass'
buta 'pig'	buta kusa 'pig grass'
haru 'spring'	haru kusa 'spring grass'
huyu 'winter'	huyu kusa 'winter grass'
ira 'thorn'	ira kusa 'nettle'
kara 'chinese'	kara kusa 'arabesque'
miti 'path'	miti kusa 'tarrying'
mizu 'water'	mizu kusa 'water grass'
nana 'seven'	nana kusa 'grasses'
natu 'summer'	natu kusa 'summer grass'
siba 'brushwood'	siba kusa 'lawn'
sita 'under'	sita kusa 'undergrowth'

tami 'people'	tami kusa 'the populace'
туру 'vine'	туру kusa 'creeper, vine'
tuyu 'dew'	tuyu kusa 'spiderwort'
rendaku-resisting nouns with first conjuncts exceed two moras:	
First conjunct	Compound
hituzi 'sheep'	hituzi gusa 'sheep grass'
hotaru 'firefly'	Hotaru gusa 'firefly grass'
enokoro 'foxtail'	enokoro gusa 'foxtail grass'
haha-ko 'mother and child'	haha-ko gusa 'cottonweed'
matu 'wait' + yoi 'evening'	matu-yoi gusa 'evening primrose'
mo 'duckweed' + sio 'salt'	mo-sio gusa 'seaweed for salt'
ne 'root' + nasi 'without'	ne-nasi gusa 'duckweed; transient person'

以上のように、同じ後部要素「草」を持つ複合語について、複合語の長さで連濁を決定する傾向が見られる。精確に言うと、前部要素が3モーラ以上のものは、連濁を生じる。一方、前部要素が2拍以下のものは、連濁を生じない。

「ローゼンの法則」は強力な法則でありながら、適用範囲も広い。しかし、まったく例外がないわけではない。そして、Rosen (2001 pp232-284) に挙げられた語彙リストに、「複合名詞ではないものが入っている、和語名詞の単一形態素ではないものがある、語例が足りないのに3分類のどちらかに入っている」などの問題点が残っている。また、「複合名詞の長さで連濁に関係している」というRosenの主張に、後部要素が「草」の場合だけが適用されることになるのも問題点の1つである。

3. 2. 3 同一性の回避

種または類似の音が連続するときは、連濁が避けられやすい。

例： 飛び火 とびひ <=> もらい火 もらいび
 傷つける きず(づ) つける <=> 位置づける いちづける

同一性回避の反例もある。

反例：旅人 たび + びと /tabibito/
 片手 かた + て /katate/

「旅人」は子音+母音の同一性回避の反例であり、「片手」は子音の同一性回避の反例である。

3. 3 語彙層

3. 3. 1 語源と語彙層

日本語の形態素を語源によっていくつかの層に分け、各層の音韻的特徴を個別に分析する研究は多い。その際、(普通の)和語、オノマトペ、漢語、および外来語の4層に分類するのが典型的である。

3. 3. 2 和語

数は多くないが、一切連濁しない、すなわち連濁に免疫のある和語形態素もある(Kuroda 2002 p340; Irwin 2009 pp192-193)。以下の(7)に表示されているのは、その

ような特異な形態素のいくつかの例である。

- (7) a. 「枷」かせ 「足枷」あし+かせ
- b. 「先」さき 「指先」ゆび+さき
- c. 「露」つゆ 「朝露」あさ+つゆ
- d. 「紐」ひも 「靴紐」くつ+ひも

佐藤(1989 p252)では、「先」が連濁を起こさない語に扱っている。

例：「先」（ペン先、訪問先、庭先、足先、得意先）

3. 3. 3 オノマトペ

オノマトペ形態素は、日本語固有のものであるが、音韻研究においては、普段は別の層と見なされている。オノマトペの疊語は多いが、一切連濁しない。

- (8) a. けら+けら c. とろ+とろ
- b. げら+げら d. どろ+どろ

[g]や[d]などが示唆する意味は、「粗さ」、「重さ」、「ぎごちなさ」、「下品さ」の類である（小松 1981 p75; Hamano 1998 p83-85）。

- (9) a. ざま（例：「なんてざまだ」）
「様」さまを参照
- b. ばれる（例：「悪事はばれるものだ」）
「晴れる」はれるを参照

頭無声子音のものから派生されたと思ってもいい（鈴木 1962 p26-27）が、現代語の母語話者が必ずしもその関係を認識しているわけではないので、共時的な派生でない場合もある。例えば、現代語の「ぼける」に相当する「ほける」は、第二次世界大戦前の文献に記録されているが、現代ではもう使われていない。濁音で始まる「ぼける」のほうが勝ち残った理由は、この動詞がいとわしい意味をもっているからであろう。つまり、「ほ」より「ぼ」のほうが意味にふさわしいことが要因であったのかもしれない。

3. 3. 4 外来語

外来語形態素の大部分は連濁しない。

- (10) 「生ハム」なま+ハム（×なま+バム）（オランダ語）

例外も存在する。

- (11) a. 「歌留多」カルタ（<ポルトガル語 1596 年）
「歌留多」うた+ガルタ
- b. 「煙管」キセル（<クメール語 1612 年）
「銜え煙管」くわえ+ギセル

3. 3. 5 漢語

漢語要素の総体的連濁率は、和語要素より大分低いが、外来語要素に比べると段違いに高い。典型的な漢語、すなわち漢語二字熟語の大部分は連濁に免疫があるが、(12)に示されているように連濁する場合も少なくない（Vance 1996）。

- (12) a. 「水仙」すい・せん 「黄水仙」き+ずい・せん

- b. 「読本」 とく・ほん 「副読本」 ふく+どく・ほん
- c. 「会社」 かい・しゃ 「貿易会社」 ぼう・えき+がい・しゃ
- d. 「包丁」 ほう・ちょう 「肉切包丁」 にく+きり+ほう・ちょう

3. 4 形態・意味的要因

3. 4. 1 右枝条件

佐藤 (1989) p258 によると、「三語から成る複合語におき、その構造が「左枝分かれ」ならば後続語が連続的に濁音化することが可能である」。

そして、Vance (2007, 2015) が「右枝条件には「居酒屋」 {い+ (ざか+や) } のような反例が多く、この条件自体が実は疑わしい」と主張したが、「並列複合語」の場合と同じく、違う形で比較するのがやや問題を生じるため、「左枝わかれ」と「右枝わかれ」両方とも存在し得る例を改めて比較対象とする。

(13) a. 紋白蝶



b. 黒羽二重



(13) a. 紋白蝶

よく研究される「紋白蝶」は (13) a. が示すように、右枝分かれとしての「もん+ (しろ+ちょう)」が、「翅の色が白くて、前翅の前端が黒く、前翅に二点、後翅の前縁に一点の黒紋がある (大辞林 (2006) による)」というシロチョウ科の蝶ことを指している。一方、敢えて「しろ」を濁音化し、「(もん+じろ) +ちょう」と左枝分かれ構造に作り、「翅の紋が白い (波紋でもよい、なに紋でもよい) 蝶 (翅全体の色はなんでもよい)」に変わってしまう。

(13) b. 黒羽二重

枝分かれは「三語から成る複合語」を前提としているが、「二+重」が「数詞+助数詞」の構造で、意味的にそれぞれの自立性がやや低く、「二重」という固定用法も存在するため、ここでは、「二+重」を一語として見なすことにする (図にも線の高低差がある)。

(13) b. が示しているように、左枝分かれとしての「(くろ+は) +たえ」は「黒い鳥の羽が二つ (二重) ある」を意味することに対し、右枝分かれとしての「くろ+ (は +ぶたえ)」が「色が黒い羽二重 (縦糸・横糸に良質の撚りのない生糸を用いて、多く平織りとした後練りの絹織物) (大辞林(2006)による)」のことを指している。

(13) の例だけから結論を言うと、右枝分かれが連濁を阻止する原因になるとは限らない。むしろ、よい繋がりが強い (意味のまとまりが強い) 部分では、連濁現象が起こしやすいことが考えられるだろう。

連濁プロセスそのもの、そしてライマンの法則と同様に理論的な関心を集めているのが「右枝条件」である (Otsu 1980 p219)。それは「連濁は、問題の音韻が右枝分かれの位置にある場合にのみ生じる」とも言える。説明するには、(14) のような例が挙げられた。すなわち、(14) a. のように複合語内の直近の分岐点の右側に位置する要素の頭子音は連濁するが、(14) b. のように直近の分岐点の左側の要素は連濁しないのである (Otsu 1980 p223)。

(14) a.

にせ + だぬき + じる
偽 狸 汁

(14) b.

にせ + たねき + じる
偽 狸 汁

3. 4. 2 オノマトペ以外の畳語

オノマトペにあてはまらない和語の畳語は、ライマンの法則に違反しない限り、連濁するのが普通である (小倉 1919 pp21-22)。

- (15) a. 「月々」つき+づき c. 「重ね重ね」かさね+がさね
b. 「国々」くに+ぐに d. 「近々」ちか+ぢか

畳語の連濁傾向は非常に強く、連濁免疫に優先する (Nishimura 2007 pp22-23)。例えば、「先」さきという形態素は、畳語以外に複合語の後部要素になると一切連濁しないが、「先々」さき+ざきの場合は連濁する。

3. 4. 3 並列複合語

並列複合語が連濁しにくいことは昔から指摘されている (Lyman 1894 p9; 奥村 1955 p962)。(16) に示されている複合語は連濁しないが、それぞれの後部要素は連濁に免疫のある形態素ではない。

- (16) a. 「山坂」やま+さか (「下り坂」くだり+ざか を参照)
b. 「枝葉」えだ+は (「青葉」あお+ば を参照)
c. 「読み書き」よみ+かき (「覚え書き」おぼえ+がき を参照)

反例として「物事」もの+ごと は、間違いなく「物と事」という並列的な意味を表している。連濁するが、自立語として使われていない複合要素もあり、「足手纏い」あし+で+まとい はその一例である (Vance 2015 p426)「足と手」を意味する あし+では独立性のある単語としては存在しない。

3. 4. 4 動詞・形容詞の要素を含む複合語

動詞＋動詞

「聞き取る」きき＋とる と「聞き取り」きき＋とり のように、同じ 2 つの動詞に基づいた複合動詞と複合名詞の対も少なくないが、片方しか存在しない事例もある。両方とも存在する場合は、動詞も名詞も連濁しないのが典型的なパターンである (Vance 2005 pp93-98) が、「割り引く」わり＋びく と「割り引き」わり＋びき のように、両方とも連濁するもの少数ではあるが存在する。また、「通り掛かる」とおり＋かかる と「通り掛かり」とおり＋がかり のように、名詞だけが連濁するのも少数存在する。

動詞＋動詞の複合名詞しか存在しない場合は、連濁する率が高い (Vance 2005 p99)。例えば、「送り返す」おくり＋かえす という動詞に相当する名詞はない (×おくり＋かえし、×おくり＋がえし) のと対照的に、「覚え書き」おぼえ＋がき という名詞に相当する動詞はない (×おぼえ＋かく、×おぼえ＋がく)。

ライマンの法則に違反しなくても、「送り返す」のような、名詞とペアを組んでいない動詞＋動詞の複合動詞の大多数は連濁しない。一方、ライマンの法則に違反しない限り、「覚え書き」のような、動詞とペアを組んでいない動詞＋動詞の複合名詞は連濁する傾向が強い。

形容詞＋形容詞

佐藤 (1989 p257) が形容詞素性の形態素が付く場合、連濁を起こしにくいと主張している。例は以下の通りである：

- (17) (形容詞) (くるしい) 暑苦しい、重苦しい、堅苦しい、狭苦しい
(その他) (ぐるしい) 息苦しい、心苦しい、聞き苦しい、寝苦しい
(形容詞) (くち) 甘口、薄口、辛口、早口
(その他) (ぐち) 戸口、告げ口、表口、憎まれ口、おちょぼ口

形容詞素性の「なに＋くるしい」が苦しい感じを詳しく説明しているのに対し、「なに＋ぐるしい」は「なにをしようとするが、苦しい、しにくい」ことを意味する。「口」のほうは一目瞭然であり、形容詞扱いの「くち」とその他の「ぐち」と区別している。

3. 4. 5 名詞＋動詞の複合名詞

名詞＋動詞の複合名詞の新語を作り出す場合に、ライマンの法則に違反しない限り、E1 が非対格であれば必ず連濁するが、対格であればほぼ連濁しないと主張されている (Sugioka 2005 pp217-218) が、実験結果は曖昧である (Kozman 1998; Vance 2014 pp143-139)。

鈴木 (2008) が従來說をまとめ、連用名詞の連濁に関する問題を明らかにした。以下の通りである。

- (18) a. 目的格・主格のときは非連濁が多い。
ア. ただし、ナ行・マ行・エの後では連濁することが多い。「金田一(1976)」
イ. 2 拍語に比べて 3 拍語では連濁することが多い。「金田一 (1976) ・奥村 (1984)」
ウ. 目的格とは見なせないヲ格の語は連濁する。「金田一 (1976) ・奥村 (1984)」
エ. 「ヲ～スル人」のときは連濁しない。「中川 (1976) ・金田一 (1976) ・佐藤 (1989)」

- オ. 生き物の名前となるものは、連濁を生じない。「佐藤 (1989)」
- カ. 「…する道具」を意味するときは、連濁を生じない。「佐藤 (1989)」
- キ. 「…を…すること」の意味で、作業、仕事、遊び等を示すときは、連濁を生じない。「佐藤 (1989)」
- ク. その動作の結果生ずる具体物・対象を示すときは連濁を生ずる。「佐藤 (1989)」
- ケ. 「…を…すること」の意識が薄く、一語としての意識が強いものは連濁を起こす。「佐藤 (1989)」

(18) b. 連用修飾格のときは連濁が多い。

(18) c. 連濁の語は平板式（無核型）アクセント、非連濁の語は起伏式（有核型）アクセントであることが多い（特に2拍語）。

3. 4. 6 拘束の前部要素

拘束形態素の E1 の中に連濁を阻止する形態素もある。尊敬接頭辞の「ご」や「お」、和語数詞の「一」ひとなど。「声」こえ～ごえは、「人声」ひと+ごえ と「一声」ひと+こえ と区別する。

- (19) a. 「お箸」お+はし（「火箸」ひ+ばし を参照）
 b. 「お砂糖」お+さ・とう（「黒砂糖」くろ+ざ・とう を参照）
 c. 「お強い」お+つよい（「根強い」ね+づよい を参照）
 d. 「お聞き」お+きき（「盗み聞き」ぬすみ+ぎき を参照）
 e. 「ご苦労」ご+くろう（「気苦労」き+ぐ・ろう を参照）

3. 4. 7 後部要素の多義性

内容形態素の大部分は多義である。複合語の後部要素が多義であった場合、各語義によって連濁率が著しく違う事例がかなりある (Irwin 2016 pp104-105; Vance 2015 pp433)。

- (20) a. 「素手」す+で d. 「元手」もと+で
 b. 「熊手」くま+で e. 「深手」ふか+で
 c. 「男手」おとこ+で

(20) e. においては、「手」は「傷」という意味を持っている。この語義の場合は、「手」は必ず連濁すると言ってもいいであろうが、例数は非常に少ない。他にあるのは、「浅手」と「痛手」だけである。

対照的に、「その動作をする人」という意味の「手」は一切連濁しない（「売り手」うり+て）。

3. 5 不規則性

3. 5. 1 変異する実在語

連濁形と非連濁形が共存する複合語もある。例えば、「空咳」の発音は、から+せきもから+ぜき も NHK 放送文化研究所 (2016) で認められている。

同音異義語や同義異音語を回避する傾向は普遍的であり、一形一義原理と呼ばれている (Matthews 1997 pp255)。「奥深い」の場合、おく+ふかい を文字通りの意味（奥が深い。奥まっている）で使い、おく+ぶかい を比喩的な意味（意味が深い。深遠でわかりにくい）で使う。他にも「大手」のおお+て とおお+で が挙げられる。

3. 5. 2 個別後部要素の不安定な振る舞い

促進要因や抑制要因に関係なく、連濁したりしなかったりする形態素が数多くある。

- (20) a. 「島」 「浮き島」 うき+しま
「離れ島」 はなれ+じま
b. 「鳥」 「小鳥」 こ+とり
「親鳥」 おや+どり
c. 「日」 「夕日」 ゆう+ひ
「西日」 にし+び

3. 5. 3 連濁の生産性

連濁は、全体的に不規則であることは否定できないが、生起している複合語を全て暗記すれば良いというわけではない。なぜなら、実在要素からなる新語にも連濁を適用する可能性が十分あるからである。

4. アクセント語類

アクセント語類は、古い文献および現代方言の比較により、日本語諸方言の共通祖先に存在したと推定されるアクセントで対立する語のグループである。日本語のアクセント体系は方言により異なっているが、規則的な対応関係があり、祖語からの規則的な変化により現代方言のアクセントが成立したと考えられている。各類に所属する語を、類別語彙と言う。

金田一春彦 (1974 pp61-64) によると、過去のアクセントを推定するにあたり、現在の諸方言でどの語とどの語が同じ型に属しているかを知ることがきわめて重要となる。今、現在諸方言で、同じ型に属している語を同じ「類」の語と呼ぶ。金田一は1拍から3拍までの日常語を網羅的に扱い、各類に分けた。

アクセント語類と複合名詞アクセント

和田 (1943, 1951) は後部 2 拍和語名詞につて、以下のように主張している。後部 2 拍名詞の金田一語類の所属と複合アクセントとの間に、次のような基本対応傾向（前部が 3 拍以上の時、よりはっきりとみられる）が、現代東京アクセント・近畿アクセントともに、観察されるという。

現代東京アクセントと近畿アクセントとにおいて、後部 2 拍名詞が金田一語類の

a. 1 類語か 2 類語ならば、複合名詞のアクセントは、前部要素末尾拍に核が位置する。

(特殊拍がらみで 1 拍前にずれる場合も含む)

- (例： 「まだらうし」 ○●●○○ (東京) | ○○●○○ (近畿)、
「みかげいし」 ○●●○○ (東京) | ●●●○○ (近畿) など)

b. 3 類語ならば、複合名詞のアクセントは、核なし。

- (例： 「あきたいぬ」 ○●●●● (東京) | ○○○○● (近畿))

c. 4 類語か 5 類語ならば、複合名詞のアクセントは、後部要素先頭拍に核が位置する。

- (例： 「さんどがさ」 ○●●●○ (東京) | ●●●●○ (近畿)、
「てながざる」 ○●●●○ (東京) | ○○○●○ (近畿) など)

前田 (2000) は、和田 (1943, 1951) の仮説を検証するため、杉藤アクセント辞典を利用して調べたその結果が次のようになる。

後部に2拍要素をもつ5拍以上の複合名詞の現代東京・近畿アクセントが、後部2拍名詞の金田一語類における所属に応じ、両者一致した振る舞いを示す。ただし、3類語は平板型だけではなく、前部要素末尾拍に核が位置する場合もかなりある。

前田（2000）により、取り出された複合名詞 797 語のアクセントは以下のようになる。

<東京>	(甲) 前部要素末尾音節にアクセント核	…403 語 (51%)
	(乙) アクセント核なし (平板アクセント)	…261 語 (33%)
	(丙) 後部要素先頭音節にアクセント核	…127 語 (16%)
	(その他)	…6 語
<大阪>	(甲) 前部要素末尾拍 or 音節にアクセント核	…509 語 (64%)
	(乙) アクセント核なし (平板アクセント)	…166 語 (21%)
	(丙) 後部要素先頭拍 (or 音節) にアクセント核	…120 語 (15%)
	(その他)	…3 語

現代東京アクセント・大阪アクセント、いずれの場合も、複合名詞アクセントとして、所属語数が最も多い「基本アクセント型」は、(甲) タイプのものであることが、確認できる。(丙) 型アクセントと (乙) 型アクセント形成傾向が強い。

第三章 複合名詞のアクセントーアクセント規則と連濁 についてー

0. はじめに

2章1節の先行研究では、複合名詞のアクセントに関する研究を紹介した。複合語のアクセントを決定する要因として、主に「前部・後部要素の拍数、前部・後部要素のアクセント型、語種（語彙層）、連濁」の4点であり、本章は、その一部または全部をそれぞれ使って分析していく。『NHK 日本語発音アクセント新辞典』（2016）に基づいたアクセントデータベースを用いて、『新明解日本語アクセント辞典』（2015）に記載される規則を検証する。（アクセントデータベースの作成は1章2節に参照、研究対象となる語彙の範囲は1章3節に参照）

検証作業を行いながら、両辞典の、複合名詞アクセントに関する相違点も比較する。そして、連濁現象がどのようにアクセントに影響するか、データ分析を通して仮説を立てる。語の分布表に、語彙を連濁、不連濁、ライマンの法則が適用されているもの、連濁不関与の4類分けて示しているが、分析の際に、ライマンの法則が適用されたものを、不連濁語の範囲に入れる。

統計の便宜上、複合語のアクセント、前部要素のアクセント、後部要素のアクセントはすべて『NHK 日本語発音アクセント新辞典』（2016）による第1アクセントだけを採用する。詳しく分析する際に（後での前・後部要素語彙別分析時も）、第1アクセントだけではなく、すべてのアクセントを考慮して分析することとなる。また、辞典の規則には、「平板式」という用語を用いられているが、便宜上、これから分析する際は、「平板式」という語は用いず「平板型」を一貫して用いる。

なお、『NHK 日本語発音アクセント新辞典』（2016）は、短い癒合名詞のアクセント規則については、主に前・後部要素のアクセント式と、複合名詞のアクセントとの関係について述べているが、本研究は、アクセント式ではなく、さらに詳しいアクセント型について議論を行う。

分析する手順は、本研究の扱う対象語に、短い語から長い語を分析し、以下の順番となる。

- ①後部要素が和語の癒合名詞（前・後部要素ともに2拍以下の語）
- ②後部要素が1・2拍かつ前部要素が3拍以上の結合名詞
- ③後部要素が3・4拍の結合名詞

各節で対象語を分析する際に、まず、『新明解日本語アクセント辞典』（2015）が記載される規則を紹介する。次に、アクセントデータベースから抽出した対象語を、そのアクセント規則性について詳しく分析する。

そして、連濁に関して議論も行う。
最後に、前・後部要素語彙別分析を行う。

全体的に、後部要素のアクセント型が、複合名詞のアクセントに影響する傾向がみられる。

ただし、後部要素が和語の癒合名詞①について、前部要素のアクセント型が複合語のアクセントに影響する決定的な要因だとよく知られている。後部要素が複合名詞アクセントにどのぐらい影響するか、①の語について、前・後部要素を分けて、個別な語彙の分析を行う。①の短い癒合名詞の場合、前・後部要素の型よりは、前・後部要素としての特定の語彙が全体のアクセントを決定する力を持つ可能性がある。

③の語について、後部要素が中高型の語の、後部要素のアクセント型が保存される現象について議論する。さらに、連濁がこのタイプの語のアクセントを、大きく影響する要因の1つだと、仮説を立てて検証を行う。

1. 癒合名詞（前・後部要素ともに2拍以下の語）

『新明解日本語アクセント辞典』（2015）pp(14)-(16)によると、このグループの法則がもっとも立てにくく、日常多く用いられる語には例外も多い。「一般の語では、複合語の前部のアクセントの型・後部のアクセントの型の組み合わせによって決まるという法則がみられ、前部のアクセント式によって決まる傾向がある（すなわち、前部平板式の語は平板式に、前部が起伏式の語は起伏式になる）」と新明解アクセント辞典にはこのようなアクセント規則が記載されている。

1. 1 後部要素が1拍かつ前部要素が1拍の語（1拍和・漢語+1拍和語）

『新明解日本語アクセント辞典』（2015）p(14)によると、後部が1拍かつ前部が1拍の和語について、前部平板型は全体が平板型に、前部頭高型は全体が頭高型になる。

カ→カヤ（蚊帳）	ハ→ハネ（羽根）
ケ→ケバ（毛羽）	イ\→イ\ド（井戸）
キ\→キ\ド（木戸）	ノ\→ノ\ビ（野火）
ユ\→ユ\バ（湯葉）	ヨ\→ヨ\メ（夜目）

このタイプの複合語の全体の数が少ないが、前部要素が和語の場合がほとんどである。しかし、前部要素が漢語の場合も存在する。したがって、前部要素が和語の場合と、前部要素が漢語の場合を分けて分析したい。

1. 1. 1 1拍和語+1拍和語

アクセントデータベースでの検証した結果、確かに、『新明解日本語アクセント辞典』（2015）の規則が書いている通り、前部要素のアクセント式によって、複合語のアクセントが決定される傾向がみられる。例外もわずかである。一方、後部要素のアクセント式によって、複合語のアクセントが決定される傾向が見えない。連濁に関して、連濁語のアクセント核は、複合語の語境界に置かれる傾向が見られる（複合語が頭高型）。なお、複合語にして、一語としての意識が強い語は、規則に適用されにくい（例えば、「羽根」の当て字には漢字1字の「羽」もあるため、分離できない一語とも言えるだろう）。

表1は、アクセントデータベースから、該当する複合語の詳細を示す。24語の内、平板型5語（約2割）、起伏式19語（約8割）、起伏式に頭高型13語（7割弱）、尾高型6語（3割強）ある。

平板型である複合語5語の「蚊屋カヤ」、「毛羽ケバ」、「矢場ヤバ」、「羽根ハネ」、「黄身キミ」には、前部要素も平板型である語は「蚊カ→蚊屋カヤ」、「毛ケ→毛羽ケバ」の2語（4割）である。一方、前部要素が起伏式で複合語は平板型である語は、「黄キ（第

2 平板型) →黄身キミ」, 「矢ヤ→矢場ヤバ (第 2 起伏式の尾高型)」, 「羽ハ→羽根ハネ」の 3 語 (6 割) を占める。

表 1 「1 拍和語+1 拍和語」語の分布状況

		X平板型				X起伏式				
		Y平板型		Y起伏式		Y平板型		Y起伏式		
Z平板型	連濁	1						1		
	不連濁		1		1	2			5	
	連濁不関与			1		2		1	4	
Z起伏式	Z頭高型	連濁	1			5		2		8
		不連濁		1		1	6		6	12
		連濁不関与						4		4
	Z尾高型	連濁				1				1
		不連濁					3		3	6
		連濁不関与				2		3		5
		2	1		11	10			24	
		3			21					

逆に、起伏式の複合語について、前部要素が平板型で、複合語は起伏式である語は「簀ス (第 2 起伏式) →簀戸ス\ド」の 1 語であり、起伏式の複合語 19 語の中、極めて少数を占める。前部要素が起伏式かつ複合語も起伏式である語は、19 語の 18 語、約 9 割 5 分を占める。

また、後部要素のアクセント式から、複合語との関係を見ると、明らかな規則性が見えてこない。

この「1 拍和語+1 拍和語」の複合語について、語例は少ないが、「前部要素平板型→複合語平板式」という規則に当てはまると、例外の割合 (6 割) が多く見られる。一語として意識が高い「羽根 (全体の当て字が 1 字の 羽 ともするため)」を除いても、例外の割合 (4 語に 2 語) が 5 割になり、少ないと言い切れないのだろう。

以上は前部要素のアクセント式と複合語のアクセント式の関係について検討したが、同じ起伏式であっても、アクセント核が語中の境界目に置く頭高型と、アクセント核が語尾に置く尾高型の 2 つに分けられる。

これから連濁とアクセントの関係を検討する際に、「連濁は、複合語の前・後部要素の境界を示し、連濁するとアクセント核も各要素の境界を示せる所に置かれやすい」のように、語の境界目のところに注目する必要がある場合が出てくる。したがって、アクセント式ではなく、アクセント型についてより深く探ってみる。

連濁については、24 語の内、連濁語 10 語 (4 割強)、不連濁語 1 語 (極めて少数)、連濁不関与語 13 語 (約 5 割 5 分) を占める。

連濁語の 10 語の内、平板型語 1 語 (1 割)、頭高型語 8 語 (8 割)、尾高型 1 語 (1 割) である。一語として意識が高い平板型の「毛羽ケバ (全体が一字の毳とも)」を除き、頭高型語の割合がさらに上がる (9 語に 8 語、9 割弱)。先ほど述べたの「連濁は、複合語の前・後部要素の境界を示し、連濁するとアクセント核も各要素の境界を示せる所に置かれやすい」という現象に当てはまる。この現象を仮に**仮説①**とし、該当する範囲や、

該当条件を検証したい。

一方、**不連濁語**の「尾オ→尾羽オ\ハ（第2平板型）」は、並列関係を持つ語であり、「鳥の尾と羽」を意味している。これも、複合語のアクセントに平板型と頭高型が共存している唯一の例である。同じく前部要素の語に平板型と頭高型が共存する「背セ\（第2平板型）→背戸セ\ド」,「簀ス（第2頭高型）→簀戸ス\ド」,「黄キ\（第2平板型）→黄身キミ」の3語は、複合語のアクセントが平板型か頭高型かの1つしかない。並列している2つの語からなる「尾羽」だからこそ、「前部要素平板式→複合語平板式」の規則に当てはめる平板型があり、複合語の度合いがやや低い。境界を示す必要がある頭高型があるため、アクセントの揺れがあるのだろう。

連濁不関与の13語の内、平板型語4語（約3割）、頭高型語4語（約3割）、尾高型5語（4割弱）である。頭高型語が偏った連濁語に対し、3つのアクセント型の分布は平均である。

まとめ もっとも短い複合語の「1拍和語+1拍和語」について、

- ・前部要素起伏式→複合語起伏式（例外1語、1割未満）

例外 「羽ハ\+根ネ\→羽根ハネ」

- ・前部要素平板式→複合語平板式（例外1語3割強）

例外 「簀ス（第2ス\）+戸ト→簀戸ス\ド」

- ・一語としての意識が強い語は、複合名詞アクセント規則に当てはまりにくい（例外の2語）

例外 「毛羽ケバ（全体が一字の毳とも）」 「羽根ハネ（全体が一字の羽とも）」

- ・連濁は、複合語の前・後部要素の境界を示し、連濁するとアクセント核も各要素の境界を示せる所に置かれやすい（例外が1語1割）。この「1拍和語+1拍和語」の場合には、境界の1拍前にアクセント核が置かれる

例外 「羽ハ\+子コ→羽子ハゴ\」

前部要素語彙別分析

前部要素が同じ語の複合語について、前部要素のアクセントと、複合語のアクセントとの関係が分かる。前部要素が平板型の場合、複合語が平板型になりやすい。前部要素が起伏式の場合、複合語が起伏式になりやすい。

後部要素語彙別分析

後部要素のアクセントと、複合語のアクセントとの対応関係が見られない。しかし、個別な後部要素に、複合語のアクセントを決める力がある項目が見られる。～+「戸ト」の場合、前部要素のアクセントに関係せず、複合語が起伏式になる傾向がみられる。

（付録 前・後部要素語彙別リスト に参照）

表2 「1拍和語+1拍和語」前部要素語彙別の一覧

	X		Y		Z			
蚊	カ		屋	ヤ\	蚊屋	カヤ	連濁不関与	
毛	ケ		羽	ハ	毛羽	ケバ	連濁	
簀	ス	ス\	戸	ト	簀戸	ス\ド	連濁	
井	イ\		戸	ト	井戸	イ\ド	連濁	
尾	オ\		羽	ハ	尾羽	オ\ハ	オハ	不連濁
			根	ネ\	尾根	オ\ネ	オネ\	連濁不関与
黄	キ\	キ	身	ミ	黄身	キミ	連濁不関与	
木	キ\		戸	ト	木戸	キ\ド	連濁	
			場	バ	木場	キバ\	連濁不関与	
生	キ\		酢	ス\	生酢	キ\ズ	連濁	
背	セ\	セ	戸	ト	背戸	セ\ド	セド\	連濁
手	テ\		羽	ハ	手羽	テ\バ	連濁	
			間	マ	手間	テマ\	連濁不関与	
根	ネ\		緒	オ\	根緒	ネオ\	連濁不関与	
野	ノ\		火	ヒ\	野火	ノ\ビ	連濁	
羽	ハ\		根	ネ\	羽根	ハネ	連濁不関与	
			子	コ	羽子	ハゴ\	連濁	
			目	メ	羽目	ハメ\	連濁不関与	
火	ヒ\		矢	ヤ\	火矢	ヒ\ヤ	連濁不関与	
矢	ヤ\		場	バ	矢場	ヤバ	ヤバ\	連濁不関与
屋	ヤ\		根	ネ\	屋根	ヤ\ネ	連濁不関与	
湯	ユ\		葉	ハ	湯葉	ユ\バ	連濁	
			屋	ヤ\	湯屋	ユヤ\	連濁不関与	
夜	ヨ\		目	メ\	夜目	ヨ\メ	連濁不関与	

表3 「1拍和語+1拍和語」後部要素語彙別の一覧

	X		Y		Z			
羽	ハ\		子	コ	羽子	ハゴ\	連濁	
井	イ\		戸	ト	井戸	イ\ド	連濁	
木	キ\				木戸	キ\ド	連濁	
簀	ス	ス\			簀戸	ス\ド	連濁	
背	セ\	セ			背戸	セ\ド	セド\	連濁
木	キ\		場	バ	木場	キバ\	連濁不関与	
矢	ヤ\				矢場	ヤバ	ヤバ\	連濁不関与
湯	ユ\		葉	ハ	湯葉	ユ\バ	連濁	
尾	オ\		羽	ハ	尾羽	オ\ハ	オハ	不連濁
毛	ケ				毛羽	ケバ	連濁	
手	テ\				手羽	テ\バ	連濁	
手	テ\		間	マ	手間	テマ\	連濁不関与	
黄	キ\	キ	身	ミ	黄身	キミ	連濁不関与	
根	ネ\		緒	オ\	根緒	ネオ\	連濁不関与	
生	キ\		酢	ス\	生酢	キ\ズ	連濁	
尾	オ\		根	ネ\	尾根	オ\ネ	オネ\	連濁不関与
羽	ハ\				羽根	ハネ	連濁不関与	
屋	ヤ\				屋根	ヤ\ネ	連濁不関与	
野	ノ\		火	ヒ\	野火	ノ\ビ	連濁	
羽	ハ\		目	メ\	羽目	ハメ\	連濁不関与	
夜	ヨ\				夜目	ヨ\メ	連濁不関与	
火	ヒ\		矢	ヤ\	火矢	ヒ\ヤ	連濁不関与	
蚊	カ		屋	ヤ\	蚊屋	カヤ	連濁不関与	
湯	ユ\				湯屋	ユヤ\	連濁不関与	

1. 1. 2 1拍漢語+1拍和語

『新明解日本語アクセント辞典』(2015)にはこのようなタイプの語について、特にアクセント規則が記載されていないが、「1拍和語+1拍和語」場合の「前部要素起伏式→複合語起伏式」という規則に嵌められると、例外なく適用される。一方、「前部要素平板式→複合語平板式」の規則によって、前部要素が平板式の3語の内、例外1語(3割強)が出てくる。

表4 「1拍漢語+1拍和語」語の分布状況

		X平板型			X起伏式					
		Y平板型	Y起伏式		Y平板型	Y起伏式				
Z起伏式	Z平板型	連濁								
		不連濁		1	2				1	2
		連濁不関与		1					1	
	Z頭高型	連濁				1		1		2
		不連濁		1		1	2		1	3
		連濁不関与	1						1	
Z尾高型	連濁						2		2	
	不連濁						1	3	3	
	連濁不関与								1	
		1	2		2	4			9	
		3			6			9		

このタイプの9語は、「茶チャ→茶屋チャヤ」、「和ワ\→和子ワ\コ」、「後ゴ→後手ゴテ(第2起伏式の頭高型)」、「後ゴ→後場ゴ\バ」、「絵エ\→絵羽エ\バ」、「派ハ\→派手ハデ\」、「四シ\→四手シ\デ」、「素ス\ (第2平板)→素手スデ\ (第2起伏式の頭高型)」、「無ム\ (第2平板)→無手ムテ\ (第2起伏式の頭高型)」である。

そして、複合語のアクセント型からみると、平板型2語(2割強)、頭高型4語(約4割5分)、尾高型3語(3割強)であり、「ほとんどが頭高型」と言えないのだろう。

連濁については、連濁して、複合語のアクセントに頭高型(境界目の1拍前にアクセント核が置かれる)がないのは、「派ハ\→派手ハデ\」(4語の内に1語、2割5分)である。「派手」は「破手」から転じた語とも、また、「映(は)え手」の変化した語ともいうため、「漢語+和語」のグループより、「動詞連用形+和語」のグループに属すべきである。『新明解日本語アクセント辞典』(2015) p(16)の規則5によると、起伏式動詞に「手」のつく2・3拍語は尾高型になる。「映え+手(起伏式 映える+手)」はその通りになる。

不連濁語と**連濁不関与語**については、複合語のアクセント分布に偏りが無い。不連濁語3語に平板型、頭高型と尾高型が1語ずつであり、連濁不関与語に平板型と頭高型は1語ずつである。

まとめ 「1拍漢語+1拍和語」について、「1拍和語+1拍和語」の場合のアクセント規則と同じような傾向が見られる。複合語に影響する諸要因主に以下の3つである。

- ・前部要素起伏式→複合語起伏式(例外なし)

- ・前部要素平板式→複合語平板式（例外 1 語、3 割強）

例外 「後ゴ+場バ→後場ゴ\バ」

- ・連濁は、複合語の前・後部要素の境界を示し、連濁するとアクセント核も各要素の境界を示せる所に置かれやすい（例外なし）。この「1 拍漢語+1 拍和語」の場合は、境界の1拍前にアクセント核が置かれる

前・後部要素語彙別分析

前部要素のアクセントにより、複合語のアクセントが決定される傾向が見られる。前部要素が平板型の場合、複合語が平板型になりやすい。前部要素が起伏式の場合、複合語が起伏式になる。語例が少なく、例外としての「後場」は、後部要素の「場」によって起伏式になるのか、単なる例外なのか、不明である。

（付録 前・後部要素語彙別リスト に参照）

表 5 「1 拍漢語+1 拍和語」前部要素語彙別の一覧

	X	Y	Z			
後	ゴ	手 テ\	後手	ゴテ	ゴ\テ	不連濁
		場 バ	後場	ゴ\バ		連濁不関与
茶	チャ	屋 ヤ\	茶屋	チャヤ		連濁不関与
絵	エ\	羽 ハ	絵羽	エ\バ		連濁
四	シ\	手 テ\	四手	シ\デ	シデ\	連濁
素	ス\	手 テ\	素手	スデ\	ス\デ	連濁
派	ハ\	手 テ\	派手	ハデ\		連濁
無	ム\	手 テ\	無手	ムテ\	ム\テ	不連濁
和	ワ\	子 コ	和子	ワ\コ		不連濁

表 6 「1 拍漢語+1 拍和語」後部要素語彙別の一覧

	X	Y	Z			
和	ワ\	子 コ	和子	ワ\コ		不連濁
後	ゴ	場 バ	後場	ゴ\バ		連濁不関与
絵	エ\	羽 ハ	絵羽	エ\バ		連濁
後	ゴ	手 テ\	後手	ゴテ	ゴ\テ	不連濁
無	ム\	ム	無手	ムテ\	ム\テ	不連濁
四	シ\		四手	シ\デ	シデ\	連濁
素	ス\	ス	素手	スデ\	ス\デ	連濁
派	ハ\		派手	ハデ\		連濁
茶	チャ	屋 ヤ\	茶屋	チャヤ		連濁不関与

1. 2 後部要素が1拍かつ前部要素が2拍の語（2拍和・漢語+1拍和語）

『新明解日本語アクセント辞典』（2015）p(14)の規則によると、（イ）前部が平板式の場合は、複合語アクセントが平板型になる。（ロ）前部起伏式の場合は、複合語のアクセントが多く中高型になる。ただし、前部起伏式の内、前部頭高型の語は全体が頭高型に、前部尾高型の語は全体が平板型（時に頭高型）にも発音されると記載されている。

（イ）前部平板式－平板型。

サト→サトゴ（里子）

コシ→コシユ（腰湯）

トリ→トリメ（鳥目）

クチ→クチビ（口火）

（ロ）前部起伏式－多く中高型。

タマ\→タマ\ゴ（玉子）

ツキ\→ツキ\ヨ（月夜）

イロ\→イロ\メ (色目) スミ\→スミ\ビ (炭火)
 ア\メ→アマ\ド (雨戸) ソ\バ→ソバ\ユ (蕎麦湯)
 ア\メ→アマ\ヨ (雨夜) タ\ネ→タネ\ビ (種火)

注①但し、前部頭高型の語は全体が頭高型に、前部尾高型の語は全体が平板型（時に頭高型）にも発音される。

ア\サ→ア\サヒ (朝日) ム\ネ→ムネゲ (胸毛)
 マ\ツ→マ\ツバ (松葉) ユ\ビ→ユビワ (指輪)
 マ\ユ→マ\ユゲ (眉毛) ハ\ナ→ハ\ナビ (花火)

このタイプの複合語は、前部要素が和語の場合がほとんどである。しかし、前部要素が漢語の場合も数少なく存在する。したがって、前部要素が和語の場合と、前部要素が漢語の場合を分けて分析したい。

1. 2. 1 2拍和語+1拍和語

『新明解日本語アクセント辞典』(2015) p(14)の規則に、

(イ)前部平板式－平板型

(ロ)前部起伏式－多く中高型

のような規則が記載されているが、アクセントデータベースで検証した結果、(イ)の規則が有効であり、例外がない。つまり、前部要素が平板型の場合、複合名詞アクセントが平板型になる。一方、(ロ)については、両辞典の違いが出る。前部要素が起伏式の場合、複合名詞アクセントは多く中高型だと、『新明解日本語アクセント辞典』(2015) p(14)の規則が書いてあるが、アクセントデータベースで検証した結果は、この場合の複合名詞アクセントは、平板型が大半を占める。残りのアクセント型に、中高型がその半分しか占めていない（前部要素が起伏式の語の、約2.5割）。

また、連濁に関して、連濁語は尾高型を回避する性質を持つことが、新たに発見された。

表7 「2拍和語+1拍和語」語の分布状況

		X起伏式																	
		X平板型				X頭高型				X尾高型									
		Y平板型		Y頭高型		Y平板型		Y頭高型		Y平板型		Y頭高型							
Z平板型	連濁	9	23	6	48	71	8	23	11	35	58	8	37	12	46	83	54	212	
	不連濁	6		14			4		8			13		8			53		
	連濁不関与	8		28			11		16			16		26			105		
Z頭高型	連濁						3		4			1		1			9	24	
	不連濁						3	11	1	8	19	1	3	1	2	5	6		
	連濁不関与						5		3			1					9		
Z中高型	連濁						3		3			7		2			15	58	
	不連濁		1					7		13	20	2	12	2	25	37	4		
	連濁不関与	1					4		10			3		21			39		
Z尾高型	連濁													1			1	24	
	不連濁						1	2	6	10	12		4		8	12	7		
	連濁不関与						1		4			4		7			16		
		24		48				43		66				56		81		318	
		72				109				137				246					

このタイプの全体の 318 語の内、平板型が 212 語、起伏式の頭高型が 24 語、中高型が 58 語、尾高型が 24 語である。平板型は大半を占め、中高型がその次に 3 割弱を占め、頭高型と尾高型がそれぞれ 1 割強を占める。

(イ) について

前部要素が平板型の語は 72 語である。複合語のアクセントは、ほとんどが平板型となる (72 語に 71 語)。例外としての複合語 1 語は、中高型の「底ソコ→底値ソコ\ネ (第 2 平板型)」である。「底値」に第 2 アクセントの平板型があるため、例外として扱わないことにする。それを除く結果、前部要素が平板型の語は、複合語アクセントがすべて平板型になった。

(ロ) について

前部要素が起伏式の語は 246 語であり、その内に複合語アクセントは、平板型の場合が 141 語、頭高型が 24 語、中高型が 57 語、尾高型が 24 語ある。『新明解日本語アクセント辞典』(2015) p(14)の「前部起伏式の場合は、複合語のアクセントが多く中高型になる」と違って、その複合語の多くは、平板型になる (6 割弱)。平板化が進んでいることが原因なのか、また検討する必要がある。

さらに、前部要素の起伏式のアクセントを分けて分析を行う。前部要素が頭高型の 109 語は、複合語アクセントに平板型 58 語、頭高型 19 語、中高型 20 語、尾高型 12 語ある。前部要素が尾高型の 137 語は、複合語アクセントが平板型 83 語、頭高型 5 語、中高型 37 語、尾高型 12 語ある。起伏式である前部要素のアクセント型に関わらず、複合語アクセントの平板型が多い。複合語の頭高型の分布から見ると、複合語アクセントが頭高型の語に、元の前部要素のアクセントが頭高型の可能性が高い (24 語に 19 語)。

連濁について 連濁語 79 語の内、複合語アクセントが尾高型の語は 1 語しかない。複合語アクセントが尾高型の語の数は少ないが、24 語もある。その 1 語の「島田シマダ\」は、「島田髷しまだまげ」の略である。「島田しまだ」+「髷まげ」という複合語は、後部要素が 2 拍和語の結合名詞アクセント規則に属するべきであり、アクセント核が前部要素の末に置かれる。島田髷「シマダ\マゲ」のアクセント核がそのまま残して、省略語の「島田シマダ\」のような尾高型の語になった。『新明解日本語アクセント辞典』(2015) p (22)によると、後部要素が 2 拍和語名詞でできた結合名詞にアクセント規則について、複合名詞のアクセントが前部末型になるのが普通である。この例外の 1 語を除き、連濁語には尾高型の複合語がまったくない。つまり、このタイプの複合語について、連濁は尾高型を回避すると考えられる。仮に、連濁に尾高型語の出現率が低いことを、「**連濁は尾高型を回避し、生産性が高いアクセント型が現れやすい**」という**仮説②**を立て、分析しながら検証したい (ここでの生産性が高いアクセント型というのは、平板型と中高型のことを指している)。

不連濁と連濁不関与について 複合語の尾高型に、連濁語が全くないことに対し、23 語の内、不連濁語は 7 語、連濁不関与語は 16 語ある。そして、複合語の中高型の 58 語に、不連濁語 4 語しかない (連濁語 15 語、連濁不関与語 39 語)。「2 拍和語+1 拍和語」の場合の中高型語は、アクセント核が語境界のところに置かれる (ここでは、境界の 1 拍前にアクセント核が置かれることを指す)。不連濁語のアクセント核が語境界のところに置かれにくいことから、仮説①の「連濁は、複合語の前・後部要素の境界を示し、連

濁するとアクセント核も各要素の境界を示せる所に置かれやすい」に合致する 1 事例である。

まとめ 「2 拍和語+1 拍和語」について、その複合語のアクセントは以下のようにまとめられる。

- ・前部が平板型の場合は、複合語アクセントが平板型となる（例外なし）
- ・前部が起伏式の場合は、複合語アクセントの大半が平板型で、一部が起伏式（中高型約 5 割、頭高型と尾高型それぞれ約 2 割 5 分）である
- ・連濁は、複合語の前・後部要素の境界を示し、連濁するとアクセント核も各要素の境界を示せる所に置かれやすい（例外 9 語）。この「2 拍和語+1 拍和語」の場合は、境界の 1 拍前にアクセント核が置かれる
- ・連濁は尾高型を回避し、生産性が高いアクセント型が現れやすい（例外なし）
「2 拍和語+1 拍和語」での生産性が高いアクセント型というのは、平板型と中高型のことを指している

前・後部要素語彙別分析

全体的に、前部要素の項目より、前部要素のアクセント型により、複合語アクセントが決定される傾向がみられる。しかし、個別の後部要素には、「後部要素の語により、複合語のアクセントが決定される力がある」という傾向がみられる。

例えば、後部要素の「輪ワ\」の 10 語は、前部要素のアクセント型に関係せず、複合語アクセントが例外なく平板型である。

（付録 前・後部要素語彙別リスト に参照）

1. 2. 2 2 拍漢語+1 拍和語

『新明解日本語アクセント辞典』（2015）に、このようなタイプの語について、アクセント規則の記載がないが、アクセントデータベースを通して、「2 拍和語+1 拍和語」の場合の分析結果と似たような傾向がみられる。つまり、前部要素が平板型の場合、複合語は平板型になる。そして、前部要素が起伏式の場合、複合語の平板型は大半を占める。また、連濁について、仮設②の「連濁は尾高型を回避し、生産性が高いアクセントパターンが現れやすい」ということが見られる。

「2 拍漢語+1 拍和語」の 84 語の内、平板型が 52 語、起伏式の頭高型が 11 語、中高型が 11 語、尾高型が 10 語ある。平板型は 6 割強を占め、頭高型、尾高型、中高型がそれぞれ 1 割強を占める。

前部要素が平板型の場合に、複合語は平板型となる。前部要素が平板型の 8 語に、例外がない。一方、前部要素が起伏式の場合のみ、複合語の起伏式が見られるが、平板型の割合はもっとも大きい。後部要素が起伏式の 76 語の中、平板型 44 語（6 割弱）ある。複合語アクセントの頭高型の出現は、前部要素が頭高型の場合のみにある。

連濁について 語例は少ないが、複合語の尾高型（10 語）に連濁語が 0 語である。全体

的に、連濁語（15 語）が少ないため、仮設②の「連濁は尾高型を回避し、生産性が高いアクセント型に現れやすい」のことが見られる（ここでは、生産性が高いアクセント型が平板型を指している）。

表 8 「2 拍漢語+1 拍和語」語の分布状況

		X起伏式															
		X平板型				X頭高型				X尾高型							
		Y平板型		Y頭高型		Y平板型		Y頭高型		Y平板型				Y頭高型			
Z平 板 型	連濁	1		1		1	4			1			8				
	不連濁		5	1	3	1	16	7	20	36	1	3	1	5	8	11	52
	連濁不関与	4		1		14		9		2		3				33	
Z頭 高 型	連濁					1		3								4	
	不連濁					2	4	2	7	11						4	
	連濁不関与					1		2								3	
Z中 高 型	連濁										2		1			3	
	不連濁								4	4		3		4	7	11	
	連濁不関与							4			1		3			8	
Z尾 高 型	連濁																
	不連濁						1		5	6		1		3	4	10	
	連濁不関与					1		5			1		3			10	
		5		3		21		36		7		12				84	
		8				57				19							
		76															

まとめ 「2 拍漢語+1 拍和語」の場合の、複合語アクセントについて、以下のような 3 つの傾向がみられる。

- ・前部要素が平板型の場合に、複合語は平板型となる（例外なし）
- ・前部要素が起伏式の場合のみ、複合語の起伏式が見られるが、平板型の割合はもっとも大きい。後部要素が起伏式の 76 語の中、平板型 44 語（6 割弱）ある
- ・連濁は尾高型を回避し、生産性が高いアクセント型に現れやすい（例外なし）
「2 拍漢語+1 拍和語」の場合、生産性が高いアクセント型は平板型を指している

前・後部要素語彙別分析

前部要素としての「両リョ\ー」が、全体の複合語のアクセントを平板型にする傾向が見られる。前部要素が「両リョ\ー」の語は 3 語あり、語例が足りなくてまた検討する必要がある。但し、「2 拍漢語+1 拍和語」の前部要素別の場合において、1 項目に 3 語ある項目は、最も語例が多い項目である。

後部要素としての「間マ」について、前部要素のアクセントに関係せず、複合語のアクセントがすべて平板型である。

（付録 前・後部要素語彙別リスト に参照）

1. 3 後部要素が 2 拍かつ前部要素が 1 拍の語（1 拍和・漢語+2 拍和語）

『新明解日本語アクセント辞典』（2015）pp(15)-(16)の規則によれば、「1 拍和語+2

拍和語」のアクセント規則は以下のように示す。

(イ) 前部平板型—多く平板型。

コウシ (子牛) ケアシ (毛脚) ケイト (毛糸)
トダナ (戸棚) コイヌ (子犬) ナマエ (名前)
チャバコ (茶箱) ネイロ (音色) ヒカゲ (日陰)

注②但し、後部頭高型はまれに中高型。

ヒガ\サ (日傘) コネ\コ (子猫)

(ロ) 前部頭高型—多く起伏式。頭高型が多いが、後部が尾高型のものには尾高型が、後部が頭高型のものには中高型がみられる。

テ\クビ (手首) メ\ガネ (眼鏡) ヒ\バナ (火花)
メ\ボシ (目星) ノ\ハラ (野原) ヨ\ツユ (夜露)
テシタ\ (手下) ネモト\ (根元) メダマ\ (目玉)
ナタ\ネ (菜種) ヒダ\ネ (火種) ユオ\ケ (湯桶)

注③但し、「小コ」のつくものは、平板型と頭高型の両様。

コウタ (小唄) コウマ (小馬) コユビ (小指)
コ\カブ (小蕪) コ\カベ (小壁) コ\ダチ (小太刀)
コミチ, コ\ミチ (小道)

注④「手テ」のつくものは多く頭高型。

テ\キズ (手傷) テ\ジナ (手品) テ\ハズ (手筈)

前部要素が和語の場合がほとんどであるが、前部要素が漢語の場合も存在する。したがって、前部要素が和語の場合と、前部要素が漢語の場合を分けて分析したい。

1. 3. 1 1 拍和語+2 拍和語

『新明解日本語アクセント辞典』(2015) p(15)が記載されている規則を整理すると以下のようになる。

(イ) 前部平板型は多く平板型となる。ただし、後部頭高型はまれに中高型。

(ロ) 前部頭高型は多く起伏式となる。頭高型が多いが、後部が尾高型のものには尾高型が、後部が頭高型のものには中高型がみられる。ただし、「手テ」のつくものは多く頭高型。

アクセントデータベースを利用し、研究対象となる「1 拍和語+2 拍和語」の複合名詞を抜き出して分析した結果は以下のようになる。

(イ) について、規則が書いている通り、前部要素が平板型の場合は、複合語アクセントは多く平板型である (例外 13 語、2 割弱)。

(ロ) について、前部要素が頭高型 (起伏式) の場合、規則にそっているのは、複合語の多くが起伏式であること。そして、起伏式に頭高型が多いことも、規則が書いている通りである。さらに、複合語の中高型の場合、後部要素が頭高型のみであることも、規則に従っている。しかし、複合語の平板型もかなり多い (この場合の複合語に、アクセ

ント型から、平板型がもっとも多く、約4割強を占める)。

また、連濁については、仮設②の「連濁は尾高型を回避し、生産性が高いアクセント型が現れやすい」(ここでは、平板型と頭高型を指している)ということも見られる。

表9 「1拍和語+2拍和語」語の分布状況

		X平板型			X頭高型								
		Y平板型	Y頭高型	Y尾高型	Y平板型	Y頭高型	Y尾高型						
Z平板型	連濁	5	12	3	10	7	25	66	28	24	50	102	62
	不連濁	3	1	5	2		2						13
	ライマン法則	4	4		9	5	1						23
	連濁不関与	9	10	10	7	12	22						70
Z頭高型	連濁	2	1	2	21	12	17	8	46	25	27	98	55
	不連濁			1	3	2	6						12
	ライマン法則	1			12	7							20
	連濁不関与			1	10	4	4						19
Z中高型	連濁		1			1		3	3	3	3	6	2
	不連濁					1							1
	ライマン法則		1			1							2
	連濁不関与		1										1
Z尾高型	連濁						2	3	7	4	11	22	2
	不連濁	1		1	2		4						8
	ライマン法則					1							1
	連濁不関与	1			5	3	5						14
		26	31	23	80	57	88					305	
		80			225								

305語の内、平板型が168語、起伏式の頭高型が106語、中高型が6語、尾高型が25語ある。平板型は約6割弱を占め、頭高型が約3割強、尾高型が1割弱、中高型が極めて少数を占める。

(イ) について

前部要素が平板型の80語は、複合語のアクセントがほとんど平板型である。80語の内、複合語のアクセントの平板型が66語(8割強)、頭高型が8語(約1割)であり、中高型と尾高型がそれぞれ3語、極めて少数を占める。前部要素が平板型で、複合語のアクセントが起伏式の例外の語は「戸ト+口㊦チ→戸ロト\グチ(第2トグチ)」であり、第2アクセントが平板型のため、例外から除外した。

80語の中に後部要素が頭高型の語は31語であり、複合語のアクセントは、ほとんど平板型(27語、約9割)である。頭高型は1語、中高型が3語ある。そして、前部要素のアクセントに関わらず、後部要素が頭高型のみの場合に、複合語の中高型が見られる(前・後部要素が頭高型の場合にそれぞれ3語)。

(ロ) について

前部要素が頭高型の225語は、複合語アクセントに平板型102語(約4割5分)、起伏式123語(約5割強)ある。起伏式語は半分以上を占めているが、平板型語も少なくないのだろう。

また、複合語の尾高型の出現は、後部要素の頭高型に特定していない。前部要素が頭高型かつ複合語が尾高型の22語について、後部要素のアクセントに、平板型7語、頭高型4語、尾高型11語ある。

「手テ」のつくものは多く頭高型だと規則の注④に書かれている。実際、平板型がやや多く、その次に頭高型が多く、最後に尾高型も少数ある。

連濁について 連濁語 121 語の内、複合語アクセントが尾高型の場合は 2 語しかない。複合語アクセントが尾高型の語の全体に 1 割弱 (25 語に 2 語) を占めている。また、複合語のアクセント核が境界目に置かれる (つまり頭高型) 106 語の内、連濁語はその半分以上を占めている (106 語に 55 語)。それに対し、他のアクセント型の複合語には、連濁語の割合が小さい (平板型 169 語に 62 語、中高型 6 語に 2 語、尾高型 25 語に 2 語)。仮説①の「連濁は、複合語の前・後部要素の境界を示し、連濁してアクセント核も境界を示せる所に置かれやすい」のことが反映されている (ここでは、境界の 1 拍前にアクセント核を置くことを指している)。さらに、前部要素が起伏式かつ後部要素が尾高型、複合語アクセントが頭高型の語に注目する。27 語の内、多くが連濁語である (連濁語 17 語 6 割強、不連濁語 6 語、連濁不関与語 4 語)。

まとめ 「1 拍和語+2 拍和語」について、複合語のアクセント規則性について、主に以下のような 4 つの傾向が見られる。

- ・前部平板型は多く平板型である (例外 13 語、2 割弱)

「戸ト+口㊦チ→戸口ト\グチ (第 2 トグチ)」(例外から除外)

- ・前部起伏式は多く平板型及び頭高型である (平板型 225 語に 102 語「約 4 割 5 分」、頭高型 225 語に 98 語「約 4 割強」)

- ・複合語の中高型の場合、後部要素が頭高型のみである (例外なし)

- ・連濁は、複合語の前・後部要素の境界を示し、連濁するとアクセント核も各要素の境界を示せる所に置かれやすい (例外 4 語)。この「1 拍和語+2 拍和語」の場合は、境界の 1 拍前にアクセント核が置かれる

- ・連濁は尾高型を回避し、生産性が高いアクセント型が現れやすい (例外 2 語、1 割弱) (この「1 拍和語+2 拍和語」の場合、生産性が高いアクセント型は、平板型と頭高型を指している)

例外： 「火ヒ\+玉タマ\→火玉ヒダマ\」

「目メ\+玉タマ\→目玉メダマ\」

前・後部要素語彙別分析

前部要素が「名ナ」「値ネ」「毛ケ\」の場合、後部要素のアクセントに関係せず、複合名詞のアクセントは例外なく平板型である。

また、「手テ\」のつくものは多く頭高型だと『新明解日本語アクセント辞典』(2015) p(15)の規則の注④に書かれているが、前部要素が「手テ\」の 45 語に、それぞれ平板型 7 語、頭高型 15 語、尾高型 5 語、平板型と頭高型が共存する 11 語、平板型と中高型が共存する 1 語、平板型と尾高型が共存する 3 語、頭高型と中高型が共存する 1 語、頭高型と尾高型が共存する 1 語、平板型と頭高型と尾高型が共存する 1 語ある。頭高型がもっとも多いが、平板型も少なくない。

後部要素について、後部要素が「末スエ」「棚タナ」「板イ\タ」「陰カ\ゲ」「錢ゼ\ニ」「鯛タ\イ」「針ハ\リ」「前マ\エ」「芋イモ\」「色イロ\」「綱ツナ\」の場合、前部要素のアクセントに関係なく、複合名詞のアクセントが例外なく平板型となる。そ

して、後部要素が「丈タケ\」の場合、前部要素のアクセントに関わらず、複合名詞のアクセントが例外なく頭高型である。

(付録 前・後部要素語彙別リスト に参照)

1. 3. 2 1 拍漢語+2 拍和語

『新明解日本語アクセント辞典』(2015) が、このタイプの語について、アクセント規則の記載がない。全体から見ると、前部要素が平板型の場合、複合語は平板型になる傾向が見られる。そして、前部要素が起伏式の場合、複合語の平板型が全体の大半を占める(6割強)。また、連濁に関して、仮設②が有効であり、例外がない。

表 10 「1 拍漢語+2 拍和語」語の分布状況

		X平板型			X頭高型						
		Y平板型	Y頭高型	Y尾高型	Y平板型	Y頭高型	Y尾高型				
Z平板型	連濁	7	3	4	2	3	3		22	44	
	不連濁		7		1	2		7	3		
	ライマン法則		2		2	1		18	5		
	連濁不関与		2	8			4		14		
Z頭高型	連濁				2				2	10	
	不連濁										
	ライマン法則	2	2		4	6	1	1	8		7
	連濁不関与							1	1		
Z中高型	連濁						2		2	2	
	不連濁										
	ライマン法則						2		2		
	連濁不関与										
Z尾高型	連濁									1	
	不連濁										
	ライマン法則		1								
	連濁不関与	1							1		
		10	7	12							
		29			28				57		

「1 拍漢語+2 拍和語」の場合、複合語アクセントの平板型がほとんどである。次に頭高型が多く、中高型や尾高型は極めて少数である。57 語の内、平板型は 44 語(8割弱)、頭高型が 10 語(2割弱)、中高型が 2 語、尾高型が 1 語である。

語例は比較的少ないが、「1 拍和語+2 拍和語」の場合と同じように、前部要素の平板型が複合語の平板型を決める傾向が見られる。前部要素の平板型 29 語の内、複合語の平板型が 26 語(9割弱)。例外としての 3 語は「魔マ(第 2 マ\)+風カゼ→魔風マ\カゼ(第 2 マカゼ)」「茶チャ+壺ツボ→茶壺チャ\ツボ(第 2 チャツボ)」「座ザ(第 2 ザ\)+元モト(第 2 モ\ト)→座元ザモト\ (第 2 ザモト)」であり、第 2 アクセントが平板型のため、例外から除外する。一方、前部要素が起伏式の場合について、複合語の起伏式の割合が増えても、複合語の平板型が全体の大半を超える。前部要素の起伏式 28 語の内、複合語の平板型が 18 語(6割強)。

後部要素の頭高型の保存について、語例は少ないが、複合語の中高型の 2 語は、すべて後部要素の頭高型の語である。

連濁について 連濁語と連濁不関与語の数がほとんどの場合を占めて、不連濁語は極めて少数を占める。複合語の起伏式の語例は少なく、規則性を立てにくい、複合語の尾高型に連濁語がないことは、「1拍和語+2拍和語」の場合と同じである。

まとめ 「1拍漢語+2拍和語」について、複合語のアクセント規則性について、主に以下のような3つの傾向が見られる。

- ・前部要素の平板型が複合語の平板型を決める傾向が見られる（例外なし）

複合語第2アクセントが平板型3語（例外から除外した）：

「魔マ（第2マ\）+風カゼ→魔風マ\カゼ（第2マカゼ）」

「茶チャ+壺ツボ→茶壺チャ\ツボ（第2チャツボ）」

「座ザ（第2ザ\）+元モト（第2モ\ト）→座元ザモト\（第2ザモト）」

- ・前部要素の起伏式の場合、複合語の平板型が全体の大半を超える（平板型18語、6割強）

- ・連濁は尾高型を回避し、生産性が高いアクセント型に現れやすい（例外なし）

この「1拍漢語+2拍和語」の場合、生産性が高いアクセント型は、平板型を指している

前・後部要素語彙別分析

前部要素が「気キ」「緋ヒ」「櫓ロ」「朱シュ\」の場合、後部要素のアクセントに関係せず、複合名詞のアクセントが平板型となる。

また、後部要素が「棚タナ」「鞆サ\ヤ」「腹ハラ\」「物モノ\第2モノ」の場合、前部要素のアクセントに関係せず、複合名詞のアクセントが平板型である。

そして、後部要素が「札フダ」の場合、前部要素のアクセントに関係せず、複合名詞のアクセントが頭高型である。

（付録 前・後部要素語彙別リスト に参照）

1. 4 後部要素が2拍かつ前部要素が2拍の語（2拍和・漢語+2拍和語）

『新明解日本語アクセント辞典』（2015）pp(15)-(16)のアクセント規則によれば、「2拍語+2拍和語」のアクセント規則は、以下のようになる。

（イ）前部平板型—多く平板型。

○○ + ○○ →平板型
（傷口・桐箱・竹籠・鶏・鼻水）

○○ + ○○\ →平板型
（飴玉・里親・城山・庭石・水音）

○○ + ○\○ →平板型だが○○○\○型も。
ハナイキ（鼻息） ミズウ\ミ（湖）
ヒトナカ（人中） タケバ\シ（竹箸）

（ロ）前部尾高型—多く中高型だが平板型も。

○○\ + ○○ →○○\○○型だが平板型も。

エリ\クビ (襟首)	ハナ\ヨメ (花嫁)
ヤマ\ドリ (山鳥)	ヤマ\ミチ (山道)
イモガユ (芋粥)	アミダナ (網棚)

〇〇\ + 〇〇\ コナ\ユキ (粉雪)	→〇〇\〇〇型だが平板型も。 ヤマイヌ (山犬)
イロ\ガミ (色紙)	カワシモ (川下)
モノ\ゴト (物事)	カワオト (川音)

〇〇\ + 〇\ ハナム\コ (花婿)	→〇〇〇\〇型及び平板型。 オヤブネ (親船)
マメツ\ブ (豆粒)	カワカミ (川上)
タマネ\ギ (玉葱)	アサイト (麻糸)

(ハ) 前部頭高型

〇\ アサ\ガオ (朝顔)	→〇〇\〇〇型。 イト\グチ (糸口)
ハル\カゼ (春風)	マツ\ムシ (松虫)

〇\ ハト\ムネ (鳩胸)	→〇〇\〇〇型及び平板型。 ソトマゴ (外孫)
ソラ\マメ (空豆)	ソラミミ (空耳)

〇\ アマガ\サ (雨傘)	→〇〇〇\〇型及び平板型。 キヌイト (絹糸)
マツカ\ゲ (松陰)	テンマド (天窓)

注⑤前部が起伏式の漢語及び第2拍が特殊な拍のものには頭高型がみられる。

ギ\ンガミ (銀紙)	ト\ーナス (唐茄子)
マ\イアサ (毎朝)	カ\ンヌシ (神主)
シ\ンミ (親身)	オ\ーテ (玉手・大手)
ホ\ーバ (朴歯)	

注⑥複合の度合の強いものは、平板型になる傾向がある。

ハルサメ (春雨)	コダマ (木霊)
ケモノ (獣)	オナゴ (女子)
ポンズ (ポン酢)	

注⑦「穴」「犬・戌」「色」「型」「組」「時」「年」「鍋」「箱」「山」などがつくものは、平板型になる傾向がある。

タテアナ (竪穴)	ユキヤマ (雪山)
-----------	-----------

「2拍語+2拍和語」の規則が以上のように示している。前部要素の語種について、前部要素が「和語」の場合が圧倒的に多い。各規則の内の例を見ると、前部要素の漢語が

わずかである。さらに、注⑥のところ、前部要素が「外来語」の例ポンズ（ポン酢）も混ざっているため、アクセントデータベースを利用して分析する際に、前部要素が外来語の場合についても、考察を行う。

1. 4. 1 2拍和語+2拍和語

「2拍和語+2拍和語」の場合、前部要素のアクセント型によって複合語のアクセントを決める傾向があるが、後部要素アクセントとの組み合わせによって決まることも見られる。『新明解日本語アクセント辞典』（2015）pp(15)-(16)の規則を整理すると以下のようになる。

(イ) 前部平板型は多く平板型である。

a. ○○ +○○ →○○○○型。

(平板型 +平板型 →平板型)

b. ○○ +○○\ →○○○○型。

(平板型 +尾高型 →平板型)

c. ○○ +○\○ →○○○○型だが○○○\○型も。

(平板型 +頭高型 →平板型だが後部頭高型も)

(ロ) 前部尾高型は多く中高型だが平板型もある。

a. ○○\ +○○ →○○\○○型だが○○○○型も。

(尾高型 +平板型 →前部末型だが平板型も)

b. ○○\ +○○\ →○○\○○型だが○○○○型も。

(尾高型 +尾高型 →前部末型だが平板型も)

c. ○○\ +○\○ →○○○\○型及び○○○○型。

(尾高型 +頭高型 →後部頭高型及び平板型)

(ハ) 前部頭高型

a. ○\○ +○○ →○○\○○型。

(頭高型 +平板型 →前部末型)

b. ○\○ +○○\ →○○\○○型及び○○○○型。

(頭高型 +尾高型 →前部末型及び平板型)

c. ○\○ +○\○ →○○○\○型及び○○○○型。

(頭高型 +頭高型 →後部頭高型及び平板型)

『新明解日本語アクセント辞典』（2015）の規則が書いていることと比べると、アクセントデータベースの分析結果のほうが、全体的に複合語のアクセントの平板型の出現率が増えている。前部要素と後部要素の組み合わせが多く、適用される規則も違っているため、各組み合わせの場合をわけて、アクセントの規則性について論じる。本節の後ろに、両辞典の相違点を整理してまとめる。また、連濁について、「連濁語には、アクセント核が語境界の1拍前後に置かれやすい」という現象が、新たに発見された（複合語アクセントの中の、後部要素の頭高型保存（後部頭高型、アクセント核が境界の1拍後に置かれる）という型には、不連濁語に比べて、連濁語（連濁不可能な連濁不関与語を除き、不連濁語がほとんどない）が圧倒的に多い。さらに、アクセント核が境界の2拍前と2拍後に置かれる場合、つまり複合語の頭高型と尾高型には、連濁語がほとんどない。そして、仮設②の「連濁は尾高型を回避し、生産性が高いアクセント型に現れやすい」（ここでは、生産性が高いアクセント型は、平板型と中高型を指している）も有効である（例外1語）。（詳しくは、本節後の「連濁について」を参照）

「2 拍和語+2 拍和語」1510 語の内、平板型が 1110 語、頭高型が 24 語、中高型が 372 語(前部末型 308 語、後部頭高型 64 語)、尾高型が 4 語ある。平板型はもっとも生産的で、7 割強を占め、次に中高型が多く(約 2 割 5 分)、稀に頭高型があり、尾高型が極めて少数である。

表 11 「2 拍和語+2 拍和語」語の分布状況

		X起伏式													
		X平板型			X頭高型			X尾高型							
		Y平板型	Y頭高型	Y尾高型	Y平板型	Y頭高型	Y尾高型	Y平板型	Y頭高型	Y尾高型					
Z平 板型	連濁	44	18	85	43	25	67	54	34	57			427	1110	
	不連濁	11	6	31	12	8	23	15	6	23			135		
	ライマン法則	23	22	1	15	11	3	10	18	1			104		
	連濁不関与	33	35	83	18	38	80	26	42	89			444		
Z頭 高型	連濁				1								1	24	
	不連濁			2	4	5	4						15		
	ライマン法則				2	10	6						3		
	連濁不関与				3	1	1						5		
Z中 高型	連濁	3	3	4	33	8	14	26	6	17			114	268	
	不連濁			4	4	3	6	4	3	11			35		
	ライマン法則	3	5	9	21	1	22	17	1	19	40	114	43		
	連濁不関与	7	2	1	25	11	23	25	10	12			116		
Z後 部頭 高型	連濁		3		1	9	1		11				25	64	
	不連濁	1	4							1	3	32	6		
	ライマン法則					6	18			7	27		13		
	連濁不関与		3			3	1	2	9	2			20		
Z尾 高型	連濁												1	4	
	不連濁												1		
	ライマン法則					1					3	3	1		
	連濁不関与					1							2		
		125	96	211	161	129	224	162	146	216			1510		
		432			514			524							

(イ) a.について

前部平板型は多く平板型である。

(イ) a.○○ +○○ →○○○○型。

(平板型 +平板型 →平板型)

前・後部要素ともに平板型の語は 125 語あり、複合語アクセントがほとんど平板型(125 語に 111 語、9 割弱)となる。次に中高型(125 語に 14 語、約 1 割)は少数ある。頭高型と尾高型の出現が見られない。中高型の内、前部末型は 13 語で、後部頭高型が 1 語である。その 1 語は「真っ先マッサ\キ」の第 2 拍目が促音でアクセント核を置きにくいこともあって、程度を表す「真」は接頭辞扱いされ、異なるアクセント規則が適用されることとなるため、除外することとなる。元々、2 拍目の促音は、促音化現象が発生するわけではないため、形態素の切り目を促音の前にするべきである。その結果、「マッ#サキ」が「マ#ッサキ」となり、「(接頭辞)真+3 拍語」の形となる。『新明解日本語アクセント辞典』(2015) pp(102)の規則によると、程度を表わす接頭辞である「真」のつく 4 拍以上名詞は、名詞の法則に準じ多く○○○\…○型になる。この 1 語を除き、前・後部要素ともに平板型の「2 和語+2 和語」の複合語のアクセントには、平板型と前部末型しか存在しない。

(イ) b.について

前部平板型は多く平板型である。

(イ) b.○○ +○○\ →○○○○型。

(平板型 +尾高型 →平板型)

前部要素平板型かつ後部要素尾高型の語は 211 語ある。複合語アクセントがほとんど平板型(211 語に 200 語、約 9 割 5 分)である。極少ない中高型(211 語に 9 語)と頭高型(211 語に 2 語)がある。

中高型の9語は、すべて前部末型である。

頭高型の2語はやや特殊で、それぞれ異なる意味の「上様」の違うアクセントである。1つ(ウ\エサマ)は、「歴史的に天皇・将軍など、高貴な人の敬称。おかみ。」のことを表し、もう1つ(ウ\エサマ、第2アクセント ウエ\サマ)が、「領収書などで、相手の名前の代わりに書く語。じょうさま。」のことを表している。「2拍和語+2拍和語」の全体から見て、複合語アクセントが頭高型の場合は、前部要素が頭高型の一部の語と、この2語である。

(イ) c.について

前部平板型は多く平板型である。

(イ) c.○○ +○\○ →○○○○型だが○○○\○型も。
(平板型 +頭高型 →平板型だが後部頭高型も)

前部要素平板型かつ後部要素頭高型の語は96語ある。ほとんどの場合、複合語アクセントが平板型(96語に81語、約8割5分)となり、残りの場合は中高型(96語に15語、約1割5分)となる。中高型の内、前部末型が5語あり、後部頭高型が10語ある。

後部頭高型の10語の中、「接頭辞 真+3拍語」の形の3語(「真っ白」、「真っ黒」、「真っ平」)を除き(程度を表す「真」は接頭辞扱いされたため、除外した)、残りが7語になる。

(ロ) a.について

前部尾高型は多く中高型だが平板型もある。

(ロ) a.○○\ +○○ →○○\○○型だが○○○○型も。
(尾高型 +平板型 →前部末型だが平板型も)

前部要素尾高型かつ後部要素平板型の語は179語あり、複合語アクセントが多く平板型(179語に105語、約6割弱)となり、残りが中高型(179語に74語、約4割)となる。中高型には、ほとんどが前部末型(74語に72語)で、後部頭高型は2語しかない。

(ロ) b.について

前部尾高型は多く中高型だが平板型もある。

(ロ) b.○○\ +○○\ →○○\○○型だが○○○○型も。
(尾高型 +尾高型 →前部末型だが平板型も)

前・後部要素ともに尾高型の語は216語ある。複合語アクセントのほとんどが平板型(216語に170語、8割弱)である。中高型(216語に43語、約2割)が一部あり、尾高型(216に3語)が極めて少数である。中高型43語の内、前部末型が40語あり、後部頭高型が3語ある。

『新明解日本語アクセント辞典』(2015)の記載と違って、複合語アクセントには平板型が多く見られて、次に前部末型が多い。そして、後部頭高型と尾高型が極少数ある。

(ロ) c.について

前部尾高型は多く中高型だが平板型もある。

(ロ) c.○○\ +○\○ →○○○\○型及び○○○○型。

(尾高型 + 頭高型 → 後部頭高型及び平板型)

前部要素尾高型かつ後部要素頭高型の語は 147 語あり、複合語アクセントは、平板型か中高型となる。平板型 (147 語に 100 語、7 割弱) が比較的によく、中高型 (147 語に 47 語、3 割強) は少ない。中高型の内、前部末型 (47 語に 20 語) と後部頭高型 (47 語に 27 語) の割合は、それほど差がない。

(ハ) a. について

前部頭高型

(ハ) a. ○\○ + ○○ → ○○\○○型。
(頭高型 + 平板型 → 前部末型)

前部要素頭高型かつ後部要素平板型の語は 182 語ある。複合語アクセントのほとんどが平板型 (182 語に 88 語、5 割弱) 及び中高型 (183 語に 84 語、約 4 割 5 分) である。残りは極一部の頭高型 (182 語に 10 語) である。中高型の内、前部末型は 83 語 (84 語に 83 語) あり、後部頭高型が 1 語しかない。

(ハ) b. について

前部頭高型

(ハ) b. ○\○ + ○○\ → ○○\○○型及び○○○○型。
(頭高型 + 尾高型 → 前部末型及び平板型)

前部要素頭高型かつ後部要素尾高型の語は 224 語ある。複合語アクセントには、平板型 (224 語に 173 語、約 7 割 5 分) が比較的によく、次に中高型 (224 語に 45 語、約 2 割) が多い。残りは極少数 (224 語に 6 語) の頭高型である。中高型の内、前部末型はほとんどで、43 語 (45 語に 43 語) あり、後部頭高型が 2 語しかない。

(ハ) c. について

前部頭高型

(ハ) c. ○\○ + ○\○ → ○○○\○型及び○○○○型。
(頭高型 + 頭高型 → 後部頭高型及び平板型)

前・後部要素ともに頭高型の語は 130 語ある。複合語アクセントには、平板型 (130 語に 82 語、約 6 割強) が比較的によく、次に中高型 (130 語に 41 語、3 割強) が多い。残りは極少数 (130 語に 6 語) の頭高型と 1 語の尾高型である。中高型の内、前部末型 (41 語に 23 語) と後部頭高型 (41 語に 18 語) と比べて、前者がやや多い。

『新明解日本語アクセント辞典』(2015) 規則を基づき、アクセントデータベースを利用し、「2 拍和語+2 拍和語」の癒合名詞のアクセント規則性について分析した結果、両者の相違点を以下のようにまとめる。

(「→」の後ろに付くものは、『新明解日本語アクセント辞典』(2015) 元の規則を示す。

「→」の下に行は、アクセントデータベースでの分析結果から整理した規則を示す。

また、「○○○○型」のように、削除の線が付く場合は、両辞典の違いとを示す。)

(イ) 前部平板型は多く平板型である。

「補足：多く平板型だが中高型もある。」

a. ○○ + ○○

→~~○○○○型。~~

○○○○型が多いが、○○\○○型も。

(平板型 + 平板型

→~~平板型)~~

平板型が多いが、前部末型も)

b. ○○ + ○○\

→~~○○○○型。~~

○○○○型が多いが、○○\○○型や○\○○○○型も。

(平板型 + 尾高型

→~~平板型)~~

平板型が多いが、前部末型や頭高型も)

c. ○○ + ○\○

→~~○○○○型だが○○○\○型も。~~

○○○○型が多いが、○○\○○型や○○○\○型も。

(平板型 + 頭高型

→~~平板型だが後部頭高型も)~~

平板型が多いが、前部末型や後部頭高型も)

(ロ) 前部尾高型は多く中高型だが平板型もある。

平板型が多いが、中高型もある。

a. ○○\ + ○○

→~~○○\○○型だが○○○○も。~~

○○○○型及び○○\○○型が多いが、○○○\○型も。

(尾高型 + 平板型

→~~前部末型だが平板型も)~~

平板型及び前部末型が多いが、後部頭高型も)

b. ○○\ + ○○\

→○○\○○型だが○○○○型も。

○○○○型及び○○\○○型が多いが、○○○\○型や○○○○\型も。

(尾高型 + 尾高型

→~~前部末型だが平板型も)~~

平板型および前部末型が多いが、後部頭高型や尾高型も)

c. ○○\ + ○\○

→~~○○○\○型及び○○○○型。~~

○○○○型、○○○\○型及び○○\○○型。

(尾高型 + 頭高型

→~~後部頭高型及び平板型)~~

平板型、後部頭高型及び前部末型)

(ハ) 前部頭高型

平板型が多いが、中高型もあり、頭高型少数ある。

a. ○\○ + ○○

→~~○○\○○型。~~

○○○○型及び○○\○○型が多いが、○○○\○型も。

(頭高型 + 平板型

→~~前部末型)~~

平板型及び前部末型が多いが、後部頭高型も)

b. ○\○ + ○○\

→~~○○\○○型及び○○○○型。~~

○○○○型及び○○\○○型が多いが、○\○○○○型も。

(頭高型 + 尾高型

→~~前部末型及び平板型)~~

平板型及び前部末型が多いが、頭高型や後部頭高型も)

c. ○\○ + ○\○

→~~○○○\○型及び○○○○型。~~

○○○○型、○○\○○型及び○○○\○型が多いが、○\○○○○型や○○○○\型も。

(頭高型 + 頭高型

→~~後部頭高型及び平板型)~~

平板型、前部末型及び後部頭高型が多いが、
頭高型や尾高型も)

連濁について

複合語の後部頭高型(64語)に、連濁(25語)、連濁不関与語(20語)とライマンの法則によって連濁不可能な語(13語)がほとんどで、不連濁語(6語)は極少数である。それに、不連濁語の6語の内、形態素切れ目が「(接頭辞)真+3拍語」の4語を除き、実際の不連濁語の数が2語である。

そして、この前の分析で、複合語のアクセントに後部頭高型の出現は、後部要素が頭高型の場合に集中していることが分かった。つまり、後部要素の頭高型が、複合して保存されることもある。アクセント核は語境界を示す機能を持ち、「2拍和語+2拍和語」の場合、複合語アクセントの中高型に前部末型(境界の1拍前にアクセント核が置かれる)が圧倒的に多いこともそれと合致する1事例である。後部要素の頭高型が保存される場合、アクセント核が境界の1拍後ろに置かれ、「3拍語+1拍語」の場合と区別が付きにくい。したがって、連濁することによって、語境界を明らかにするのが、後部頭高型に不連濁語がほとんどない原因だと考えられる。

また、複合語アクセントの尾高型が少ないが、連濁語も1語しかない。複合語アクセントの頭高型にも、連濁が1語しかない(不連濁語15語に対し、連濁語が少ない)。尾高型は、アクセント核が境界の2拍後に置かれ、頭高型は、アクセント核が境界の2拍前に置かれ、いずれも境界から遠ざかる場所にアクセント核が来る。これも、仮説①の「連濁は、複合語の前・後部要素の境界を示し、連濁するとアクセント核も各要素の境界を示せる所に置かれやすい」を証明できる1事例である(ここでは、境界を示せる所は、境界の1拍前後のことを指している)。

まとめ 「2拍和語+2拍和語」の複合語について、全体的に複合語の平板型がもっとも多く、次に中高型が多い。中高型の内、ほとんどが前部末型だが、後部頭高型もある。頭高型が少数であり、尾高型は極め少数である(頭高型に並列関係を持ち語が多い)。

そして、「2拍和語+2拍和語」の複合語アクセントに影響する要因まとめると、主に以下のような5つのことが得られる。

- ・前部要素の平板型が複合語アクセントを決定する傾向がみられ、平板型になる(接頭「真」の4語除き、例外428語に36語、1割未満)
- ・複合語アクセントに中高型の後部頭高型は、後部要素の頭高型がほとんどである(接頭「真」の4語除き、例外60語に8語、1割強)
- ・複合語アクセントの頭高型の出現は、前部要素が頭高型の場合に集中している(例外24語に2語、1割弱)
例外:「上ウエ(第2ウエ\)+様サマ\→上様ウ\エサマ」(歴史)
「上ウエ(第2ウエ\)+様サマ\→上様ウ\エサマ(第2ウエ\サマ)」
(領収書の宛名に書く)
- ・連濁は、複合語の前・後部要素の境界を示し、連濁するとアクセント核も各要素の境

界を示せる所に置かれやすい（この「2 拍和語+2 拍和語」の場合、境界を示せる所は、境界の1拍前後のことを指している）

・連濁は尾高型を回避し、生産性が高いアクセント型に現れやすい（この「2 拍和語+2 拍和語」の場合、生産性が高いアクセント型とは、平板型と中高型を指している）（例外1語）

例外：「肝キモ\+玉ダマ\→肝玉キモダマ\（第2キモダマ）」

前・後部要素語彙別分析

前部要素が

「内ウチ」「枝エダ」「江戸エド」「金カネ」「壁カベ」「釜カマ」「仮カリ」「傷キズ」「国クニ」「酒サケ」「里サト」「品シナ第2シナ\」「砂スナ」「底ソコ」「滝タキ」「壺ツボ」「艶ツヤ」「床トコ」「溝ドブ」「共トモ」「虎トラ」「何ナニ第2ナ\ニ」「西ニシ」「偽ニセ」「庭ニワ」「軒ノキ」「箱ハコ」「蓮ハス」「膝ヒザ」「藤フジ」「豚ブタ」「丸マル」「道ミチ」「宮ミヤ」「餅モチ」「床ユカ」「宵ヨイ」「横ヨコ」「間ア\イ」「藍ア\イ」「今イ\マ」「帯オ\ビ」「猿サ\ル」「瀬戸セ\ト」「禿ハ\ゲ」「針ハ\リ」「四つヨ\ツ」「麻アサ\」「穴アナ\」「型カタ\」「髪カミ\」「苔コケ\」「寿司スシ\第2ス\シ」「球タマ\」「橋ハシ\」「節㊦シ\」「骨ホネ\」「升マス\」

の場合、後部要素のアクセントに関係せず、複合名詞のアクセントが平板型となる。

「内ウチ」の複合語の語例に「内外ウ㊦ソ\ト」というやや特殊な語例がある。それは並列関係を持つ複合語で、前部要素の「内ウチ」にアクセント核がないため、後部要素の「外ソ\ト」のアクセント核をそのまま残し、後部頭高型となる。この特殊な例を除き、「内ウチ」が前部要素としての13語は、複合語アクセントがすべて平板型である。

前部要素が「陰カ\ゲ」「文フ\ミ第2フミ\」「慰斗ノシ\」「室ムロ\」の場合、後部要素のアクセントに関わらず、複合名詞のアクセントが前部末型である。

後部要素が

「蟹カニ」「側ガワ」「城シロ」「鷹タカ」「棚タナ」「床トコ」「庭ニワ」「布ヌノ」「真似マネ」「忠実マメ」「藪ヤブ」「鷺ワシ」「板イ\タ」「数カ\ズ」「亀カ\メ」「雲ク\モ」「蕎麦ソ\バ」「種タ\ネ」「殿ド\ノ」「鍋ナ\ベ」「肌ハ\ダ」「蛇へ\ビ」「股モ\モ」「穴アナ\」「池イケ\」「芋イモ\」「襟エリ\」「親オヤ\」「形カタ\」「革カワ\」「皮カワ\」「川カワ\」「際キワ\」「熊クマ\第2ク\マ」「蔵クラ\」「肥コエ\」「小屋コヤ\第2コヤ」「潮シオ\」「縞シマ\」「霜シモ\」「伝㊦テ\」「綱ツナ\」「面ツラ\」「玉タマ\」「土㊦チ\」「風ナギ\」「波ナミ\」「形ナリ\」「糠ヌカ\第2ヌカ」「腹ハラ\」「鱈ヒレ\」「節㊦シ\」「風呂フロ\」「骨ホネ\」「堀ホリ\」「股マタ\」「山ヤマ\」「闇ヤミ\」「夢ユメ\」「杵ワク\」

の場合、前部要素のアクセントに関係せず、複合名詞のアクセントが平板型となる傾向がみられる。下線のものは、例外が少し存在する項目である。

（後部要素が「亀カ\メ」の複合語には、並列関係を持つ語で、頭高型となる1語があるが、例外として扱わない。

後部要素が「雲ク\モ」の8語に1語は、複合語アクセントが平板型と後部頭高型と共存しているものである。

後部要素が「形カタ\」の17語に1語は、複合語アクセントが平板型と前部末型と共存しているものである。

後部要素が「川カワ\」の複合語には、並列関係を持つ語で、前部末型となる1語があるが、例外として扱わない。

後部要素が「玉タマ\」の10語に1語は、複合語アクセントが尾高型と平板型と共存しているものである。

後部要素が「波ナミ\」の8語に1語は、複合語アクセントが平板型と前部末型と共存しているものである。

後部要素が「骨ホネ\」の6語に1語は、複合語アクセントが平板型と頭高型と共存しているものである。

後部要素が「山ヤマ\」の複合語23語には、並列関係を持つ語で、頭高型となる1語があるが、例外として扱わない。)

後部要素が「国クニ」「助 ②ケ第 2②ケ\」「鳥トリ」「虫ムシ」「百合ユリ」「嫁ヨメ」「鱒ア\ジ」「貝ガ\イ」「唄ウタ\」「丈タケ\」の場合、前部要素のアクセントに関わらず、複合名詞のアクセントが中高型の前部末型となる傾向が見られる。下線のは、例外が少し存在する項目である。

(後部要素が「鳥トリ」の7語に1語は、複合語アクセントが前部末型と平板型と共存しているものである。

後部要素が「虫ムシ」の11語に例外が1語あり、例外は複合語の平板型である。

後部要素が「貝ガ\イ」の5語に1語は、複合語アクセントが前部末型と平板型と共存しているものである。

後部要素が「丈タケ\」の5語は、複合語アクセントの第1アクセントがすべて前部末型となるが、5語に2語が、前部末型と他のアクセントと共存しているものである。)

後部要素が「粒ツ\ブ」頭高型4語に1語は、複合語アクセントが後部頭高型と平板型と共存しているものであるが、4語の第1アクセントが、すべて後部頭高型である。

(付録 前・後部要素語彙別リスト に参照)

1. 4. 2 2拍漢語+2拍和語

『新明解日本語アクセント辞典』(2015) pp(15)-(16)は、「2拍漢語+2拍和語」のアクセント規則について、詳しい規則の記載がない。ただし、注⑤のところに、「前部が起伏式の漢語及び第2拍が特殊な拍のものには頭高型がみられる」だと言及している。

ギ\ンガミ (銀紙) ト\ーナス (唐茄子)
マ\イアサ (毎朝) カ\ンヌシ (神主)

アクセントデータベースでの分析結果、注⑤について、確かにその傾向がみられるが、例外がたくさん出る。複合語の頭高型の出現は、前部要素が頭高型であることが、その決定的な原因である。注⑤のような傾向がみられる原因は、2拍漢語に、第2拍が特殊拍のものが多いと考えられる。

全体的に、「2拍漢語+2拍和語」の平板型の生起率が高い。前部要素の平板型が複合

語のアクセントの平板型を決める傾向が見られる。また、連濁について、「複合語アクセントの後部要素の頭高型保存（後部頭高型）には、連濁語が比較的に多い（不連濁語がほとんどない）」という現象が発見された。

表 12 「2 拍漢語+2 拍和語」語の分布状況

		X起伏式												
		X平板型			X頭高型			X尾高型						
		Y平板型	Y頭高型	Y尾高型	Y平板型	Y頭高型	Y尾高型	Y平板型	Y頭高型	Y尾高型				
Z 平 板 型	連濁	4	7	8	15	10	25	2		2	73	194		
	不連濁	2	11	3	6	1	7				19			
	ライマン法則	2		15	7	38	4	29	1	63	130		20	
	連濁不関与	3	5	12	10	14	30	1	2	5	7		15	82
Z 頭 高 型	連濁			1	6	1	7				15	30		
	不連濁		1				1				1			
	ライマン法則			2	2	13	1	4		10	27		3	
	連濁不関与	1		1	5	2	2						11	
Z 中 高 型	連濁				5	1	2	1		3	12	33		
	不連濁										2			
	ライマン法則					6	1		3	10	1		6	11
	連濁不関与				1		1			1	2		6	
Z 後 部 頭 高 型	連濁	1				4				1	6	12		
	不連濁		1			1	6				2			
	ライマン法則			3						6			1	
	連濁不関与		2			1				1	2		4	
Z 尾 高 型	連濁						3	4	6		3	6		
	不連濁					1	1							
	ライマン法則												3	
	連濁不関与				1	1	1						3	
		13	18	25	58	41	80	9	6	13	263			
		56			179			28						

「2 拍漢語+2 拍和語」の 263 語の内、複合語アクセントが平板型の場合は 194 語（約 7 割 5 分）、頭高型が 30 語（1 割強）、中高型が 34 語（1 割強）、尾高型が 6 語である。そして、中高型の前部末型は 21 語（33 語に 21 語）あり、後部頭高型が 12 語（34 語に 12 語）ある。

複合語アクセントが頭高型の 30 語の内、前部要素が頭高型の場合は 27 語あり、平板型の場合が 3 語ある。しかし、前部要素が平板型の 3 語に、第 2 アクセントは頭高型である。このことから、複合語アクセントが頭高型の 30 語は、すべて前部要素が頭高型のものとも言えるのだろう。30 語の内、第 2 拍が特殊な拍のものは 28 語（9 割強）であり、ほとんどの場合を占める。逆に、前部要素が頭高型の 179 語に、第 2 拍が特殊な拍のものは 139 語（8 割弱）あり、8 割弱を占める。漢語に第 2 拍が特殊な拍のものは多いとしても、この 2 つの場合に、割合の差が出る。

また、前部要素の平板型が、複合語のアクセントを平板型に決める傾向が見られる。前部要素が平板型の 56 語に、複合語アクセントの平板型は 49 語（56 語に 49 語、9 割弱）ある。

連濁について 複合語の後部頭高型（12 語）に、不連濁語は 1 語しかない。「2 拍和語+2 拍和語」の場合と同じように、複合語アクセントの後部要素の頭高型保存（後部頭高型）には、連濁語が比較的に多い（不連濁語がほとんどない）。しかし、「2 拍和語+2 拍和語」の場合と違ってのは、複合語の頭高型には、連濁語の数はかなり多い。仮説①の「連濁は、複合語の前・後部要素の境界を示し、連濁するとアクセント核も各要素の境界を示せる所に置かれやすい」ということは、「2 拍漢語+2 拍和語」の場合において、境界の 1 拍前後にアクセント核が置かれやすいが、境界の 1 拍前に特殊拍があると、さらに前にずれることもある。

まとめ 「2拍漢語+2拍和語」について、複合語はほとんど平板型であり、次に中高型と頭高型が少数であり、尾高型が極めて少数である。頭高型の中、ほとんどが前部要素頭高型かつ第2拍が特殊なものである。そして、前部要素の平板型が全体のアクセントを平板型に決める傾向が見られる。「2拍漢語+2拍和語」の複合語アクセントに影響する要因は、主に以下の4つのように示している。

- ・前部要素の平板型が複合語の平板型を決める傾向が見られる（例外 56語 7語、1割強）

- ・複合語の頭高型に、すべては前部要素が頭高型語（例外なし）

例外から除外した例（前部要素第2アクセントが頭高型であるため）：

「寒カン（第2カ\ン）＋餅モチ→寒餅カ\ンモチ（第2カンモチ）」

「寒カン（第2カ\ン）＋菊ギク\→寒菊カ\ンギク」

「盆ボン（第2ボ\ン）＋唄ウタ\→盆唄ボ\ンウタ」

（前部要素が頭高型の179語に、第2拍が特殊な拍のものは139語（8割弱）ある。

その中の30語は、複合語のアクセントが頭高型であるもの）

- ・連濁は、複合語の前・後部要素の境界を示し、連濁するとアクセント核も各要素の境界を示せる所に置かれやすい（この「2拍漢語+2拍和語」の場合、境界を示せる所は、境界の1拍前後のことを指しているが、境界の1拍前に特殊拍があると、さらに前にずれることとなる）

- ・連濁は尾高型を回避し、生産性が高いアクセント型に現れやすい（例外なし）

（この「2拍漢語+2拍和語」の場合、生産性が高いアクセント型とは、平板型、頭高型、中高型のことを指している）

前・後部要素語彙別分析

前部要素が「格カク」「額ガク」「客キヤク」「晩バン」「別ベツ」「棒ボー」「無駄ムダ」「暗ア\ン」「角カ\ク第2カク」「牛ギユ\ー」「上ジョ\ー」「台ダ\イ」「中チュ\ー」「実ジツ\」の場合、後部要素のアクセントに関係せず、複合名詞のアクセントが平板型となる。

前部要素が「菓子カ\シ」の場合、後部要素のアクセントに関係せず、複合名詞のアクセントが中高型の前部末型となる。

後部要素が「金カネ」「側ガワ」「腰コシ」「幅ハバ」「杭ク\イ」「鱈タ\ラ」「鍋ナ\ベ」「石イシ\」「襟エリ\」「型カタ\」「玉タマ\」「縁チ\」「飯メシ\」の場合、前部要素のアクセントに関係せず、複合名詞のアクセントが平板型となる。

後部要素が「桶オ\ケ」の場合、複合語のアクセントが例外なく中高型の前部末型となる。

後部要素が「星ホシ」「虫ムシ」「貝カ\イ」「唄ウタ\」の場合、複合語のアクセントがすべて起伏式であるが、前部要素の第2拍が特殊拍の場合は、頭高型となり、他の場合は、中高型の前部末型となる。

（付録 前・後部要素語彙別リスト に参照）

1. 4. 3 2拍外来語+2拍和語

2拍外来語のアクセントが予測可能で、基本的に頭高型となる。そして、「2拍和語+2

拍和語」の場合と異なり、複合語のアクセントは、後部要素の和語によって決まる傾向がみられる。

表 13 「2 拍外来語+2 拍和語」語の分布状況

		X起伏式															
		X平板型			X頭高型			X尾高型									
		Y平板型	Y頭高型	Y尾高型	Y平板型	Y頭高型	Y尾高型	Y平板型	Y頭高型	Y尾高型							
Z平板型	連濁				4	2	3								9	10	
	不連濁																
	ライマン法則				4		3		3	10							
	連濁不関与					1									1		
Z頭高型	連濁																
	不連濁																
	ライマン法則																
	連濁不関与																
Z中高型	Z前部末型	連濁						1		1					2	7	
		不連濁				1								1	1		
		ライマン法則				1	2			3	5	1			1		6
		連濁不関与				1			2						2		
	Z後部頭高型	連濁															
		不連濁				1									1		
		ライマン法則				1	1			1							1
		連濁不関与															
Z尾高型	連濁																
	不連濁																
	ライマン法則																
	連濁不関与																
					7	3	6				1	1	17				
					16						1						

「2 拍外来語+2 拍和語」の 17 語の内、複合語アクセントが平板型の場合は 10 語（約 6 割未満）あり、頭高型がなく、中高型が 7 語（約 4 割）あり、尾高型もない。そして、中高型の前部末型は 6 語（7 語に 6 語）あり、後部頭高型が 1 語（7 語に 1 語）ある。

「2 拍和語+2 拍和語」の場合と同じように、生産性が高いアクセント型とは、平板型と中高型の前部末型である。2 拍外来語のアクセントがほとんど頭高型であるが、複合語アクセントに頭高型がない。この「2 拍外来語+2 拍和語」の複合語アクセントは、前部要素に影響される可能性が低い。

連濁について

17 語の内、連濁語が 11 語、不連濁語 2 語、連濁不関与語 4 語ある。

不連濁語 2 語の後部要素は、「先サキ」、「紐ヒモ」である。複合語のアクセントは、中高型のゴム\ヒモ（第 2 平板型）、ペンサ\キ（第 2 尾高型）である。この 2 語の後部要素は、複合して一切連濁を生じなく、すなわち連濁に免疫のある和語形態素と呼ばれる（Kuroda 2002 p340 ; Irwin 2009 pp192-193）。連濁免疫語の 2 語を除き、不連濁語がないことから、「2 拍外来語+2 拍和語」の複合語に、原則として連濁することが分かった。

連濁不関与語とライマンの法則が適用された語は 4 語で、複合語アクセントに中高型の前部末型が 3 語と、平板型 1 語である。

不連濁語と連濁不関与語に、生起率の高い中高型に対し、連濁語はほとんど平板型になる。連濁語 11 語に、複合語アクセントが平板型 10 語、中高型 1 語である。

また、後部要素が頭高型の場合、頭高型が保存され、複合語アクセントは後部頭高型となる例も観察された。ペ\ン+胼胝ダ\コ→ペン胼胝ペンダコ（第 2 後部頭高型）、パ\ン+種タ\ネ→パンダネ（第 2 後部頭高型）の 2 例は、どちらも連濁語であり、後部要素の頭高型が保存される語でもある。「2 拍和語+2 拍和語」の場合に観察された現象と同じである。

まとめ 「2 拍外来語+2 拍和語」の複合語に、後部要素が全体のアクセントを決める傾向が見られる。そして、このタイプの語は、後部要素に連濁免疫がない限り、すべて連

濁を行う傾向がみられる。不連濁語と連濁不関与語の場合、複合語アクセントが中高型となることに対し、連濁して複合語のアクセントが平板型になりやすい。また、連濁語に後部要素の頭高型が保存される現象も観察された。

前・後部要素語彙別分析

前部要素が「ガ\ス」の場合、複合語のアクセントがすべて平板型であるが、「2 拍外来語+2 拍和語」の語数が少ないため、また検討する余地がある。

後部要素の項目について、「糸イ\ト」「釜カマ」「窯カマ」「高タカ\ (第 2 タ\カ)」「箱ハコ」「風呂フロ\」のような項目は、「2 拍和語+2 拍和語」の場合と同じく、複合語のアクセントを平板型にする力がある傾向がみられる。

(付録 前・後部要素語彙別リスト に参照)

2. 結合名詞

これまでの分析は、拍数が短い癒合名詞についての議論を行った。その結果、複合語のアクセントは主に前部要素によって決まり、後部要素が関与することもあるという傾向が見られる。

これからは、拍数が多い結合名詞について分析を行う。従来の研究によると、このタイプの複合語のアクセントは、前部要素との関係が薄く、原則として後部要素によってアクセントが定まると言われている。

結合名詞の後部要素によって、後部要素の拍数をもっとも短い 1・2 拍語（前部要素 3 拍以上）と、中間的な 3・4 拍語と、長い 5 拍以上語と分けることができる。そして、後部要素が長いほど、後部要素のアクセントがそのまま保存されやすいとよく言われる。

2. 1 後部要素が 1・2 拍かつ前部要素が 3 拍以上の語

2. 1. 1 3 拍以上語+1 拍和語

『新明解日本語アクセント辞典』(2015) pp(22)-(23)に、後部要素が 1 拍（前部要素が 3 拍以上）和語の規則を引用すると、以下のようになる。

I 後部が 1 拍語のもの（前部 3 拍以上）

(1) 一般グループ—普通の場合には前部の最後の拍まで高い。

ミドリ\ゴ (嬰兒)	アワセ\ズ (合わせ酢)
ナワシロ\ダ (苗代田)	クグリ\ド (潜り戸)
イトキリ\バ (糸切り歯)	アブラ\ナ (油菜)
シンサツ\ビ (診察日)	ノコリ\ビ (残り火)

(2) 特殊グループ—後部の語により決定される。

平板化グループ—注①「手」「場」「目」「湯」などのつくものは平板型になりやすい。

オトコデ (男手)	シゴトバ (仕事場)
キザミメ (刻み目)	オンナユ (女湯)

アクセントデータベースを用いて、新明解が記載されている規則を検証した結果、この「3 拍以上語+1 拍和語」の複合語アクセントは、規則が書いている通り、平板型と前部末型に集中している。そして、頭高型の語がなく、尾高型の語は極めて少数ある。全体として、後部要素のアクセントが、複合語のアクセントを決定する傾向がみられない

が、個別の後部要素の語彙が、それを決定する力を持つ傾向がみられる。

「3拍以上語+1拍和語」の319語の内、複合語アクセントが平板型の場合は209語（約6割5分）、頭高型がなく、中高型（前部末型）が101語（3割弱）、尾高型が9語である。

複合語アクセントが平板型の209語の内、後部要素が平板型の場合は54（約2割5分）語あり、頭高型の場合が155語（約7割5分）ある。複合語アクセントが中高型（前部末型）の101語の内、後部要素が平板型の場合は53語あり、頭高型の場合が48語あり、それほど差が出ない。

新明解の規則の平板化グループについて、後部要素としての「手」「場」「目」「湯」が、複合語を平板化にする力があると書かれており、確かにその通りである。しかし、「湯」については、複合語を中高型にする傾向がみられる。そして、「目」について、複合語のアクセントは、平板型以外のアクセントも数少なく存在し、平板型と他のアクセントと共存する場合もかなり多い。詳しくは、後の後部要素別分析で詳しく検討する。

表14 「3拍以上語+1拍和語」語の分布状況

		Y平板型		Y頭高型			
Z平板型	連濁	5	54	12	155	17	209
	不連濁	11		23		34	
	連濁不関与	38		120		158	
Z頭高型	連濁						
	不連濁						
	連濁不関与						
Z中高型	Z前部末型	連濁	39	26	48	65	101
		不連濁	3	4		7	
		連濁不関与	11	18		29	
Z尾高型	連濁				9		9
	不連濁						
	連濁不関与		9			9	
		107		212		319	

連濁について 仮説①の「連濁は、複合語の前・後部要素の境界を示し、連濁するとアクセント核も各要素の境界を示せる所に置かれやすい」（ここでは、境界の1拍前のことを指している）が有効である。連濁語82語の内、65語（約8割）は前部末型の語であり、アクセント核が境界の1拍前に置かれている。

そして、仮説②の「連濁は尾高型を回避し、生産性が高いアクセント型に現れやすい」も有効である。この「3拍以上語+1拍和語」の場合、生産性が高いアクセント型は、平板型と中高型（前部末型）であり、連濁語のすべてがこの2つのアクセント型に集中している。それに、尾高型の9語に、連濁語がまったくない。

まとめ 「3拍以上語+1拍和語」について、複合語はほとんど平板型と中高型（前部末型）であり、平板型がもっとも多く、次に中高型が多い。全体として、後部要素のアクセントが、複合語のアクセントを決定する傾向がみられないが、個別の後部要素の語彙

が、それを決定する力を持つ傾向がみられる。「3 拍以上語+1 拍和語」の複合語アクセントに影響する要因は、主に以下の4つのように示している。

- ・複合語アクセントがほとんど平板型と中高型（前部末型）である（平板型約 6 割 5 分、中高型 3 割弱）

- ・個別の後部要素の語彙が、複合語アクセントを決定する力を持つ傾向がみられる。

- ・連濁は、複合語の前・後部要素の境界を示し、連濁するとアクセント核も各要素の境界を示せる所に置かれやすい（ここでは、境界の 1 拍前のことを指している）

- ・連濁は尾高型を回避し、生産性が高いアクセント型に現れやすい（例外なし）

（この「3 拍以上語+1 拍和語」の場合、生産性が高いアクセント型とは、平板型、中高型（前部末型）のことを指している）

後部要素語彙別分析

後部要素が「場バ」「粉コ\」「手テ\」「屋ヤ\」の場合、複合語を平板化する傾向がみられる。

（「場バ」の 34 語は、すべて第 1 アクセントが平板型である。第 2 アクセントが前部末型の語は、2 語しかない。）

「粉コ\」の 9 語は、平板型の 7 語があり、平板型と他のアクセントと共存する場合は 2 語ある。

「手テ\」の 21 語は、すべて第 1 アクセントが平板型である。第 2 アクセントが前部末型の語は 2 語あり、尾高型の語は 2 語ある。

「屋ヤ\」の 92 語は、平板型が 85 語であり、前部末型が 4 語あり、平板型と前部末型と共存する場合は 3 語ある。）

後部要素が「戸ト」「名ナ」「日ヒ（第 2 ヒ\）」「値ネ」「歯ハ\」「火ヒ\」「木キ\」「湯ユ\」「酢ス\」の場合、複合語を中高型（前部末型）にする傾向がみられる。

（「湯ユ\」について、新明解の規則によれば、この項目を「複合語を平板化にする力がある」後部要素に分類したが、「湯ユ\」の 9 語の内、複合語が平板型の語は 1 語しかなく、前部末型が 4 語あり、平板型と前部末型と共存している語が 4 語ある。9 語に 8 語が前部末型のアクセントを持つため、この項目を、「複合語を前部末型にする力がある」グループに入れた。）

また、「目メ\」について、34 語の内、平板型 10 語あり、前部末型 3 語あり、尾高型 6 語あり、平板型と前部末型と共存する語 5 語あり、平板型と尾高型と共存する語 7 語あり、平板型と前部末型と尾高型が共存する語 1 語ある。したがって、「目メ\」を「平板化グループ」から外した。

（付録 前・後部要素語彙別リスト に参照）

2. 1. 2 3 拍以上語+2 拍和語

『新明解日本語アクセント辞典』（2015）pp(22)-(23)に、後部要素が 2 拍（前部要素が 3 拍以上）和語の規則を引用すると、以下のようになる。

I 後部が2拍語のもの（前部3拍以上）

(1) 一般グループ—普通の場合には前部の最後の拍まで高い。

後部2拍語

アキタ\イヌ（秋田犬）	コモリ\ウタ（子守歌）
スミダ\ガワ（隅田川）	ニギリ\ズシ（握り鮓）
ハリマ\ナダ（播磨灘）	オーテ\マチ（大手町）
クツワ\ムシ（響虫）	ヒトサシ\ユビ（人差指）

(2) 特殊グループ—後部の語により決定される。

(イ) 平板化グループ—「芋」「色」「形カタ・型」「髪」「側」「切れ」「際ギワ」「種グサ」「組」「腰」「先」「縞」「玉」「面ヅラ」「寺」「沼」「腹」「節フシ」「縁ベリ」「骨」「村」「山」「小屋」「部屋」など（多く〇〇\型の語）がつく場合。

ミドリイロ（緑色）	ニホンガミ（日本髪）
ハコネヤマ（箱根山）	トナリムラ（隣村）

(ロ) …〇\〇化グループ—後部が頭高型の「汗」「雨」「糸」「笠・傘」「粕カス」「黍キビ」「雲」「声」「頃」「空」「汁」「杖」「鶴」「凧タコ」「船」「前」「窓」「麦」「婿」などがつく場合。

アブラア\セ（脂汗）	ニワカア\メ（俄雨）
ガラスマ\ド（ガラス窓）	ムスメム\コ（娘婿）
ニュードグ\モ（入道雲）	

(ハ) その他、「物」「者」などがついて尾高型になるものがあるが、これらは人により〇〇〇〇\〇型や平板型になる傾向がみられる。

ツクリモノ\,	ツクリモノ\ノ,	ツクリモノ（作り物）
ヒトリモノ\,	ヒトリモノ\ノ	（独り者）

注②「口」などがつくものは人により、(1)にも(2) (イ) にも、「顔」のつくものは平板型が多いが、語によって(1)になるものもある。

ジョーシャグチ,	ジョーシャ\グチ（乗車口）
ナキガオ,	ナキガ\オ（泣き顔）
ウリザネガオ,	ウリザネ\ガオ（瓜実顔）

注③「腰」「坂」「島」「沼」などのつくものは平板型が多いが、語によって(1)になるものもある。

・平板型（連濁する）

ヤナギゴシ（柳腰）	ノボリザカ（登り坂）
サクラジマ（桜島）	インバヌマ（印旛沼）
カワナカジマ（川中島）	

・〇…〇\〇〇型

ギックリ\ゴシ（ぎっくり腰）	
イツク\シマ（巖島）	ゴシキ\ヌマ（五色沼）
ショード\シマ（小豆島）	

注④「池」「川」「島」「橋」「浜」「姫」「村」「山」などのつく固有名詞のものも、以上の法則に従うが若干の例外がある。I (1)にあげた「川」「橋」「町」には以下のような平板型がみられる。

・○○…○○型－江戸川、衣川、滝野川…、京橋、水道橋、太鼓橋、日本橋、柳橋、両国橋…、麴町、信濃町…

I (2)にあげた「山」には前部の最後の拍まで高い型がみられる。

・○○…\○○型－河内山、郡山、畠山、常陸山、かちかち山…

なお、前部が漢字一字または2拍のものも便宜上ここに送ったが、多く平板型。

タメイケ (溜池)	トネガワ (利根川)
ツキシマ (月島)	ヨコハマ (横浜)
センヒメ (千姫)	シロヤマ (城山)

注⑤特殊グループの(ロ)から一般化グループに転向しつつあるものもある。

サトーキ\ビ	→	サト\ーキビ (砂糖黍)
ニュード\グモ	→	ニュード\ーグモ (入道雲)

アクセントデータベースを用いて、新明解が記載されている規則を検証した結果、この「3拍以上語+1拍和語」の複合語アクセントは、規則が書いている通り、前部末型がもっとも多い。特殊化グループ(イ)の平板型の数は次に多い。特殊化グループ(ロ)の後部頭高型は、ほとんど後部要素が頭高型の語であり、規則にそっている。特殊化グループ(ハ)について、尾高型の語は極めて少数あるが、すべて後部要素が尾高型の語である。全体として、後部要素のアクセントが、ある程度複合語のアクセントを決定する傾向がみられる。また、個別の後部要素の語彙が、複合語のアクセントを決定する力を持つ傾向もみられる。

1231語の内、平板型が423語(3割弱)、頭高型が1語、中高型が789語(6割弱)、尾高型は18語ある。中高型の前部末型が590語(4割強)あり、後部頭高型は199語(1割強)ある。

平板型の複合語に、後部要素が尾高型の語が圧倒的に多い(423語に324語、7割強)。

中高型の前部末型の複合語の数は、「3拍以上語+2拍和語」のもっとも高い割合を占めている(1231語に590語)。後部要素のアクセントと関係せず、複合語の前部末型の出現率が高い。

中高型の後部頭高型の複合語に、後部要素が頭高型の語がほとんどの場合を占めている(9割弱)。

尾高型の複合語は、後部要素が尾高型の語のみである。

後部要素が平板型の語は、複合語のアクセントが平板型か、中高型の前部末型に集中している。362語の内、平板型77語(2割弱)、中高型の前部末型283語(7割強)、頭高型と尾高型がまったくない。

後部要素が頭高型の語は、291語であり、その内の185語が、複合語のアクセントが後部末型である。つまり、約6割弱の語は、後部要素の頭高型のアクセント核位置が保存された。291語の内、平板型がわずか22語であり(1割未満)、尾高型がまったくない。以上のことから、「後部要素が頭高型の場合、複合語のアクセントは中高型になりやすく、元のアクセント核位置も、保存されやすい」ということが分かる。

後部要素が尾高型の語は、複合語のアクセントの平板型と中高型の前部末型が多い。

578 語の内、平板型 324 語（5 割強）、中高型の前部末型 223 語（3 割強）、頭高型 1 語、尾高型 18 語ある。しかし、尾高型の複合語は、すべて後部要素が尾高型の語である。

表 15 「3 拍以上語+2 拍和語」語の分布状況

		X平板型							
		Y平板型	Y頭高型	Y尾高型					
Z平板型	連濁	35	12	138	185	324	423		
	不連濁	21		29	50				
	ライマン法則	5	3		8				
	連濁不関与	16	7	157	180				
Z頭高型	連濁					1	1		
	不連濁			1	1				
	ライマン法則								
	連濁不関与								
Z中高型	Z前部末型	連濁	134	27	110	271	223	590	
		不連濁	6	2	8	16			
		ライマン法則	62	22	2	86			
		連濁不関与	81	33	103	217			
	Z後部頭高型	連濁	2	82	7	91	12	199	
		不連濁		2	5	7			
		ライマン法則		20		20			
		連濁不関与		81		81			
	Z尾高型	連濁					18	18	
		不連濁			17	17			
		ライマン法則							
		連濁不関与			1	1			
		362	291	578	1231				

連濁について 複合語の平板型に、連濁語 185 語があり、不連濁語 50 がある。それに対し、中高型に、連濁語 362 語があり、不連濁語 23 語しかない（前部末型に、連濁語 271 語、不連濁語 16 語。後部頭高型に、連濁語 91、不連濁語 7 語）。これも、仮設①の「連濁は、複合語の前・後部要素の境界を示し、連濁するとアクセント核も各要素の境界を示せる所に置かれやすい」（ここでは、境界の 1 拍前後のことを指している）を証明できる 1 事例になる。さらに、複合語の頭高型や尾高型に、連濁語がまったくない。境界から 2 拍離れたところにアクセント核を置く頭高型や尾高型は、連濁語にとってアクセント核が置かれにくい。

また、仮設②の「連濁は尾高型を回避し、生産性が高いアクセント型に現れやすい」も有効である。上にある複合語アクセントの分布の分析から、「3 拍以上語+2 拍和語」の場合、生産性が高いアクセント型は、中高型と平板型だと分かっている。中高型と平板型の複合語に連濁語が多いことに対し、頭高型や尾高型の複合語に連濁語がまったくない。

まとめ 「3 拍以上語+2 拍和語」の場合のアクセントについて、前部末型がもっとも多く、次に平板型が多い。後部頭高型も一定の割合を占めている。後部要素のアクセントが、ある程度複合語のアクセントを決定する傾向がみられる。その規則性を整理すると、以下のように示す。

- ・後部要素が平板型の場合、複合語は前部末型か平板型となる（前部末型が優勢（前部末型 7 割強 対 平板型 2 割）（例外後部頭高型 2 語）

- ・後部要素が頭高型の場合、複合語は後部頭高型になりやすいが、前部末型と平板型も一部ある（アクセント核位置が保存されやすく、複合語の後部頭高型が圧倒的に多い）
- ・後部要素が尾高型の場合、複合語は平板型か前部末型になるが、後部頭高型や尾高型も少しある
- ・尾高型の複合語は、後部要素が尾高型の語のみである
- ・後部頭高型の複合語に、後部要素が頭高型の語がほとんどの場合を占めている（9 割弱）
- ・連濁は、複合語の前・後部要素の境界を示し、連濁するとアクセント核も各要素の境界を示せる所に置かれやすい（ここでは、境界の1拍前後のことを指している）
- ・連濁は尾高型を回避し、生産性が高いアクセント型に現れやすい（この「3拍以上語+2拍和語」の場合、生産性が高いアクセント型は、中高型と平板型を指している）

後部要素語彙別分析

複合語を平板型にする力がある傾向がみられる項目：「側ガワ」「端ハタ」「先サキ」「顔カオ」「元モト（第2モ\ト）」「皺シワ」「端ハ\ナ」「部屋ヘヤ\」「村ムラ\」「髪カミ\」「腹ハラ\」「縞シマ\」「技ワザ\」「際キワ\」「節シ\」「裏ウラ\」「面ツラ\」「癖セ\」「親オヤ\」「色イロ\」「時トキ\」「事コト\」「寺テラ\」「物モノ\（第2モノ）」「下シタ\（第2シタ）」「小屋コヤ\（第2コヤ）」「形カタ\」「型カタ\」「玉タマ\」

（「先サキ」の17語に、16語が平板型であり、1語が平板型と前部末型と共存する語である。

「顔カオ」の15語に、11語が平板型であり、3語が平板型と前部末型と共存する語であり、1語が平板型と後部頭高型と共存する語である。

「元モト（第2モ\ト）」の6語に、5語が平板型であり、1語が前部末型である。

「髪カミ\」の11語に、6語が平板型であり、3語が平板型と前部末型と共存する語であり、2語が前部末型である。

「親オヤ\」の4語に、4語ともに第1アクセントが平板型の語であるが、中に1語は平板型と前部末型と共存する語である。

「時トキ\」の6語に、6語ともに第1アクセントが平板型の語であるが、中に2語は平板型と前部末型と共存する語である。

「事コト\」の20語に、20語ともに第1アクセントが平板型の語であるが、中に10語は平板型と前部末型と共存する語である。

「物モノ\（第2モノ）」の94語に、第1アクセントが平板型の語が92語であり、4語が平板型と前部末型と共存する語であり、22語が平板型と尾高型と共存する語であり、1語が後部頭高型と尾高型と共存する語であり、1語が平板型と前部末型と尾高型と共存する語であり、2語は平板型と後部頭高型と尾高型と共存する語である。

「下シタ\（第2シタ）」の8語に、8語ともに第1アクセントが平板型の語であるが、

中に2語は平板型と前部末型と共存する語である。

「形カタ」の11語に、10語が平板型であり、1語は前部末型である。

「玉タマ」の11語に、9語が平板型であり、1語が前部末型であり、1語は後部頭高型と尾高型と共存する語である。

複合語を前部末型にする力がある傾向がみられる項目：前部末型「鼻ハナ」「餅モチ」「蟬セミ」「虫ムシ」「道ミチ」「風カゼ」「蜂ハチ」「幅ハバ」「壺ツボ」「灰ハイ」「鶏トリ」「鮫サメ」「金カネ」「酒サケ」「籠カゴ」「鹿カ (第2カ)」「梅雨ツユ」「鳥トリ」「紐ヒモ」「柿カキ」「首クビ」「水ミズ」「藤フジ」「烏賊イカ」「箱ハコ」「蟹カニ」「星ホシ」「袖ソデ」「飴アメ」「蟻アリ」「魚ウオ」「札フダ」「株カブ」「髭ヒゲ」「貝カイ」「鯛タ「イ」「肌ハダ」「筋スジ」「神カミ」「市イチ」「主ヌシ」「鉢ハチ (第2ハチ)」「草クサ」「塵ゴミ」「池イケ」「町マチ」「豆マメ」「綱ツナ」「高タカ (第2タカ)」「花ハナ」「菊ク (第2ク)」「馬ウマ」「綿ワタ」「幕マク」「鯨シ (第2シ)」「寿司シ (第2シ)」「橋ハシ」「石イシ」「刷毛ハケ」「網アミ」「靴ツツ」「岩イワ」「芋イモ」「月ツキ」「熨斗ノシ」「足アシ」「杵ワク」

「道ミチ」の14語に、前部末型11語あり、平板型1語あり、平板型と前部末型と共存する1語ある。

「風カゼ」の10語に、6語が前部末型であり、4語は平板型と前部末型と共存する語である。

「金カネ」の8語に、6語が前部末型であり、2語は平板型と前部末型と共存する語である。

「酒サケ」の11語に、8語が前部末型であり、3語は平板型と前部末型と共存する語である。

「水ミズ」の13語に、11語が前部末型であり、2語は平板型と前部末型と共存する語である。

「箱ハコ」の22語に、19語が前部末型であり、3語は平板型と前部末型と共存する語である。

「札フダ」の5語に、4語が前部末型であり、1語は前部末型である。

「株カブ」の19語に、18語が前部末型であり、1語は平板型である。

「筋スジ」の11語に、7語が前部末型であり、4語は前部末型と後部頭高型と共存する語である。

「神カミ」の5語に、4語が前部末型であり、1語は前部末型と後部頭高型と共存する語である。

「鉢ハチ (第2ハチ)」の6語に、6語ともに第1アクセントが前部末型の語であるが、中に1語は平板型と前部末型と共存する語である。

「高タカ (第2タカ)」の17語に、13語が前部末型であり、3語が平板型と前部末型と共存する語であり、1語が平板型である。

「花ハナ」の8語に、6語が前部末型であり、2語は平板型である。

「綿ワタ」の4語に、3語が前部末型であり、1語は平板型と前部末型と共存する語である。

「幕マク」の9語に、9語ともに第1アクセントが前部末型の語であるが、中に1語は平板型と前部末型と共存する語である。

「橋ハシ」の5語に、5語ともに第1アクセントが前部末型の語であるが、中に1語

は平板型と前部末型と共存する語である。

「網アミ」の 10 語に、10 語ともに第 1 アクセントが前部末型の語であるが、中に 6 語は平板型と前部末型と共存する語である。

「芋イモ」の 7 語に、5 語が前部末型であり、1 語が平板型であり、1 語は平板型と前部末型と共存する語である。

「月ツキ」の 6 語に、6 語ともに第 1 アクセントが前部末型の語であるが、中に 1 語が平板型と前部末型と共存する語であり、1 語は平板型と後部頭高型と共存する語である。

「足アシ」の 18 語に、14 語が前部末型であり、1 語が平板型であり、3 語は平板型と前部末型と共存する語である。）

複合語を後部頭高型にする力がある傾向がみられる項目：「板イタ」「雛ヒナ」「船フネ」「窓マド」「帯オビ」「鍋ナベ」「井戸イド」「栗鼠リス」「笠カサ」「猫ネコ」「蕎麦ソバ」「頃コロ」「傘カサ」「蛇ヘビ」「声コエ」「屋根ヤネ」「婿ムコ」「雲クモ」「杖ツエ」「針ハリ」「汁シル」「蜘蛛クモ」「舟フネ」

（「板イタ」の 13 語に、4 語が部頭高型であり、8 語が後部頭高型と前部末型と共存する語であり、1 語が平板型と後部頭高型と共存する語である。

「雛ヒナ」の 5 語に、3 語が部頭高型であり、2 語が後部頭高型と前部末型と共存する語である。

「船フネ」の 10 語に、8 語が部頭高型であり、2 語が後部頭高型と前部末型と共存する語である。

「窓マド」の 10 語に、7 語が部頭高型であり、3 語が後部頭高型と前部末型と共存する語である。

「鍋ナベ」の 8 語に、5 語が部頭高型であり、3 語が後部頭高型と前部末型と共存する語である。

「猫ネコ」の 3 語に、3 語ともに第 1 アクセントが頭高型の語であるが、中に 1 語は頭高型と前部末型と共存する語である。

「蕎麦ソバ」の 13 語に、12 語が部頭高型であり、1 語が後部頭高型と前部末型と共存する語である。

「頃コロ」の 5 語に、4 語が部頭高型であり、1 語が前部末型である。

「傘カサ」の 3 語に、3 語ともに第 1 アクセントが頭高型の語であるが、中に 1 語は頭高型と前部末型と共存する語である。

「蛇ヘビ」の 4 語に、4 語ともに第 1 アクセントが頭高型の語であるが、中に 2 語は頭高型と前部末型と共存する語である。

「声コエ」の 15 語に、14 語は部頭高型であり、1 語は平板型と後部頭高型と共存する語である。

「雲クモ」の 11 語に、10 語が部頭高型であり、1 語が後部頭高型と前部末型と共存する語である。）

（付録 前・後部要素語彙別リスト に参照）

2. 2 後部が 3・4 拍の語（前部の拍数には無関係）

このタイプの複合名詞はよく研究されているタイプの語であり、そのアクセント規則性が明らかにしている。全体として、中高型の後部頭高型語が圧倒的に多い。平板型の語が少しあり、尾高型と頭高型の語は極めて少数ある。（3556 語の中、連濁語 1090 語、

平板型連濁語は 89 語であり、頭高型連濁語が 2 語であり、後部頭高型語が 999 である)

アクセントの面からの複合語の 3 分類については、「1 単位の複合名詞」の複合語がもっとも多く、複合語のアクセントが後部頭高型となる。そして、「不完全複合名詞」の複合語が次に多い、後部要素のアクセント型がそのまま残されている。「2 語連続」の語を、連濁を生じないため、分析対象の範囲から除外したが、それなりの数がある。

連濁について、「1 単位の複合名詞」の複合語は、連濁が複合語のアクセントに関与しない傾向がみられる。しかし、「不完全複合名詞」の複合語の場合、**仮説③「後部要素が 3・4 拍かつ中高型語の場合において、連濁を生じると、後部要素のアクセント核位置が保存されず、アクセント核は後部要素の語頭拍に置くという傾向がみられる」**という現象が新たに発見された。すなわち、複合名詞が「不完全複合名詞」から「1 単位の複合名詞」に変わる。これは、連濁が起こると、複合名詞の意味のまとまりがより強くなるのがその原因である。それについては、次章で詳しく検討を行う。

本節では、『新明解日本語アクセント辞典』(2015)による規則を整理し、後部要素が 3・4 拍の複合名詞のアクセント規則を紹介する。

2. 2. 1 ~+3・4 拍の和語

『新明解日本語アクセント辞典』(2015) p(22)-(24)による規則は、以下のようになる。

(1) 一般グループ

(イ) 後部が平板型・尾高型・頭高型のもの—普通の場合、後部の最初の 1 拍までが高い。

・後部平板型

メグ\スリ (目薬)	ニグ\ルマ (荷車)
ハルガ\スミ (春霞)	ミズケ\ムリ (水煙)
ヤマザ\クラ (山桜)	ユキヤ\ナギ (雪柳)
オンナザ\カリ (女盛り)	
ロードーク\ミアイ (労働組合)	

・後部尾高型

ゴガ\タキ (碁敵)	コバ\ナシ (小話・小咄)
イシア\タマ (石頭)	ウラド\ーリ (裏通り)
ナツヤ\スミ (夏休み)	
シューギブ\クロ (祝儀袋)	

・後部頭高型

ハレス\ガタ (晴れ姿)	カンツ\バキ (寒椿)
キミ\ドリ (黄緑)	ハナダ\ヨリ (花便り)
ヤマトダ\マシー (大和魂)	

(ロ) 後部が中高型の語—普通の場合、もとの高さの切れめまで高い。但し、複合の度合の強いもの、拍数の多いものや、高さの切れめが前にずれる傾向がある。

ヒガサ	→ オンバヒガ\サ (乳母日傘)
モノガタリ	→ イセモノガ\タリ (伊勢物語)

サカイ → クニザ\カイ (国境)
 マゴ\コロ (真心) ヤキハマ\グリ (焼き蛤)
 エドムラ\サキ (江戸紫)
 シブウチ\ワ, シブウ\チワ (渋団扇)

(2)特殊グループー平板化グループ、尾高化グループなどがあるが、ほとんどは、一般グループのようにも発音され、中年層・若年層は特にその傾向が強い。

○○○○○\型 (または○○○○○型) → ○○○\○○型
 ミズグスリ\ → ミズグ\スリ (水薬)
 ヤキドーフ\ → ヤキド\ーフ (焼き豆腐)

注⑥「魚」「所」「心地」などがつくものは人により、(1)にも(2)にも発音される。

ヤキザカナ\ → ヤキザ\カナ, ヤキザカナ (焼き魚)
 ニザカナ\ → ニザ\カナ, ニザカナ (煮魚)

つまり、後部要素のアクセントに関係せず、複合語は(1)一般グループ(「1単位の複合名詞」、後部頭高型)となるのが普通であるが、後部要素が中高型の場合は、後部要素のアクセントが保存される時もある。そして、複合語は(2)特殊グループ(平板型、尾高型)となる場合が少しある。

2. 2. 2 ~+3・4拍の漢語

『新明解日本語アクセント辞典』(2015) p(26)による規則を引用すると、以下のようになる。

前部には関係なく、後部によりアクセントが決定される。すべて規則型のみ。

I 多くの場合、すなわち後部が平板型・尾高型・頭高型の語は、後部の最初の第1拍まで高い。

(1)平板型のもの

ニッキ → エニツ\キ (絵日記)
 ジダイ → エドジ\ダイ (江戸時代)
 カイシャ → ホケンガ\イシャ (保険会社)
 ガッコウ → コートーガ\ッコー (高等学校)
 コーエン → コクリツコ\ーエン (国立公園)

(2)尾高型のもの

サイク\ → タケザ\イク (竹細工)
 ジゴク\ → ジュケンジ\ゴク (受験地獄)
 ドーグ\ → ハナヨメド\ーグ (花嫁道具)
 ショーガツ\ → ハツカショ\ーガツ (二十日正月)

(3)頭高型のもの

カ\シ → ヒガ\シ (干菓子)
 シュ\ギ → リコシュ\ギ (利己主義)
 モ\ジ → カシラモ\ジ (頭文字)
 リョ\ーリ → ニホンリョ\ーリ (日本料理)

注 但し、前・後部とも2拍以下の語には例外が多いが、4拍語は多く平板型になる。

コモジ (小文字) ヨコモジ (横文字)
ザイス (座椅子) シンデシ (新弟子)
メ\イシャ (目医者) シロミソ (白味噌)

Ⅱ 後部が中高型の語の場合に限り、もとの高さの切れめまで高い。但し、この場合も拍数の多いものや、無声化で中高型になった語などは、高さの切れめが前にずれる。

ニホ\ン → ニシニホ\ン (西日本)
ショク\ブツ → ラシショク\ブツ (裸子植物)
ショー\ベン → ネショーベ\ン (寝小便)
チョーチ\ン → ボンジョ\ーチン (盆提灯)
タクサ\ン → コダ\クサン (子沢山)
チホ\ー → カントーチホ\ー, カントチ\ホー (関東地方)
ジング\ー → イセジング\ー, イセジ\ンダー (伊勢神宮)

例外 サト\ー → カクザ\トー (角砂糖)

ショタ\イ → シンジョ\タイ (新所帯)

後部要素が3・4拍の漢語の場合は、後部要素が3・4拍和語の場合と同じようなアクセント規則が適用されていることが分かる。後部要素のアクセントに関係せず、複合語はⅠ (「1単位の複合名詞」、後部頭高型) となるのが普通であるが、Ⅱ となる場合もある (後部要素が中高型の場合は、後部要素のアクセントが保存される時もある)。

3. まとめ

本章は、分析対象となる語彙を、前・後部要素の拍数によって、大きく①後部要素が和語の癒合名詞 (前・後部要素ともに2拍以下の語) ②後部要素が1・2拍かつ前部要素が3拍以上の結合名詞 ③後部要素が3・4拍の結合名詞 と分け、『NHK 日本語発音アクセント新辞典』(2016) に基づいたアクセントデータベースを用いて、『新明解日本語アクセント辞典』(2015) に記載される規則を検証した。

①と②について、全体として、『NHK 日本語発音アクセント新辞典』(2016) の記載による語の平板型が比較的が多い。そして、連濁現象と複合語のアクセントの関係について、発見された個別な現象から仮説①「連濁は、複合語の前・後部要素の境界を示し、連濁するとアクセント核も各要素の境界を示せる所に置かれやすい」(連濁を生じる語は、アクセント核が語境界の1拍前後に置かれる傾向がみられる) と仮説②「連濁は尾高型を回避し、生産性が高いアクセント型が現れやすい」(短い複合語の生産性が高いアクセント型とは、平板型の場合と、語境界の1拍前後にアクセント核を置く場合である) を立て、検証を行った。さらに、短い複合語の前・後部要素の語彙別リストを作成し、特定の語彙が複合語アクセントを決定する力があることを明らかにした。

③について、新たに、「後部要素が3・4拍かつ中高型語の場合において、連濁を生じると、後部要素のアクセント核位置が保存されず、アクセント核は後部要素の語頭拍に置くという傾向がみられる」という現象を発見し、次章で詳しく検討する。

第四章 後部要素が3・4拍の複合名詞の核位置保存について―連濁との関係を中心に―

0. はじめに

東京方言における複合名詞のアクセントは、アクセントの面から、「1 単位の複合名詞」（以下 A 型）、「不完全複合名詞」（以下 B 型）、「2 語連続」の 3 タイプに分類できる。A 型は前部要素と後部要素ともにアクセント核が消え、全体のアクセント核を後部要素の語頭拍に置く。それに対し、「2 語連続」は前部要素と後部要素の各語のアクセント核位置が保存される。中間的な B 型は、前部要素のアクセント核が消え、後部要素の核位置が保存される。

前章では、後部要素が 3・4 拍の複合語のアクセント規則について、上野（1999）や窪菌（1997）の先行研究、および『新明解日本語アクセント辞典』（2015）のアクセント規則の記載を紹介した。後部要素のアクセントに関係せず、複合語は「1 単位の複合名詞」となるのが普通であるが、後部要素が中高型の場合は、後部要素のアクセントが保存される時もある。後部要素が 3・4 拍の複合語のアクセント規則について、他にも複合語アクセントに影響する要因があり、まずは諸要因を紹介する。

上野（1999）は窪菌（1997）の観点を補足し、後部要素の核位置保存は後部要素の拍数や形態素数によって分類できると主張している。（1）後部要素 ≥ 5 拍或いは後部要素 ≥ 3 形態素であれば、B 型になる。例：「南カリフォルニア」，「市立図書館」 （2）ただし、後部要素が 3・4 拍かつ中高型であれば、B 型になる場合がある。例：「大和ナゲ\シヨ」。

このうち、(2) について、松森他（2012）によれば後部要素が 4 拍語の場合には、3 拍語よりも B 型はるかに多い。しかし、後部要素が 4 拍でも、外来語以外の中高型では後部要素の語末が特殊拍の場合は、A 型となることが多い。特に、後部要素が「4 拍」の「-2 型」で、かつ語末が特殊拍の場合には、後部要素の中高型が保存されないことが多い。例：「ホーゲ\ン（方言）→チバホ\ーゲン（千葉方言）」。（以下「語末特殊拍要因」）

また (2) について、『新明解日本語アクセント辞典』（2015）によると、後部要素が漢語二字の結合名詞であれば、「後部が中高型の語の場合に限り、もとの高さの切れめまで高い。但し、この場合も拍数の多いものや、無声化で中高型になった語は、高さの切れめが前にずれる」と記載している。例：「地方㊦\ホー」の語頭に無声化が起って「㊦ホ\ー」になり、複合して「奥羽地方 オウウ㊦\ホー」になる。（以下「語頭拍母音無声化要因」）

上野（1999）は複合名詞のアクセント保存について、一度「複合語化」（複合名詞ア規則の適用）によりアが与えられた単語は、上位の 2 次複合語に後部要素として組み込まれても、そのアクセント型が保存されると主張している。例：「針\師」，「庭\師→女針\師」，「見習い庭\師」。（以下「複合回数要因」）

先行諸研究以外に、本章では (2) について、「連濁」という要因を新たに指摘する。「後部要素が 3・4 拍かつ中高型語の場合において、連濁を生じると、後部要素のアクセント核位置が保存されず、アクセント核は後部要素の語頭拍に置くという傾向がみられる」例：「心ココ\ロ，ココロ\→歌心ウタゴ\コロ」，「砂糖サト\ー→角砂糖カクザ\トー」。（以下「連濁要因」）

1. 検証結果と分析

「連濁要因」を検証するため、『NHK 日本語発音アクセント新辞典』（2016）と『新明解日本語アクセント辞典』（2015）から後部要素が 3・4 拍かつ中高型の複合名詞（後部要素が漢語または和語の合計 786 語、ただし後部要素が 3 形態素以上の場合を除く）を抽出・分析し、「連濁要因」が正しいことを実証した。

抽出したすべての語を連濁・不連濁・連濁不関与の 3 種類に分ける：

このうち、不連濁語の「語頭拍母音無声化要因」によって、語頭拍母音の無声化が後部要素の核位置保存に影響を与えるため、「語頭拍母音が無声化する語」と「語頭拍母音が無声化しない語」に分類できる。不連濁語には「ライマンの法則」によって連濁しない語が約 3 分 1 を占めているが、連濁不関与ではなく、不連濁に入れた。

アクセント辞典の記載では、後部要素が中高型のみの場合と、中高型と平板型、頭高型、尾高型と共存する場合がある。元の後部要素のアクセントが複合名詞のアクセントに影響を与える可能性があるため、この 2 つのタイプに分けて統計した。

複合名詞のアクセントは以下の 3 つに分類できる。したがって、連濁と後部要素の核位置と複合名詞のアクセントの関係は表 16 のように示される。(A 型：～+○\○○, ～+○\○○○ B 型：～+○○\○, ～+○○\○○, ～+○○○\○ AB 型：1 つの複合名詞に A 型と B 型が共存する)

表 16 連濁と核位置の関係

		タイプ I : Y が中高型のみ			(e)タイプ II : Y が中高型とその他の型が共存する		
		A 型	B 型	AB 型	A 型	B 型	AB 型
総体数		206 (26.2%)	126 (16.0%)	125 (15.9%)	200 (25.5%)	3 (0.3%)	126 (16.0%)
連濁 (a)		65 (8.3%)	0	5 (0.6%)	121 (15.5%)	0	5 (0.6%)
不連濁	(b)Y の語頭拍母音が無声化する	1 (0.1%)	7 (0.9%)	28 (3.6%)	16 (2.0%)	0	67 (8.5%)
	(c)Y の語頭拍母音が無声化しない	62 (7.9%)	51 (6.5%)	51 (6.5%)	34 (4.3%)	0	28 (3.6%)
連濁不関与	(d1)Y の語頭が濁音	44 (5.6%)	5 (0.6%)	20 (2.5%)	18 (2.3%)	0	4 (0.5%)
	(d2)Y の語頭が母音	7 (0.9%)	28 (3.6%)	13 (1.7%)	2 (0.2%)	1 (0.1%)	14 (1.8%)
	(d3)Y の語頭子音が /n//m//j//r//w/	27 (3.4%)	35 (4.4%)	8 (1.0%)	9 (1.2%)	2 (0.2%)	8 (1.0%)

表 16 から以下のことがわかる。

(a) **連濁** 連濁が起った語において、A 型が圧倒的に多く (A 型 94.9%)、タイプ I (A 型 34.9%)・II (A 型 65.1%) とともに関係なく B 型が存在しない。AB 型も極少ない (AB 型 5.1%)。

(b) **Y の語頭拍が無声化** 不連濁語の中、後部要素の語頭拍母音が無声化する場合、AB 型がもっとも多く、タイプ II に集中している (AB 型 70.5%)。

(c) **Y の語頭拍が無声化しない** 後部要素の語頭拍母音が無声化しない不連濁語 (c) では、連濁語に比べると B 型がかなり存在している (B 型 51 個 22.6% (連濁語 B 型 0

個))。

(d) **連濁不関与** 連濁不関与語全体 (d) では B 型の割合が、後部要素の語頭拍が無声化しない語 (c) の割合より少し大きい (B 型 71 個 28.9%)。

(e) **タイプ II** 連濁と語頭拍無声化を除くと、タイプ II では B 型がほとんど存在しない (120 例中 B 型 3 例 2.5%)。

以上の (a) ~ (e) について考察を加える。

(a) **連濁 B 型** が存在しないことから、連濁が後部要素の核位置保存に影響することがわかる。

表 17 は『NHK 日本語発音アクセント新辞典』(2016) から抽出した連濁語 (109 個) の一部である。両辞典の連濁語の A 型と AB 型語が重複しているため、『新明解日本語アクセント辞典』(2015) から抽出した連濁語 (87 個) はここで省略する。(後部要素の語境界を判断する基準は『明鏡国語辞典 第二版』(2011) による)

表 17 『日本語発音アクセント新辞典』(2016) から抽出した (a) 連濁語

Y 語彙	Y 読み	Z 語彙	Z 読み	Y の保存	Y 語種	Y 語境界	Y タイプ
境	サカ\イ	国/県/潮/地境	~+ザ\カイ	A 型	和語	3	I
月夜	㊦キ\ヨ	星/朧月夜	~+ヅキ\ヨ ~+ヅ\キヨ	AB 型	和語	2+1	I
一つ	㊦ト\ツ	一つ一つ	㊦トツビ\トツ	A 型	和語	2+1	I
砂糖	サト\ー	赤/角/黒/氷/白砂糖	~+ザ\トー	A 型	漢語	1+2	I
胡椒	コショ\ー	柚子胡椒	ユズコ\ショー ユズゴ\ショー	A 型	漢語	1+2	I
化粧	ケショ\ー	厚/薄/早/冬/夕/雪化粧	~+ゲ\ショー	A 型	漢語	1+2	I
焼酎	ショーチュ\ー	芋焼酎	イモジョ\ーチュー	A 型	漢語	2+2	I
提灯	チョーチ\ン	絵/小田原/岐阜/白張り/高/高張り/箱/酸漿/盆/弓張り提灯	~+ジョ\ーチン	A 型	漢語	2+2	I
正面	ショーメ\ン	裏正面	ウラジョ\ーメン	A 型	漢語	2+2	I
沢山	タのサ\ン	盛り沢山	モリダ\のサン モリダのサ\ン	AB 型	漢語	2+2	I
		子沢山	コダ\のサン	A 型	漢語	2+2	I
心	ココ\ロ ココロ\	遊び/魚/歌/絵/幼/男/乙女/親/気/匂/恋/子供/里/静/下/好き/漫ろ/旅/出来/手/情け/盗み/人/二/隔て/仏/真/水/娘/物/大和/世心	~+ゴ\コロ 気心 キゴコロ もある	A 型	和語	3	II
鋏	ハサミ\ ハサ\ミ	糸切/金/紙/刈り込み/木/裁ち/花鋏	~+バ\サミ	A 型	和語	3	II
袴	ハカマ\ ハカ\マ	行燈/伊賀/革/素襖/長/羽織/藤/雪袴	~+バ\カマ 羽織袴 ハオリバカマ\ もある	A 型	和語	3	II
刀	カタナ\ カタ\ナ	押っ取り/小/血/手/鈍/腹切	~+チガ\タナ 血刀 チガタナ\	A 型	和語	2+1	II

		り/懐/守り/山 刀					
		小刀	コガ\タナ コガタナ\ コガタ\ナ	AB型	和語	2+1	II
二重	㊦タ\エ ㊦タエ\ ㊦タエ\	羽二重	ハブ\タエ ハ\ブタエ	AB型	和語	2+1	II
年寄り	トシヨ\リ トシヨリ\ トシヨリ\	奥/若年寄	～+ド\シヨリ	A型	和語	2+2	II
金持ち	カネモ\チ カネモチ\ カネモチ\	大金持ち	オーガネ\モチ オーガ\ネモチ	AB型	和語	2+2	II
繕い	㊦クロイ ㊦クロ\ ㊦クロイ\	毛/羽繕い	～+ヅ\クロイ	A型	和語	2+2	II
所帯	ショタ\イ ショ\タイ ショタイ\	大/男/女/新/ 貧乏/寄合所帯	～+ジョ]タイ	A型	漢語	1+2	II
普請	㊦シン ㊦シ\ ㊦シン\	仮/川/数寄屋/ 本/道/安普請	～+ブ\シン	A型	漢語	1+2	II
巾着	キンチャ\ク キンチャク\ キンチャク\	磯/腰巾着	～+ギ\ンチョコク	A型	漢語	2+2	II

表 17 の特殊な例は以下の 3 語である：「羽二重ハブ\タエ，ハ\ブタエ」は、前部要素の直後にアクセント核がくる。「小刀コガタナ\
」は、中高型以外の尾高型のアクセント核位置保存が見られる。「大金持ちオーガネ]モチ」は、A 型にならないがアクセント核位置保存もしない。

「語末特殊拍要因」 例外はあるが、全体として B 型が少ない。原因としては、語末が重音節の場合、語末音節の核を避けて A 型になると考えられる。(1) Y が「4 拍」の「-2 型」で、かつ語末が特殊拍の場合には：A 型 176 個 74.6%、B 型 13 個 5.5%、AB 型 47 個 19.9%。B 型例：「若先生ワカセンセ\
」。 (2) Y が「3 拍」の中高型の場合：A 型 90 個 44.6%、B 型 19 個 9.4%、AB 型 93 個 46.0%。B 型例：「北日本キタニホ\
」，「絶対多数 ゼツタイタス\
」。連濁語は A 型と極小の AB 型の組み合わせである。(A 型 94.9%、AB 型 5.1%)

「複合回数要因」 「大金持ちオーガネ\
モチ，オーガ\
ネモチ」，「奥年寄オクド\
シヨリ」のような例では、後部要素が、アクセント上の複合名詞であるが、連濁によって後部要素のアクセントが保存されなくなる。

削除例 1 つだけの削除例がある。連濁語としての「夕月夜ユーズキ\
ヨ」は連濁しても後部要素のアクセント位置が保存される。『明鏡国語辞典 第二版』(2011)によると、夕月夜の語構成は「ユ-#ヅキヨ」である。40 人の日本人大学生を対象に「夕月夜」のアクセントと語境界についてアンケート調査を行った。その結果、語境界について：「ユ-#ヅキヨ」18 人 45%、「ユ-ヅキ#ヨ」16 人 40%、どちらでも 6 人 15%、アクセントについて：「ユ-ヅ\
キヨ」15 人 37.5%、「ユ-ヅキ\
ヨ」21 人 52.5%、どちらでも 4 人 10%。4 割りの人は「夕月夜」を「ユ-ヅキ#ヨ」の語構成だと認識している。こうして、後部要素が 3 拍の「月夜ツキヨ」ではなく、1 拍の「夜ヨ」になる可能性が十分高い。「ユ-#ヅキヨ」の語構成では、「ユ-ヅキ\
ヨ」になると考えられる。本章の「後部要素が 3・4 拍」の限定範囲から外れるため、ここでは総体数に入れず削除した。

(b) Y の語頭拍が無声化

表 18 では、後部要素の語頭拍母音が無声化する不連濁語のすべての A 型と B 型の語、そして代表的 AB 型の語の一部を示している。

表 18 両ア辞典から抽出した (b) Y が語頭拍無声化する語の一部

Y 語彙	Y 読み	Z 語彙	Z 読み	Y の保 存状況	Y 語 種	Y 語 境界	Y タ イプ	出典辞 典
一つ	①ト\ツ	身一つ	ミ①ト\ツ ミ①\トツ	AB 型	和語	2+1	I	NHK
宿舎	②ユク\シャ	国民宿舎	コクミン②ユク\シャ	B 型	漢語	2+1	I	NHK
地方	③ホ\ー	カシミール地方	カシミール③\ホー	A 型	漢語	1+2	I	NHK
試験	④ケ\ン	予備試験	ヨビ④\ケン ヨビ④ケ\ン	AB 型	漢語	1+2	I	NHK
躑躅	⑤ツ\ジ ⑤ツジ	山躑躅	ヤマ⑤\ツジ ヤマ⑤ツ\ジ	AB 型	和語	3	II	NHK
司教	⑥キョ\ー ⑥\キョー	大司教	ダイ⑥\キョー	A 型	漢語	1+2	II	NHK
資金	⑦\キン ⑦キン	回転資金	カイテン⑦\キン カイテン⑦キン	AB 型	漢語	1+2	II	NHK
機関	⑧\カン ⑧カン	下部機関	カブ⑧\カン	AB 型	漢語	1+2	II	NHK
期間	⑨\カン ⑨カン	在学期間	ザイガク⑨\カン ザイガク⑨カン	AB 型	漢語	1+2	II	NHK
不孝	⑩コ\ー	親不孝	オヤ⑩コ\ー	B 型	漢語	1+2	I	新明解
資金	⑪キン	越年資金	エツネン⑪キン エツネン⑪\キン	AB 型	漢語	1+2	I	新明解
畜生	⑫クショ\ー	犬畜生	イヌ⑫クショ\ー	B 型	漢語	2+2	I	新明解
躑躅	⑬ツ\ジ ⑬ツジ	山躑躅	ヤマ⑬\ツジ ヤマ⑬ツ\ジ	AB 型	和語	3	II	新明解
地方	⑭ホ\ー ⑭\ホー	奥羽地方	オーウ⑭ホ\ー オーウ⑭\ホー	AB 型	漢語	1+2	II	新明解
試験	⑮ケ\ン ⑮\ケン	期末試験	キマツ⑮ケ\ン キマツ⑮\ケン	AB 型	漢語	1+2	II	新明解
機関	⑯カ\ン ⑯カン ⑯\カン	金融機関	キンユー⑯カ\ン キンユー⑯\カン	AB 型	漢語	1+2	II	新明解
期間	⑰カ\ン ⑰カン ⑰\カン	有効期間	ユーコー⑰カ\ン ユーコー⑰\カン	AB 型	漢語	1+2	II	新明解

表 18 からわかるように、不連濁の後部要素が語頭拍母音無声化の場合において、後部要素が 1+2 漢語なら、「語頭拍母音無声化」説に当てはまりやすく、AB 型になる。例外もある：「不孝⑩コ\ー」などの語は、アクセント核位置が保存される場合がある。「試験④ケ\ン」(NHK) と「試験④ケ\ン (第 2④\ケン)」(新明解) のような違いがあるが、NHK は生産性に忠実であることに対し、新明解が規則による対応関係に忠実であることが予測される。例：「試験④ケ\ン→期末試験キマツ④ケ\ン」(NHK)、「④\ケン→キマツ④\ケン」(新明解)。「躑躅 ⑤ツ\ジ (第 2⑤ツジ)」は和語であり、中高型以外に、頭高型ではなく平板型を持つため、「語頭拍母音無声化要因」と無関係であると考えられる。

(c) Y の語頭拍が無声化しない 「連濁不関与語」と「Y が語頭拍母音無声化の不連濁語」を除き、連濁語と一般的な不連濁語（後部要素が語頭拍母音無声化しない不連濁語）を比較する。連濁語では B 型の数が 0 個である。一方、一般的な不連濁語では B 型がかなり存在する (B 型 51 個 22.6%)。つまり、連濁を生じることによって、後部要素のアクセント核位置が保存されなくなる傾向が見られる。

(d) 連濁不関与 連濁語の 0 個 0% に比べると、かなり割合が大きい (B 型 71 個 28.9%)。これも「連濁要因」の正しさを証明できる 1 事例である。

(e) タイプ II 後部要素の中高型とその他のアクセント型の併用によって、A 型又は AB 型になる（後部要素が、頭高型、尾高型、平板型であれば、複合名詞のアクセント規則により、A 型になるのが普通である）。

2. まとめ

後部要素が3・4拍かつ中高型の複合語において、後部要素の中高型が保存される現象がある。従来説では、後部要素の核位置保存に影響する要因は「語頭無声化」「複合回数」「語末重音節」「拍数と形態素数」「挿入母音」などがある。本章は、それ以外に、「連濁」という要因を見いだした。

検証のために、『NHK 日本語発音アクセント新辞典』（2016）と『新明解日本語アクセント辞典』（2015）から後部要素が3・4拍かつ中高型の複合語（漢語と和語）（合計355語）を抽出し、分析した。連濁と核位置の関係を以下のように示す。

A型：～+○-○○、～+○-○○○

B型：～+○○-○、～+○○-○○、～+○○○-○

AB型：1つの複合名詞に**A型**と**B型**が共存する)

連濁を生じると、**A型**のみの場合がもっとも多く、**B型**のみの場合は存在しない。

一方、不連濁のとき、**B型**のみの場合もかなり存在する。

このように、連濁がアクセントの核位置保存に影響することが判明した。

後部要素が3・4拍かつ中高型語の場合において、連濁を生じると、後部要素のアクセント核位置が保存されず、アクセント核は後部要素の語頭拍に置くという傾向がみられる。すなわち、複合名詞が「不完全複合名詞」から「1単位の複合名詞」に変わる。これは、連濁が起こると、複合名詞の意味のまとまりがより強くなるのがその原因だと考えられるが、次章で詳しく検討する。

第五章 連濁とアクセント

0. はじめに

第二章の3節では、連濁という音韻交替現象を紹介した。連濁は日本語の複合語の指標の1つとなる現象として、それに関する様々な研究が行われている。連濁・非連濁を決める規則や傾向が発見されているが、例外的なものは多く存在する。連濁は、規則がありながら、予測できないという性質もある。「ライマンの法則」、「ローゼンの法則」、同一性回避、語種、形態・意味的な要因など様々な要因が絡んでいる。第三章と第四章では、連濁と複合名詞アクセントの関係について、部分的ながら議論を行った。連濁が一部の複合名詞アクセントに影響を与えることが明らかにした。果たして、連濁がどのような機能を持っているか、どのような原因で、複合名詞アクセントに影響するか。本章は、それについて、深く探りたい。

1. 連濁の規則性

佐藤 (1989)、ティモシー・J・バンス・金子恵美子・渡邊靖史 (2017)、鈴木 (2017) などによる連濁の規則性を、以下の①～⑯にまとめている。

①漢語の語頭音は原則として濁らない

漢語は連濁を起こさないという性質はかなり一般的である。複合語の用例をもつ約2000語の漢語抽出例 (佐藤 1989) のうち、95%以上はこの規則に従う。

例外： 「砂糖さとう→黒ざとう」 「会社かいしゃ→株式がいしゃ」
「菓子かし→和がし」

②外来語は連濁を生じない

ほとんど例外がないが
「歌留多カルタ→いろはガルタ」「ケット→赤ゲット」「煙管キセル→煙ギセル」
などのような例外もある。

③擬声語、擬態語は連濁を生じない

つまり、オノマトペには連濁が起らない

例： 「こそこそ」 「ひりひり」
「さくさく」 「ひいひい」

オノマトペは仮名、または子音と母音ごとに音象徴を持つ語であり、連濁すると意味も変わってしまう可能性があると考えられる。

④オノマトペ以外の畳語

Nishimura (2007) によると、畳語の連濁する傾向が非常に強く、連濁免疫に優先している。「先」は連濁免疫を持つ語であるが、畳語の「先々 さきざき」は連濁を生じる。

Vance (2015) によれば、以下のように典型的な例が挙げられている。

例： 「月々」つきづき 「重ね重ね」かさねがさね
「国々」くにぐに 「近々」ちかぢか

⑤ライマン法則

連濁研究が進んでいる今は、「ライマンの法則」で一番認められるのがその中の第一則

だけである。つまり第2音節以降に濁音を含む語の語頭音は濁らない (Lyman 1894)。

例： 「紙屑」かみくず 「金屑」かねくず

後部要素としての「屑くず」に濁音が含まれているため、連濁は起こらない。
ただし、例外もある。

例外： 「縄梯子」なわばしご 「ふんじばる」

⑥同一性の回避

同種または類似の音が連続するときは、連濁が避けられやすい。

例： 「飛び火」とびひ <=> 「もらい火」もらいび
「傷つける」きず(づ)つける <=> 「位置づける」いちづける

同一性回避の反例もある。

例： 「外旅人」たびびと

⑦漢字語

付く漢字のモーラ数や濁音の有無によって決まる。

- a. 「停留所」ていりゅうじょ 「派出所」はしゅつじょ
- b. 「裁判所」さいばんしょ 「発電所」はつでんしょ
- c. 「比叡山」ひえいざん 「外輪山」がいりんざん
- d. 「高野山」こうやさん 「岩木山」いわきさん

⑦b. の「判(ばん)」、「電(でん)」が近隣漢字として濁音が入っているのが原因である。⑦c. と⑦d. を比較すると、近隣漢字が1モーラか2モーラかによって決められる。

⑧直前が撥音

直前が撥音の場合、連濁を生じやすい。実際には撥音だけではなく、Frellesvig (2010)によれば、中古日本語においては、鼻音後接有声化という音韻プロセスが規則的に働いていたと考えられる。

例：「本国」ほんごく「隣国」りんごく <=> 「外国」がいこく「異国」いこく
「暗算」あんざん「演算」えんざん <=> 「加算」かさん「積算」せきさん
しかし、「神国(しんこく)」「換算(かんさん)」のような例外も存在する。

⑨無声摩擦音節が連続する語

このタイプの語では、基本的に連濁を生じない。

例： 「花すすき」 「穂すすき」

⑩「姫」「彦」

通常、「姫(ひめ)」と「彦(ひこ)」が連濁しない後接とし、ハ行音の後に鼻音が続くのが原因ではないかと言われている。しかし、鈴木(2017)が『古事記』における「姫」「彦」の連濁・非連濁について議論を行った。『古事記』の「ーヒメ(姫)」と「ーヒコ(彦)」は濁音仮名により濁音表示を厳密に行っている(非連濁形が「比売」「比古」、連濁形が「毘売」「毘古」の音仮名で表記されている)。統計の結果から見ると、346件姫系列と彦系列のうち、「比売」と「比古」がそれぞれ224件と12件で、「毘売」「毘古」と「毘古那」がそれぞれ53件、53件と4件である。

⑪接頭語

「御、真、片、唐など」は連濁しにくい。

例： 「お箸」おはし 「お米」おこめ
「御上」おかみ
「唐紙」からかみ
「片仮名」かたかな

⑫形容詞素性の形態素

形容詞素性の形態素が付く場合、連濁しにくい。

例： くるしい 「暑くるしい」「重くるしい」「堅くるしい」「狭くるしい」
ぐるしい 「息ぐるしい」「心ぐるしい」「聞ぐるしい」
口 くち 「甘くち」「薄くち」「辛くち」「早くち」
ぐち 「戸ぐち」「告げぐち」「表ぐち」「おちょぼぐち」

⑬並列複合語

意義の類似した・相反する語が並置された複合語は連濁を生じない。

例： 「山坂」やまさか <=> 「下り坂」くだりざか
「枝葉」えだは <=> 「青葉」あおば
「読み書き」よみかき <=> 「覚え書き」おぼえがき

⑭動詞+動詞

動詞+動詞の複合名詞の大多数は連濁しない。さらに、動詞+動詞の複合名詞しか存在しない場合、連濁する率が高い。

例えば、「送り返す」おくり+かえす という動詞に相当する名詞はない。その対照的に、「覚え書き」おぼえ+がき という名詞に相当する動詞はない。

⑮右枝条件

Otsu (1980) が右枝条件という制限を提案している。



「山縞馬」の構成は {やま+ (しま+うま)} であり、「しま+うま」が全体の後部要素になっている。しかし、連濁候補要素の「しま+うま」には濁音が存在しないため、これが連濁しない理由はライマンの法則では説明できない。しかし、右枝条件に基づけば、「しま」が図の左枝にあることで連濁が妨げられていると解釈できる。

右枝条件を他の理論的原理の帰結として説明することも提案されている (Itô & Mester 2003 ; Kubozono 2005) が、右枝条件には「居酒屋」{い+ (ざか+や)} のような反例が多く、この条件自体が実は疑わしい (Vance 2007)。今まで行われた実験では、この制約の心理的実在性を裏付ける結果は出ていない (Kozman 1998, Kumagai 2014)。

⑯名詞+動詞連用形

鈴木 (2008) が従来説をまとめ、連用名詞の連濁に関する問題を明らかにした。以下の通りである。

a. 目的格・主格のときは非連濁が多い。

- ア、ただし、ナ行・マ行・エの後では連濁することが多い。(金田一 1976)
- イ、2拍語に比べて3拍語では連濁することが多い。(金田一 1976・奥村 1984)
- ウ、目的格とは見なせないヲ格の語は連濁する。(金田一 1976・奥村 1984)
- エ、「ヲ～スル人」のときは連濁しない。(中川 1966・金田一 1976・佐藤 1989)
- オ、生き物の名前となるものは、連濁を生じない。(佐藤 1989)
- カ、「…する道具」を意味するときは、連濁を生じない。(佐藤 1989)
- キ、「…を…すること」の意味で、作業、仕事、遊び等を示すときは、連濁を生じない。(佐藤 1989)
- ク、その動作の結果生ずる具体物・対象を示すときは連濁を生ずる。(佐藤 1989)
- ケ、「…を…すること」の意識が薄く、一語としての意識が強いものは連濁を起こす。(佐藤 1989)

b. 連用修飾格のときは連濁が多い。

c. 連濁の語は平板式(無核型)アクセント、非連濁の語は起伏式(有核型)アクセントであることが多い(特に2拍語)。

2. 連濁と意味のまとめりとアクセント

前章では、網羅的に連濁の規則を挙げているが、一見、連濁現象が起こるかどうかには、それぞれ規則の条件によって決められるが、大きく分類すると、表19のようになる。

(++：ほとんど連濁を生じない)

＋：大部分が連濁を生じないが、一部の例外がある

+-：さらに条件によって連濁が起こったり、起らなかったりする

-：大部分が連濁を生じるが、一部の例外がある

--：例外なく連濁する)

表 19 連濁規則のまとめり

	語源	音韻・音節構造	前接・後接	意味と関わる	連濁免疫程度
①漢語語頭	漢語		後		+
②外来語	外来語		後		++
③オノマトペ	オノマトペ		後		++
④畳語		畳語	前後		- -
⑤ライマンの法則		第二音節以降濁音	後		+
⑥同一性		同一性	前		++
⑦a.漢字語濁音		濁音	前		+
⑦b.2モーラ		2モーラ漢字語	前		-
⑦c.1モーラ		1モーラ漢字語	前		+
⑧直前撥音		撥音か鼻音	前		-
⑨無声摩擦連続		無声摩擦音の連続	後		++
⑩「姫」「彦」		ひめ・ひこ	後		現代において++
⑪接頭語			前	○	++
⑫形容詞素性			前後	○	++
⑬並列複合語			前後	○	++
⑭動詞+動詞			前後	○	+
⑮右枝条件			前後	○	+
⑯名詞+動詞連用形			前後	○	+ -

語源

主に語源に関する制約は①漢語語頭、②外来語と③オノマトペであることから、「和語での連濁が最も起こしやすい」ことが分かる。さらに、①漢語語頭の制約では、95%の漢語が連濁免疫を持っているが、残りの5%が連濁するため、免疫程度がそれほど強くないと言える（実際、後部要素が3・4拍の語は、連濁するものが少ない）。

②外来語には、「いろはガルタ」、「赤ゲット」、「煙ギセル」の反例が存在するが、どちらでも借用された時期が古く、すでに外来語として認識していないと考えられる。「歌留多」と「煙管」は、当て漢字を持っていることから分かる。

③オノマトペについて、濁音の有無には意味の役割を担っているため、簡単に連濁するわけにはいけない。例えば、「とん」と「どん」は音の大きさ、人への感じがかなり違う。濁音としての「どん」自体が別の音象徴を持っていると考えられる。

したがって、①漢語語頭の連濁免疫を「+」にし、②外来語と③オノマトペの制約の連濁免疫を「++」にした。

音韻・音節構造

④から⑩までの制約は、いずれも意味によって決まる要素が弱く、主に前・後接語の音韻・音節構造に関わる。そのうち：

⑤ライマンの法則と⑦a. 漢字語濁音は前・後接語の濁音の有無によって制約が成立する。

⑧直前撥音では後部連濁要素が直前撥音や直前鼻音の影響を受け、有声化になると考えられる。⑨無声摩擦連続の例が極めて少なく、有効性が不明である。

⑩「姫」「彦」に関しては、歴史的に「毘売」や「毘古」という濁音が存在するが、現代日本語においては、基本的に連濁しない。

意味と関わる

⑪から⑯までの制約は、ほぼ前後関係や語の意味によって決められる：

⑭動詞+動詞について、「動詞+動詞」の組み合わせは、ほぼ連濁しないが、「名詞と組んでいるペア」が存在するかどうかにより、連濁傾向の強さが変わる。

2. 1 連濁のマーク機能

④畳語、⑦b. 2 モーラ、⑦c. 1 モーラ、⑫形容詞素性、⑬並列複合語、⑮右枝条件、⑯名詞+動詞連用形の制約から、「連濁は、さまざまなマーク機能を持つ」ことが見られる。

2. 1. 1 畳語の連濁

後部要素としての語は、語頭が清音であればなんでも連濁するわけではない。「連濁しない語」と「条件によって連濁する語」と大きく2つと分類ができる。さらに、条件によって連濁する語にも、「連濁しやすい語」と「連濁しにくい語」と分けられる。

佐藤（1989 p252）では、「先」が連濁を起こさない語に扱っている。

「先」（ペン先、訪問先、庭先、足先、得意先）

しかし、ティモシー・J・バンス・金子恵美子・渡邊靖史（2017）がそれについて、以下のような説を述べている：

畳語の連濁傾向は非常に強く、連濁免疫に優先する（Nishimura 2007 pp22-

23)。「先」さき という形態素は、疊語以外の複合語の後部要素になると一切連濁しないが、「先々」さき+ざき の場合は連濁する。

本来、連濁しないの「先」が疊語である場合、何故か連濁現象が起こった。疊語は、同じである2つの語からなり、同時に意味がまとまれ、形も1つの語になる。疊語の連濁は、意味のまとまりが形にすることだと考えられる。

2. 1. 2 前接漢字語のモーラ数

「山(さん)」が後部要素である場合、条件によって連濁したり、しなかったりする。連濁規則の⑦b.2 モーラ、⑦c. 1モーラ が示しているように、直前漢字語のモーラ数によって、連濁するかどうかが決められる。後ろにある「山(さん)」の連濁は、直前漢字語のモーラ数が2のマークとなる。しかし、「彦山(ひこさん)」、「蔚山(うるさん)」や「大峰山(おおみねさん)」のような例外も存在する。

2. 1. 3 形容詞素性の形態素

佐藤(1989 p257)は、形容詞素性の形態素が付く場合、連濁を起こしにくいと主張している。例は以下の通りである：

(形容詞) (くるしい)	暑苦しい、重苦しい、堅苦しい、狭苦しい
(その他) (ぐるしい)	息苦しい、心苦しい、聞き苦しい、寝苦しい
(形容詞) (くち)	甘口、薄口、辛口、早口
(その他) (ぐち)	戸口、告げ口、表口、憎まれ口、おちょぼ口

形容詞素性の「なに+くるしい」が苦しい感じを詳しく説明しているのに対し、「なに+ぐるしい」は「なにをしようとするが、苦しい、しにくい」ことを意味する。「口」のほうは一目瞭然であり、形容詞扱いの「くち」とその他の「ぐち」と区別している。

ここでの連濁は、「形容詞素性」と「その他」の弁別的なマークであると考えられる。

2. 1. 4 並列複合語と同音異義語

⑬並列複合語 に「山坂 やまさか<=>下り坂 くだりざか」、「枝葉 えだは<=>青葉 あおば」、「読み書き よみかき<=>覚え書き おぼえがき」の例を挙げている。並列関係の語と、やや意味のまとまりが強い語と、連濁によって弁別可能である。しかし、「山坂」と「下り坂」のどちらが意味のまとまりが強い語であるか、語の形が違うため、比較することが困難である。したがって、語の形が同じである同音異義語から説明を試みる。

尾鰭 おびれ	=>	尾の鰭
おひれ	=>	尾と鰭
山川 やまがわ	=>	山の中の川
やまかわ	=>	山と川

形が全く同じの「同音異義語」から、その比較判断が可能となる。連濁現象が起こった「おびれ」、「やまがわ」は前部要素と後部要素を1つの複合意味に変わった。一方、「おひれ」や「やまかわ」では、前部要素と後部要素の意味はそのまま保存され、並列関係を保っている。ここでの連濁は、「並列関係を持つ語」と「包括関係を持つ語」と区別するマークになる。つまり、意味のまとまりの強さを区別する機能として働いている。

2. 1. 5 枝分かれ

連濁規則⑮右枝条件 は、連濁を妨げる。逆に、「三語から成る複合語におき、その構造が「左枝分かれ」ならば後続語が連続的に濁音化することが可能である」(佐藤 1989 p258)

Vance (2007 ; 2015)が「右枝条件には「居酒屋」{い+ (ごか+や)} のような反例が多く、この条件自体が実は疑わしい」と主張したが、「並列複合語」の場合と同じく、形が違ふ語の同士で、意味のまとまりの強さを比較しにくい。そこで、「左枝わかれ」と「右枝わかれ」両方とも存在し得る例を比較する。

紋白蝶



よく研究される「紋白蝶」は、右枝分かれとしての「もん+ (しろ+ちょう)」が、「翅の色が白くて、前翅の前端が黒く、前翅に二点、後翅の前縁に一点の黒紋がある(大辞林 2006)」というシロチョウ科の蝶ことを指している。一方、敢えて「しろ」を濁音化し、「(もん+じろ) +ちょう」と左枝分かれ構造に作り、「翅の紋が白い(波紋でもよい、なに紋でもよい)蝶(翅全体の色はなんでもよい)」に変わる。

黒羽二重



枝分かれは「三語から成る複合語」を前提としているが、「二+重」は「数詞+助数詞」の構造で、意味的にそれぞれの自立性がやや低い。「二重」という固定用法が存在するため、ここでは、「二+重」を一語として見なす(図にも線の高低差がある)。

左枝分かれとしての「(くろ+は) +ふたえ」は「黒い鳥の羽が二つ(二重)ある」を意味することに対し、右枝分かれとしての「くろ+ (は+ふたえ)」が「色が黒い羽二重(縦糸・横糸に良質の撚りのない生糸を用いて、多く平織りとした後練りの絹織物)(大辞林 2006)」のことを指している。

右枝分かれが連濁を妨げるより、むしろ、よい繋がりが強い(意味のまとまりが強い)部分では、連濁現象が起こしやすいことが考えられるだろう。

ここでの連濁は、意味のまとまりが強いほうのマークだと考えられる。

2. 1. 6 名詞+動詞連用形

⑮名詞+動詞連用形 について、意味的な前後関係を中心に考え、一語としての意識

が強いものに注目したい：

⑩a. 目的格・主格のときは非連濁が多い。ただし、一語として意識が強いものは連濁する。

⑩a. 「ク、その動作の結果生ずる具体物・対象を示すときは連濁を生ずる。(佐藤 1989)」と

⑩a. 「ケ、「…を…すること」の意識が薄く、一語としての意識が強いものは連濁を起こす。(佐藤 1989)」である。

佐藤(1989)が挙げられる例(語彙の説明は大辞林(2006)による)：

⑩a. ク、その動作の結果生ずる具体物・対象を示すときは連濁を生ずる。

「人相書き」 犯罪者や行方不明者を捜すために、その顔つきの特徴などをかいて配布するもの。

「塩引」 魚を塩漬けにすること。また、その魚。塩鮭。

⑩a. ケ、「…を…すること」の意識が薄く、一語としての意識が強いものは連濁を起こす。

「値踏み」 値段を見積もってつけること。評価。値積みり。

「目張り」 風などが入らないように、物のすきまに紙などをはってふさぐこと。また、それに用いるもの。

⑩b. 連用修飾格のときは連濁が多い。(例は金田一(1976)に参照、語彙の説明は大辞林(2006)による)

「仮名書き」 仮名で書くこと。また、書いたもの。

「辻斬り」 昔、武士が刀剣の切れ味や自分の腕を試すために、往来で通行人を斬ったこと。

「八重咲き」 花びらが数多く重なって咲くこと。

「仮名書き」は「仮名で書くこと」で、「辻斬り」は「辻で斬ること」で、「八重咲き」は「八重に咲くこと」である。

⑩a. ク、⑩a. ケ、と⑩b. から、一語としての意識が強いものは連濁を生じることが分かる。これも、連濁は、意味のまとまりが強いほうのマークだと考えられる。

まとめ

連濁は、直前漢字語のモーラ数が2のマーク、「形容詞素性」と「その他」の弁別的なマーク、より強い意味のまとまりのマークなど、様々なマークの機能を担っている。それに、「より強い意味のまとまりのマーク」機能が、数多く関連する現象から観察された(疊語、同音異義語、枝分かれ、名詞+動詞連用形)。

2. 2 連濁とアクセント

連濁のマーク機能を検討する際、連濁が複合名詞のアクセントに影響を与える現象が観察された。同音異義語の連濁語は、包括関係を持つ語であり、アクセントが平板型である。一方、並列関係を持つ語は不連濁語で、アクセントが起伏型である。「名詞+動詞連用形」の複合語の場合、連濁を生じる語のアクセントは平板型であり、連濁を生じない語のアクセントが起伏型である。

また、複合名詞の全体において、第三章と第四章では、連濁と複合名詞アクセントの

関係について、部分的ながら議論を行った。短い複合語の場合、連濁を生じる語のアクセント核が、語境界の1拍前後に置かれやすい(仮説①)。そして、後部要素が3・4拍の語について、連濁語のアクセント核が、語境界の1拍後に置かれやすい。その中、後部要素が3・4拍かつ中高型の複合語に、連濁を生じる語は、元のアクセント核が前にずれ、語境界の1拍後に置かれる(後部要素に、保存されたはずの中高型が、連濁によって、保存されなくなる。複合語は「1単位の複合語」になる)。後部要素が長い複合語(後部要素が5拍以上のもの)については、基本的に連濁を生じない。

本節は、複合語全体における「連濁とアクセントの関係」を整理する。

2. 2. 1 後部要素が2拍の同音異義語

窪菌(1995)は「日本語の複合語を特徴づける音韻現象である連濁も意味論による意味制約を受けている」と述べている。「尾鰭オ\ヒレ」は「尾と鰭」の意味であり、「尾鰭オビレ」が「尾の鰭」の意味である。「山川ヤマ\カワ」は「山と川」の意味であり、「山川ヤマガワ」が「山の中での川」の意味である。この2つの例から、連濁と不連濁の対立が意味の区別に繋がっていることが分かる。「尾鰭オ\ヒレ」、「山川ヤマ\カワ」は並列複合名詞であり、連濁を生じず、アクセントが中高型になる。一方、まとまりが強い「尾鰭オビレ」、「山川ヤマガワ」は連濁してアクセントも平板型になる。

2. 2. 2 格関係と連濁とアクセント

表20は鈴木(2008)が奥村(1984)、金田一(1976)、佐藤(1989)、中川(1966)の研究に基づいて、まとめた連濁細則をさらに整理した表である。

表20 格関係と連濁とアクセントの関係(後部要素が2拍動詞連用形転成名詞の複合名詞)

		連濁を生ずる		連濁を生じない
		(2) 目的格・主格		
(1) 連用修飾格		(2a) その動作の結果生ずる具体物・対象を示すとき	(2b) 「…ヲ…スルコト」の意識が薄く、一語としての意識が強いもの	(2c) 「…ヲ…スルコト/モノ/ヒト」の目的格・主格
書き		人相書き ニンソーガキ		物書き モノカキ\ モノカ\キ
張り			目張り メバリ	傘張り カサ\ハリ
きり	辻斬り ツジギリ			瓜切り ツメキ\リ ツメキリ\ ツメキリ\

表20の(2c)の目的格・主格では連濁を受けない起伏型になる。一方、意味のまとまりが強い、(2a)(2b)の目的格・主格と(1)の連用修飾格では、連濁を生じて、アクセントも平板型になる。

2. 2. 3 3つの仮説

第三章と第四章では、仮説①②③を立て、アクセントデータベースを用いて仮説を検証したが、ここでは3つの仮説の適用範囲と相互関係について再考察を行う。

仮説①: 連濁は、複合語の前・後部要素の境界を示し、連濁するとアクセント核も各要素の境界を示せる所に置かれやすい(主に1拍前後にアクセント核が置かれる)

仮説②：連濁は尾高型を回避し、生産性が高いアクセント型が現れやすい

仮説③：後部要素が3・4拍かつ中大型語の場合において、連濁を生じると、後部要素のアクセント核位置が保存されず、アクセント核は後部要素の語頭拍に置くという傾向がみられる

仮説①の語の境界を示せる所について、複合語の前・後部要素の拍数により、異なるところを指しているが、主に語境界の1拍前後のことを指している。そして、仮説②が有効的なため、連濁語のアクセントは、生産性が高いアクセント型に集中している。したがって、アクセント核がある連濁語にとって、語境界の近くのどちらかに置かれる前提として、そのアクセント型が生産性の高いアクセント型である。

例えば、「3拍以上語+1拍和語」の場合、仮説①の「連濁語は、語の境界を示せる所にアクセント核が置かれやすい」とは、語境界の1拍前にアクセント核が置かれやすいことである。「3拍以上語+1拍和語」の複合語の、生産性が高いアクセント型は、平板型と中大型の前部末型であるため、語境界の1拍前に置かれやすく、1拍後に置かれにくい（語境界の1拍後に置かれると、後部頭高型となるが、「3拍以上語+1拍和語」の場合において、生産性が高いアクセント型ではない）。一方、「3拍以上語+2拍和語」の場合、連濁語のアクセント核が、語境界の1拍前後に置かれやすい。「3拍以上語+2拍和語」の生産性が高いアクセント型は、中大型（前部末型と後部頭高型）と平板型であるため、語境界の1拍前にも、1拍後ろにも、連濁語のアクセント核が置かれやすい。

また、仮説③のことから、仮説①のことを証明できる1事例となる。後部要素が3・4拍かつ中大型の複合語は、その中大型が保存されることがあるが、仮説①により、連濁語のアクセント核が語境界の1拍前後に置かれるやすい。しかし、1拍前に置かれる場合、複合語のアクセントは、生産性が極めて低い前部末型となるため、仮説②を違反している。したがって、連濁語は、アクセント核が語境界の1拍後に置かれる後部頭高型となる。

表21からも、3つの仮説の適用範囲と相互関係がわかる。

表21 3つの仮説の適用範囲と相互関係

	1拍和語 + 1拍和語	1拍漢語 + 1拍和語	2拍和語 + 1拍和語	2拍漢語 + 1拍和語	1拍和語 + 2拍和語	1拍漢語 + 2拍和語	2拍和語 + 2拍和語	2拍漢語 + 2拍和語	2拍外来語 + 2拍和語	3拍以上語 + 1拍和語	3拍以上語 + 2拍和語	～ + 3・4拍語
仮説①により、連濁語のアクセント核が置かれやすい所	境界1拍前	境界1拍前	境界1拍前		境界1拍前		境界1拍前後	境界1拍前後 境界2拍前	境界1拍前	境界1拍前	境界1拍前後	境界1拍後
仮説②により、語の生産性が高いアクセント型	頭高型	頭高型	平板型、中 高型（前部 末型）	平板型	平板型、 頭高型	平板型	平板型、中大型 （前部末型・後 部頭高型）	平板型、頭高 型、中大型 （前部末型・ 後部頭高型）	平板型	平板型、中 高型（前部 末型）	平板型、中 高型 （前部末型・ 後部頭高型）	平板型、中大型 （後部頭高型）
仮説③により、後部中大型の連濁語のアクセント型												後部頭高型

さらに、仮説③において、連濁語は意味のまとまりが強い複合語のタイプとなることが見られる。3タイプの前・後部要素の自立性から、このことを証明できる：

上野（1999）による3タイプの前・後部要素の自立性：

X Y

(X Y) : 非自立 非自立——1単位（通常の複合名詞、1単位の複合名詞）

(X (Y)) : 非自立 自立——中間タイプ（第3の複合名詞、不完全複合名詞）

(X) (Y) : 自立 自立——2単位（2語連続）

「2 語連続」について、意味のまとまりが弱い「並列関係」、「格関係」と「右枝分かれ」が 2 語連続になりやすい。「格関係」におき、「目的格」の「ガ・ヲ格」が最もなりやすく、数も圧倒的に多い。一方、「連用修飾格」としての「ニ・デ格」などは、2 語連続の数が少ない。2 語連濁は、3 タイプの中もっとも意味のまとまりが弱いタイプである。

「1 単位の複合名詞」は、前・後部要素の自立性が失い、全体が 1 語となる。3 タイプの中もっとも意味のまとまりが強いタイプである。「不完全複合名詞」は中間的なタイプである。

仮説③「後部要素が 3・4 拍かつ中高型語の場合において、連濁を生じると、後部要素のアクセント核位置が保存されず、アクセント核は後部要素の語頭拍に置くという傾向がみられる」について、後部要素が 3・4 拍中高型の場合、元の中高型が保存されるはずだが、連濁を生じることにより、後部要素の中高型が保存されず、複合語のアクセントは後部頭高型となる。つまり、「不完全複合名詞」であるはずの語は、連濁を生じることによって、意味のまとまりが最も強い「1 単位の複合名詞」になった。

3. まとめ

連濁は語境界を示す機能を持つことは、数多くの先行研究によって証明された。筆者が立てた仮説①「連濁は、複合語の前・後部要素の境界を示し、連濁するとアクセント核も各要素の境界を示せる所に置かれやすい（主に 1 拍前後にアクセント核が置かれる）」と、仮説③「後部要素が 3・4 拍かつ中高型語の場合において、連濁を生じると、後部要素のアクセント核位置が保存されず、アクセント核は後部要素の語頭拍に置くという傾向がみられる」も、それを証明できる 2 つの事例である。

また、連濁は直前漢字語のモーラ数が 2 のマーク、「形容詞素性」と「その他」の弁別的なマーク、より強い意味のまとまりのマークなど、様々なマークの機能を担っている。

さらに、「より強い意味のまとまりのマーク」という機能が、数多く関連する現象から観察された（豊語、同音異義語、枝分かれ、名詞＋動詞連用形）。仮説③からも、連濁を生じる複合語のアクセントが、「不完全複合名詞」であるはずの語は、連濁を生じることによって、意味のまとまりが最も強い「1 単位の複合名詞」になることが観察された。

連濁とアクセントの関係について、複合名詞全体において、仮説②「連濁は尾高型を回避し、生産性が高いアクセント型が現れやすい」が有効的で、連濁語のアクセントの出現は、生産性が高いアクセント型に現れやすい（前・後部要素の拍数によって、生産性が高いアクセント型は異なる）。また、同音異義語や、後部要素が 2 拍動詞連用形転成名詞の複合名詞など、個別な現象から、連濁語→平板型 不連濁語→起伏型 という対立関係が見られる。

第六章 アクセント語類と連濁

0. はじめに

アクセント語類（または語類）は、古い文献および現代方言の比較により、日本語諸方言の共通祖先に存在したと推定されるアクセントで対立する語のグループである。日本語のアクセント体系は方言により異なっているが、規則的な対応関係があり、祖語からの規則的な変化により現代方言のアクセントが成立したと考えられている。各類に所属する語を、類別語彙と言う。

金田一春彦（1974 pp61-64）によると、過去のアクセントを推定するにあたり、現在の諸方言でどの語とどの語が同じ型に属しているかを知ることがきわめて重要となる。今、現在諸方言で、同じ型に属している語を同じ「類」の語と呼ぶ。金田一は1拍から3拍までの日常語を網羅的に扱い、各類に分けた。

後部要素が2拍和語の複合名詞について、後部要素の語類によって、複合名詞全体のアクセントがある程度予測できることは、すでに先行研究により明らかにされた。そして、Rosen（2001）は連濁しがちな要素を3つに分類し、3分類それぞれに属する後部要素の単語リストも挙げられた。本章は、Rosenの3分類について、作成したアクセントデータベースを用い、金田一が挙げられた後部要素が2拍和語名詞の単一形態素が複合名詞になる時の、3分類のどちらかに属するべきかを再考察する。さらに、語類と連濁とアクセントの関係について、語彙を分析しながら検討を行う。

1. ローゼンの法則

ティモシー・J・バンス・金子恵美子・渡邊靖史（2017）によると、ローゼンの法則を以下のようにまとめられる。

Rosen（2001）は和語名詞の単一形態素を、連濁の頻度により、（1）連濁しやすい要素（rendaku lover）、（2）連濁しにくい要素（rendaku hater）、（3）一切連濁しない（すなわち連濁に免疫がある）要素（rendaku immune）、の3種類に分けた。その上で、複合語の前部要素と後部要素が両方とも和語名詞の単一形態素であれば、どちらか（または両方）が3モーラ以上の場合、後部要素の連濁のしやすさに拘らず、必ず連濁すると主張した。ただし、連濁免疫がある後部要素は、一切連濁しないので、この限りではない。

ローゼンによると、例えば、「茸」という語を後部要素にして複合する際に、連濁は一切起こらないため、「rendaku immune」に分類できる。

（例：松茸（マツタケ）、編笠茸（アミガサタケ）、杏子茸（アンズタケ）、独茸（ドクタケ）、榎茸（エノキタケ））

「花」という語は、連濁しやすいため、「rendaku lover」の分類に属する。

（例：草花（クサバナ）、塩花（シオバナ）、徒花（ムダバナ）、風花（カザバナ）、櫻花（サクラバナ）、紅花（ベニバナ）、徒花（アダバナ）、火花（ヒバナ）、雌花（メバナ））
それ以外に、時々連濁するものは「rendaku hater」になる。

上のRosenの主張は、「ローゼンの法則」としてよく知られている。ほかには、Rosen（2003 pp6-13）はBlocking of rendaku by resisters in short-short compounds & Failure of blocking by resisters in long compounds（短い複合語は連濁を阻止し、複合語

は長くなると連濁する)とも主張している。よく知られている例としては、後部要素が「草」の例である。

Short-short compounds with kusa that do not voice:

First conjunct	Compound
aki 'autumn'	aki kusa 'autumn plants'
ao 'green'	ao kusa 'green grass'
buta 'pig'	buta kusa 'pig grass'
haru 'spring'	haru kusa 'spring grass'
huyu 'winter'	huyu kusa 'winter grass'
ira 'thorn'	ira kusa 'nettle'
kara 'chinese'	kara kusa 'arabesque'
miti 'path'	miti kusa 'tarrying'
mizu 'water'	mizu kusa 'water grass'
nana 'seven'	nana kusa 'grasses'
natu 'summer'	natu kusa 'summer grass'
siba 'brushwood'	siba kusa 'lawn'
sita 'under'	sita kusa 'undergrowth'
tami 'people'	tami kusa 'the populace'
туру 'vine'	туру kusa 'creeper, vine'
tuyu 'dew'	tuyu kusa 'spiderwort'

rendaku-resisting nouns with first conjuncts exceed two moras:

First conjunct	Compound
hituzi 'sheep'	hituzi gusa 'sheep grass'
hotaru 'firefly'	Hotaru gusa 'firefly grass'
enokoro 'foxtail'	enokoro gusa 'foxtail grass'
haha-ko 'mother and child'	haha-ko gusa 'cottonweed'
matu 'wait' + yoi 'evening'	matu-yoi gusa 'evening primrose'
mo 'duckweed' + sio 'salt'	mo-sio gusa 'seaweed for salt'
ne 'root' + nasi 'without'	ne-nasi gusa 'duckweed; transient person'

以上のように、同じ後部要素「草」を持つ複合語について、複合語の長さで連濁を決定する傾向が見られる。精確に言うと、前部要素が3モーラ以上のものは、連濁を生じる。一方、前部要素が2拍以下のものは、連濁を生じない。

「ローゼンの法則」(以下「ローゼンの法則」はローゼンの3分類を指している)は強力な法則でありながら、適用範囲も広い。しかし、まったく例外がないわけではない。そして、Rosen (2001 pp232-284)に挙げられた語彙リストに、「複合名詞ではないものが入っているや、和語名詞の単一形態素ではないものがある(例えばRosenが挙げられた「茸たけ」)や、語例が足りないのに3分類のどちらかに入っている(一語しかない例がしばしば見かける)」などの問題点が残っている。(Rosenが扱う語彙について、付録 ローゼン連濁語彙を参照)

また、「複合名詞の長さで連濁に関係している」というRosenの主張に、後部要素が「草」の場合だけが適用されることになるのも問題点の1つである。

2. 金田一（1974）による2拍和語名詞のアクセント語類

金田一春彦（1974 pp61-64）によれば、2拍和語名詞のアクセント語類は、以下のようになる。（語彙の中で、×じるしのもは、東京語で対応の例外をなす語、△じるしのもは、京都語で対応の例外をなす語、*じるしのもは、平安朝の文献でまだ例証されてない語、★じるしのもは、現代諸方言の比較からはその類に入っていることが予想されるにもかかわらず、平安朝時代にはその類に入っていない語を表わす）

語彙	読み		語類	語彙	読み		語類
灰汁	あく		第1類	酒	さけ		第1類
姉	あね		第1類	笹	ささ		第1類
飴	あめ		第1類	里	さと		第1類
蟻	あり		第1類	鯖	さば		第1類
烏賊	いか		第1類	鮫	さめ		第1類
牛	うし		第1類	皿	さら		第1類
梅	うめ		第1類	品	しな		第1類
魚	うお		第1類	芝	しば		第1類
枝	えだ		第1類	皺	しわ		第1類
海老	えび		第1類	鋤	すき		第1類
柿	かき		第1類	杉	すぎ		第1類
瘡	かさ		第1類	鈴	すず		第1類
風	かぜ		第1類	裾	すそ		第1類
蟹	かに		第1類	末	すえ		第1類
金	かね		第1類	底	そこ		第1類
鐘	かね		第1類	袖	そで		第1類
壁	かべ		第1類	其	その		第1類
顔	かお		第1類	鷹	たか		第1類
釜	かま		第1類	滝	たき		第1類
粥	かゆ		第1類	竹	たけ		第1類
雉子	きじ		第1類	竜	たつ		第1類
疵	きず		第1類	蓼	たで		第1類
君	きみ		第1類	棚	たな		第1類
桐	きり		第1類	塵	ちり		第1類
霧	きり		第1類	筒	つつ		第1類
釘	くぎ		第1類	壺	つぼ		第1類
口	くち		第1類	爪	つめ		第1類
国	くに		第1類	釣	つり		第1類
頸	くび		第1類	床	とこ		第1類
鍬	くわ		第1類	虎	とら		第1類
暮	くれ		第1類	鳥	とり		第1類
腰	こし		第1類	西	にし		第1類
籠手	こて		第1類	庭	にわ		第1類
駒	こま		第1類	布	ぬの		第1類
薦	こも		第1類	軒	のき		第1類
此	これ		第1類	箱	はこ		第1類
先	さき		第1類	端	はし		第1類
鷺	さぎ		第1類	蓮	はす		第1類
縁	はた		第1類	友	とも	△	第1類
蜂	はち		第1類	真似	まね	△	第1類

鼻	はな		第1類	棟	むね	×	第1類
羽根	はね		第1類	籠	かご	*	第1類
灰	はい		第1類	仮名	かな	*	第1類
蠅	はえ		第1類	甲斐	かい	*	第1類
稗	ひい		第1類	株	かぶ	*	第1類
髯	ひげ		第1類	蚊帳	かや	*	第1類
膝	ひざ		第1類	胡麻	ごま	*	第1類
菱	ひし		第1類	城	しろ	*	第1類
暇	ひま		第1類	艶	つや	*	第1類
紐	ひも		第1類	藪	やぶ	*	第1類
鰭	ひれ		第1類	槍	やり	*	第1類
鱧	ふか		第1類	床	ゆか	*	第1類
蓋	ふた		第1類	百合	ゆり	★	第1類
札	ふだ		第1類	横	よこ	*	第1類
藤	ふじ		第1類	痣	あざ		第2類
筆	ふで		第1類	石	いし		第2類
笛	ふえ		第1類	岩	いわ		第2類
臍	へそ		第1類	歌	うた		第2類
星	ほし		第1類	音	おと		第2類
的	まと		第1類	垣	かき		第2類
舞	まい		第1類	方	かた		第2類
右	みぎ		第1類	型	かた		第2類
道	みち		第1類	川	かわ		第2類
水	みず		第1類	紙	かみ		第2類
峰	みね		第1類	北	きた		第2類
宮	みや		第1類	串	くし		第2類
虫	むし		第1類	鞍	くら		第2類
粩	もみ		第1類	下	しも		第2類
桃	もも		第1類	旅	たび		第2類
森	もり		第1類	度	たび		第2類
宵	よい		第1類	塚	つか		第2類
嫁	よめ		第1類	次	つぎ		第2類
丘	おか		第1類	蔦	つた		第2類
甥	おい		第1類	棲	つま		第2類
誰	だれ	×	第1類	弦	つる		第2類
何処	どこ	×	第1類	梨	なし		第2類
橋	はし		第2類	家	いえ		第3類
旗	はた		第2類	芋	いも		第3類
機	はた		第2類	色	いろ		第3類
肘	ひじ		第2類	蛆	うじ		第3類
昼	ひる		第2類	腕	うで		第3類
冬	ふゆ		第2類	畝	うね		第3類
町	まち		第2類	馬	うま		第3類
胸	むね		第2類	裏	うら		第3類
村	むら		第2類	鬼	おに		第3類
八重	やえ		第2類	親	おや		第3類
雪	ゆき		第2類	鍵	かぎ		第3類
故	ゆえ		第2類	勝ち	かち		第3類
業	わざ		第2類	神	かみ		第3類

鱒	あじ	×	第2類	髪	かみ		第3類
彼	あれ	×	第2類	瓶	かめ		第3類
栗毬	いが	△	第2類	菊	きく		第3類
門	かど	×	第2類	岸	きし		第3類
牙	きば	×	第2類	際	きわ		第3類
杭	くい	×	第2類	肝	きも		第3類
頃	ころ	×	第2類	茎	くき		第3類
蟬	せみ	×	第2類	草	くさ		第3類
妻	つま	×	第2類	櫛	くし		第3類
人	ひと	×	第2類	靴	くつ		第3類
姫	ひめ	×	第2類	熊	くま		第3類
文	ふみ	×	第2類	組	くみ		第3類
殻	から	*	第2類	倉	くら		第3類
為	ため	*	第2類	栗	くり		第3類
夏	なつ	*	第2類	苔	こけ		第3類
虹	にじ	★	第2類	事	こと		第3類
余所	よそ	*	第2類	米	こめ		第3類
垢	あか		第3類	坂	さか		第3類
足	あし		第3類	鏽	さび		第3類
明日	あす		第3類	竿	さお		第3類
網	あみ		第3類	舌	した		第3類
綾	あや		第3類	塩	しお		第3類
泡	あわ		第3類	潮	しお		第3類
池	いけ		第3類	島	しま		第3類
犬	いぬ		第3類	標	しめ		第3類
霜	しも		第3類	縁	ふち		第3類
尻	しり		第3類	幕	まく		第3類
鮭	すし		第3類	枺	ます		第3類
脛	すね		第3類	胯	また		第3類
炭	すみ		第3類	鞠	まり		第3類
墨	すみ		第3類	耳	みみ		第3類
芹	せり		第3類	室	むろ		第3類
丈	たけ		第3類	物	もの		第3類
谷	たに		第3類	樹脂	やに		第3類
柄	つか		第3類	山	やま		第3類
月	つき		第3類	闇	やみ		第3類
土	つち		第3類	指	ゆび		第3類
綱	つな		第3類	弓	ゆみ		第3類
角	つの		第3類	夢	ゆめ		第3類
面	つら		第3類	脇	わき		第3類
弟子	でし		第3類	腋	わき		第3類
時	とき		第3類	梓	わく		第3類
毒	どく		第3類	綿	わた		第3類
年	とし		第3類	麻	あさ	△	第3類
波	なみ		第3類	孔	あな	△	第3類
縄	なわ		第3類	皮	かわ	△	第3類
糠	ぬか		第3類	貝	かい	×	第3類
熨斗	のし		第3類	糞	くそ	△	第3類
蚤	のみ		第3類	桑	くわ	×	第3類

海苔	のり		第3類	雲	くも	×	第3類
墓	はか		第3類	太刀	たち	×	第3類
萩	はぎ		第3類	鯛	たい	×	第3類
刷毛	はけ		第3類	塔	たう	×	第3類
鉢	はち		第3類	玉	たま	△	第3類
恥	はじ		第3類	後	のち	△	第3類
撥	ばち		第3類	豆	まめ	△	第3類
花	はな		第3類	姪	めい	×	第3類
浜	はま		第3類	鰐	わに	×	第3類
腹	はら		第3類	濃	うみ	*	第3類
晴れ	はれ		第3類	恋	こい	*	第3類
輝	ひび		第3類	堀	ほり	*	第3類
房	ふさ		第3類	孫	まご	*	第3類
節	ふし		第3類	店	みせ	*	第3類
跡	あと		第4類	苗	なえ		第4類
栗	あわ		第4類	鑿	のみ		第4類
息	いき		第4類	箸	はし		第4類
板	いた		第4類	肌	はだ		第4類
市	いち		第4類	針	はり		第4類
何時	いつ		第4類	船	ふね		第4類
糸	いと		第4類	紅	べに		第4類
稲	いね		第4類	篋	へら		第4類
臼	うす		第4類	松	まつ		第4類
海	うみ		第4類	味噌	みそ		第4類
瓜	うり		第4類	蓑	みの		第4類
擧	かい		第4類	麦	むぎ		第4類
笠	かさ		第4類	毘	わな		第4類
糟	かす		第4類	藁	わら		第4類
数	かず		第4類	我	われ		第4類
肩	かた		第4類	桁	けた	×	第4類
角	かど		第4類	下駄	げた	×	第4類
鎌	かま		第4類	父	ちち	×	第4類
上	かみ		第4類	槌	つち	×	第4類
杵	きね		第4類	他	ほか	×	第4類
錐	きり		第4類	尼	あま	*	第4類
管	くだ		第4類	帯	おび	*	第4類
屑	くず		第4類	外	そと	*	第4類
今朝	けさ		第4類	乳	ちち	*	第4類
今日	きょう		第4類	罌	つば	*	第4類
鞆	さや		第4類	粒	つぶ	*	第4類
汁	しる		第4類	主	ぬし	*	第4類
筋	すじ		第4類	宿	やど	*	第4類
隅	すみ		第4類	秋	あき		第5類
銭	ぜに		第4類	汗	あせ		第5類
側	そば		第4類	虻	あぶ		第5類
空	そら		第4類	雨	あめ		第5類
種	たね		第4類	鮎	あゆ		第5類
罪	つみ		第4類	藍	あい		第5類
杖	つえ		第4類	蔭	かげ		第5類

咎	とが		第4類	黍	きび		第5類
中	なか		第4類	蜘蛛	くも		第5類
何	なに		第4類	琴	こと		第5類
鯉	こい		第5類	赤	あか	*	第5類
声	こえ		第5類	朝	あさ	*	第5類
猿	さる		第5類	兄	あに	*	第5類
足袋	たび		第5類	牡蠣	かき	*	第5類
常	つね		第5類	黒	くろ	*	第5類
露	つゆ		第5類	白	しろ	*	第5類
鶴	つる		第5類	鮭	さけ	★	第5類
鍋	なべ		第5類	縦	たて	*	第5類
鱧	はも		第5類	蛇	へび	★	第5類
春	はる		第5類	井戸	いど	*	第5類
蛭	ひる		第5類	上	うえ		第1か2類
鮒	ふな		第5類	うち	うち		第1か2類
窓	まど		第5類	先	さき		第1か2類
前	まえ		第5類	下	した		第1か2類
眉	まゆ		第5類	程	ほど		第1か2類
繭	まゆ		第5類	亀	かめ		第3か5類
鴛	むこ		第5類	鴨	かも		第3か5類
股	もも		第5類	蛸	たこ		第3か5類
桶	おけ		第5類				

3. アクセント語類と複合名詞アクセントに関する先行研究

和田（1943、1951）は後部2拍和語名詞につて、以下のように主張している。後部2拍名詞の金田一語類の所属と複合アクセントとの間に、次のような基本対応傾向（前部が3拍以上の時、よりはっきりとみられる）が、現代東京アクセント・近畿アクセントともに、観察されるという。

現代東京アクセントと近畿アクセントとにおいて、後部2拍名詞が金田一語類の

- a. 1 類語か2類語ならば、複合名詞のアクセントは、前部要素末尾拍に核が位置する。
 （特殊拍がらみで1拍前にずれる場合も含む）

（例： 「まだらうし」 ○●●○○（東京） | ○○●○○（近畿）、
 「みかげいし」 ○●●○○（東京） | ●●●○○（近畿）など）

- b. 3 類語ならば、複合名詞のアクセントは、核なし。

（例： 「あきたいぬ」 ○●●●●（東京） | ○○○○●（近畿）

- c. 4 類語か5類語ならば、複合名詞のアクセントは、後部要素先頭拍に核が位置する。

（例： 「さんどがさ」 ○●●●○（東京） | ●●●●○（近畿）、
 「てながざる」 ○●●●○（東京） | ○○○●○（近畿）など）

前田（2000）は、和田（1943、1951）の仮説を検証するため、杉藤アクセント辞典を利用して調べたその結果が次のようになる。

後部に2拍要素をもつ5拍以上の複合名詞の現代東京・近畿アクセントが、後部2拍名詞の金田一語類における所属に応じ、両者一致した振る舞いを示す。ただし、3類語は平板型だけではなく、前部要素末尾拍に核が位置する場合もかなりある。

前田（2000）により、取り出された複合名詞797語のアクセントは以下のようになる。

<東京>	(甲) 前部要素末尾音節にアクセント核	…403 語 (51%)
	(乙) アクセント核なし (平板アクセント)	…261 語 (33%)
	(丙) 後部要素先頭音節にアクセント核	…127 語 (16%)
	(その他)	…6 語
<大阪>	(甲) 前部要素末尾拍 or 音節にアクセント核	…509 語 (64%)
	(乙) アクセント核なし (平板アクセント)	…166 語 (21%)
	(丙) 後部要素先頭拍 (or 音節) にアクセント核	…120 語 (15%)
	(その他)	…3 語

現代東京アクセント・大阪アクセント、いずれの場合も、複合名詞アクセントとして、所属語数が最も多い「基本アクセント型」は、(甲) タイプのものであることが、確認できる。(丙) 型アクセントと (乙) 型アクセント形成傾向が強い。

「(丙) タイプ複合語を形成する力の強い、2 拍和語 13 語」の内、4、5 類語は 12 語ある。「(乙) タイプ複合語を形成する力の強い、2 拍和語 20 語」の内、3 類語は 12 語、2 類語が 1 語、1 類語が 6 語、語類不明が 1 語である。複合語アクセントが平板になりやすいのは、後部要素に 3 類語が立った場合だという傾向は読み取れる。ただし、3 類語のうちそのような傾向を見せず、基本アクセント型である (甲) タイプのアクセントを取るものが、「それ以外の、2 拍和語 30 語」に掲げた 7 語である。また、「それ以外の、2 拍和語 30 語」について、1、2 類語は 22 語、3 類語が 7 語、4 類語が 1 語である。

表 22 前田 (2000) (丙) タイプ複合語を形成する力の強い、2 拍和語 13 語

語類	読み	表記	複合語計	東(甲)	東(乙)	東(丙)	その他	大(甲)	大(乙)	大(丙)	その他
5	あめ	雨	6			6		6			
5	こえ	声	22		1	21		1		21	
5	まえ	前	9	2	4	3		1	5	3	
5	まど	窓	11			11				11	
4	いた	板	15	1	1	13		13			2
4	いと	糸	7	1		6		7			
4	しる	汁	9			9		1		8	
4	はり	針	6			6		1		5	
4	ふね	船	16			16		12		4	
4	まつ	松	6	4		2		6			
4	おび	帯	13			13		3		10	
4	やね	屋根	7			7		2		5	
3	くも	雲	11			11		10		1	

表 23 前田 (2000) (乙) タイプ複合語を形成する力の強い、2 拍和語 20 語

語類	読み	表記	複合語計	東(甲)	東(乙)	東(丙)	その他	大(甲)	大(乙)	大(丙)	その他
3	いろ	色	52		52				52		
3	うら	裏	5		5				5		
3	かみ	髪	16	6	10			6		10	
3	くみ	組	5		5				5		
3	こと	事	22		16		6		22		
3	さか	坂	5	1	4			5			
3	とき	時	7	1	6			7			
3	ばら	腹	6		6				6		
3	ふし	節	15		15				15		
3	たま	玉	11		11				11		
3	まめ	豆	8		8			7		1	
3	しま	縞	5		5				5		
2	かた	型	16		16				16		
1	かお	顔	26		24	2		15		11	
1	こし	腰	8	4	4			7	1		
1	さき	先	18	1	17			15	2	1	
1	たな	棚	10	5	5			10			
1	がら	柄	5		5				5		
1	した	下	7	1	6				7		
?	こや	小屋	8		8				7		1

表 24 前田（2000）それ以外の、2 拍和語 30 語

語類	読み	表記	複合語計	東(甲)	東(乙)	東(丙)	その他	大(甲)	大(乙)	大(丙)	その他
1	あめ	貽	7	7				7			
1	かぜ	風	10	8	2			10			
1	かね	金	9	6	3			8		1	
1	くち	口	43	35	8			42	1		
1	さけ	酒	12	11	1			12			
1	とり	鳥	8	8				8			
1	はこ	箱	25	25				25			
1	ふだ	札	6	6				6			
1	ほし	星	5	5				5			
1	みず	水	14	14				14			
1	みち	道	16	14	2			16			
1	むし	虫	24	24				24			
1	かぶ	株	21	21				21			
1	はば	幅	5	5				5			
1	もち	餅	17	17				17			
2	いし	石	13	13				13			
2	うた	歌	16	16				16			
2	かみ	紙	28	22	6			7		21	
2	はし	橋	5	4	1			5			
2	まち	町	7	7				7			
2	ゆき	雪	7	7				7			
2	ひと	人	8	8				8			
3	あし	足	20	19	1			19			
3	あみ	網	19	17	2			19			
3	かみ	神	7	7				4		3	
3	くさ	草	17	16	1			17			
3	すし	鮎	5	5				3		2	
3	とし	年	6	6				6			
3	かい	貝	13	13				13			
4	すじ	筋	11	10		1		9		2	

4. 3 者の比較

3 節では、前田（2000）が杉藤アクセント辞典から後部要素が 2 拍和語の複合名詞を取り出し調査を行ったことを紹介したが、取り出した後部要素はどのぐらい金田一語類分類表に当てはまるか。また、1 節では、Rosen（2001）が自分の連濁分類により、「rendaku immune」に属する 2 拍和語と「rendaku lover」に属する 2 拍和語の単語リストを作成し、複合名詞の例を挙げて連濁分類の調査を行ったことを紹介したが、金田一の語類分類表と対照しながら、Rosen による連濁の分類と、語類の関係を見つけ出した。そして、ローゼンの単語リストと前田が検証済みの単語を比較し、連濁の分類と複合名詞のアクセントの関係性を見つけ出したい。

4. 1 金田一の語彙分類表に基づく単語リスト

金田一の語彙分類表の中から、2 拍和語名詞を取り出し単語リストを作った。そのうえで、3 節に前田（2000）が扱った表 22～表 24 の単語と Rosen（2001）の単語を当てはめて比較する。

次の表 25 から表 28 が示すように、取り扱った単語と語彙は金田一語彙分類表により、そのうえで、前田が扱った単語は●で示し、Rosen が扱った単語は○で示す。影の部分は連濁可能な単語である（連濁可能な単語は無声障害音で始まる要素である。また、ライマンの法則は連濁を阻止する）。

表 25 金田一語類分類表に基づく 3 者比較する表

金田一	読み	前田	Rosen	語類	連濁	金田一	読み	前田	Rosen	語類	連濁	金田一	読み	前田	Rosen	語類	連濁
灰汁	あく			第1類	連濁不関与	酒	さけ	●	○	第1類	lover	縁	はた			第1類	
姉	あね			第1類	連濁不関与	笹	ささ		○	第1類	lover	蜂	はち		○	第1類	lover
鮎	あめ	●		第1類	連濁不関与	里	さと		○	第1類	lover	鼻	はな		○	第1類	lover
蟻	あり			第1類	連濁不関与	鯖	さば			第1類	ライマンの法則	羽根	はね			第1類	
鳥賊	いか			第1類	連濁不関与	鮫	さめ		○	第1類	lover	灰	はい		○	第1類	lover
牛	うし			第1類	連濁不関与	皿	さら		○	第1類	lover	蠟	はえ		○	第1類	lover
梅	うめ			第1類	連濁不関与	品	しな			第1類	ライマンの法則	稗	ひい			第1類	
魚	うお			第1類	連濁不関与	芝	しば			第1類	ライマンの法則	髯	ひげ			第1類	ライマンの法則
枝	えだ			第1類	連濁不関与	皺	しわ			第1類		膝	ひざ			第1類	ライマンの法則
海老	えび			第1類	連濁不関与	鋤	すき			第1類		菱	ひし			第1類	
柿	かき		○	第1類	lover	裾	すそ			第1類	ライマンの法則	暇	ひま			第1類	
窟	かき			第1類		鈴	すず			第1類	ライマンの法則	紐	ひも		○	第1類	immune
風	かせ	●		第1類	ライマンの法則	裾	すそ		○	第1類	immune	鱧	ひれ		○	第1類	lover
蟹	かに		○	第1類	lover	末	すえ			第1類		鱧	ふか			第1類	
金	かね	●	○	第1類	lover	底	そこ		○	第1類	lover	蠶	ふた		○	第1類	
鐘	かね			第1類		袖	そで			第1類	ライマンの法則	札	ふだ		●	第1類	ライマンの法則
壁	かべ			第1類	ライマンの法則	其	その			第1類		藤	ふじ			第1類	ライマンの法則
顔	かお	●	○	第1類	lover	鷹	たか			第1類		筆	ふで			第1類	ライマンの法則
釜	かま		○	第1類	lover	滝	たき			第1類		笛	ふえ		○	第1類	lover
粥	かゆ		○	第1類	lover	竹	たけ		○	第1類	lover	膾	へそ			第1類	
雄子	まじ			第1類	ライマンの法則	竜	たつ			第1類		星	ほし	●	○	第1類	lover
瓮	ます			第1類	ライマンの法則	蓼	たで			第1類	ライマンの法則	的	まと			第1類	連濁不関与
君	きみ			第1類		棚	たな	●	○	第1類	lover	舞	まい			第1類	連濁不関与
桐	きり			第1類		塵	ちり			第1類		右	みぎ			第1類	連濁不関与
霧	きり		○	第1類	lover	筒	つつ		○	第1類	lover	道	みち		●	第1類	連濁不関与
釘	くぎ			第1類	ライマンの法則	壺	つぼ			第1類	ライマンの法則	水	みず		●	第1類	連濁不関与
口	くち	●	○	第1類	lover	爪	つめ		○	第1類	lover	峰	みね			第1類	連濁不関与
国	くに		○	第1類	lover	釣	つり			第1類		宮	みや			第1類	連濁不関与
頸	くび			第1類	ライマンの法則	床	とこ			第1類		虫	むし		●	第1類	連濁不関与
鯨	くわ			第1類		虎	とら			第1類		靱	もみ			第1類	連濁不関与
腰	くれ			第1類		鳥	とり	●	○	第1類	lover	桃	もも			第1類	連濁不関与
腰	こし	●	○	第1類	lover	西	にし			第1類	連濁不関与	森	もり			第1類	連濁不関与
籠手	こて			第1類		庭	にわ			第1類	連濁不関与	宵	よい			第1類	連濁不関与
駒	こま			第1類		布	ぬの			第1類	連濁不関与	嫁	よめ			第1類	連濁不関与
薨	こも		○	第1類	lover	軒	のき			第1類	連濁不関与	丘	おか			第1類	連濁不関与
此	これ			第1類		箱	はこ	●	○	第1類	lover	甥	おい			第1類	連濁不関与
先	さき	●	○	第1類	immune	端	はし			第1類		誰	だれ	×		第1類	連濁不関与
鷺	さぎ			第1類	ライマンの法則	運	はす			第1類		何処	どこ	×		第1類	連濁不関与

表 26 金田一語類分類表に基づく 3 者比較する表

金田一	読み	前田	Rosen	語類	連濁	金田一	読み	前田	Rosen	語類	連濁	金田一	読み	前田	Rosen	語類	連濁
友	とも	△		第1類		橋	はし	●	○	第2類	lover	家	いえ			第3類	連濁不関与
真似	まね	△		第1類	連濁不関与	旗	はた			第2類	lover	芋	いも			第3類	連濁不関与
棟	むね	×		第1類	連濁不関与	機	はた			第2類		色	いろ		●	第3類	連濁不関与
籠	かご	*		第1類	ライマンの法則	肘	ひじ			第2類	ライマンの法則	蛆	うじ			第3類	連濁不関与
仮名	かな	*		第1類	lover	昼	ひる			第2類		腕	うで			第3類	連濁不関与
甲斐	かい	*	○	第1類		冬	ふゆ			第2類		歌	うた			第3類	連濁不関与
株	かぶ	*	●	第1類	ライマンの法則	町	まち	●		第2類	連濁不関与	馬	うま			第3類	連濁不関与
蚊帳	かや	*		第1類		胸	むね			第2類	連濁不関与	裏	うら		●	第3類	連濁不関与
胡麻	ごま	*		第1類	連濁不関与	村	むら			第2類	連濁不関与	鬼	おに			第3類	連濁不関与
艶	しろ	*	○	第1類	lover	八重	やえ			第2類	連濁不関与	親	おや			第3類	連濁不関与
城	つや	*		第1類	連濁不関与	雪	ゆき	●		第2類	連濁不関与	鍵	かぎ			第3類	ライマンの法則
藪	やぶ	*		第1類	連濁不関与	故	ゆえ			第2類	連濁不関与	勝ち	かち			第3類	
槍	やり	*		第1類	連濁不関与	業	わざ			第2類	連濁不関与	神	かみ		●	第3類	lover
床	ゆか	*		第1類	連濁不関与	繻	あじ	×		第2類	連濁不関与	髪	かみ		●	第3類	lover
百合	ゆり	*		第1類	連濁不関与	彼	あれ	×		第2類		瓶	かめ			第3類	
横	よこ	*		第1類	連濁不関与	粟徑	いが	△		第2類	連濁不関与	菊	きく			第3類	
瘧	あざ	*		第2類	連濁不関与	門	かど	×		第2類	ライマンの法則	岸	きし			第3類	
石	いし	●		第2類	連濁不関与	牙	きば	×		第2類	ライマンの法則	際	きわ		○	第3類	lover
岩	いわ			第2類	連濁不関与	杭	くい	×	○	第2類	lover	肝	きま		○	第3類	lover
歌	うた	●		第2類	連濁不関与	頃	ころ	×		第2類		葦	くき		○	第3類	lover
音	おと			第2類	連濁不関与	蛭	せみ	×	○	第2類	lover	草	くさ		●	第3類	
垣	かき		○	第2類	lover	妻	つま	×	○	第2類	lover	櫛	くし		○	第3類	lover
方	かた			第2類		人	ひと	×	●	第2類	lover	靴	くつ			第3類	lover
型	かた	●	○	第2類	lover	姫	ひめ	×	○	第2類	immune	熊	くま		○	第3類	lover
川	かわ			第2類	lover	文	ふみ	×	○	第2類	lover	組	くみ		●	第3類	
紙	かみ	●	○	第2類	lover	穀	から	*	○	第2類	lover	倉	くら		○	第3類	lover
北	きた			第2類		為	ため	*		第2類		栗	くり			第3類	lover
串	くし		○	第2類	lover	夏	なつ	*		第2類	連濁不関与	苔	こけ		○	第3類	lover
鞍	くら			第2類		虹	にじ	★		第2類	連濁不関与	事	こと		●	第3類	lover
下	しも			第2類		余所	よそ	*		第2類	連濁不関与	米	こめ		○	第3類	lover
旅	たび			第2類	ライマンの法則	垢	あか			第3類	連濁不関与	坂	さか		●	第3類	
度	たび			第2類	ライマンの法則	足	あし	●		第3類	連濁不関与	錆	さび			第3類	ライマンの法則
塚	つか		○	第2類	lover	明日	あす			第3類	連濁不関与	竿	さお		○	第3類	lover
次	つぎ			第2類	ライマンの法則	網	あみ	●		第3類	連濁不関与	舌	した			第3類	
葛	つた			第2類		綾	あや			第3類	連濁不関与	塩	しお		○	第3類	lover
捷	つま			第2類		泡	あわ			第3類	連濁不関与	潮	しお		○	第3類	immune
弦	つる			第2類		池	いけ			第3類	連濁不関与	鳥	しま			第3類	
梨	なし			第2類	連濁不関与	犬	いぬ			第3類	連濁不関与	標	しめ			第3類	

表 27 金田一語類分類表に基づく 3 者比較する表

金田一	読み	前田	Rosen	語類	連濁	金田一	読み	前田	Rosen	語類	連濁	金田一	読み	前田	Rosen	語類	連濁	
霜	しも			第3類		跡	あと			第4類	連濁不関与	躰	かひ			第4類		
尻	しり		○	第3類	lover	粟	あわ			第4類	連濁不関与	笠	かさ		○	第4類	lover	
鮎	すし	●	○	第3類	lover	息	いき			第4類	連濁不関与	槽	かす		○	第4類	immune	
すね	すね			第3類		板	いた	●		第4類	連濁不関与	数	かず			第4類	ライマンの法則	
尻	すみ		○	第3類	lover	市	いち			第4類	連濁不関与	肩	かた		○	第4類	immune	
墨	すみ		○	第3類	lover	何時	いつ			第4類	連濁不関与	角	かど			第4類	ライマンの法則	
岸	せり			第3類		糸	いと	●		第4類	連濁不関与	鎌	かま			第4類		
丈	たけ		○	第3類	immune	稲	いね			第4類	連濁不関与	上	かみ		○	第4類	immune	
谷	たに			第3類		白	うす			第4類	連濁不関与	杵	きね			第4類		
柄	つか		○	第3類	lover	海	うみ			第4類	連濁不関与	錐	きり			第4類		
月	つき			第3類		瓜	うり			第4類	連濁不関与	管	くだ			第4類	ライマンの法則	
土	つち		○	第3類	immune	襪	かひ			第4類		層	くず			第4類	ライマンの法則	
綱	つな		○	第3類	lover	笠	かさ			第4類	lover	屏	くず			第4類	immune	
角	つら			第3類		槽	かす		○	第4類	immune	数	かず			第4類	ライマンの法則	
面	つら			第3類		数	かず			第4類	ライマンの法則	肩	かた		○	第4類	immune	
でし				第3類	連濁不関与	角	かど			第4類	ライマンの法則	鎌	かま			第4類		
時	とき	●	○	第3類	lover	鎌	かま			第4類		上	かみ		○	第4類	immune	
毒	どく			第3類	連濁不関与	年	とし	●	○	第3類	lover	杵	きね			第4類		
波	なみ			第3類	連濁不関与	波	なみ			第3類	連濁不関与	皮	かわ	△		第3類		
縄	なわ			第3類	連濁不関与	縄	なわ			第3類	連濁不関与	皮	かわ	△		第3類		
糠	ぬか			第3類	連濁不関与	糠	ぬか			第3類	連濁不関与	貝	かい	×	●	○	第3類	lover
熨斗	のし			第3類	連濁不関与	熨斗	のし			第3類	連濁不関与	養	くそ	△		○	第3類	immune
蚤	のみ			第3類	連濁不関与	蚤	のみ			第3類	連濁不関与	柔	くわ	×			第3類	
海苔	のり			第3類	連濁不関与	海苔	のり			第3類	連濁不関与	雲	くも	×	●	○	第3類	lover
菓	はか			第3類		菓	はか			第3類		鯛	たい	×			第3類	
萩	はぎ			第3類	ライマンの法則	萩	はぎ			第3類	ライマンの法則	鯛	たい	×			第3類	
刷毛	はけ			第3類		刷毛	はけ			第3類		塔	たう	×			第3類	
鉢	はち			第3類		鉢	はち			第3類		玉	たま	△	●	○	第3類	lover
恥	はじ			第3類	ライマンの法則	恥	はじ			第3類	ライマンの法則	後	のち	△			第3類	連濁不関与
撥	ばち			第3類	連濁不関与	撥	ばち			第3類	連濁不関与	豆	まめ	△	●		第3類	連濁不関与
花	はな		○	第3類	lover	花	はな		○	第3類	lover	姪	めい	×			第3類	連濁不関与
浜	はま			第3類		浜	はま			第3類		鱒	わに	×			第3類	連濁不関与
腹	はら	●	○	第3類	lover	腹	はら			第3類	lover	鱒	うみ	*			第3類	連濁不関与
晴れ	はれ			第3類		晴れ	はれ			第3類		恋	こい	*	○		第3類	immune
輝	ひび			第3類	ライマンの法則	輝	ひび			第3類	ライマンの法則	堀	ほり	*			第3類	
房	ふさ		○	第3類	lover	房	ふさ		○	第3類	lover	孫	まご	*			第3類	連濁不関与
節	ふし	●	○	第3類	lover	節	ふし		○	第3類	lover	店	みせ	*			第3類	連濁不関与

表 28 金田一語類分類表に基づく 3 者比較する表

金田一	読み	前田	Rosen	語類	連濁	金田一	読み	前田	Rosen	語類	連濁	金田一	読み	前田	Rosen	語類	連濁
雷	なえ			第4類	連濁不関与	鯉	こい			第5類		鳩	はと		○	3か5	lover
撃	のめ			第4類	連濁不関与	声	こえ	●		第5類		今	いま			4か5	連濁不関与
箸	はし		○	第4類	lover	猿	さる		○	第5類	lover	夜	よる			4か5	連濁不関与
肌	はだ			第4類	ライマンの法則	足袋	たび			第5類	ライマンの法則	ここ	ここ			1か2か4	
針	はり	●	○	第4類	lover	常	つね			第5類		そこ	そこ			1か2か4	
船	ふね	●	○	第4類	lover	露	つゆ		○	第5類	immune	沖	おき				連濁不関与
紅	べに			第4類	連濁不関与	鶴	つる		○	第5類	lover	奥	おく				連濁不関与
筥	へら			第4類		鐘	なべ			第5類	連濁不関与	供	とも				
松	まつ	●		第4類	連濁不関与	鱧	はち			第5類		本	もと				連濁不関与
味噌	みそ			第4類	連濁不関与	春	はる			第5類		元	もと				連濁不関与
養	みの			第4類	連濁不関与	蛙	ひる			第5類		許	もと				連濁不関与
麦	むぎ			第4類	連濁不関与	鮎	ふな			第5類							
畏	わな			第4類	連濁不関与	窓	まど	●		第5類	連濁不関与						
蕪	わら			第4類	連濁不関与	前	まえ	●		第5類	連濁不関与						
我	われ			第4類	連濁不関与	眉	まゆ			第5類	連濁不関与						
桁	けた	×		第4類	lover	蘭	まゆ			第5類	連濁不関与						
下駄	げた	×	○	第4類	連濁不関与	智	むこ			第5類	連濁不関与						
父	ちち	×		第4類		股	もも			第5類	連濁不関与						
榎	つち	×	○	第4類	lover	桶	おけ			第5類	連濁不関与						
他	ほか	×		第4類		青	あお	*		第5類	連濁不関与						
尼	あま	*		第4類	連濁不関与	赤	あか	*		第5類	連濁不関与						
帯	おび	●		第4類	連濁不関与	朝	あさ	*		第5類	連濁不関与						
外	そと	*		第4類		兄	あに	*		第5類	連濁不関与						
乳	ちち	*		第4類		牡蠣	かき	*	○	第5類	lover						
鏝	つば	*		第4類	ライマンの法則	黒	くろ	*		第5類							
粒	つぶ	*		第4類	ライマンの法則	白	しろ	*		第5類							
主	ぬし	*		第4類	連濁不関与	蛙	さけ	*		第5類							
宿	やど	*		第4類	連濁不関与	縦	たて	*		第5類							
秋	あき			第5類	連濁不関与	蛇	へび	*		第5類	ライマンの法則						
汗	あせ			第5類	連濁不関与	井戸	いど	*		第5類	連濁不関与						
蛇	あふ			第5類	連濁不関与	上	うへ			1か2	連濁不関与						
雨	あめ	●		第5類	連濁不関与	うち	うち			1か2	連濁不関与						
鮎	あゆ			第5類	連濁不関与	先	さき			1か2							
藍	あい			第5類	連濁不関与	下	した	●		1か2							
蔭	かげ			第5類	ライマンの法則	程	ほど			1か2	ライマンの法則						
黍	きび			第5類	ライマンの法則	鳥	かみ		○	3か5	lover						
蜘蛛	くも			第5類		鴨	かも			3か5							
琴	こと			第5類		鰯	たこ			3か5							

4. 2 アクセント語類と連濁の 3 分類

連濁不関与の項目とライマンの法則で連濁を阻止する項目を除く、表 25~28 の中に影をかけている項目は連濁する可能性がある項目を示している。影をかけている項目の「連濁」欄の空欄の項目は、Rosen が扱っていない「rendaku lover」、「rendaku hater」と「rendaku immune」のいずれかに属することが予測される (Rosen 2001 の単語リストは「rendaku hater」のリストがなく、「rendaku lover」と「rendaku immune」の例

だけを扱っている)。一方、Rosen が扱った単語において、特定の語類に「rendaku lover」あるいは「rendaku immune」が集中しているかどうかを確認するために、以下の表 29 を作ってまとめた。

表 29 金田一語彙表における各語類の語の数

語類	金田一	前田	Rosen	
			lover	immune
第1類	130	17	33	3
第2類	52	8	14	1
第3類	122	20	30	5
第4類	66	8	9	3
第5類	40	4	3	1
1か2	5	1		
3か5	4			2
4か5	2			
1か2か4	2			
そのほか	6	5	22	6
合計	429	63	111	21

表 29 は前田が扱った単語と、Rosen が扱った単語を、金田一の語彙表に当てはまると、その語数を示す。「そのほか」の項目については、金田一が語類を示さない単語、または前田と Rosen が扱った単語は金田一語彙表にない単語である。

全体的には、「rendaku lover」と「rendaku immune」の分布は特定の語類に集中していない。Rosen が扱った単語の語数は少ないが、「rendaku lover」の単語と「rendaku immune」の単語が各語類における分布は、金田一の語類表に、単語が各語類における分布と類似している。つまり、連濁の分類と語類と、直接な関連性がない。

ただし、Rosen が扱った単語の中、表 29 の「そのほか」の項目に属する 28 語（「rendaku lover」22 語と「rendaku immune」6 語）は、金田一語類分類表にない単語である。連濁の分類と語類の関係性について、この 28 語を詳しく調査することは今後の課題にする。

「そのほか」項目の「rendaku lover」22 語：

風呂（ふろ）、骨（ほね）、縁（へり）、櫃（ひつ）、絹（きぬ）、園（その）、矛（ほこ）、苞（つと）、窯（かま）、彦（ひこ）、肥（こえ）、埼（さき）、片（ひら）、形（かた）、紫蘇（しそ）、言（こと）、霊（たま）、縞（しま）、沢（さわ）、寺（てら）、茸（ふき）、側（がわ）

「そのほか」項目の「rendaku immune」6 語：

虻（けら）、代（しろ）、茸（たけ）、民（たみ）、枷（かせ）、暈（かさ）

「rendaku lover」22 語の「側（がわ）」は、連濁不関与語であるが、Rosen がそれを「rendaku lover」の分類に入れた。また、「rendaku immune」6 語の「茸（たけ）」は、単独で使わない語であり、複合語の後部要素として、「rendaku immune」の分類に入ったことに疑問がある。

4. 3 アクセント語類と連濁と複合名詞のアクセント

Rosen (2003) は連濁分類の中の「rendaku lover」について、「Second member usually or always voices」と定義している。つまり、「rendaku lover」としての後部要素

は、複合して複合名詞になる際に、いつも、又はよく連濁することである。

前田（2000）が調査して検証済みの単語は、後部要素として複合名詞になる時、複合名詞のアクセントが分かる。Rosen（2001）が扱った単語は、複合する際に、後部要素が連濁するか否やのことが分かる。したがって、両者が扱った単語リストの中で、一致している単語取り出して比較すると、連濁と複合名詞のアクセントの関係が見つけられる。

両者が扱った単語リストの中に、一致している単語（表 25～28 の中で、「●」と「○」が両方ある項目）は表 30 のように示している。表の右端の一行「型」は、前田（2000）による複合名詞のアクセント型を示す。

「rendaku immune」の語数は少ない一方、両者が扱った単語が一致している項目では、「rendaku lover」の語数は圧倒的に多い。Rosen が扱った単語リストは「rendaku lover」「rendaku immune」しかないため、表 25～28 の中に「○」がついてない単語は、連濁の分類が不明となる語（「rendaku lover」、「rendaku immune」と「rendaku hater」のいずれかとなる可能性がある）、連濁不関与の語、ライマンの法則で連濁を阻止する語の3つのいずれかに属するはずである。連濁が起ったものと、連濁が起らないものの複合名詞のアクセントを比較するために、前田（2000）だけが扱った語（「●」しかない項目）を取り出した。

表 30 前田（2000）と Rosen（2001）の単語が一致している項目

語彙	読み	前田	Rosen	語類	連濁	型
金	かね	●	○	第1類	lover	甲
顔	かお	●	○	第1類	lover	乙
口	くち	●	○	第1類	lover	甲
腰	こし	●	○	第1類	lover	乙
酒	さけ	●	○	第1類	lover	甲
棚	たな	●	○	第1類	lover	乙
鳥	とり	●	○	第1類	lover	甲
箱	はこ	●	○	第1類	lover	甲
星	ほし	●	○	第1類	lover	甲
先	さき	●	○	第1類	immune	乙
型	かた	●	○	第2類	lover	乙
紙	かみ	●	○	第2類	lover	甲
橋	はし	●	○	第2類	lover	甲
人	ひと	×	○	第2類	lover	甲
神	かみ	●	○	第3類	lover	甲
髪	かみ	●	○	第3類	lover	乙
事	こと	●	○	第3類	lover	乙
鮎	すし	●	○	第3類	lover	甲
時	とき	●	○	第3類	lover	乙
午	とし	●	○	第3類	lover	甲
腹	はら	●	○	第3類	lover	乙
節	ふし	●	○	第3類	lover	乙
貝	かい	×	○	第3類	lover	甲
雲	くも	×	○	第3類	lover	丙
玉	たま	△	○	第3類	lover	乙
汁	しる	●	○	第4類	lover	丙
針	はり	●	○	第4類	lover	丙
船	ふね	●	○	第4類	lover	丙

表 31 は前田（2000）だけが扱った語の項目を示している。連濁不関与の語とライマンの法則で連濁を阻止する語は連濁が起らない。（影の項目について、連濁の分類は不明である「組」（くみ）、「坂」（さか）、「声」（こえ）の3つの項目を比較対象から除く）

表 31 前田 (2000) だけが扱った語の項目

語彙	読み	前田	Rosen	語類	連濁	型
飴	あめ	●		第1類	連濁不関与	甲
風	かぜ	●		第1類	ライマンの法則	甲
札	ふだ	●		第1類	ライマンの法則	甲
道	みち	●		第1類	連濁不関与	甲
水	みず	●		第1類	連濁不関与	甲
虫	むし	●		第1類	連濁不関与	甲
株	かぶ *	●		第1類	ライマンの法則	甲
石	いし	●		第2類	連濁不関与	甲
歌	うた	●		第2類	連濁不関与	甲
町	まち	●		第2類	連濁不関与	甲
雪	ゆき	●		第2類	連濁不関与	甲
足	あし	●		第3類	連濁不関与	甲
網	あみ	●		第3類	連濁不関与	甲
色	いろ	●		第3類	連濁不関与	乙
裏	うら	●		第3類	連濁不関与	乙
草	くさ	●		第3類		甲
組	くみ	●		第3類		乙
坂	さか	●		第3類		乙
豆	まめ △	●		第3類	連濁不関与	乙
板	いた	●		第4類	連濁不関与	乙
糸	いと	●		第4類	連濁不関与	丙
筋	すじ	●		第4類	ライマンの法則	甲
松	まつ	●		第4類	連濁不関与	丙
帯	おび *	●		第4類	連濁不関与	丙
雨	あめ	●		第5類	連濁不関与	丙
声	こえ	●		第5類		丙
窓	まど	●		第5類	連濁不関与	丙
前	まえ	●		第5類	連濁不関与	丙
下	した	●		1か2		乙

「草」(くさ)については、1 節で述べたように、Rosen (2001) は「草」(くさ)を「前部要素の長さで連濁を決める傾向が見られる」類に分類しており、連濁の 3 分類の範囲から離れたため、「草」(くさ)の項目を比較対象から除く。

「下」(した)について、前田は (2003) は 1 類だと分類しているが、金田一語類の分類では、「下」を「1 類か 2 類」に分類した。Rosen (2001) の単語リストには「下」(した)がないが、後で公開された論文の Rosen (2003) では、「下」(した)を「rendaku immune」に分類している。ここでは、金田一の分類に従い、「下」(した)を「1 類か 2 類」に分類するが、表では「rendaku immune」の項目特別項目として示す。まとめたものは次の表 32 のように示す。

表 32 アクセント語類と連濁と複合名詞アクセントの関係

連濁が起らない				連濁が起る			
語類	語彙	読み	連濁	語類	語彙	読み	連濁
第 1 類	飴	あめ	連濁不関与	第 1 類	金	かね	lover
	風	かぜ	ライマンの法則		顔	かお	lover
	札	ふだ	ライマンの法則		口	くち	lover
	道	みち	連濁不関与		酒	さけ	lover
	水	みず	連濁不関与		棚	たな	lover
	虫	むし	連濁不関与		鳥	とり	lover
	先	さき	immune		箱	はこ	lover
	下	した	immune		星	ほし	lover
	株	かぶ *	ライマンの法則		腰	こし	lover
第 2 類	石	いし	連濁不関与	第 2 類	型	かた	lover
	歌	うた	連濁不関与		紙	かみ	lover
	町	まち	連濁不関与		橋	はし	lover
雪	ゆき	連濁不関与	人	ひと	lover		
第 3 類	足	あし	連濁不関与	第 3 類	神	かみ	lover
	網	あみ	連濁不関与		髪	かみ	lover
	色	いろ	連濁不関与		事	こと	lover
	裏	うら	連濁不関与		斬	ずし	lover
豆	まめ △	連濁不関与	時		とき	lover	
年	とし	lover	腹		はら	lover	
節	ふし	lover	貝		かい	lover	
具	かひ	lover	雲		くも	lover	
霊	くも	lover	玉		たま	lover	
主	たま	lover					
第 4 類	板	いた	連濁不関与	第 4 類	汁	しる	lover
	糸	いと	連濁不関与		針	はり	lover
	筋	すじ	ライマンの法則		船	ふね	lover
	松	まつ	連濁不関与				
帯	おび *	連濁不関与					
第 5 類	雨	あめ	連濁不関与	第 5 類	窓	まど	lover
	前	まえ	連濁不関与		前	まえ	lover
	下	した	連濁不関与				

表 32 から以下の 3 つの傾向がみられる：

①第 1 類かつ「rendaku immune」の単語は、複合して複合名詞のアクセントが乙型（平板型）になる傾向がみられる。調査対象としての単語の数は少ないが、元々「rendaku immune」に属する単語の数も少ない。左側の「連濁が起らない」の項目の中で、「rendaku immune」の 2 つの単語を除き、第 1 類の項目の複合名詞のアクセントは全部甲型（前部要素末尾音節にアクセント核を置く）となる。

②第 1 類語と第 2 類語ともに、連濁することによって、複合名詞のアクセントが乙型になることが増えている。

③第 4 類語において、連濁することによって、複合名詞のアクセントは丙型（後部要素先頭音節にアクセント核を置く）になる傾向が見られる。一方、連濁が起らない場合、「板」（いた）や「筋」（すじ）の項目の複合名詞のアクセントは、丙型以外の甲型と乙型もある。

4. 4 3 者比較のまとめ

本節は、前田（2000）が扱っている後部要素が 2 拍和語の複合名詞と、金田一語類分類表にある 2 拍和語と、Rosen（2001）の 3 分類に見られる 2 拍和語と、対照しながらアクセント語類と複合名詞アクセントの関係について検討を行った。その結果、後部要素が 2 拍和語の複合名詞において、語類を通して、連濁と複合名詞のアクセントの関連性に関する傾向がみられる。さらに、語類によって、連濁が複合名詞のアクセントに与える影響も違っている。

しかし、調査は不十分、調査語数が少ないなどの問題がある。例えば、前田（2000）は 5 類の連濁が起らない項目しか調査できなかったが、それと比較対象となる 5 類の連濁が起る項目がないため、比較調査は成立しなかった。しかし、Rosen（2001）の単語リストでは、5 類の連濁が起る語がないことはない。

次節は、Rosen の 3 分類について、作成したアクセントデータベースを用い、金田一が挙げられた後部要素が 2 拍和語名詞の単一形態素が複合名詞になる時の、3 分類のどちらかに属するべきかを再考察する。さらに、語類と連濁とアクセントの関係について、語彙を分析しながら検討を行う。

5. アクセントデータベースを用いる再考察

2 節では、2 拍和語の金田一語類分類表を挙げたが、それを後部要素として、アクセントデータベースから、それらの複合名詞を取り出し、さらに Rosen の 3 分類の概念で後部要素の 2 拍和語を分類する。まとめたものは表 33 のように示す。

- (
- ・統計の便宜上、複合名詞のアクセントの第 1 アクセントだけを扱う。
 - ・金田一語類分類表の語彙の、「歌」「頸」「鮭」「船」の漢字表記しかないが、「歌・唄」「頸・首」「鮭・寿司」「船・舟」のような語を、それぞれ漢字表記が違う同一語として扱う。
 - ・前田（2000）は複合名詞アクセントについて、前部末型を「甲」、平板型を「乙」、後部頭型を「丙」で分類したが、同じ後部要素の語に、異なるアクセント型が共存する場合はかなりある。筆者の分析は、前田の「甲」「乙」「丙」の分類方法をやめ、「平板型・頭高型・前部末型・後部頭高型・尾高型」というアクセント型表記の分類方法

を用いる。

- ・影の部分は連濁可能な単語である（連濁可能な単語は無声障害音で始まる要素である。また、ライマンの法則は連濁を阻止する）。
- ・金田一 2 拍和語語類表に、「先」が重複して出現しているが（1 類の「先さき」と 1 類か 2 類の「先」）、ここでは 1 類の「先」だけを扱う。
- ・並列関係を持つ語については、連濁免疫があり（基本的に連濁を生じない）、アクセント型もやや特殊であるため、別扱いとする。

例：「鶴亀ツ\ルカメ」「石亀イシガメ」「洞亀ドーガ\メ」など

「亀」項目の 7 語に、並列関係を持つ「鶴亀ツ\ルカメ」だけは連濁が起らない。「2+2」の複合語アクセントは、平板型、前部末型後部、頭高型が普通でありが、「鶴亀ツ\ルカメ」は、前部要素の「鶴ツ\ル」のアクセントを生かして、複合語のアクセント核がそのまま前部要素の頭拍に残り、全体が頭高型の語となる。

- ・並列関係を持つ語、極めて少数ある尾高型を、表にある「その他」に入れた。
- ・項目の複合名詞の中、並列関係を持つ語以外の語は、すべて連濁を生じる場合、その項目を「rendaku lover」として扱う。

)

アクセントデータベースから、合計 321 項目（後部要素の項目数）、3082 語の複合名詞を取り出した。その中、前部末型が 988 語（32.1%）、平板型が 1781 語（57.8%）、後部頭高型が 256 語（8.3%）、「そのほか」語は 57 語ある（1.8%）。前田（2000）が扱っている「複合名詞 797 語の（甲）前部末型 403 語（51%）、（乙）平板型 261 語（33%）、（丙）後部頭高型 127 語（16%）、（その他）6 語」と比べると、アクセントデータベースによる複合語に、平板型（57.8%）が全体において最も大きい割合を占める。そして、前部末型は全体の 32.1% 占めるが、前田の（甲）前部末型語（51%）と比べ、比較的到低い割合を占めている。さらに、後部頭高型も比較的に小さい割合を占める（後部頭高型 8.3%、前田の（丙）後部頭高型 16%）。また、抜き出した 321 項目は、基本的に前田が扱うものを含めている（例外は「雪ゆき」の 1 項目）。

Rosen の 3 分類について、Rosen が扱っている「倉くら (rendaku lover)」「柄つか (rendaku lover)」「糟かす (rendaku immune)」の 3 項目は、筆者が抜き出した 321 項目にない項目である。Rosen の分類と異なる項目は、「底そこ」「鳥とり」「鱒ひれ」「仮名かな」「髪かみ」「熊くま」「塩しお」「墨すみ」「時とき」「年とし」「花はな」「腹はら」「節ふし」「雲くも」「玉たま」「笠かさ」「肩かた」「上かみ」「汁しる」「種たね」「針はり」「船ふね」の 22 項目である。また、筆者が新たに分類したものは、「鐘かね」「君きみ」「桐きり」「鍬くわ」「暮くれ」「駒こま」「品しな」「皺しわ」「末すえ」「鷹たか」「滝たき」「釣つり」「床とこ」「端はし」「羽根はね」「菱ひし」「暇ひま」「蓋ふた」「臍へそ」「蚊帳かや」「方かた」「北きた」「鞍くら」「下しも」「棲つま」「機はた」「昼ひる」「冬ふゆ」「頃ころ」「勝ちかち」「菊きく」「岸きし」「草くさ」「組くみ」「坂さか」「舌した」「島しま」「霜しも」「脛すね」「芹せり」「月つき」「面つら」「刷毛はけ」「鉢はち」「浜はま」「晴れはれ」「房ふさ」「縁ふち」「皮かわ」「太刀たち」「鯛たい」「堀ほり」「鎌かま」「鎌きり」「鞘さや」「隅すみ」「空そら」「籠へら」「外そと」「乳ちち」「蜘蛛くも」「琴こと」「鯉こい」「声こえ」「春はる」「鮒ふな」「黒くろ」「白しろ」「鮭さけ」「下した」「鴨かも」「蛸たこ」「供とも」の 73 項目である。

表 33 アクセントデータベースを用いる再考察

語彙	読み	語類	連濁する か	前田	Rosen	筆者					3分類	複合名詞語彙と複合名詞アクセント
						複合名詞アクセント型						
						前部 末	平板	後部 頭高	その他	合計		
						988	1781	256	57	3082		
灰汁	あく	1	連濁不 関与									
姉	あね	1	連濁不 関与									
飴	あめ	1	連濁不 関与	甲		7	2			9		水飴ミズアメ、白飴シロアメ、千歳飴トセアメ、喉飴ノドアメ、綿飴ワタアメ、晒し飴サラシアメ、梅干し飴ウメボシアメ、太白飴タイハクアメ、打っ切り飴ブッキーアメ
蟻	あり	1	連濁不 関与			2	3			5		羽蟻ハアリ、赤蟻アカアリ、白蟻シロアリ、取穫蟻シューカクアリ、働き蟻ハタラキアリ
鳥賊	いか	1	連濁不 関与			8	1			9		真鳥賊マイカ、甲鳥賊コウイカ、鰯鳥賊スルメイカ、蜆鳥賊ホタルイカ、袖鳥賊ソデイカ、槍鳥賊ヤリイカ、赤鳥賊アカイカ、伸し鳥賊ノシイカ、大王鳥賊ダイオウイカ
牛	うし	1	連濁不 関与			2	3			5		種牛タネウシ、親牛オヤウシ、子牛コウシ、乳牛チウシ、国産牛コのサウシ
梅	うめ	1	連濁不 関与			3				3		青梅アオウメ、慰斗梅ノシウメ、零れ梅コボレウメ
魚	うお	1	連濁不 関与			7	2			9		底魚ソコウオ、川魚カワウオ、魷魚ナメクジウオ、太刀魚タチウオ、生魚ナマウオ、生き魚イキウオ、落ち魚オチウオ、出世魚シュッセウオ、山椒魚サンショウウオ
枝	えだ	1	連濁不 関与				1			1		下枝タエダ
海老	えび	1	連濁不 関与			2				2		桜海老サクラエビ、芝海老シバエビ
柿	かき	1			lover	5	1			6	lover	樽柿タルガキ、大和柿ヤマトガキ、転柿コロガキ、串柿ツルシガキ、吊るし柿ツルシガキ、御所柿ゴシヨガキ
瘡	かさ	1										
風	かぜ	1	ライマ ン法則	甲		28	9			37		空っ風カラッカゼ、東風ヒガカゼ、南風ミナミカゼ、北風タカゼ、西風ニカゼ、夕風ユウカゼ、横風ヨコカゼ、葉風ハカゼ、羽風ハカゼ、夜風ヨカゼ、雨風アメカゼ、魔風マカゼ、隙間風キマカゼ、山背風ヤマセカゼ、秋風アキカゼ、朝風アサカゼ、海風ウミカゼ、神風カミカゼ、太刀風タチカゼ、春風ハルカゼ、松風マツカゼ、親風オヤカゼ、川風カワカゼ、潮風シオカゼ、谷風タニカゼ、旗風ハタカゼ、初風ハツカゼ、浜風ハマカゼ、山風ヤマカゼ、波風ナミカゼ、流行り風ハヤリカゼ、向かい風ムカイカゼ、臆病風オクビヨウカゼ、大尽風ダイジンカゼ、役人風ヤクニンカゼ、恋風コイカゼ、ヒル風ヒルカゼ
蟹	かに	1			lover	6	4			10	lover	海老蟹エビガニ、毛蟹ケガニ、沢蟹サワガニ、椰子蟹ヤシガニ、兜蟹カブトガニ、松葉蟹マツバガニ、平家蟹ヘイケガニ、越前蟹エチゼンガニ、上海蟹シャンハイガニ、花咲蟹ハナサキガニ
金	かね	1		甲	lover	9	21	並列1		31	lover	銭金ゼニカネ、端金ハタガネ、口金クチガネ、下金シタガネ、壺金ツボガネ、偽金ニセガネ、日金ヒガネ、真金マガネ、板金イタガネ、帯金オビガネ、筋金スジガネ、針金ハリガネ、裏金ウラガネ、無駄金ムダガネ、銅金ドーガネ、留め金トメガネ、引き金ヒキガネ、焼き金ヤキガネ、有り金アリガネ、掛け金カケガネ、締め金シメガネ、綴じ金トジガネ、烏金カラスガネ、肘金ヒジガネ、延べ金ノベガネ、尾錠金ビジョウガネ、下ろし金オロシガネ、腐れ金サレガネ、包み金ツミガネ、弾き金ハジキガネ、臍繰り金ヘソクリガネ
鐘	かね	1					2			2	lover	早鐘ハヤガネ、釣り鐘ツリガネ
壁	かべ	1	ライマ ン法則			2	4			6		砂壁スナカベ、板壁イタカベ、石壁イソカベ、塗り壁ワリカベ、海鼠壁ナマコカベ、生壁ナマカベ
顔	かお	1		乙	lover	3	25			28	lover	手柄顔テガラガオ、心得顔ココロエガオ、にこにこ顔ニコニコガオ、丸顔マルガオ、夕顔ユウガオ、真顔マガオ、横顔ヨコガオ、古顔フルガオ、初顔ハツガオ、昼顔ヒルガオ、恵比寿顔エビスガオ、思案顔シアンガオ、子細顔サイガオ、写真顔シャシガオ、尖り顔トガリガオ、得意顔トクイガオ、舞台顔ブタイガオ、笑い顔ワライガオ、心配顔シンバイガオ、慰め顔ナグサメガオ、分別顔フンベツガオ、物知り顔モノシリガオ、寝顔ネガオ、新顔シンガオ、泣き顔ナキガオ、目顔メガオ、素顔スガオ、朝顔アサガオ
釜	かま	1			lover	3	9	並列1		13	lover	鍋釜ナベカマ、内釜ウチガマ、後釜アトガマ、外釜ソトガマ、塩釜シオガマ、初釜ハツガマ、風呂釜フロガマ、飯釜メシガマ、ガス釜ガスガマ、茶釜チャガマ、加熱釜カネツガマ、電気釜デンキガマ、圧力釜アツリョクガマ
粥	かゆ	1			lover	1	3	2		6	lover	朝粥アサガユ、芋粥イモガユ、茶粥チャガユ、小豆粥アズキガユ、七草粥ナナノサガユ、中華粥チューカガユ

雉子	きじ	1	ライマン法則																
疵	きず	1	ライマン法則																
君	きみ	1					1	3			4	lover	辻君ツジギミ、父君㊟チ\ギミ、母君ハハ\ギミ、姫君ヒメ\ギミ						
桐	きり	1				2	2				4	lover	青桐アオギリ、焼き桐ヤキギリ、油桐アブラ\ギリ、山桐ヤマ\ギリ						
霧	きり	1			lover	2	2				4	lover	夕霧ユーギリ、川霧カワギリ、朝霧アサ\ギリ、山霧ヤマ\ギリ						
釘	くぎ	1	ライマン法則			6	1				7		竹釘タケクギ、目釘メ\クギ、螺子釘ネジ\クギ、大釘イヌ\クギ、隠し釘カ㊟シ\クギ、折れ釘オレ\クギ、切り釘キリ\クギ						
口	くち	1		甲	lover	49	26				75	hater	表口オモテグチ、一人口㊟トリグチ、傷口キズグチ、袖口ソデグチ、滝口タケグチ、筒口ツツグチ、庭口ニワグチ、蝦蟇口ガマガチ、裏口ウラグチ、川口カワグチ、勤め口㊟トメグチ、働き口ハタラキグチ、無駄口ムダグチ、金口キングチ、蛇口ジャグチ、差し出口サシデグチ、戸口ト\グチ、間口マ\グチ、木口キ\グチ、手口テ\グチ、羽口ハ\グチ、火口ヒ\グチ、湯口ユ\グチ、出口デ\グチ、勝手口カッチ\グチ、烏口カラス\グチ、二人口㊟タリ\グチ、港口ミナト\グチ、仲人口ナコード\グチ、秋口アキ\グチ、糸口イト\グチ、陰口カゲ\グチ、肩口カタ\グチ、門口カド\グチ、鯉口コイ\グチ、鳶口トビ\グチ、窓口マド\グチ、鱧口ワニ\グチ、歌口ウタ\グチ、店口ミセ\グチ、木戸口キド\グチ、落ち口オチ\グチ、逃げ口ニゲ\グチ、登山口トザ\グチ、非常口ヒジョ\グチ、通い口カヨイ\グチ、降車口コーシャ\グチ、乗車口ジョーシャ\グチ、出入り口デイリ\グチ、電話口デンワ\グチ、儲け口モーケ\グチ、玄関口ゲンカ\グチ、昇降口ショーコ\グチ、冗談口ジョーダ\グチ、奉公口ホーコ\グチ、改札口カイスツ\グチ、汲み取り口クミトリ\グチ、就職口シューショク\グチ、出札口シュツサツ\グチ、取り入れ口トリイル\グチ、毒口ドク\グチ、後口アト\グチ、片口カタ\グチ、八つ口ヤ㊟チ、語り口カタリ\グチ、話し口ハナシ\グチ、別口ベツ\グチ、先口セン\グチ、半口ハン\グチ、売り口ウリ\グチ、合い口アイ\グチ、目口メ\グチ、早口ハヤ\グチ、飲み口ノミ\グチ、折れ口オレ\グチ						
国	くに	1			lover	4					4	lover	北国㊟タ\グニ、島国シマ\グニ、山国ヤマ\グニ、雪国ユキ\グニ						
頸	くび	1	ライマン法則			9	6				15		螻蛄首ケラクビ、丸首マルクビ、足首ア㊟クビ、穂首ホクビ、寝首ネクビ、雁首ガンクビ、乳首㊟クビ、手首テ\グチ、白髪首シラガ\グチ、鎌首カマ\グチ、生首ナマ\グチ、喉首ノド\グチ、襟首エリ\グチ、晒し首サラ\グチ、轆轤首クロ\グチ						
鉾	くわ	1					1				1	immune	鉾鉾㊟キクワ						
暮	くれ	1				2	2				4	hater	明け暮れアケ\クレ、盆暮れボ\ンクレ、日暮れヒグレ、夕暮れユウグレ						
腰	こし	1		乙	lover	6	10		並列1		17	lover	肩腰カ\タコシ、足腰ア㊟\コシ、柳腰ヤナギゴシ、海老腰エビゴシ、丸腰マルゴ、物腰モノゴシ、喧嘩腰ケンカゴシ、粘り腰ネバリゴシ、中腰チューゴシ、本腰ホンゴシ、浮き腰ウキゴシ、逃げ腰ニゲゴシ、前腰マ\エゴシ、無腰ム\ゴシ、ぎっくり腰ギックリ\ゴシ、受け腰ウケ\ゴシ、払い腰ハラ\イゴシ						
籠手	こて	1																	
駒	こま	1				1	4				5	lover	振り駒フリゴマ、持ち駒モチゴマ、間駒アイゴマ、手駒テゴマ、春駒ハル\ゴマ						
薦	こも	1			lover		1				1	lover	藁薦ワラゴモ						
此	これ	1																	
先	さき	1		乙	immune	1	48	2	尾3		54	immune	宛先アテサキ、口先㊟チサキ、小手先コテサキ、筒先㊟ツサキ、庭先ニワサキ、軒先㊟サキ、鼻先ハナサキ、筆先フデサキ、槍先ヤリサキ、肩先カタサキ、門先カドサキ、太刀先タ㊟サキ、春先ハルサキ、矛先ホロサキ、足先ア㊟サキ、潮先シオサキ、舌先㊟タサキ、旅先タビサキ、店先ミセサキ、指先ユビサキ、刃先ハサキ、穂先ホサキ、移転先イテンサキ、送り先オクリサキ、使い先㊟カイサキ、勤め先㊟トメサキ、転居先デンキョサキ、得意先トクイサキ、届け先トドケサキ、旅行先リョコーサキ、一寸先イッスンサキ、落ちて着き先オ㊟キサキ、玄関先ゲンカンサキ、就職先シュージョ㊟サキ、立ち退き先タチノキサキ、注文先チューモンサキ、取引先トリ㊟キサキ、奉公先ホーコーサキ、訪問先ホーモンサキ、棒先ボーサキ、縁先エンサキ、剣先ケンサキ、地先㊟サキ、行き先イ㊟サキ、売り先ウリサキ、貸し先カ㊟サキ、行き先コ㊟サキ、古い先オイサキ、手先テサキ、目先メサキ、出先デサキ、後先アト\サキ、真っ先マッサ\キ、ペン先ペンサ\キ						

鷺	さぎ	1	ライマン法則			1			1		青鷺アオサギ
酒	さけ	1		甲	lover	15	9		24	lover	燗酒カンザケ、梅酒タルザケ、朝酒アサザケ、白酒シロザケ、自兼酒ヤケザケ、生酒キザケ、鱈酒ヒレザケ、升酒マスザケ、寝酒ネザケ、卯酒タマゴザケ、梯子酒ハシゴザケ、蝮酒マムシザケ、茶屋酒チャヤザケ、生酒ナマザケ、菊酒クザケ、冷や酒ヒヤザケ、祝い酒イワイザケ、茶碗酒チャワンザケ、コップ酒コップザケ、濁り酒ニゴリザケ、花見酒ハナミザケ、祭り酒マツリザケ、迎え酒ムカエザケ、雪見酒ユキミザケ
笹	ささ	1			lover	1	2		3	lover	根笹ネザサ、熊笹クマザサ、玉笹タマザサ
里	さと	1			lover	2	3		5	lover	人里トザト、村里ムラザト、山里ヤマザト、色里イロザト、浦里ウラザト
鯖	さば	1	ライマン法則			1	2		3		秋鯖アサバ、塩鯖シオサバ、締め鯖シメサバ
鮫	さめ	1			lover	7	1		8	lover	蝶鮫チョウザメ、鋸鮫ノコギリザメ、鰐鮫ワニザメ、頬白鮫ホージロザメ、小判鮫コバザメ、撞木鮫シュモクザメ、深海鮫シンカイザメ、甚平鮫ジンペーザメ
皿	さら	1			lover	4	7	1	12	lover	赤皿アカガラ、白血シロガラ、平皿ヒラガラ、石皿イシガラ、額皿ガクガラ、角皿カクガラ、中皿チューガラ、火皿ヒガラ、紅皿ベニガラ、受け皿ウケガラ、菓子皿カシガラ、灰皿ハイザラ
品	しな	1				1			1	lover	手品テジナ
芝	しば	1	ライマン法則			2	1		3		道芝ミシバ、羽口芝ハグシバ、人工芝シンコシバ
皺	しわ	1					4		4	lover	縮緬皺チリメンジワ、曇み皺タタミジワ、笑い皺ワライジワ、折り皺オリジワ
鋤	すき	1									
杉	すぎ	1	ライマン法則			5			5		秋田杉アキタスギ、吉野杉ヨシノスギ、糸杉イトスギ、一本杉イツボスギ、神代杉ジンダイスギ
鈴	すず	1	ライマン法則								
裾	すそ	1			immune	2			2	immune	山裾ヤマソソ、裳裾モソソ
末	すえ	1				4			4	hater	場末バスエ、野末ノズエ、葉末ハズエ、月末キズエ
底	そこ	1			lover	1	8		9	hater	奥底オソコ、谷底タニソコ/タニソコ、糸底イトソコ、中底ナカソコ、鍋底ナベソコ、川底カワソコ、靴底ツツソコ、上げ底アゲソコ、二重底ニジュソコ
袖	そで	1	ライマン法則			2	6		8		筒袖ツツソデ、片袖カタソデ、角袖カソデ、半袖ハンソデ、留め袖トメソデ、振り袖フリソデ、七分袖チブソデ、元禄袖ゲンロソデ
其	その	1									
鷹	たか	1					2		2	immune	秃鷹ハゲタカ、能鷹クマタカ
滝	たき	1				1			1	lover	湯滝ユダキ
竹	たけ	1			lover	4	5	並列1	10	lover	呉竹クレタケ、松竹マタケ、真竹マダケ、青竹アオダケ、竿竹サオダケ、割り竹ワリダケ、煤竹ススダケ、親竹オヤダケ、籬竹ラオダケ、衣紋竹エモンダケ
童	たつ	1									
蓼	たで	1	ライマン法則								
棚	たな	1		乙	lover	8	13		21	lover	藤棚フジダナ、戸棚トダナ、神棚カミダナ、荷棚ニダナ、網棚アミダナ、岩棚イワダナ、夕顔棚ユウガオダナ、葡萄棚ブドウダナ、精霊棚ショウリョウダナ、書棚ショダナ、茶棚チャダナ、関伽棚アカダナ、吊り棚ツリダナ、本棚ホンダナ、袋棚クロダナ、違い棚チガイダナ、縁起棚エンギダナ、飾り棚カザリダナ、食器棚ショッキダナ、大陸棚タイリクダナ、陳列棚チンレツダナ
塵	ちり	1									
筒	つつ	1			lover	3	2		5	lover	竹筒タケツツ、茶筒チャツツ、井筒イヅツ、矢筒ヤヅツ、花筒ハナヅツ
壺	つぼ	1	ライマン法則								
爪	つめ	1			lover	3	1		4	lover	生爪ナマズメ、夜爪ヨヅメ、糸爪イトヅメ、琴爪コトヅメ
釣	つり	1					4		4	lover	一本釣りイッポンズリ、穴釣りアナズリ、磯釣りイソズリ、海釣りウミズリ
床	とこ	1				2	8		10	lover	苗床ナエドコ、髪床カミドコ、川床カワドコ、糠床ヌカドコ、寝床ネドコ、髪結い床カミユイドコ、本床ホンドコ、吊り床ツリドコ、浮世床ウキヨドコ、袋床クロドコ
虎	とら	1									
鳥	とり	1		甲	lover	13	1		14	hater	焼き鳥ヤトリ、埴鳥ネグラドリ、都鳥ミヤコドリ、ほろほう鳥ホロホロドリ、筒鳥ツツドリ、海鳥ウミドリ、雛鳥ヒナドリ、親鳥オヤドリ、夏鳥ナツドリ、冬鳥フユドリ、山鳥ヤマドリ、阿房鳥アホドリ、渡り鳥ワタリドリ、長鳴き鳥ナガナキドリ

西	にし	1	連濁不 関与				1		1		真西マニシ
庭	にわ	1	連濁不 関与				6		6		内庭ウチニワ、坪庭ツボニワ、箱庭ハコニワ、中庭ナカニワ、 前庭マエニワ、裏庭ウラニワ
布	ぬの	1	連濁不 関与				4		4		白布シロヌノ、裏布ウラヌノ、雪布ユキヌノ、帆布ホヌノ
軒	のき	1	連濁不 関与								
箱	はこ	1		甲	lover	31	20		51	lover	金箱カネバコ、釘箱クギバコ、豚箱ブタバコ、筆箱フデバコ、 屑箱クズバコ、銭箱ゼニバコ、針箱ハリバコ、紙箱カミバコ、 空箱カラバコ、塵箱ゴミバコ、当たり箱アタリバコ、下駄箱ゲ タバコ、茶箱チャバコ、暗箱アンバコ、印箱インバコ、香箱コ ーバコ、骨箱コツバコ、折箱オリバコ、空き箱アキバコ、ドル 箱ドルバコ、巢箱スヽバコ、手箱テヽバコ、荷箱ニヽバコ、火 箱ヒヽバコ、本箱ホンバコ、玩具箱オモチャヽバコ、鏡箱カ ガミヽバコ、薬箱ヅクリヽバコ、びっくり箱ビククリヽバコ、 箸箱ハシヽバコ、文箱フミヽバコ、餌箱エサヽバコ、櫛箱ヅシ ヽバコ、衣裳箱イショヽバコ、化粧箱ケショヽバコ、貯金 箱チョコキヽバコ、蜜柑箱ミカヽバコ、通い箱カヨイヽバ コ、硯箱スズリヽバコ、道具箱ドウグヽバコ、流し箱ナガン ヽバコ、乱れ箱ミダレヽバコ、御払い箱オハラヽバコ、救急 箱キューキューヽバコ、賽銭箱サイゼヽバコ、千両箱センリ ョヽバコ、投票箱トウヒョヽバコ、弁当箱ベントヽバ コ、郵便箱ユウビヽバコ、段ボール箱ダンボールヽバコ、菓 子箱カシヽバコ
端	はし	1				1	3		4	immune	片端カタハシ、両端リョーハシ、切れ端キレハシ、目端メヽハ シ
蓮	はす	1									
縁	はた	1									
蜂	はち	1			lover	4			4	lover	雀蜂スズメヽバチ、女王蜂ジョオヽバチ、働き蜂ハタラク バチ、蜜蜂ミツヽバチ
鼻	はな	1			lover	4	5	並列1	10	lover	目鼻メヽハナ、驚鼻ワシバナ、手鼻テバナ、鉤鼻カギバナ、段 鼻ダンバナ、出鼻デバナ、団子鼻ダンゴヽバナ、あぐらっ鼻ア グラヽバナ、獅子っ鼻シシヽバナ、団子っ鼻ダンゴヽバ ナ
羽根	はね	1				1			1	lover	矢羽根ヤバネ
灰	はい	1			lover	5			5	lover	木灰キヽバイ、薬灰ワラヽバイ、火山灰カザヽンバイ、懐炉灰 カイロヽバイ、ソーダ灰ソーダヽバイ
蠅	はえ	1			lover	3	1		4	lover	家蠅イエバエ、銀蠅ギヽンバエ、青蠅アオヽバエ、馬蠅ウマヽ バエ
稗	ひい	1									
髯	ひげ	1	ライマ ン法則				2		2		頬髯ホーヒゲ、巻き髯マキヒゲ
膝	ひざ	1	ライマ ン法則				1		1		片膝カタヒザ
菱	ひし	1				2			2	lover	剣菱ケヽンビシ、花菱ハナヽビシ
暇	ひま	1				1			1	immune	手間暇テマヽヒマ
紐	ひも	1			immune	7	5		12	immune	腰紐コシヒモ、紙紐カミヒモ、革紐カワヒモ、靴紐ツツヒモ、 吊り紐ツリヒモ、おんぶ紐オンブヽヒモ、真田紐サナダヽヒ モ、抱っこ紐ダッコヽヒモ、肩紐カタヽヒモ、頸紐アゴヽヒ モ、組み紐クミヽヒモ、ゴム紐ゴムヽヒモ
鱗	ひれ	1			lover	1	4	並列1	6	hater	鱗鱗カヒレ、尾鱗オヽヒレ、背鱗セビレ、臀鱗シリビレ、腹 鱗ハラビレ、尾鱗オヽビレ
簞	ふか	1									
蓋	ふた	1				4	7		11	lover	鯰蓋エラフタ、猪蓋カサブタ、共蓋トモフタ、鍋蓋ナベフタ、 裏蓋ウラフタ、上げ蓋アゲフタ、綴じ蓋トジフタ、火蓋ヒヽフ タ、二重蓋ニジュヽフタ、落とし蓋オトシヽフタ、硯蓋スズ リヽフタ
札	ふだ	1	ライマ ン法則	甲		14	10		24		赤札アカフダ、名札ナフダ、値札ネフダ、手札テフダ、荷札ニ フダ、下足札ゲソフダ、席札セキフダ、張り札ハリフダ、引 き札キフダ、合い札アイフダ、木札キヽフダ、絵札エヽフ ダ、利札リヽフダ、貸家札カシヤヽフダ、辻札ツジヽフダ、富 札トミヽフダ、花札ハナヽフダ、迷子札マイゴヽフダ、切り札 キリヽフダ、持ち札モチヽフダ、読み札ヨミヽフダ、守り札マ モリヽフダ、番号札バンゴヽフダ、質札チヽフダ
藤	ふじ	1	ライマ ン法則			3			3		葛藤ツズラヽフジ、上がり藤アガリヽフジ、下がり藤サガリヽ フジ
筆	ふで	1	ライマ ン法則			2			2		絵筆エヽフデ、面相筆メンソヽーフデ
笛	ふえ	1			lover	1	15		16	lover	雉笛キジブエ、口笛チブエ、鹿笛カブエ、柴笛シバブエ、 虫笛ムシブエ、横笛ヨコブエ、葦笛アシブエ、篠笛シノブエ、 縦笛タテブエ、喉笛ノドブエ、鳩笛ハトブエ、麦笛ムギブエ、 草笛ササブエ、角笛ツノブエ、指笛ユビブエ、鶯笛ウグイス ブエ

臍	へそ		1					1			1	lover	出臍デ\ベソ
星	ほし		1		甲	lover	13	2			15	lover	相星アイボシ、凶星ズボシ、目星メ\ボシ、金星キ\ンボシ、銀星ギ\ンボシ、一つ星◎トツ\ボシ、黒星クロ\ボシ、白星シロ\ボシ、糠星ヌカ\ボシ、三つ星ミツ\ボシ、負け星マケ\ボシ、勝ち星カチ\ボシ、流れ星ナガレ\ボシ、一番星イチバ\ンボシ、綺羅星キラ\ボシ
的	まと		1	連濁不 関与									
舞	まい		1	連濁不 関与				2			2		京舞キョーマイ、獅子舞シシマイ
右	みぎ		1	連濁不 関与									
道	みち		1	連濁不 関与	甲		27	12		尾1	40		枝道エダミチ、崖道ガケミチ、横道ヨコミチ、片道カタミチ、裏道ウラミチ、脇道ワキミチ、血道チミチ、使い道◎カイミチ、新道シンミチ、抜け道ヌケミチ、行き道ユキミチ、寄り道ヨリミチ、野道ノ\ミチ、夜道ヨ\ミチ、本道ホンミチ、出道デ\ミチ、半道ハンミチ、田舎道イナカ\ミチ、獣道ケモノ\ミチ、並木道ナミキ\ミチ、畑道ハタケ\ミチ、一筋道◎トスジ\ミチ、糸道イト\ミチ、筋道スジ\ミチ、早道ハヤ\ミチ、畦道アゼ\ミチ、坂道サカ\ミチ、泥道ドロ\ミチ、花道ハナ\ミチ、山道ヤマ\ミチ、雪道ユキ\ミチ、帰り道カエリ\ミチ、田ん圃道タンボ\ミチ、電車道デンジャ\ミチ、通り道トリー\ミチ、曲がり道マガリ\ミチ、回り道マワリ\ミチ、戻り道モドリ\ミチ、一本道 IPPON\ミチ、逃げ道ニゲ\ミチ
水	みず		1	連濁不 関与	甲		28	4			32		鼻水ハナミズ、真水マミズ、出水デミズ、溜め水タメミズ、手水テ\ミズ、湯水ユミズ、汗水ア\セミズ、氷水コーリ\ミズ、力水◎カラ\ミズ、日向水ヒナタ\ミズ、苗代水ナワシロ\ミズ、生水ナマ\ミズ、川水カワ\ミズ、塩水シオ\ミズ、泥水ドロ\ミズ、花水ハナ\ミズ、山水ヤマ\ミズ、井戸水イド\ミズ、冷や水ヒヤ\ミズ、漱い水ウガ\イミズ、砂糖水サト\イミズ、賈い水モラ\イミズ、誘い水サソイ\ミズ、溜り水タマリ\ミズ、濁り水ニゴリ\ミズ、迎え水ムカエ\ミズ、切り水キリ\ミズ、差し水サシ\ミズ、逃げ水ニゲ\ミズ、飲み水ノミ\ミズ、鉄砲水テッポ\イミズ、雪解け水ユキドケ\ミズ
峰	みね		1	連濁不 関与									
宮	みや		1	連濁不 関与			1	1			2		宵宮ヨイミヤ、夜宮ヨ\ミヤ
虫	むし		1	連濁不 関与	甲		29	4	1		34		水虫ミズムシ、毛虫ケムシ、葉虫ハムシ、羽虫ハムシ、髓虫ズ\イムシ、象虫ゾ\ームシ、油虫アブラ\ムシ、轡虫◎ツワ\ムシ、黄金虫コガネ\ムシ、真田虫サナダ\ムシ、鉄虫ハサミ\ムシ、裸虫ハダカ\ムシ、草鞋虫ワラジ\ムシ、貝殻虫カイガラ\ムシ、針金虫ハリガネ\ムシ、鈴虫スズ\ムシ、青虫ア\オ\ムシ、亀虫カメ\ムシ、松虫マツ\ムシ、養虫ミノ\ムシ、芋虫イモ\ムシ、蛆虫ウジ\ムシ、玉虫タマ\ムシ、雪虫ユキ\ムシ、綿虫ワタ\ムシ、草履虫ゾ\ーリ\ムシ、根切り虫ネキリ\ムシ、馬追虫ウマオ\イムシ、鉄砲虫テッポ\ームシ、南京虫ナンキ\ンムシ、点取り虫テントリ\ムシ、機織り虫ハタオリ\ムシ、毒虫ドク\ムシ、泣き虫ナキムシ
粃	もみ		1	連濁不 関与			1				1		種粃みタネ\モミ
桃	もも		1	連濁不 関与				2			2		苔桃コケモモ、山桃ヤマモモ
森	もり		1	連濁不 関与									
宵	よい		1	連濁不 関与									
嫁	よめ		1	連濁不 関与			2				2		兄嫁アニ\ヨメ、花嫁ハナ\ヨメ
丘	おか		1	連濁不 関与									
甥	おい		1	連濁不 関与									
誰	だれ	×	1	連濁不 関与									
何処	どこ	×	1	連濁不 関与									
友	とも	△	1										
真似	まね	△	1	連濁不 関与			1	5			6		口真似◎チマネ、人真似◎トマネ、猿真似サルマネ、物真似モノマネ、泣き真似ナキマネ、手真似テ\マネ
棟	むね	×	1	連濁不 関与				2			2		別棟ベツムネ、寄せ棟ヨセムネ
籠	かご	*	1	ライマ ン法則			1	2			3		辻籠ツジカゴ、山籠籠ヤマカゴ、早籠籠ハヤ\カゴ
仮名	かな	*	1			lover	1	2	1		4	hater	旧仮名キューカナ、送り仮名オクリガナ、平仮名ヒラガ\ナ、万葉仮名マンヨ\ーガナ

川	かわ	2			lover		5		並列1	6	lover	山川ヤマ\カワ、枝川エダガワ、滝川タキガワ、溝川ドブガワ、谷川タニガワ、山川ヤマガワ
紙	かみ	2		甲	lover	25	22			47	lover	ラシャ紙ラシャガミ、障子紙ショーヅガミ、奉書紙ホーショガミ、ボール紙ボールガミ、新聞紙シンプンガミ、美濃紙ミノガミ、巻き紙マキガミ、敷き紙キガミ、切り紙キリガミ、縮緬紙チリメンガミ、懐紙トコロガミ、壁紙カベガミ、皺紙シワガミ、塵紙チリガミ、鼻紙ハナガミ、生紙キガミ、手紙テガミ、赤紙アカガミ、板紙イタガミ、帯紙オビガミ、種紙タネガミ、型紙カタガミ、金紙キンガミ、銀紙ギンガミ、蠟紙ロウガミ、折り紙オリガミ、掛け紙カケガミ、化粧紙ケンショウガミ、移り紙ウツリガミ、落とし紙オトシガミ、包み紙ツミガミ、桐油紙トウユガミ、漉き入れ紙キイレガミ、畳紙タタミガミ、油紙アブラガミ、板目紙イタメガミ、桜紙サクラガミ、力紙カラガミ、模紙ノスマガミ、千代紙チヨガミ、箸紙ハシガミ、藁紙ワラガミ、色紙イロガミ、慰斗紙ノシガミ、枕紙マクラガミ、繧紙ヤスリガミ、吉野紙ヨシノガミ
北	きた	2							尾1	1	immune	真北マタ\
串	くし	2			lover	1	1			2	lover	焼き串ヤキグシ、玉串タマグシ
鞍	くら	2				1	1			2	hater	乗り鞍ノリクラ、荷鞍ニグラ
下	しも	2				1				1	immune	上下カミ\シモ
旅	たび	2	ライマン法則			1	1			2		股旅マタタビ、1人旅トリ\タビ
度	たび	2	ライマン法則									
塚	つか	2			lover	1	6			7	lover	庚申塚コーシズカ、蟻塚アリズカ、首塚クビズカ、筆塚フデズカ、藁塚ワラズカ、貝塚カイズカ、比翼塚ヒヨク\ズカ
次	つぎ	2	ライマン法則									
葛	つた	2										
棲	つま	2					2	1		3	hater	江戸棲エドズマ、左棲ヒダリズ\マ、辻棲ツジツマ
弦	つる	2										
梨	なし	2	連濁不関与			1				1		洋梨ヨーナシ
橋	はし	2		甲	lover	8	6			14	hater	浮き橋ウキハシ、反り橋ソリ\ハシ、八つ橋ヤツ\ハシ、栈橋サンバシ、吊り橋ツリバシ、仮橋カリバシ、板橋イタバシ、石橋イシバシ、跳ね橋ハネ\バシ、二重橋ニジュ\バシ、太鼓橋タイコ\バシ、一本橋イツボ\ンバシ、丸木橋マルキ\バシ、眼鏡橋メガネ\バシ
旗	はた	2			lover	1	3			4	hater	赤旗アカハタ、白旗シロハタ、手旗テバタ、箆旗ムシロ\バタ
機	はた	2				1				1	lover	手機テバタ
肘	ひじ	2	ライマン法則			2			並列1	3		両肘リョーヒジ、片肘カタヒジ、肩肘カ\タヒジ
昼	ひる	2				2			並列1	3	immune	早昼ハヤヒル、真昼マヒル、夜昼ヨ\ルヒル
冬	ふゆ	2				2				2	immune	初冬ハフユ、真冬マフユ
町	まち	2	連濁不関与	甲		8	2			10		下町タマチ、裏町ウラマチ、宿場町シュクバ\マチ、城下町ジョーカ\マチ、屋敷町ヤキ\マチ、門前町モンゼ\ンマチ、港町ミナト\マチ、片側町カタカワ\マチ、色町イロ\マチ、室町ムロ\マチ
胸	むね	2	連濁不関与			1				1		鳩胸ハトムネ
村	むら	2	連濁不関与			3				3		選手村センシュムラ、東海村トーカイムラ、隣村トナリムラ
八重	やえ	2	連濁不関与									
雪	ゆき	2	連濁不関与	甲								
故	ゆえ	2	連濁不関与									
業	わざ	2	連濁不関与			5			尾1	6		離れ業ハナレワザ、人間業ニンゲンワザ、力業カラワザ、神業カミワザ、早業ハヤワザ、手業テワザ\
鱻	あじ	×	2	連濁不関与		2	1			3		真鱻マアジ、縞鱻シマ\アジ、室鱻ムロ\アジ
彼	あれ	×	2									
栗毬	いが	△	2	連濁不関与								
門	かど	×	2	ライマン法則								
牙	きば	×	2	ライマン法則								

杭	くい	×	2			lover		4			4	lover	棒杭ボーグイ、櫓杭ログイ、乱杭ラングイ、橋杭ハシグイ
頃	ころ	×	2					4	6	6	16	lover	値頃ネゴロ、日頃ヒゴロ、何時頃イツゴロ、今頃イマゴロ、中頃ナカゴロ、年頃トシゴロ、身頃ミ\ゴロ、明け方頃アケガタゴ\ロ、片身頃カタミ\ゴロ、夜中頃ヨナカゴ\ロ、先頃サキ\ゴロ、年頃トシ\ゴロ、春頃ハルゴ\ロ、昼頃ヒルゴ\ロ、夜半頃ヤハンゴ\ロ、夜明け頃ヨアケゴ\ロ
蟬	せみ	×	2			lover		3	4		7	lover	夕蟬ユーゼミ、熊蟬クマゼミ、夏蟬ナツゼミ、初蟬ハツゼミ、油蟬アブラゼミ、春蟬ハルゼミ、法師蟬ホーシゼミ
妻	つま	×	2			lover		1	2		3	lover	人妻トズマ、切り妻キリズマ、手妻テ\ズマ
人	ひと	×	2		甲	lover		5	15		20	lover	里人サトビト、何人ナニビト、宮人ミヤビト、只人タダビト、罪人ツミビト、歌人ウタビト、旅人タビビト、村人ムラビト、山人ヤマビト、釣り人ツリビト、舞人マイビト、恋人コイビト、付き人ヅキビト、待ち人マチビト、読み人ヨミビト、大宮人オーミヤ\ビト、母人ハハ\ビト、天下人テンカ\ビト、雲上人ウンジョ\ービト、捕らわれ人トラワレ\ビト
姫	ひめ	×	2			immune		3			3	immune	歌姫ウタ\ヒメ、舞姫マイ\ヒメ、織り姫オリ\ヒメ
文	ふみ	×	2			lover		1	5		6	lover	矢文ヤブミ、御告げ文オツグヰミ、結び文ムスビヰミ、恋文コイヰミ、投げ文ナゲヰミ、落とし文オトシ\ヰミ
殻	から	*	2			lover		6	1		7	lover	石炭殻セ\タンガラ、茶殻チャガラ、抜け殻ヌケガラ、燃え殻モエガラ、蕎麦殻ソバガラ、紅殻ベニガラ、貝殻カイガ\ラ
為	ため	*	2										
夏	なつ	*	2	連濁不 関与					1		1		初夏ハツナツ
虹	にじ	★	2	連濁不 関与									
余所	よそ	*	2	連濁不 関与									
垢	あか		3	連濁不 関与				3		尾2	5		水垢ミズアカ、襟垢エリアカ、耳垢ミミアカ、手垢テアカ\、湯垢ユアカ\
足	あし		3	連濁不 関与	甲			25	26		51		出足デアシ、揚げ足アゲアシ、浮き足ウキアシ、引き足◎キアシ、抜き足ヌキアシ、逃げ足ニゲアシ、客足キヤクアシ、逆足ギヤクアシ、無駄足ムダアシ、両足リョーアシ、軸足ジクアシ、日足◎アシ、毛足ケアシ、帆足ホアシ、並足ナミアシ、人足◎トアシ、片足カタアシ、雲足クモアシ、蛸足タコアシ、猫足ネコアシ、右足ミギアシ、襟足エリアシ、潮足シオアシ、球足タマアシ、泥足ドロアシ、左足ヒダリアシ、素足ス\アシ、手足テ\アシ、蹴り足ケリ\アシ、差し足サシ\アシ、練り足ネリ\アシ、煽り足アオリ\アシ、勇み足イサミ\アシ、急ぎ足イソギ\アシ、刻み足キザミ\アシ、探り足サグリ\アシ、忍び足シノビ\アシ、盗み足ヌスミ\アシ、運び足ハコビ\アシ、乱れ足ミダレ\アシ、戻り足モドリ\アシ、踏み切り足フミキリ\アシ、1本足イッポ\ンアシ、後足アト\アシ、早足ハヤ\アシ、前足マエ\アシ、脂足アブラ\アシ、後ろ足ウシロ\アシ、力足◎カラ\アシ、千鳥足チドリ\アシ、鳶足トンビ\アシ
明日	あす		3	連濁不 関与									
網	あみ		3	連濁不 関与	甲			10	9		19		台網ダイアミ、引き網◎キアミ、焼き網ヤキアミ、巻き網マキアミ、壺網ツボアミ、鳥網トリアミ、餅網モチアミ、鯛網タイアミ、摺網タモアミ、落とし網オトシ\アミ、囲い網カコイ\アミ、地引き網ジビキ\アミ、定置網テーチ\アミ、手繰り網テグリ\アミ、流し網ナガシ\アミ、巾着網キンチャク\アミ、底引き網ソコビキ\アミ、霞網カスミ\アミ、四つ手網ヨツデ\アミ
綾	あや		3	連濁不 関与					1		1		杉綾スギアヤ
泡	あわ		3	連濁不 関与									
池	いけ		3	連濁不 関与				3	4		7		溜め池タメイケ、溝池ドブイケ、蓮池ハスイケ、古池フルイケ、養魚池ヨーギョ\イケ、産卵池サンラ\ンイケ、用水池ヨース\イケ
犬	いぬ		3	連濁不 関与									
家	いえ		3	連濁不 関与					2		2		売り家ウリエ、持ち家モチイエ
芋	いも		3	連濁不 関与				6	12		18		薩摩芋サツマイモ、焼き芋ヤキイモ、子芋コイモ、根芋ネイモ、里芋サトイモ、水芋ミズイモ、赤芋アカイモ、種芋タネイモ、親芋オヤイモ、菊芋◎クイモ、栗芋クリイモ、山芋ヤマイモ、乾燥芋カン\ーイモ、石焼き芋イシヤキ\イモ、蒟蒻芋コンニャク\イモ、大学芋ダイガク\イモ、薯蕷芋トロロ\イモ、大和芋ヤマト\イモ

色	いろ	3	連濁不 関与	乙		1	86			87	藤脂色エンジイロ、青磁色セージイロ、代赭色タイシャイロ、木賊色トウサイロ、葡萄酒ブドーイロ、駱駝色ラクダイロ、オレンジ色オレンジイロ、クリーム色クリームイロ、赤銅色シヤクドーイロ、石竹色セキクイロ、羊羹色ヨーカンイロ、納戸色ナンドイロ、鉄色テツイロ、灰色ハイイロ、瑠璃色ルリイロ、茶色チャイロ、緋色ヒイロ、亜麻色アマイロ、金色キンイロ、銀色ギンイロ、紺色コンイロ、肉色ニクイロ、染め色ソメイロ、負け色マケイロ、焼き色ヤキイロ、織り色オリイロ、勝ち色カチイロ、練り色ネリイロ、茜色アカネイロ、小豆色アズキイロ、狐色⑧ツネイロ、黄蘗色⑧ハダイロ、黄蘗色⑧ハダイロ、黄蘗色キワダイロ、黄金色コガネイロ、小麦色コムギイロ、桜色サクライロ、雀色スズメイロ、薑色シミレイロ、卵色タマゴイロ、蜥蜴色トカゲイロ、鉛色ナマリイロ、鼠色ネズミイロ、松葉色マツバイロ、緑色ミドリイロ、銅色アカガネイロ、鶯色ウグイスイロ、薄紅色ウスベニイロ、濃鼠色コネズミイロ、橙色ダイダイイロ、玉虫色タマムシイロ、生壁色ナマカベイロ、紫色ムラサキイロ、千草色チグサイロ、山鳩色ヤマバトイロ、山露色ヤマブキイロ、音色ネイロ、黄色キイロ、毛色ケイロ、目色メイロ、鮎色アメイロ、顔色カオイロ、柿色カキイロ、薔薇色バライロ、藤色フジイロ、水色ミズイロ、桃色モモイロ、藍色アイイロ、青色アオイロ、赤色アカイロ、樺色カバイロ、煤色ススイロ、空色ソライロ、錆色トキイロ、鳶色トビイロ、肌色ハダイロ、霧色ヒワイロ、紅色ベニイロ、草色⑦サイロ、栗色クリイロ、苔色コケイロ、錆色サビイロ、墨色スミイロ、土色⑦チイロ、旗色ハタイロ、花色ハナイロ、七色ナナイロ
蛆	うじ	3	連濁不 関与								
腕	うで	3	連濁不 関与				3			3	両腕リョウウデ、片腕カタウデ、右腕ミギウデ
畝	うね	3	連濁不 関与								
馬	うま	3	連濁不 関与			3	15			18	馬車馬バシヤウマ、当て馬アテウマ、乗り馬ノリウマ、生き馬イキウマ、勝ち馬カチウマ、逃げ馬ニゲウマ、跳ね馬ハネウマ、子馬コウマ、竹馬タケウマ、白馬シロウマ、種馬タネウマ、早馬ハヤウマ、穴馬アナウマ、縮馬シマウマ、尻馬シラウマ、責め馬セメウマ、アラビア馬アラビアウマ、裸馬ハダカウマ
裏	うら	3	連濁不 関与	乙			12			12	舞台裏ブタイウラ、天井裏テンジョウウラ、路地裏ロジウラ、抜け裏スゲウラ、浅葱裏アサギウラ、真裏マウラ、袖裏ソデウラ、共裏トモウラ、屋根裏ヤネウラ、麻裏アサウラ、足裏アシウラ、襟裏エリウラ
鬼	おに	3	連濁不 関与								
親	おや	3	連濁不 関与				10			10	名づけ親ナズケオヤ、男親オトコオヤ、女親オンナオヤ、鑑親ヨロイオヤ、仮親カリオヤ、里親サトオヤ、片親カタオヤ、父親⑦チオヤ、母親ハハオヤ、宿親ヤドオヤ
鍵	かぎ	3	ライマ ン法則				1			1	合鍵アイカギ
勝ち	かち	3					1			1	一本勝ちイツボンガチ
神	かみ	3		甲	lover	6	2			8	氏神ウジガミ、年神トシガミ、産土神ウブスナガミ、鬼神オニガミ、守り神マモリガミ、臆病神オクビョウガミ、貧乏神ビンボウガミ、疫病神ヤクビョウガミ
髪	かみ	3		乙	lover	5	13			18	hater 黒髪クロカミ、切り髪キリカミ、洗い髪アライガミ、散らし髪チラシガミ、日本髪ニホンガミ、庇し髪⑧サンガミ、結び髪ムスビガミ、引つ詰め髪⑧ツツメガミ、巻き髪マキガミ、後ろ髪ウシロガミ、額髪⑧タイガミ、水髪ミズガミ、前髪マエガミ、襟髪エリガミ、下げ髪サゲガミ、茶筍髪チャセウガミ、乱れ髪ミダレガミ、切り下げ髪キリサゲガミ
瓶	かめ	3									
菊	きく	3				9	1			10	lover 晩菊バンギク、寒菊カシギク、残菊ザシギク、乱菊ランギク、黄菊キギク、野菊ノギク、食用菊ショクヨウギク、矢車菊ヤグルマギク、蝦夷菊エゾギク、雛菊ヒナギク
岸	きし	3				2	1			3	lover 向こう岸ムコーギシ、根岸ネギシ、切り岸キリギシ
際	きわ	3			lover		15			15	lover 掃り際カエリギワ、土俵際ドヒョウギワ、往生際オージョーギワ、出際デギワ、寝際ネギワ、引き際⑧キギワ、引け際⑧ケギワ、額際⑧タイギワ、壁際カベギワ、水際ミズギワ、手際テギワ、瀬戸際セトギワ、窓際マドギワ、山際ヤマギワ、間際マギワ
肝	きも	3			lover		2			2	lover 生き肝イキギモ、砂肝スナギモ
葦	くき	3			lover	1				1	lover 葦茎ハグキ

草	くさ	3		甲	13	11		24	hater	餅草モチグサ、蘭草イグサ、手向け草タムケ\グサ、眠り草ネムリ\グサ、翁草オキナ\グサ、末草ツツジ\グサ、蚤草ホタル\グサ、べんべん草ペンペン\グサ、徒然草ツレズレ\グサ、心太草トコロテ\グサ、浮き草ウキ\グサ、下草タのサ、庭草ニワ\グサ、水草ミズ\グサ、道草ミチ\グサ、青草アオ\グサ、秋草アキ\グサ、夏草ナツ\グサ、冬草フユ\グサ、民草タミ\グサ、露草ツユ\グサ、七草ナナ\グサ、春草ハル\グサ、蔓草ツル\グサ	
櫛	くし	3		lover	1	2		3	lover	梳き櫛キグシ、櫛櫛ヨコグシ、花櫛ハナ\グシ	
靴	くつ	3		lover	6	7		13	lover	短靴タングツ、下靴タグツ、赤靴アカグツ、赤靴アカグツ、黒靴クログツ、革靴カワグツ、泥靴ドログツ、ゴム靴ゴム\グツ、スキー靴キ\グツ、安全靴アンゼ\グツ、運動靴ウインド\グツ、半長靴ハンナ\グツ、編み上げ靴アミアゲ\グツ	
熊	くま	3		lover	2	7		9	hater	黒熊クロクマ、白熊シロクマ、子熊コグマ、赤熊アカグマ、母熊ハハグマ、穴熊アナグマ、親熊オヤグマ、マレー熊マレー\グマ、洗熊アライ\グマ	
組	くみ	3		乙		6		6	lover	隣組トナリグミ、2人組タリグミ、消防組ショーボーグミ、男女組団シヨグミ、白組シログミ、番組バングミ	
倉	くら	3		lover							
栗	くり	3		lover	4	2		6	lover	焼き栗ヤキグリ、割り栗ワリグリ、落ち栗オチ\グリ、丹波栗タンバ\グリ、柴栗シバ\グリ、生栗ナマ\グリ	
苔	こけ	3		lover	1	3		4	lover	杉苔スギゴケ、水苔ミスゴケ、青苔アオゴケ、花苔ハナ\ゴケ	
事	こと	3		乙	lover	7	29	36	lover	遊び事アソビゴト、祝い事イワイゴト、思い事オモイゴト、隠し事カシゴト、綺麗事キレイゴト、勝負事ショウブゴト、作り事ウクリゴト、内緒事ナイショゴト、習い事ナライゴト、願い事ネガイゴト、笑い事ワイゴト、考え事カンガエゴト、心配事シンバイゴト、取り込み事トリコミゴト、慰み事ナグサミゴト、約束事ヤクソクゴト、喜び事ヨロコビゴト、芸事ゲイゴト、和事ワゴト、実事ジツゴト、余事ヨソゴト、振り事フリゴト、悩み事ナヤミゴト、杯事サカズキゴト、私事ワタシゴト、艶事ツヤゴト、何事ナニゴト、真似事マネゴト、唯事タダゴト、手事テ\ゴト、出来事デキ\ゴト、賭け事カケ\ゴト、所作事ショサ\ゴト、粋事イキ\ゴト、色事イロ\ゴト、物事モノ\ゴト	
米	こめ	3		lover		5		5	lover	焼き米ヤキゴメ、割り米ワリゴメ、赤米アカゴメ、生米ナマゴメ、陳米ヒネゴメ	
坂	さか	3		乙	2	2		並列1	5	lover	山坂ヤマ\サカ、下り坂クダリザカ、女坂オンナザカ、男坂オトコ\ザカ、だらだら坂ダラダラ\ザカ
錆	さび	3	ライマン法則								
竿	さお	3		lover	3	8		11	lover	秤竿バカリザオ、織ぎ竿ツギザオ、釣り竿ツリザオ、延べ竿ノベザオ、竹竿タケザオ、鳥竿トリザオ、鞆竿モチザオ、旗竿ハタザオ、掛け竿カケ\ザオ、衣紋竿エモンザオ、物干し竿モノホシ\ザオ	
舌	した	3				2		2	lover	巻き舌マキジタ、猫舌ネコジタ	
塩	しお	3		lover	1	4		5	hater	胡麻塩ゴマシオ、焼き塩ヤシオ、手塩テシオ、盛り塩モリジオ、山塩ヤマ\シオ	
潮	しお	3		immune	1	13		14	immune	出潮デシオ、上げ潮アゲシオ、引き潮キシオ、下げ潮サゲシオ、夕潮ユシオ、赤潮アカシオ、渦潮ウズシオ、黒潮クロシオ、血潮\シオ、真潮マシオ、親潮オヤシオ、高潮タカシオ、初潮ハ\シオ、向かい潮ムカイ\シオ	
島標	しましめ	3			1	1		2	hater	浮き島ウシマ、離れ島ハナレ\ジマ	
霜	しも	3			1	3		4	hater	初霜ハ\シモ、夕霜ユージモ、早霜ハヤジモ、別れ霜ワカレ\ジモ	
尻	しり	3		lover	1	6		7	lover	台尻ダイジリ、言葉尻コトバジリ、矢尻ヤジリ、糸尻イトジリ、肩尻マユジリ、幕尻マクジリ、目尻メ\ジリ	
鮓	すし	3		甲	lover	14		14	lover	押し鮓オシ\ズシ、五目鮓ゴモク\ズシ、回転鮓カイト\ズシ、雀鮓スズメ\ズシ、巻き寿司マキ\ズシ、蒸し寿司ムシ\ズシ、散し寿司チらし\ズシ、手巻き寿司テマキ\ズシ、握り寿司ニギリ\ズシ、稲荷寿司イナリ\ズシ、大阪寿司オーサカ\ズシ、鯖寿司サバ\ズシ、鮎寿司フナ\ズシ、鯖寿司マス\ズシ	
脛	すね	3				2		2	lover	向こう脛ムコーズネ、毛脛ケズネ	
炭	すみ	3		lover	1	5		6	lover	枝炭エダズミ、切り炭キリ\ズミ、跳ね炭ハネ\ズミ、佐倉炭サクラ\ズミ、散炭バラ\ズミ、粉炭コナ\ズミ	
墨	すみ	3		lover	2	5		7	hater	烏賊墨イカズミ、油煙墨ユエンズミ、朱墨シュズミ、鉛墨ナベズミ、靴墨ツズミ、油墨アブラ\ズミ、眉墨マユ\ズミ	
芹	せり	3			2			2	lover	田芹タ\ゼリ、根芹ネ\ゼリ	
丈	たけ	3		immune	7	1		8	immune	対丈ツイタケ、身丈ミ\タケ、背丈セ\タケ、袖丈ソデ\タケ、桁丈ユヱ\タケ、襟丈エリ\タケ、草丈サ\タケ、脇丈ワ\タケ	
谷柄	たにつか	3		lover							
月	つき	3			14	1		尾1	16	hater	夕月ユーズキ、卯月ウ\ズキ、葉月ハ\ズキ、産み月ウミ\ズキ、肉月ニク\ズキ、生まれ月ウマレ\ズキ、花見月ハナミ\ズキ、片割れ月カタワレ\ズキ、弓張り月ユミハリ\ズキ、文月フミ\ズキ、菊月\ズキ、閏月ウル\ズキ、臘月オボロ\ズキ、半月ハン\ズキ、霜月シモ\ズキ、年月トシ\ズキ

土	つち	3			immune	1	9			10	immune	盛り土モリ [㊦] チ、焼き土ヤキ [㊦] チ、壁土カベ [㊦] チ、底土ソコ [㊦] チ、床土トコ [㊦] チ、庭土ニウ [㊦] チ、赤土アカ [㊦] チ、黒土クロ [㊦] チ、泥土ドロ [㊦] チ、塵土カヌマ [㊦] チ
綱	つな	3			lover	2	6			8	lover	引き綱 [㊦] キズナ、鼻綱ハナズナ、横綱ヨコズナ、端綱ハズナ、帆綱ホズナ、鱧綱トモズナ、碇綱イカリ [㊦] ズナ、命綱イノチ [㊦] ズナ
角	つの	3										
面	つら	3					18			18	hater	帳面面 [㊦] チョーメンズラ、馬鹿面バカズラ、文字面モジズラ、痘痕面アバタズラ、向こう面ムコーズラ、内面ウチズラ、鼻面ハナズラ、髭面ヒゲズラ、野面ノズラ、外面ソトズラ、馬面ウマズラ、川面カワズラ、泣き面ナキツラ、泣き面ナ [㊦] ツラ、鼻っ面ハナツツラ、髭っ面ヒゲツツラ、横っ面ヨコツツラ、向こうっ面ムコーツツラ
弟子	でし	3	連濁不関与				1			1		一番弟子イチバンデシ
時	とき	3		乙	lover	1	16		尾1	18	hater	金時キ [㊦] ントキ、半時ハントキ [㊦] 、時分時ジブンドキ、田植え時タウエドキ、花見時ハナミドキ、書き入れ時カキイレドキ、霜枯れ時シモガレドキ、黄昏時タノガレドキ、引き時 [㊦] キドキ、引け時 [㊦] ケドキ、梅雨時ツユドキ、今時イマドキ、何時ナンドキ、潮時シオドキ、花時ハナドキ、昼時ヒルドキ、飯時メシドキ、八つ時ヤツドキ
毒	どく	3	連濁不関与									
年	とし	3		甲	lover	7	2		尾1	10	hater	半年ハントシ [㊦] 、亥年イドシ、裏年ウラドシ、生り年ナリ [㊦] ドシ、当たり年アタリ [㊦] ドシ、生まれ年ウマレ [㊦] ドシ、数え年カゾエ [㊦] ドシ、厄年ヤク [㊦] ドシ、閏年ウル [㊦] ドシ、雪年ユキ [㊦] ドシ
波	なみ	3	連濁不関与				2	10		12		引き波 [㊦] キナミ、徳波ホナミ、人波 [㊦] トナミ、藤波フジナミ、夕波ユーナミ、横波ヨコナミ、徒波アダナミ、川波カワナミ、高波タカナミ、年波トシナミ、土用波ドヨ [㊦] ナミ、三角波サンカク [㊦] ナミ
縄	なわ	3	連濁不関与					16		16		棕櫚縄シュロナワ、樽縄ロナワ、引き縄 [㊦] キナワ、投げ縄ナゲナワ、釣瓶縄ツルバナワ、一筋縄 [㊦] トスジナワ、腰縄コシナワ、手縄テナワ、荷縄ニナワ、火縄ヒナワ、藁縄ワラナワ、麻縄アサナワ、鈎縄カギナワ、注連縄シメナワ、墨縄スミナワ、泥縄ドロナワ
糠	ぬか	3	連濁不関与					2		2		粗糠モミヌカ、米糠コメヌカ
熨斗	のし	3	連濁不関与				2		尾2	4		火熨斗ヒノシ [㊦] 、湯熨斗ユノシ [㊦] 、昆布熨斗コンブ [㊦] ノシ、炭熨斗ワラビ [㊦] ノシ
蚤	のみ	3	連濁不関与									
海苔	のり	3	連濁不関与				3	3		6		新海苔シンノリ、焼き海苔ヤキノリ、岩海苔イワノリ、味付け海苔アジツケ [㊦] ノリ、浅草海苔アサ [㊦] ノリ、青海苔アオ [㊦] ノリ
墓	はか	3										
萩	はぎ	3	ライマン法則				1	1		2		溝萩ミゾハギ、盗人萩ヌスビト [㊦] ハギ
刷毛	はけ	3					2	1		3	lover	糊刷毛ノリバケ、洗い刷毛アラ [㊦] バケ、牡丹刷毛ボタ [㊦] ンバケ
鉢	はち	3					10	2		12	lover	銅鉢ドーバチ、梅鉢ウメバチ、乳鉢ニュ [㊦] バチ、火鉢ヒ [㊦] バチ、盛り鉢モリ [㊦] バチ、当たり鉢アタリ [㊦] バチ、金魚鉢キンギョ [㊦] バチ、手洗い鉢テアラ [㊦] バチ、菓子鉢カシ [㊦] バチ、植木鉢ウエキ [㊦] バチ、手水鉢チョーズ [㊦] バチ、井鉢ドンブリ [㊦] バチ
恥	はじ	3	ライマン法則					2		2		生き恥イキハジ、赤恥アカハジ
撥	ばち	3	連濁不関与									
花	はな	3			lover	13	10			23	hater	初花ハ [㊦] ハナ、返り花カエリバナ、出花デバナ、無駄花ムダバナ、茶花チャバナ、吊り花ツリバナ、盛り花モリバナ、麴花コージバナ、餅花モチバナ、徒花アダバナ、尾花オ [㊦] バナ、野花ノ [㊦] バナ、火花ヒ [㊦] バナ、押し花オシ [㊦] バナ、切り花キリ [㊦] バナ、彼岸花ヒガ [㊦] バナ、造り花 [㊦] クリ [㊦] バナ、小米花コゴメ [㊦] バナ、桜花サクラ [㊦] バナ、枕花マクラ [㊦] バナ、白粉花オシロ [㊦] バナ、草花 [㊦] サ [㊦] バナ、塩花シオ [㊦] バナ
浜	はま	3						1		1	immune	砂浜スナハマ
腹	はら	3		乙	lover		25			25	hater	業腹ゴーハラ、下腹 [㊦] タハラ、裏腹ウラハラ、下り腹クダリハラ、太鼓腹タイコハラ、布袋腹ホテハラ、茶腹チャハラ、蛇腹ジャハラ、詰め腹ツメハラ、冷え腹ヒエハラ、粥腹カユハラ、里腹サトハラ、臍腹シワハラ、豚腹ブタハラ、水腹ミズハラ、横腹ヨコハラ、湯腹ユハラ、後腹アトハラ、脇腹ワキハラ、中 [㊦] 腹チュウツハラ、土手 [㊦] 腹ドテツハラ、下 [㊦] 腹タツハラ、下 [㊦] 腹タツハラ、横 [㊦] 腹ヨコツハラ、横 [㊦] 腹ヨコツハラ
晴れ	はれ	3						1		1	lover	五月晴れサ [㊦] キバレ
輝	ひび	3	ライマン法則									
房	ふさ	3			lover	2	3			5	lover	赤房アカブサ、青房アオブサ、白房シロブサ、乳房チ [㊦] ブサ、花房ハナ [㊦] ブサ

節	ふし	3		乙	lover	1	11			12	hater	豊後節ブンゴブシ、追分節オイワケブシ、新内節シンナイブシ、法界節ホーカイブシ、土佐節トサブシ、木曾節ウソブシ、鯉節カツオブシ、富本節トミモトブシ、亀節カメブシ、骨節ホネブシ、骨つ節ホネツブシ、折節オリシ
縁	ふち	3					3			3	lover	額縁ガクブチ、金縁ギンブチ、銀縁ギンブチ
幕	まく	3	連濁不 関与			14	8			22		暗幕アンマク、銀幕ギンマク、段幕ダンマク、序幕ジョマク、引き幕キマク、内幕ウチマク、袖幕ソデマク、黒幕クロマク、陣幕ジマク、天幕テンマク、揚幕アゲマク、切り幕キリマク、化粧幕ケシマク、返し幕カエシマク、横断幕オウダマク、映写幕エーシャマク、水引幕ミズキマク、浅黄幕アサギマク、霞幕カスミマク、鯨幕クジラマク、斑幕マダラマク、中幕ナカマク
柵	ます	3	連濁不 関与									
袴	また	3	連濁不 関与									
鞆	まり	3	連濁不 関与			1	1			2		手鞆テマリ、ゴム鞆ゴムマリ
耳	みみ	3	連濁不 関与			2	6			8		寝耳ネミミ、両耳リヨミミ、福耳フクミミ、空耳ソラミミ、早耳ハヤミミ、初耳ハツミミ、地獄耳ジゴクミミ、袋耳フクロミミ
室	むろ	3	連濁不 関与				3			3		麴室コージムロ、石室イシムロ、岩室イワムロ
物	もの	3	連濁不 関与			32	153	5	尾2	192		<p>上がり物アガリモノ、預け物アズケモノ、余り物アマリモノ、洗物アライモノ、急ぎ物イソギモノ、祝い物イワイモノ、誦物ウタイモノ、写し物ウシモノ、絵巻物エマキモノ、縁起物エンギモノ、納め物オサメモノ、落とし物オトシモノ、飾り物カザリモノ、語り物カタリモノ、呉服物ゴクモノ、壊れ物コワレモノ、細工物サイクモノ、時代物ジダイモノ、出物デモノ、煮物ニモノ、仕立て物タテモノ、調べ物シラベモノ、廃り物タリモノ、戦記物センキモノ、供え物ソナエモノ、使い物カイモノ、作り物クリモノ、続き物ツズキモノ、包み物ツミモノ、摘み物ツマミモノ、届け物トドケモノ、直し物ナオシモノ、日本物ニホンモノ、残り物ノコリモノ、離れ物ハナレモノ、流行り物ハヤリモノ、払い物ハライモノ、半端物ハンパモノ、光り物カリモノ、浸し物タシモノ、婦人物ブジンモノ、紬い物マガイモノ、見切り物ミキリモノ、賈ぎ物ミツギモノ、儲け物モケモノ、木綿物モメンモノ、貰い物モライモノ、野菜物ヤサイモノ、許し物ユルシモノ、汚れ物ヨコレモノ、渡り物ワタリモノ、笑い物ワライモノ、高い物アキナイモノ、預かり物アスカリモノ、誂え物アツラエモノ、御使い物オカイモノ、怪談物カイドンモノ、懐中物カウチューモノ、考え物カンガエモノ、近海物キンカイモノ、興行物コーギョーモノ、拵え物コシラエモノ、骨董物コトモノ、差し入れ物サシイレモノ、精進物ジョウジンモノ、新作物シンサクモノ、心中物シンジュウモノ、スリラー物スリラーモノ、洗濯物センタクモノ、創作物ソーサクモノ、頂戴物チョウダイモノ、到来物トウライモノ、一幕物トマクモノ、北海物ホクカイモノ、施し物ホドコシモノ、翻訳物ホンヤクモノ、取り合わせ物トリアワセモノ、三尺物サンジャクモノ、別物ベツモノ、修羅物シュラモノ、上物ジョーモノ、反物タンモノ、中物チュウモノ、本物ホンモノ、露地物ロジモノ、世話物セワモノ、魔物マモノ、下物ゲモノ、揚げ物アゲモノ、</p> <p>当て物アテモノ、揚げ物アゲモノ、当て物アテモノ、売り物ウリモノ、買物カイモノ、借り物カリモノ、染め物ソメモノ、縫き物ツギモノ、鳴り物ナリモノ、塗り物ヌリモノ、乗り物ノリモノ、張り物ハリモノ、睡れ物ハレモノ、引き物キモノ、盛り物モリモノ、焼き物ヤキモノ、寄せ物ヨセモノ、割れ物ワレモノ、巻き物マキモノ、敷物キモノ、織物オリモノ、器物ウツワモノ、男物オトコモノ、女物オンナモノ、生世話物キゼモノ、宝物カカラモノ、囃子物ハヤシモノ、単衣物トエモノ、袋物クロモノ、土産物ミヤゲモノ、大業物オウワザモノ、井物ドンブリモノ、並幅物ナミハバモノ、股旅物マタビモノ、まやかし物マヤカシモノ、柔らか物ヤワラカモノ、並物ナミモノ、柄物ガラモノ、傷物キズモノ、先物サキモノ、品物シナモノ、艶物ツヤモノ、何物ナニモノ、偽物ニセモノ、蓋物タモノ、鬚物マゲモノ、水物ミズモノ、秋物アキモノ、小間物コマモノ、汁物シルモノ、瀬戸物セトモノ、母物ハハモノ、春物ハルモノ、古物フルモノ、色物イロモノ、際物キワモノ、代物シロモノ、夏物ナツモノ、鉢物ハチモノ、初物ハツモノ、冬物フユモノ、業物ワザモノ、実物ミモノ、端物ハモノ、葉物ハモノ、生臭物ナマガサモノ、刃物ハモノ、習い物ナライモノ、段物ダンモノ、賭け物カケモノ、掛け物カケモノ、切れ物キレモノ、組み物クミモノ、刷り物スリモノ、付き物ツキモノ、詰め物ツメモノ、研ぎ物トギモノ、投げ物ナゲモノ、生り物ナリモノ、練り物ネリモノ、飲み物ノミモノ、蒸し物ムシモノ、持ち物モチモノ、生き物イキモノ、出来物デキモノ、縫い物ヌイモノ、彫り物ホリモノ、読み物ヨミモノ、毛織物ケオリモノ、軸物ジクモノ、青物アオモノ、糸物イトモノ、敷物カズモノ、絹物キヌモノ、屑物クズモノ、種物タネモノ、汁物ツユモノ、鍋物ナベモノ、生物ナマモノ、色物イロモノ、棹物サオモノ、塩物シオモノ、織物シマモノ、花物ハナモノ、疋物フタモノ、疋物フタモノ</p>

堀	ほり	*	3					5			5	lover	用水堀ヨースイボリ、釣り堀ツリボリ、内堀ウチボリ、外堀ソトボリ、空堀カラボリ
孫	まご	*	3	連濁不 関与				4			4		内孫ウチマゴ、曾孫◎コマゴ、外孫ソトマゴ、初孫ハツマゴ
店	みせ	*	3	連濁不 関与			2	8			10		出店デミセ、新店シンミセ、茶店チャミセ、空き店アキミセ、貸し店カシミセ、張り店ハリミセ、床店トコミセ、夜店ヨミセ、屋台店ヤタ\イミセ、小間物店コマモノ\ミセ
跡	あと		4	連濁不 関与				2	2		4		引け跡◎ケアト、燃え跡モエアト、屋敷跡ヤ◎キア\ト、足跡アシア\ト
粟	あわ		4	連濁不 関与									
息	いき		4	連濁不 関与				2	1		3		鼻息ハナイキ、寝息ネイキ、溜め息タメイ\キ
板	いた		4	連濁不 関与	丙		3	26	9		38		下見板◎タミイタ、根太板ネダイタ、鉄板テツイタ、上げ板アゲイタ、押し板オシイタ、塗り板ヌリイタ、張り板ハリイタ、敷き板◎キイタ、延べ板ノベイタ、折ぎ板ヘギイタ、戸板トイタ、矢板ヤイタ、床板ユカイタ、壁板カベイタ、腰板コシイタ、杉板スギイタ、棚板タナイタ、床板トコイタ、溝板ドブイタ、種板タネイタ、猫板ネコイタ、屋根板ヤネイタ、波板ナミイタ、型板カタイタ、橋板ハシイタ、羽目板ハメイタ、ベニヤ板ベニヤ\イタ、天井板テンジョ\イタ、歩み板アユミイ\タ、仕切り板◎キリイ\タ、トタン板トタンイ\タ、流し板ナガシイ\タ、渡り板ワタリイ\タ、洗濯板センタクイ\タ、鏡板カガミイ\タ、海鼠板ナマコイ\タ、鍍板ヨロイ\タ、裁ち物板タチモノ\イタ
市	いち		4	連濁不 関与			6	1			7		馬市ウマイチ、青物市アオモノ\イチ、魚市ウオ\イチ、朝市アサ\イチ、闇市ヤミ\イチ、競り市セリ\イチ、見本市ミホ\ンイチ
何時	いつ		4	連濁不 関与									
糸	いと		4	連濁不 関与	丙		1	24	7		32		ガス糸ガスイト、毛糸ケイト、蓮糸ハスイト、道糸ミチイト、横糸ヨコイト、絹糸キヌイト、屑糸クズイト、黒糸クロイト、琴糸コトイト、白糸シロイト、縦糸タテイト、麻糸アサイト、穴糸アナイト、綾糸アヤイト、色糸イロイト、墨糸スミイト、玉糸タマイト、節糸◎シイト、釣り糸ツリイト、織り糸オリイト、組み糸クミイト、綴じ糸トジイト、練り糸ネリイト、縫り糸ヨリイト、生糸キ\イト、織糸ヌキイ\ト、糸カセイ\ト、抜き糸ヌキイ\ト、縫い糸ヌイイ\ト、紬糸ツムギイ\ト、木綿糸モメンイ\ト、紡績糸ポーセキイ\ト
稲	いね		4	連濁不 関与									
白	うす		4	連濁不 関与				2			2		茶白チャウス、石白イシウス
海	うみ		4	連濁不 関与				2	2		4		内海ウチウミ、泥海ドロウミ、入り海イリウ\ミ、外海ソトウ\ミ
瓜	うり		4	連濁不 関与			2				2		烏瓜カラス\ウリ、白瓜シロ\ウリ
擗	かい		4										
笠	かさ		4			lover		4	4	並列1	9	hater	松笠マ◎カサ、蓑笠ミ\ノカサ、陣笠ジンガサ、菅笠スゲガサ、花笠ハナガサ、塗り笠ヌリガ\サ、鰻頭笠マンジューガ\サ、網代笠アジロガ\サ、槍笠ヒノキガ\サ
糟	かす		4			immune							
数	かず		4	ライマ ン法則			2	7	1		10		頭数アタマカズ、言葉数コトバカズ、場数バカズ、間数マカズ、品数シナカズ、人数◎トカズ、番数バンカズ、手数テ\カズ、矢数ヤ\カズ、日数◎カ\ズ
肩	かた		4			immune	4	2			6	hater	路肩ロカタ、右肩ミギカタ、五十肩ゴジュ\ーカタ、四十肩シジュ\ーカタ、襟肩エリ\カタ、怒り肩イカリ\カタ
角	かど		4	ライマ ン法則			1	5			6		曲がり角マガリカド、四つ角ヨ◎カド、岩角イワカド、街角マ◎カド、三つ角ミ◎カド、目角メ\カド
鎌	かま		4				2				2	lover	鎖鎌◎サリ\ガマ、草刈り鎌◎サカリ\ガマ
上	かみ		4			immune	1	2			3	hater	川上カワカミ、股上マタガミ、枕上マクラ\ガミ
杵	きね		4										
錐	きり		4				1				1	lover	三つ目錐ミツメ\ギリ
管	くだ		4	ライマ ン法則			1				1		手管テ\クダ
屑	くず		4	ライマ ン法則				3	7		10		星屑ホ◎クズ、藁屑モクズ、鉄屑テ◎クズ、鉋屑カンナク\ズ、木屑◎クズ、糸屑イトク\ズ、紙屑カミク\ズ、粉屑コナク\ズ、綿屑ワタク\ズ、切り屑キリク\ズ
今朝	けさ		4										
今日	きょう		4										
鞆	さや		4					4			4	lover	値鞆ネザヤ、逆鞆ギャクザヤ、朱鞆シュザヤ、利鞆リザヤ
汁	しる		4		丙	lover		5	12		17	hater	味噌汁ミソシ\ル、鼻汁ハナジル、糟汁カスジル、芋汁イモジル、出汁ダシジル、冷や汁ヒヤジル、潮汁ウシオジ\ル、蜆汁シジミジ\ル、狸汁タヌキジ\ル、泥鰌汁ドジョージ\ル、薯蕷汁トロロジ\ル、閤汁ヤミジ\ル、薩摩汁サツマジ\ル、澄まし汁スマシジ\ル、煮出し汁ニダシジ\ル、レモン汁レモンジ\ル、巻糍汁ケンチンジ\ル
筋	すじ		4	ライマ ン法則	甲		15	11			26		本筋ホンスジ、粹筋イ◎スジ、首筋クビスジ、鼻筋ハナスジ、道筋ミ◎スジ、青筋アオスジ、家筋イエスジ、川筋カワスジ、球筋タマスジ、町筋マ◎スジ、毛筋ケスジ、万筋マン\ンスジ、手筋テ\スジ、御堂筋ミド\ースジ、権威筋ケンイ\ンスジ、政府筋セー\ンスジ、外交筋ガイコ\ースジ、関係筋カンケ\ースジ、官辺筋カンペン\ンスジ、道中筋ドーチュ\ースジ、消息筋ショウソク\ンスジ、素人筋シロウト\ンスジ、仕手筋◎テ\ンスジ、大手筋オーテ\ンスジ、鼻眞筋ヒエ◎\ンスジ、太刀筋タチ\ンスジ

隅	すみ	4				1			1	immune	片隅カラスミ
銭	ぜに	4	連濁不 関与			2	2		4		日銭ヒゼニ、身銭ミゼニ、泡銭アブクゼニ、端銭ハタゼニ
側	そば	4	ライマ ン法則								
空	そら	4				1	4	8	13	hater	身空ミソラ、梅雨空ツユゾラ、夏空ナツゾラ、冬空フユゾラ、 夜空ヨゾラ、曇り空クモリゾラ、星空ホシゾラ、青空ア オゾラ、秋空アキゾラ、中空ナカゾラ、高空タカゾ ラ、初空ハツゾラ、雪空ユキゾラ
種	たね	4		lover		10	3		13	hater	菜種ナタネ、蕪種ツヤダネ、稗種モミダネ、子種コダネ、寿 司種スシダネ、物種モノダネ、火種ヒダネ、パン種パンダネ、 変わり種カワリダネ、新聞種シンブンダネ、客種キヤクダネ、 一粒種◎トツダネ、零れ種コボレダネ
罪	つみ	4									
杖	つえ	4		lover		1	5		6	lover	側杖ソバズエ、松葉杖マツバズエ、鳩杖ハトズエ、仕込み 杖◎コミズエ、撞木杖シュモクズエ、金剛杖コンゴーズ エ
咎	とが	4	ライマ ン法則								
中	なか	4	連濁不 関与			2	5		尾2	9	月中◎キナカ、昼中ヒルナカ、山中ヤマナカ、日中ヒナカ、背 中セナカ、野中ノナカ、夜中ヨナカ、胸中ドーナカ、只 中タダナカ
何	なに	4	連濁不 関与								
苗	なえ	4	連濁不 関与			1	1		2		花苗ハナナエ、ポット苗ポットナエ
鑿	のみ	4	連濁不 関与			1			1		丸鑿マルノミ
箸	はし	4		lover		3	3	1	7	lover	竹箸タケバシ、塗り箸ヌリバシ、割り箸ワリバシ、火箸ヒバ シ、杉箸スギバシ、祝い箸イワイバシ、移り箸ウツリバ シ
肌	はだ	4	ライマ ン法則			9	13		22		美肌ビハダ、荒れ肌アレハダ、鮫肌サメハダ、鳥肌トリハダ、 人肌◎トハダ、餅肌モチハダ、赤肌アカハダ、片肌カタハダ、 鍋肌ナベハダ、柔肌ヤワハダ、山肌ヤマハダ、雪肌ユキハダ、 木肌◎ハダ、素肌スハダ、手肌テハダ、夜肌ヨハダ、勇 み肌イサミハダ、学者肌ガシヤハダ、親分肌オヤブ ンハダ、乾燥肌カンソウハダ、敏感肌ピンカシハダ、名人肌 メーヂンハダ
針	はり	4		丙	lover	4	4	6	14	hater	縫い針ヌイハリ、蚊針カバリ、毛針ケバリ、擬餌針ギジバ リ、釣り針ツリバリ、縫い針ヌイバリ、待ち針マチバリ、 印針シルシバリ、鉤針カギバリ、紵針◎ケバリ、絹針キ ヌバリ、留め針トメバリ、掛け針カケバリ、木綿針モメ ンバリ
船	ふね	4		丙	lover	3	15	15	33	hater	出船デフネ、入り船イリフネ、黒船クロフネ、貸し船カシブ ネ、水船ミズブネ、牡蠣船カキブネ、早船ハヤブネ、網船アミ ブネ、親船オヤブネ、空船カラブネ、川船カワブネ、荷船ニ ブネ、湯船ユブネ、夜船ヨブネ、助け船タクエブネ、繫 ぎ船ツナギブネ、泊まり船トマリブネ、舫い船モヤイブ ネ、遊山船ユサンブネ、乗合船ノリアイブネ、猪牙船チヨ キブネ、簞船カガリブネ、鯉船カツオブネ、宝船タカラ ブネ、静船ハシケブネ、屋根船ヤネブネ、浮き舟ウキブ ネ、笹舟ササブネ、箱舟ハコブネ、釣り舟ツリブネ、丸木舟マ ルキブネ、苦舟トマブネ、渡し舟ワタシブネ
紅	べに	4	連濁不 関与			4			4		食紅シヨクベニ、口紅◎チベニ、頬紅ホーベニ、寒紅カンベ ニ
篋	へら	4				1	1		2	lover	竹篋タケベラ、靴篋◎ツベラ
松	まつ	4	連濁不 関与	丙		12	2	1	15		市松イチマツ、黒松クロマツ、根松ネマツ、古い松オイマ ツ、夫婦松ミョウトマツ、夫婦松メオトマツ、赤松アカ マツ、蝦夷松エゾマツ、笠松カサマツ、門松カドマツ、 榎松トドマツ、姫松ヒメマツ、五葉松ゴヨーマツ、一本 松イッポンマツ、根上がり松ネアガリマツ
味噌	みそ	4	連濁不 関与					1	1		田舎味噌イナカミソ
蓑	みの	4	連濁不 関与			1			1		腰蓑コシミノ
麦	むぎ	4	連濁不 関与			7	13		20		藪蕎麦ヤブソバ、苧蕎麦ザルソバ、生蕎麦◎ソバ、茶蕎麦チャ ソバ、焼き蕎麦ヤ◎ソバ、盛り蕎麦モリソバ、掛け蕎麦カケソ バ、油蕎麦アブラソバ、三十日蕎麦ミソカソバ、夜鷹蕎麦 ヨタカソバ、沖繩蕎麦オキナワソバ、更科蕎麦サラシソ バ、天ぷら蕎麦テンブラソバ、御膳蕎麦ゴゼンソバ、中 華蕎麦チューカソバ、月見蕎麦◎キミノソバ、手打ち蕎麦テ ウ◎ソバ、夜鳴き蕎麦ヨナギソバ、年越し蕎麦トコ◎ソ バ、引越蕎麦◎ッコシソバ
畏	わな	4	連濁不 関与								
薬	わら	4	連濁不 関与			4			4		寝薬ネワラ、巻き薬マキワラ、敷き薬◎キワラ、麦薬ムギワラ
我	われ	4	連濁不 関与								
桁	けた	× 4		lover		2	2		4	lover	帆桁ホゲタ、橋桁ハシゲタ、井桁イゲタ、湯桁ユゲタ
下駄	げた	× 4	連濁不 関与								

前	まえ	5	連濁不 関与	丙		2	20	7		29	男前オトコマエ、左前ヒダリマエ、一人前トトリマエ、江戸前 エドマエ、口前チマエ、人前トマエ、板前イタマエ、右前 ミギマエ、腕前ウデマエ、名前ナマエ、手前テマエ、手前テマ エ、出前デマエ、当たり前アタリマエ、一人前イチニンマエ、 錠前ジョーマエ、気前キマエ、足し前タシマエ、割り前ワリマ エ、持ち前モチマエ、駅前エキマエ、後ろ前ウシロマエ、 朝飯前アサメシマエ、昼前ヒルマエ、飯前メシマエ、分 け前ワケマエ、夜明け前ヨアケマエ、嫁入り前ヨメイリマ エ、盆前ボンマエ	
眉	まゆ	5	連濁不 関与				1	1		2	引き眉キマユ、軸廻眉ゲジゲジマユ	
繭	まゆ	5	連濁不 関与				4			4	屑繭クズマユ、生繭ナママユ、初繭ハツマユ、山繭ヤママユ	
聲	むこ	5	連濁不 関与									
股	もも	5	連濁不 関与				2			2	内股ウチモモ、高股タカモモ	
桶	おけ	5	連濁不 関与				5	10	尾1	16	水桶ミズオケ、手桶テオケ、湯桶ユオケ、溜め桶タメオケ、留 め桶トメオケ、火桶ヒオケ、飼い葉桶カイバオケ、首桶ク ビオケ、早桶ハヤオケ、風呂桶フロオケ、塗り桶ヌリオ ケ、肥桶コエオケ、天水桶テンスイオケ、用水桶ヨース イオケ、棺桶カンオケ、閻伽桶アカオケ	
青	あお	* 5	連濁不 関与									
赤	あか	* 5	連濁不 関与									
朝	あさ	* 5	連濁不 関与			1	1			2	翌朝ヨクアサ、明朝ミョーアサ	
兄	あに	* 5	連濁不 関与									
牡蠣	かき	* 5			lover	2				2	lover	酢牡蠣スガキ、生牡蠣ナマガキ
黒	くろ	* 5					3	1	並列1	5	hater	白黒シロクロ、白黒シロクロ、真つ黒マツク、中黒ナカ グロ、色黒イログロ
白	しろ	* 5					3	1	並列1	5	hater	月白キシロ、黒白シロシロ、真つ白マツシ、三盆白サ ンボンジロ、色白イロジロ
鮭	さけ	* 5					1	3		4	lover	紅鮭ベニザケ、銀鮭ギンザケ、白鮭シロザケ、塩鮭シオザ ケ
縦	たて	* 5										
蛇	へび	* 5	ライマ ン法則				4	4		8		藪蛇ヤブヘビ、海蛇ウミヘビ、縞蛇シマヘビ、毒蛇ドヘビ、 烏蛇カラスヘビ、錦蛇ニキヘビ、眼鏡蛇メガネヘビ、 がらがら蛇ガラガラヘビ
井戸	いど	* 5	連濁不 関与					2		2		掘り抜き井戸ホリヌキイド、車井戸クルマイド
上	うえ	1か2	連濁不 関与			5	4		尾1	10		床上ユカウエ、年上トシウエ、目上メウエ、格上カクウエ、真 上マウエ、姉上アネウエ、伯母上オバウエ、兄上アニ ウエ、父上チウエ、母上ハハウエ
うち	うち	1か2	連濁不 関与									
先	さき	1か2										重複語彙
下	した	1か2		乙		2	18		尾3	23	immune	トツ下トツシタ、名題下ナダイシタ、ガード下ガード タ、化粧下ケショータ、羽織下ハオリタ、格下カクタ、 版下ハンタ、紋下モンタ、割り下ワリタ、組下クミ タ、鬘下カツラタ、櫓下ヤグラタ、白粉下オシロイタ、 軒下ノキタ、床下ユカタ、白下シロタ、股下マタタ、 幕下マクタ、真下マタタ、手下テタタ、目下メタタ、 上下ウエタ、靴下ツツタ
程	ほど	1か2	ライマ ン法則				2			2		先程サホド、中程ナカホド
亀	かめ	3か5			lover		5	1	並列1	7	lover	鶴亀ツルカメ、象亀ゾーガメ、海亀ウミガメ、銭亀ゼニガ メ、養亀ミノガメ、石亀イシガメ、胴亀ドーガメ
鴨	かも	3か5				1	2			3	lover	真鴨マガモ、間鴨アイガモ、巢鴨スガモ
蛸	たこ	3か5					2	1		3	lover	真蛸マダコ、飯蛸イダコ、酢蛸スダコ
鳩	はと	3か5			lover		3	1		4	lover	雉鳩キジバト、家鳩イエバト、山鳩ヤマバト、軍用鳩グンヨー バト
今	いま	4か5	連濁不 関与						尾1	1		只今タダイマ
夜	よる	4か5	連濁不 関与									
ここ	ここ	1か2 か4										
そこ	そこ	1か2 か4										
沖	おき		連濁不 関与									
奥	おく		連濁不 関与					1		1		山奥ヤマオク
供	とも						1			1	lover	子供コドモ
本	もと		連濁不 関与			1	2			3		網本アミモト、旗本ハタモト、富本トミモト
元	もと		連濁不 関与			1	27	1	尾6	35		勝手元カッテモト、金元カネモト、釜元カマモト、竈元カマモ ト、口元クチモト、国元クニモト、腰元コシモト、鼻元ハナモ ト、膝元ヒザモト、喉元ノドモト、宿元ヤドモト、家元イエモ ト、襟元エリモト、親元オヤモト、蔵元クラモト、耳元ミミモ ト、山元ヤマモト、身元ミモト、太夫元タヌモト、勸進元カ ンジンモト、製造元セーゾーモト、発売元ハツバイモト、胴元 ドーモト、版元ハンモト、本元ホンモト、貸し元カシモト、織 り元オリモト、手元テモト、根元ネモト、火元ヒモト、 目元メモト、湯元ユモト、座元ザモト、枕元マクラモト、 足元アシモト
許	もと		連濁不 関与									

5. 1 ローゼンの分類方法による筆者の分類

アクセントデータベースから抽出した項目を、Rosen による 3 分類の概念を用い、後部要素の 2 拍和語を分類したが、項目の中に Rosen の分類と異なる 22 項目がある。また、Rosen が分類してなく、筆者が新たに分類した 73 項目がある。

Rosen の分類と異なる項目について、

Rosen よれば「rendaku lover」、筆者が「rendaku hater」と分類した 20 項目（その項目の不連濁の例を挙げる）：

「底そこ」：「奥底オ㊦ソコ」「谷底タニゾコ/タニソコ」

「鳥とり」：「焼き鳥ヤ㊦トリ」

「鱭ひれ」：「鱭鱭㊦カヒレ」

「仮名かな」：「旧仮名キューカナ」

「髪かみ」：「黒髪クロカミ」「切り髪キリ\カミ」

「熊くま」：「黒熊クロクマ」「白熊シロクマ」

「塩しお」：「胡麻塩ゴマシオ」「焼き塩ヤ㊦シオ」「手塩テシオ」

「墨すみ」：「烏賊墨イカスミ」

「時とき」：「金時キ\ントキ」「半時ハントキ\」

「年とし」：「半年ハントシ\」

（しかし、「半時ハントキ\」と「半年ハントシ\」は「数詞+助数詞」の語とも扱われるため、また検討する余地がある）

「花はな」：「初花ハ㊦ハナ」

「腹はら」：「業腹ゴーハラ」「下腹㊦タハラ」「裏腹ウラハラ」

「節ふし」：「折節オリ\㊦シ」

「雲くも」：「黒雲クロクモ」

「玉たま」：「首っ玉クビッタマ」「味玉アジタマ」「蟹玉カニタマ」「水玉ミズタマ」「肝っ玉キモッタマ\」

「笠かさ」：「松笠マ㊦カサ」（「蓑笠ミ\ノカサ」は並列関係を持つ語であるため、除外した）

「汁しる」：「味噌汁ミソシ\ル」

「種たね」：「菜種ナタ\ネ」

「針はり」：「縫い針ヌ\イハリ」

「船ふね」：「出船デフネ」「入り船イリフネ」「黒船クロフネ」「浮き舟ウキフネ」

Rosen よれば「rendaku immune」、筆者が「rendaku hater」と分類した 2 項目（その項目の不連濁の例を挙げる）：

「肩かた」：「怒り肩イカリ\ガタ」

「上かみ」：「股上マタガミ」「枕上マクラ\ガミ」

また、筆者が新たに分類した 73 項目について、

「rendaku lover」46 項目：

「鐘かね」「君きみ」「桐きり」「駒こま」「品しな」「黴しわ」「滝たき」「釣つり」「床とこ」「羽根はね」「菱ひし」「蓋ふた」「臍へそ」「蚊帳かや」「機はた」「頃ころ」「勝ちかち」「菊きく」「岸きし」「組くみ」「坂さか」「舌した」「脛すね」「芹せり」「刷毛はけ」「鉢はち」「晴れはれ」「房ふさ」「縁ふち」「太刀たち」「鯛たい」「堀ほり」「鎌かま」

「錐きり」「鞘さや」「籠へら」「乳ちち」「蜘蛛くも」「琴こと」「鯉こい」「声こえ」「鮒ふな」「鮭さけ」「鴨かも」「蛸たこ」「供とも」

「rendaku hater」14項目：

「暮くれ」「末すえ」「方かた」「鞍くら」「褌つま」「草くさ」「島しま」「霜しも」「月つき」「面つら」「皮かわ」「空そら」「黒くろ」「白しろ」

「rendaku immune」13項目：

「鍬くわ」「鷹たか」「端はし」「暇ひま」「北きた」「下しも」「昼ひる」「冬ふゆ」「浜はま」「隅すみ」「外そと」「春はる」「下した」

5. 2 アクセント語類と連濁と複合名詞アクセントについて再考察

4節では、前田（2000）が扱っている後部要素が2拍和語の複合名詞と、金田一語類分類表にある2拍和語と、Rosen（2001）の3分類に見られる2拍和語と、対照しながらアクセント語類と連濁と複合名詞アクセントの関係について検討を行った。しかし、調査は不十分、調査語数が少ないなどの問題がある。本節は、金田一による語類、筆者の3分類、アクセントデータベースに基づく複合名詞アクセントを用い、アクセント語類と連濁と複合名詞アクセントの関係について再考察し、まとめたものは語類別で、それぞれを表34～38のように示す。

表34 アクセント語類と連濁と複合名詞アクセント（第1類）

語類	語彙	読み	連濁が起らない 複合名詞アクセント型					連濁	語類	語彙	読み	連濁が起る 複合名詞アクセント型					連濁
			前部末	平板	後部頭高	その他	合計					前部末	平板	後部頭高	その他	合計	
			234	179	3	5	421					164	201	3	5	373	
第1類	脛	あめ	7	2			9	連濁不関与	第1類	柿	かき	5	1			6	lover
	蟻	あり	2	3			5	連濁不関与		蟹	かに	6	4			10	lover
	鳥賊	いか	8	1			9	連濁不関与		金	かね	9	21		並列1	31	lover
	牛	うし	2	3			5	連濁不関与		鐘	かね		2			2	lover
	梅	うめ	3				3	連濁不関与		顔	かお	3	25			28	lover
	魚	うお	7	2			9	連濁不関与		釜	かま	3	9		並列1	13	lover
	枝	えだ		1			1	連濁不関与		粥	かゆ	1	3	2		6	lover
	海老	えび	2				2	連濁不関与		君	きみ	1	3			4	lover
	風	かぜ	28	9			37	ライマン法則		桐	きり	2	2			4	lover
	壁	かべ	2	4			6	ライマン法則		霧	きり	2	2			4	lover
	釘	くぎ	6	1			7	ライマン法則		国	くに	4				4	lover
	頸	くび	9	6			15	ライマン法則		腰	こし	6	10		並列1	17	lover
	鍬	くわ		1			1	immune		駒	こま	1	4			5	lover
	先	さき	1	48	2	尾3	54	immune		薦	こも		1			1	lover
	鷺	さぎ		1			1	ライマン法則		酒	さけ	15	9			24	lover
	鱈	さば	1	2			3	ライマン法則		笹	ささ	1	2			3	lover
	芝	しば	2	1			3	ライマン法則		里	さと	2	3			5	lover
	杉	すぎ	5				5	ライマン法則		鮫	さめ	7	1			8	lover
	裾	すそ		2			2	immune		皿	さら	4	7	1		12	lover
	袖	そで	2	6			8	ライマン法則		品	しな	1				1	lover
	鷹	たか		2			2	immune		敷	しわ		4			4	lover
	西	にし		1			1	連濁不関与		滝	たき	1				1	lover
	庭	にわ		6			6	連濁不関与		竹	たけ	4	5		並列1	10	lover
	布	ぬの		4			4	連濁不関与		棚	たな	8	13			21	lover
	端	はし	1	3			4	immune		筒	つつ	3	2			5	lover
	髯	ひげ		2			2	ライマン法則		爪	つめ	3	1			4	lover
	膝	ひざ		1			1	ライマン法則		釣	つり		4			4	lover
	暇	ひま	1				1	immune		床	とこ	2	8			10	lover
	紐	ひも	7	5			12	immune		箱	はこ	31	20			51	lover
	札	ふだ	14	10			24	ライマン法則		蜂	はち	4				4	lover
	藤	ふじ	3				3	ライマン法則		鼻	はな	4	5		並列1	10	lover
	筆	ふで	2				2	ライマン法則		羽根	はね		1			1	lover
	舞	まい		2			2	連濁不関与		灰	はい	5				5	lover
	道	みち	27	12		尾1	40	連濁不関与		蠅	はえ	3	1			4	lover
	水	みず	28	4			32	連濁不関与		菱	ひし	2				2	lover
	水宮	みや	1	1			2	連濁不関与		蓋	ふた	4	7			11	lover
	虫	むし	29	4	1		34	連濁不関与		笛	ふえ	1	15			16	lover
	靱	もみ	1				1	連濁不関与		臍	へそ	1				1	lover
	桃	もも		2			2	連濁不関与		星	ほし	13	2			15	lover
	嫁	よめ	2				2	連濁不関与		蚊帳	かや*	2				2	lover
	真似	まね	△	1	5		6	連濁不関与		城	しろ*		4			4	lover
	棟	むね	×		2		2	連濁不関与									
	籠	かご	*	1	2		3	ライマン法則									
	株	かぶ	*	22	10		32	ライマン法則									
	敷	やぶ	*		3		3	連濁不関与									
槍	やり	*	2	4		6	連濁不関与										
百合	ゆり	★	5			5	連濁不関与										
横	よこ	*		1		1	並列1										

表 35 アクセント語類と連濁と複合名詞アクセント (第2類)

語類	語彙	読み	連濁が起らない					連濁	語類	語彙	読み	連濁が起る					連濁		
			複合名詞アクセント型									合計	複合名詞アクセント型					合計	
			前部末	平板	後部頭高	その他	合計						前部末	平板	後部頭高	その他			合計
			32	40	3	5	80				46	99	7	1	153				
第2類	石	いし	9	9			18	連濁不関与	第2類	垣	かき	5	5			10	lover		
	岩	いわ	2				2	連濁不関与		型	かた		17			17	lover		
	歌	うた	6	2			8	連濁不関与		川	かわ		5		並列1	6	lover		
	音	おと		8	3	尾1	12	連濁不関与		紙	かみ	25	22			47	lover		
	北	きた				尾1	1	immune		串	くし	1	1			2	lover		
	下	しも	1				1	immune		塚	つか	1	6			7	lover		
	旅	たび	1	1			2	ライマン法則		機	はた		1			1	lover		
	梨	なし		1			1	連濁不関与		杭	くい	×	4			4	lover		
	肘	ひじ		2		並列1	3	ライマン法則		頃	ころ	×	4	6	6	16	lover		
	昼	ひる		2		並列1	3	immune		蟬	せみ	×	3	4		7	lover		
	冬	ふゆ		2			2	immune		妻	つま	×	1	2		3	lover		
	町	まち	8	2			10	連濁不関与		人	ひと	×	5	15		20	lover		
	胸	むね		1			1	連濁不関与		文	ふみ	×	1	5		6	lover		
	村	むら		3			3	連濁不関与		殻	から	*		6	1	7	lover		
	業	わざ		5		尾1	6	連濁不関与											
	鱈	あじ	×	2	1		3	連濁不関与											
姫	ひめ	×	3			3	immune												
夏	なつ	*	1			1	連濁不関与												

表 36 アクセント語類と連濁と複合名詞アクセント (第3類)

語類	語彙	読み	連濁が起らない					連濁	語類	語彙	読み	連濁が起る					連濁		
			複合名詞アクセント型									合計	複合名詞アクセント型					合計	
			前部末	平板	後部頭高	その他	合計						前部末	平板	後部頭高	その他			合計
			142	490	5	8	645				102	128		1	231				
第3類	垢	あか		3		尾2	5	連濁不関与	第3類	勝ち	かち		1			1	lover		
	足	あし	25	26			51	連濁不関与		神	かみ	6	2			8	lover		
	網	あみ	10	9			19	連濁不関与		菊	きく	9	1			10	lover		
	綾	あや		1			1	連濁不関与		岸	きし	2	1			3	lover		
	池	いけ	3	4			7	連濁不関与		際	きわ		15			15	lover		
	家	いえ		2			2	連濁不関与		肝	きも		2			2	lover		
	芋	いも	6	12			18	連濁不関与		茎	くき	1				1	lover		
	色	いろ	1	86			87	連濁不関与		櫛	くし	1	2			3	lover		
	腕	うで		3			3	連濁不関与		靴	くつ	6	7			13	lover		
	馬	うま	3	15			18	連濁不関与		組	くみ		6			6	lover		
	裏	うら		12			12	連濁不関与		栗	くり	4	2			6	lover		
	親	おや		10			10	連濁不関与		苔	こけ	1	3			4	lover		
	鍵	かぎ		1			1	ライマン法則		事	こと	7	29			36	lover		
	潮	しお	1	13			14	immune		米	こめ		5			5	lover		
	丈	たけ	7	1			8	immune		坂	さか	2	2		並列1	5	lover		
	土	つち	1	9			10	immune		竿	さお	3	8			11	lover		
	弟子	でし	1				1	連濁不関与		舌	した		2			2	lover		
	波	なみ	2	10			12	連濁不関与		尻	しり	1	6			7	lover		
	縄	なわ		16			16	連濁不関与		鯨	すし	14				14	lover		
	糠	ぬか		2			2	連濁不関与		脛	すね		2			2	lover		
	熨斗	のし	2			尾2	4	連濁不関与		炭	すみ	1	5			6	lover		
	海苔	のり	3	3			6	連濁不関与		芹	せり	2				2	lover		
	萩	はぎ	1	1			2	ライマン法則		綱	つな	2	6			8	lover		
	恥	はじ		2			2	ライマン法則		刷毛	はけ	2	1			3	lover		
	浜	はま		1			1	immune		鉢	はち	10	2			12	lover		
	幕	まく	14	8			22	連濁不関与		晴れ	はれ		1			1	lover		
	鞠	まり	1	1			2	連濁不関与		房	ふさ	2	3			5	lover		
	耳	みみ	2	6			8	連濁不関与		縁	ふち		3			3	lover		
	室	むろ		3			3	連濁不関与		貝	かい	×	19			19	lover		
	物	もの	32	153	5	尾2	192	連濁不関与		太刀	たち	×	2	2		4	lover		
	山	やま	1	24		並列1	26	連濁不関与		鯛	たい	×	5	4		9	lover		
	闇	やみ	1	3			4	連濁不関与		堀	ほり	*		5		5	lover		
	指	ゆび	3	3			6	連濁不関与											
	弓	ゆみ	1	1			2	連濁不関与											
	夢	ゆめ		3			3	連濁不関与											
	脇	わき		3			3	連濁不関与											
	梓	わく	2	7			9	連濁不関与											
	綿	わた	4	7			11	連濁不関与											
	糞	くそ	△	3	4		尾1	8		immune									
	豆	まめ	△	9	8		17	連濁不関与											
	膿	うみ	*		1		1	連濁不関与											
	恋	こい	*	1	1		2	immune											
	孫	まご	*		4		4	連濁不関与											
店	みせ	*	2	8		10	連濁不関与												

表 37 アクセント語類と連濁と複合名詞アクセント (第4類)

語類	語彙	読み	連濁が起らない					連濁	語類	語彙	読み	連濁が起る					連濁	
			複合名詞アクセント型									複合名詞アクセント型						
			前部末	平板	後部頭高	その他	合計					前部末	平板	後部頭高	その他	合計		
			79	142	69	2	292				9	14	7		30			
第4類	跡息	あといき		2	2		4	連濁不関与	第4類	鎌	かま		2			2	lover	
	板市	いたいち	3	26	9		38	連濁不関与		錐	きり		1			1	lover	
	糸	いと	1	24	7		32	連濁不関与		鞘	さや			4		4	lover	
	白	うす		2			2	連濁不関与		杖	つえ			1	5		6	lover
	海	うみ		2	2		4	連濁不関与		箸	はし		3	3	1		7	lover
	瓜	うり		2			2	連濁不関与		筥	へら			1	1		2	lover
	数	かず		2	7	1	10	ライマン法則		桁	けた	×	2	2			4	lover
	角	かど		1	5		6	ライマン法則		榎	つち	×	1	2			3	lover
	管	くだ		1			1	ライマン法則		乳	ちち	*		1			1	lover
	屑	くず			3	7	10	ライマン法則										
	筋	すじ		15	11		26	ライマン法則										
	隅	すみ			1		1	immune										
	銭	ぜに			2		2	連濁不関与										
	中	なか		2	5		尾2	9	連濁不関与									
	苗	なえ			1	1		2	連濁不関与									
	撃	のみ			1			1	連濁不関与									
	肌	はだ		9	13			22	ライマン法則									
	紅	べに			4			4	連濁不関与									
	松	まつ		12	2	1		15	連濁不関与									
	味噌	みそ				1		1	連濁不関与									
	養	みの			1			1	連濁不関与									
	麦	むぎ			7	13		20	連濁不関与									
	薬	わら			4			4	連濁不関与									
	帯	おび	*		11	14		25	連濁不関与									
	外	そと	*			1		1	immune									
	鏝	つば	*		1			1	ライマン法則									
	粒	つぶ	*			6		6	ライマン法則									
	主	ぬし	*	24	3			27	連濁不関与									
宿	やど	*	1	1	1		3	連濁不関与										

表 38 アクセント語類と連濁と複合名詞アクセント (第5類)

語類	語彙	読み	連濁が起らない					連濁	語類	語彙	読み	連濁が起る					連濁	
			複合名詞アクセント型									複合名詞アクセント型						
			前部末	平板	後部頭高	その他	合計					前部末	平板	後部頭高	その他	合計		
			10	71	53	2	136				5	18	27		50			
第5類	秋	あき	1	2		並列1	4	連濁不関与	第5類	蜘蛛	くも		4	3		7	lover	
	汗	あせ		2	2		4	連濁不関与		琴	こと			1		1	lover	
	雨	あめ	2	1	5		8	連濁不関与		鯉	こい		1	2		3	lover	
	鮎	あゆ		2	2		4	連濁不関与		声	こえ		1	7	18		26	lover
	藍	あい		1	1		2	連濁不関与		猿	さる			2	1		3	lover
	黍	きび	1				1	ライマン法則		鶴	つる		1		1		2	lover
	足袋	たび		3	1		4	ライマン法則		鮒	ふな			2			2	lover
	露	つゆ	3	1			4	immune		牡蠣	かき	*	2				2	lover
	鍋	なべ		13	8		21	連濁不関与		鮭	さけ	★		1	3		4	lover
	春	はる			1		1	immune										
	窓	まど			8	10		18	連濁不関与									
	前	まえ	2	20	7		29	連濁不関与										
	眉	まゆ		1	1		2	連濁不関与										
	臍	まゆ			4		4	連濁不関与										
	股	もも			2		2	連濁不関与										
	桶	おけ			5	10	尾1	16	連濁不関与									
	朝	あさ	*	1	1			2	連濁不関与									
	蛇	へび	★		4	4		8	ライマン法則									
	井戸	いど	*			2		2	連濁不関与									

表 34~38 から、アクセント語類と連濁と複合名詞の関係について、以下のような傾向がみられる。

①アクセント語類と複合名詞アクセントについて：

第1類語の複合名詞アクセントは、前部末型と平板型に集中している。前部末型と平板型の数は、それほど差がない。

(794語の内、前部末型 398語 (50.1%)、平板型 380語 (47.9%))

第2類語の複合名詞アクセントは、前部末型と平板型に集中しているが、平板型が比較的多い。

(233語の内、平板型 139語 (59.7%)、前部末型 78語 (33.5%))

第3類語の複合名詞アクセントは、前部末型と平板型に集中しているが、平板型が圧倒的に多い。

(876語の内、平板型 618語 (70.5%)、前部末型 244語 (27.9%))

第4類語の複合名詞アクセントは、平板型が最も多く、次に前部末型と後部頭高型が多い。

(322語の内、平板型 156語 (48.4%)、前部末型 88語 (27.3%)、後部頭高型 76語 (23.6%))

第5類語の複合名詞アクセントは、平板型と後部頭高型が多く、前部末型が少ない。

(186語の内、平板型 89語 (47.8%)、後部頭高型 80語 (43.0%)、前部末型 15語 (8.1%))

②アクセント語類と連濁と複合名詞アクセントについて：

第1類語において、連濁が起らない語は、前部末型が比較的が多い、平板型が比較的少ない。

(421語の内、前部末型 234語 (55.6%)、平板型 179語 (42.5%))

一方、連濁が起る語は、逆である。

(373語の内、平板型 201語 (53.9%)、前部末型 164語 (44.0%))

第2類語において、連濁が起らない語は、前部末型と平板型の数の差が小さい。

(80語の内、平板型 40語 (50.0%)、前部末型 32語 (40.0%))

しかし、連濁が起る語は、平板型がかなり多い。

(153語の内、平板型 99語 (64.7%)、前部末型 46語 (30.0%))

第3類語において、連濁が起らない語は、平板型が圧倒的に多い。

(645語の内、平板型 490語 (76.0%)、前部末型 142語 (22.0%))

しかし、連濁が起る語は、前部末型と平板型の数の差が小さい。

(231語の内、平板型 128語 (55.4%)、前部末型 102語 (44.2%))

第4類語において、連濁と複合語アクセントの関係が見られない。

連濁が起らない語 (292語の内、平板型 142語 (48.6%)、前部末型 79語 (27.1%)、後部頭高型 69語 (23.6%))

連濁が起る語 (30語の内、平板型 14語 (46.7%)、前部末型 9語 (30.0%)、後部頭高型 7語 (23.3%))

第5類語において、連濁が起らない語は、平板型が最も多く、次に後部頭高型が多く、前部末型が最も少ない。

(136語の内、平板型 71語 (52.2%)、後部頭高型 53語 (39.0%)、前部末型 10語 (7.4%))

しかし、連濁が起る語は、後部頭高型が最も多く、次に平板型が多く、前部末型が最も少ない。

(50語の内、後部頭高型 27語 (54.0%)、平板型 18語 (36.0%)、前部末型 5語 (10.0%))

第1類と第2類語において、連濁を生じることによって、複合名詞アクセントの平板型の生起率が上がる傾向が見られる。第3類語において、連濁を生じることによって、逆に平板型の生起率が下がり、前部末型の生起率が上がる。第4類語の場合、連濁と複合名詞アクセントとの関係が見られない。第5類語において、連濁を生じることによって、平板型の生起率が下がり、後部頭高型の生起率が上がる傾向が見られる。

第七章 上級日本語学習者における後部要素が3・4拍 かつ中高型の複合名詞のアクセント規則の把握状況につ いて

0. はじめに

第三章では、後部要素が3・4拍の結合名詞のアクセント規則を紹介した。多くの場合、複合語アクセントは「1単位の複合名詞」となるが、後部要素が中高型の場合、後部要素のアクセントが保存される場合もある。そして、第四章では、後部要素が3・4拍かつ中高型の複合語について、複合名詞のアクセントに影響する諸要因を検討した。新たに、「連濁」という要因を指摘した。

短い複合名詞のアクセント規則がやや複雑である一方、後部要素が3・4拍の複合名詞のアクセント規則は比較的単純である。学習者にとって、このタイプの複合名詞のアクセント規則を、習得しやいと予測されるが、後部要素が3・4拍かつ中高型の場合、いくつかの要因により、中高型が保存されることもある。学習者は、日常的によく使われる後部要素が3・4拍の複合名詞について、そのアクセント規則の把握状況を調べたい。本章は、上級日本語学習者を対象に、後部要素が3・4拍かつ中高型の複合名詞を中心に、アクセント規則の学習状況について、アンケート調査を行い、分析したものである。

1. 複合名詞の3タイプ分け

第二章では、東京方言における複合名詞のアクセントは、アクセントの面から、「1単位の複合名詞」、「不完全複合名詞」、「2語連続」の3タイプに分類できることを紹介した。「1単位の複合名詞」は前部要素と後部要素ともにアクセント核が消え、アクセント核は後部要素の語頭拍に置く。それに対し、「2語連続」は前部要素と後部要素の各語のアクセントが保存される。中間的な「不完全複合名詞」は、前部要素のアクセント核が消え、後部要素のアクセント核が保存される。

基本的に3タイプに分けるが、分類しにくいものは以下のように2つある。(1)前部要素の平板型アクセント核が消え、後部要素の語頭拍に核を置く場合、複合名詞は「1単位の複合名詞」か「不完全複合名詞」か、分からないことになる。(2)前部要素が平板型かつ後部要素が中高型の場合、複合名詞のアクセント核位置だけで、「不完全複合名詞」か「2語連続」か、区別しにくい。便宜上、(1)の場合は「1単位の複合名詞」とし、(2)の場合が「不完全複合名詞」として処理した。他の2語連続の複合名詞については、後部要素のアクセントが保存されるため、本章の研究では、「2語連続」の複合名詞を「不完全複合名詞」として統計した。

本章の研究では、後部要素のアクセント核が保存される複合名詞のアクセントと、後部要素のアクセント核が保存されない複合名詞のアクセントが共存する場合、このタイプの複合名詞をAB型として扱う。

(以下では、「1単位の複合名詞」をA型とし、「不完全複合名詞」をB型とする)

2. 複合名詞アクセントに影響する要因に関する先行研究

複合名詞アクセントに影響する要因に関する先行研究として以下の5つが挙げられる。

①窪菌(1997)は、3タイプの分類は後部要素の拍数、形態素数やフット数によって分類できると主張している。「後部要素 \geq 5拍」或いは、「後部要素 \geq 3形態素」であれば、

B型となる。例：「南カリフォルニア」、「市立図書\館」。後部要素が3・4拍の場合について、フット数によって分類できる。「後部要素 \leq 2フット」の場合はA型となる。例：南ア\メリカ。「2フット<後部要素 \leq 3フット」の場合はB型となる。例：「大作詞家」。ただし、後部要素が3・4拍かつ中高型の場合は、「2フット \leq 後部要素」であっても、B型となる現象がしばしば見られる。例：「大和ナデ\シコ」、「西ニホ\ン」。(フットは基本的に2モーラか1モーラで形成され、切り離せない部分を優先的に1フットになる。)

②上野(1999)は、一度「複合語化」(複合名詞ア規則の適用)により、アクセントが与えられた単語は、上位の2次複合語に後部要素として組み込まれても、そのアクセント型が保存されると主張している(以下「複合回数要因」)。例：「針\師」、「庭\師→女針\師」、「見習い庭\師」。

③松森他(2012)によれば、後部要素が4拍語の場合には、3拍語よりもB型はるかに多い(以下「拍数要因」)。しかし、後部要素が4拍でも、外来語以外の中高型では、後部要素の語末が特殊拍の場合、A型となることが多い(以下「語末特殊拍要因」)。特に、後部要素が「4拍」の「-2型」で、かつ語末が特殊拍の場合には、後部要素の中高型が保存されないことが多い。例：「ホーゲ\ン(方言)→チバホ\ーゲン(千葉方言)」。

④『新明解日本語アクセント辞典』(2015)p(26)によると、結合名詞の後部要素が漢語二字であれば、「後部が中高型の語の場合に限り、もとの高さの切れめまで高い。但し、この場合も拍数の多いものや、無声化で中高型になった語は、高さの切れめが前にずれる」(以下「語頭拍母音無声化要因」)。例：「地方㊦\ホー」の語頭に無声化が起って「㊦ホ\ー」になり、複合して、「奥羽地方オーウ㊦\ホー」になる。

⑤「連濁」という要因も複合名詞のアクセントに影響する(以下「連濁要因」)。例：「心ココ\ロ、ココロ\→歌心ウタゴ\コロ」、「砂糖 サト\ー →角砂糖カクザ\トー」。後部要素が3・4拍かつ中高型語の場合において、連濁を生じると、後部要素のアクセントが保存されず、アクセント核は後部要素の語頭拍に置くパターンが必ず存在する(詳細は第四章を参照する)

3. 調査方法とアンケートの構成

3.1 被調査者

本章の研究は、神戸市外国語大学の大学院生、計20名(A~Tで示す)の上級日本語学習者を対象に、複合名詞のアクセントの習得状況について調査を行った。

以下の表39は被調査者の内訳である。

表39 被調査者の内訳

被調査者	日本語学習歴	母語	被調査者	日本語学習歴	母語
学生A	4年	中国語	学生K	6年	中国語
学生B	8年	中国語	学生L	5年	中国語
学生C	5年6ヶ月	中国語	学生M	6年1ヶ月	中国語
学生D	6年	ノルウェー語	学生N	4年	中国語
学生E	3年2ヶ月	中国語	学生O	7年6ヶ月	中国語
学生F	7年	中国語	学生P	4年	中国語
学生G	5年3ヶ月	中国語	学生Q	5年	中国語
学生H	2年6ヶ月	中国語	学生R	7年	中国語
学生I	7年1ヶ月	中国語	学生S	3年	中国語
学生J	4年	中国語	学生T		中国語

被調査者の年齢は20代か30代前半である。ノルウェー語母語話者が一人で、残り全員は中国語母語話者である。日本語学習歴は2年6ヶ月から8年の間で、被調査者全員

は日本語能力試験 N1 に合格した上級日本語学習者である。「日本語学習歴」欄に記入せずアンケートを提出した被調査者がいるが、日本語学習歴が少なくとも 3 年以上あると推測される)

そして、アクセント知識に関して、全員が「アクセント記号を見たことがある」と回答した。「音声を聞いて正確なアクセント記号がつけられるか」という質問に対して、4 つの選択肢の中「できない」と答えた人はいない。(4 つの選択肢はそれぞれ「できる」(5%)、「まあまあできる」(55%)、「あまりできない」(40%)、「できない」(0%) となる)

3. 2 アクセント調査用紙の構成

先行研究の諸規則に関して、被調査者の習得状況を確認するため、『NHK 日本語発音アクセント新辞典』(2016) から複合名詞を抽出し、聞き取りテストを作成した。本研究のテストは、「問題一」(後部要素のアクセントは 1 つしか存在しない) の 31 調査項目、「問題二」(後部要素のアクセントは 2 つある) の 13 調査項目、「アクセント知識に関する質問」(アクセントの知識の把握状況についての質問) で構成されている。複合名詞のアクセントの数も 1 つある場合と、2 つある場合がある。テスト語はすべて有意味語である。聞き取りテストの詳細は稿末の 付録 アクセント調査用紙 を参照する。

表 40 は「問題一」、「問題二」の計 44 調査項目の構成内容を示す。

表 40 聞き取りテストの調査項目の構成

分類条件		語数	
Yの 保存状況	A型		20
	B型	B型(2語連続)	2
		B型(3形態素)	2
		その他	10
AB型		10	
Yの拍数	3拍語		21
	4拍語		21
	5拍語		1
	6拍語		1
Yの語種	和語		20
	漢語		21
	外来語		2
	混種語		1
Yのア型	中高型のみ		22
	中高型と他の型が共存		13
	平板型		5
	頭高型		2
	尾高型		2
複合名詞の 拍数	5拍語		17
	6拍語		11
	7拍語		10
	8拍語		5
	9拍語		1

3. 3 聞き取りテストの音声

以下は「問題一」のテストの一部を示す。聞き取りテストの音声に関して、前部要素のアクセントを読まず、後部要素のアクセントと、複合名詞のアクセントだけを読み上げた。

(学習者に認識させやすいため、語のアクセントを基本的に平仮名にしている)

- ⑰神宮（じんぐ\う） → 明治神宮 □
 A. めいじじ\んぐう B. めいじじんぐ\う
 C. めいじじんぐう
- ⑱カルシウム（カルシ\ウム） → 塩化カルシウム □
 A. えんかカ\ルシウム B. えんかカルシ\ウム
 C. えんかカルシウム
- ⑲沢山（たくさ\ん） → 盛り沢山 □
 A. もりだ\くさん B. もりだく\さん
 C. もりだくさ\ん D. もりだくさん

後部要素としての単語のアクセントは既を書いており、選択必要な項目は複合名詞のアクセントのみである。複合名詞全体のアクセントの選択肢には、出現する可能性が低い「尾高型」が含まれない。選択肢は「アクセント核が前から後ろに」の順番で並んでいる。調査項目の順番はランダムである。

テストの音声は、筆者が事前に録音したものである。後部要素のアクセントと複合名詞のアクセントは2回ずつ発音する。「問題一」の後部要素は情報として提示するため、1回だけ発音する。調査項目の間に「ピン」というチャイム音があり、間隔（チャイム音を含む）は3秒である。例を含めて「問題一」と「問題二」の音声は合計21分10秒である。

テストは4回に分けて5人、4人、5人、6人で行った。音声は、小規模な会議室や研究室で、騒音がない静かな環境でノートパソコンのスピーカから出力した。「問題一」が終わってから、「問題二」が始まる前に5～10分間の休憩をはさんだ。「アクセント知識」のアンケートは最後に行った。

4. アンケート調査の結果と分析

聞き取りテストでは、AB型が存在するため、複数選択が可能となる。被調査者は正解のアクセントを選択すると、点数をもらえるが、間違ったアクセントを選択しまうと、減点となる。採点基準は以下のように設定している。

正解選択数×1点を加算する；不正解選択数×（-0.5点）を加算する。
 但し、0点以下にはしない。

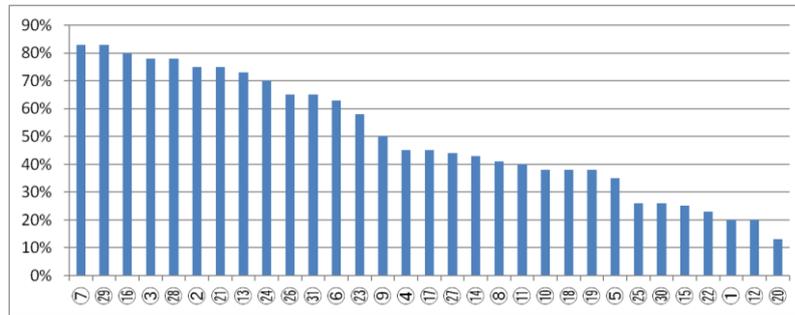
4.1 「問題一」テスト結果と分析

4.1.1 「問題一」調査項目別の得点率

「問題一」は、後部要素アクセントを選択する必要がない。「問題一」の調査項目は後部要素アクセントが情報として提示されている。一方、「問題二」の調査項目は、後部要素アクセントの選択結果によって、複合名詞アクセントの選択に影響を与えるはずである。したがって、「問題一」と「問題二」の項目を分けて統計した。まず、「問題一」の各調査項目の得点率から分析したい。

「問題一」の調査項目数は合計31調査項目である。表41は各調査項目の得点率を示す。各調査項目の得点率は13%～83%の間で、かなりの差がある。平均得点率は48%であり、高くない。

表 41 「問題一」各調査項目の得点率



しかし、平均得点率が低いのに、得点率 70%以上の調査項目がある。

- | | |
|------------------------|--------------------|
| ⑦総理大臣 そうりだ\いじん (83%) | A 型 (後部要素が 4 拍頭高型) |
| ⑳虫眼鏡 むしめ\がね (78%) | A 型 (後部要素が 3 拍頭高型) |
| ⑯受験地獄 じゅけんじ\ごく (80%) | A 型 (後部要素が 3 拍尾高型) |
| ②雨男 あめお\とこ (75%) | A 型 (後部要素が 3 拍尾高型) |
| ③ごま油 ごまあ\ぶら (78%) | A 型 (後部要素が 3 拍平板型) |
| ㉔共同生活 きょうどうせ\いかつ (70%) | A 型 (後部要素が 4 拍平板型) |
| ㉙国境 くにぎ\かい (83%) | A 型 (後部要素が 3 拍中高型) |
| ㉑黒砂糖 くろざ\とう (75%) | A 型 (後部要素が 3 拍中高型) |
| ⑬校長先生 こうちょうせんせ\い (73%) | B 型 (後部要素が 4 拍中高型) |

以上はすべて正解が A 型の複合名詞であり、後部要素の語頭拍にアクセント核を置くパターンである。㉑黒砂糖と㉙国境の後部要素は、中高型であるが、連濁現象が起こって、後部要素のアクセントは保存しない。一方、⑬校長先生は連濁現象が起らないため、後部要素のアクセントが保存された。次に、得点率 30%以下の調査項目に注目したい。

- | | |
|------------------------|---------------------------|
| ㉐内歯車 うちはぐ\るま (13%) | B 型 (後部要素が 4 拍中高型) |
| ⑫女針師 おんなはり\し (20%) | B 型 (後部要素が 3 拍中高型) |
| ①味噌おでん みそおで\ん (20%) | B 型 (後部要素が 3 拍中高型) |
| ㉒画竜点睛 が\りょう・てんせい (23%) | B 型 (後部要素が 4 拍平板型の 2 語連続) |
| ⑮大和撫子 やまとなで\しこ (25%) | B 型 (後部要素が 4 拍中高型) |
| ⑳現金取引 げんきんとり\ひき, | AB 型 (後部要素が 4 拍中高型) |
| げんきんと\りひき (26%) | |
| ㉕岐阜団扇 ぎふうち\わ, | AB 型 (後部要素が 3 拍中高型) |
| ぎふう\ちわ (26%) | |

㉒の例の「画竜点睛」を除き、以上すべては正解が中高型の後部要素が保存されるパターンである。得点率が 70%以上の例と比較して、B 型の得点率は A 型より低い傾向が見られるが、A 型と B 型との比較は 4. 1. 2 節で詳しく説明する。

4. 1. 2 「問題一」複合名詞アクセント型別の得点率

前節は「得点率が 70%以上の調査項目は A 型であり、得点率が 30%以下の調査項目が

B型である」のことから、「A型の得点率はB型より高い傾向が見られる」と推測したが、本節は、調査項目をA型、B型、AB型に分け、項目別得点率から詳しく分析したい。

表42、表43と表44はそれぞれ「問題一」における正解がA型、B型、AB型の調査項目の、被調査者の得点率を示す。A型調査項目の平均得点率は71%であり、B型調査項目の平均得点率は39%であり、AB型調査項目の平均得点率は37%である。セルの色が濃いのは正解選択の回答であり、中間的な色は正解選択と不正解選択が混ざった回答であり、白いのは不正解選択の回答である。調査項目のアクセントに影響する要因は表の一番上に示す。形態素の数は『明鏡国語辞典 第二版』(2011)に準じて示す。

A : A型の回答

B : B型の回答

C : 後部要素アクセントが保存されない中高型の回答

D : アクセントが保存されない平板型の回答

「+/-」がアクセント核位置のずれる方向を示す(元の後部要素が無核アクセントの場合はC[#]で示す)。「-」は前にずれ、「+」が後にずれることを示す。数字はずれた拍数を示す。

例：⑮撫子 なで\しこ → 大和撫子

A. やまとな\でしこ B. やまとなで\しこ

C⁺¹. やまとなでし\こ D. やまとなでしこ

表42、表43、表44から分かるように、A型の平均得点率(71%)が最も高く、他の型より圧倒的に高い。B型(39%)とAB型(37%)の平均得点率は同じぐらいだが、B型のほうがやや高い。AB型では、A型とB型のアクセントが共存するため、被調査者はA型だけを選択しても、B型という選択があり、完全正解にならない。本研究の採点基準によって、間違った選択をすることや、正解をすべて選択しない限り、点数が急減する(完全正解の得点と比べた場合)。その中で、AB型(かつ『NHK 日本語発音アクセント新辞典』(2016)によるB型が第一アクセント)調査項目の平均得点率は36%である。それに対して、複合名詞のアクセントがAB型(かつ『NHK 日本語発音アクセント新辞典』(2016)によるA型が第一アクセント)の調査項目では、平均得点率がやや高く、38%である。

また、3つの表では、後部要素の拍数が多いほど、得点率が低くなるように見える。こそこで、後部要素の拍数によって、「問題一」の調査項目を3拍、4拍、5拍に分け、それぞれの平均得点率を計算した。その結果、後部要素が3拍の調査項目の平均得点率は52%であり、後部要素が4拍の調査項目の平均得点率が45%であり、後部要素が5拍の調査項目の平均得点率が38%である。

3つの表では、A型の選択数が圧倒的に多い。被調査者は複合名詞のアクセント規則を「複合して後部要素の語頭拍にアクセント核が置かれる」として覚える傾向がみられる。被調査者は、複合名詞のアクセント規則をタイプ分けして覚える意識が弱いことが推測される。

表 42 「問題一」 A 型調査項目の得点率

Y	4拍	3拍	3拍	3拍	3拍	3拍	3拍	4拍	4拍	4拍	3拍	学生別 得点率	
	2形態素 語末特 殊拍 連濁不 関与	1形態素 語末特 殊拍 連濁 連濁	2形態素 語末非 特殊拍 連濁不 関与	1形態素 語末非 特殊拍 連濁不 関与	2形態素 語末非 特殊拍 連濁不 関与	1形態素 語末非 特殊拍 連濁不 関与	2形態素 語末特 殊拍 連濁 連濁	1形態素 語末非 特殊拍 連濁不 関与	2形態素 語末非 特殊拍 連濁 連濁	2形態素 語末非 特殊拍 連濁 連濁	2形態素 語末特 殊拍 連濁 連濁		
調査 項目	⑦	⑲	⑩	③	⑳	②	㉑	㉒	⑥	㉓	④		
学生C	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	100%	
学生T	A	A	A	A	A	A	A	A	D	A	A	91%	
学生I	AD	A	A	A	A	A	A	AD	A	A	A	91%	
学生Q	A	AD	A	A	A	A	A	A	A	AB	A	91%	
学生G	A	A	A	A	A	AD	A	A	A	A	B	86%	
学生M	A	A	AD	A	A	A	A	A	A	A	D	86%	
学生E	A	A	A	A	D	A	A	A	A	A	B	82%	
学生O	A	A	A	A	A	A	A	A	D	B	A	82%	
学生P	A	A	AD	A	A	A	AD	AD	A	AD	A	82%	
学生S	AD	A	A	A	AD	A	A	AD	A	AD	D	73%	
学生N	A	A	A	A	A	AD	AD	AD	D	AD	AD	68%	
学生F	A	A	A	AD	AD	A	A	A	D	B	D	64%	
学生L	A	AD	AD	AD	A	AD	A	AD	A	D	AD	64%	
学生A	A	B	A	A	A	AC ⁻¹	D	AD	A	AD	D	AD	59%
学生B	AD	AD	AD	A	AD	A	AD	AD	A	AD	BD	59%	
学生J	A	A	A	AD	A	AD	A	AD	D		B	59%	
学生D	D	A	A	D	D	A	D	A	B	A	A	55%	
学生H	A	AD	AD	AD	AD	A	D	AD	AD	D	AD	50%	
学生R	C ⁻²	A	C ⁻¹	D	A	C ⁻¹	A	D	A	A	D	46%	
学生K	A	AD	AD	AD	AD	D	D	D	AD	A	D	41%	
項目別 得点率	83%	83%	80%	78%	78%	75%	75%	70%	63%	58%	45%	71%	

表 43 「問題一」 B 型調査項目の得点率

Y	2語連続				2語連続				2語連続				学生別 得点率		
	3拍	4拍	4拍	3拍	2語連続	2語連続	5拍	5拍	4拍	4拍	2語連続	3拍		3拍	4拍
調査 項目	⑬	⑳	㉑	⑨	⑭	⑪	⑩	⑱	⑤	⑮	㉒	①	⑫	⑯	
学生M	B	B	B	B	B	B	B	B	BD	BD	A	B	A	B	79%
学生Q	B	B	B	AB	AB	AB	B	B	AB	AD	D	BD	B	BD	64%
学生C	B	B	B	B	A	AB	C [#]	B	AB	AB	B	A	B	D	61%
学生A	AB	B	B	ABD	AB	BD	C [#] B	B	BD	B	AD	D	BD	D	50%
学生J	B	B	B	B	B	A	B	A		A	B	A	A	AD	50%
学生L	B	A	B	A	AB	B	AB	A	D	B	AD	B	A	B	50%
学生G	B	B	B	B	A	B	C [#]	B	BD	D	A	A	A	AD	46%
学生B	BD	B	B	A	A	AB	B	AB	BD	A	AD	B	A	A	43%
学生P	AB	B	B	AB	AB	AB	AB	A	AB	A	AD	AB	BD	AD	43%
学生K	B	B	A	B	B	A	B	A	BD	D	A	D	A	A	39%
学生O	B	B	B	AB	A	A	A	D	BD	BD	B	A	A	D	39%
学生I	B	AB	AB	A	A	AB	AC [#]	A	AB	B	B	A	A	A	36%
学生N	AB	B	B	B	AB	AD	A	B	C ⁺¹ D	D	AD	D	A	D	36%
学生E	A	A	A	B	B	A	A	AD	AB	AB	AD	A	B	D	29%
学生H	BD	BD	BD	ABD	AB	AB	B	B	BD	AD	AD	A	D	AD	29%
学生R	D	B	B	B	A	B	A	A	D	A	A	A	D	C ⁺¹	29%
学生F	B	A	D	A	A	AB	AC [#]	A	B	AD	AB	AD	A	AD	21%
学生D	B	A	A	A	B	A	C [#]	D	A	D	D	D	A	A	14%
学生S	B	AD	D	AB	AB	A	AC [#]	A	A	A	AD	A	A	D	14%
学生T	A	A	A	A	A	A	C [#]	A	A	A	A	A	A	A	0%
項目別 得点率	73%	65%	65%	50%	43%	40%	38%	38%	35%	25%	23%	20%	20%	13%	39%

表 44 「問題一」 AB 型調査項目の得点率

Y	4拍	3拍	3拍	4拍	3拍	4拍	学生別 得点率
	2形態素 語末特 殊拍 連濁不 関与	2形態素 語末特 殊拍 語頭拍 無声化	2形態素 語末非 特殊拍 連濁	2形態素 語末特 殊拍 連濁	2形態素 語末非 特殊拍 連濁不 関与	2形態素 語末非 特殊拍 不連濁	
調査 項目	⑰	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	
学生C	AB	A	A	AB	A	B	67%
学生J	A	A	A	A	A	A	50%
学生O	A	A	A	A	A	B	50%
学生T	A	A	A	A	A	A	50%
学生I	AD	A	A	A	A	B	46%
学生M	A	A	A	A	A	D	46%
学生S	A	AD	AB	A	AD	AD	46%
学生F	A	A	A	AC ⁻¹ D	A	B	42%
学生P	AD	A	AD	AD	AD	AB	42%
学生G	A	A	B	B	D	AC ⁺¹	38%
学生L	A	A	D	AD	B	B	38%
学生Q	A	A	B	ABD	AD	C ⁺¹	38%
学生D	A	A	A	A	D	D	33%
学生H	A	AD	A	AD	AD	BD	33%
学生K	A	A	A	A	D	D	33%
学生B	AD	A	A	D	AD	D	25%
学生A	BD	A	D	BD	D	D	17%
学生E	AD	D	A	AD	D	D	17%
学生R	B	A	D	C ⁻¹	D	C ⁺¹	17%
学生N	AD	AD		D	D	D	8%
項目別 得点率	45%	44%	41%	38%	26%	26%	37%

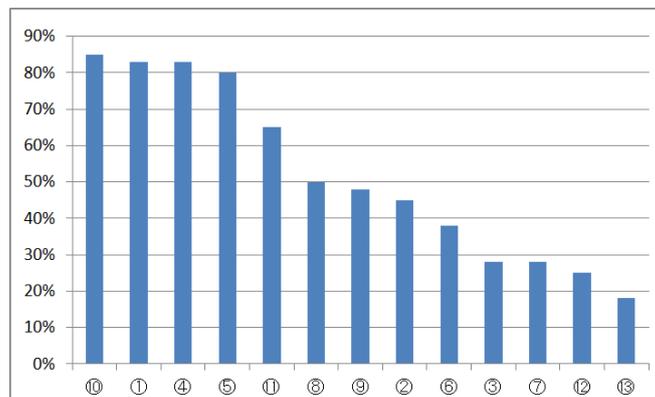
4. 2 「問題二」 テスト結果と分析

4. 2. 1 「問題二」 調査項目別の得点率

前節は後部要素のアクセントが 1 つしかない「問題一」の調査項目の得点率を分析した。「問題二」の複合名詞の後部要素が元々2 つのアクセントを持つため、アクセント規則の適用は「問題一」より複雑である。被調査者の得点率に影響を及ぼすことが予測される。本節は「問題二」の調査項目の得点率について分析する。

「問題二」は、調査項目数が合計 13 問である。表 45 は各調査項目の得点率を示す。各問の平均得点率は 47%であり、「問題一」とわずかな差である。複合名詞アクセントの各調査項目の得点率は 18%~85%の間で、かなり差がある。

表 45 「問題二」 各調査項目の得点率



「問題二」の調査項目はすべて、後部要素のアクセントは、中高型とその他の型が共存する場合である。後部要素が3・4拍の複合名詞のアクセント規則によって、後部要素が中高型以外のアクセントの場合、複合してA型の複合名詞になる。中高型以外のアクセント型の影響を受けて、「問題二」調査項目では、B型のみの場合はない。A型かAB型になることは、複合名詞アクセント規則から予測される。

前節と同じく、得点率が70%以上の調査項目と、得点率30%以下の調査項目から分析したい。

得点率70%以上の調査項目は以下の通りである。

- | | | |
|-------|----------------|---------------------|
| ⑩関東地方 | かんとうち\ほう (85%) | A型 (後部要素が3拍中高型/頭高型) |
| ①親心 | おやご\ころ (83%) | A型 (後部要素が3拍中高型/尾高型) |
| ④新若布 | しんわ\かめ (83%) | A型 (後部要素が3拍頭高型/中高型) |
| ⑤紙鈹 | かみば\さみ (80%) | A型 (後部要素が3拍尾高型/中高型) |

得点率30%以下の調査項目は以下の通りである。

- | | | |
|-------|---------------------------|----------------------|
| ⑬大海原 | おおう\なばら,
おおうな\ばら (18%) | AB型 (後部要素が4拍平板型/中高型) |
| ⑫大金持ち | おおがね\もち,
おおが\ねもち (25%) | AB型 (後部要素が4拍中高型/尾高型) |
| ⑦電気剃刀 | でんきか\みそり (28%) | A型 (後部要素が4拍中高型/尾高型) |
| ③奥年寄 | おくど\しより (28%) | A型 (後部要素が4拍中高型/尾高型) |

以上から分かるように、得点率が70%以上の調査項目はすべて後部要素が3拍の項目であり、得点率が30%以下の調査項目はすべて後部要素が4拍の項目である。後部要素が4拍の調査項目において、被調査者が誤答するパターンについて、複合名詞アクセントの平板型の選択率が高い。70%以上のものはすべてA型であるが、30%以下のものはA型以外に、AB型も見られる。

4. 2. 2 「問題二」複合名詞アクセント型別の得点率

前節において、「問題二」調査項目における正解がA型となる項目の平均得点率は、正解がAB型となる項目より高いことが分かった。そして、後部要素の拍数が原因で、得点率に影響することを推測した。本節は、調査項目をA型とAB型に分け、項目別得点率と後部要素アクセントの選択から詳しく分析したい。

表46は「問題二」A型項目の項目別の得点率と、後部要素アクセントの選択状況を示す。「問題二」の13調査項目では、正解としての後部要素アクセントが2つある(中高型と他のアクセント型が共存する)。後部要素アクセントが選択必要項目であるが、すべての選択肢を選べば、正解になるため、採点はしない(採点基準は4節の冒頭による)。複合名詞アクセント規則によって、後部要素アクセントが中高型以外の場合、A型となる。後部要素アクセントが中高型以外のアクセントを選択すると、複合名詞のアクセントはA型を選択するはずであるが、被調査者はこの規則にそって選択したわけでもない。

項目⑧、③、⑦において、被調査者は、後部要素アクセントが、中・高型以外のアクセントの選択率が高いが（70%以上）、得点率は低く、50%以下である（A型項目の正解はすべてA型であるため、A型の数と得点率が正比例となる）。一方、項目⑩、①、④と⑤において、被調査者は、後部要素アクセントが、中・高型以外のアクセント型の選択率が高く（70%以上）、得点率も高い（80%以上）。

表 46 「問題二」 A 型調査項目の項目別得点率と後部要素アクセントの選択

Y	調査項目	3拍	3拍	3拍	3拍	3拍	4拍	4拍	4拍	4拍	学生別 得点率
		2形態素	1形態素	2形態素	1形態素	2形態素	2形態素	2形態素	2形態素	2形態素	
		語末特殊拍 不連濁かつ語 頭拍無声化	語末非特殊拍 連濁	語末非特殊拍 連濁不関与	語末非特殊拍 連濁	語末特殊拍 連濁	語末非特殊拍 連濁	語末非特殊拍 連濁	語末非特殊拍 不連濁	語末非特殊拍 連濁	
⑩	①	④	⑤	⑪	⑧	⑥	③	⑦			
学生F	Yア	頭	尾	頭	中	頭	中	中	尾	中	89%
	複合名詞ア	A	A	A	A	A	A	B	A	A	
学生O	Yア	中	尾	頭	尾	頭	中	中	尾	尾	89%
	複合名詞ア	A	A	A	A	A	A	A	AD	AD	
学生M	Yア	頭	尾	中	尾	頭	尾	尾	尾	中尾	83%
	複合名詞ア	A	A	A	A	A	A	A	AD	B	
学生C	Yア	中	尾	頭	尾	頭	尾	中	尾	中	78%
	複合名詞ア	A	A	A	A	A	A	A	A	C	
学生S	Yア	頭	尾	頭	中	頭	尾	中尾	尾	中	78%
	複合名詞ア	A	AD	A	A	A	AD	D	A	A	
学生T	Yア	頭	尾	頭	尾	頭	尾	中	尾	中	78%
	複合名詞ア	A	A	A	A	A	A	AD	A	AB	
学生I	Yア	中頭	尾	頭	尾中	頭	中尾	中尾	中尾	尾	72%
	複合名詞ア	AB	A	A	AB	A	A	A	C D	C	
学生E	Yア	頭	尾	頭	尾	中	尾	中	尾	尾	67%
	複合名詞ア	A	AD	A	AD	A	D	A	A	C	
学生G	Yア	頭	尾	頭	尾中	頭	尾	中	尾	尾	67%
	複合名詞ア	A	AD	A	A	A	A	B	D	AB	
学生P	Yア	頭	中尾	頭	尾中	中	中尾	中尾	尾	中尾	67%
	複合名詞ア	A	A	AD	AD	A	AD	AD	AD	AD	
学生B	Yア	頭	尾	頭	中	頭	尾	中	尾	尾	56%
	複合名詞ア	A	A	AD	A	A	AD	BD	C D	C D	
学生H	Yア	中	尾	中	尾	中	尾	尾	尾	尾	56%
	複合名詞ア	AD	AD	A	A	A	AD	BD	BD	AD	
学生K	Yア	中頭	尾	頭	尾	頭	尾	中尾	尾	尾	56%
	複合名詞ア	A	AD	AD	A	A	D	D	D	AD	
学生Q	Yア	中	尾	頭	尾	中	中尾	中	尾	尾	50%
	複合名詞ア	AB	AD	A	A	A	AD	B	B	B	
学生J	Yア	頭	尾	頭	中	頭	尾	中	中尾	尾	44%
	複合名詞ア	A	A	A	A		D	D		C D	
学生R	Yア										44%
	複合名詞ア	A	A	A	A	D	D	B	B	C	
学生L	Yア	頭	中尾	頭	尾	中	尾	中尾	中尾	尾	39%
	複合名詞ア	A	A	A	D	AD	D	D	D	D	
学生N	Yア	中頭	尾	頭	尾中	頭	尾	中尾	中尾	尾	39%
	複合名詞ア	AD	AD	AD	AD	D	AD	A	C D	C D	
学生D	Yア	頭	中	頭	中	頭	尾	尾	中	中	33%
	複合名詞ア	A	A	D	A	D	D	B	C	C	
学生A	Yア	中頭	尾	頭	尾	頭	尾	中尾	尾	中尾	17%
	複合名詞ア	ABD	A	AD	BD	D	BD	ABD	BD	BD	
項目別得点率		85%	83%	83%	80%	65%	50%	38%	28%	28%	51%
Yア	中・高型	40%	15%	10%	45%	25%	25%	80%	25%	40%	
選択率	中・高型以外	75%	90%	85%	70%	50%	85%	50%	90%	70%	

表 47 は「問題二」 AB 型項目の項目別の得点率と、後部要素アクセントの選択状況を示す。A 型項目の場合と比べると、後部要素アクセントが中・高型アクセントの選択率が高いが、得点率は低い。被調査者は B 型を選択せず、後部要素アクセントが保存されない中・高型の C 型を選択するか、平板型の D 型を間違えて選択した。

また、後部要素の拍数と得点率の関係について、「問題二」の項目における複合名詞のアクセント型の正解が A 型であっても、AB 型であっても、後部要素が 3 拍の項目の得点率は、後部要素が 4 拍の項目の得点率より高い。表 47、表 48 から分かるように、後部要素が 3 拍の場合は A 型になりやすく、後部要素が 4 拍の場合が平板型アクセント (D) になりやすい傾向がみられる。

表 48 「問題二」 AB 型調査項目の項目別得点率と後部要素アクセントの選択

Y	調査項目	3拍		4拍		学生別得点率
		1形態素	2形態素	2形態素	2形態素	
		語末非特殊拍	語末特殊拍	語末非特殊拍	語末特殊拍	
		不連濁	不連濁かつ語頭拍無声化	連濁	連濁不関与	
学生	調査項目	③	②	⑫	⑬	学生別得点率
学生C	Yア	中	中	中	中	50%
	複合名詞ア	A	A	C	B	
学生F	Yア	中	頭	尾	平	50%
	複合名詞ア	A	A	C	B	
学生J	Yア	中	頭	尾	平	50%
	複合名詞ア	A	A	A	A	
学生I	Yア	平	頭	中尾	平中	44%
	複合名詞ア	AD	A	A	B	
学生P	Yア	中平	頭	中尾	平中	44%
	複合名詞ア	AB	AD	AD	BD	
学生B	Yア	中	頭	尾	中	38%
	複合名詞ア	AB	AD	C D	D	
学生L	Yア	中	頭	中	平中	38%
	複合名詞ア	A	A	C	D	
学生O	Yア	中平	頭	尾	中	38%
	複合名詞ア	A	A	A	D	
学生T	Yア	中	中	中尾	中	38%
	複合名詞ア	A	A	AD	AD	
学生A	Yア	中平	頭中	中尾	平	31%
	複合名詞ア	ABD	A	BD	C D	
学生E	Yア	平	中	尾	平	31%
	複合名詞ア	A	A	C D	D	
学生H	Yア	平	頭中	尾	平中	31%
	複合名詞ア	AD	A	AD	AD	
学生M	Yア	平	頭	尾	平中	31%
	複合名詞ア	AD	A	C D	BD	
学生Q	Yア	中平	頭	中尾	平	31%
	複合名詞ア	AD	A	C D	BD	
学生S	Yア	中平	頭	中尾	平中	31%
	複合名詞ア	AD	A	AD	AD	
学生D	Yア	中	頭	尾	平	25%
	複合名詞ア	A	A	D	D	
学生G	Yア	中	頭	尾	平	25%
	複合名詞ア	A	A	D	D	
学生R	Yア	中	頭	尾	平	25%
	複合名詞ア	A	A	D	D	
学生K	Yア	中平	頭	尾	平	13%
	複合名詞ア	AD	AD	D	D	
学生N	Yア	中平	頭	中尾	平中	13%
	複合名詞ア	AD	AD	BD	C	
項目別得点率		48%	45%	25%	18%	34%
Yア 中大型		75%	25%	45%	55%	
選択率 中大型以外		55%	80%	85%	75%	

4. 3 全項目の得点率

4. 1 節、4. 2 節では、「問題一」、「問題二」の調査項目をそれぞれ分析した。その結果、A 型複合名詞の調査項目の得点率が最も高く、B 型と AB 型複合名詞の項目の得点率が低いことが分かった。本節は「問題一」、「問題二」におけるすべての調査項目について、後部要素の拍数、複合名詞アクセント、後部要素のアクセント型から、まとめて分析する。

表 49 が示しているように、全項目において、拍数が長いほど、調査項目の得点率が下がる。

また、後部要素の拍数や、後部要素のアクセント型に関係せず、A 型複合名詞の得点率が最も高い。被調査者にとっては、このタイプのアクセント規則は、最も習得しやすいと予測される。後部要素が 3・4 拍の場合において、B 型複合名詞の得点率と、AB 型複合名詞の得点率は低い、B 型の得点率がわずかに高い。

そして、後部要素が中大型の場合、アクセント規則が複雑で、A 型、B 型、AB 型の 3 つの可能性がある。後部要素が中大型以外であれば、大部分が A 型複合名詞になる。後部要素が、中大型と他のアクセント型と共存する場合、A 型か AB 型になる。複雑にな

るほど得点率が下がると予測されるが、必ずしもこのようになっていない。被調査者は「後部要素のアクセント型」を基準として、複合名詞のアクセントを選んでいるのかどうか、6節で詳しく分析する。

表 49 全項目の得点率

Y拍数	複合名詞ア	Yア	調査項目	得点率			
3拍	A型	中大型と他のアと共存	問題二①④⑤⑩⑪	79%	76%	56%	
		中大型以外	問題一②③⑬⑳	68%			
		中大型	問題一④⑲⑳	68%			
	B型	中大型	問題一①⑨⑪⑫⑬	41%	41%		
		AB型	中大型と他のアと共存	問題二②⑨	46%		41%
			中大型	問題一⑧⑳㉑㉒	37%		
4拍	A型	中大型以外	問題一⑦⑳	76%	52%	48%	
		中大型	問題一⑥㉑	60%			
		中大型と他のアと共存	問題二③⑥⑦⑧	33%			
	B型	中大型	問題一⑤⑮⑳㉑㉒	41%	38%		
		中大型以外	問題一⑭㉑	36%			
		AB型	中大型	問題一⑰⑲⑳			36%
中大型と他のアと共存	問題二⑫⑬		21%				
5拍	B型	中大型以外	問題一⑩⑱	38%			

4. 4 誤答パターン

4. 1 節, 4. 2 節では、被調査者選択状況を示し、各調査項目の得点率を中心に分析した。本節では、被調査者が間違っ複合名詞のアクセントを選択する時、どのように間違っているのか、誤答パターンについて詳しく見たい。

表 50 は、すべての調査項目において、被調査者の誤答パターン、そのパターンの数と割合を示す。全体的に、被調査者は間違っ平板型の複合名詞アクセント (D) を選んでしまう傾向が見られる。

正解が A 型の複合名詞の調査項目において、平板型 (D) を含む誤答の数が圧倒的に多い。そのうち (D を含む誤答は 141 個)、A 型と D 型の選択肢両方を選んだ場合 (AD) がもっとも多く (84 個)、D 型を選んだ場合が二番目に多い (42 個)。一方、B を含む誤答 (29 個) と D を含む誤答 (17 個) の数は、すべて 30 個以下である。

表 50 誤答パターンの分類

複合名詞 正解のア	調査項目	誤答パターンの 数と割合		正解パターンの 数と割合	
正解が A型の 複合名詞	問題一②③④⑥⑦⑩ ⑫⑭⑮⑲⑳ 問題二①④⑤⑬⑳ ③③⑦ 調査項目 20個 × 被調査者 20名	Dを含む 誤答	35% (141)	A	55% (219)
		Bを含む 誤答	7% (29)		
		Cを含む 誤答	4% (17)		
正解が B型の 複合名詞	問題一①⑤⑧⑩⑪⑫ ⑬⑭⑮⑲⑳㉑㉒ 調査項目 14個 × 被調査者 20名	Aを含む 誤答	53% (147)	B	29% (82)
		Dを含む 誤答	24% (66)		
		Cを含む 誤答	4% (10)		
正解が AB型の 複合名詞	問題一⑧⑰⑱⑳㉑㉒ 問題二②③⑬⑳ 調査項目 10個 × 被調査者 20名	Dを含む 誤答	41% (81)	A B AB	53% (106)
		Cを含む 誤答	6% (11)		

正解が B 型の複合名詞の調査項目において、被調査者は間違っ A 型の複合名詞を選んでしまう傾向が見られる。誤答パターンとして、A を含む誤答の数 (147 個) はもっとも多い。C を含む誤答の数 (10 個) がもっとも少ない。D を含む誤答の数 (66 個) は中間的である。

正解が AB 型の複合名詞の調査項目において、平板型 (D) が含まれる誤答の数 (81 個) がもっとも多い。そのうち、AD (37 個)、D (30 個) の誤答の数がはるかに多い。なお、正解が AB 型の複合名詞の調査項目の場合は、完全正解のパターンが AB となる。被調査者が、A または B の 1 つしか選んだ場合、完全正解にならないが、間違っていない。したがって、A と B の回答は正解パターンとして表に挙げている。

表 51 は後部要素の拍数別、誤答パターンの分類を示す。すべての調査項目において、「後部要素が 3 拍の場合は A 型になりやすく、4 拍の場合は平板型 (D) になりやすい」という傾向がみられる。表からわかるように、3 拍の場合、被調査者の A を含む誤答の割合は 4 拍の場合より高い。一方、4 拍の場合の平板型 (D) を含む誤答の割合は、3 拍より高い。

また、表 51 からわかるように、保存されない中高型 (C) の誤答について、3 拍の調査項目の数 (22 個) と 4 拍の数 (20 個) は同じぐらいだが、C の選択数は 10 倍ぐらい差がある。被調査者に、「拍数が多いほど、アクセント核がずれやすい」という傾向がみられる。そのうち、3 拍の場合、保存されない中高型のアクセント核がすべて前にずれるが、4 拍の場合には前にずれたり、後にずれたりする。

表 51 後部要素の拍数別の誤答パターンの分類

3拍					4拍				
調査項目	選択数と割合				調査項目	選択数と割合			
問題一① ②③④⑧ ⑨⑪⑫⑬ ⑯⑰⑱⑲ ⑳㉑㉒㉓ ㉔㉕ 問題二① ②④⑤⑥⑨ ⑩⑪ 調査項目 22個 × 被調査者 20名	Aを含む 誤答	AD	72	30% (131)	問題一⑤ ⑥⑦⑩⑭ ⑮⑰⑱⑲ ⑳㉑㉒㉓ ㉔㉕㉖ 問題二③ ⑥⑦⑧⑫ ⑬ 調査項目 20個 × 被調査者 20名	Dを含む 誤答	AD	68	41% (165)
		A	38				D	59	
		AB	18				BD	24	
		ABD	2				CD	12	
	Dを含む 誤答	AD	72	27% (119)		Aを含む 誤答	AD	68	32% (128)
		D	36				A	36	
		BD	8				AB	20	
		ABD	2				AC	2	
	Bを含む 誤答	AB	18	7% (32)		BD	BD	24	14% (57)
		BD	8				AB	20	
		B	4				B	11	
	Cを含む 誤答	C	2	0.7% (3)		Bを含む 誤答	BC	1	7% (29)
ACD		1	ACD		1				
C		9	Cを含む 誤答		C		14		
C ⁻¹	4	CD		12					
					C ⁺¹	1			
					C ⁺²	1			
					CD	10			
					CD ⁻¹	2			
					AC	1			
					AC ⁻¹	1			
					AC ⁺¹	1			
					ACD	1			
					ACD ⁻¹	1			

5. 分析しなかった先行研究の複合名詞アクセントに影響する要因

2 節で取り上げた先行研究によれば、複合名詞アクセントに影響する要因として、5 点あると指摘されている。5 点の中で、後部要素の拍数や、後部要素の形態素数を中心に取り扱ってきた。本節は、その他の 4 点の要因が、どのように得点率に影響するのかを分析したい。この 4 点の要因について、各要因に関わる項目が表 52 のように得点率の順番に並んでいる。

表 52 先行研究の複合名詞アクセントに影響する要因と調査項目の得点率

要因		複合名詞A型	調査項目	得点率	
連濁	Y拍数3	A型	問題一④⑧⑫⑯	64%	52%
	Y拍数4		問題二①⑤⑪	40%	
Y語末特殊拍	Y拍数3	A型が多い、かつ Y3拍のA型がY4 拍より多い	問題一①④⑪⑬⑰⑲⑳㉑㉒	55%	51%
	Y拍数4		問題二②⑩⑱	44%	
Y語頭拍無声化	Y拍数3	A型かB型	問題一⑨㉑ 問題二②⑩	45%	
2次複合	Y拍数3	B型	問題一⑫	20%	16%
	Y拍数4		問題一⑳	13%	

連濁する場合は、正しい複合名詞のアクセントは A 型になる。4. 1. 2 節, 4. 1. 2 節から分かるように、「問題一」、「問題二」のすべての調査項目において、A 型の項目の得点率が高い。しかし、A 型に属する後部要素が 4 拍「連濁」語の場合は、得点率が 40% しかない。一方、後部要素が 3 拍の場合、得点率が高い。

後部要素が語末特殊拍の場合、3・4 拍複合名詞は、A 型になりやすいが、一概に言えない。項目①「味噌おでん」や⑪「西日本」など後部要素のアクセントが保存された例もある。後部要素が 3 拍の調査項目の得点率は、後部要素が 4 拍の調査項目より高い。

後部要素が語頭拍無声化の場合は、正しいアクセントが AB 型のアクセントになりやすい。被調査者の選択状況から見ると、複数選択する人が少ないため、このタイプの調査項目において、完全正解になりにくい。そして、AB 型の調査項目では、正解の選択を 1 つだけ選んだ場合、完全正解の半分の点数が付けられる。これは得点率が 45%になる原因の 1 つであると考えられる。

複合名詞が 2 次複合の場合は、得点率が最も低い。先行研究によれば、複合名詞というのは、アクセント上の複合名詞である。被調査者にとって、⑫「女はり師」のような後部要素の拍数が少ない単語は、複合名詞であるか、単純語であるか、判断することが難しいと考えられる。「問題二」の⑨の後部要素「卵」は、「玉子」とも書くが、日常的によく使われる単語であるため、一語としての意識が高く、単純語として扱われている。一方、⑳「女はり師」の場合は、使用頻度が低く、単純語か複合語か判断しにくい。

6. 学生別得点率とアクセント規則の選択状況

被調査者が持っているアクセント知識を把握するため、聞き取りテストの調査項目の後に、アクセント知識や、アクセント規則に関するアンケートを行った。(詳細内容は付録アクセント調査用紙 の稿末にある「アクセントに関する知識」の調査項目を参照)

表 53 アクセント規則について被調査者の選択状況

Y拍数	3拍				4拍				全ての項目 学生別得点率	規則 学生別得点率	
	Y頭	Y中	Y尾	Y平	Y頭	Y中	Y尾	Y平			
学生C	A	A	A	B	A	BC ⁻¹	A	B	80%	55%	
学生M	AD	B	AD	AB	A	AB	A	AB	74%	60%	
学生O	A	A	D	AB	A	ABD	D	AB	66%	50%	
学生Q	A	BD	A	A	A	AB	C ⁻¹	AB	65%	60%	
学生I	A	A	A	A	AD	A	AC ⁻²	C [#]	64%	60%	
学生P	AD	AD	A	A	A	ABD	AD	ABC [#]	61%	60%	
学生G	A	A	D	A	AC ⁻¹	AB	AC ⁻¹	AC [#]	59%	55%	
学生J						BC ⁻¹		B	57%	5%	
学生F	A	B	A	B	A	B	D	B	56%	40%	
学生T	A	B	D	B	A	B	D	B	54%	30%	
学生S	A	AB	A	AB	AD	A	AD	AB	52%	70%	
学生L								B	51%	0%	
学生B	AD	A	C ⁻¹	A	D	D	D	C [#]	49%	25%	
学生E	A	A	A	AB	C ⁺¹	C ⁻¹	C ⁺¹	D	B	49%	35%
学生H	AD	B	AD	AB	A	ABD	A	AB	46%	65%	
学生K	AD	B	AD	AB	A	ABD	A	AB	42%	65%	
学生A	A	B	D	C [#]	A	B	D	B	41%	40%	
学生N	A	BD	D	A	C ⁺¹	C ⁺¹	D	A	38%	35%	
学生D	A	A	D	B	A	C ⁻¹	D	B	35%	30%	
学生R	C ⁺¹	A	C ⁻¹	A	A	AD	A	A	35%	55%	

表 53 は被調査者が認識している後部要素が 3・4 拍の複合名詞のアクセント規則を示す（黒いセルは正解である。空欄は被調査者がアクセント規則を選択しなかったことを示す）。先行研究の複合名詞アクセント規則によって、後部要素が中高型であれば、複合してアクセント核は、後部要素の語頭拍に置かれる（或いは後部要素の中高型が保存される）。後部要素が中高型以外の場合は、複合してアクセント核は、後部要素の語頭拍に置かれる。表 53 からわかるように、被調査者は全く規則を知らないわけではない。しかし、完全に正しい規則を把握している人はいない。

被調査者のアクセント規則の選択状況を見ると、後部要素が頭高型の場合は、3・4 拍とも頭高型になる傾向が見られる。後部要素が中高型の場合は、3 拍より 4 拍の中高型の選択数が多い。後部要素が尾高型・平板型の場合は、平板型になる傾向が見られる。特に後部要素が 4 拍かつ平板型の場合、平板型（後部要素が 3・4 拍かつ平板型の場合、B が間違っただけの平板型の回答である）の選択数が高かった。全体的に、後部要素が 4 拍の複合名詞の、後部要素アクセントの核位置は、後部要素が 3 拍の場合と比べ、後に移動する傾向が見られる。

得点率が最も高い学生 C (80%) の回答を分析した結果、学生 C は、後部要素が 3・4 拍かつ平板型の場合の規則を、複合して平板型が保存されると間違っただけで回答した。一方、学生 C の「問題一」の回答を見ると、後部要素が 3・4 拍かつ平板型の調査項目について、ほとんど A 型の複合名詞を選択肢している。後部要素が 3 拍かつ中高型の場合のアクセント規則を、A 型と回答したが、「問題一」の B 型の調査項目において、ほとんど正しく B 型だと回答した。そして、後部要素が 4 拍かつ中高型の場合の規則を、B 型と C⁻¹ 型だと回答したが、「問題一」、「問題二」のすべて該当する調査項目において、A 型の回答がかなり多い。学生 C にとって、規則の選択と、実際の運用能力と違うことが予測される。規則は完全に書けないが、脳内では無意識に規則を把握しているのだろう。この現象は、他の学生のところにも観察された。5 節で取り扱った 4 点の要因は、被調査者の知識を調査していないため、今後の課題にする。

7. 得点率と日本語学習歴

被調査者全員が N1 に合格した上級日本語学習者であるが、日本語学習歴は 2 年 6 ヶ月から 8 年までの間で、かなりの差がある。表 54 からわかるように、日本語学習歴が長いほど、得点率が高いわけではない。

表 54 学生別「問題一」、「問題二」の得点率の順位と学習歴の順位

学生	得点率	順位	学習歴	順位	学生	得点率	順位	学習歴	順位
C	80%	1	5年6ヶ月	9	S	52%	16	3年	13
M	74%	2	6年1ヶ月	6	L	51%	9	5年	11
O	66%	5	7年6ヶ月	2	B	49%	13	8年	1
Q	65%	3	5年	12	E	49%	10	3年2ヶ月	17
I	64%	6	7年1ヶ月	3	H	46%	17	2年6ヶ月	15
P	61%	8	4年	16	K	42%	18	6年	18
G	59%	4	5年3ヶ月	10	A	41%	11	4年	19
J	57%	7	4年	14	N	38%	15	4年	8
F	56%	14	7年	4	D	35%	20	6年	5
T	54%	12	?	20	R	35%	19	7年	7

日本語学習歴が最も長い学生 B は、得点率の順位が 13 位である。一方、得点率が最も高い学生 C は、日本語学習歴の順位が 9 位である。他にも、日本語学習歴の順位と得点率の順位の差が 10 以上である学生は 5 人もいる。

8. まとめ

上級日本語学習者は、複合名詞のアクセント習得問題について、後部要素が 3・4 拍で、「1 単位の複合名詞」の場合、後部要素の語頭拍アクセント核を置くという規則は、最も習得しやすいことが分かった。しかし、アクセント規則をはっきり把握していないことも分かった。学習者にとって、大きい問題点は以下の 2 つである：

- (1) 後部要素のアクセントが保存されるのが正しいアクセントの場合は、間違って「後部要素の語頭拍にアクセント核を置く」という傾向がみられる。
- (2) 後部要素の拍数が長いほど、後部要素のアクセントが保存されず、核位置がずれたり、平板化したりするなど、間違った複合名詞アクセントを選んでしまう。

第八章 終章

各章内容のまとめ

本研究は、序章にあたる第一章および終章にあたる第八章を除けば、本論の部分にあたる第二章から第七章までを、以下のようにまとめる。

第二章では、複合名詞アクセントや連濁をめぐる先行研究を概観した。複合名詞アクセントをめぐる先行研究について、複合名詞の3タイプの分類と、アクセント辞典によるアクセント規則などを中心に、関連する先行研究を紹介した。連濁をめぐる先行研究について、音韻的要因、語彙層、形態・意味的要因と分け、連濁に関係する先行研究を紹介した。また、音韻とアクセントの関係、アクセント語類とアクセントの関係についての先行研究も取り扱っていた。

第三章では、『NHK 日本語発音アクセント新辞典』(2016)に基づいたアクセントデータベースを用い、『新明解日本語アクセント辞典』(2015)に記載される規則を検証した。全体として、『NHK 日本語発音アクセント新辞典』(2016)の記載による語の平板型が比較的が多いことが分かった。連濁現象と複合語のアクセントの関係について、発見された個別な現象から仮説①「連濁は、複合語の前・後部要素の境界を示し、連濁するとアクセント核も各要素の境界を示せる所に置かれやすい」(連濁を生じる語は、アクセント核が語境界の1拍前後に置かれる傾向がみられる)と仮説②「連濁は尾高型を回避し、生産性が高いアクセント型が現れやすい」(短い複合語の生産性が高いアクセント型とは、平板型の場合と、語境界の1拍前後にアクセント核を置く場合である)を立て、検証を行った。また、短い複合語の前・後部要素の語彙別リストを作成し、特定の語彙が複合語アクセントを決定する力があることを明らかにした。最後に、後部要素が3・4拍の結合名詞において、新たに、「後部要素が3・4拍かつ中高型語の場合において、連濁を生じると、後部要素のアクセント核位置が保存されず、アクセント核は後部要素の語頭拍に置くという傾向がみられる」という現象を発見し、それを仮説③として立てた。

第四章では、第三章で立てた仮説③について、詳しく検討を行った。その結果、「後部要素が3・4拍かつ中高型語の場合において、連濁を生じると、後部要素のアクセント核位置が保存されず、アクセント核は後部要素の語頭拍に置くという傾向がみられる。すなわち、複合名詞が「不完全複合名詞」から「1単位の複合名詞」に変わる」というように、連濁がアクセントの核位置保存に影響することが判明した。

第五章では、連濁の機能や、連濁とアクセントとの関係をめぐって議論を行った。連濁の規則を網羅的に扱い、連濁のマーク機能や、個別な現象に見られる連濁とアクセントの関係、第三章と第四章で立てた3つの仮説について、詳しく検討した。連濁は直前漢字語のモーラ数が2のマーク、「形容詞素性」と「その他」の弁別的なマーク、より強い意味のまとまりのマークなど、様々なマークの機能を担っている。連濁の「より強い意味のまとまりのマーク」機能を通して、仮説③の現象を説明できるように試みた。また、仮説①と仮説③の成立も、「連濁は語境界を示す機能を持つ」の従来説を証明できる事例となった。

連濁とアクセントとの関係について、複合名詞全体において、仮説②が有効であることを判明した。また、同音異義語や、後部要素が2拍動詞連用形転成名詞の複合名詞など、個別な現象から、連濁語→平板型 不連濁語→起伏型 という対立関係が見られる。

第六章では、先行研究が扱っている後部要素が2拍和語の複合名詞と、金田一語類分類表にある2拍和語と、ローゼンの3分類に見られる2拍和語と、対照しながらアクセ

ント語類と複合名詞アクセントの関係について検討を行った。比較調査が不十分である問題があり、さらに、作成したアクセントデータベースを用い、金田一が挙げられた後部要素が2拍和語名詞の単一形態素が複合名詞になる時の、3分類のどちらかに属すべきかを再考察した。その上で、語類と連濁とアクセントの関係について、語彙を分析しながら再考察も行った。その結果、アクセント語類と複合名詞アクセントの関係について、語類別で複合名詞アクセントの出現率が異なることを明らかにした。アクセント語類と連濁と複合名詞アクセントについて、「第1類と第2類語において、連濁を生じることによって、複合名詞アクセントの平板型の生起率が上がる傾向が見られる。第3類語において、連濁を生じることによって、逆に平板型の生起率が下がり、前部末型の生起率が上がる。第4類語の場合、連濁と複合名詞アクセントとの関係が見られない。第5類語において、連濁を生じることによって、平板型の生起率が下がり、後部頭高型の生起率が上がる傾向が見られる」というような傾向性が得られた。

第七章では、日常的によく使われる後部要素が3・4拍の複合名詞について、上級日本語学習者の、そのアクセント規則の把握状況を調べた。上級日本語学習者に見られる2つの問題点を指摘した：(1)「後部要素のアクセントが保存されるのが正しいアクセントの場合は、間違っ後部要素の語頭拍にアクセント核を置く」、(2)「後部要素の拍数が長いほど、後部要素のアクセントが保存されず、核位置がずれたり、平板化したりするなど、間違っ複合名詞アクセントを選んでしまう」。

参考文献

- 秋永一枝（編）（2015）『新明解日本語アクセント辞典』三省堂
- 浅井淳（2014）「連濁生起の傾向と定着化」『国立国語研究所論集』7. pp27-44 国立国語研究所
- 上野善道（1999）「複合名詞後部要素のアクセント型保存」『言語と文化の諸相』pp159-212 岩手大学人文社会科学部
- 大槻文彦（1897）『広日本文典』大槻文彦 東京
- 奥村三雄（1955）「連濁」『国語学辞典』国語学会（編）pp961-962 東京出版社 東京
- 奥村三雄（1984）「連濁」『日本語学』3-5. pp89-98 明治書院
- 小倉進平（1910）「ライマン氏の連濁論（上・下）」『国学院雑誌』16-7 pp21-23
- 小松英雄（1981）『日本語の世界 7—日本語の音韻』中央公論社 東京
- 北原保雄（編）（2011）『明鏡国語辞典 第二版』大修館書店
- 金田一春彦（1974）『国語アクセントの史的研究—原理と方法—』塙書房
- 金田一春彦（1976）「連濁の解」*Sophia Linguistica II* 上智大学大学院言語学研究室 pp1-22
- 窪菌晴夫（1995）『語形成と音韻構造』くろしお出版
- 窪菌晴夫・伊藤順子・A.Mester（1997）「音韻構造から見た語と句の境界—複合名詞アクセントの分析—」『文法と音声』pp147-166 くろしお出版
- 佐久間鼎（1959）『標準日本語の発音・アクセント』恒星社厚生閣 東京
- 郡史郎（2016）「長い複合名詞のアクセント—「携帯電話電源オフ車両」などの説明原理についての覚え書き—」『音声言語 VII』pp31-48
- 佐藤大和（1989）「複合におけるアクセント規則と連濁規則」『日本語の音声・音韻（上）』明治書院 pp233-265
- 城岡啓二（2015）「複合語前項の長さの連濁への関与について：固有名詞、一般語彙、和語、漢語」『人文論集』1-66 pp137-167 静岡大学人文社会科学部出版
- 杉本貴代（2016）「幼児の連濁獲得を規定する諸要因の検討：バイリンガル児の事例から」『国立国語研究所論集』11 pp83-97 国立国語研究所
- 鈴木孝夫（1962）「音韻交替と意義分化の関係について—所謂清濁音の対立を中心として」『言語研究』42 pp23-30
- 鈴木豊（2008）「動詞連用形転成名詞を後部要素とする複合語の連濁」『文京学院大学外国語学部文京学院短期大学紀要』8 pp212-234 文京学院大学総合研究所出版
- 鈴木豊（2012）「4 拍語を後部要素とする複合語の連濁について」『文京学院大学外国語学部文京学院短期大学紀要』11. pp115-133 文京学院大学総合研究所出版
- 鈴木豊（2016）「字音形態素「ショ（所）」の連濁：「研究所」「保育所」を中心に」『文京学院大学外国語学部紀要』15 pp1-14 文京学院大学総合研究所
- 鈴木豊（2017）「和語動詞における濁音の共起制限について」『文京学院大学外国語学部文京学院短期大学紀要』16 pp47-59 文京学院大学総合研究所出版
- 高山知名（1995）「促音による複合と卓立」『国語学』188 pp17-27
- 太田聡（2016）「日本語複合語の不規則なアクセント型について予備的考察」『山口大學文學會志』66 pp89-99 山口大學文學會
- 太田聡・太田 真理（2016）「連濁の生起率に基づく日本語複合語の分類：連濁データベースによる研究」『国立国語研究所論集』10 pp179-191 国立国語研究所
- 太田聡・玉岡賀津雄（2017）「連濁とアクセント—普通名詞と無意味語の場合—」『連濁

- の研究—国立国語研究所プロジェクト論文選集』 pp69-93 開拓社
- 田中真一・窪菌晴夫 (1999) 『日本語の発音教室』 くろしお出版
- 田中真一 (2008) 『リズム・アクセントの「ゆれ」と音韻・形態構造』 くろしお出版
- 陳曦 (2017) 「後部要素が状態や動作をあらわす四字漢語のアクセント融合問題：統語的関係と意味の視点から」『大阪大学言語文化学』 26 pp3-16
- 寺川喜四男他 (編) 『国語アクセント論叢』 pp69-90 東京：法政大学出版部
- 戸田貴子 (2003) 「外国人学習者の日本語特殊拍の習得」『音声研究』 7-2. pp70-83 日本音声学会
- 中川芳雄 (1966) 「連濁連清 (仮称) の系譜」『国語国文』 35-6 pp302-314 京都大学文学部 国語学国文学研究室
- 劉汝源 (2018) 「後部要素が 3・4 拍の複合名詞の核位置保存について—連濁との関係を中心に—」『音声研究』 22-3
- 劉汝源 (2019) 「上級日本語学習者における後部要素が 3・4 拍かつ中高型の複合名詞のアクセント規則の把握状況について」『神戸市外国語大学研究科論集』 22
- 前田広幸 (2000) 「後部に 2 拍和語をもつ複合名詞アクセント再考」『現代言語学の射程』 pp65-78 英潮社
- 松村明 (編) (2006) 『大辞林』 三省堂
- 松森晶子・新田哲夫・木部暢子・中井幸比古 (2012) 『日本語アクセント入門』 三省堂
- 松森晶子 (2016) 「複合語アクセントが日本語史研究に提起するもの」『国立国語研究所論集』 10 pp135-158 国立国語研究所
- 山下好孝 (2005) 「日本語複合語アクセント付与規則」『北海道大学留学生センター紀要』 pp79-90
- 和田実 (1943) 「複合語アクセントの後部要素としてみた二音節名詞」『方言研究』 7 pp1-26
- 和田実 (1951) 「赤とんぼ—いわゆる「基本アクセント型」におちいる語の処置など—」
- ティモシー・J・バンス (2015) 「連濁の不規則性とローゼンの法則」『国立国語研究所論集』 9 pp207-214
- ティモシー・J・バンス・金子恵美子・渡邊靖史 (2017) 「連濁の不規則性とローゼンの法則」『連濁の研究—国立国語研究所プロジェクト論文選集』 pp1-24 開拓社
- Frellesvig, Bjarke (2010) *A History of the Japanese Language*, Cambridge University Press, Cambridge.
- Gordon, M (2004) "Syllable Weight," *Phonetically Based Phonology*, pp277-312. Cambridge.
- Hamano, Shoko (1998) *The Sound-symbolic System of Japanese*, CSLI / Kurozio, Stanford/Tokyo.
- NHK 放送文化研究所 (2016) 『NHK 日本語発音アクセント新辞典』 NHK 出版
- Irwin, Mark (2009) "Prosodic Size and Rendaku Immunity," *Journal of East Asian Linguistics* 18, pp179-196
- Irwin, Mark (2016) "The Rendaku Database," *Sequential Voicing in Japanese Compounds: Papers from the NINJAL Rendaku Project*, ed. by Timothy J. Vance and Mark Irwin, pp79-106, John Benjamins, Amsterdam.
- Itô, Junko, and Armin Mester (2003) *Japanese Morphophonemics: Markedness and Word Structure*, MIT Press, Cambridge, MA.
- Kenstowicz, M. (1994) "Sonority-Driven Stress," m. s, MIT

- Kozman, Tam (1998) "The Psychological Status of Syntactic Constraints on Rendaku," *Japanese/Korean Linguistics 8*, ed. by David Silva, pp107-120, CSLI, Stanford.
- Kubozono, Haruo (2005) "Rendaku: Its Domain and Linguistic Conditions," *Voicing in Japanese*, ed. by Jeroenvan de Weijer, Kensuke Nanjo, and Tetsuo Nishihara, pp5-24, John Benjamins, Amsterdam.
- Kumagai, Gakuji (2014) "The Psychological Status of the Right-Branch Condition on Rendaku: An Experiment with Specific Contexts," *Studies in Language Sciences 13*, pp124-145
- Kuroda, S. -Y. (2002) "Rendaku." *Japanese/Korean Linguistics 10*, ed. by Noriko M. Akatsuka and Susan Strauss, pp337-250, CSLI, Stanford.
- Lyman, Benjamin Smith (1894) *The Change from Surd to Sonant in Japanese Compounds*, Oriental Club of Philadelphia, Philadelphia.
- Matthews, P.H. (1997) *The Concise Oxford Dictionary of Linguistics*, Oxford University Press, Oxford.
- Nishimura, Kohei (2007) "Rendaku and Morphological Correspondence," *Phonological Studies 10*, pp21-30
- Otsu, Yukio (1980) "Some Aspects of Rendaku in Japanese and Related Problems," *MIT Working Papers in Linguistics 2: Theoretical Issues in Japanese Linguistics*, ed. by Yukio Otsu and Anne Farmer, pp207-227, MIT Department of Linguistics and Philosophy, Cambridge.
- Ramsey, S. Robert, and J. Marshall Unger (1972) "Evidence for a Consonant Shift in 7th Century Japanese." *Papers in Japanese Linguistics 1* pp278-295
- Rosen, Eric Robert (2001) "Phonological processes interacting with the lexicon: Variable and non-regular effects in Japanese phonology. Unpublished doctoral dissertation." University of British Columbia.
- Rosen, Eric (2003) "Systematic Irregularity in Japanese Rendaku: How the grammar mediates patterned lexical exceptions." *Canadian Journal of Linguistics 48* pp1-37
- Selkirk, E. O. (1984) "On the major class features and syllable theory," *language Sound Structure*, pp107-136. Cambridge, MA: MIT Press.
- Sugioka, Yoko (2005) "Multiple Mechanisms Underlying Morphological Productivity," *Polymorphous Linguistics: Jim McCawley's Legacy*, ed. by Salikoko S. Mufwene, Elaine J. Francis and Rebecca S. Wheeler, pp204-223, MIT Press, Cambridge, MA.
- Tanaka, Shin-ichi (2005) Where voicing and accent meet: Their function, interaction and opacity problems in phonological prominence. In: Jeroen van de Weijer, Kensuke Nanjo, and Tetsuo Nishihara (eds.) *Voicing in Japanese*, pp261-278. Berlin: Mouton de Gruyter.
- Vance, Timothy J. (1996) "Sequential Voicing and Sino-Japanese," *Journal of the Association of Teachers of Japanese 30*, pp22-43
- Vance, Timothy J. (2007) 「右枝条件か首位条件かーその違いについてー」『日本語学の諸相』くろしお出版 pp231-240
- Vance, Timothy J. (2015) "Rendaku," *The Handbook of Japanese Phonetics and Phonology*, ed. by Haruo Kubozono, pp397-441, De Gruyter Mouton, Berlin.
- Vance, Timothy J. (2015) 「連濁の不規則性とローゼンの法則」『国立国語研究所論集』9 pp204-214

付録 前・後部要素語彙別リスト

1 和語+1 和語

前部要素語彙別

前部要素が 18 項目あり、前部要素の平板型と起伏式を分けて分析を行う。

前部要素が平板型の 3 項目は「蚊カ」「毛ケ」「簀ス (第 2 ス\)」であり、合計 3 語である。

複合語は平板型の 2 項目 2 語

「蚊カ」1 語：「+屋ヤ\→蚊屋カヤ」

「毛ケ」1 語：「+羽ハ\→毛羽 ケバ」

複合語は頭高型の 1 項目 1 語

「簀ス (第 2 ス\)」1 語：「+戸ト\→簀戸ス\ド」

前部要素が起伏式の 15 項目は「井イ\」「尾オ\」「黄キ\ (第 2 キ)」「木キ\」「生キ\」「背セ\ (第 2 セ)」「手テ\」「根ネ\」「野ノ\」「羽ハ\」「火ヒ\」「矢ヤ\」「屋ヤ\」「湯ユ\」「夜ヨ\」であり、合計 21 語である。

複合語は平板型の 1 項目 1 語

「黄キ\ (第 2 キ)」1 語：「+身ミ\→黄身キミ」

複合語は頭高型の 6 項目 6 語

「井イ\」1 語：「+戸ト\→井戸イ\ド」

「生キ\」1 語：「+酢ス\→生酢 キ\ズ」

「野ノ\」1 語：「+火ヒ\→野火 ノ\ビ」

「火ヒ\」1 語：「+矢ヤ\→火矢 ヒ\ヤ」

「屋ヤ\」1 語：「+根ネ\→屋根 ヤ\ネ」

「夜ヨ\」1 語：「+目メ\→夜目 ヨ\メ」

複合語は尾高型の 1 項目 1 語

「根ネ\」1 語：「+緒オ\→根緒 ネオ\」

複合語は平板型・尾高型の共存する 2 項目 4 語

「羽ハ\」3 語：「+根ネ\→羽根 ハネ」

「+子コ\→羽子ハゴ\」

「+目メ\→羽目ハメ\」

「矢ヤ\」1 語：「+場バ\→矢場ヤバ (第 2 ヤバ\)」

複合語は頭高型・尾高型の共存する 4 項目 7 語

「木キ\」2 語：「+戸ト\→木戸キ\ド」

「+場バ\→木場キバ\」

「手テ\」2 語：「+羽ハ\→手羽テ\バ」

「+間マ→手間テマ\」
「湯ユ\」2語：「+葉ハ→湯葉ユ\バ」
「+屋ヤ\→湯屋ユヤ\」
「背セ\ (第2セ)」1語：「+戸ト→背戸セ\ド (第2セド\)」

複合語は平板型・頭高型・尾高型の共存する1項目2語

「尾オ\」2語：「+羽ハ→尾羽オ\ハ (第2オハ)」
「+根ネ\→尾根オ\ネ (第2オネ\)」

後部要素語彙別

後部要素が14項目あり、後部要素の平板型と起伏式を分けて分析を行う。

後部要素が平板型の7項目は「子コ」「戸ト」「羽ハ」「場バ」「葉ハ」「羽ハ」「間マ」「身ミ」であり、合計13語である。

複合語は平板型の1項目1語

「身ミ」1語：「黄キ\ (第2キ) +→黄身キミ」

複合語は頭高型の1項目1語

「葉ハ」1語：「湯ユ\+→湯葉ユ\バ」

複合語は尾高型の2項目2語

「子コ」1語：「羽ハ\+→羽子ハゴ\」
「間マ」1語：「手テ\+→手間テマ\」

複合語は平板型・頭高型の共存する1項目3語

「羽ハ」3語：「尾オ\+→尾羽オ\ハ (第2オハ)」
「毛ケ+→毛羽ケバ」
「手テ\+→手羽テ\バ」

複合語は平板型・尾高型の共存する1項目2語

「場バ」2語：「木キ\+→木場キバ\」
「矢ヤ\+→矢場ヤバ (ヤバ\)」

複合語は頭高型・尾高型の共存する1項目4語

「戸ト」4語：「井イ\+ →井戸イ\ド」
「木キ\+→木戸キ\ド」
「簧ス (第2ス\)+→簧戸ス\ド」
「背セ\ (第2セ)+→背戸セ\ド (第2セド\)」

後部要素が起伏式の7項目は「緒オ\」「酢ス\」「根ネ\」「火ヒ\」「目メ\」「矢ヤ\」「屋ヤ\」であり、合計11語である。

複合語は頭高型の3項目3語

「酢ス\」1語：「生キ\+→生酢キ\ズ」

「火ヒ」 1 語：「野ノ」＋→「野火ノ」
「矢ヤ」 1 語：「火ヒ」＋→「火矢ヒ」

複合語は尾高型の 1 項目 1 語

「緒オ」 1 語：「根ネ」＋→「根緒ネオ」

複合語は平板型・尾高型の共存する 1 項目 2 語

「屋ヤ」 2 語：「蚊カ」＋→「蚊屋カヤ」
「湯ユ」＋→「湯屋ユヤ」

複合語は頭高型・尾高型の共存する 1 項目 2 語

「目メ」 2 語：「羽ハ」＋→「羽目ハメ」
「夜ヨ」＋→「夜目ヨメ」

複合語は平板型・頭高型・尾高型の共存する 1 項目 3 語

「根ネ」 3 語：「尾オ」＋→「尾根オネ（第 2 オネ）」
「羽ハ」＋→「羽根ハネ」
「屋ヤ」＋→「屋根ヤネ」

1 拍和語＋1 拍漢語

前部要素語彙別

前部要素が8項目あり、前部要素の平板型と起伏式を分けて分析を行う。

前部要素が平板型の2項目は「後ゴ」「茶チャ」であり、合計3語である。

複合語は平板型の1項目1語

「茶チャ」1語：「+屋ヤ\→茶屋チャヤ」

複合語は平板型・頭高型の共存する1項目2語

「後ゴ」2語：「+手テ\→後手ゴテ（第2ゴ\テ）」

「+場バ\→後場ゴ\バ」

前部要素が起伏式の6項目は「絵エ\」「四シ\」「素ス\（第2ス）」「派ハ\」「無ム\（第2ム）」「和ワ\」であり、合計6語である。

複合語は頭高型の1項目2語

「絵エ\」1語：「+羽ハ\→絵羽エ\バ」

「和ワ\」1語：「+子コ\→和子ワ\コ」

複合語は尾高型の1項目1語

「派ハ\」1語：「+手テ\→派手ハデ\」

複合語は頭高型・尾高型の共存する3項目3語

「四シ\」1語：「+手テ\→四手シ\デ（第2シデ\）」

「素ス\（第2ス）」1語：「+手テ\素\→手スデ\（第2ス\デ）」

「無ム\（第2ム）」1語：「+手テ\→無手ムテ\（第2ム\テ）」

後部要素語彙別

後部要素が5項目あり、後部要素の平板型と起伏式を分けて分析を行う。

後部要素が平板型の3項目は「子コ」「場バ」「羽ハ」であり、合計3語である。

複合語は頭高型の3項目3語

「子コ」1語：「和ワ\+→和子ワ\コ」

「場バ」1語：「後ゴ+→後場ゴ\バ」

複合語が起伏式である。語例が少なく、後部要素「場」により、起伏式になるのかを判断しにくい。

「羽ハ」1語：「絵エ\+ →絵羽エ\バ」

後部要素が起伏式の2項目は「手テ\」「屋ヤ\」であり、合計6語である。

複合語は平板型の1項目1語

「屋ヤ\」1語：「茶チャ+ →茶屋チャヤ」

複合語は平板型・頭高型・尾高型の共存する1項目5語

「手テ\」 5 語 : 「後ゴ+→後手ゴテ (第 2 ゴ\テ)」
「無ム\ (第 2 ム) +→無手ムテ\ (第 2 ム\テ)」
「四シ\+→四手シ\デ (第 2 シデ\)」
「素ス\ (第 2 ス) +→素手スデ\ (第 2 ス\デ)」
「派ハ\+→派手ハデ\」

2 拍和語+1 拍和語

前部要素語彙別

前部要素が 193 項目あり、前部要素の平板型と起伏式を分けて分析を行う。

前部要素が平板型の 48 項目は「宛アテ」「内ウチ」「梅ウメ」「枝エダ」「燠オキ」「籠カゴ」「駕籠カゴ」「株カブ」「窯カマ」「仮カリ」「黄身キミ」「釘クギ」「口㊦チ」「首クビ」「腰コシ」「笹ササ」「下㊦タ (第 2㊦タ\)'」「隙㊦キ」「砂スナ」「底ソコ」「竹タケ」「店タナ」「棚タナ」「床トコ」「虎トラ」「鳥トリ」「並ナミ」「西ニシ」「庭ニワ」「布ヌノ」「軒ノキ」「箱ハコ」「蜂ハチ」「鼻ハナ」「髭ヒゲ」「人㊦ト」「櫓ホダ」「薪マキ」「的マト」「丸マル」「水ミズ」「壬生ミブ」「虫ムシ」「餅モチ」「タユ一 (第 2 ユ\一)」「百合ユリ」「横ヨコ」「嫁ヨメ」であり、合計 72 語である。

複合語は平板型の 45 項目 67 語

「鼻ハナ」5 語：「+緒オ\→鼻緒ハナオ」

「+木キ\→鼻木ハナギ」

「+毛ケ\→鼻毛ハナゲ」

「+血チ\→鼻血ハナジ」

「+輪ワ\→鼻輪ハナワ」

「横ヨコ」5 語：「+木キ\→横木ヨコギ」

「+手テ\→横手ヨコテ」

「+手テ\→横手ヨコデ」

「+根ネ\→横根ヨコネ」

「+目メ\→横目ヨコメ」

「下㊦タ (第 2㊦タ\)'」4 語：「+値ネ\→下値㊦タネ」

「+葉ハ\→下葉㊦タバ」

「+歯ハ\→下歯㊦タバ」

「+火ヒ\→下火㊦タビ」

「内ウチ」3 語：「+湯ユ\→内湯ウチユ」

「+輪ワ\→内輪ウチワ」

「+子コ\→内子ウ㊦コ」

「人㊦ト」3 語：「+手テ\→人手㊦トデ」

「+目メ\→人目㊦トメ」

「+屋ヤ\→人屋㊦トヤ」

「水ミズ」3 語：「+田タ\→水田ミズタ」

「+菜ナ\→水菜ミズナ」

「+屋ヤ\→水屋ミズヤ」

「枝エダ」2 語：「+毛ケ\→枝毛エダゲ」

「+葉ハ\→枝葉エダハ」

「株カブ」2 語：「+間マ\→株間カブマ」

「+屋ヤ\→株屋カブヤ」

「砂スナ」2 語：「+子コ\→砂子スナゴ」

「+場バ\→砂場スナバ」

「虎トラ」2 語：「+毛ケ\→虎毛トラゲ」

「+斑フ\→虎斑トラフ」

「丸マル」2語：「+木キ\→丸木マルキ」
 「+根ネ\→丸根マルネ」
 「宛アテ」1語：「+名ナ\→宛名アテナ」
 「梅ウメ」1語：「+酢ス\→梅酢ウメズ」
 「燠オキ」1語：「+火ヒ\→燠火オキビ」
 「籠カゴ」1語：「+目メ\→籠目カゴメ」
 「駕籠カゴ」1語：「+屋ヤ\→駕籠屋カゴヤ」
 「窯カマ」1語：「+場バ\→窯場カマバ」
 「仮カリ」1語：「+屋ヤ\→仮屋カリヤ」
 「黄身キミ」1語：「+酢ス\→黄身酢キミズ」
 「釘クギ」1語：「+目メ\→釘目クギメ」
 「口㊦チ」1語：「+火ヒ\→口火㊦チビ」
 「首クビ」1語：「+輪ワ\→首輪クビワ」
 「腰コシ」1語：「+湯ユ\→腰湯コシユ」
 「笹ササ」1語：「+身ミ\→笹身ササミ」
 「隙㊦キ」1語：「+間マ\→隙間㊦キマ」
 「竹タケ」1語：「+簧スス\→竹簧タケス」
 「店タナ」1語：「+子コ\→店子タナゴ」
 「棚タナ」1語：「+田タ\→棚田タナダ」
 「床トコ」1語：「+屋ヤ\→床屋トコヤ」
 「鳥トリ」1語：「+目メ\→鳥目トリメ」
 「並ナミ」1語：「+木キ\→並木ナミキ」
 「西ニシ」1語：「+日ヒヒ\→西日ニシビ」
 「庭ニワ」1語：「+木キ\→庭木ニワキ」
 「布ヌノ」1語：「+子コ\→布子ヌノコ」
 「軒ノキ」1語：「+端ハ\→軒端ノキバ」
 「箱ハコ」1語：「+屋ヤ\→箱屋ハコヤ」
 「蜂ハチ」1語：「+巢ス\ス\→蜂巢ハ㊦ス」
 「髭ヒゲ」1語：「+根ネ\→髭根ヒゲネ」
 「薪マキ」1語：「+屋ヤ\→薪屋マキヤ」
 「壬生ミブ」1語：「+菜ナ\→壬生菜ミブナ」
 「虫ムシ」1語：「+齒ハ\→虫齒ムシバ」
 「餅モチ」1語：「+屋ヤ\→餅屋モチヤ」
 「タユ一 (第2ユ\一)」1語：「+日ヒヒ\→タ日ユ一ヒ」
 「百合ユリ」1語：「+根ネ\→百合根ユリネ」
 「嫁ヨメ」1語：「+菜ナ\→嫁菜ヨメナ」

複合語は平板型・中高型の共存する3項目5語

「櫓ホダ」2語：「+火ヒ\→櫓火ホダビ (第2ビホダ\ビ)」
 「+木キ\→櫓木ホダギ」
 「的マト」2語：「+場バ\→的場マトバ」
 「+矢ヤ\→的矢マトヤ (第2マト\ヤ)」
 「底ソコ」1語：「+値ネ\→底値ソコ\ネ (第2ソコネ)」

前部要素が起伏式の項目は 145 項目であり、合計 246 語である。その内、前部要素が起伏式の頭高型の 65 項目は「相ア\イ」「青ア\オ」「赤ア\カ」「朝ア\サ」「跡ア\ト」「板イ\タ」「市イ\チ」「糸イ\ト」「憂きウ\キ」「氏ウ\ジ」「奥オ\ク」「桶オ\ケ」「影カ\ゲ」「笠カ\サ」「梶カ\ジ」「肩カ\タ」「片カ\タ (第 2 カタ\)」」「門カ\ド」「上カ\ミ」「神カ\ミ」「鴨カ\モ」「葛ク\ズ」「雲ク\モ」「蜘蛛ク\モ」「黒ク\ロ」「汁シ\ル」「白シ\ロ」「筋ス\ジ」「外ソ\ト」「蕎麦ソ\バ」「空ソ\ラ」「種タ\ネ」「足袋タ\ビ」「妻ツ\マ」「苦ト\マ」「苗ナ\エ」「中ナ\カ」「仲ナ\カ」「菜ッナ\ツ」「生ナ\マ」「猫ネ\コ」「喉ノ\ド」「肌ハ\ダ」「鳩ハ\ト」「早ハ\ヤ」「針ハ\リ」「平ヒ\ラ」「古フ\ル」「前マ\エ」「桎マ\サ」「松マ\ツ」「眉マ\ユ」「右ミ\ギ (第 2 ミギ)」「麦ム\ギ」「元モ\ト (第 2 モト)」「八重ヤ\エヤエ\」「奴ヤ\ツ」「宿ヤ\ド」「築ヤ\ナ」「屋根ヤ\ネ」「葦ヨ\シ」「四つヨ\ツ」「米ヨ\ネ」「早稲ワ\セ」「藁ワ\ラ」であり、計 110 語である。

複合語は平板型の 16 項目 24 語

- 「赤ア\カ」4 語：「+毛ケ→赤毛アカゲ」
「+子コ→赤子アカゴ」
「+身ミ→赤身アカミ」
「+目メ\→赤目アカメ」
「外ソ\ト」3 語：「+目メ\→外目ソトメ」
「+湯ユ\→外湯ソトユ」
「+輪ワ\→外輪ソトワ」
「平ヒ\ラ」3 語：「+手テ\→平手ヒラテ」
「+場バ→平場ヒラバ」
「+屋ヤ\→平屋ヒラヤ」
「古フ\ル」2 語：「+巢ス\ス→古巢フルス」
「+手テ\→古手フルテ」
「氏ウ\ジ」1 語：「+子コ→氏子ウジコ」
「笠カ\サ」1 語：「+子コ→笠子カサゴ」
「鴨カ\モ」1 語：「+場バ→鴨場カモバ」
「蜘蛛ク\モ」1 語：「+手テ\→蜘蛛手クモデ」
「足袋タ\ビ」1 語：「+屋ヤ\→足袋屋タビヤ」
「喉ノ\ド」1 語：「+輪ワ\→喉輪ノドワ」
「鳩ハ\ト」1 語：「+目メ\→鳩目ハトメ」
「早ハ\ヤ」1 語：「+瀬セ→早瀬ハヤセ」
「右ミ\ギ (第 2 ミギ)」1 語：「+手テ\→右手ミギテ」
「宿ヤ\ド」1 語：「+屋ヤ\→宿屋ヤドヤ」
「築ヤ\ナ」1 語：「+場バ→築場ヤナバ」
「米ヨ\ネ」1 語：「+酢ス\→米酢ヨネズ」

複合語は頭高型の 9 項目 9 語

- 「市イ\チ」1 語：「+場バ→市場イ\チバ」
「影カ\ゲ」1 語：「+身ミ→影身カ\ゲミ」
「梶カ\ジ」1 語：「+木キ\→梶木カ\ジキ」
「肩カ\タ」1 語：「+身ミ→肩身カ\タミ」

「葉ッナ\ツ」1語：「+葉パ→葉ッ葉ナ\ツパ」
「前マ\エ」1語：「+齒ハ\→前齒マ\エバ」
「松マ\ツ」1語：「+葉ハ→松葉マ\ツバ」
「八重ヤ\エヤエ\」1語：「+齒ハ\→八重齒ヤ\エバ」
「奴ヤ\ツ」1語：「+等ラ\→奴等ヤ\ツラ」

複合語は中高型の3項目4語

「藁ワ\ラ」2語：「+火ヒ\→藁火ワラ\ビ」
「+屋ヤ\→藁屋ワラ\ヤ」
「門カ\ド」1語：「+火ヒ\→門火カド\ビ」
「屋根ヤ\ネ」1語：「+屋ヤ\→屋根屋ヤネ\ヤ」

複合語は尾高型の3項目3語

「相ア\イ」1語：「+手テ\→相手アイテ\」
「上カ\ミ」1語：「+手テ\→上手カミ（第2テカミテ\）」
「筋ス\ジ」1語：「+目メ\→筋目スジメ\」

複合語は平板型・頭高型の共存する3項目4語

「眉マ\ユ」2語：「+毛ケ→眉毛マ\ユゲ」
「+根ネ\→眉根マ\ユネ（第2マユネ）」
「葦ヨ\シ」1語：「+簀ス\→葦簀ヨシズ（第2ヨ\シズ）」
「早稲ワ\セ」1語：「+田タ\→早稲田ワ\セダ（第2ワセダ）」

複合語は平板型・中高型の共存する8項目14語

「板イ\タ」4語：「+子コ→板子イタゴ」
「+戸ト→板戸イタド（第2イタ\ド）」
「+場バ→板場イタバ」
「+目メ\→板目イタメ」
「黒ク\ロ」2語：「+酢ス\→黒酢クロズ（第2クロ\ズ）」
「+目メ\→黒目クロ\メ（第2クロメ）」
「猫ネ\コ」2語：「+背セ\セ→猫背ネコ\ゼ」
「+間マ→猫間ネコマ」
「元モ\ト（第2モト）」2語：「+手テ\→元手モトデ」
「+値ネ→元値モトネ（第2モト\ネ）」
「桶オ\ケ」1語：「+屋ヤ\→桶屋オケヤ（第2オケ\ヤ）」
「空ソ\ラ」1語：「+音ネ→空音ソラネ（第2ソラ\ネ）」
「種タ\ネ」1語：「+火ヒ\→種火タネビ（第2タネ\ビ）」
「苫ト\マ」1語：「+屋ヤ\→苫屋トマヤ（第2トマ\ヤ）」

複合語は平板型・尾高型の共存する8項目11語

「片カ\タ（第2カタ\）」3語：「+手テ\→片手カタテ（第2カタテ\）」
「+刃ハ\→片刃カタバ」
「+身ミ→片身カタミ」
「針ハ\リ」2語：「+子コ→針子ハリコ」

「+目メ\→針目ハリメ\」
「跡ア\ト」1語：「+目メ\→跡目アトメ\ (第2アトメ)」
「糸イ\ト」1語：「+目メ\→糸目イトメ\ (第2イトメ)」
「雲ク\モ」1語：「+間マ→雲間クモマ (第2クモマ\)」
「汁シ\ル」1語：「+粉コ\→汁粉シルコ\ (第2シルコ)」
「苗ナ\エ」1語：「+木キ\→苗木ナエギ (第2ナエギ\)」
「柁マ\サ」1語：「+目メ\→柁目マサメ (第2マサメ\)」

複合語は頭高型・中高型の共存する4項目6語

「朝ア\サ」2語：「+日ヒヒ\→朝日ア\サヒ」
「+湯ユ\→朝湯アサ\ユ」
「妻ツ\マ」2語：「+子コ→妻子ツ\マコ」
「+戸ト→妻戸ツマ\ド」
「神カ\ミ」1語：「+代ヨ\ヨ→神代カ\ミヨ (第2カミ\ヨ)」
「肌ハ\ダ」1語：「+身ミ→肌身ハ\ダミ (第2ハダ\ミ)」

複合語は中高型・尾高型の共存する2項目4語

「仲ナ\カ」2語：「+値ネ→仲値ナカ\ネ」
「+間マ→仲間ナカマ\」
「麦ム\ギ」2語：「+粉コ\→麦粉ムギコ\」
「+湯ユ\→麦湯ムギ\ユ」

複合語は平板型・頭高型・中高型の共存する1項目3語

「憂きウ\キ」3語：「+身ミ→憂き身ウ\キミ」
「+目メ\→憂き目ウキメ (第2ウ\キメ)」
「+世ヨ\→憂き世ウキ\ヨ (第2ウ\キヨ) (第3ウキヨ)」

複合語は平板型・頭高型・尾高型の共存する1項目2語

「奥オ\ク」2語：「+齒ハ\→奥齒オ\クバ」
「+手テ\→奥手オ^①テ (第2オ^①テ\)」

複合語は平板型・中高型・尾高型の共存する6項目19語

「中ナ\カ」5語：「+子コ→中子ナカ\ゴ (第2ナカゴ)」
「+州スス\→中州ナカス」
「+手テ\→中手ナカテ\」
「+日ヒヒ\→中日ナカ\ビ」
「+身ミ→中身ナカ\ミ」
「四つヨ\ツ」4語：「+手テ\→四つ手ヨツデ」
「+葉ハ→四つ葉ヨツバ」
「+目メ\→四つ目ヨツメ」
「+身ミ→四つ身ヨ^②ミ」
「蕎麦ソ\バ」3語：「+粉コ\→蕎麦粉ソバコ\ (第2ソバコ)」
「+屋ヤ\→蕎麦屋ソバ\ヤ」
「+湯ユ\→蕎麦湯ソバ\ユ (第2ソバユ)」

「生ナ\マ」3語：「+木キ\→生木ナマキ（第2ナマキ\）」
 「+血チ→生血ナマチ\（第2ナマ\チ）（第3ナマチ）」
 「+身ミ→生身ナマ\ミ（第2ナマミ）」
 「葛ク\ズ」2語：「+粉コ\→葛粉クズコ\（第2クズコ）」
 「+湯ユ\葛湯クズ\ユ」
 「白シ\ロ」2語：「+身ミ→白身シロ\ミ（第2シロミ）」
 「+目メ\→白目シロ\メ（第2シロメ）（第3シロメ\）」

複合語は平板型・頭高型・中高型・尾高型の共存する1項目6語

「青ア\オ」6語：「+木キ\→青木アオキ」
 「+毛ケ→青毛アオゲ」
 「+粉コ\→青粉アオコ（第2アオコ\）」
 「+田タ\→青田アオタ」
 「+菜ナ\→青菜アオナ（第2アオ\ナ）」
 「+葉ハ→青葉ア\オバ（第2アオ\バ）」

前部要素が起伏式の尾高型の80項目は「足アシ\」「穴アナ\」「網アミ\」「文アヤ\」
 「石イシ\」「戌イヌ\」「色イロ\」「岩イワ\」「腕ウデ\」「馬ウマ\」「裏ウラ\」
 「餌エサ\（第2エサ）」「鬼オニ\」「親オヤ\」「垣カキ\」「形カタ\」「紙カミ\」
 「空カラ\」「川カワ\」「革カワ\」「皮カワ\」「草クサ\」「櫛クシ\」「癖クセ\」
 「靴クツ\」「熊クマ\（第2ク\マ）」「栗クリ\」「粉コナ\」「米コメ\」「潮シオ\」
 「塩シオ\」「島シマ\」「縞シマ\」「下シモ\」「尻シリ\」「寿司スシ\（第2ス\シ）」
 「炭スミ\」「高タカ\（第2タ\カ）」「谷タニ\」「玉タマ\」「月ツキ\」「寺テラ\」
 「年トシ\」「泥ドロ\」「夏ナツ\」「波ナミ\」「縄ナワ\」「慰斗ノシ\」「墓ハカ\」
 「刷毛ハケ\」「機ハタ\」「旗ハタ\」「初ハツ\」「花ハナ\」「腹ハラ\」「肘ヒジ\」
 「昼ヒル\」「節ツシ\」「冬フユ\」「風呂フロ\」「骨ホネ\」「孫マゴ\」「升マス\」
 「股マタ\」「町マチ\」「毬マリ\」「店ミセ\」「3つミツ\」「三つミツ\」「耳ミミ\」
 「本モト\（第2モト）」「物モノ\（第2モノ）」「山ヤマ\」「闇ヤミ\」「雪ユキ\」
 「指ユビ\」「弓ユミ\」「脇ワキ\」「腋ワキ\」「綿ワタ\」であり、計137語である。

複合語は平板型の25項目40語

「岩イワ\」5語：「+戸ト→岩戸イワト」
 「+根ネ\→岩根イワネ」
 「+場バ→岩場イワバ」
 「+間マ→岩間イワマ」
 「+屋ヤ\→岩屋イワヤ」
 「初ハツ\」5語：「+子ゴ→初子ハツゴ」
 「+音ネ→初音ハツネ」
 「+値ネ→初値ハツネ」
 「+日ヒヒ\→初日ハツヒ」
 「+穂ホ\→初穂ハツホ」
 「三つミツ\」3語：「+身ミ→三つ身ミツミ」
 「+目メ\→三つ目ミツメ」

「+輪ワ\→三つ輪ミツワ」
「穴アナ\」2語：「+子コ→穴子アナゴ」
「+場バ→穴場アナバ」
「腕ウデ\」2語：「+木キ\→腕木ウデギ」
「+輪ワ\→腕輪ウデワ」
「裏ウラ\」2語：「+手テ\→裏手ウラテ」
「+目メ\→裏目ウラメ」
「空カラ\」2語：「+手テ\→空手カラテ」
「+身ミ→空身カラミ」
「3つミツ\」2語：「+子コ→3つ子ミツゴ」
「+葉ハ→3つ葉ミツバ」
「馬ウマ\」1語：「+屋ヤ\→馬屋ウマヤ」
「餌エサ\ (第2エサ)」1語：「+場バ→餌場エサバ」
「形カタ\」1語：「+木キ\→形木カタギ」
「川カワ\」1語：「+瀬セ→川瀬カワセ」
「革カワ\」1語：「+砥ト\→革砥カワト」
「栗クリ\」1語：「+毛ケ→栗毛クリゲ」
「谷タニ\」1語：「+間マ→谷間タニマ」
「寺テラ\」1語：「+子コ→寺子テラコ」
「泥ドロ\」1語：「+田タ\→泥田ドロタ」
「腹ハラ\」1語：「+子コ→腹子ハラコ」
「肘ヒジ\」1語：「+木キ\→肘木ヒジキ」
「耳ミミ\」1語：「+輪ワ\→耳輪ミミワ」
「本モト\ (第2モト)」1語：「+木キ\→本木モトキ」
「町マチ\」1語：「+屋ヤ\→町屋マチヤ」
「毬マリ\」1語：「+藻モ→毬藻マリモ」
「指ユビ\」1語：「+輪ワ\→指輪ユビワ」
「腋ワキ\」1語：「+毛ケ→腋毛ワキゲ」

複合語は中高型の10項目11語

「月ツキ\」2語：「+日ヒヒ\→月日ツキ\ヒ」
「+夜ヨ\→月夜ツキ\ヨ」
「靴ツツ\」1語：「+屋ヤ\→靴屋ツツ\ヤ」
「粉コナ\」1語：「+屋ヤ\→粉屋コナ\ヤ」
「寿司スシ\ (第2ス\シ)」1語：「+屋ヤ\→寿司屋スシ\ヤ」
「機ハタ\」1語：「+屋ヤ\→機屋ハタ\ヤ」
「孫マゴ\」1語：「+子コ→孫子マゴ\コ」
「股マタ\」1語：「+火ヒ\→股火マタ\ビ」
「店ミセ\」1語：「+屋ヤ\→店屋ミセ\ヤ」
「物モノ\ (第2モノ)」1語：「+日ヒ (第2ヒ\)\→物日モノ\ビ」
「弓ユミ\」1語：「+矢ヤ\→弓矢ユミ\ヤ」

複合語は尾高型の5項目5語

「慰斗ノシ\」1語：「+目メ\→慰斗目ノシメ\」

「墓ハカ\」 1 語：「+場バ→墓場ハカバ\」
「昼ヒル\」 1 語：「+間マ→昼間ヒルマ\」
「節㊦シ\」 1 語：「+目メ\→節目㊦シメ\」
「島シマ\」 1 語：「+田タ\→島田シマダ\」

複合語は平板型・頭高型の共存する 2 項目 3 語

「親オヤ\」 2 語：「+木キ\→親木オヤキ」
「+子コ→親子オ\ヤコ」
「潮シオ\」 1 語：「+目メ\→潮目シオメ（第 2 メ\シオ）」

複合語は平板型・中高型の共存する 11 項目 24 語

「冬フユ\」 4 語：「+毛ケ→冬毛フユゲ」
「+場バ→冬場フユバ」
「+日ヒ（第 2 ヒ\）→冬日フユビ」
「+日ヒ（第 2 ヒ\）→冬日フユ\ビ」
「鬼オニ\」 3 語：「+子コ→鬼子オニ\ゴ」
「+齒ハ\→鬼齒オニ\バ」
「+火ヒ\→鬼火オニビ（第 2 オニ\ビ）」
「夏ナツ\」 3 語：「+毛ケ→夏毛ナツゲ」
「+場バ→夏場ナツバ」
「+日ヒヒ\→夏日ナツ\ビ」
「紙カミ\」 2 語：「+子コ→紙子カミコ」
「+屋ヤ\→紙屋カミ\ヤ」
「草㊦サ\」 2 語：「+木キ\→草木㊦サ\キ」
「+葉ハ→草葉㊦サバ」
「米コメ\」 2 語：「+酢ス\→米酢コメズ」
「+屋ヤ\→米屋コメ\ヤ」
「炭スミ\」 2 語：「+火ヒ\→炭火スミビ（第 2 スミ\ビ）」
「+屋ヤ\→炭屋スミ\ヤ」
「玉タマ\」 2 語：「+菜ナ\→玉菜タマ\ナ（第 2 タマナ）」
「+屋ヤ\→玉屋タマ\ヤ」
「綿ワタ\」 2 語：「+毛ケ→綿毛ワタゲ」
「+屋ヤ\→綿屋ワタ\ヤ」
「戌イヌ\」 1 語：「+亥イイ\→戌亥イヌイ（第 2 イヌ\イ）」
「癖㊦セ\」 1 語：「+毛ケ→癖毛㊦セゲ（第 2 ㊦セ\ゲ）」

複合語は平板型・尾高型の共存する 11 項目 13 語

「石イシ\」 3 語：「+目メ\→石目イシメ」
「+屋ヤ\→石屋イシヤ」
「+粉コ\→石粉イ㊦コ（第 2 イ㊦コ\）」
「文アヤ\」 1 語：「+目メ\→文目アヤメ（第 2 アヤメ\）」
「皮カワ\」 1 語：「+目メ\→皮目カワメ（第 2 カワメ\）」
「櫛㊦シ\」 1 語：「+目メ\→櫛目㊦シメ\（第 2 ㊦シメ）」
「熊クマ\（第 2 ク\マ）」 1 語：「+手テ\→熊手クマデ（第 2 クマデ\）」

「下シモ」 1 語：「+手テ→下手シモテ（第 2 シモテ）」
「尻シリ」 1 語：「+目メ→尻目シリメ（第 2 シリメ）」
「波ナミ」 1 語：「+間マ→波間ナミマ（第 2 ナミマ）」
「縄ナワ」 1 語：「+目メ→縄目ナワメ（第 2 ナワメ）」
「刷毛ハケ」 1 語：「+目メ→刷毛目ハケメ（第 2 ハケメ）」
「升マス」 1 語：「+目メ→升目マスメ（第 2 マスメ）」

複合語は頭高型・中高型の共存する 2 項目 3 語

「塩シオ」 2 語：「+瀬セ→塩瀬シオオゼ」
「+湯ユ→塩湯シオユ」
「旗ハタ」 1 語：「+日ヒヒ→旗日ハタビ（第 2 ハタビ）」

複合語は中高型・尾高型の共存する 5 項目 10 語

「色イロ」 3 語：「+香カ→色香イロカ」
「+目メ→色目イロメ」
「+目メ→色目イロメ（第 2 イロメ）」
「闇ヤミ」 3 語：「+値ネ→闇値ヤミネ（第 2 ヤミネ）」
「+屋ヤ→闇屋ヤミヤ」
「+夜ヨ→闇夜ヤミヨ」
「風呂フロ」 2 語：「+場バ→風呂場フロバ」
「+屋ヤ→風呂屋フロヤ」
「垣カキ」 1 語：「+根ネ→垣根カキネ（第 2 カキネ）」
「脇ワキ」 1 語：「+目メ→脇目ワキメ（第 2 ワキメ）」

複合語は平板型・頭高型・中高型の共存する 2 項目 10 語

「花ハナ」 6 語：「+野ノ→花野ハナノ」
「+火ヒ→花火ハナビ」
「+実ミ→花実ハナミ（第 2 ハナミ）」
「+芽メ→花芽ハナメ」
「+屋ヤ→花屋ハナヤ」
「+輪ワ→花輪ハナワ」
「高タカ（第 2 タカ）」 4 語：「+菜ナ→高菜タカナ（第 2 タカナ）」
「+値ネ→高値タカネ」
「+根ネ→高根タカネ」
「+齒ハ→高齒タカバ」

複合語は平板型・頭高型・尾高型の共存する 1 項目 4 語

「山ヤマ」 4 語：「+背セ→山背ヤマセ」
「+田タ→山田ヤマダ」
「+手テ→山手ヤマテ（第 2 ヤマテ）（第 3 ヤマテ）」
「+場バ→山場ヤマバ（第 2 ヤマバ）」

複合語は平板型・中高型・尾高型の共存する 5 項目 13 語

「足アシ」 3 語：「+毛ケ→足毛アシゲ」

「+場バ→足場アシバ\」
 「+湯ユ\→足湯アシユ (第2アシ\ユ)」
 「網アミ\」3語:「+子コ→網子アミコ」
 「+戸ト→網戸アミ\ド」
 「+目メ\→網目アミメ\ (第2アミメ)」
 「雪ユキ\」3語:「+菜ナ\→雪菜ユキナ」
 「+間マ→雪間ユキマ (第2ユキマ\)」
 「+目メ\→雪目ユキメ (第2ユキ\メ)」
 「縞シマ\」2語:「+蚊カ→縞蚊シマカ (第2シマ\カ)」
 「+目メ\→縞目シマメ (第2シマメ\)」
 「年トシ\」2語:「+子コ→年子トシ\ゴ」
 「+端ハ\→年端ト㊦ハ (第2ト㊦ハ\)」

複合語は頭高型・中高型・尾高型の共存する1項目1語

「骨ホネ\」1語:「+身ミ→骨身ホネ\ミ (第2ホネミ\)(第3ホ\ネミ)」

後部要素語彙別

後部要素が48項目あり、後部要素の平板型と起伏式を分けて分析を行う。

後部要素が平板型の20項目は「亥イ (第2イ\)」 「蚊カ」 「毛ケ」 「子コ」 「血チ」 「簀ス (第2ス\)」 「州ス (第2ス\)」 「瀬セ」 「戸ト」 「名ナ」 「音ネ」 「値ネ」 「場バ」 「葉ハ」 「日ヒ (第2ヒ\)」 「斑フ」 「間マ」 「身ミ」 「実ミ」 「藻モ」 であり、合計122語である。

複合語は平板型の4項目4語

「州ス (第2ス\)」1語:「中ナ\カ+→中州ナカス」
 「名ナ」1語:「宛アテ+→宛名アテナ」
 「斑フ」1語:「虎トラ+→虎斑トラフ」
 「藻モ」1語:「毬マリ\+→毬藻マリモ」

複合語は平板型・頭高型の共存する2項目5語

「瀬セ」3語:「川カワ\+→川瀬カワセ」
 「早ハ\ヤ+→早瀬ハヤセ」
 「塩シオ\+→塩瀬シ\オゼ」
 「簀ス (第2ス\)」2語:「竹タケ+→竹簀タケス」
 「葦ヨ\シ+→葦簀ヨシズ (第2ヨ\シズ)」

複合語は平板型・中高型の共存する5項目15語

「値ネ」7語:「下㊦タ (第2㊦タ\)+→下値㊦タネ」
 「底ソコ+→底値ソコ\ネ (第2ソコネ)」
 「高タカ\ (第2タ\カ)+→高値タカ\ネ」
 「仲ナ\カ+→仲値ナカ\ネ」
 「初ハツ\+→初値ハツネ」
 「元モ\ト (第2モト)+→元値モトネ (第2モト\ネ)」
 「闇ヤミ\+→闇値ヤミ\ネ (第2ヤミネ)」
 「戸ト」4語:「岩イワ\+→岩戸イワト」
 「網アミ\+→網戸アミ\ド」

「板イ\タ+→板戸イタド (第2イタ\ド)」
 「妻ツ\マ+→妻戸ツマ\ド」
 「音ネ」2語：「空ソ\ラ+→空音ソラネ (第2ソラ\ネ)」
 「初ハツ\+→初音ハツネ」
 「亥イ (第2イ\)」1語：「戌イヌ\+→戌亥イヌイ (第2イヌ\イ)」
 「蚊カ」1語：「縞シマ\+→縞蚊シマカ (第2シマ\カ)」

複合語は平板型・尾高型の共存する1項目10語

「間マ」10語：「岩イワ\+→岩間イワマ」
 「株カブ+→株間カブマ」
 「雲ク\モ+→雲間クモマ (第2クモマ\)」
 「隙㊦キ+→隙間㊦キマ」
 「谷タニ\+→谷間タニマ」
 「仲ナ\カ+→仲間ナカマ\」
 「波ナミ\+→波間ナミマ (第2ナミマ\)」
 「猫ネ\コ+→猫間ネコマ」
 「昼ヒル\+→昼間ヒルマ\」
 「雪ユキ\+→雪間ユキマ (第2ユキマ\)」

複合語は頭高型・中高型の共存する1項目1語

「実ミ」1語：「花ハナ\+→花実ハ\ナミ (第2ハナ\ミ)」

複合語は平板型・頭高型・中高型の共存する5項目68語

「子コ」22語：「網アミ\+→網子アミコ」
 「氏ウ\ジ+→氏子ウジコ」
 「内ウ㊦+→内子ウ㊦コ」
 「親オヤ\+→親子オ\ヤコ」
 「紙カミ\+→紙子カミコ」
 「妻ツ\マ+→妻子ツ\マコ」
 「寺テラ\+→寺子テラコ」
 「布ヌノ+→布子ヌノコ」
 「腹ハラ\+→腹子ハラコ」
 「針ハ\リ+→針子ハリコ」
 「孫マゴ\+→孫子マゴ\コ」
 「赤ア\カ+→赤子アカゴ」
 「穴アナ\+→穴子アナゴ」
 「板イ\タ+→板子イタゴ」
 「鬼オニ\+→鬼子オニ\ゴ」
 「笠カ\サ+→笠子カサゴ」
 「砂スナ+→砂子スナゴ」
 「店タナ+→店子タナゴ」
 「年トシ\+→年子トシ\ゴ」
 「中ナ\カ+→中子ナカ\ゴ (第2ナカゴ)」
 「初ハツ\+→初子ハツゴ」

「3つミツ\+→3つ子ミツゴ」

「身ミ」14語：「赤ア\カ+→赤身アカミ」

「憂きウ\キ+→憂き身ウ\キミ」

「影カ\ゲ+→影身カ\ゲミ」

「肩カ\タ+→肩身カ\タミ」

「片カ\タ (第2カタ\)+→片身カタミ」

「空カラ\+→空身カラミ」

「笹ササ+→笹身ササミ」

「白シ\ロ+→白身シロ\ミ (第2シロミ)」

「中ナ\カ+→中身ナカ\ミ」

「生ナ\マ+→生身ナマ\ミ (第2ナマミ)」

「肌ハ\ダ+→肌身ハ\ダミ (第2ハダ\ミ)」

「骨ホネ\+→骨身ホネ\ミ (第2ホネミ\)(第3ホ\ネミ)」

「三つミツ\+→三つ身ミツミ」

「四つヨ\㊦+→四つ身ヨ㊦ミ」

「毛ケ」13語：「青ア\オ+→青毛アオゲ」

「赤ア\カ+→赤毛アカゲ」

「足アシ\+→足毛アシゲ」

「枝エダ+→枝毛エダゲ」

「癖㊦セ\+→癖毛㊦セゲ (第2㊦セ\ゲ)」

「栗クリ\+→栗毛クリゲ」

「虎トラ+→虎毛トラゲ」

「夏ナツ\+→夏毛ナツゲ」

「鼻ハナ+→鼻毛ハナゲ」

「冬フユ\+→冬毛フユゲ」

「眉マ\ユ+→眉毛マ\ユゲ」

「腋ワキ\+→腋毛ワキゲ」

「綿ワタ\+→綿毛ワタゲ」

「日ヒ (第2ヒ\)」11語：「朝ア\サ+→朝日ア\サヒ」

「月㊦キ\+→月日㊦キ\ヒ」

「初ハツ\+→初日ハ㊦ヒ」

「タユ一 (第2ユ\一)+→タ日ユ一ヒ」

「中ナ\カ+→中日ナカ\ビ」

「夏ナツ\+→夏日ナツ\ビ」

「西ニシ+→西日ニシビ」

「旗ハタ\+→旗日ハタ\ビ (第2ハ\タビ)」

「冬フユ\+→冬日フユビ」

「冬フユ\+→冬日フユ\ビ」

「物モノ\ (第2モノ)+→物日モノ\ビ」

「葉ハ」8語：「枝エダ+→枝葉エダハ」

「青ア\オ+→青葉ア\オバ (第2アオ\バ)」

「草㊦サ\+→草葉㊦サバ」

「下㊦タ (第2㊦タ\)+→下葉㊦タバ」

「松マ\ツ+→松葉マ\ツバ」

「3つミツ\+→3つ葉ミツバ」
「四つヨ\ツ+→四つ葉ヨツバ」
「菜っナ\ツ+→菜っ葉ナ\ツバ」

複合語は平板型・頭高型・尾高型の共存する1項目17語

「場バ」17語：「足アシ\+→足場アシバ\」
「穴アナ\+→穴場アナバ」
「板イ\タ+→板場イタバ」
「市イ\チ+→市場イ\チバ」
「岩イワ\+→岩場イワバ」
「餌エサ\ (第2エサ) +→餌場エサバ」
「窯カマ+→窯場カマバ」
「鴨カ\モ+→鴨場カモバ」
「砂スナ+→砂場スナバ」
「夏ナツ\+→夏場ナツバ」
「墓ハカ\+→墓場ハカバ\」
「平ヒ\ラ+→平場ヒラバ」
「冬フユ\+→冬場フユバ」
「風呂フロ\+→風呂場フロバ\」
「的マト+→的場マトバ」
「築ヤ\ナ+→築場ヤナバ」
「山ヤマ\+→山場ヤマバ (第2ヤマバ\)」

複合語は平板型・中高型・尾高型の共存する1項目2語

「血チ」2語：「鼻ハナ+→鼻血ハナジ」
「生ナ\マ+→生血ナマチ\ (第2ナマ\チ) (第3ナマチ)」

後部要素が起伏式の28項目は「緒オ\」「香カ\ (第2カ)」「木キ\」「粉コ\」「巢ス\ (第2ス)」「酢ス\」「背セ\ (第2セ)」「田タ\」「手テ\」「砥ト\」「菜ナ\」「根ネ\」「野ノ\」「端ハ\」「歯ハ\」「刃ハ\」「火ヒ\」「穂ホ\」「目メ\」「芽メ\」「矢ヤ\」「屋ヤ\」「湯ユ\」「代ヨ\ヨ」「世ヨ\」「夜ヨ\」「等ラ\」「輪ワ\」であり、合計196語である。

複合語は平板型の7項目17語

「輪ワ\」10語：「内ウチ+→内輪ウチワ」
「腕ウデ\+→腕輪ウデワ」
「首クビ+→首輪クビワ」
「外ソ\ト+→外輪ソトワ」
「喉ノ\ド+→喉輪ノドワ」
「鼻ハナ+→鼻輪ハナワ」
「花ハナ\+→花輪ハナワ」
「三つミツ\+→三つ輪ミツワ」
「耳ミミ\+→耳輪ミミワ」
「指ユビ\+→指輪ユビワ」

「巢ス\ (第2ス)」2語：「蜂ハチ+→蜂巢ハ㊦ス」
「古フ\ル+→古巢フルス」
「緒オ\」1語：「鼻ハナ+→鼻緒ハナオ」
「砥ト\」1語：「革カワ\+→革砥カワト」
「野ノ\」1語：「花ハナ\+→花野ハナノ」
「刃ハ\」1語：「片カ\タ (第2カタ\)+→片刃カタバ」
「穂ホ\」1語：「初ハ㊧\+→初穂ハ㊧ホ」

複合語は頭高型の1項目1語

「等ラ\」1語：「奴ヤ\ツ+→奴等ヤ\ツラ」

複合語は中高型の3項目4語

「夜ヨ\」2語：「月㊨キ\+→月夜㊨キ\ヨ」
「闇ヤミ\+→闇夜ヤミ\ヨ」
「香カ\ (第2カ)」1語：「色イロ\+→色香イロ\カ」
「芽メ\」1語：「花ハナ\+→花芽ハナ\メ」

複合語は平板型・中高型の共存する4項目50語

「屋ヤ\」34語：「石イシ\+→石屋イシヤ」
「岩イワ\+→岩屋イワヤ」
「馬ウマ\+→馬屋ウマヤ」
「桶オ\ケ+→桶屋オケヤ (第2オケ\ヤ)」
「駕籠カゴ+→駕籠屋カゴヤ」
「株カブ+→株屋カブヤ」
「紙カミ\+→紙屋カミ\ヤ」
「仮カリ+→仮屋カリヤ」
「靴㊩ツ\+→靴屋㊩ツ\ヤ」
「粉コナ\+→粉屋コナ\ヤ」
「米コメ\+→米屋コメ\ヤ」
「寿司スシ\ (第2ス\シ)+→寿司屋スシ\ヤ」
「炭スミ\+→炭屋スミ\ヤ」
「蕎麦ソ\バ+→蕎麦屋ソバ\ヤ」
「足袋タ\ビ+→足袋屋タビヤ」
「玉タマ\+→玉屋タマ\ヤ」
「床トコ+→床屋トコヤ」
「苫ト\マ+→苫屋トマヤ (第2トマ\ヤ)」
「箱ハコ+→箱屋ハコヤ」
「機ハタ\+→機屋ハタ\ヤ」
「花ハナ\+→花屋ハナ\ヤ」
「人㊤ト+→人屋㊤トヤ」
「平ヒ\ラ+→平屋ヒラヤ」
「風呂フロ\+→風呂屋フロ\ヤ」
「薪マキ+→薪屋マキヤ」
「町マチ\+→町屋マチヤ」

- 「水ミズ＋→水屋ミズヤ」
「店ミセ\＋→店屋ミセ\ヤ」
「餅モチ＋→餅屋モチヤ」
「宿ヤ\ド＋→宿屋ヤドヤ」
「屋根ヤ\ネ＋→屋根屋ヤネ\ヤ」
「闇ヤミ\＋→闇屋ヤミ\ヤ」
「綿ワタ\＋→綿屋ワタ\ヤ」
「藁ワ\ラ＋→藁屋ワラ\ヤ」
「湯ユ\」 9 語：「朝ア\サ＋→朝湯アサ\ユ」
「足アシ\＋→足湯アシユ（第2アシ\ユ）」
「内ウチ＋→内湯ウチユ」
「葛ク\ズ＋→葛湯クズ\ユ」
「腰コシ＋→腰湯コシユ」
「塩シオ\＋→塩湯シオ\ユ」
「外ソ\ト＋→外湯ソトユ」
「蕎麦ソ\バ＋→蕎麦湯ソバ\ユ（第2ソバユ）」
「麦ム\ギ＋→麦湯ムギ\ユ」
「酢ス\」 5 語：「梅ウメ＋→梅酢ウメズ」
「黄身キミ＋→黄身酢キミズ」
「黒ク\ロ＋→黒酢クロズ（第2クロ\ズ）」
「米コメ\＋→米酢コメズ」
「米ヨ\ネ＋→米酢ヨネズ」
「矢ヤ\」 2 語：「的マト＋→的矢マトヤ（第2マト\ヤ）」
「弓ユミ\＋→弓矢ユミ\ヤ」

複合語は平板型・尾高型の共存する 2 項目 8 語

- 「粉コ\」 6 語：「青ア\オ＋→青粉アオコ（第2アオコ\）」
「石イシ\＋→石粉イシコ（第2イシコ\）」
「葛ク\ズ＋→葛粉クズコ\（第2クズコ）」
「汁シ\ル＋→汁粉シルコ\（第2シルコ）」
「蕎麦ソ\バ＋→蕎麦粉ソバコ\（第2ソバコ）」
「麦ム\ギ＋→麦粉ムギコ\」
「端ハ\」 2 語：「年トシ\＋→年端トシハ（第2トシハ\）」
「軒ノキ＋→軒端ノキバ」

複合語は頭高型・中高型の共存する 2 項目 3 語

- 「背セ\（第2セ）」 2 語：「山ヤマ\＋→山背ヤマセ」
「猫ネ\コ＋→猫背ネコ\ゼ」
「代ヨ\（第2ヨ）」 1 語：「神カ\ミ＋→神代カミヨ（第2カミ\ヨ）」

複合語は平板型・頭高型・中高型の共存する 4 項目 26 語

- 「火ヒ\」 11 語：「燠オキ＋→燠火オキビ」
「鬼オニ\＋→鬼火オニビ（第2オニ\ビ）」
「門カ\ド＋→門火カド\ビ」

- 「口㊦チ＋→口火㊦チビ」
「下㊦タ（第2㊦タ）＋→下火㊦タビ」
「炭スミ＼＋→炭火スミビ（第2スミ＼ビ）」
「種タ＼ネ＋→種火タネビ（第2タネ＼ビ）」
「花ハナ＼＋→花火ハ＼ナビ」
「楯ホダ＋→楯火ホダビ（第2ホダ＼ビ）」
「股マタ＼＋→股火マタ＼ビ」
「藁ワ＼ラ＋→藁火ワラ＼ビ」
- 「菜ナ＼」7語：「青ア＼オ＋→青菜アオナ（第2アオ＼ナ）」
「高タカ＼（第2タ＼カ）＋→高菜タカナ（第2タ＼カナ）」
「玉タマ＼＋→玉菜タマ＼ナ（第2タマナ）」
「水ミズ＋→水菜ミズナ」
「壬生ミブ＋→壬生菜ミブナ」
「雪ユキ＼＋→雪菜ユキナ」
「嫁ヨメ＋→嫁菜ヨメナ」
- 「歯ハ＼」7語：「奥オ＼ク＋→奥歯オ＼クバ」
「鬼オニ＼＋→鬼歯オニ＼バ」
「下㊦タ（第2㊦タ）＋→下歯㊦タバ」
「高タカ＼（第2タ＼カ）＋→高歯タカバ」
「前マ＼エ＋→前歯マ＼エバ」
「虫ムシ＋→虫歯ムシバ」
「八重ヤ＼エ（第2ヤエ＼）＋→八重歯ヤ＼エバ」
- 「世ヨ＼」1語：「憂きウ＼キ＋→憂き世ウキ＼ヨ（第2ウ＼キヨ）（第3ウキヨ）」

複合語は平板型・頭高型・尾高型の共存する2項目26語

- 「手テ＼」19語：「相ア＼イ＋→相手アイテ＼」
「裏ウラ＼＋→裏手ウラテ」
「奥オ＼ク＋→奥手オ㊦テ（第2オ㊦テ＼）」
「片カ＼タ（第2カタ＼）＋→片手カタテ（第2カタテ＼）」
「上カ＼ミ＋→上手カミテ（第2カミテ＼）」
「空カラ＼＋→空手カラテ」
「下シモ＼＋→下手シモテ（第2シモテ＼）」
「中ナ＼カ＋→中手ナカテ＼」
「平ヒ＼ラ＋→平手ヒラテ」
「古フ＼ル＋→古手フルテ」
「右ミ＼ギ（第2ミギ）＋→右手ミギテ」
「山ヤマ＼＋→山手ヤマテ（第2ヤマテ＼）（第3ヤ＼マテ）」
「横ヨコ＋→横手ヨコテ」
「熊クマ＼（第2クマ）＋→熊手クマデ（第2クマデ＼）」
「蜘蛛ク＼モ＋→蜘蛛手クモデ」
「人㊦ト＋→人手㊦トデ」
「元モ＼ト（第2モト）＋→元手モトデ」
「横ヨコ＋→横手ヨコデ」
「四つヨ＼ツ＋→四つ手ヨツデ」

「田タ\」7語：「青ア\オ+→青田アオタ」
「泥ドロ\+→泥田ドロタ」
「水ミズ+→水田ミズタ」
「島シマ\+→島田シマダ\」
「棚タナ+→棚田タナダ」
「山ヤマ\+→山田ヤマダ」
「早稲ワ\セ+→早稲田ワ\セダ（第2ワセダ）」

複合語は平板型・頭高型・中高型・尾板型の共存する3項目61語

「目メ\」37語：「赤ア\カ+→赤目アカメ」
「跡ア\ト+→跡目アトメ\（第2アトメ）」
「網アミ\+→網目アミメ\（第2アミメ）」
「文アヤ\+→文目アヤメ（第2アヤメ\）」
「石イシ\+→石目イシメ」
「板イ\タ+→板目イタメ」
「糸イ\ト+→糸目イトメ\（第2イトメ）」
「色イロ\+→色目イロメ\」
「色イロ\+→色目イロ\メ（第2イロメ\）」
「憂きウ\キ+→憂き目ウキメ（第2ウ\キメ）」
「裏ウラ\+→裏目ウラメ」
「籠カゴ+→籠目カゴメ」
「皮カワ\+→皮目カワメ（第2カワメ\）」
「釘クギ+→釘目クギメ」
「櫛シ\+→櫛目シメ\（第2シメ）」
「黒ク\ロ+→黒目クロ\メ（第2クロメ）」
「潮シオ\+→潮目シオメ\（第2シオメ）」
「縞シマ\+→縞目シマメ（第2シマメ\）」
「尻シリ\+→尻目シリメ（第2シリメ\）」
「白シ\ロ+→白目シロ\メ（第2シロメ）（第3シロメ\）」
「筋ス\ジ+→筋目スジメ\」
「外ソ\ト+→外目ソトメ」
「鳥トリ+→鳥目トリメ」
「縄ナワ\+→縄目ナワメ（第2ナワメ\）」
「慰斗ノシ\+→慰斗目ノシメ\」
「刷毛ハケ\+→刷毛目ハケメ（第2ハケメ\）」
「鳩ハ\ト+→鳩目ハトメ」
「針ハ\リ+→針目ハリメ\」
「人ヒト+→人目ヒトメ」
「節シ\+→節目シメ\」
「柁マ\サ+→柁目マサメ（第2マサメ\）」
「升マス\+→升目マスマ（第2マスマ\）」
「三つミツ\+→三つ目ミツメ」
「雪ユキ\+→雪目ユキメ（第2ユキ\メ）」
「横ヨコ+→横目ヨコメ」

「四つヨ\ツ+→四つ目ヨツメ」

「脇ワキ\+→脇目ワキメ\ (第2ワキ\メ)」

「木キ\」 16 語 : 「青ア\オ+→青木アオキ」

「親オヤ\+→親木オヤキ」

「梶カ\ジ+→梶木カ\ジキ」

「草㊦サ\+→草木㊦サ\キ」

「生ナ\マ+→生木ナマキ (第2ナマキ\)」

「並ナミ+→並木ナミキ」

「庭ニワ+→庭木ニワキ」

「肘ヒジ\+→肘木ヒジキ」

「丸マル+→丸木マルキ」

「本モト\ (第2モト) +→本木モトキ」

「腕ウデ\+→腕木ウデギ」

「形カタ\+→形木カタギ」

「苗ナ\エ+→苗木ナエギ (第2ナエギ\)」

「鼻ハナ+→鼻木ハナギ」

「榎ホダ+→榎木ホダギ」

「横ヨコ+→横木ヨコギ」

「根ネ\」 8 語 : 「岩イワ\+→岩根イワネ」

「垣カキ\+→垣根カキ\ネ (第2カキネ\)」

「高タカ\ (第2タ\カ) +→高根タカネ」

「髭ヒゲ+→髭根ヒゲネ」

「眉マ\ユ+→眉根マ\ユネ (第2マユネ)」

「丸マル+→丸根マルネ」

「百合ユリ+→百合根ユリネ」

「横ヨコ+→横根ヨコネ」

2 拍漢語＋1 拍和語

前部要素語彙別

前部要素が 71 項目あり、前部要素の平板型と起伏式を分けて分析を行う。

前部要素が平板型の「客キヤク」「逆ギヤク」「急キュー」「下駄ゲタ」「別ベツ」「無駄ムダ」「経キョー」「職シヨク」の 8 項目があり、合計 8 語である。

複合語は平板型の 6 項目 6 語

- 「客キヤク」1 語：「+間マ→客間キヤクマ」
- 「逆ギヤク」1 語：「+手テ\→逆手ギヤクテ」
- 「急キュー」1 語：「+場バ→急場キューバ」
- 「下駄ゲタ」1 語：「+屋ヤ\→下駄屋ゲタヤ」
- 「別ベツ」1 語：「+間マ→別間ベツマ」
- 「無駄ムダ」1 語：「+毛ケ→無駄毛ムダゲ」

複合語は平板型・尾高型の共存する 2 項目 2 語

- 「経キョー」1 語：「+木キ\→経木キョーギ（第 2 キョーギ\）」
- 「職シヨク」1 語：「+場バ→職場シヨクバ（第 2 シヨクバ\）」

前部要素が起伏式の頭高型の 46 項目があり、計 57 語である。

複合語は平板型の 20 項目 25 語

- 「両リョ\ー」3 語：「+手テ\→両手リョーテ」
 - 「+刃ハ\→両刃リョーバ」
 - 「+目メ\→両目リョーメ」
- 「京キョ\ー」2 語：「+菜ナ\→京菜キョーナ」
 - 「+間マ→京間キョーマ」
- 「新シ\ン」2 語：「+手テ\→新手シンテ」
 - 「+芽メ\→新芽シンメ」
- 「台ダ\イ」2 語：「+場バ→台場ダイバ」
 - 「+木キ\→台木ダイギ」
- 「楽ガ\ク（第 2 ガク）」1 語：「+屋ヤ\→楽屋ガクヤ」
- 「鍛冶カ\ジ」1 語：「+屋ヤ\→鍛冶屋カジヤ」
- 「軍グ\ン」1 語：「+手テ\→軍手グンテ」
- 「芸ゲ\ー」1 語：「+子コ→芸子ゲーコ」
- 「現ゲ\ン」1 語：「+場バ→現場ゲンバ」
- 「先セ\ン」1 語：「+手テ\→先手センテ」
- 「前ゼ\ン」1 語：「+場バ→前場ゼンバ」
- 「相ソ\ー」1 語：「+場バ→相場ソーバ」
- 「団ダ\ン」1 語：「+子コ→団子ダンゴ」
- 「中チュ\ー」1 語：「+火ヒ\→中火チュービ」
- 「塔ト\ー」1 語：「+屋ヤ\→塔屋トーヤ」
- 「胴ド\ー」1 語：「+輪ワ\→胴輪ドーワ」
- 「約ヤ\ク」1 語：「+手テ\→約手ヤクテ」
- 「洋ヨ\ー」1 語：「+間マ→洋間ヨーマ」

「欄ラ\ン」1語：「+間マ→欄間ランマ」
「漁リョ\一」1語：「+場バ→漁場リョーバ」

複合語は頭高型の7項目8語

「天テ\ン」2語：「+火ピ\→天火テ\ンピ」
「+日ピ（第2ピ\）→天日テ\ンピ」
「餡ア\ン」1語：「+子コ→餡子ア\ンコ」
「王オ\一」1語：「+手テ\→王手オ\一テ」
「金キ\ン」1語：「+齒ハ\→金齒キ\ンバ」
「親シ\ン」1語：「+身ミ→親身シ\ンミ」
「判ハ\ン」1語：「+屋ヤ\→判屋ハ\ンヤ」
「紋モ\ン」1語：「+日ヒ（第2ヒ\）→紋日モ\ンビ」

複合語は中高型の4項目4語

「菓子カ\シ」1語：「+屋ヤ\→菓子屋カシ\ヤ」
「馬車バ\シャ」1語：「+屋ヤ\→馬車屋バシャ\ヤ」
「椰子ヤ\シ」1語：「+湯ユ\→椰子湯ヤシ\ユ」
「柚子ユ\ズ」1語：「+湯ユ\→柚子湯ユズ\ユ」

複合語は尾高型の5項目5語

「牛ギユ\一」1語：「+屋ヤ\→牛屋ギューヤ\」
「斤キ\ン」1語：「+目メ\→斤目キンメ\」
「量リョ\一」1語：「+目メ\→量目リョーメ\」
「猟リョ\一」1語：「+場バ→猟場リョーバ\」
「牢ロ\一」1語：「+屋ヤ\→牢屋ローヤ\」

複合語は平板型・頭高型の共存する3項目7語

「半ハ\ン」3語：「+値ネ→半値ハンネ（第2ハ\ンネ）」
「+端パ\→半端ハンパ」
「+身ミ→半身ハンミ」
「本ホ\ン」3語：「+音ネ→本音ホンネ」
「+場バ→本場ホンバ」
「+屋ヤ\→本屋ホ\ンヤ」
「雁ガ\ン」1語：「+木キ\→雁木ガ\ンギ（第2ガンギ）」

複合語は平板型・尾高型の共存する5項目6語

「番バ\ン」2語：「+手テ\→番手バンテ」
「+屋ヤ\→番屋バンヤ（第2バンヤ\）」
「火事カ\ジ」1語：「+場バ→火事場カジバ（第2カジバ\）」
「修羅シュ\ラ」1語：「+場バ→修羅場シュラバ（第2シュラバ\）」
「陣ジ\ン」1語：「+屋ヤ\→陣屋ジンヤ（第2ジンヤ\）」
「版ハ\ン」1語：「+木キ\→版木ハンギ（第2ハンギ\）」

複合語は頭高型・尾高型の共存する1項目1語

「性ショ\ー」1語：「+根ネ\→性根ショーネ\（第2ショ\ーネ）」
複合語は平板型・頭高型・尾高型の共存する1項目1語
「算サ\ン」1語：「+木キ\→算木サ\ンギ（第2サンギ\）（第3サンギ）」

前部要素が起伏式の尾高型の17項目があり、計19語である。

複合語は平板型の2項目2語
「数寄㊦キ\」1語：「+屋ヤ\→数寄屋㊦キヤ」
「世話セワ\」1語：「+場バ\→世話場セワバ」

複合語は中高型の6項目6語

「質㊦チ\」1語：「+屋ヤ\→質屋㊦チ\ヤ」
「知恵チエ\」1語：「+歯ハ\→知恵歯チエ\バ」
「肉ニク\」1語：「+屋ヤ\→肉屋ニク\ヤ」
「服㊦ク\」1語：「+喪モ\→服喪㊦ク\モ」
「厄ヤク\」1語：「+日ヒ（第2ヒ\）→厄日ヤク\ビ」
「楽ラク\（第2ラ\ク）」1語：「+日ヒ（第2ヒ\）→楽日ラク\ビ」

複合語は尾高型の2項目3語

「役ヤク\」2語：「+場バ\→役場ヤクバ\」
「+目メ\→役目ヤクメ\」
「2度ニド\」1語：「+目メ\→2度目ニドメ\」

複合語は平板型・中高型の共存する2項目2語

「骨コツ\」1語：「+湯ユ\→骨湯コツユ（第2コツ\ユ）」
「余所ヨソ\（第2ヨ\ソ）」1語：「+目メ\→余所目ヨソメ（第2ヨソ\メ）」

複合語は平板型・尾高型の共存する3項目3語

「軸ジク\」1語：「+木キ\→軸木ジクギ（第2ジクギ\）」
「宿シュク\」1語：「+場バ\→宿場シュクバ（第2シュクバ\）」
「欲ヨク\」1語：「+目メ\→欲目ヨクメ\（第2ヨクメ）」

複合語は頭高型・尾高型の共存する1項目1語

「一イッ\」1語：「+手テ\→一手イ\ッテ（第2イッテ\）」

複合語は平板型・中高型・尾高型の共存する1項目2語

「毒ドク\」2語：「+矢ヤ\→毒矢ドク\ヤ（第2ドクヤ）」
「+血チ\→毒血ド㊦チ（第2ド㊦チ\）」

後部要素語彙別

後部要素が24項目あり、後部要素の平板型と起伏式を分けて分析を行う。

後部要素が平板型の10項目があり、合計33語である。

複合語は平板型の3項目7語

「間マ」5語：「客キヤク+→客間キヤクマ」

「京キョ\一十→京間キョーマ」
「別ベツ十→別間ベツマ」
「洋ヨ\一十→洋間ヨーマ」
「欄ラ\ン十→欄間ランマ」
「毛ケ」1語：「無駄ムダ十→無駄毛ムダゲ」
「音ネ」1語：「本ホ\ン十→本音ホンネ」

複合語は中高型の1項目1語

「喪モ」1語：「服㊦ク\十→服喪㊦ク\モ」

複合語は平板型・頭高型の共存する3項目6語

「子コ」3語：「餡ア\ン十→餡子ア\ンコ」
「芸ゲ\一十→芸子ゲーコ」
「団ダ\ン十→団子ダンゴ」
「身ミ」2語：「親シ\ン十→親身シ\ンミ」
「半ハ\ン十→半身ハンミ」
「値ネ」1語：「半ハ\ン十→半値ハンネ（第2ハ\ンネ）」

複合語は平板型・尾高型の共存する2項目15語

「場バ」14語：「火事カ\ジ十→火事場カジバ（第2カジバ\）」
「急キュー十→急場キューバ」
「現ゲ\ン十→現場ゲンバ」
「宿シュク\十→宿場シュクバ（第2シュクバ\）」
「修羅シュ\ラ十→修羅場シュラバ（第2シュラバ\）」
「職シヨク十→職場シヨクバ（第2シヨクバ\）」
「世話セワ\十→世話場セワバ」
「前ゼ\ン十→前場ゼンバ」
「相ソ\一十→相場ソーバ」
「台ダ\イ十→台場ダイバ」
「本ホ\ン十→本場ホンバ」
「役ヤク\十→役場ヤクバ\」
「猟リョ\一十→猟場リョーバ\」
「漁リョ\一十→漁場リョーバ」
「血チ」1語：「毒ドク\十→毒血ド㊦チ（第2ド㊦チ\）」

複合語は頭高型・中高型の共存する1項目4語

「日ヒ（第2ヒ\）」4語：「紋モ\ン十→紋日モ\ンビ」
「厄ヤク\十→厄日ヤク\ビ」
「楽ラク\（第2ラ\ク）十→楽日ラク\ビ」
「天テ\ン十→天日テ\ンピ」

後部要素が起伏式の14項目があり、計51語である。

複合語は平板型の5項目5語

「菜ナ\」1語：「京キョ\一十→京菜キョーナ」

「刃ハ\」1語：「両リョ\一十→両刃リョ一バ」
「端パ\」1語：「半ハ\ン十→半端ハンパ」
「芽メ\」1語：「新シ\ン十→新芽シンメ」
「輪ワ\」1語：「胴ド\一十→胴輪ドーワ」

複合語は平板型・頭高型の共存する1項目2語

「火ヒ\」2語：「中チュ\一十→中火チュービ」
「天テ\ン十→天火テ\ンピ」

複合語は平板型・中高型の共存する2項目4語

「湯ユ\」3語：「骨コツ\十→骨湯コツユ（第2コツ\ユ）」
「椰子ヤ\シ十→椰子湯ヤシ\ユ」
「柚子ユ\ズ十→柚子湯ユズ\ユ」
「矢ヤ\」1語：「毒ドク\十→毒矢ドク\ヤ（第2ドクヤ）」

複合語は頭高型・中高型の共存する1項目2語

「歯ハ\」2語：「金キ\ン十→金歯キ\ンバ」
「知恵チエ\十→知恵歯チエ\バ」

複合語は頭高型・尾高型の共存する1項目1語

「根ネ\」1語：「性ショ\一十→性根ショーネ\（第2ショ\一ネ）」

複合語は平板型・頭高型・尾高型の共存する2項目15語

「手テ\」9語：「一イッ\十→一手イ\ッテ（第2イッテ\）」
「王オ\一十→王手オ\一テ」
「逆ギヤク十→逆手ギヤ②テ」
「軍グ\ン十→軍手グンテ」
「新シ\ン十→新手シンテ」
「先セ\ン十→先手センテ」
「番バ\ン十→番手バンテ」
「約ヤ\ク十→約手ヤ②テ」
「両リョ\一十→両手リョ一テ」
「木キ\」6語：「雁ガ\ン十→雁木ガ\ンギ（第2ガンギ）」
「経キョ一十→経木キョ一ギ（第2キョ一ギ\）」
「算サ\ン十→算木サ\ンギ（第2サンギ\）（第3サンギ）」
「軸ジク\十→軸木ジクギ（第2ジクギ\）」
「台ダ\イ十→台木ダイギ」
「版ハ\ン十→版木ハンギ（第2ハンギ\）」

複合語は平板型・中高型・尾高型の共存する1項目7語

「目メ\」7語：「斤キ\ン十→斤目キンメ\」
「2度ニド\十→2度目ニドメ\」
「役ヤク\十→役目ヤクメ\」
「欲ヨク\十→欲目ヨクメ\（第2ヨクメ）」

「余所ヨソ＼（第2ヨ＼ソ）＋→余所目ヨソメ（第2ヨソ＼メ）」

「両リヨ＼一＋→両目リヨ一メ」

「量リヨ＼一＋→量目リヨ一メ＼」

複合語は平板型・頭高型・中高型・尾板型の共存する1項目15語

「屋ヤ＼」15語：「楽ガ＼ク（第2ガク）＋→楽屋ガクヤ」

「菓子カ＼シ＋→菓子屋カシ＼ヤ」

「鍛冶カ＼ジ＋→鍛冶屋カジヤ」

「牛ギユ＼一＋→牛屋ギューヤ＼」

「下駄ゲタ＋→下駄屋ゲタヤ」

「質㊦チ＼＋→質屋㊦チ＼ヤ」

「陣ジ＼ン＋→陣屋ジンヤ（第2ジンヤ＼）」

「数寄㊦キ＼＋→数寄屋㊦キヤ」

「塔ト＼一＋→塔屋トーヤ」

「肉ニク＼＋→肉屋ニク＼ヤ」

「馬車バ＼シャ＋→馬車屋バシャ＼ヤ」

「判ハ＼ン＋→判屋ハ＼ンヤ」

「番バ＼ン＋→番屋バンヤ（第2バンヤ＼）」

「本ホ＼ン＋→本屋ホ＼ンヤ」

「牢ロ＼一＋→牢屋ローヤ＼」

1 拍和語+2 拍和語

前部要素語彙別

前部要素が 49 項目あり、後部要素の平板型と起伏式を分けて分析を行う。

前部要素が平板型の 17 項目があり、合計 80 語である。

複合語は平板型の 1 項目 4 語

複合語は頭高型の 1 項目 4 語

複合語は中高型の 1 項目 4 語

複合語は尾高型の 1 項目 4 語

複合語は平板型・頭高型の共存する 1 項目 3 語

複合語は平板型・中高型の共存する 1 項目 3 語

複合語は平板型・尾高型の共存する 1 項目 2 語

複合語は頭高型・中高型の共存する 1 項目 4 語

複合語は頭高型・尾高型の共存する 1 項目 4 語

複合語は中高型・尾高型の共存する 1 項目 4 語

複合語は平板型・頭高型・中高型の共存する 1 項目 3 語

複合語は平板型・頭高型・尾高型の共存する 1 項目 3 語

複合語は平板型・中高型・尾高型の共存する 1 項目 3 語

複合語は頭高型・中高型・尾板型の共存する 1 項目 3 語

複合語は平板型・頭高型・中高型・尾板型の共存する 3 項目 61 語

「亥イ (第 2 イ\)」 1 語 : 「+年トシ\→亥年イドシ」

「卯ウ」 1 語 : 「+月㊦キ\→卯月ウ\ズキ」

「蚊カ」 1 語 : 「+針ハ\リ→蚊針カバリ」

「子コ」 12 語 : 「+芋イモ\→子芋コイモ」

「+牛ウシ→子牛コウシ」

「+馬ウマ\→子馬コウマ」

「+方カタ\→子方コカタ」

「+株カブ→子株コカブ」

「+熊クマ\ (第 2 ク\マ) →子熊コグマ」

「+猿サ\ル→子猿コザル」

「+種タ\ネ→子種コダネ (第 2 コダ\ネ)」

「+供ト\モ→子供コドモ」

「+猫ネ\コ→子猫コネ\コ」

「+豚ブタ→子豚コブタ」

「+山羊ヤ\ギ→子山羊コヤギ (第 2 コヤ\ギ)」

「血チ」 4 語 : 「+膿ウミ\→血膿チウミ」

「+糊リノリ\→血糊リチノリ」

「+道ミチ→血道チミチ」

「+潮シオ\→血潮㊦シオ」

「戸ト」 3 語 : 「+板イ\タ→戸板トイタ」

「+口㊦チ→戸口ト\グチ (第 2 トグチ)」

「+棚タナ→戸棚トダナ」

「名ナ」 4 語 : 「+無シナ\シ→名無しナナシ」

「+主ヌ\シ→名主ナヌシ」

- 「+札フダ→名札ナフダ」
「+前マ\エ→名前ナマエ」
「音ネ」1語：「+色イロ\→音色ネイロ」
「値ネ」5語：「+嵩カサ\→値嵩ネガサ」
「+頃コ\ロ→値頃ネゴロ」
「+鞆サ\ヤ→値鞆ネザヤ」
「+幅ハバ→値幅ネハバ」
「+札フダ→値札ネフダ」
「場バ」2語：「+数カ\ズ→場数バカズ」
「+末スエ→場末バスエ」
「日ヒ（第2ヒ\）」9語：「+傘カ\サ→日傘ヒガ\サ」
「+金カネ→日金ヒガネ」
「+頃コ\ロ→日頃ヒゴロ」
「+錢ゼ\ニ→日錢ヒゼニ」
「+中ナ\カ→日中ヒナカ」
「+保モチ\→日保ヒモチ（第2ヒモチ\）」
「+足アシ\→日足㊦アシ」
「+陰カ\ゲ→日陰㊦カゲ」
「+数カ\ズ→日数㊦カ\ズ」
「間マ」3語：「+数カ\ズ→間数マカズ（第2マカ\ズ）」
「+際キワ\→間際マ\ギワ」
「+口㊦チ→間口マ\グチ」
「真マ」22語：「+鱒ア\ジ→真鱒マアジ」
「+烏賊イカ→真烏賊マイカ（第2マ\イカ）」
「+上ウエ→真上マウエ\」
「+裏ウラ\→真裏マウラ」
「+顔カオ→真顔マガオ」
「+金カネ→真金マガネ（第2マ\ガネ）」
「+鴨カ\モ→真鴨マガモ」
「+北㊦タ（第2㊦タ\）→真北マ㊦タ\」
「+鯉コ\イ→真鯉マゴイ」
「+菰コモ→真菰マコモ」
「+潮シオ\→真潮マシオ」
「+下㊦タ\（第2㊦タ）→真下マ㊦タ\」
「+鯛タ\イ→真鯛マダイ」
「+竹タケ→真竹マダケ（第2マ\ダケ）」
「+蛸タ\コ→真蛸マダコ（第2マダ\コ）」
「+鱈タ\ラ→真鱈マダラ」
「+西ニシ→真西マニシ」
「+昼ヒル\→真昼マヒル」
「+冬フユ\→真冬マフユ」
「+水ミズ→真水マミズ」
「+横ヨコ→真横マヨコ（第2マヨコ\）」
「+綿ワタ\→真綿マワタ」

「身ミ」8語：「+内ウチ→身内ミウチ」
「+頃コ\ロ→身頃ミ\ゴロ」
「+錢ゼ\ニ→身錢ミゼニ」
「+空ソ\ラ→身空ミソラ（第2ミソ\ラ）」
「+丈タケ\→身丈ミ\タケ」
「+形ナリ\→身形ミ\ナリ」
「+幅ハバ→身幅ミ\ハバ」
「+元モト（第2モ\ト）→身元ミモト（第2ミモト\）」
「実ミ」1語：「+物モノ\（第2モノ）→実物ミモノ」
「裳モ」1語：「+裾㊦ソ→裳裾モ㊦ソ」
「藻モ」2語：「+蝦エ\ビ→藻蝦モエビ」
「+屑ク\ズ→藻屑モクス」

前部要素が起伏式の32項目があり、計225語である。

複合語は平板型の1項目4語

「藺イ\」1語：「+草㊦サ\→藺草イグサ」

複合語は頭高型の1項目4語

複合語は中高型の1項目4語

複合語は尾高型の1項目4語

複合語は平板型・頭高型の共存する1項目3語

複合語は平板型・中高型の共存する1項目3語

複合語は平板型・尾高型の共存する1項目2語

複合語は頭高型・中高型の共存する1項目4語

複合語は頭高型・尾高型の共存する1項目4語

複合語は中高型・尾高型の共存する1項目4語

複合語は平板型・頭高型・中高型の共存する1項目3語

複合語は平板型・頭高型・尾高型の共存する1項目3語

複合語は平板型・中高型・尾高型の共存する1項目3語

複合語は頭高型・中高型・尾高型の共存する1項目3語

複合語は平板型・頭高型・中高型・尾高型の共存する3項目61語

「井イ\」2語：「+桁ケタ→井桁イ\ゲタ（第2イゲタ）」
「+筒㊦ツ（第2㊦ツ\）→井筒イ\ズツ（第2イズツ）」

「尾オ\」3語：「+花ハナ\→尾花オ\バナ」
「+鱭ヒレ\→尾鱭オ\ヒレ」
「+鱭ヒレ\→尾鱭オ\ビレ（第2オビレ）」

「黄キ\（第2キ）」3語：「+色イロ\→黄色キイロ」
「+菊㊦ク\（第2㊦ク）→黄菊キ\ギク（第2キギク）」
「+菅スゲ→黄菅㊦スゲ」

「木キ\」7語：「+屑ク\ズ→木屑㊦ク\ズ（第2㊦\クス）」
「+口㊦チ→木口キ\グチ（第2キグチ）」
「+槌㊦チ\→木槌キ\ズチ」
「+太刀タ\チ→木太刀キ\ダチ」

- 「+灰ハイ→木灰キ\バイ」
「+肌ハ\ダ→木肌㊦ハダ」
「+札フダ→木札㊦\フダ (第2㊦フダ)」
- 「生き\」4語：「+糸イ\ト→生糸キ\イト」
「+紙カミ\→生紙キガミ」
「+絹キ\ヌ→生絹キギヌ (第2キ\ギヌ)」
「+酒サケ→生酒キザケ」
- 「生き\」1語：「+蕎麦ソ\バ→生蕎麦㊦ソバ (第2㊦ソ\バ)」
- 「毛ケ\」12語：「+足アシ\→毛足ケアシ」
「+穴アナ\→毛穴ケアナ」
「+糸イ\ト→毛糸ケイト」
「+色イロ\→毛色ケイロ」
「+蟹カニ→毛蟹ケガニ」
「+皮カワ\→毛皮ケガワ」
「+筋ス\ジ→毛筋ケスジ」
「+脛スネ\→毛脛ケズネ」
「+玉タマ\→毛玉ケダマ」
「+針ハ\リ→毛針ケバリ」
「+虫ムシ→毛虫ケムシ」
「+槍ヤリ→毛槍ケヤリ」
- 「巣ス\ (第2ス)」2語：「+鴨カ\モ→巣鴨ス\ガモ」
「+箱ハコ→巣箱ス\バコ (第2スバコ)」
- 「酢ス\」5語：「+貝カ\イ→酢貝ス\ガイ」
「+牡蠣カ\キ→酢牡蠣ス\ガキ (第2スガキ)」
「+蛸タ\コ→酢蛸スダ\コ (第2スダコ)」
「+豚ブタ→酢豚ス\ブタ」
「+飯メシ\→酢飯スメシ」
- 「背セ\ (第2セ)」6語：「+革カワ\→背革セガワ」
「+丈タケ\→背丈セ\タケ」
「+中ナ\カ→背中セナカ」
「+鱭ヒレ\→背鱭セビレ (第2セ\ビレ)」
「+骨ホネ\→背骨セボネ」
「+腸ワタ\→背腸セワタ」
- 「田タ\」2語：「+芹セリ\→田芹タ\ゼリ」
「+畑ハタ\ (第2ハ\タ) →田畑タ\ハタ」
- 「乳チ\」2語：「+房㊦サ\→乳房チ\ブサ」
「+首クビ→乳首㊦\クビ (第2㊦ク\ビ)」
- 「手テ\」45語：「+垢アカ\→手垢テアカ\」
「+足アシ\→手足テ\アシ」
「+桶オ\ケ→手桶テオケ (第2テオケ\)」
「+斧オ\ノ→手斧テオノ (第2テオ\ノ)」
「+鉤カギ\→手鉤テカギ (第2テ\カギ)」
「+籠カゴ→手籠テカゴ (第2テ\カゴ)」
「+数カ\ズ→手数テ\カズ (第2テカ\ズ)」

「+枷カセ\ (第2カ\セ) →手枷テ\カセ」
 「+形カタ\ →手形テガタ」
 「+紙カミ\ →手紙テガミ」
 「+傷キズ →手傷テ\キズ」
 「+際キワ\ →手際テギワ (第2テギワ\)」
 「+癖◎セ\ →手癖テ◎セ\」
 「+管ク\ダ →手管テ\クダ」
 「+口◎チ →手口テ\グチ」
 「+首クビ →手首テ\クビ」
 「+事コト\ →手事テ\ゴト」
 「+駒コ\マ (第2コマ) →手駒テゴマ」
 「+先サキ →手先テサキ\」
 「+塩シオ\ →手塩テシオ (第2テシオ\ (第2テ\シオ))」
 「+下◎タ\ (第2◎タ) →手下テ◎タ\」
 「+品シナ →手品テ\ジナ」
 「+筋ス\ジ →手筋テ\スジ」
 「+妻ス\マ →手妻テ\ズマ」
 「+蔓ツル\ (第2ツ\ル) →手蔓テ\ズル」
 「+玉タマ\ →手玉テダマ (第2テダマ\)」
 「+鍋ナ\ベ →手鍋テナベ (第2テ\ナベ)」
 「+縄ナワ\ →手縄テナワ (第2テ\ナワ)」
 「+箱ハコ →手箱テ\バコ」
 「+筈ハズ →手筈テ\ハズ」
 「+肌ハ\ダ →手肌テ\ハダ」
 「+機ハタ\ →手機テバタ (第2テ\バタ)」
 「+旗ハタ\ →手旗テバタ」
 「+鼻ハナ →手鼻テバナ (第2テ\バナ)」
 「+早ハ\ヤ →手早テバヤ」
 「+札フダ →手札テフダ (第2テ\フダ)」
 「+前マ\エ →手前テマエ」
 「+前マ\エ →手前テマエ」
 「+真似マネ →手真似テ\マネ (第2テマネ)」
 「+忠実マメ →手忠実テ\マメ (第2テマメ)」
 「+鞠マリ\ →手鞠テマリ (第2テ\マリ)」
 「+水ミズ →手水テ\ミズ」
 「+元モト (第2モ\ト) →手元テモト\」
 「+槍ヤリ →手槍テ\ヤリ (第2テヤリ)」
 「+業ワザ\ →手業テワザ\ (第2テ\ワザ)」

「砥ト\」 1語 : 「+石イシ\ →砥石トイシ」
 「菜ナ\」 2語 : 「+種タ\ネ →菜種ナタ\ネ (第2ナタネ)」
 「+飯メシ\ →菜飯ナ\メシ」
 「荷ニ\ (第2ニ)」 8語 : 「+籠カゴ →荷籠ニカゴ (第2ニ\カゴ)」
 「+鞍クラ\ →荷鞍ニグラ」
 「+棚タナ →荷棚ニダナ」

- 「+繩ナワ\→荷繩ニナワ」
「+主ヌ\シ→荷主ニヌシ (第2ニ\ヌシ)」
「+箱ハコ→荷箱ニ\バコ (第2ニバコ)」
「+札フダ→荷札ニフダ (第2ニ\フダ)」
「+船フ\ネ→荷船ニ\ブネ」
- 「根ネ\」 10 語 : 「+芋イモ\→根芋ネイモ」
「+方カタ\→根方ネカタ\ (第2ネカタ)」
「+株カブ→根株ネ\カブ」
「+岸㊦シ\→根岸ネ\ギシ」
「+肥コエ\→根肥ネゴエ (第2ネ\ゴエ)」
「+笹ササ→根笹ネザサ (第2ネ\ザサ)」
「+城シロ→根城ネジロ」
「+芹セリ\→根芹ネ\ゼリ (第2ネゼリ)」
「+松マ\ツ→根松ネ\マツ」
「+元モト (第2モ\ト) →根元ネモト\」
- 「野ノ\」 11 語 : 「+菊㊦ク\ (第2㊦ク) →野菊ノ\ギク」
「+末スエ→野末ノズエ」
「+面ツラ\→野面ノズラ (第2ノ\ズラ)」
「+太刀タ\チ→野太刀ノ\ダチ」
「+壺ツボ→野壺ノ\ツボ」
「+中ナ\カ→野中ノ\ナカ (第2ノナカ)」
「+花ハナ\→野花ノ\バナ」
「+原ハ\ラ→野原ノ\ハラ」
「+薔薇バラ→野薔薇ノ\バラ」
「+道ミチ→野道ノ\ミチ」
「+山ヤマ\→野山ノ\ヤマ」
- 「齒ハ\」 3 語 : 「+形カタ\→齒形ハガタ」
「+茎㊦キ\→齒茎ハ\グキ」
「+糞㊦ソ\→齒糞ハ\㊦ソ」
- 「端ハ\」 3 語 : 「+唄ウタ\→端唄ハウタ」
「+綱ツナ\→端綱ハズナ」
「+物モノ\ (第2モノ) →端物ハモノ」
- 「刃ハ\」 2 語 : 「+先サキ→刃先ハサキ (第2ハサキ\)」
「+物モノ\ (第2モノ) →刃物ハ\モノ」
- 「葉ハ\」 6 語 : 「+陰カ\ゲ→葉陰ハカゲ」
「+風カゼ→葉風ハカゼ (第2ハ\カゼ)」
「+末スエ→葉末ハズエ」
「+月㊦キ\→葉月ハ\ズキ」
「+虫ムシ→葉虫ハムシ」
「+物モノ\ (第2モノ) →葉物ハモノ」
- 「羽ハ\」 5 語 : 「+蟻アリ→羽蟻ハアリ」
「+音オト\→羽音ハオト」
「+風カゼ→羽風ハカゼ (第2ハ\カゼ)」
「+口㊦チ→羽口ハ\グチ」

「+虫ムシ→羽虫ハムシ」

「火ヒ」15語：「+桶オケ→火桶ヒオケ（第2ヒオケ）」

「+口㊦チ→火口ヒグチ」

「+皿サラ→火皿ヒザラ」

「+種タネ→火種ヒダネ」

「+玉タマ→火玉ヒダマ」

「+鍋ナベ→火鍋ヒナベ」

「+縄ナワ→火縄ヒナワ」

「+熨斗ノシ→火熨斗ヒノシ」

「+箱ハコ→火箱ヒバコ」

「+箸ハシ→火箸ヒバシ」

「+鉢ハチ（第2ハチ）→火鉢ヒバチ」

「+花ハナ→火花ヒバナ」

「+蓋㊦タ→火蓋ヒブタ」

「+保ちモチ→火保ちヒモチ（第2ヒモチ）」

「+元モト（第2モト）→火元ヒモト」

「帆ホ（第2ホ）」5語：「+足アシ→帆足ホアシ」

「+影カゲ→帆影ホカゲ」

「+桁ケタ→帆桁ホゲタ（第2ホゲタ）」

「+綱ツナ→帆綱ホズナ」

「+布ヌノ→帆布ホヌノ」

「穂ホ」5語：「+首クビ→穂首ホクビ」

「+肥コエ→穂肥ホゴエ」

「+先サキ→穂先ホサキ（第2ホサキ）」

「+波ナミ→穂波ホナミ」

「+綿ワタ→穂綿ホワタ（第2ホワタ）」

「目メ」18語：「+色イロ→目色メイロ」

「+上ウエ→目上メウエ（第2メウエ）」

「+顔カオ→目顔メガオ」

「+籠カゴ→目籠メカゴ」

「+方カタ→目方メカタ」

「+角カド→目角メカド」

「+釘クギ→目釘メクギ」

「+糞㊦ソ→目糞メソ」

「+口㊦チ→目口メチ」

「+先サキ→目先メサキ」

「+下㊦タ（第2㊦タ）→目下メタ（第2メタ）」

「+尻シリ→目尻メシリ」

「+鯛タ→目鯛メダイ」

「+玉タマ→目玉メダマ」

「+端ハシ→目端メハシ（第2メハシ）」

「+鼻ハナ→目鼻メハナ」

「+星ホシ→目星メボシ（第2メボシ）」

「+元モト（第2モト）→目元メモト」

- 「家ヤ\」1語：「+主ヌ\シ→家主ヤ\ヌシ（第2ヤヌシ）」
- 「矢ヤ\」10語：「+板イ\タ→矢板ヤイタ」
「+数カ\ズ→矢数ヤ\カズ（第2ヤカズ）」
「+声コ\エ→矢声ヤ\ゴエ」
「+尻シリ\→矢尻ヤジリ（第2ヤ\ジリ）」
「+筒ツ（第2ツ\）→矢筒ヤ\ズツ」
「+弾タマ\→矢弾ヤダマ」
「+壺ツボ→矢壺ヤ\ツボ」
「+筈ハズ→矢筈ヤハズ」
「+羽根ハネ→矢羽根ヤバネ（第2ヤ\バネ）」
「+文フ\ミ（第2フミ\）→矢文ヤブミ（第2ヤ\ブミ）」
- 「湯ユ\」13語：「+垢アカ\→湯垢ユアカ\（第2ユアカ）」
「+桶オ\ケ→湯桶ユオケ（第2ユオ\ケ）」
「+口ツチ→湯口ユ\グチ」
「+桁ケタ→湯桁ユ\ゲタ」
「+滝タキ→湯滝ユ\ダキ」
「+玉タマ\→湯玉ユダマ」
「+壺ツボ→湯壺ユ\ツボ」
「+殿ド\ノ→湯殿ユドノ\（第2ユドノ）」
「+熨斗ノシ\→湯熨斗ユノシ\」
「+腹ハラ\→湯腹ユバラ」
「+船フ\ネ→湯船ユ\ブネ」
「+水ミズ→湯水ユ\ミズ」
「+元モト（第2モ\ト）→湯元ユモト\（第2ユモト）」
- 「夜ヨ\」12語：「+風カゼ→夜風ヨ\カゼ」
「+爪ツメ→夜爪ヨ\ズメ」
「+空ソ\ラ→夜空ヨ\ゾラ」
「+露ツ\ユ→夜露ヨ\ツユ」
「+伽ト\ギ（第2トギ\）→夜伽ヨトギ\（第2ヨトギ）（第2ヨ\トギ）」
「+中ナ\カ→夜中ヨナカ\」
「+鍋ナ\ベ→夜鍋ヨナベ」
「+肌ハ\ダ→夜肌ヨ\ハダ」
「+船フ\ネ→夜船ヨ\ブネ」
「+店ミセ\→夜店ヨミセ」
「+道ミチ→夜道ヨ\ミチ」
「+宮ミヤ→夜宮ヨ\ミヤ」

後部要素語彙別

後部要素が122項目あり、前部要素の平板型と起伏式を分けて分析を行う。

後部要素が平板型の56項目があり、合計107語である。

- 「蟻アリ」1語：「羽ハ\+→羽蟻ハアリ」
- 「烏賊イカ」1語：「真マ+→真烏賊マイカ（第2マ\イカ）」
- 「上ウエ」2語：「真マ+→真上マウエ\」
「目メ\+→目上メウエ（第2メウエ\）」

「牛ウシ」1語：「子コ＋→子牛コウシ」
 「内ウチ」1語：「身ミ＋→身内ミウチ」
 「顔カオ」2語：「真マ＋→真顔マガオ」
 「目メ\＋→目顔メ\ガオ」
 「籠カゴ」3語：「手テ\＋→手籠テカゴ（第2テ\カゴ）」
 「荷ニ\（第2ニ）＋→荷籠ニカゴ（第2ニ\カゴ）」
 「目メ\＋→目籠メ\カゴ」
 「風カゼ」3語：「葉ハ\＋→葉風ハカゼ（第2ハ\カゼ）」
 「羽ハ\＋→羽風ハカゼ（第2ハ\カゼ）」
 「夜ヨ\＋→夜風ヨ\カゼ」
 「蟹カニ」1語：「毛ケ\＋→毛蟹ケガニ」
 「金カネ」2語：「日ヒ（第2ヒ\）＋→日金ヒガネ」
 「真マ＋→真金マガネ（第2マ\ガネ）」
 「株カブ」2語：「子コ＋→子株コカブ」
 「根ネ\＋→根株ネ\カブ」
 「傷キズ」1語：「手テ\＋→手傷テ\キズ」
 「北㊦タ（第2㊦タ\）」1語：「真マ＋→真北マ㊦タ\」
 「釘クギ」1語：「目メ\＋→目釘メ\クギ」
 「口㊧チ」8語：「木キ\＋→木口キ\グチ（第2キグチ）」
 「手テ\＋→手口テ\グチ」
 「戸ト＋→戸口ト\グチ（第2トグチ）」
 「羽ハ\＋→羽口ハ\グチ」
 「火ヒ\＋→火口ヒ\グチ」
 「間マ＋→間口マ\グチ」
 「湯ユ\＋→湯口ユ\グチ」
 「目メ\＋→目口メ\㊧チ」
 「首クビ」3語：「乳チ\＋→乳首㊦\クビ（第2㊦ク\ビ）」
 「手テ\＋→手首テ\クビ」
 「穂ホ\＋→穂首ホクビ」
 「桁ケタ」3語：「井イ\＋→井桁イ\ゲタ（第2イゲタ）」
 「帆ホ\（第2ホ）＋→帆桁ホゲタ（第2ホ\ゲタ）」
 「湯ユ\＋→湯桁ユ\ゲタ」
 「菰コモ」1語：「真マ＋→真菰マコモ」
 「先サキ」4語：「手テ\＋→手先テサキ\」
 「刃ハ\＋→刃先ハサキ（第2ハサキ\）」
 「穂ホ\＋→穂先ホサキ（第2ホサキ\）」
 「目メ\＋→目先メサキ\」
 「酒サケ」1語：「生キ\＋→生酒キザケ」
 「笹ササ」1語：「根ネ\＋→根笹ネザサ（第2ネ\ザサ）」
 「皿サラ」1語：「火ヒ\＋→火皿ヒ\ザラ」
 「品シナ」1語：「手テ\＋→手品テ\ジナ」
 「城シロ」1語：「根ネ\＋→根城ネジロ」
 「末スエ」3語：「場バ＋→場末バスエ」
 「野ノ\＋→野末ノズエ」

「葉ハ\+→葉末ハズエ」
「菅スゲ」1語：「黄キ\ (第2キ) +→黄菅㊦スゲ」
「裾㊦ソ」1語：「裳モ+→裳裾モ㊦ソ」
「筒㊦ツ (第2㊦ツ\)」2語：「井イ\+→井筒イ\ズツ (第2イズツ)」
「矢ヤ\+→矢筒ヤ\ズツ」
「爪ツメ」1語：「夜ヨ\+→夜爪ヨ\ズメ」
「滝タキ」1語：「湯ユ\+→湯滝ユ\ダキ」
「竹タケ」1語：「真マ+→真竹マダケ (第2マ\ダケ)」
「棚タナ」2語：「戸ト+→戸棚トダナ」
「荷ニ\ (第2ニ) +→荷棚ニダナ」
「壺ツボ」3語：「野ノ\+→野壺ノ\ツボ」
「矢ヤ\+→矢壺ヤ\ツボ」
「湯ユ\+→湯壺ユ\ツボ」
「西ニシ」1語：「真マ+→真西マニシ」
「布ヌノ」1語：「帆ホ\ (第2ホ) +→帆布ホヌノ」
「灰ハイ」1語：「木キ\+→木灰キ\バイ」
「箱ハコ」4語：「巢ス\ (第2ス) +→巢箱ス\バコ (第2スバコ)」
「手テ\+→手箱テ\バコ」
「荷ニ\ (第2ニ) +→荷箱ニ\バコ (第2ニバコ)」
「火ヒ\+→火箱ヒ\バコ」
「端ハン」1語：「目メ\+→目端メ\ハン (第2メハン)」
「筈ハズ」2語：「手テ\+→手筈テ\ハズ」
「矢ヤ\+→矢筈ヤハズ」
「鼻ハナ」2語：「目メ\+→目鼻メ\ハナ」
「手テ\+→手鼻テバナ (第2テ\バナ)」
「羽根ハネ」1語：「矢ヤ\+→矢羽根ヤバネ (第2ヤ\バネ)」
「幅ハバ」2語：「値ネ+→値幅ネハバ」
「身ミ+→身幅ミ\ハバ」
「薔薇バラ」1語：「野ノ\+→野薔薇ノ\バラ」
「札フダ」5語：「木キ\+→木札㊦\フダ (第2㊦フダ)」
「手テ\+→手札テフダ (第2テ\フダ)」
「名ナ+→名札ナフダ」
「荷ニ\ (第2ニ) +→荷札ニフダ (第2ニ\フダ)」
「値ネ+→値札ネフダ」
「蓋㊦タ」1語：「火ヒ\+→火蓋ヒ\ブタ」
「豚ブタ」2語：「子コ+→子豚コブタ」
「酢ス\+→酢豚ス\ブタ」
「星ホシ」1語：「目メ\+→目星メ\ボシ (第2メボシ)」
「真似マネ」1語：「手テ\+→手真似テ\マネ (第2テマネ)」
「忠実マメ」1語：「手テ\+→手忠実テ\マメ (第2テマメ)」
「水ミズ」3語：「手テ\+→手水テ\ミズ」
「真マ+→真水マミズ」
「湯ユ\+→湯水ユ\ミズ」
「道ミチ」3語：「血チ+→血道チミチ」

「野ノ\+→野道ノ\ミチ」
「夜ヨ\+→夜道ヨ\ミチ」
「宮ミヤ」1語：「夜ヨ\+→夜宮ヨ\ミヤ」
「虫ムシ」3語：「毛ケ\+→毛虫ケムシ」
「葉ハ\+→葉虫ハムシ」
「羽ハ\+→羽虫ハムシ」
「元モト（第2モ\ト）」6語：「手テ\+→手元テモト\」
「根ネ\+→根元ネモト\」
「火ヒ\+→火元ヒモト\」
「身ミ\+→身元ミモト（第2ミモト\）」
「目メ\+→目元メモト\」
「湯ユ\+→湯元ユモト\（第2ユモト）」
「槍ヤリ」2語：「毛ケ\+→毛槍ケヤリ」
「手テ\+→手槍テ\ヤリ（第2テヤリ）」
「横ヨコ」1語：「真マ\+→真横マヨコ（第2マヨコ\）」

後部要素が起伏式の頭高型の52項目があり、計87語である。

「鱒ア\ジ」1語：「真マ\+→真鱒マアジ」
「板イ\タ」2語：「戸ト\+→戸板トイタ」
「矢ヤ\+→矢板ヤイタ」
「糸イ\ト」2語：「生キ\+→生糸キ\イト」
「毛ケ\+→毛糸ケイト」
「蝦エ\ビ」1語：「藻モ\+→藻蝦モエビ」
「桶オ\ケ」3語：「手テ\+→手桶テオケ（第2テオケ\）」
「火ヒ\+→火桶ヒオケ\（第2ヒオ\ケ）」
「湯ユ\+→湯桶ユオケ（第2ユオ\ケ）」
「斧オ\ノ」1語：「手テ\+→手斧テオノ（第2テオ\ノ）」
「貝カ\イ」1語：「酢ス\+→酢貝ス\ガイ」
「牡蠣カ\キ」1語：「酢ス\+→酢牡蠣ス\ガキ（第2スガキ）」
「陰カ\ゲ」2語：「葉ハ\+→葉陰ハカゲ」
「日ヒ（第2ヒ\）\+→日陰㊦カゲ」
「影カ\ゲ」1語：「帆ホ\（第2ホ）\+→帆影ホカゲ」
「傘カ\サ」1語：「日ヒ（第2ヒ\）\+→日傘ヒガ\サ」
「数カ\ズ」5語：「手テ\+→手数テ\カズ（第2テカ\ズ）」
「場バ\+→場数バカズ」
「日ヒ（第2ヒ\）\+→日数㊦カ\ズ」
「間マ\+→間数マカズ（第2マカ\ズ）」
「矢ヤ\+→矢数ヤ\カズ（第2ヤカズ）」
「角カ\ド」1語：「目メ\+→目角メ\カド」
「鴨カ\モ」2語：「巢ス\（第2ス）\+→巢鴨ス\ガモ」
「真マ\+→真鴨マガモ」
「絹キ\ヌ」1語：「生キ\+→生絹キギヌ（第2キ\ギヌ）」
「屑ク\ズ」2語：「木キ\+→木屑㊦ク\ズ（第2㊦\クス）」
「藻モ\+→藻屑モクス」

「管ク\ダ」1語：「手テ\+→手管テ\クダ」
 「鯉コ\イ」1語：「真マ+→真鯉マゴイ」
 「声コ\エ」1語：「矢ヤ\+→矢声ヤ\ゴエ」
 「駒コ\マ (第2コマ)」1語：「手テ\+→手駒テゴマ」
 「頃コ\ロ」3語：「値ネ+→値頃ネゴロ」
 「日ヒ (第2ヒ\)+→日頃ヒゴロ」
 「身ミ+→身頃ミ\ゴロ」
 「鞆サ\ヤ」1語：「値ネ+→値鞆ネザヤ」
 「猿サ\ル」1語：「子コ+→子猿コザル」
 「筋ス\ジ」2語：「毛ケ\+→毛筋ケスジ」
 「手テ\+→手筋テ\スジ」
 「妻ツ\マ」1語：「手テ\+→手妻テ\ズマ」
 「錢ゼ\ニ」2語：「日ヒ (第2ヒ\)+→日錢ヒゼニ」
 「身ミ+→身錢ミゼニ」
 「蕎麦ソ\バ」1語：「生キ\+→生蕎麦㊦ソバ (第2㊦ソ\バ)」
 「空ソ\ラ」2語：「身ミ+→身空ミソラ (第2ミソ\ラ)」
 「夜ヨ\+→夜空ヨ\ゾラ」
 「鯛タ\イ」2語：「真マ+→真鯛マダイ」
 「目メ\+→目鯛メダイ」
 「蛸タ\コ」2語：「酢ス\+→酢蛸スダ\コ (第2スダコ)」
 「真マ+→真蛸マダコ (第2マダ\コ)」
 「太刀タ\チ」2語：「木キ\+→木太刀キ\ダチ」
 「野ノ\+→野太刀ノ\ダチ」
 「種タ\ネ」3語：「菜ナ\+→菜種ナタ\ネ (第2ナタネ)」
 「子コ+→子種コダネ (第2コダ\ネ)」
 「火ヒ\+→火種ヒダネ」
 「鱈タ\ラ」1語：「真マ+→真鱈マダラ」
 「露ツ\ユ」1語：「夜ヨ\+→夜露ヨ\ツユ」
 「伽ト\ギ (第2トギ\)」1語：「夜ヨ\+→夜伽ヨトギ\ (第2ヨトギ) (第2ヨ\トギ)」
 「殿ド\ノ」1語：「湯ユ\+→湯殿ユドノ\ (第2ユドノ)」
 「供ト\モ」1語：「子コ+→子供コドモ」
 「中ナ\カ」4語：「背セ\ (第2セ)+→背中セナカ」
 「野ノ\+→野中ノ\ナカ (第2ノナカ)」
 「日ヒ (第2ヒ\)+→日中ヒナカ」
 「夜ヨ\+→夜中ヨナカ\」
 「無しナ\シ」1語：「名ナ+→名無しナナシ」
 「鍋ナ\ベ」3語：「手テ\+→手鍋テナベ (第2テ\ナベ)」
 「火ヒ\+→火鍋ヒナベ」
 「夜ヨ\+→夜鍋ヨナベ」
 「主ヌ\シ」3語：「名ナ+→名主ナヌシ」
 「荷ニ\ (第2ニ)+→荷主ニヌシ (第2ニ\ヌシ)」
 「家ヤ\+→家主ヤ\ヌシ (第2ヤヌシ)」
 「猫ネ\コ」1語：「子コ+→子猫コネ\コ」

「箸ハ\シ」1語：「火ヒ\+→火箸ヒ\バシ」
「肌ハ\ダ」3語：「木キ\+→木肌⊕ハダ」
「手テ\+→手肌テ\ハダ」
「夜ヨ\+→夜肌ヨ\ハダ」
「早ハ\ヤ」1語：「手テ\+→手早テバヤ」
「原ハ\ラ」1語：「野ノ\+→野原ノ\ハラ」
「針ハ\リ」2語：「蚊カ\+→蚊針カバリ」
「毛ケ\+→毛針ケバリ」
「船ハ\ネ」3語：「荷ニ\（第2ニ）\+→荷船ニ\ブネ」
「湯ユ\+→湯船ユ\ブネ」
「夜ヨ\+→夜船ヨ\ブネ」
「文フ\ミ（第2フミ\）」1語：「矢ヤ\+→矢文ヤブミ（第2ヤ\ブミ）」
「前マ\エ」3語：「手テ\+→手前テマエ」
「手テ\+→手前テマエ」
「名ナ\+→名前ナマエ」
「松マ\ツ」1語：「根ネ\+→根松ネ\マツ」
「山羊ヤ\ギ」1語：「子コ\+→子山羊コヤギ（第2コヤ\ギ）」

後部要素が起伏式の尾高型の70項目があり、計111語である。

「垢アカ\」2語：「手テ\+→手垢テアカ\」
「湯ユ\+→湯垢ユアカ\（第2ユアカ）」
「足アシ\」4語：「毛ケ\+→毛足ケアシ」
「手テ\+→手足テ\アシ」
「日ヒ（第2ヒ\）\+→日足⊕アシ」
「帆ホ\（第2ホ）\+→帆足ホアシ」
「穴アナ\」1語：「毛ケ\+→毛穴ケアナ」
「石イシ\」1語：「砥ト\+→砥石トイシ」
「芋イモ\」2語：「子コ\+→子芋コイモ」
「根ネ\+→根芋ネイモ」
「色イロ\」4語：「黄キ\（第2キ）\+→黄色キイロ」
「毛ケ\+→毛色ケイロ」
「音ネ\+→音色ネイロ」
「目メ\+→目色メイロ」
「唄ウタ\」1語：「端ハ\+→端唄ハウタ」
「馬ウマ\」1語：「子コ\+→子馬コウマ」
「膿ウミ\」1語：「血チ\+→血膿チウミ」
「裏ウラ\」1語：「真マ\+→真裏マウラ」
「音オト\」1語：「羽ハ\+→羽音ハオト」
「鉤カギ\」1語：「手テ\+→手鉤テカギ（第2テ\カギ）」
「嵩カサ\」1語：「値ネ\+→値嵩ネガサ」
「柳カセ\（第2カ\セ）」1語：「手テ\+→手柳テ\カセ」
「方カタ\」3語：「子コ\+→子方コカタ」
「根ネ\+→根方ネカタ\（第2ネカタ）」
「目メ\+→目方メカタ」

「形カタ」 2語：「手テ」＋→「手形テガタ」
「歯ハ」＋→「歯形ハガタ」

「紙カミ」 2語：「生キ」＋→「生紙キガミ」
「手テ」＋→「手紙テガミ」

「革カワ」 1語：「背セ」 (第2セ) ＋→「背革セガワ」

「皮カワ」 1語：「毛ケ」＋→「毛皮ケガワ」

「菊㊦ク」 (第2㊦ク) 2語：「黄キ」 (第2キ) ＋→「黄菊キ」ギク (第2キギク)」
「野ノ」＋→「野菊ノ」ギク」

「岸㊦シ」 1語：「根ネ」＋→「根岸ネ」ギシ」

「際キワ」 2語：「手テ」＋→「手際テギワ」 (第2テギワ)」
「間マ」＋→「間際マ」ギワ」

「茎㊦キ」 1語：「歯ハ」＋→「歯茎ハ」グキ」

「草㊦サ」 1語：「藺イ」＋→「藺草イグサ」

「癖㊦セ」 1語：「手テ」＋→「手癖テ」セ」

「糞㊦ソ」 2語：「目メ」＋→「目糞メ」ソ」
「歯ハ」＋→「歯糞ハ」ソ」

「熊クマ」 (第2クマ) 1語：「子コ」＋→「子熊コグマ」

「鞍クラ」 1語：「荷ニ」 (第2ニ) ＋→「荷鞍ニグラ」

「肥コエ」 2語：「根ネ」＋→「根肥ネゴエ」 (第2ネゴエ)」
「穂ホ」＋→「穂肥ホゴエ」

「事コト」 1語：「手テ」＋→「手事テ」ゴト」

「潮シオ」 2語：「血チ」＋→「血潮」シオ」
「真マ」＋→「真潮マシオ」

「塩シオ」 1語：「手テ」＋→「手塩テシオ」 (第2テシオ) (第2テシオ)」

「下㊦タ」 (第2㊦タ) 3語：「手テ」＋→「手下テ」タ」
「真マ」＋→「真下マ」タ」
「目メ」＋→「目下メ」タ」 (第2メタ)」

「尻シリ」 2語：「目メ」＋→「目尻メ」ジリ」
「矢ヤ」＋→「矢尻ヤジリ」 (第2ヤジリ)」

「月㊦キ」 2語：「卯ウ」＋→「卯月ウ」ズキ」
「葉ハ」＋→「葉月ハ」ズキ」

「槌㊦チ」 1語：「木キ」＋→「木槌キ」ズチ」

「綱ツナ」 2語：「端ハ」＋→「端綱ハズナ」
「帆ホ」 (第2ホ) ＋→「帆綱ホズナ」

「脛スネ」 1語：「毛ケ」＋→「毛脛ケズネ」

「面ツラ」 1語：「野ノ」＋→「野面ノズラ」 (第2ノズラ)」

「蔓ツル」 (第2ツル) 1語：「手テ」＋→「手蔓テ」ズル」

「芹セリ」 2語：「田タ」＋→「田芹タ」ゼリ」
「根ネ」＋→「根芹ネ」ゼリ」 (第2ネゼリ)」

「丈タケ」 2語：「背セ」 (第2セ) ＋→「背丈セ」タケ」
「身ミ」＋→「身丈ミ」タケ」

「弾タマ」 1語：「矢ヤ」＋→「矢弾ヤダマ」

「玉タマ」 5語：「毛ケ」＋→「毛玉ケダマ」
「手テ」＋→「手玉テダマ」 (第2テダマ)」

「火ヒ\+→火玉ヒダマ\」
 「目メ\+→目玉メダマ\」
 「湯ユ\+→湯玉ユダマ」
 「年トシ\」 1 語：「亥イ (第 2 イ\)+→亥年イドシ」
 「波ナミ\」 1 語：「穂ホ\+→穂波ホナミ」
 「形ナリ\」 1 語：「身ミ\+→身形ミ\ナリ」
 「縄ナワ\」 3 語：「手テ\+→手縄テナワ (第 2 テ\ナワ)」
 「荷ニ\ (第 2 ニ)+→荷縄ニナワ」
 「火ヒ\+→火縄ヒナワ」
 「熨斗ノシ\」 2 語：「火ヒ\+→火熨斗ヒノシ\」
 「湯ユ\+→湯熨斗ユノシ\」
 「糊りノリ\」 1 語：「血チ\+→血糊りチノリ」
 「畑ハタ\ (第 2 ハ\タ)」 1 語：「田タ\+→田畑タ\ハタ」
 「機ハタ\」 1 語：「手テ\+→手機テバタ (第 2 テ\バタ)」
 「旗ハタ\」 1 語：「手テ\+→手旗テバタ」
 「鉢ハチ\ (第 2 ハチ)」 1 語：「火ヒ\+→火鉢ヒ\バチ」
 「花ハナ\」 3 語：「尾オ\+→尾花オ\バナ」
 「野ノ\+→野花ノ\バナ」
 「火ヒ\+→火花ヒ\バナ」
 「腹ハラ\」 1 語：「湯ユ\+→湯腹ユバラ」
 「昼ヒル\」 1 語：「真マ\+→真昼マヒル」
 「鱭ヒレ\」 3 語：「尾オ\+→尾鱭オ\ヒレ」
 「尾オ\+→尾鱭オ\ビレ (第 2 オビレ)」
 「背セ\ (第 2 セ)+→背鱭セビレ (第 2 セ\ビレ)」
 「房㊦サ\」 1 語：「乳チ\+→乳房チ\ブサ」
 「冬フユ\」 1 語：「真マ\+→真冬マフユ」
 「骨ホネ\」 1 語：「背セ\ (第 2 セ)+→背骨セボネ」
 「鞠マリ\」 1 語：「手テ\+→手鞠テマリ (第 2 テ\マリ)」
 「店ミセ\」 1 語：「夜ヨ\+→夜店ヨミセ」
 「飯メシ\」 2 語：「酢ス\+→酢飯スメシ」
 「菜ナ\+→菜飯ナ\メシ」
 「保モチ\」 2 語：「日ヒ (第 2 ヒ\)+→日保ヒモチ (第 2 ヒモチ\)」
 「火ヒ\+→火保ちヒモチ (第 2 ヒモチ\)」
 「物モノ\ (第 2 モノ)」 4 語：「端ハ\+→端物ハモノ」
 「刃ハ\+→刃物ハ\モノ」
 「葉ハ\+→葉物ハモノ」
 「実ミ\+→実物ミモノ」
 「山ヤマ\」 1 語：「野ノ\+→野山ノ\ヤマ」
 「業ワザ\」 1 語：「手テ\+→手業テワザ\ (第 2 テ\ワザ)」
 「腸ワタ\」 1 語：「背セ\ (第 2 セ)+→背腸セワタ」
 「綿ワタ\」 2 語：「穂ホ\+→穂綿ホワタ (第 2 ホ\ワタ)」
 「真マ\+→真綿マワタ」

1 拍漢語＋2 拍和語

前部要素語彙別

前部要素が平板型の9項目があり、合計29語である。

- 「気キ」3語：「＋早ハ\ヤ→気早キバヤ」
「＋骨ホネ\→気骨キボネ」
「＋前マ\エ→気前キマエ」
- 「座ザ（第2ザ\）」1語：「＋元モト（第2モ\ト）→座元ザモト\（第2ザモト）」
- 「書ショ（第2ショ\）」1語：「＋棚タナ→書棚ショダナ」
- 「序ジョ（第2ジョ\）」1語：「＋幕マク\→序幕ジョマク」
- 「茶チャ」15語：「＋色イロ\→茶色チャイロ」
「＋臼ウ\ス→茶臼チャウス」
「＋釜カマ→茶釜チャガマ（第2チャガマ\）」
「＋粥カユ→茶粥チャガユ」
「＋殻カラ\→茶殻チャガラ」
「＋匙サ\ジ（第2サジ\）→茶匙チャサジ」
「＋筒ツツ（第2ツツ\）→茶筒チャズツ」
「＋蕎麦ソ\バ→茶蕎麦チャソバ」
「＋棚タナ→茶棚チャダナ」
「＋壺ツボ→茶壺チャ\ツボ（第2チャツボ）」
「＋箱ハコ→茶箱チャバコ」
「＋花ハナ\→茶花チャバナ」
「＋腹ハラ\→茶腹チャバラ」
「＋店ミセ\→茶店チャミセ」
「＋飯メシ\→茶飯チャメシ」
- 「緋ヒ」2語：「＋色イロ\→緋色ヒイロ」
「＋鯉コ\イ→緋鯉ヒゴイ」
- 「魔マ（第2マ\）」2語：「＋風カゼ→魔風マ\カゼ（第2マカゼ）」
「＋物モノ\（第2モノ）→魔物マモノ」
- 「炉ロ」1語：「＋端ハタ→炉端ロバタ」
- 「櫓ロ」3語：「＋脚アシ\→櫓脚ロアシ」
「＋杭ク\イ→櫓杭ログイ」
「＋縄ナワ\→櫓縄ロナワ」

前部要素が起伏式の17項目があり、計28語である。

- 「絵エ\」4語：「＋絹キ\ヌ→絵絹エギ\ヌ（第2エ\ギヌ）」
「＋凧タ\コ→絵凧エダ\コ（第2エダコ）」
「＋札フダ→絵札エ\フダ」
「＋筆フデ→絵筆エ\フデ」
- 「下ゲ\（第2ゲ）」1語：「＋物モノ\（第2モノ）→下物ゲモノ」
- 「碁ゴ\（第2ゴ）」1語：「＋石イシ\→碁石ゴイシ」
- 「蛇ジャ\」3語：「＋籠カゴ→蛇籠ジャカゴ（第2ジャ\カゴ）」
「＋口㊦チ→蛇口ジャグチ」

「+腹ハラ\→蛇腹ジャバラ」
「朱シュ\」2語：「+鞆サ\ヤ→朱鞆シュザヤ」
「+墨スミ\→朱墨シュズミ」
「素ス\ (第2ス)」4語：「+足アシ\→素足ス\アシ」
「+唄ウタ\→素唄スウタ」
「+顔カオ→素顔ス\ガオ」
「+肌ハ\ダ→素肌ス\ハダ」
「凶ズ\」1語：「+星ホシ→凶星ズボシ (第2ズ\ボシ)」
「地チ\」1語：「+先サキ→地先㊦サキ」
「美ビ\」1語：「+肌ハ\ダ→美肌ビハダ」
「武ブ\」1語：「+鯛タ\イ→武鯛ブダイ」
「歩ホ\」1語：「+幅ハバ→歩幅ホハバ」
「無ム\ (第2ム)」2語：「+傷キズ→無傷ム\キズ」
「+腰コシ→無腰ム\ゴシ」
「利リ\ (第2リ)」2語：「+鞆サ\ヤ→利鞆リザヤ」
「+札フダ→利札リ\フダ」
「櫓ロ\」1語：「+櫓カ\イ→櫓櫓ロカイ」
「路ロ\」1語：「+肩カ\タ→路肩ロカタ」
「和ワ\」1語：「+事コト\→和事ワゴト」
「輪ワ\」1語：「+形ナリ\→輪形ワナリ」

後部要素語彙別

後部要素が50項目あり、前部要素の平板型と起伏式を分けて分析を行う。

後部要素が平板型の19項目があり、合計21語である。

「顔カオ」1語：「素ス\ (第2ス) +→素顔ス\ガオ」
「籠カゴ」1語：「蛇ジャ\+→蛇籠ジャカゴ (第2ジャ\カゴ)」
「風カゼ」1語：「魔マ (第2マ\)+→魔風マ\カゼ (第2マカゼ)」
「釜カマ」1語：「茶チャ+→茶釜チャガマ (第2チャガマ\)」
「粥カユ」1語：「茶チャ+→茶粥チャガユ」
「傷キズ」1語：「無ム\ (第2ム) +→無傷ム\キズ」
「口㊦チ」1語：「蛇ジャ\+→蛇口ジャグチ」
「腰コシ」1語：「無ム\ (第2ム) +→無腰ム\ゴシ」
「先サキ」1語：「地チ\+→地先㊦サキ」
「筒㊦ツ (第2㊦ツ\)」1語：「茶チャ+→茶筒チャズツ」
「棚タナ」2語：「書ショ (第2ショ\)+→書棚ショダナ」
「茶チャ+→茶棚チャダナ」
「壺ツボ」1語：「茶チャ+→茶壺チャ\ツボ (第2チャツボ)」
「箱ハコ」1語：「茶チャ+→茶箱チャバコ」
「端ハタ」1語：「炉ロ+→炉端ロバタ」
「幅ハバ」1語：「歩ホ\+→歩幅ホハバ」
「札フダ」2語：「絵エ\+→絵札エ\フダ」
「利リ\ (第2リ) +→利札リ\フダ」
「筆フデ」1語：「絵エ\+→絵筆エ\フデ」

「星ホシ」1語：「図ズ\＋→図星ズボシ（第2ズ\ボシ）」
「元モト（第2モ\ト）」1語：「座ザ（第2ザ\）＋→座元ザモト\（第2ザモト）」

後部要素が起伏式の頭高型の14項目があり、計16語である。

「臼ウ\ス」1語：「茶チャ＋→茶臼チャウス」
「櫓カ\イ」1語：「櫓ロ\＋→櫓櫓ロカイ」
「肩カ\タ」1語：「路ロ\＋→路肩ロカタ」
「絹キ\ヌ」1語：「絵エ\＋→絵絹エギ\ヌ（第2エ\ギヌ）」
「杭ク\イ」1語：「櫓ロ＋→櫓杭ログイ」
「鯉コ\イ」1語：「緋ヒ＋→緋鯉ヒゴイ」
「匙サ\ジ（第2サジ\）」1語：「茶チャ＋→茶匙チャサジ」
「鞆サ\ヤ」2語：「朱シュ\＋→朱鞆シュザヤ」
「利リ\（第2リ）＋→利鞆リザヤ」
「蕎麦ソ\バ」1語：「茶チャ＋→茶蕎麦チャソバ」
「鯛タ\イ」1語：「武ブ\＋→武鯛ブダイ」
「凧タ\コ」1語：「絵エ\＋→絵凧エダ\コ（第2エダコ）」
「肌ハ\ダ」2語：「素ス\（第2ス）＋→素肌ス\ハダ」
「美ビ\＋→美肌ビハダ」
「早ハ\ヤ」1語：「気キ＋→気早キバヤ」
「前マ\エ」1語：「気キ＋→気前キマエ」

後部要素が起伏式の尾高型の17項目があり、計20語である。

「脚アシ\」1語：「櫓ロ＋→櫓脚ロアシ」
「足アシ\」1語：「素ス\（第2ス）＋→素足ス\アシ」
「石イシ\」1語：「碁ゴ\（第2ゴ）＋→碁石ゴイシ」
「色イロ\」2語：「茶チャ＋→茶色チャイロ」
「緋ヒ＋→緋色ヒイロ」
「唄ウタ\」1語：「素ス\（第2ス）＋→素唄スウタ」
「殻カラ\」1語：「茶チャ＋→茶殻チャガラ」
「事コト\」1語：「和ワ\＋→和事ワゴト」
「墨スミ\」1語：「朱シュ\＋→朱墨シュズミ」
「形ナリ\」1語：「輪ワ\＋→輪形ワナリ」
「縄ナワ\」1語：「櫓ロ＋→櫓縄ロナワ」
「花ハナ\」1語：「茶チャ＋→茶花チャバナ」
「腹ハラ\」2語：「蛇ジャ\＋→蛇腹ジャバラ」
「茶チャ＋→茶腹チャバラ」
「骨ホネ\」1語：「気キ＋→気骨キボネ」
「幕マク\」1語：「序ジョ（第2ジョ\）＋→序幕ジョマク」
「店ミセ\」1語：「茶チャ＋→茶店チャミセ」
「飯メシ\」1語：「茶チャ＋→茶飯チャメシ」
「物モノ\（第2モノ）」2語：「下ゲ\（第2ゲ＋→下物ゲモノ」
「魔マ（第2マ\）＋→魔物マモノ」

2 拍和語+2 拍和語

前部要素語彙別

前部要素が 432 項目あり、前部要素の平板型と起伏式を分けて分析を行う。

前部要素が平板型の 136 項目があり、合計 432 語である。

- 「赤アカ」1 語：「+房㊦サ\→赤房アカブサ」
「味アジ」1 語：「+玉タマ\→味玉アジタマ」
「宛アテ」1 語：「+先サキ\→宛先アテサキ」
「姉アネ」2 語：「+上ウエ\→姉上アネ\ウエ」
 「+婿ム\コ\→姉婿アネム\コ」
「飴アメ」2 語：「+色イロ\→飴色アメイロ」
 「+玉タマ\→飴玉アメダマ」
「蟻アリ」1 語：「+塚㊦カ\→蟻塚アリズカ」
「烏賊イカ」2 語：「+墨スミ\→烏賊墨イカスミ」
 「+飯メシ\→烏賊飯イカメシ」
「粹イキ」2 語：「+事コト\→粹事イキ\ゴト（第 2 イキゴト）」
 「+筋ス\ジ\→粹筋イ㊦スジ（第 2 イ㊦\スジ）（第 2 イ㊦ス\ジ）」
「上ウエ（第 2 ウエ\）」3 語：「+様サマ\→上様ウ\エサマ」
 「+様サマ\→上様ウ\エサマ（第 2 ウエ\サマ）」
 「+下㊦タ\（第 2 ㊦タ）\→上下ウエ\㊦タ」
「魚ウオ」1 語：「+市イ\チ\→魚市ウオ\イチ（第 2 ウオイ\チ）」
「牛ウシ」1 語：「+小屋コヤ\（第 2 コヤ）\→牛小屋ウシゴヤ」
「丑ウシ」1 語：「+寅トラ\→丑寅ウ㊦トラ」
「牛ウシ」1 語：「+方カタ\→牛方ウ㊦カタ」
「内ウチ」13 語：「+海ウ\ミ\→内海ウチウミ」
 「+釜カマ\→内釜ウチガマ」
 「+側ガワ\→内側ウチガワ」
 「+面ツラ\→内面ウチズラ」
 「+庭ニワ\→内庭ウチニワ」
 「+風呂フロ\→内風呂ウチフロ」
 「+堀ホリ\→内堀ウチボリ」
 「+幕マク\→内幕ウチマク」
 「+孫マゴ\→内孫ウチマゴ」
 「+股マタ\→内股ウチマタ」
 「+股モ\モ\→内股ウチモモ」
 「+粹ワク\→内粹ウチワク」
 「+外ソ\ト\→内外ウ㊦ソ\ト」
「梅ウメ」1 語：「+鉢ハチ\（第 2 ハチ）\→梅鉢ウメバチ（第 2 ウメ\バチ）」
「枝エダ」4 語：「+川カワ\→枝川エダガワ」
 「+炭スミ\→枝炭エダズミ」
 「+豆マメ\→枝豆エダマメ」
 「+道ミチ\→枝道エダミチ」
「江戸エド」2 語：「+棲ツマ\→江戸棲エドズマ」
 「+前マ\エ\→江戸前エドマエ」

「海老エビ」2語：「+蟹カニ→海老蟹エビガニ」
「+腰コシ→海老腰エビゴシ」

「鰓エラ」2語：「+穴アナ→鰓穴エラアナ」
「+蓋フタ→鰓蓋エラフタ」

「沖オキ」1語：「+醬蝦アミ→沖醬蝦オキアミ」

「伯母オバ」2語：「+上ウエ→伯母上オバウエ」
「+様サマ→伯母様オバサマ」

「顔カオ」1語：「+色イロ→顔色カオイロ」

「柿カキ」2語：「+色イロ→柿色カキイロ」
「+渋シブ→柿渋カ[㊦]シブ」

「崖ガケ」1語：「+道ミチ→崖道ガケミチ（第2ガケミチ）」

「瘡カサ」1語：「+蓋[㊦]タ→瘡蓋カサブタ」

「蟹カニ」2語：「+玉タマ→蟹玉カニタマ」
「+股マタ→蟹股ガニマタ」

「金カネ」5語：「+蔵クラ→金蔵カネグラ」
「+肥コエ→金肥カネゴエ」
「+高タカ→（第2タカ）→金高カネダカ」
「+箱ハコ→金箱カネバコ」
「+元モト（第2モト）→金元カネモト」

「株カブ」1語：「+主ヌシ→株主カブヌシ（第2カブヌシ）」

「壁カベ」4語：「+板イタ→壁板カベイタ」
「+紙カミ→壁紙カベガミ」
「+際キワ→壁際カベギワ」
「+土[㊦]チ→壁土カベ[㊦]チ」

「釜カマ」2語：「+飯メシ→釜飯カマメシ」
「+元モト（第2モト）→釜元カマモト」

「窯カマ」1語：「+元モト（第2モト）→窯元カマモト」

「粥カユ」1語：「+腹ハラ→粥腹カユバラ」

「柄ガラ」1語：「+物モノ→（第2モノ）→柄物ガラモノ」

「仮カリ」3語：「+親オヤ→仮親カリオヤ」
「+小屋コヤ→（第2コヤ）→仮小屋カリゴヤ」
「+橋ハシ→仮橋カリバシ」

「爛カン（第2カシ）」1語：「+酒サケ→爛酒カンザケ（第2カシザケ）」

「雉キジ」2語：「+鳩ハト→雉鳩キジバト」
「+笛フエ→雉笛キジブエ（第2キジブエ）」

「傷キズ」3語：「+痕アト→傷痕キズアト」
「+口[㊦]チ→傷口キズグチ」
「+物モノ→（第2モノ）→傷物キズモノ」

「北[㊦]タ（第2[㊦]タシ）」5語：「+風カゼ→北風[㊦]タカゼ（第2[㊦]タカゼ）」
「+側ガワ→北側[㊦]タガワ」
「+国クニ→北国[㊦]タシグニ」
「+窓マド→北窓[㊦]タマド」
「+山ヤマ→北山[㊦]タヤマ」

「釘クギ」1語：「+箱ハコ→釘箱クギバコ」

- 「紵^ツケ」1語：「+針ハ^ハリ→紵針^ツケバ^ハリ（第2^ツケバリ）（第2^ツケ^ハバリ）」
- 「口^クチ」12語：「+金カネ→口金^クチガネ」
「+癖^クセ→口癖^クチグセ」
「+先サキ→口先^クチサキ」
「+伝^ツテ→口伝^クチズテ」
「+髭ヒゲ→口髭^クチヒゲ（第2^クチ^ハヒゲ）」
「+笛フエ→口笛^クチブエ（第2^クチブ^ハエ）」
「+下手ヘタ→口下手^クチベタ」
「+紅ベ^ベニ→口紅^クチベニ」
「+前マ^マエ→口前^クチマエ」
「+真似マネ→口真似^クチマネ」
「+元モト（第2モ^ハト）→口元^クチモト」
「+悪ワ^ワル→口悪^クチワル」
- 「国クニ」3語：「+民タ^タミ→国民クニタミ」
「+鱒マス→国鱒クニマス」
「+元モト（第2モ^ハト）→国元クニモト」
- 「首クビ」4語：「+桶オ^オケ→首桶クビオ^オケ（第2クビオケ）」
「+枷カセ→首枷クビカセ（第2カ^ハセ）」
「+塚ツカ→首塚クビヅカ」
「+筋ス^スジ→首筋クビスジ」
- 「鋏クワ」1語：「+形カタ→鋏形クワガタ」
- 「螻蛄ケラ（第2ケラ^ハ）」1語：「+首クビ→螻蛄首ケラクビ」
- 「腰コシ」8語：「+板イ^イタ→腰板コシイタ」
「+帯オ^オビ→腰帯コシオビ（第2コシオ^ハビ）」
「+高タカ→腰高コシダカ（第2タ^ハカ）」
「+縄ナワ→腰縄コシナワ」
「+紐ヒモ→腰紐コシヒモ（第2コシ^ハヒモ）」
「+骨ボネ→腰骨コシボネ」
「+蓑ミ^ミノ→腰蓑コシミノ」
「+元モト（第2モ^ハト）→腰元コシモト」
- 「小手コテ」1語：「+先サキ→小手先コテサキ」
- 「先サキ」6語：「+頃コ^コロ→先頃サキ^コゴロ（第2サキゴ^ハロ）」
「+高タカ→先高サキダカ（第2タ^ハカ）」
「+物モノ→先物サキモノ（第2モノ^ハ）」
「+山ヤマ→先山サキヤマ」
「+様サマ→先様サ^ササマ」
「+程ホド→先程サ^サホド」
- 「酒サケ」3語：「+粕カ^カス→酒粕サケカス」
「+癖^クセ→酒癖サケグセ」
「+壺ツボ→酒壺サケツボ」
- 「笹ササ」5語：「+飴アメ→笹飴ササアメ（第2ササ^ハアメ）」
「+垣カキ→笹垣ササガキ」
「+原ハ^ハラ→笹原ササハラ」
「+舟フ^フネ→笹舟ササブネ」

- 「+藪ヤブ→笹藪ササヤブ」
- 「里サト」6語：「+芋イモ→里芋サトイモ」
「+親オヤ→里親サトオヤ」
「+方カタ→里方サトカタ」
「+腹ハラ→里腹サトバラ」
「+人ヒト（第2ヒト）→里人サトビト」
「+山ヤマ→里山サトヤマ」
- 「鯖サバ」2語：「+雲クモ→鯖雲サバグモ」
「+寿司シ（第2シ）→鯖寿司サバズシ（第2サバズシ）」
- 「鮫サメ」1語：「+肌ハダ→鮫肌サメハダ」
- 「鹿シカ（第2シカ）」2語：「+皮カワ→鹿皮シカガワ」
「+笛フエ→鹿笛シカブエ（第2シカブエ）」
- 「下シタ（第2シタ）」10語：「+顎アゴ→下顎シタアゴ」
「+枝エダ→下枝シタエダ」
「+帯オビ→下帯シタオビ」
「+陰カゲ→下陰シタカゲ」
「+金カネ→下金シタガネ」
「+草クサ→下草シタクサ」
「+靴ツツ→下靴シタグツ」
「+露ツユ→下露シタツユ（第2シタツユ）」
「+腹ハラ→下腹シタハラ」
「+町マチ→下町シタマチ」
- 「品シナ（第2シナ）」2語：「+数カズ→品数シナカズ」
「+物モノ（第2モノ）→品物シナモノ」
- 「柴シバ」3語：「+垣カキ→柴垣シバガキ」
「+栗クリ→柴栗シバグリ」
「+笛フエ→柴笛シバブエ（第2シバブエ）」
- 「芝シバ」2語：「+海老エビ→芝海老シバエビ（第2シバエビ）」
「+原ハラ→芝原シバハラ」
- 「皺シワ」2語：「+紙カミ→皺紙シワガミ」
「+腹ハラ→皺腹シワバラ」
- 「杉スギ」6語：「+綾アヤ→杉綾スギアヤ」
「+板イタ→杉板スギイタ」
「+垣カキ→杉垣スギガキ（第2スギガキ）」
「+皮カワ→杉皮スギカワ」
「+苔コケ→杉苔スギゴケ」
「+箸ハシ→杉箸スギバシ」
- 「菅スゲ」1語：「+笠カサ→菅笠スゲガサ（第2スゲガサ）」
- 「助ケ（第2ケ）」1語：「+太刀タチ→助太刀ケダチ」
- 「鈴スズ」1語：「+虫ムシ→鈴虫スズムシ」
- 「裾ソ」1語：「+綿ワタ→裾綿ソワタ」
- 「砂スナ」6語：「+壁カベ→砂壁スナカベ」
「+肝キモ→砂肝スナギモ」
「+浜ハマ→砂浜スナハマ」

- 「+原ハ\ラ→砂原スナハラ」
「+風呂フロ\→砂風呂スナブロ」
「+山ヤマ\→砂山スナヤマ」
- 「底ソコ」3語：「+魚ウオ→底魚ソコウオ」
「+土ツチ\→底土ソコツチ」
「+無しナ\シ→底無しソコナシ」
- 「袖ソデ」8語：「+烏賊イカ→袖烏賊ソデ\イカ」
「+裏ウラ\→袖裏ソデウラ」
「+垣カキ\→袖垣ソデガキ」
「+口クチ→袖口ソデグチ」
「+丈タケ\→袖丈ソデ\タケ」
「+幅ハバ→袖幅ソデ\ハバ」
「+幕マク\→袖幕ソデマク」
「+山ヤマ\→袖山ソデヤマ」
- 「滝タキ」4語：「+川カワ\→滝川タキガワ」
「+口クチ→滝口タキグチ」
「+縞シマ\→滝縞タキジマ」
「+壺ツボ→滝壺タツボ」
- 「竹タケ」10語：「+馬ウマ\→竹馬タケウマ」
「+垣カキ\→竹垣タケガキ」
「+籠カゴ→竹籠タケカゴ」
「+釘クギ→竹釘タケクギ（第2タケ\クギ）」
「+竿サオ\→竹竿タケザオ」
「+筒ツツ（第2ツツ\）→竹筒タケズツ」
「+箒ハ\シ→竹箒タケバシ」
「+篋ヘ\ラ（第2ヘラ\）→竹篋タケベラ」
「+藪ヤブ→竹藪タケヤブ」
「+槍ヤリ→竹槍タケヤリ」
- 「棚タナ」1語：「+板イ\タ→棚板タナイタ」
- 「樽タル」2語：「+柿カキ→樽柿タルガキ（第2タル\ガキ）」
「+酒サケ→樽酒タルザケ」
- 「茶屋チャヤ」1語：「+酒サケ→茶屋酒チャヤ\ザケ（第2チャヤザケ）」
- 「塵チリ」1語：「+紙カミ\→塵紙チリガミ」
- 「辻ツジ」4語：「+駕籠カゴ→辻駕籠ツジカゴ（第2ツジ\カゴ）」
「+君キミ→辻君ツジギミ（第2ツジ\ギミ）」
「+棲ツマ\→辻棲ツジツマ」
「+札フダ→辻札ツジ\フダ」
- 「筒ツツ（第2ツツ\）」5語：「+音オト\→筒音ツツオト」
「+口クチ→筒口ツツグチ」
「+先サキ→筒先ツツサキ」
「+袖ソデ→筒袖ツツソデ（第2ツツソデ\）」
「+鳥トリ→筒鳥ツツ\ドリ」
- 「壺ツボ」2語：「+網アミ\→壺網ツボアミ」
「+金カネ→壺金ツボガネ」

- 「坪ツボ」1語：「+庭ニワ→坪庭ツボニワ」
- 「爪ツメ」1語：「+痕ア\ト→爪痕ツメアト」
- 「艶ツヤ」3語：「+事コト\→艶事ツヤゴト」
「+種タ\ネ→艶種ツヤダネ」
「+物モノ\ (第2モノ) →艶物ツヤモノ」
- 「梅雨ツユ」3語：「+型カタ\→梅雨型ツユガタ」
「+空ソ\ラ→梅雨空ツユゾラ (第2ツユゾ\ラ)」
「+時トキ\→梅雨時ツユドキ」
- 「床トコ」4語：「+板イ\タ→床板トコイタ」
「+土ツチ\→床土トコツチ」
「+店ミセ\→床店トコミセ」
「+山ヤマ\→床山トコヤマ」
- 「溝ドブ」4語：「+池イケ\→溝池ドブイケ」
「+板イ\タ→溝板ドブイタ」
「+川カワ\→溝川ドブガワ」
「+泥ドロ\→溝泥ドブドロ」
- 「共トモ」3語：「+裏ウラ\→共裏トモウラ」
「+襟エリ\→共襟トモエリ」
「+蓋フタ→共蓋トモフタ」
- 「虎トラ」2語：「+髭ヒゲ→虎髭トラヒゲ」
「+河豚フ\グ→虎河豚トラフグ」
- 「鳥トリ」10語：「+網アミ\→鳥網トリアミ」
「+貝カ\イ→鳥貝トリ\ガイ」
「+影カ\ゲ→鳥影トリカゲ」
「+籠カゴ→鳥籠トリカゴ」
「+小屋コヤ\ (第2コヤ) →鳥小屋トリゴヤ」
「+竿サオ\→鳥竿トリザオ」
「+鍋ナ\ベ→鳥鍋トリナベ」
「+肌ハ\ダ→鳥肌トリハダ」
「+飯メシ\→鳥飯トリメシ」
「+糰モ\チ→鳥糰トリモチ (第2トリモ\チ)」
- 「錠ナタ」1語：「+豆マメ\→錠豆ナタマメ (第2ナタ\マメ)」
- 「何ナニ (第2ナ\ニ)」5語：「+事コト\→何事ナニゴト」
「+様サマ\→何様ナニサマ」
「+人ヒト (第2ヒト\) →何人ナニヒト」
「+物モノ\ (第2モノ) →何物ナニモノ」
「+奴ヤ\ツ→何奴ナニヤツ」
- 「並ナミ」3語：「+足アシ\→並足ナミアシ」
「+幅ハバ→並幅ナミハバ (第2ナミ\ハバ)」
「+物モノ\ (第2モノ) →並物ナミモノ」
- 「西ニシ」2語：「+方カタ\→西方ニシガタ」
「+側ガワ→西側ニシガワ」
- 「虹ニジ」1語：「+鱒マス\→虹鱒ニジマス (第2ニジ\マス)」
- 「西ニシ」1語：「+風カゼ→西風ニシカゼ」

- 「偽ニセ」2語：「+金カネ→偽金ニセガネ」
「+物モノ\ (第2モノ) →偽物ニセモノ」
- 「庭ニワ」5語：「+石イシ\ →庭石ニワイシ」
「+草クサ\ →庭草ニワクサ」
「+口クチ\ →庭口ニワグチ」
「+先サキ\ →庭先ニワサキ」
「+土ツチ\ →庭土ニワツチ」
- 「緯ヌキ」1語：「+糸イト\ →緯糸ヌキイト (第2ヌキイト)」
- 「軒ノキ」2語：「+下タ\ (第2タ) →軒下ノキタ」
「+先サキ\ →軒先ノキサキ」
- 「箱ハコ」2語：「+庭ニワ\ →箱庭ハコニワ」
「+舟フネ\ →箱舟ハコブネ」
- 「端ハン」1語：「+布キレ\ →端布ハンギレ」
- 「蓮ハス」2語：「+池イケ\ →蓮池ハスイケ」
「+糸イト\ →蓮糸ハスイト」
- 「鼻ハナ」13語：「+息イ\ キ\ →鼻息ハナイキ」
「+風邪カゼ\ →鼻風邪ハナカゼ (第2ハナカゼ)」
「+紙カミ\ →鼻紙ハナガミ」
「+糞クソ\ →鼻糞ハナクソ」
「+声コ\ エ\ →鼻声ハナゴエ (第2ハナゴエ)」
「+先サキ\ →鼻先ハナサキ」
「+汁シ\ ル\ →鼻汁ハナジル」
「+筋ス\ ジ\ →鼻筋ハナスジ」
「+綱ツナ\ →鼻綱ハナズナ」
「+面ツラ\ →鼻面ハナズラ」
「+高タカ\ (第2タカ) →鼻高ハナタカ」
「+水ミズ\ →鼻水ハナミズ (第2ハナミズ)」
「+元モト\ (第2モト) →鼻元ハナモト」
- 「羽根ハネ」1語：「+形カタ\ →羽根形ハネガタ」
- 「薔薇バラ」1語：「+色イロ\ →薔薇色バライロ」
- 「稗ヒエ (第2ヒエ)」1語：「+飯メシ\ →稗飯ヒエメシ (第2ヒエメシ)」
- 「髭ヒゲ」1語：「+面ツラ\ →髭面ヒゲズラ」
- 「曾孫 (第2孫)」1語：「+孫マゴ\ →曾孫コマゴ (第2コマゴ)」
- 「膝ヒザ」2語：「+骨ホネ\ →膝骨ヒザボネ」
「+元モト\ (第2モト) →膝元ヒザモト」
- 「菱シ」3語：「+形カタ\ →菱形シガタ」
「+形ナリ\ →菱形シナリ」
「+餅モチ\ →菱餅シモチ」
- 「人ト」17語：「+足アシ\ →人足トアシ」
「+穴アナ\ →人穴トアナ」
「+影カ\ ゲ\ →人影トカゲ」
「+数カ\ ズ\ →人数トカズ」
「+形カタ\ →人形トガタ」
「+声コ\ エ\ →人声トゴエ」

- 「+里サト→人里㊦トザト」
「+様サマ\→人様㊦ト\サマ」
「+伝ツテ\→人伝㊦トズテ」
「+妻ツ\マ→人妻㊦トズマ」
「+波ナミ\→人波㊦トナミ」
「+肌ハ\ダ→人肌㊦トハダ」
「+前マ\エ→人前㊦トマエ」
「+真似マネ→人真似㊦トマネ」
「+群れムレ\→人群れ㊦ト\ムレ」
「+山ヤマ\→人山㊦トヤマ」
「+悪ワ\ル→人悪㊦トワル」
- 「紐ヒモ」1語：「+革カワ\→紐革ヒモカワ」
「鱻㊦カ（第2㊦カ\）」1語：「+鱻ヒレ\→鱻鱻㊦カヒレ」
「藤フジ」3語：「+色イロ\→藤色フジイロ」
「+棚タナ→藤棚フジダナ」
「+波ナミ\→藤波フジナミ」
- 「豚ブタ」3語：「+小屋コヤ\（第2コヤ）→豚小屋ブタゴヤ」
「+箱ハコ→豚箱ブタバコ」
「+腹ハラ\→豚腹ブタバラ」
- 「蓋㊦タ」1語：「+物モノ\（第2モノ）→蓋物㊦タモノ」
「星ホシ」3語：「+空ゾ\ラ→星空ホシゾ\ラ（第2ホシゾラ）」
「+影カ\ゲ→星影ホ㊦カゲ（第2ホ㊦カ\ゲ）」
「+屑ク\ズ→星屑ホ㊦クズ（第2ホ㊦ク\ズ）」
- 「筆フデ」4語：「+先サキ→筆先フデサキ（第2フデサキ\）」
「+塚ツカ\→筆塚フデズカ」
「+箱ハコ→筆箱フデバコ」
「+忠実マメ→筆忠実フデマメ」
- 「髻マゲ」1語：「+物モノ\（第2モノ）→髻物マゲモノ」
「真っマツ」4語：「+黒ク\ロ→真っ黒マツク\ロ」
「+先サキ→真っ先マツサ\キ（第2マツサキ\）」
「+白シ\ロ→真っ白マツシ\ロ」
「+平ビ\ラ→真っ平マツビ\ラ」
- 「真似マネ」1語：「+事コト\→真似事マネゴト」
「丸マル」8語：「+襟エリ\→丸襟マルエリ」
「+帯オ\ビ→丸帯マルオビ」
「+顔カオ→丸顔マルガオ」
「+形カタ\→丸形マルガタ」
「+首クビ→丸首マルクビ」
「+腰コシ→丸腰マルゴシ」
「+髻ノ\ミ→丸髻マルノミ」
「+屋根ヤ\ネ→丸屋根マルヤネ」
- 「円マル」1語：「+窓マ\ド→円窓マルマド」
「水ミズ」21語：「+垢アカ\→水垢ミズアカ」
「+飴アメ→水飴ミズアメ」

- 「+芋イモ\→水芋ミズイモ」
「+色イロ\→水色ミズイロ」
「+桶オ\ケ→水桶ミズオケ（第2ミズオ\ケ）」
「+音オト\→水音ミズオト」
「+貝カ\イ→水貝ミズ\ガイ」
「+髪カミ\→水髪ミズガミ」
「+甕カメ\→水甕ミズガメ」
「+際キワ\→水際ミズギワ」
「+草㊦サ\→水草ミズ㊦サ」
「+肥コエ\→水肥ミズゴエ」
「+苔コケ\→水苔ミズゴケ」
「+玉タマ\→水玉ミズタマ」
「+洩ハナ→水洩ミズバナ（第2ミズバナ\）」
「+腹ハラ\→水腹ミズバラ」
「+船フ\ネ→水船ミズブネ」
「+風呂フロ\→水風呂ミズブロ」
「+虫ムシ→水虫ミズムシ」
「+餅モチ→水餅ミズモチ（第2ミズモ\チ）（第2ミズ\モチ）」
「+物モノ\（第2モノ）→水物ミズモノ」
- 「溝ミヅ」1語：「+萩ハ\ギ（第2ハギ）（第3ハギ\）→溝萩ミヅハギ」
- 「道ミチ」8語：「+糸イ\ト→道糸ミチイト」
「+草㊦サ\→道草ミチ㊦サ」
「+形ナリ\→道形ミチナリ」
「+端ハタ→道端ミチバタ」
「+幅ハバ→道幅ミチハバ」
「+芝シバ→道芝ミ㊦シバ」
「+筋ス\ジ→道筋ミ㊦スジ」
- 「壬生ミブ」1語：「+寺テラ\→壬生寺ミブデラ」
- 「宮ミヤ」2語：「+様サマ\→宮様ミヤサマ」
「+人ヒト（第2ヒト\）→宮人ミヤビト」
- 「虫ムシ」2語：「+笛フエ→虫笛ムシブエ（第2ムシブ\エ）」
「+籠カゴ→虫籠ム㊦カゴ」
- 「餅モチ」4語：「+網アミ\→餅網モチアミ」
「+草㊦サ\→餅草モチグサ」
「+肌ハ\ダ→餅肌モチハダ」
「+花ハナ\→餅花モチバナ」
- 「粬モミ」2語：「+種タ\ネ→粬種モミダネ（第2モミダ\ネ）」
「+糠ヌガ\（第2ヌガ）→粬糠モミヌガ」
- 「桃モモ」2語：「+色イロ\→桃色モモイロ」
「+山ヤマ\→桃山モモヤマ」
- 「藪ヤブ」3語：「+陰カ\ゲ→藪陰ヤブカゲ（第2ヤブカ\ゲ）」
「+蕎麦ソ\バ→藪蕎麦ヤブソバ」
「+蛇へ\ビ→藪蛇ヤブヘビ」
- 「槍ヤリ」4語：「+烏賊イカ→槍烏賊ヤリ\イカ（第2ヤリイカ）」

- 「+傷キズ→槍傷ヤリ\キズ (第2ヤリキズ)」
「+先サキ→槍先ヤリサキ」
「+玉タマ\→槍玉ヤリダマ」
- 「タユー (第2ユ\ー)」 15 語：「+顔カオ→夕顔ユーガオ」
「+影カ\ゲ→夕影ユーカーゲ (第2ユーカー\ゲ)」
「+風カゼ→夕風ユーカーゼ」
「+方カタ\→夕方ユーガタ」
「+霧キリ→夕霧ユーギリ」
「+雲ク\モ→夕雲ユーグモ」
「+潮シオ\→夕潮ユーシオ」
「+霜シモ\→夕霜ユージモ」
「+月☾キ\→夕月ユーズキ」
「+蟬セミ→夕蟬ユーゼミ」
「+風ナギ\→夕風ユーナギ」
「+波ナミ\→夕波ユーナミ」
「+飯メシ\→夕飯ユーマシ」
「+靄モ\ヤ→夕靄ユーマヤ」
「+闇ヤミ\→夕闇ユーマヤ」
- 「床ユカ」 3 語：「+板イ\タ→床板ユカイト」
「+上ウエ→床上ユカウエ」
「+下☺タ\ (第2☺タ) →床下ユカ☺タ」
- 「桁ユ☺」 1 語：「+丈タケ\→桁丈ユ☺\タケ (第2ユ☺タ\ケ)」
- 「宵ヨイ」 2 語：「+宮ミヤ→宵宮ヨイミヤ」
「+闇ヤミ\→宵闇ヨイヤミ」
- 「横ヨコ」 16 語：「+穴アナ\→横穴ヨコアナ」
「+糸イ\ト→横糸ヨコイト」
「+顔カオ→横顔ヨコガオ」
「+風カゼ→横風ヨコカゼ」
「+櫛☺シ\→横櫛ヨコグシ」
「+雲ク\モ→横雲ヨコグモ」
「+様サマ\→横様ヨコザマ」
「+縞シマ\→横縞ヨコジマ」
「+綱ツナ\→横綱ヨコズナ」
「+波ナミ\→横波ヨコナミ」
「+幅ハバ→横幅ヨコハバ」
「+腹ハラ\→横腹ヨコバラ」
「+襜ヒ\ダ→横襜ヨコヒダ」
「+笛フエ→横笛ヨコブエ」
「+道ミチ→横道ヨコミチ」
「+槍ヤリ→横槍ヨコヤリ」
- 「鷺ワシ」 1 語：「+鼻ハナ→鷺鼻ワシバナ」

前部要素が起伏式の頭高型の 155 項目があり、計 536 語である。

- 「間ア\イ」 2 語：「+鴨カ\モ→間鴨アイガモ」

- 「+駒コ\マ (第2 コマ) →間駒アイゴマ」
- 「藍ア\イ」2語：「+色イロ\→藍色アイイロ」
「+玉タマ\→藍玉アイダマ」
- 「相ア\イ」7語：「+方カタ\→相方アイカタ (第2 アイカタ\)」
「+槌ヅチ\→相槌アイズチ (第2 アイズチ\) (第2 アイズ\チ)」
「+殿ド\ノ→相殿アイドノ」
「+部屋ヘヤ\→相部屋アイベヤ」
「+星ホシ\→相星アイボシ」
「+宿ヤ\ド→相宿アイヤド (第2 アイヤ\ド)」
「+四つヨ\ツ→相四つアイヨツ」
- 「青ア\オ」20語：「+痣アザ\→青痣アオアザ」
「+色イロ\→青色アオイロ」
「+梅ウメ\→青梅アオ\ウメ (第2 アオウメ)」
「+貝カ\イ→青貝アオ\ガイ (第2 アオガイ)」
「+黴カビ\→青黴アオカビ」
「+桐キリ\→青桐アオギリ (第2 ア\オギリ)」
「+草クサ\→青草アオクサ」
「+苔コケ\→青苔アオゴケ」
「+鷺サギ\→青鷺アオサギ」
「+筋ス\ジ\→青筋アオスジ」
「+空ソ\ラ\→青空アオゾ\ラ」
「+竹タケ\→青竹アオダケ (第2 アオ\ダケ)」
「+葱ネ\ギ\→青葱アオネギ」
「+海苔ノリ\→青海苔アオ\ノリ (第2 アオノリ)」
「+蠅ハエ\→青蠅アオ\バエ (第2 アオバエ)」
「+漬ハナ\→青漬アオバナ」
「+房フサ\→青房アオブサ」
「+豆マメ\→青豆アオマメ (第2 アオ\マメ)」
「+虫ムシ\→青虫アオ\ムシ」
「+物モノ\ (第2 モノ) →青物アオ\モノ」
- 「赤ア\カ」25語：「+蟻アリ\→赤蟻アカアリ」
「+烏賊イカ\→赤烏賊アカ\イカ (第2 アカイカ)」
「+芋イモ\→赤芋アカイモ」
「+色イロ\→赤色アカイロ」
「+帯オ\ビ\→赤帯アカオビ」
「+貝カ\イ\→赤貝アカ\ガイ」
「+檜カ\シ\→赤檜アカガシ」
「+蕪カブ\→赤蕪アカカブ」
「+紙カミ\→赤紙アカガミ」
「+革カワ\→赤革アカガワ」
「+靴ツ\→赤靴アカグツ」
「+靴ツ\→赤靴アカグツ」
「+熊クマ\ (第2 ク\マ) →赤熊アカグマ」
「+米コメ\→赤米アカゴメ」

「+錆サビ\→赤錆アカサビ」
 「+皿サラ\→赤皿アカザラ」
 「+潮シオ\→赤潮アカシオ」
 「+土㊦チ\→赤土アカ㊦チ」
 「+茄子ナ\ス\→赤茄子アカナス」
 「+恥ハジ\→赤恥アカハジ」
 「+旗ハタ\→赤旗アカハタ」
 「+肌ハ\ダ\→赤肌アカハダ」
 「+髭ヒゲ\→赤髭アカヒゲ」
 「+札フダ\→赤札アカフダ」
 「+松マ\ツ\→赤松アカ\マツ (第2 アカマツ)」

「秋ア\キ」 9 語：「+味アジ\→秋味アキ\アジ」
 「+草㊦サ\→秋草アキ㊦サ (第2 アキ\㊦サ)」
 「+口㊦チ\→秋口アキ\グチ」
 「+肥コエ\→秋肥アキゴエ」
 「+空ソ\ラ\→秋空アキゾ\ラ (第2 アキゾラ)」
 「+茄子ナ\ス\→秋茄子アキナス (第2 アキナ\ス)」
 「+物モノ\ (第2 モノ) →秋物アキモノ」
 「+風カゼ\→秋風ア㊦\カゼ (第2 ア㊦カ\ゼ)」
 「+鯖サバ\→秋鯖ア㊦サバ (第2 ア㊦\サバ)」

「朝ア\サ」 13 語：「+市イ\チ\→朝市アサ\イチ」
 「+顔カオ\→朝顔アサ\ガオ」
 「+風カゼ\→朝風アサ\カゼ」
 「+方カタ\→朝方アサガタ」
 「+粥カユ\→朝粥アサガユ (第2 アサ\ガユ)」
 「+霧キリ\→朝霧アサ\ギリ」
 「+蜘蛛ク\モ\→朝蜘蛛アサグモ (第2 アサグ\モ)」
 「+酒サケ\→朝酒アサザケ (第2 アサ\ザケ)」
 「+露ツ\ユ\→朝露アサ\ツユ (第2 アサツユ)」
 「+風ナギ\→朝風アサナギ」
 「+風呂フロ\→朝風呂アサブロ」
 「+飯メシ\→朝飯アサメシ」
 「+タユ\ (第2 ユ\一) →朝夕ア\サユ」

「葦ア\シ」 2 語：「+原ハ\ラ\→葦原アシハラ」
 「+笛フエ\→葦笛アシブエ (第2 アシブ\エ)」

「汗ア\セ」 1 語：「+水ミズ\→汗水ア\セミズ」

「後ア\ト」 6 語：「+足アシ\→後足アト\アシ」
 「+味アジ\→後味アト\アジ (第2 アトアジ)」
 「+釜カマ\→後釜アトガマ (第2 アトガマ\)」
 「+口㊦チ\→後口アト㊦チ (第2 アト\㊦チ)」
 「+先サキ\→後先アト\サキ (第2 ア\トサキ)」
 「+腹ハラ\→後腹アトバラ」

「跡ア\ト」 1 語：「+形カタ\→跡形アトカタ」

「兄ア\ニ」 2 語：「+上ウエ\→兄上アニ\ウエ」

- 「+嫁ヨメ→兄嫁アニ\ヨメ」
- 「尼ア\マ」1語：「+寺テラ\→尼寺アマ\デラ（第2アマデラ）」
- 「雨ア\メ」2語：「+風カゼ→雨風ア\メカゼ（第2アメ\カゼ）」
「+露ツ\ユ→雨露ア\メツユ（第2アメ\ツユ）」
- 「粟ア\ワ」3語：「+粒ツ\ブ→粟粒アワツ\ブ」
「+飯メシ\→粟飯アワメシ（第2アワ\メシ）」
「+餅モチ→粟餅アワ\モチ」
- 「飯イ\ー」1語：「+蛸タ\コ→飯蛸イーダコ」
- 「板イ\タ」6語：「+金カネ→板金イタガネ」
「+壁カベ→板壁イタカベ（第2イタ\カベ）」
「+紙カミ\→板紙イタガミ」
「+橋ハシ\→板橋イタバシ」
「+前マ\エ→板前イタマエ」
「+屋根ヤ\ネ→板屋根イタヤネ」
- 「市イ\チ」1語：「+松マ\ツ→市松イチマツ」
- 「何時イ\ツ」1語：「+頃コ\ロ→何時頃イツゴロ」
- 「糸イ\ト」10語：「+屑ク\ズ→糸屑イトク\ズ（第2イトクズ）」
「+口㊦チ→糸口イト\グチ」
「+尻シリ\→糸尻イトジリ（第2イト\ジリ）」
「+杉スギ→糸杉イト\スギ」
「+爪ツメ→糸爪イト\ズメ」
「+底ソコ→糸底イトゾコ」
「+鋸ノ\コ→糸鋸イトノコ」
「+道ミチ→糸道イト\ミチ」
「+物モノ\（第2モノ）→糸物イト\モノ」
「+枠ワク\→糸枠イトワク」
- 「井戸イ\ド」2語：「+端ハタ→井戸端イドバタ」
「+水ミズ→井戸水イド\ミズ」
- 「今イ\マ」2語：「+頃コ\ロ→今頃イマゴロ」
「+時トキ\→今時イマドキ」
- 「氏ウ\ジ」1語：「+神カ\ミ→氏神ウジガミ（第2ウジ\ガミ）（第2ウジガ\ミ）」
- 「渦ウ\ズ」1語：「+潮シオ\→渦潮ウズシオ」
- 「海ウ\ミ」6語：「+風カゼ→海風ウミ\カゼ」
「+亀カ\メ→海亀ウミガメ」
「+鳥トリ→海鳥ウミ\ドリ」
「+端ハタ→海端ウミバタ」
「+蛇へ\ビ→海蛇ウミヘビ」
「+山ヤマ\→海山ウ\ミヤマ」
- 「蝦夷エ\ゾ」3語：「+菊㊦ク\（第2㊦ク）→蝦夷菊エゾ\ギク」
「+鹿㊦カ（第2㊦カ\）→蝦夷鹿エゾ㊦カ」
「+松マ\ツ→蝦夷松エゾ\マツ」
- 「奥オ\ク」4語：「+方カタ\→奥方オクガタ（第2オク\ガタ）」
「+山ヤマ\→奥山オクヤマ」
「+様サマ\→奥様オ\㊦サマ」

- 「+底ソコ→奥底オ㊦ソコ (第2オ㊦ソコ)」
- 「桶オ㊦ケ」1語:「+風呂フロ㊦→桶風呂オケフロ」
- 「帯オ㊦ビ」4語:「+金カネ→帯金オビガネ」
「+紙カミ㊦→帯紙オビガミ」
「+皮カワ㊦→帯皮オビカワ」
「+鋸ノ㊦コ→帯鋸オビノコ」
- 「貝カ㊦イ」2語:「+殻カラ㊦→貝殻カイガ㊦ラ (第2カイガラ)」
「+塚ツカ㊦→貝塚カイヅカ (第2カ㊦イズカ)」
- 「牡蠣カ㊦キ」3語:「+船フ㊦ネ→牡蠣船カキブネ (第2カキブ㊦ネ)」
「+飯メシ㊦→牡蠣飯カキメシ」
「+餅モチ→牡蠣餅カキ㊦モチ」
- 「陰カ㊦ゲ」2語:「+唄ウタ㊦→陰唄カゲ㊦ウタ」
「+口㊦チ→陰口カゲ㊦グチ」
- 「笠カ㊦サ」1語:「+松マ㊦ツ→笠松カサ㊦マツ」
- 「糟カ㊦ス」1語:「+汁シ㊦ル→糟汁カスジル (第2カスジ㊦ル)」
- 「数カ㊦ズ」1語:「+物モノ㊦ (第2モノ) →数物カズ㊦モノ」
- 「栞カ㊦セ」1語:「+糸イ㊦ト→栞糸カセイ㊦ト (第2カセイト)」
- 「肩カ㊦タ」8語:「+衣キ㊦ヌ→肩衣カタ㊦ギヌ」
「+口㊦チ→肩口カタ㊦グチ」
「+腰コシ→肩腰カタ㊦タコシ」
「+先サキ→肩先カタサキ (第2カタサキ㊦)」
「+幅ハバ→肩幅カタ㊦ハバ」
「+肘ヒジ㊦→肩肘カタ㊦タヒジ」
「+紐ヒモ→肩紐カタ㊦ヒモ (第2カタヒモ)」
「+山ヤマ㊦→肩山カタヤマ」
- 「片カ㊦タ (第2カタ㊦)」14語:「+足アシ㊦→片足カタアシ」
「+腕ウデ㊦→片腕カタウデ (第2カタウデ㊦)」
「+親オヤ㊦→片親カタオヤ」
「+陰カ㊦ゲ→片陰カタカ㊦ゲ (第2カタカゲ)」
「+口㊦チ→片口カタ㊦チ (第2カタ㊦チ)」
「+恋コ㊦イ→片恋カタコイ」
「+隅ス㊦ミ→片隅カタスミ (第2カタ㊦スミ)」
「+袖ソデ→片袖カタソデ (第2カタソデ㊦)」
「+端ハジ→片端カタハシ (第2カタハシ㊦)」
「+肌ハ㊦ダ→片肌カタハダ」
「+膝ヒザ→片膝カタヒザ」
「+肘ヒジ㊦→片肘カタヒジ」
「+道ミチ→片道カタミチ」
「+脇ワキ㊦→片脇カタワキ (第2カタワキ㊦)」
- 「角カ㊦ド」1語:「+部屋ヘヤ㊦→角部屋カドベヤ」
- 「門カ㊦ド」3語:「+口㊦チ→門口カド㊦グチ」
「+先サキ→門先カドサキ (第2カドサキ㊦)」
「+松マ㊦ツ→門松カド㊦マツ (第2カドマツ)」
- 「樺カ㊦バ」1語:「+色イロ㊦→樺色カバイロ」

「鎌カ\マ」1語：「+首クビ→鎌首カマ\クビ」
 「蝦蟇ガ\マ（第2ガマ）」1語：「+口㊦チ→蝦蟇ロガマグチ」
 「上カ\ミ」2語：「+方カタ\→上方カミガタ」
 「+下シモ\→上下カミ\シモ（第2カ\ミシモ）」
 「神カ\ミ」4語：「+風カゼ→神風カミ\カゼ」
 「+様サマ\→神様カ\ミサマ」
 「+棚タナ→神棚カミダナ」
 「+業ワザ\→神業カミワザ」
 「亀カ\メ」2語：「+節㊦シ\→亀節カメブシ」
 「+虫ムシ→亀虫カメ\ムシ」
 「木戸キ\ド」1語：「+口㊦チ→木戸ロキド\グチ」
 「絹キ\ヌ」3語：「+糸イ\ト→絹糸キヌイト」
 「+針ハ\リ→絹針キヌバ\リ（第2キヌ\バリ）」
 「+物モノ\（第2モノ）→絹物キヌ\モノ」
 「葛ク\ズ」1語：「+餅モチ→葛餅クズ\モチ」
 「屑ク\ズ」5語：「+糸イ\ト→屑糸クズイト」
 「+籠カゴ→屑籠クズ\カゴ」
 「+箱ハコ→屑箱クズバコ」
 「+繭マ\ユ→屑繭クズマユ（第2クズ\マユ）」
 「+物モノ\（第2モノ）→屑物クズ\モノ（第2クズモノ）」
 「雲ク\モ」3語：「+足アシ\→雲足クモアシ（第2クモアシ\）」
 「+形カタ\→雲形クモガタ」
 「+助㊦ケ（第2㊦ケ\）→雲助クモ\㊦ケ」
 「呉ク\レ」1語：「+竹タケ→呉竹クレタケ（第2クレ\タケ）」
 「黒ク\ロ」24語：「+糸イ\ト→黒糸クロイト」
 「+帯オ\ビ→黒帯クロオビ」
 「+黴カビ→黒黴クロカビ」
 「+髪カミ\→黒髪クロカミ（第2クロ\カミ）」
 「+靴㊦ツ\→黒靴クログツ」
 「+熊クマ\（第2ク\マ）→黒熊クロクマ」
 「+雲ク\モ→黒雲クロクモ」
 「+潮シオ\→黒潮クロシオ」
 「+白シ\ロ→黒白ク\ロシロ」
 「+鯛タ\イ→黒鯛クロダイ（第2クロ\ダイ）」
 「+足袋タ\ビ→黒足袋クロタビ」
 「+土㊦チ\→黒土クロ㊦チ」
 「+猫ネ\コ→黒猫クロネコ」
 「+豚ブタ→黒豚クロブタ」
 「+船フ\ネ→黒船クロフネ」
 「+星ホシ→黒星クロ\ボシ」
 「+幕マク\→黒幕クロマク」
 「+松マ\ツ→黒松クロマツ（第2クロ\マツ）」
 「+豆マメ\→黒豆クロマメ」
 「+御簾ミス→黒御簾クロミス」

- 「+鯉ム\ツ→黒鯉クロムツ」
「+山ヤマ\→黒山クロヤマ」
「+百合ユリ→黒百合クロ\ユリ」
「+梓ワク\→黒梓クロワク」
- 「今朝ケ\サ」1語：「+方カタ\→今朝方ケサガタ（第2ケサ\ガタ）」
「鯉コ\イ」1語：「+口㊦チ→鯉口コイ\グチ（第2コイグチ）（第2コ\イグチ）」
「琴コ\ト」2語：「+糸イ\ト→琴糸コトイト（第2コト\イト）」
「+爪ツメ→琴爪コト\ズメ（第2コトズメ）」
- 「小間コ\マ（第2コマ）」1語：「+物モノ\（第2モノ）→小間物コマモノ（第2コマ\モノ）」
- 「転コ\ロ」1語：「+柿カキ→転柿コロ\ガキ」
「菘サ\ヤ」1語：「+豆マメ\→菘豆サヤ\マメ」
「猿サ\ル」2語：「+股マタ\→猿股サルマタ」
「+真似マネ→猿真似サルマネ」
- 「篠シ\ノ（第2シノ\）」2語：「+原ハ\ラ→篠原シノ\ハラ」
「+笛フエ→篠笛シノブエ（第2シノブ\エ）」
- 「汁シ\ル」1語：「+物モノ\（第2モノ）→汁物シルモノ（第2シル\モノ）（第2シルモ\ノ）」
- 「白シ\ロ」21語：「+飴アメ→白飴シロアメ（第2シロ\アメ）」
「+蟻アリ→白蟻シロアリ」
「+糸イ\ト→白糸シロイト」
「+馬ウマ\→白馬シロウマ」
「+瓜ウ\リ→白瓜シロ\ウリ（第2シロウリ）」
「+襟エリ\→白襟シロエリ」
「+帯オ\ビ→白帯シロオビ」
「+絹キ\ヌ→白絹シロギヌ（第2シロギ\ヌ）」
「+熊クマ\（第2ク\マ）→白熊シロクマ」
「+黒ク\ロ→白黒シロクロ」
「+黒ク\ロ→白黒シ\ロクロ」
「+酒サケ→白酒シロザケ」
「+鮭サ\ケ→白鮭シロザ\ケ（第2シロザケ）」
「+皿サラ→白皿シロザラ」
「+下㊦タ\（第2㊦タ）→白下シロ㊦タ」
「+足袋タ\ビ→白足袋シロタビ」
「+布ヌノ→白布シロヌノ」
「+旗ハタ\→白旗シロハタ」
「+房フサ\→白房シロフサ」
「+星ホシ→白星シロ\ボシ」
「+豆マメ\→白豆シロマメ」
- 「直ス\グ」1語：「+様サマ\→直様ス\グサマ」
「筋ス\ジ」5語：「+金カネ→筋金スジガネ」
「+隈クマ\（第2ク\マ）→筋隈スジグマ」
「+雲ク\モ→筋雲スジグモ」
「+骨ホネ\→筋骨スジボネ」

「+道ミチ→筋道スジ\ミチ (第2 スジミチ)」
 「煤ス\ス (第2 スス\)」 2語：「+色イロ\→煤色ススイロ」
 「+竹タケ→煤竹スス\ダケ (第2 ススダケ)」
 「背セ\一」 1語：「+高タカ\ (第2 タ\カ) →背高セータカ」
 「瀬戸セ\ト」 2語：「+際キワ\→瀬戸際セトギワ」
 「+物モノ\ (第2 モノ) →瀬戸物セトモノ」
 「銭ゼ\ニ」 4語：「+形カタ\→銭形ゼニカタ」
 「+金カネ→銭金ゼ\ニカネ」
 「+亀カ\メ→銭亀ゼニガメ」
 「+箱ハコ→銭箱ゼニバコ」
 「外ソ\ト」 9語：「+海ウ\ミ→外海ソトウ\ミ (第2 ソトウミ)」
 「+釜カマ→外釜ソトガマ」
 「+側ガワ→外側ソトガワ」
 「+面ツラ\→外面ソトズラ」
 「+風呂フロ\→外風呂ソトフロ」
 「+堀ホリ\→外堀ソトボリ」
 「+孫マゴ\→外孫ソトマゴ」
 「+股マタ\→外股ソトマタ」
 「+杵ワク\→外杵ソトワク」
 「側ソ\バ」 1語：「+杖ツ\エ→側杖ソバズエ (第2 ソバズ\エ)」
 「蕎麦ソ\バ」 1語：「+殻カラ\→蕎麦殻ソバガラ」
 「空ソ\ラ」 3語：「+色イロ\→空色ソライロ」
 「+耳ミミ\→空耳ソラミミ」
 「+夢ユメ\→空夢ソラユメ」
 「鯛タ\イ」 2語：「+網アミ\→鯛網タイアミ」
 「+飯メシ\→鯛飯タイメシ」
 「蛸タ\コ」 2語：「+足アシ\→蛸足タコアシ (第2 タコ\アシ)」
 「+壺ツボ→蛸壺タコ\ツボ (第2 タコツボ)」
 「唯タ\ダ」 1語：「+事コト\→唯事タダゴト」
 「只タ\ダ」 3語：「+今イ\マ→只今タダイマ\」
 「+中ナ\カ→只中タダ\ナカ (第2 タダナカ)」
 「+人ヒト (第2 ヒト\) →只人タダヒト」
 「太刀タ\チ」 4語：「+魚ウオ→太刀魚タチ\ウオ」
 「+筋ス\ジ→太刀筋タチ\スジ」
 「+風カゼ→太刀風タチ\カゼ (第2 タチ\カ\ゼ)」
 「+先サキ→太刀先タチ\サキ (第2 タチ\サキ\)」
 「縦タ\テ」 6語：「+穴アナ\→縦穴タテアナ」
 「+糸イ\ト→縦糸タテイト」
 「+型カタ\→縦型タテガタ」
 「+縞シマ\→縦縞タテジマ」
 「+笛フエ→縦笛タテブエ (第2 タテ\ブエ)」
 「+横ヨコ→縦横タ\テヨコ」
 「種タ\ネ」 7語：「+板イ\タ→種板タネイタ」
 「+芋イモ\→種芋タネイモ」

「+牛ウシ→種牛タネウシ (第2 タネ\ウシ)」
 「+馬ウマ\→種馬タネウマ (第2 タネ\ウマ)」
 「+紙カミ\→種紙タネガミ」
 「+無しナ\シ→種無しタネナシ」
 「+物モノ\ (第2 モノ) →種物タネ\モノ (第2 タネモノ)」
 「民タ\ミ」1 語:「+草㊦サ\→民草タミ\㊦サ」
 「攪タ\モ」1 語:「+網アミ\→攪網タモアミ (第2 タモ\アミ)」
 「鱧タ\ラ」1 語:「+昆布コ\ブ→鱧昆布タラコ\ブ (第2 タラコブ)」
 「父㊦\チ (第2㊦チ\)」4 語:「+上ウエ→父上㊦チ\ウエ」
 「+親オヤ\→父親㊦チオヤ」
 「+方カタ\→父方㊦チカタ」
 「+君キミ→父君㊦チ\ギミ」
 「茅淳チ\ヌ」1 語:「+鯛タ\イ→茅淳鯛チヌ\ダイ」
 「千代チ\ヨ」1 語:「+紙カミ\→千代紙チヨ\ガミ」
 「罪ツ\ミ」1 語:「+人ヒト (第2ヒト\)\→罪人ツミビト」
 「露ツ\ユ」1 語:「+草㊦サ\→露草ツユ\㊦サ (第2 ツユ㊦サ)」
 「汁ツ\ユ」1 語:「+物モノ\ (第2 モノ) →汁物ツユ\モノ」
 「鶴ツ\ル」2 語:「+亀カ\メ→鶴亀ツ\ルカメ」
 「+嘴ハ\シ→鶴嘴ツル\ハシ」
 「鴝ト\キ」1 語:「+色イロ\→鴝色トキイロ」
 「榎ト\ド」1 語:「+松マ\ツ→榎松トド\マツ」
 「殿ト\ノ」3 語:「+方カタ\→殿方トノガタ (第2 トノ\ガタ)」
 「+様サマ\→殿様トノサマ」
 「+原ハ\ラ→殿原トノ\バラ」
 「鳶ト\ビ」2 語:「+色イロ\→鳶色トビイロ」
 「+口㊦チ→鳶口トビ\グチ」
 「苦ト\マ」1 語:「+舟フ\ネ→苦舟トマブ\ネ (第2 トマブネ)」
 「富ト\ミ」3 語:「+籤ク\ジ→富籤トミクジ (第2 トミ\クジ)」
 「+札フダ→富札トミ\フダ (第2 トミフダ)」
 「+本モト\ (第2 モト) →富本トミ\モト」
 「鱸ト\モ (第2 トモ\)」1 語:「+網ツナ\→鱸網トモズナ」
 「友ト\モ」1 語:「+垣カキ\→友垣トモ\ガキ」
 「苗ナ\エ」2 語:「+籠カゴ→苗籠ナエ\カゴ」
 「+床トコ→苗床ナエドコ」
 「中ナ\カ」13 語:「+側ガワ→中側ナカガワ」
 「+黒ク\ロ→中黒ナカグロ」
 「+頃コ\ロ→中頃ナカゴロ (第2 ナカ\ゴロ)」
 「+底ソコ→中底ナカゾコ」
 「+空ソ\ラ→中空ナカゾ\ラ」
 「+高タカ\ (第2 タ\カ) →中高ナカダカ」
 「+庭ニワ→中庭ナカニワ」
 「+豚ブタ→中豚ナカブタ」
 「+程ホド→中程ナカホド」
 「+骨ホネ\→中骨ナカボネ」

- 「+幕マク\→中幕ナカ\マク (第2 ナカマク)」
「+指ユビ\→中指ナカ\ユビ」
「+綿ワタ\→中綿ナカワタ」
「七ナ\ナ (第2 ナナ\)」 3 語: 「+色イロ\→七色ナナ\イロ」
「+草㊦サ\→七草ナナ\㊦サ」
「+癖㊦セ\→七癖ナナ\㊦セ」
「鍋ナ\ベ」 6 語: 「+釜カマ→鍋釜ナ\ベカマ (第2 ナベカマ)」
「+墨スミ\→鍋墨ナベズミ (第2 ナベ\ズミ)」
「+底ソコ→鍋底ナベゾコ」
「+肌ハ\ダ→鍋肌ナベハダ」
「+蓋㊦タ→鍋蓋ナベブタ (第2 ナベ\ブタ)」
「+物モノ\ (第2 モノ) →鍋物ナベ\モノ」
「生ナ\マ」 15 語: 「+魚ウオ→生魚ナマ\ウオ」
「+牡蠣カ\キ→生牡蠣ナマ\ガキ (第2 ナマガ\キ) (第2 ナマガキ)」
「+壁カベ→生壁ナマ\カベ (第2 ナマカベ)」
「+皮カワ\→生皮ナマカワ」
「+傷キズ→生傷ナマ\キズ (第2 ナマキズ)」
「+首クビ→生首ナマ\クビ (第2 ナマクビ) (第2 ナマクビ\)」
「+栗クリ\→生栗ナマ\グリ」
「+塵ゴミ\→生塵ナマ\ゴミ (第2 ナマゴミ)」
「+米コメ\→生米ナマゴメ (第2 ナマ\ゴメ)」
「+酒サケ→生酒ナマ\ザケ (第2 ナマザケ)」
「+爪ツメ→生爪ナマズメ (第2 ナマ\ズメ)」
「+唾ツ\バ (第2 ツバ\) →生唾ナマツバ (第2 ナマ\ツバ)」
「+繭マ\ユ→生繭ナママユ」
「+水ミズ→生水ナマ\ミズ」
「+物モノ\ (第2 モノ) →生物ナマ\モノ」
「何ナ\ン」 1 語: 「+時トキ\→何時ナンドキ」
「猫ネ\コ」 3 語: 「+足アシ\→猫足ネコアシ」
「+板イ\タ→猫板ネコイタ」
「+舌㊦タ\→猫舌ネコジタ (第2 ネコ\ジタ)」
「螺子ネ\ジ」 2 語: 「+釘クギ→螺子釘ネジ\クギ」
「+山ヤマ\→螺子山ネジヤマ」
「喉ノ\ド」 4 語: 「+飴アメ→喉飴ノド\アメ」
「+首クビ→喉首ノド\クビ」
「+笛フエ→喉笛ノドブエ (第2 ノドブ\エ)」
「+元モト (第2 モ\ト) →喉元ノドモト」
「鑿ノ\ミ」 1 語: 「+音オト\→鑿音ノミオ\ト (第2 ノミオト\) (第2 ノミオト)」
「禿ハ\ゲ」 3 語: 「+鷹タカ→禿鷹ハゲタカ」
「+山ヤマ\→禿山ハゲヤマ」
「+鷲ワシ→禿鷲ハゲワシ」
「箸ハ\シ」 2 語: 「+箱ハコ→箸箱ハシ\バコ (第2 ハシバコ)」
「+紙カミ\→箸紙ハシ\ガミ」
「肌ハ\ダ」 1 語: 「+色イロ\→肌色ハダイロ (第2 ハダイロ\)」

- 「鳩ハ\ト」 3 語：「+杖ツ\エ→鳩杖ハトズ\エ (第 2 ハト\ズエ)」
 「+笛フエ→鳩笛ハトブエ (第 2 ハトブ\エ)」
 「+胸ムネ\→鳩胸ハトムネ (第 2 ハト\ムネ)」
- 「母ハ\ハ」 7 語：「+上ウエ→母上ハハ\ウエ」
 「+親オヤ\→母親ハハオヤ」
 「+方カタ\→母方ハハカタ」
 「+君キミ→母君ハハ\ギミ」
 「+熊クマ\ (第 2 ク\マ) →母熊ハハグマ」
 「+人㊦ト (第 2 ㊦ト\) →母人ハハ\ビト (第 2 ハハビト)」
 「+物モノ\ (第 2 モノ) →母物ハハモノ」
- 「早ハ\ヤ」 13 語：「+足アシ\→早足ハヤ\アシ」
 「+馬ウマ\→早馬ハヤウマ (第 2 ハヤ\ウマ)」
 「+桶オ\ケ→早桶ハヤオ\ケ」
 「+駕籠カゴ→早駕籠ハヤ\カゴ (第 2 ハヤカゴ)」
 「+鐘カネ→早鐘ハヤガネ (第 2 ハヤガネ\)」
 「+口㊱チ→早口ハヤ\㊱チ」
 「+霜シモ\→早霜ハヤジモ」
 「+昼ヒル\→早昼ハヤヒルハ (第 2 ヤヒ\ル)」
 「+船フ\ネ→早船ハヤブネ」
 「+道ミチ→早道ハヤ\ミチ」
 「+耳ミミ\→早耳ハヤミミ (第 2 ハヤ\ミミ)」
 「+飯メシ\→早飯ハヤメシ (第 2 ハヤ\メシ)」
 「+業ワザ\→早業ハヤワザ (第 2 ハヤワザ\)」
- 「散バ\ラ」 2 語：「+炭スミ\→散炭バラ\ズミ (第 2 バラズミ)」
 「+弾タマ\→散弾バラダマ」
- 「針ハ\リ」 3 語：「+金カネ→針金ハリガネ」
 「+箱ハコ→針箱ハリバコ」
 「+山ヤマ\→針山ハリヤマ」
- 「春ハ\ル」 9 語：「+秋ア\キ→春秋ハ\ルアキ」
 「+風カゼ→春風ハル\カゼ」
 「+草㊲サ\→春草ハル\㊲サ」
 「+肥コエ\→春肥ハルゴエ」
 「+駒コ\マ (第 2 コマ) →春駒ハル\ゴマ (第 2 ハルゴマ) (第 2 ハルゴ\マ)」
 「+頃コ\ロ→春頃ハルゴ\ロ」
 「+先サキ→春先ハルサキ (第 2 ハルサキ\)」
 「+蟬セミ→春蟬ハル\ゼミ (第 2 ハルゼミ)」
 「+物モノ\ (第 2 モノ) →春物ハルモノ (第 2 ハル\モノ)」
- 「鄙ヒ\ナ」 1 語：「+唄ウタ\→鄙唄ヒナ\ウタ」
- 「雛ヒ\ナ」 3 語：「+型カタ\→雛型ヒナガタ (第 2 ヒナ\ガタ)」
 「+菊㊳ク\ (第 2 ㊳ク) →雛菊ヒナ\ギク」
 「+鳥トリ→雛鳥ヒナ\ドリ」
- 「陳ヒ\ネ」 1 語：「+米コメ\→陳米ヒネゴメ」
- 「姫ヒ\メ」 6 語：「+垣カキ\→姫垣ヒメ\ガキ」

- 「+君キミ→姫君ヒメ\ギミ」
「+糊りノリ\→姫糊りヒメ\ノリ」
「+鱒マス\→姫鱒ヒメマス (第2ヒメ\マス)」
「+松マ\ツ→姫松ヒメ\マツ」
「+百合ユリ→姫百合ヒメ\ユリ」
- 「平ヒ\ラ」6語：「+仮名カナ→平仮名ヒラガ\ナ (第2ヒラガナ) (第2ヒラガナ\)」
「+絹キ\ヌ→平絹ヒラギヌ (第2ヒラギ\ヌ)」
「+蜘蛛ク\モ→平蜘蛛ヒラグモ」
「+皿サラ→平皿ヒラザラ」
「+城シロ→平城ヒラジロ」
「+鍋ナ\ベ→平鍋ヒラナベ」
- 「鶺鴒ヒ\ワ」1語：「+色イロ\→鶺鴒色ヒワイロ」
- 「鮒フ\ナ」1語：「+寿司スシ\ (第2ス\シ) →鮒寿司フナ\ズシ」
- 「文フ\ミ (第2フミ\)」2語：「+月ツキ\→文月フミ\ズキ」
「+箱ハコ→文箱フミ\バコ」
- 「古フ\ル」6語：「+池イケ\→古池フルイケ」
「+顔カオ→古顔フルガオ」
「+株カブ→古株フルカブ」
「+傷キズ→古傷フルキズ (第2フル\キズ)」
「+寺テラ\→古寺フルデラ (第2フル\デラ)」
「+物モノ\ (第2モノ) →古物フルモノ」
- 「紅ベ\ニ」5語：「+色イロ\→紅色ベニイロ」
「+殻カラ\→紅殻ベニガラ」
「+鮭サ\ケ→紅鮭ベニザケ (第2ベニザ\ケ)」
「+皿サラ→紅皿ベニ\ザラ」
「+鱒マス\→紅鱒ベニマス (第2ベニ\マス)」
- 「籠へ\ラ (第2へラ\)」2語：「+鹿カ (第2カ\) →籠鹿へラジカ (第2へラ\ジカ)」
「+鮒フ\ナ→籠鮒へラブナ」
- 「頬ホ\ー」3語：「+髯ヒゲ→頬髯ホーヒゲ」
「+紅ベ\ニ→頬紅ホーベニ (第2ホーベ\ニ)」
「+骨ホネ\→頬骨ホーボネ (第2ホ\ーボネ)」
- 「矛ホ\コ」1語：「+先サキ→矛先ホコサキ (第2ホコサキ\)」
- 「母衣ホ\ロ」1語：「+蚊帳カヤ→母衣蚊帳ホロ\ガヤ」
- 「襪褌ボ\ロ」1語：「+糞クソ\→襪褌糞ボロクソ」
- 「前マ\エ」5語：「+足アシ\→前足マエ\アシ (第2マエアシ) (第2マ\エアシ)」
「+髪カミ\→前髪マエガミ」
「+腰コシ→前腰マ\エゴシ」
「+庭ニワ→前庭マエニワ」
「+幅ハバ→前幅マ\エハバ (第2マエ\ハバ)」
- 「馬子マ\ゴ」1語：「+唄ウタ\→馬子唄マゴ\ウタ」
- 「松マ\ツ」8語：「+原ハ\ラ→松原マツ\バラ」
「+虫ムシ→松虫マツ\ムシ」
「+脂ヤニ\→松脂マツヤニ」

「+山ヤマ\→松山マツヤマ」
 「+影カ\ゲ→松影マツカ\ゲ」
 「+笠カ\サ→松笠マツカサ (第2マツカ\サ)」
 「+風カゼ→松風マツ\カゼ (第2マツカ\ゼ)」
 「+竹タケ→松竹マ\ツタケ」
 「窓マ\ド」3語：「+際キワ\→窓際マドギワ」
 「+口㊦チ→窓口マド\グチ」
 「+枠ワク\→窓枠マドワク」
 「繭マ\ユ」1語：「+玉タマ\→繭玉マユダマ」
 「眉マ\ユ」2語：「+尻シリ\→眉尻マユジリ (第2マユ\ジリ)」
 「+墨スミ\→眉墨マユ\ズミ」
 「右ミ\ギ (第2ミギ)」6語：「+足アシ\→右足ミギアシ」
 「+腕ウデ\→右腕ミギウデ」
 「+肩カ\タ→右肩ミギカタ」
 「+側ガワ→右側ミギガワ」
 「+前マ\エ→右前ミギマエ」
 「+四つヨ\ツ→右四つミギヨツ (第2ミギヨ\ツ)」
 「三毛ミ\ケ」1語：「+猫ネ\コ→三毛猫ミケネコ」
 「蓑ミ\ノ」3語：「+笠カ\サ→蓑笠ミノカサ」
 「+亀カ\メ→蓑亀ミノガメ」
 「+虫ムシ→蓑虫ミノ\ムシ」
 「麦ム\ギ」4語：「+秋ア\キ→麦秋ムギ\アキ」
 「+笛フエ→麦笛ムギブエ (第2ムギブ\エ)」
 「+飯メシ\→麦飯ムギメシ」
 「+藁ワ\ラ→麦藁ムギワラ (第2ムギワ\ラ)」
 「藪モ\チ」1語：「+竿サオ\→藪竿モチザオ (第2モチ\ザオ)」
 「もつモ\ツ」1語：「+鍋ナ\ベ→もつ鍋モツナベ」
 「元モ\ト (第2モト)」2語：「+肥コエ\→元肥モトゴエ」
 「+高タカ\ (第2タ\カ) →元高モト\ダカ (第2モトダ\カ)」
 「山羊ヤ\ギ」1語：「+髭ヒゲ→山羊髭ヤギ\ヒゲ」
 「自棄ヤ\ケ」1語：「+酒サケ→自棄酒ヤケザケ (第2ヤケ\ザケ)」
 「宿ヤ\ド」4語：「+親オヤ\→宿親ヤドオヤ」
 「+無しナ\シ→宿無しヤドナシ」
 「+主ヌ\シ→宿主ヤド\ヌシ」
 「+元モト (第2モ\ト) →宿元ヤドモト」
 「屋根ヤ\ネ」4語：「+石イシ\→屋根石ヤネイシ (第2ヤネ\イシ)」
 「+板イ\タ→屋根板ヤネイタ」
 「+裏ウラ\→屋根裏ヤネウラ」
 「+船フ\ネ→屋根船ヤネブ\ネ (第2ヤネブネ)」
 「柔ヤ\ワ」1語：「+肌ハ\ダ→柔肌ヤワハダ」
 「四つヨ\ツ」3語：「+球タ\マ→四つ球ヨツダマ」
 「+角カ\ド→四つ角ヨツ\カド」
 「+辻ジツジ→四つ辻ジヨツ\ツジ」
 「四方ヨ\モ」1語：「+山ヤマ\→四方山ヨモヤマ」

「夜ヨ\ル」 1 語：「+昼ヒル\→夜昼ヨ\ルヒル」
「鱧ワ\ニ」 3 語：「+皮カワ\→鱧皮ワニガワ」
「+口㊦チ→鱧口ワニ\グチ」
「+鮫サメ→鱧鮫ワニ\ザメ」
「藁ワ\ラ」 7 語：「+紙カミ\→藁紙ワラ\ガミ (第 2 ワラガ\ミ) (第 2 ワラガミ\)」
「+薦コモ→藁薦ワラゴモ」
「+塚㊦カ\→藁塚ワラズカ (第 2 ワラ\ズカ)」
「+束タ\バ→藁束ワラタ\バ」
「+縄ナワ\→藁縄ワラナワ」
「+灰ハイ→藁灰ワラ\バイ」
「+屋根ヤ\ネ→藁屋根ワラヤネ (第 2 ワラヤ\ネ)」

前部要素が起伏式の尾高型の 141 項目があり、計 542 語である。

「顎アゴ\」 2 語：「+鬚ヒゲ→顎鬚アゴヒゲ (第 2 アゴ\ヒゲ)」
「+紐ヒモ→顎紐アゴ\ヒモ (第 2 アゴヒモ)」
「麻アサ\」 3 語：「+糸イ\ト→麻糸アサイト」
「+裏ウラ\→麻裏アサウラ」
「+縄ナワ\→麻縄アサナワ」
「足アシ\」 13 語：「+跡ア\ト→足跡アシア\ト」
「+裏ウラ\→足裏アシウラ」
「+音オト\→足音アシオ\ト (第 2 アシオト\)」
「+形カタ\→足形アシガタ」
「+癖㊦セ\→足癖アシ㊦セ」
「+早ハ\ヤ→足早アシバヤ」
「+忠実マメ→足忠実アシマメ」
「+元モト (第 2 モ\ト) →足元アシモ\ト (第 2 アシモト\)」
「+技ワザ\→足技アシワザ」
「+枷カセ\ (第 2 カ\セ) →足枷ア㊦カセ (第 2 ア㊦カ\セ)」
「+首クビ→足首ア㊦クビ (第 2 ア㊦ク\ビ)」
「+腰コシ→足腰ア㊦\コシ (第 2 ア㊦コ\シ)」
「+先サキ→足先ア㊦サキ (第 2 ア㊦サキ\)」
「畦アゼ\」 1 語：「+道ミチ→畦道アゼ\ミチ」
「徒アダ\」 3 語：「+波ナミ\→徒波アダナミ」
「+花ハナ\→徒花アダバナ」
「+夢ユメ\→徒夢アダユメ」
「穴アナ\」 4 語：「+糸イ\ト→穴糸アナイト」
「+馬ウマ\→穴馬アナウマ」
「+熊クマ\ (第 2 ク\マ) →穴熊アナグマ」
「+蔵クラ\→穴蔵アナグラ」
「網アミ\」 4 語：「+籠カゴ→網籠アミ\カゴ」
「+棚タナ→網棚アミダナ」
「+船フ\ネ→網船アミブネ」
「+本モト\ (第 2 モト) →網本アミモト (第 2 アミモト\)」
「綾アヤ\」 2 語：「+糸イ\ト→綾糸アヤイト」

- 「+絹キ\ヌ→綾絹アヤギ\ヌ (第2アヤギヌ)」
- 「家イエ\」 7 語: 「+筋ス\ジ→家筋イエスジ」
 「+苞㊦ト\ (第2㊦ト) →家苞イエズト」
 「+蟬ダニ\→家蟬イエダニ」
 「+主ヌ\シ→家主イエ\ヌシ (第2イエヌシ)」
 「+蠅ハエ→家蠅イエバエ (第2イエ\バエ)」
 「+鳩ハ\ト→家鳩イエバト」
 「+元モト (第2モ\ト) →家元イエモト (第2イエモト\)」
- 「石イシ\」 14 語: 「+臼ウ\ス→石臼イシウス」
 「+垣カキ\→石垣イシガキ」
 「+窯カマ→石窯イシガマ」
 「+亀カ\メ→石亀イシガメ」
 「+皿サラ→石皿イシザラ」
 「+鯛タ\イ→石鯛イシ\ダイ (第2イシダイ)」
 「+橋ハシ\→石橋イシバシ」
 「+火矢ヒ\ヤ→石火矢イシビヤ (第2イシビ\ヤ)」
 「+風呂フロ\→石風呂イシブロ」
 「+室ムロ\→石室イシムロ」
 「+山ヤマ\→石山イシヤマ」
 「+弓ユミ\→石弓イシユミ」
 「+綿ワタ\→石綿イシワタ (第2イシワ\タ)」
 「+壁カベ→石壁イ㊦カベ」
- 「犬イヌ\」 5 語: 「+釘クギ→犬釘イヌ\クギ」
 「+小屋コヤ\ (第2コヤ) →犬小屋イヌゴヤ」
 「+橿ソ\リ→犬橿イヌゾリ」
 「+猫ネ\コ→犬猫イヌネコ (第2イヌネ\コ)」
 「+鷲ワシ→犬鷲イヌワシ」
- 「芋イモ\」 3 語: 「+粥カユ→芋粥イモガユ」
 「+汁シ\ル→芋汁イモジル (第2イモジ\ル)」
 「+虫ムシ→芋虫イモ\ムシ」
- 「色イロ\」 11 語: 「+糸イ\ト→色糸イロイト」
 「+紙カミ\→色紙イロ\ガミ」
 「+黒ク\ロ→色黒イログロ」
 「+恋コ\イ→色恋イロ\コイ」
 「+事コト\→色事イロ\ゴト (第2イロゴト)」
 「+里サト→色里イロ\ザト」
 「+白シ\ロ→色白イロジロ」
 「+町マチ\→色町イロ\マチ」
 「+斑ムラ→色斑イロムラ」
 「+物モノ\ (第2モノ) →色物イロモノ (第2イロ\モノ)」
 「+物モノ\ (第2モノ) →色物イロ\モノ」
- 「岩イワ\」 8 語: 「+穴アナ\→岩穴イワアナ」
 「+陰カ\ゲ→岩陰イワカゲ (第2イワカ\ゲ)」
 「+角カ\ド→岩角イワカド (第2イワカ\ド)」

- 「+棚タナ→岩棚イワダナ」
「+海苔ノリ→岩海苔イワノリ (第2イワノリ)」
「+風呂フロ→岩風呂イワフロ」
「+室ムロ→岩室イワムロ」
「+山ヤマ→岩山イワヤマ」
- 「蛆ウジ」 1語:「+虫ムシ→蛆虫ウジムシ」
- 「歌ウタ」 5語:「+口㊦チ→歌口ウタグチ (第2ウタグチ)」
「+声コエ→歌声ウタゴエ (第2ウタゴエ)」
「+沢サワ→歌沢ウタザワ」
「+人ヒト (第2ヒト) →歌人ウタビト (第2ウタビト)」
「+姫ヒメ→歌姫ウタヒメ」
- 「腕ウデ」 1語:「+前マエ→腕前ウデマエ (第2ウデマエ)」
- 「馬ウマ」 5語:「+市イチ→馬市ウマイチ (第2ウマイチ)」
「+小屋コヤ (第2コヤ) →馬小屋ウマゴヤ」
「+面ツラ→馬面ウマズラ」
「+主ヌシ→馬主ウマヌシ」
「+蠅ハエ→馬蠅ウマバエ」
- 「裏ウラ」 17語:「+襟エリ→裏襟ウラエリ」
「+方カタ→裏方ウラカタ」
「+金カネ→裏金ウラガネ」
「+側ガワ→裏側ウラガワ」
「+皮カワ→裏皮ウラガワ」
「+口㊦チ→裏口ウラグチ」
「+声コエ→裏声ウラゴエ」
「+店タナ→裏店ウラダナ」
「+年トシ→裏年ウラドシ (第2ウラドシ)」
「+庭ニワ→裏庭ウラニワ」
「+布ヌノ→裏布ウラヌノ」
「+腹ハラ→裏腹ウラハラ」
「+蓋㊦タ→裏蓋ウラブタ」
「+町マチ→裏町ウラマチ (第2ウラマチ)」
「+道ミチ→裏道ウラミチ」
「+山ヤマ→裏山ウラヤマ」
「+技ワザ→裏技ウラワザ」
- 「浦ウラ」 2語:「+上カミ→浦上ウラカミ」
「+里サト→浦里ウラザト (第2ウラザト)」
- 「餌エサ (第2エサ)」 1語:「+箱ハコ→餌箱エサバコ (第2エサバコ)」
- 「襟エリ」 9語:「+垢アカ→襟垢エリアカ (第2エリアカ)」
「+足アシ→襟足エリアシ (第2エリアシ)」
「+裏ウラ→襟裏エリウラ (第2エリウラ)」
「+肩カタ→襟肩エリカタ」
「+髪カミ→襟髪エリガミ (第2エリガミ)」
「+首クビ→襟首エリクビ」
「+丈タケ→襟丈エリタケ」

- 「+幅ハバ→襟幅エリ\ハバ (第2 エリハバ)」
「+元モト (第2 モ\ト) →襟元エリモト (第2 エリモ\ト) (第2 エリモト\)」
- 「鬼オニ\」 2 語：「+神カ\ミ→鬼神オニ\ガミ (第2 オニガミ)」
「+百合ユリ→鬼百合オニ\ユリ」
- 「親オヤ\」 17 語：「+芋イモ\→親芋オヤイモ」
「+牛ウシ→親牛オヤウシ (第2 オヤ\ウシ)」
「+風カゼ→親風オヤ\カゼ (第2 オヤカゼ)」
「+方カタ\→親方オヤカ\タ (第2 オヤカタ\ (第2 オヤカタ))」
「+株カブ→親株オヤカブ (第2 オヤ\カブ)」
「+熊クマ\ (第2 ク\マ) →親熊オヤグマ」
「+潮シオ\→親潮オヤシオ」
「+竹タケ→親竹オヤ\ダケ (第2 オヤダケ)」
「+玉タマ\→親玉オヤダマ」
「+鳥トリ→親鳥オヤ\ドリ」
「+無しナ\シ→親無しオヤナシ」
「+猫ネ\コ→親猫オヤネコ」
「+馬鹿バ\カ→親馬鹿オヤバカ」
「+船フ\ネ→親船オヤブネ」
「+骨ホネ\→親骨オヤボネ」
「+元モト (第2 モ\ト) →親元オヤモト (第2 オヤモト\)」
「+指ユビ\→親指オヤユビ」
- 「鉤カギ\」 3 語：「+縄ナワ\→鉤縄カギナワ」
「+鼻ハナ→鉤鼻カギバナ (第2 カギ\バナ)」
「+針ハ\リ→鉤針カギ\バリ (第2 カギバ\リ)」
- 「鍵カギ\」 1 語：「+穴アナ\→鍵穴カギアナ」
- 「形カタ\」 2 語：「+代シロ\→形代カタシロ (第2 カタ\シロ)」
「+無しナ\シ→形無しカタナシ」
- 「型カタ\」 3 語：「+板イ\タ→型板カタイタ」
「+紙カミ\→型紙カタガミ」
「+枠ワク\→型枠カタワク」
- 「髪カミ\」 2 語：「+形カタ\→髪形カミガタ」
「+床トコ→髪床カミドコ」
- 「紙カミ\」 5 語：「+形カタ\→紙形カミガタ」
「+屑ク\ズ→紙屑カミク\ズ」
「+箱ハコ→紙箱カミバコ」
「+雛ヒ\ナ→紙雛カミビ\ナ」
「+紐ヒモ→紙紐カミヒモ (第2 カミ\ヒモ)」
- 「空カラ\」 7 語：「+籤ク\ジ→空籤カラクジ (第2 カラク\ジ)」
「+咳セキ\→空咳カラセキ」
「+咳セキ\→空咳カラゼキ」
「+梅雨ツユ→空梅雨カラツユ」
「+箱ハコ→空箱カラバコ」
「+船フ\ネ→空船カラブネ (第2 カラブ\ネ)」

- 「+堀ホリ\→空堀カラボリ」
- 「川カワ\」 16 語：「+魚ウオ\→川魚カワウオ」
- 「+音オト\→川音カワオト」
- 「+風カゼ\→川風カワ\カゼ (第2 カワカゼ)」
- 「+上カ\ミ\→川上カワカミ」
- 「+霧キリ\→川霧カワギリ (第2 カワ\ギリ)」
- 「+口㊦チ\→川口カワグチ」
- 「+筋ス\ジ\→川筋カワスジ」
- 「+面ツラ\→川面カワズラ」
- 「+底ソコ\→川底カワゾコ」
- 「+床トコ\→川床カワドコ」
- 「+波ナミ\→川波カワナミ」
- 「+端ハタ\→川端カワバタ」
- 「+幅ハバ\→川幅カワハバ (第2 カワ\ハバ)」
- 「+船フ\ネ\→川船カワフネ (第2 カワフ\ネ)」
- 「+縁ヘリ\→川縁カワベリ」
- 「+水ミズ\→川水カワ\ミズ」
- 「革カワ\」 3 語：「+帯オ\ビ\→革帯カワオビ (第2 カワオ\ビ)」
- 「+靴㊦ツ\→革靴カワグツ」
- 「+紐ヒモ\→革紐カワヒモ」
- 「菊㊦ク\ (第2 ㊦ク)」 3 語：「+芋イモ\→菊芋㊦クイモ」
- 「+酒サケ\→菊酒㊦ク\ザケ」
- 「+月㊦キ\→菊月㊦ク\ズキ」
- 「肝キモ\」 1 語：「+玉タマ\→肝玉キモダマ\ (第2 キモダマ)」
- 「際キワ\」 1 語：「+物モノ\ (第2 モノ) →際物キワモノ」
- 「草㊦サ\」 8 語：「+色イロ\→草色㊦サイロ」
- 「+丈タケ\→草丈㊦サ\タケ (第2 ㊦サタケ)」
- 「+花ハナ\→草花㊦サ\バナ」
- 「+原ハ\ラ\→草原㊦サハラ」
- 「+笛フエ\→草笛㊦サブエ」
- 「+餅モチ\→草餅㊦サ\モチ」
- 「+屋根ヤ\ネ\→草屋根㊦サヤネ (第2 ㊦サヤ\ネ)」
- 「+藪ヤブ\→草藪㊦サヤブ」
- 「串㊦シ\」 1 語：「+柿カキ\→串柿㊦シ\ガキ」
- 「櫛㊦シ\」 2 語：「+形カタ\→櫛形㊦シガタ」
- 「+箱ハコ\→櫛箱㊦シ\バコ」
- 「靴㊦ツ\」 7 語：「+音オト\→靴音㊦ツオト (第2 ㊦ツオ\ト)」
- 「+下㊦タ\ (第2 ㊦タ) →靴下㊦ツ\㊦タ (第2 ㊦ツ㊦タ)」
- 「+墨スミ\→靴墨㊦ツズミ (第2 ㊦ツ\ズミ)」
- 「+底ソコ\→靴底㊦ツゾコ」
- 「+足袋タ\ビ\→靴足袋㊦ツタ\ビ (第2 ㊦ツタビ)」
- 「+紐ヒモ\→靴紐㊦ツヒモ (第2 ㊦ツ\ヒモ)」
- 「+篋ヘ\ラ\ (第2 ヘラ\)\→靴篋㊦ツベ\ラ (第2 ㊦ツベラ)」
- 「熊クマ\ (第2 ク\マ)」 3 語：「+笹ササ\→熊笹クマザサ (第2 クマ\ザサ)」

- 「+蟬セミ→熊蟬クマゼミ (第2クマ\ゼミ)」
「+鷹タカ→熊鷹クマタカ」
「蔵クラ\」 1語:「+元モト (第2モ\ト) →蔵元クラモト」
「栗クリ\」 3語:「+芋イモ\→栗芋クリイモ」
「+色イロ\→栗色クリイロ」
「+飯メシ\→栗飯クリメシ」
「苔コケ\」 2語:「+色イロ\→苔色コケイロ」
「+桃モモ→苔桃コケモモ」
「粉コナ\」 2語:「+屑ク\ズ→粉屑コナク\ズ」
「+炭スミ\→粉炭コナ\ズミ」
「塵ゴミ\」 1語:「+箱ハコ→塵箱ゴミバコ (第2ゴミバ\コ)」
「米コメ\」 4語:「+蔵クラ\→米蔵コメグラ」
「+粒ツ\ブ→米粒コメツ\ブ」
「+糠ヌカ\ (第2ヌカ) →米糠コメヌカ」
「+櫃ヒツ→米櫃コメビツ」
「小屋コヤ\ (第2コヤ)」 1語:「+主ヌ\シ→小屋主コヤ\ヌシ」
「竿サオ\」 1語:「+竹タケ→竿竹サオダケ (第2サオ\ダケ)」
「棹サオ\」 1語:「+物モノ\ (第2モノ) →棹物サオ\モノ (第2サオモノ)」
「坂サカ\」 1語:「+道ミチ→坂道サカ\ミチ」
「錆サビ\」 2語:「+色イロ\→錆色サビイロ」
「+声コ\エ→錆声サビゴ\エ (第2サビゴエ)」
「笹ザル\」 1語:「+蕎麦ソ\バ→笹蕎麦ザルソバ」
「沢サワ\」 1語:「+蟹カニ→沢蟹サワガニ」
「潮シオ\」 5語:「+足アシ\→潮足シオアシ」
「+貝カ\イ→潮貝シオ\ガイ」
「+風カゼ→潮風シオ\カゼ」
「+先サキ→潮先シオサキ」
「+時トキ\→潮時シオドキ (第2シオドキ\)」
「塩シオ\」 13語:「+味アジ→塩味シオ\アジ」
「+鮎ア\ユ→塩鮎シオア\ユ (第2シオアユ)」
「+釜カマ→塩釜シオガマ (第2シオ\ガマ)」
「+鮭サ\ケ→塩鮭シオザ\ケ」
「+鯖サバ→塩鯖シオサバ (第2シオ\サバ)」
「+沢サワ\→塩沢シオザワ」
「+鮭シャ\ケ→塩鮭シオジャ\ケ」
「+鱈タ\ラ→塩鱈シオダラ (第2シオダ\ラ)」
「+花ハナ\→塩花シオ\バナ (第2シオバナ)」
「+鰯ブ\リ→塩鰯シオブ\リ」
「+豆マメ\→塩豆シオ\マメ」
「+水ミズ→塩水シオ\ミズ」
「+物モノ\ (第2モノ) →塩物シオ\モノ」
「舌シタ\」 1語:「+先サキ→舌先シタサキ」
「島シマ\」 2語:「+影カ\ゲ→島影シマカゲ」
「+国クニ→島国シマ\グニ」

- 「縞シマ\」 6語：「+鯨ア\ジ→縞鯨シマ\アジ」
「+馬ウマ\→縞馬シマウマ」
「+鯛タ\イ→縞鯛シマ\ダイ」
「+蛇ヘ\ビ→縞蛇シマヘビ」
「+物モノ\ (第2モノ) →縞物シマ\モノ (第2シマモノ)」
「+栗鼠リ\ス→縞栗鼠シマリス」
- 「注連シメ\」 1語：「+縄ナワ\→注連縄シメナワ (第2シメ\ナワ)」
- 「霜シモ\」 1語：「+月ツキ\→霜月シモ\ツキ」
- 「下シモ\」 1語：「+肥コエ\→下肥シモゴエ」
- 「尻シリ\」 2語：「+馬ウマ\→尻馬シリウマ (第2シリウマ\)」
「+餅モチ\→尻餅シリモ\チ (第2シリ\モチ)」
- 「臀シリ\」 1語：「+鰭ヒレ\→臀鰭シリビレ」
- 「代シロ\」 1語：「+物モノ\ (第2モノ) →代物シロモノ」
- 「寿司スシ\ (第2ス\シ)」 2語：「+種タ\ネ→寿司種スシダネ」
「+飯メシ\→寿司飯スシメシ」
- 「墨スミ\」 4語：「+糸イ\ト→墨糸スミイト」
「+色イロ\→墨色スミイロ」
「+壺ツボ\→墨壺スミツボ (第2スミ\ツボ)」
「+縄ナワ\→墨縄スミナワ (第2スミ\ナワ)」
- 「炭スミ\」 1語：「+窯カマ\→炭窯スミガマ (第2スミ\ガマ)」
- 「高タカ\ (第2タ\カ)」 6語：「+声コ\エ→高声タカゴエ (第2タカゴ\エ)」
「+潮シオ\→高潮タカシオ」
「+空ソ\ラ→高空タカゾ\ラ」
「+殿ド\ノ→高殿タカドノ」
「+波ナミ\→高波タカナミ」
「+股モ\モ→高股タカモモ」
- 「出汁ダシ\」 1語：「+汁シ\ル→出汁汁ダシジル (第2ダシジ\ル)」
- 「谷タニ\」 4語：「+間ア\イ→谷間タニアイ (第2タニア\イ)」
「+風カゼ\→谷風タニ\カゼ」
「+川カワ\→谷川タニガワ」
「+底ソコ\→谷底タニゾコ」
- 「旅タビ\」 2語：「+先サキ\→旅先タビサキ (第2タビサキ\)」
「+人ヒト (第2ヒト\ト) →旅人タビヒト」
- 「球タマ\」 2語：「+足アシ\→球足タマアシ」
「+筋ス\ジ→球筋タマスジ」
- 「玉タマ\」 7語：「+石イシ\→玉石タマ\イシ」
「+糸イ\ト→玉糸タマイト」
「+垣カキ\→玉垣タマ\ガキ」
「+串ウシ\→玉串タマ\グシ」
「+笹ササ\→玉笹タマ\ザサ (第2タマザサ)」
「+葱ネ\ギ→玉葱タマ\ネ\ギ」
「+虫ムシ\→玉虫タマ\ムシ」
- 「乳チ\ (第2チ\チ)」 1語：「+牛ウシ\→乳牛チ\ウシ」
- 「塚ツカ\」 1語：「+穴アナ\→塚穴ツカアナ」

- 「月㊦キ」 4 語：「+影カ\ゲ→月影㊦キカゲ (第 2㊦キカ\ゲ)」
「+白シ\ロ→月白㊦キシロ」
「+末スエ→月末㊦キズエ (第 2㊦キズ\エ)」
「+中ナ\カ→月中㊦キナカ (第 2㊦キナ\カ)」
- 「槌㊦チ」 1 語：「+音オト\→槌音㊦チオト (第 2㊦チオト) (第 2㊦チオ\ト)」
- 「土㊦チ」 2 語：「+色イロ\→土色㊦チイロ」
「+蜘蛛ク\モ→土蜘蛛㊦チグモ (第 2㊦チグ\モ)」
- 「角ツノ」 2 語：「+樽タル→角樽ツノダル」
「+笛フエ→角笛ツノブエ (第 2ツノブ\エ)」
- 「蔓ツル」 (第 2ツ\ル) 2 語：「+草㊦サ\→蔓草ツル\㊦サ (第 2ツル\㊦サ)」
「+薔薇バラ→蔓薔薇ツルバラ」
- 「弦ツル」 (第 2ツ\ル) 1 語：「+音オト\→弦音ツルオト (第 2ツルオト\)」
- 「手間テマ」 1 語：「+暇ヒマ→手間暇テマ\ヒマ」
- 「年トシ」 7 語：「+上ウエ→年上トシウエ」
「+神カ\ミ→年神トシガミ」
「+頃コ\ロ→年頃トシゴロ」
「+頃コ\ロ→年頃トシ\ゴロ」
「+月㊦キ\→年月トシ\㊦キ」
「+波ナミ\→年波トシナミ (第 2トシ\ナミ)」
「+嵩カサ\→年嵩ト㊦カサ」
- 「泥ドロ」 8 語：「+足アシ\→泥足ドロアシ (第 2ドロ\アシ)」
「+海ウ\ミ→泥海ドロウミ」
「+靴㊦ツ\→泥靴ドログツ (第 2ドロ\グツ)」
「+土㊦チ\→泥土ドロ㊦チ」
「+縄ナワ\→泥縄ドロナワ」
「+沼ヌマ\→泥沼ドロヌマ」
「+水ミズ→泥水ドロ\ミズ」
「+道ミチ→泥道ドロ\ミチ」
- 「夏ナツ」 9 語：「+帯オ\ビ→夏帯ナツオビ」
「+草㊦サ\→夏草ナツ㊦サ」
「+雲ク\モ→夏雲ナツグモ」
「+蟬セミ→夏蟬ナツゼミ」
「+空ツ\ラ→夏空ナツヅラ (第 2ナツヅ\ラ)」
「+鳥トリ→夏鳥ナツ\ドリ (第 2ナツドリ)」
「+物モノ\ (第 2モノ) →夏物ナツモノ」
「+山ヤマ\→夏山ナツヤマ」
「+風邪カゼ→夏風邪ナ㊦カゼ」
- 「波ナミ」 4 語：「+板イ\タ→波板ナミイタ」
「+音オト\→波音ナミオト (第 2ナミオト\)」
「+風カゼ→波風ナミ\カゼ」
「+形カタ\→波形ナミガタ」
- 「糠ヌカ」 (第 2ヌカ) 3 語：「+雨ア\メ→糠雨ヌカア\メ (第 2ヌカアメ)」
「+床トコ→糠床ヌカドコ」
「+星ホシ→糠星ヌカ\ボシ」

「慰斗ノシ」 2語：「+梅ウメ→慰斗梅ノシウメ」
「+紙カミ→慰斗紙ノシガミ」

「野良ノラ」 1語：「+猫ネコ→野良猫ノラネコ」

「糊ノリ」 2語：「+代シロ→糊代ノリシロ（第2ノリシロ）」
「+刷毛ハケ→糊刷毛ノリバケ（第2ノリバケ）」

「墓ハカ」 1語：「+石イシ→墓石ハカイシ」

「橋ハシ」 3語：「+板イタ→橋板ハシイタ」
「+杭クイ→橋杭ハシグイ」
「+桁ケタ→橋桁ハシゲタ」

「旗ハタ」 4語：「+色イロ→旗色ハタイロ（第2ハタイロ）」
「+風カゼ→旗風ハタカゼ」
「+竿サオ→旗竿ハタザオ」
「+本モト（第2モト）→旗本ハタモト」

「鉢ハチ（第2ハチ）」 1語：「+物モノ（第2モノ）→鉢物ハチモノ（第2ハチモノ）」

「初ハツ」 20語：「+秋アキ→初秋ハツアキ（第2ハツアキ）」
「+午ウマ→初午ハツウマ」
「+顔カオ→初顔ハツガオ」
「+風カゼ→初風ハツカゼ（第2ハツカゼ）」
「+釜カマ→初釜ハツガマ」
「+潮シオ→初潮ハツシオ」
「+蟬セミ→初蟬ハツゼミ」
「+空ツラ→初空ハツツラ」
「+夏ナツ→初夏ハツナツ」
「+雛ヒナ→初雛ハツビナ（第2ハツビナ）」
「+孫マゴ→初孫ハツマゴ（第2ハツマゴ）」
「+繭マユ→初繭ハツマユ」
「+耳ミミ→初耳ハツミミ」
「+物モノ（第2モノ）→初物ハツモノ」
「+夢ユメ→初夢ハツユメ」
「+霜シモ→初霜ハツシモ」
「+酉トリ→初酉ハツトリ」
「+花ハナ→初花ハツハナ」
「+春ハル→初春ハツハル」
「+冬フユ→初冬ハツフユ」

「花ハナ」 23語：「+色イロ→花色ハナイロ」
「+籠カゴ→花籠ハナカゴ（第2ハナカゴ）」
「+笠カサ→花笠ハナガサ（第2ハナガサ）（第2ハナガサ）」
「+形カタ→花形ハナガタ（第2ハナガタ）」
「+櫛クシ→花櫛ハナグシ」
「+苔コケ→花苔ハナゴケ」
「+莫藎ゴザ→花莫藎ハナゴザ」
「+菅スゲ→花菅ハナスゲ」
「+筒ツツ（第2ツツ）→花筒ハナズツ（第2ハナズツ）」

- 「+園ソ\ノ→花園ハナヅノ」
「+束タ\バ→花束ハナ\タバ (第2 ハナタ\バ)」
「+時トキ\→花時ハナドキ (第2 ハナドキ\)」
「+苗ナ\エ→花苗ハナナエ」
「+菱◎シ→花菱ハナ\ビシ」
「+房◎サ\→花房ハナ\ブサ」
「+札フダ→花札ハナ\フダ (第2 ハナフダ)」
「+街マチ\→花街ハナ\マチ」
「+丸マル→花丸ハナマル」
「+水ミズ→花水ハナ\ミズ」
「+道ミチ→花道ハナ\ミチ」
「+婿ム\コ→花婿ハナ\ムコ (第2 ハナム\コ)」
「+物モノ\ (第2 モノ) →花物ハナ\モノ」
「+嫁ヨメ→花嫁ハナ\ヨメ」
- 「浜ハマ\」 4 語：「+荻オ\ギ→浜荻ハマ\オギ (第2 ハマオギ)」
「+風カゼ→浜風ハマ\カゼ」
「+菅スゲ→浜菅ハマ\スゲ」
「+木綿ユ\→浜木綿ハマ\ユ」
- 「羽目ハメ\」 1 語：「+板イ\タ→羽目板ハメイタ」
- 「腹ハラ\」 3 語：「+帯オ\ビ→腹帯ハラオビ (第2 ハラオ\ビ)」
「+鱸ヒレ\→腹鱸ハラビレ」
「+保モチ\→腹保ハラモチ (第2 ハラモチ\)」
- 「疋◎キ\」 1 語：「+物モノ\ (第2 モノ) →疋物◎キ\モノ」
- 「肘ヒジ\」 1 語：「+金カネ→肘金ヒジ\ガネ (第2 ヒジガネ)」
- 「昼ヒル\」 6 語：「+顔カオ→昼顔ヒルガオ」
「+頃コ\ロ→昼頃ヒルゴ\ロ」
「+時トキ\→昼時ヒルドキ」
「+中ナ\カ→昼中ヒルナカ」
「+前マ\エ→昼前ヒルマ\エ」
「+飯メシ\→昼飯ヒルメシ」
- 「鱸ヒレ\」 1 語：「+酒サケ→鱸酒ヒレザケ (第2 ヒレ\ザケ)」
- 「節◎シ\」 2 語：「+穴アナ\→節穴◎シアナ」
「+糸イ\ト→節糸◎シイト」
- 「冬フユ\」 6 語：「+型カタ\→冬型フユカタ」
「+草◎サ\→冬草フユ◎サ」
「+空ソ\ラ→冬空フユゾラ (第2 フユゾ\ラ)」
「+鳥トリ→冬鳥フユ\ドリ」
「+物モノ\ (第2 モノ) →冬物フユモノ」
「+山ヤマ\→冬山フユヤマ」
- 「風呂フロ\」 2 語：「+桶オ\ケ→風呂桶フロオ\ケ」
「+釜カマ→風呂釜フロガマ」
- 「下手ヘタ\」 1 語：「+糞◎ソ\→下手糞ヘタ◎ソ\ (第2 ヘタ\◎ソ)」
- 「縁ヘリ\」 1 語：「+無しナ\シ→縁無しヘリナシ」
- 「骨ホネ\」 2 語：「+無しナ\シ→骨無しホネナシ」

- 「+節フシ\→骨節ホネブシ」
- 「洞ホラ\ (第2ホ\ラ)」1語:「+穴アナ\→洞穴ホラアナ」
- 「堀ホリ\」1語:「+端ハタ→堀端ホリバタ」
- 「幕マク\」3語:「+内ウチ→幕内マクウチ (第2マクウチ\)」
「+下㊦タ\ (第2㊦タ) →幕下マク㊦タ (第2マク㊦タ\)」
「+尻シリ\→幕尻マクジリ (第2マクジリ\)」
- 「升マス\」2語:「+形カタ\→升形マスガタ」
「+酒サケ→升酒マスザケ」
- 「鱒マス\」1語:「+寿司スシ\ (第2ス\シ) →鱒寿司マス\ズシ (第2マスズシ)」
- 「股マタ\」3語:「+上カ\ミ→股上マタガミ」
「+下㊦タ\ (第2㊦タ) →股下マタ㊦タ (第2マタ㊦タ\)」
「+旅タビ\→股旅マタタビ」
- 「町マチ\」3語:「+幅ハバ→町幅マチハバ (第2マチ\ハバ)」
「+方カタ\→町方マ㊦カタ」
「+筋ス\ジ→町筋マ㊦スジ」
- 「街マチ\」1語:「+角カ\ド→街角マ㊦カド」
- 「豆マメ\」3語:「+粕カ\ス→豆粕マメカス (第2マメカ\ス)」
「+粒ツ\ブ→豆粒マメツ\ブ」
「+餅モチ→豆餅マメ\モチ」
- 「店ミセ\」2語:「+口㊦チ→店口ミセ\グチ (第2ミセグチ)」
「+先サキ→店先ミセサキ (第2ミセサキ\)」
- 「三つミツ\」4語:「+襟エリ\→三つ襟ミツエリ」
「+星ホシ→三つ星ミツ\ボシ (第2ミツボシ)」
「+指ユビ\→三つ指ミツユビ」
「+角カ\ド→三つ角ミ㊦カド」
- 「皆ミナ\」1語:「+様サマ\→皆様ミナ\サマ」
- 「耳ミミ\」3語:「+垢アカ\→耳垢ミミアカ (第2ミミアカ\)」
「+糞㊦ソ\→耳糞ミミ㊦ソ (第2ミミ\㊦ソ)」
「+元モト (第2モ\ト) →耳元ミミモト (第2ミミモ\ト) (第2ミミモト\)」
- 「胸ムネ\」1語:「+糞㊦ソ\→胸糞ムネ㊦ソ (第2ムネ㊦ソ\)」
- 「村ムラ\」2語:「+里サト→村里ムラザト (第2ムラ\ザト)」
「+人ヒト (第2ヒト\)\→村人ムラビト」
- 「室ムロ\」2語:「+鱒ア\ジ→室鱒ムロ\アジ」
「+町マチ\→室町ムロ\マチ」
- 「飯メシ\」5語:「+釜カマ→飯釜メシガマ (第2メシ\ガマ)」
「+時トキ\→飯時メシドキ」
「+櫃㊦ツ→飯櫃メシビツ (第2メシ\ビツ)」
「+前マ\エ→飯前メシマ\エ」
「+粒ツ\ブ→飯粒メ㊦ツ\ブ (第2メ㊦ツブ)」
- 「雌メス\」1語:「+雄オス\→雌雄メス\オス (第2メスオス)」
- 「物モノ\ (第2モノ)」6語:「+音オト\→物音モノオ\ト (第2モノオト\)」
「+陰カ\ゲ→物陰モノカゲ (第2モノカ\ゲ)」
「+腰コシ→物腰モノゴシ (第2モノ\ゴシ)」
「+事コト\→物事モノ\ゴト」

「+種タ\ネ→物種モノダネ」
 「+真似マネ→物真似モノマネ」
 「八つヤツ\」 3語：「+時トキ\→八つ時ヤツドキ」
 「+橋ハシ\→八つ橋ヤツ\ハシ」
 「+口㊦チ→八つ口ヤ㊦㊦チ」
 「山ヤマ\」 38語：「+藍ア\イ→山藍ヤマアイ」
 「+芋イモ\→山芋ヤマイモ」
 「+奥オ\ク→山奥ヤマオ\ク」
 「+陰カ\ゲ→山陰ヤマカゲ」
 「+駕籠カゴ→山駕籠ヤマカゴ (第2 ヤマ\カゴ)」
 「+風カゼ→山風ヤマ\カゼ」
 「+形カタ\→山形ヤマガタ」
 「+川カワ\→山川ヤマ\カワ」
 「+側ガワ→山側ヤマガワ」
 「+川カワ\→山川ヤマガワ」
 「+桐キリ→山桐ヤマ\ギリ」
 「+霧キリ→山霧ヤマ\ギリ」
 「+際キワ\→山際ヤマギワ」
 「+国クニ→山国ヤマ\グニ」
 「+小屋コヤ\ (第2 コヤ) →山小屋ヤマゴヤ」
 「+坂サカ\→山坂ヤマ\サカ」
 「+里サト→山里ヤマザト」
 「+猿サル→山猿ヤマザル」
 「+塩シオ\→山塩ヤマ\ジオ」
 「+城シロ→山城ヤマジロ」
 「+裾㊦ソ→山裾ヤマ㊦ソ」
 「+高タカ\ (第2 タ\カ) →山高ヤマタカ」
 「+寺テラ\→山寺ヤマ\デラ」
 「+鳥トリ→山鳥ヤマ\ドリ」
 「+中ナ\カ→山中ヤマナカ」
 「+形ナリ\→山形ヤマナリ」
 「+猫ネ\コ→山猫ヤマネコ」
 「+肌ハ\ダ→山肌ヤマハダ」
 「+鳩ハ\ト→山鳩ヤマバト (第2 ヤマバ\ト)」
 「+襷ヒ\ダ→山襷ヤマヒダ」
 「+人㊦ト (第2 ㊦ト\) →山人ヤマビト」
 「+蓆フキ→山蓆ヤマ\ブキ」
 「+繭マ\ユ→山繭ヤママユ」
 「+水ミズ→山水ヤマ\ミズ」
 「+道ミチ→山道ヤマ\ミチ」
 「+元モト (第2 モ\ト) →山元ヤマモト」
 「+桃モモ→山桃ヤマモモ (第2 ヤマ\モモ)」
 「+百合ユリ→山百合ヤマ\ユリ」
 「闇ヤミ\」 2語：「+市イ\チ→闇市ヤミ\イチ (第2 ヤミイ\チ)」

- 「+汁シ\ル→闇汁ヤミジ\ル」
- 「故ユエ\」 1 語：「+無しナ\シ→故無しユエ\ナシ (第 2 ユエナ\シ)」
- 「雪ユキ\」 12 語：「+穴アナ\→雪穴ユキアナ」
「+形カタ\→雪形ユキカタ」
「+国クニ→雪国ユキ\グニ」
「+雲ク\モ→雪雲ユキグモ」
「+空ソ\ラ→雪空ユキゾ\ラ (第 2 ユキゾラ)」
「+玉タマ\→雪玉ユキダマ」
「+年トシ\→雪年ユキ\ドシ」
「+布ヌノ→雪布ユキヌノ」
「+肌ハ\ダ→雪肌ユキハダ」
「+道ミチ→雪道ユキ\ミチ」
「+虫ムシ→雪虫ユキ\ムシ」
「+山ヤマ\→雪山ユキヤマ」
- 「指ユビ\」 2 語：「+先サキ→指先ユビサキ (第 2 ユビサキ\)」
「+笛フエ→指笛ユビブエ (第 2 ユビブ\エ)」
- 「弓ユミ\」 2 語：「+形カタ\→弓形ユミカタ」
「+形ナリ\→弓形ユミナリ」
- 「夢ユメ\」 1 語：「+殿ド\ノ→夢殿ユメドノ」
- 「脇ワキ\」 4 語：「+汗ア\セ→脇汗ワキアセ」
「+腹ハラ\→脇腹ワキバラ」
「+道ミチ→脇道ワキミチ (第 2 ワキ\ミチ)」
「+丈タケ\→脇丈ワ[㊦]\タケ」
- 「業ワザ\」 1 語：「+物モノ\ (第 2 モノ) →業物ワザモノ」
- 「綿ワタ\」 4 語：「+飴アメ→綿飴ワタ\アメ」
「+屑ク\ズ→綿屑ワタク\ズ」
「+雲ク\モ→綿雲ワタグモ (第 2 ワタグ\モ)」
「+虫ムシ→綿虫ワタ\ムシ」
- 「侘ワビ\」 1 語：「+助[㊦]ケ (第 2[㊦]ケ\) →侘助ワビ\[㊦]ケ」

後部要素語彙別

後部要素が 395 項目あり、後部要素の平板型と起伏式を分けて分析を行う。

後部要素が平板型の 119 項目があり、合計 486 語である。

- 「味アジ」 3 語：「秋ア\キ+→秋味アキ\アジ」
「後ア\ト+→後味アト\アジ (第 2 アトアジ)」
「塩シオ\+→塩味シオ\アジ」
- 「飴アメ」 5 語：「笹ササ+→笹飴ササアメ (第 2 ササ\アメ)」
「白シ\ロ+→白飴シロアメ (第 2 シロ\アメ)」
「喉ノ\ド+→喉飴ノド\アメ」
「水ミズ+→水飴ミズアメ」
「綿ワタ\+→綿飴ワタ\アメ」
- 「蟻アリ」 2 語：「赤ア\カ+→赤蟻アカアリ」
「白シ\ロ+→白蟻シロアリ」

- 「鳥賊イカ」3語：「赤ア\カ+→赤鳥賊アカ\イカ（第2アカイカ）」
「袖ソデ+→袖鳥賊ソデ\イカ」
「槍ヤリ+→槍鳥賊ヤリ\イカ（第2ヤリイカ）」
- 「上ウエ」7語：「兄ア\ニ+→兄上アニ\ウエ」
「姉アネ+→姉上アネ\ウエ」
「伯母オバ+→伯母上オバ\ウエ」
「父㊦\チ（第2㊦チ\）+→父上㊦チ\ウエ」
「年トシ\+→年上トシウエ」
「母ハ\ハ+→母上ハハ\ウエ」
「床ユカ+→床上ユカウエ」
- 「魚ウオ」4語：「川カワ\+→川魚カワウオ」
「底ソコ+→底魚ソコウオ」
「太刀タ\チ+→太刀魚タチ\ウオ」
「生ナ\マ+→生魚ナマ\ウオ」
- 「牛ウシ」3語：「親オヤ\+→親牛オヤウシ（第2オヤ\ウシ）」
「種タ\ネ+→種牛タネウシ（第2タネ\ウシ）」
「乳㊦チ\（第2㊦\チ）+→乳牛㊦チ\ウシ」
- 「内ウチ」1語：「幕マク\+→幕内マクウチ（第2マクウチ\）」
- 「梅ウメ」2語：「青ア\オ+→青梅アオ\ウメ（第2アオウメ）」
「慰斗ノシ\+→慰斗梅ノシ\ウメ」
- 「枝エダ」1語：「下㊦タ（第2㊦タ\）+→下枝㊦タエダ」
- 「海老エビ」1語：「芝シバ+→芝海老シバ\エビ（第2シバエビ）」
- 「顔カオ」7語：「朝ア\サ+→朝顔アサ\ガオ」
「初ハツ\+→初顔ハツガオ」
「昼ヒル\+→昼顔ヒルガオ」
「古フ\ル+→古顔フルガオ」
「丸マル+→丸顔マルガオ」
「タユ一（第2ユ\一）+→夕顔ユ一ガオ」
「横ヨコ+→横顔ヨコガオ」
- 「柿カキ」3語：「串㊦シ\+→串柿㊦シ\ガキ」
「転コ\ロ+→転柿コロ\ガキ」
「樽タル+→樽柿タルガキ（第2タル\ガキ）」
- 「駕籠カゴ」3語：「辻ツジ+→辻駕籠ツジカゴ（第2ツジ\カゴ）」
「早ハ\ヤ+→早駕籠ハヤ\カゴ（第2ハヤカゴ）」
「山ヤマ\+→山駕籠ヤマカゴ（第2ヤマ\カゴ）」
- 「籠カゴ」7語：「網アミ\+→網籠アミ\カゴ」
「屑ク\ズ+→屑籠クズ\カゴ」
「竹タケ+→竹籠タケカゴ」
「鳥トリ+→鳥籠トリカゴ」
「苗ナ\エ+→苗籠ナエ\カゴ」
「花ハナ\+→花籠ハナ\カゴ（第2ハナカゴ）」
「虫ムシ+→虫籠ムシカゴ」
- 「風カゼ」21語：「秋ア\キ+→秋風アキ\カゼ（第2アキカ\ゼ）」
「朝ア\サ+→朝風アサ\カゼ」

- 「雨ア\メ+→雨風ア\メカゼ (第2アメ\カゼ)」
「海ウ\ミ+→海風ウミ\カゼ」
「親オヤ\+→親風オヤ\カゼ (第2オヤカゼ)」
「神カ\ミ+→神風カミ\カゼ」
「川カワ\+→川風カワ\カゼ (第2カワカゼ)」
「北㊦タ (第2㊦タ\)+→北風㊦タカゼ (第2㊦タカゼ\)」
「潮シオ\+→潮風シオ\カゼ」
「太刀タ\チ+→太刀風タチ\カゼ (第2タチカ\ゼ)」
「谷タニ\+→谷風タニ\カゼ」
「波ナミ\+→波風ナミ\カゼ」
「西ニシ+→西風ニシカゼ」
「旗ハタ\+→旗風ハタ\カゼ」
「初ハツ\+→初風ハツ\カゼ (第2ハツカ\ゼ)」
「浜ハマ\+→浜風ハマ\カゼ」
「春ハ\ル+→春風ハル\カゼ」
「松マ\ツ+→松風マツ\カゼ (第2マツカ\ゼ)」
「山ヤマ\+→山風ヤマ\カゼ」
「タユ一 (第2ユ\一)+→夕風ユ一カゼ」
「横ヨコ+→横風ヨコカゼ」
- 「風邪カゼ」2語：「夏ナツ\+→夏風邪ナツカゼ」
「鼻ハナ+→鼻風邪ハナカゼ (第2ハナカ\ゼ)」
- 「仮名カナ」1語：「平ヒ\ラ+→平仮名ヒラガ\ナ (第2ヒラガナ) (第2ヒラガナ\)」
- 「蟹カニ」2語：「海老エビ+→海老蟹エビガニ」
「沢サワ\+→沢蟹サワガニ」
- 「金カネ」11語：「錢ゼ\ニ+→錢金ゼ\ニカネ」
「板イ\タ+→板金イタガネ」
「裏ウラ\+→裏金ウラガネ」
「帯オ\ビ+→帯金オビガネ」
「口㊦チ+→口金㊦チガネ」
「下㊦タ (第2㊦タ\)+→下金㊦タガネ」
「筋ス\ジ+→筋金スジガネ」
「壺ツボ+→壺金ツボガネ」
「偽ニセ+→偽金ニセガネ」
「針ハ\リ+→針金ハリガネ」
「肘ヒジ\+→肘金ヒジ\ガネ (第2ヒジガネ)」
- 「鐘カネ」1語：「早ハ\ヤ+→早鐘ハヤガネ (第2ハヤガネ\)」
- 「黴カビ」2語：「青ア\オ+→青黴アオカビ」
「黒ク\ロ+→黒黴クロカビ」
- 「蕪カブ」1語：「赤ア\カ+→赤蕪アカカブ」
- 「株カブ」2語：「親オヤ\+→親株オヤカブ (第2オヤ\カブ)」
「古フ\ル+→古株フルカブ」
- 「壁カベ」4語：「石イシ\+→石壁イシカベ」
「板イ\タ+→板壁イタカベ (第2イタ\カベ)」
「砂スナ+→砂壁スナカベ」

- 「生ナ\マ+→生壁ナマ\カベ (第2 ナマカベ)」
- 「釜カマ」8語：「鍋ナ\ベ+→鍋釜ナ\ベカマ (第2 ナベカマ)」
「後ア\ト+→後釜アトガマ (第2 アトガマ\)」
「内ウチ+→内釜ウチガマ」
「塩シオ\+→塩釜シオガマ (第2 シオ\ガマ)」
「外ソ\ト+→外釜ソトガマ」
「初ハツ\+→初釜ハツガマ」
「風呂フロ\+→風呂釜フロガマ」
「飯メシ\+→飯釜メシガマ (第2 メシ\ガマ)」
- 「窯カマ」2語：「石イシ\+→石窯イシガマ」
「炭スミ\+→炭窯スミガマ (第2 スミ\ガマ)」
- 「蚊帳カヤ」1語：「母衣ホ\ロ+→母衣蚊帳ホロ\ガヤ」
- 「粥カユ」2語：「朝ア\サ+→朝粥アサガユ (第2 アサ\ガユ)」
「芋イモ\+→芋粥イモガユ」
- 「側ガワ」8語：「内ウチ+→内側ウチガワ」
「裏ウラ\+→裏側ウラガワ」
「北㊦タ (第2㊦タ\)+→北側㊦タガワ」
「外ソ\ト+→外側ソトガワ」
「中ナ\カ+→中側ナカガワ」
「西ニシ+→西側ニシガワ」
「右ミ\ギ (第2 ミギ)+→右側ミギガワ」
「山ヤマ\+→山側ヤマガワ」
- 「傷キズ」3語：「生ナ\マ+→生傷ナマ\キズ (第2 ナマキズ)」
「古フ\ル+→古傷フルキズ (第2 フル\キズ)」
「槍ヤリ+→槍傷ヤリ\キズ (第2 ヤリキズ)」
- 「君キミ」4語：「父㊦チ (第2㊦チ\)+→父君㊦チ\ギミ」
「辻ツジ+→辻君ツジギミ (第2 ツジ\ギミ)」
「母ハ\ハ+→母君ハハ\ギミ」
「姫ヒ\メ+→姫君ヒメ\ギミ」
- 「桐キリ」2語：「青ア\オ+→青桐アオギリ (第2 ア\オギリ)」
「山ヤマ\+→山桐ヤマ\ギリ」
- 「霧キリ」4語：「朝ア\サ+→朝霧アサ\ギリ」
「川カワ\+→川霧カワギリ (第2 カワ\ギリ)」
「山ヤマ\+→山霧ヤマ\ギリ」
「タユ一 (第2 ユ\一)+→夕霧ユ一ギリ」
- 「釘クギ」3語：「犬イヌ\+→犬釘イヌ\クギ」
「竹タケ+→竹釘タケクギ (第2 タケ\クギ)」
「螺子ネ\ジ+→螺子釘ネジ\クギ」
- 「口㊦チ」24語：「秋ア\キ+→秋口アキ\グチ」
「糸イ\ト+→糸口イト\グチ」
「歌ウタ\+→歌口ウタ\グチ (第2 ウタグチ)」
「裏ウラ\+→裏口ウラグチ」
「陰カ\ゲ+→陰口カゲ\グチ」
「肩カ\タ+→肩口カタ\グチ」

- 「門カ\ド+→門口カド\グチ」
「蝦蟇ガ\マ (第2 ガマ) +→蝦蟇口ガマグチ」
「川カワ\+→川口カワグチ」
「傷キズ+→傷口キズグチ」
「木戸キ\ド+→木戸ロキド\グチ」
「鯉コ\イ+→鯉ロコイ\グチ (第2 コイグチ) (第2 コ\イグチ)」
「袖ソデ+→袖口ソデグチ」
「滝タキ+→滝口タキグチ」
「筒ツ (第2 ツ\) +→筒口ツグチ」
「鳶ト\ビ+→鳶ロトビ\グチ」
「庭ニワ+→庭口ニワグチ」
「窓マ\ド+→窓ロマド\グチ」
「店ミセ\+→店ロミセ\グチ (第2 ミセグチ)」
「鰐ワ\ニ+→鰐ロワニ\グチ」
「後ア\ト+→後ロアト\グチ (第2 アト\グチ)」
「片カ\タ (第2 カタ\) +→片ロカタ\グチ (第2 カタ\グチ)」
「早ハ\ヤ+→早ロハヤ\グチ」
「八つヤツ\+→八つロヤツ\グチ」
- 「国クニ」4 語：「北タ (第2 タ\) +→北国タ\グニ」
「島シマ\+→島国シマ\グニ」
「山ヤマ\+→山国ヤマ\グニ」
「雪ユキ\+→雪国ユキ\グニ」
- 「首クビ」7 語：「足アシ\+→足首ア\クビ (第2 ア\クビ)」
「襟エリ\+→襟首エリ\クビ」
「鎌カ\マ+→鎌首カマ\クビ」
「螻蛄ケラ (第2 ケラ\) +→螻蛄首ケラクビ」
「生ナ\マ+→生首ナマ\クビ (第2 ナマクビ) (第2 ナマクビ\)」
「喉ノ\ド+→喉首ノド\クビ」
「丸マル+→丸首マルクビ」
- 「桁ケタ」1 語：「橋ハシ\+→橋桁ハシゲタ」
- 「腰コシ」6 語：「足アシ\+→足腰ア\コシ (第2 ア\コシ)」
「肩カ\タ+→肩腰カ\タコシ」
「海老エビ+→海老腰エビゴシ」
「前マ\エ+→前腰マ\エゴシ」
「丸マル+→丸腰マルゴシ」
「物モノ\ (第2 モノ) +→物腰モノゴシ (第2 モノ\ゴシ)」
- 「薦コモ」1 語：「藁ワ\ラ+→藁薦ワラゴモ」
- 「先サキ」22 語：「足アシ\+→足先ア\サキ (第2 ア\サキ)」
「宛アテ+→宛先アテサキ」
「後ア\ト+→後先アト\サキ (第2 ア\トサキ)」
「肩カ\タ+→肩先カタサキ (第2 カタサキ)」
「門カ\ド+→門先カドサキ (第2 カドサキ)」
「口\グチ+→口先\グチサキ」
「小手コテ+→小手先コテサキ」

- 「潮シオ\十→潮先シオサキ」
「舌㊦タ\十→舌先㊦タサキ」
「太刀タ\チ十→太刀先タ㊦サキ (第2タ㊦サキ\)」
「旅タビ\十→旅先タビサキ (第2タビサキ\)」
「筒㊦ツ (第2㊦ツ\十) →筒先㊦ツサキ」
「庭ニワ十→庭先ニワサキ」
「軒ノキ十→軒先ノ㊦サキ」
「鼻ハナ十→鼻先ハナサキ」
「春ハ\ル十→春先ハルサキ (第2ハルサキ\)」
「筆フデ十→筆先フデサキ (第2フデサキ\)」
「矛ホ\コ十→矛先ホコサキ (第2ホコサキ\)」
「真っマツ十→真っ先マツサ\キ (第2マツサキ\)」
「店ミセ\十→店先ミセサキ (第2ミセサキ\)」
「槍ヤリ十→槍先ヤリサキ」
「指ユビ\十→指先ユビサキ (第2ユビサキ\)」
- 「鷺サギ」1語：「青ア\オ十→青鷺アオサギ」
- 「酒サケ」10語：「朝ア\サ十→朝酒アサザケ (第2アサ\ザケ)」
「爛カン (第2カ\ン) 十→爛酒カンザケ (第2カ\ンザケ)」
「菊㊦ク\ (第2㊦ク) 十→菊酒㊦ク\ザケ」
「白シ\ロ十→白酒シロザケ」
「樽タル十→樽酒タルザケ」
「茶屋チャヤ十→茶屋酒チャヤ\ザケ (第2チャヤザケ)」
「生ナ\マ十→生酒ナマ\ザケ (第2ナマザケ)」
「鱈ヒレ\十→鱈酒ヒレザケ (第2ヒレ\ザケ)」
「升マス\十→升酒マスザケ」
「自棄ヤ\ケ十→自棄酒ヤケザケ (第2ヤケ\ザケ)」
- 「笹ササ」2語：「熊クマ\ (第2ク\マ) 十→熊笹クマザサ (第2クマ\ザサ)」
「玉タマ\十→玉笹タマ\ザサ (第2タマザサ)」
- 「里サト」5語：「色イロ\十→色里イロ\ザト」
「浦ウラ\十→浦里ウラ\ザト (第2ウラザト)」
「人㊦ト十→人里㊦トザト」
「村ムラ\十→村里ムラザト (第2ムラ\ザト)」
「山ヤマ\十→山里ヤマザト」
- 「鯖サバ」2語：「秋ア\キ十→秋鯖ア㊦サバ (第2ア㊦\サバ)」
「塩シオ\十→塩鯖シオサバ (第2シオ\サバ)」
- 「鮫サメ」1語：「鰐ワ\ニ十→鰐鮫ワニ\ザメ」
- 「皿サラ」5語：「赤ア\カ十→赤皿アカザラ」
「石イシ\十→石皿イシザラ」
「白シ\ロ十→白皿シロザラ」
「平ヒ\ラ十→平皿ヒラザラ」
「紅ベ\ニ十→紅皿ベニ\ザラ」
- 「鹿シカ (第2シカ\)」2語：「篋へ\ラ (第2へラ\十) 十→篋鹿へラジカ (第2へラ\ジカ)」
- 「蝦夷エ\ゾ十→蝦夷鹿エゾ㊦カ」

- 「芝シバ」1語：「道ミチ＋→道芝ミ㊦シバ」
- 「城シロ」2語：「平ヒラ＋→平城ヒラジロ」
「山ヤマ＋→山城ヤマジロ」
- 「末スエ」1語：「月㊦キ＋→月末㊦キズエ（第2㊦キズエ）」
- 「杉スギ」1語：「糸イト＋→糸杉イトスギ」
- 「菅スゲ」2語：「花ハナ＋→花菅ハナスゲ」
「浜ハマ＋→浜菅ハマスゲ」
- 「助㊦ケ（第2㊦ケ）」2語：「雲クモ＋→雲助クモ㊦ケ」
「侘ワビ＋→侘助ワビ㊦ケ」
- 「裾㊦ソ」1語：「山ヤマ＋→山裾ヤマ㊦ソ」
- 「筒㊦ツ（第2㊦ツ）」2語：「竹タケ＋→竹筒タケズツ」
「花ハナ＋→花筒ハナズツ（第2ハナズツ）」
- 「爪ツメ」3語：「糸イト＋→糸爪イトズメ」
「琴コト＋→琴爪コトズメ（第2コトズメ）」
「生ナマ＋→生爪ナマズメ（第2ナマズメ）」
- 「蟬セミ」5語：「熊クマ（第2クマ）＋→熊蟬クマゼミ（第2クマゼミ）」
「夏ナツ＋→夏蟬ナツゼミ」
「初ハツ＋→初蟬ハツゼミ」
「春ハル＋→春蟬ハルゼミ（第2ハルゼミ）」
「タユ（第2ユ）＋→タ蟬ユゼミ」
- 「底ソコ」7語：「奥オコ＋→奥底オコ㊦ソコ（第2オコ㊦ソコ）」
「谷タニ＋→谷底タニゾコ」
「糸イト＋→糸底イトゾコ」
「川カワ＋→川底カワゾコ」
「靴㊦ツ＋→靴底㊦ツゾコ」
「中ナカ＋→中底ナカゾコ」
「鍋ナベ＋→鍋底ナベゾコ」
- 「袖ソデ」2語：「片カタ（第2カタ）＋→片袖カタソデ（第2カタソデ）」
「筒㊦ツ（第2㊦ツ）＋→筒袖㊦ツソデ（第2㊦ツソデ）」
- 「鷹タカ」2語：「熊クマ（第2クマ）＋→熊鷹クマタカ」
「禿ハゲ＋→禿鷹ハゲタカ」
- 「竹タケ」6語：「呉クレ＋→呉竹クレタケ（第2クレタケ）」
「松マツ＋→松竹マツ㊦タケ」
「青アオ＋→青竹アオダケ（第2アオダケ）」
「親オヤ＋→親竹オヤダケ（第2オヤダケ）」
「竿サオ＋→竿竹サオダケ（第2サオダケ）」
「煤スス（第2スス）＋→煤竹ススダケ（第2ススダケ）」
- 「店タナ」1語：「裏ウラ＋→裏店ウラダナ」
- 「棚タナ」4語：「網アミ＋→網棚アミダナ」
「岩イワ＋→岩棚イワダナ」
「神カミ＋→神棚カミダナ」
「藤フジ＋→藤棚フジダナ」
- 「樽タル」1語：「角ツノ＋→角樽ツノダル」
- 「辻ツジ」1語：「四つヨツ＋→四つ辻ヨツジ㊦ツジ」

- 「壺ツボ」4語：「酒サケ＋→酒壺サケツボ」
「墨スミ\＋→墨壺スミツボ（第2スミ\ツボ）」
「蛸タ\コ＋→蛸壺タコ\ツボ（第2タコツボ）」
「滝タキ＋→滝壺タ[⊕]ツボ」
- 「梅雨ツユ」1語：「空カラ\＋→空梅雨カラツユ」
- 「床トコ」4語：「髪カミ\＋→髪床カミドコ」
「川カワ\＋→川床カワドコ」
「苗ナ\エ＋→苗床ナエドコ」
「糠ヌカ\（第2ヌカ）＋→糠床ヌカドコ」
- 「寅トラ」1語：「丑ウシ＋→丑寅ウ[⊙]トラ」
- 「酉トリ」1語：「初ハツ\＋→初酉ハ[⊙]トリ」
- 「鳥トリ」7語：「海ウ\ミ＋→海鳥ウミ\ドリ」
「親オヤ\＋→親鳥オヤ\ドリ」
「筒[⊙]ツ（第2[⊙]ツ\）＋→筒鳥[⊙]ツ\ドリ」
「夏ナツ\＋→夏鳥ナツ\ドリ（第2ナツドリ）」
「雛ヒ\ナ＋→雛鳥ヒナ\ドリ」
「冬フユ\＋→冬鳥フユ\ドリ」
「山ヤマ\＋→山鳥ヤマ\ドリ」
- 「庭ニワ」6語：「内ウチ＋→内庭ウチニワ」
「裏ウラ\＋→裏庭ウラニワ」
「坪ツボ＋→坪庭ツボニワ」
「中ナ\カ＋→中庭ナカニワ」
「箱ハコ＋→箱庭ハコニワ」
「前マ\エ＋→前庭マエニワ」
「布ヌノ」3語：「裏ウラ\＋→裏布ウラヌノ」
「白シ\ロ＋→白布シロヌノ」
「雪ユキ\＋→雪布ユキヌノ」
- 「灰ハイ」1語：「藁ワ\ラ＋→藁灰ワラ\バイ」
- 「蠅ハエ」3語：「青ア\オ＋→青蠅アオ\バエ（第2アオバエ）」
「家イエ\＋→家蠅イエバエ（第2イエ\バエ）」
「馬ウマ\＋→馬蠅ウマ\バエ」
- 「箱ハコ」14語：「餌エサ\（第2エサ）＋→餌箱エサ\バコ（第2エサバコ）」
「金カネ＋→金箱カネバコ」
「紙カミ\＋→紙箱カミバコ」
「空カラ\＋→空箱カラバコ」
「釘クギ＋→釘箱クギバコ」
「櫛[⊙]シ\＋→櫛箱[⊙]シ\バコ」
「屑ク\ズ＋→屑箱クズバコ」
「塵ゴミ\＋→塵箱ゴミバコ（第2ゴミバ\コ）」
「錢ゼ\ニ＋→錢箱ゼニバコ」
「箸ハ\シ＋→箸箱ハシ\バコ（第2ハシバコ）」
「針ハ\リ＋→針箱ハリバコ」
「豚ブタ＋→豚箱ブタバコ」
「筆フデ＋→筆箱フデバコ」

- 「文フ\ミ (第2 フミ\) + → 文箱フミ\バコ」
- 「端ハシ」6 語 : 「片カ\タ (第2 カタ\) + → 片端カタハシ (第2 カタハシ\) (第2 カタハシ\)」
- 「井戸イ\ド + → 井戸端イドバタ」
- 「海ウ\ミ + → 海端ウミバタ」
- 「川カワ\ + → 川端カワバタ」
- 「堀ホリ\ + → 堀端ホリバタ」
- 「道ミチ + → 道端ミチバタ」
- 「鼻ハナ」2 語 : 「鉤カギ\ + → 鉤鼻カギバナ (第2 カギ\バナ)」
- 「鷺ワシ + → 鷺鼻ワシバナ」
- 「湊ハナ」2 語 : 「青ア\オ + → 青湊アオバナ」
- 「水ミズ + → 水湊ミズバナ (第2 ミズバナ\)」
- 「幅ハバ」9 語 : 「襟エリ\ + → 襟幅エリ\ハバ (第2 エリハバ)」
- 「肩カ\タ + → 肩幅カタ\ハバ」
- 「川カワ\ + → 川幅カワハバ (第2 カワ\ハバ)」
- 「袖ソデ + → 袖幅ソデ\ハバ」
- 「並ナミ + → 並幅ナミハバ (第2 ナミ\ハバ)」
- 「前マ\エ + → 前幅マ\エハバ (第2 マエ\ハバ)」
- 「町マチ\ + → 町幅マチハバ (第2 マチ\ハバ)」
- 「道ミチ + → 道幅ミチハバ」
- 「横ヨコ + → 横幅ヨコハバ」
- 「薔薇バラ」1 語 : 「蔓ツル\ (第2 ツ\ル) + → 蔓薔薇ツルバラ」
- 「髯ヒゲ」1 語 : 「頬ホ\ + → 頬髯ホーヒゲ」
- 「鬚ヒゲ」1 語 : 「顎アゴ\ + → 顎鬚アゴヒゲ (第2 アゴ\ヒゲ)」
- 「髭ヒゲ」4 語 : 「赤ア\カ + → 赤髭アカヒゲ」
- 「口㊦チ + → 口髭㊦チヒゲ (第2 ㊦チ\ヒゲ)」
- 「虎トラ + → 虎髭トラヒゲ」
- 「山羊ヤ\ギ + → 山羊髭ヤギ\ヒゲ」
- 「膝ヒザ」1 語 : 「片カ\タ (第2 カタ\) + → 片膝カタヒザ」
- 「菱㊦シ」1 語 : 「花ハナ\ + → 花菱ハナ\ビシ」
- 「櫃㊦ツ」2 語 : 「米コメ\ + → 米櫃コメビツ」
- 「飯メシ\ + → 飯櫃メシビツ (第2 メシ\ビツ)」
- 「人㊦ト (第2 ㊦ト\)」10 語 : 「歌ウタ\ + → 歌人ウタビト (第2 ウタ\ビト)」
- 「里サト + → 里人サトビト」
- 「只タ\ダ + → 只人タダビト」
- 「旅タビ\ + → 旅人タビビト」
- 「罪ツ\ミ + → 罪人ツミビト」
- 「何ナニ (第2 ナ\ニ) + → 何人ナニビト」
- 「母ハ\ハ + → 母人ハハ\ビト (第2 ハハビト)」
- 「宮ミヤ + → 宮人ミヤビト」
- 「村ムラ\ + → 村人ムラビト」
- 「山ヤマ\ + → 山人ヤマビト」
- 「暇ヒマ」1 語 : 「手間テマ\ + → 手間暇テマ\ヒマ」
- 「紐ヒモ」6 語 : 「顎アゴ\ + → 顎紐アゴ\ヒモ (第2 アゴヒモ)」

- 「肩カ\タ+→肩紐カタ\ヒモ (第2カタヒモ)」
「紙カミ\+→紙紐カミヒモ (第2カミ\ヒモ)」
「革カワ\+→革紐カワヒモ」
「靴ツ\+→靴紐ツヒモ (第2ツ\ヒモ)」
「腰コシ+→腰紐コシヒモ (第2コシ\ヒモ)」
- 「笛フエ」15語：「葦ア\シ+→葦笛アシブエ (第2アシブ\エ)」
「雉キジ+→雉笛キジブエ (第2キジブ\エ)」
「草サ\+→草笛サブエ」
「口チ+→口笛チブエ (第2チブ\エ)」
「鹿カ (第2カ\)+→鹿笛カブエ (第2カブ\エ)」
「篠シ\ノ (第2シノ\)+→篠笛シノブエ (第2シノブ\エ)」
「柴シバ+→柴笛シバブエ (第2シバ\ブエ)」
「縦タ\テ+→縦笛タテブエ (第2タテ\ブエ)」
「角ツノ\+→角笛ツノブエ (第2ツノブ\エ)」
「喉ノ\ド+→喉笛ノドブエ (第2ノドブ\エ)」
「鳩ハ\ト+→鳩笛ハトブエ (第2ハトブ\エ)」
「麦ム\ギ+→麦笛ムギブエ (第2ムギブ\エ)」
「虫ムシ+→虫笛ムシブエ (第2ムシブ\エ)」
「指ユビ\+→指笛ユビブエ (第2ユビブ\エ)」
「横ヨコ+→横笛ヨコブエ」
- 「蔭キ」1語：「山ヤマ\+→山蔭ヤマ\ブキ」
- 「札フダ」4語：「赤ア\カ+→赤札アカフダ」
「辻ツジ+→辻札ツジ\フダ」
「富ト\ミ+→富札トミ\フダ (第2トミフダ)」
「花ハナ\+→花札ハナ\フダ (第2ハナフダ)」
- 「蓋タ」5語：「裏ウラ\+→裏蓋ウラブタ」
「鰓エラ+→鰓蓋エラブタ」
「瘡カサ+→瘡蓋カサブタ」
「共トモ+→共蓋トモブタ」
「鍋ナ\ベ+→鍋蓋ナベブタ (第2ナベ\ブタ)」
- 「豚ブタ」2語：「黒ク\ロ+→黒豚クロブタ」
「中ナ\カ+→中豚ナカブタ」
- 「星ホシ」5語：「相ア\イ+→相星アイボシ」
「黒ク\ロ+→黒星クロ\ボシ」
「白シ\ロ+→白星シロ\ボシ」
「糠ヌカ\ (第2ヌカ)+→糠星ヌカ\ボシ」
「三つミツ\+→三つ星ミツ\ボシ (第2ミツボシ)」
- 「程ホド」1語：「先サキ+→先程サホド」
「中ナ\カ+→中程ナカホド」
- 「真似マネ」4語：「口チ+→口真似チマネ」
「猿サ\ル+→猿真似サルマネ」
「人ヒト+→人真似ヒトマネ」
「物モノ\ (第2モノ)+→物真似モノマネ」
- 「忠実マメ」2語：「足アシ\+→足忠実アシマメ」

- 「筆フデ+→筆忠実フデマメ」
- 「丸マル」1語：「花ハナ\+→花丸ハナマル」
- 「御簾ミス」1語：「黒ク\ロ+→黒御簾クロミス」
- 「水ミズ」9語：「汗ア\セ+→汗水ア\セミズ」
- 「井戸イ\ド+→井戸水イド\ミズ」
- 「川カワ\+→川水カワ\ミズ」
- 「塩シオ\+→塩水シオ\ミズ」
- 「泥ドロ\+→泥水ドロ\ミズ」
- 「生ナ\マ+→生水ナマ\ミズ」
- 「鼻ハナ+→鼻水ハナミズ (第2ハナミ\ズ)」
- 「花ハナ\+→花水ハナ\ミズ」
- 「山ヤマ\+→山水ヤマ\ミズ」
- 「道ミチ」15語：「畦アゼ\+→畦道アゼ\ミチ」
- 「糸イ\ト+→糸道イト\ミチ」
- 「裏ウラ\+→裏道ウラミチ」
- 「枝エダ+→枝道エダミチ」
- 「崖ガケ+→崖道ガケミチ (第2ガケ\ミチ)」
- 「片カ\タ (第2カタ\)+→片道カタミチ」
- 「坂サカ\+→坂道サカ\ミチ」
- 「筋ス\ジ+→筋道スジ\ミチ (第2スジミチ)」
- 「泥ドロ\+→泥道ドロ\ミチ」
- 「花ハナ\+→花道ハナ\ミチ」
- 「早ハ\ヤ+→早道ハヤ\ミチ」
- 「山ヤマ\+→山道ヤマ\ミチ」
- 「雪ユキ\+→雪道ユキ\ミチ」
- 「横ヨコ+→横道ヨコミチ」
- 「脇ワキ\+→脇道ワキミチ (第2ワキ\ミチ)」
- 「宮ミヤ」1語：「宵ヨイ+→宵宮ヨイミヤ」
- 「虫ムシ」11語：「青ア\オ+→青虫アオ\ムシ」
- 「芋イモ\+→芋虫イモ\ムシ」
- 「蛆ウジ\+→蛆虫ウジ\ムシ」
- 「亀カ\メ+→亀虫カメ\ムシ」
- 「鈴スズ+→鈴虫スズ\ムシ」
- 「玉タマ\+→玉虫タマ\ムシ」
- 「松マ\ツ+→松虫マツ\ムシ」
- 「水ミズ+→水虫ミズムシ」
- 「蓑ミ\ノ+→蓑虫ミノ\ムシ」
- 「雪ユキ\+→雪虫ユキ\ムシ」
- 「綿ワタ\+→綿虫ワタ\ムシ」
- 「斑ムラ」1語：「色イロ\+→色斑イロムラ」
- 「餅モチ」8語：「粟ア\ワ+→粟餅アワ\モチ」
- 「牡蠣カ\キ+→牡蠣餅カキ\モチ」
- 「草㊦サ\+→草餅㊦サ\モチ」
- 「葛ク\ズ+→葛餅クズ\モチ」

- 「尻シリ\+→尻餅シリモ\チ (第2シリ\モチ)」
「菱㊦シ+→菱餅㊦シ\モチ」
「豆マメ\+→豆餅マメ\モチ」
「水ミズ+→水餅ミズモチ (第2ミズモ\チ) (第2ミズ\モチ)」
「元モト (第2モ\ト)」 17 語：「足アシ\+→足元アシモ\ト (第2アシモト\)」
「家イエ\+→家元イエモト (第2イエモト\)」
「襟エリ\+→襟元エリモト (第2エリモ\ト) (第2エリモト\)」
「親オヤ\+→親元オヤモト (第2オヤモト\)」
「金カネ+→金元カネモト」
「釜カマ+→釜元カマモト」
「窯カマ+→窯元カマモト」
「口㊦チ+→口元㊦チモト」
「国クニ+→国元クニモト」
「蔵クラ\+→蔵元クラモト」
「腰コシ+→腰元コシモト」
「喉ノ\ド+→喉元ノドモト」
「鼻ハナ+→鼻元ハナモト」
「膝ヒザ+→膝元ヒザモト」
「耳ミミ\+→耳元ミミモト (第2ミミモ\ト) (第2ミミモト\)」
「宿ヤ\ド+→宿元ヤドモト」
「山ヤマ\+→山元ヤマモト」
「桃モモ」 2 語：「苔コケ\+→苔桃コケモモ」
「山ヤマ\+→山桃ヤマモモ (第2ヤマ\モモ)」
「藪ヤブ」 3 語：「草㊦サ\+→草藪㊦サヤブ」
「笹ササ+→笹藪ササヤブ」
「竹タケ+→竹藪タケヤブ」
「槍ヤリ」 2 語：「竹タケ+→竹槍タケヤリ」
「横ヨコ+→横槍ヨコヤリ」
「タユ一 (第2ユ\一)」 1 語：「朝ア\サ+→朝タア\サユ一」
「百合ユリ」 4 語：「鬼オニ\+→鬼百合オニ\ユリ」
「黒ク\ロ+→黒百合クロ\ユリ」
「姫ヒ\メ+→姫百合ヒメ\ユリ」
「山ヤマ\+→山百合ヤマ\ユリ」
「横ヨコ」 1 語：「縦タ\テ+→縦横タ\テヨコ」
「嫁ヨメ」 2 語：「兄ア\ニ+→兄嫁アニ\ヨメ」
「花ハナ\+→花嫁ハナ\ヨメ」
「鷲ワシ」 2 語：「犬イヌ\+→犬鷲イヌワシ」
「禿ハ\ゲ+→禿鷲ハゲワシ」

後部要素が起伏式の頭高型の 126 項目があり、計 373 語である。

- 「間ア\イ」 1 語：「谷タニ\+→谷間タニアイ (第2タニア\イ)」
「藍ア\イ」 1 語：「山ヤマ\+→山藍ヤマアイ」
「秋ア\キ」 3 語：「初ハツ\+→初秋ハツアキ (第2ハツア\キ)」
「春ハ\ル+→春秋ハ\ルアキ」

- 「麦ム\ギ+→麦秋ムギ\アキ」
- 「鱒ア\ジ」 2 語：「縞シマ\+→縞鱒シマ\アジ」
「室ムロ\+→室鱒ムロ\アジ」
- 「汗ア\セ」 1 語：「脇ワキ\+→脇汗ワキアセ」
- 「痕ア\ト」 2 語：「傷キズ+→傷痕キズアト」
「爪ツメ+→爪痕ツメアト」
- 「跡ア\ト」 1 語：「足アシ\+→足跡アシア\ト」
- 「雨ア\メ」 1 語：「糠ヌカ\ (第2ヌカ) +→糠雨ヌカア\メ (第2ヌカアメ)」
- 「鮎ア\ユ」 1 語：「塩シオ\+→塩鮎シオア\ユ (第2シオアユ)」
- 「息イ\キ」 1 語：「鼻ハナ+→鼻息ハナイキ」
- 「板イ\タ」 14 語：「型カタ\+→型板カタイタ」
「壁カベ+→壁板カベイタ」
「腰コシ+→腰板コシイタ」
「杉スギ+→杉板スギイタ」
「棚タナ+→棚板タナイタ」
「種タ\ネ+→種板タネイタ」
「床トコ+→床板トコイタ」
「溝ドブ+→溝板ドブイタ」
「波ナミ\+→波板ナミイタ」
「猫ネ\コ+→猫板ネコイタ」
「橋ハシ\+→橋板ハシイタ」
「羽目ハメ\+→羽目板ハメイタ」
「屋根ヤ\ネ+→屋根板ヤネイタ」
「床ユカ+→床板ユカイタ」
- 「市イ\チ」 4 語：「朝ア\サ+→朝市アサ\イチ」
「魚ウオ+→魚市ウオ\イチ (第2ウオイ\チ)」
「馬ウマ\+→馬市ウマイチ (第2ウマイ\チ)」
「闇ヤミ\+→闇市ヤミ\イチ (第2ヤミイ\チ)」
- 「糸イ\ト」 19 語：「麻アサ\+→麻糸アサイト」
「穴アナ\+→穴糸アナイト」
「綾アヤ\+→綾糸アヤイト」
「色イロ\+→色糸イロイト」
「柶カ\セ+→柶糸カセイ\ト (第2カセイト)」
「絹キ\ヌ+→絹糸キヌイト」
「屑ク\ズ+→屑糸クズイト」
「黒ク\ロ+→黒糸クロイト」
「琴コ\ト+→琴糸コトイト (第2コト\イト)」
「白シ\ロ+→白糸シロイト」
「墨スミ\+→墨糸スミイト」
「縦タ\テ+→縦糸タテイト」
「玉タマ\+→玉糸タマイト」
「緯ヌキ+→緯糸ヌキイ\ト (第2ヌキイト)」
「蓮ハス+→蓮糸ハスイト」
「節㊦シ\+→節糸㊦シイト」

- 「道ミチ+→道糸ミチイト」
「横ヨコ+→横糸ヨコイト」
- 「今イ\マ」1語：「只タ\ダ+→只今タダイマ\」
「白ウ\ス」1語：「石イシ\+→石白イシウス」
「海ウ\ミ」3語：「内ウチ+→内海ウチウミ」
「外ソ\ト+→外海ソトウ\ミ（第2ソトウミ）」
「泥ドロ\+→泥海ドロウミ」
- 「瓜ウ\リ」1語：「白シ\ロ+→白瓜シロ\ウリ（第2シロウリ）」
「荻オ\ギ」1語：「浜ハマ\+→浜荻ハマ\オギ（第2ハマオギ）」
「奥オ\ク」1語：「山ヤマ\+→山奥ヤマオ\ク」
「桶オ\ケ」4語：「首クビ+→首桶クビオ\ケ（第2クビオケ）」
「早ハ\ヤ+→早桶ハヤオ\ケ」
「風呂フロ\+→風呂桶フロオ\ケ」
「水ミズ+→水桶ミズオケ（第2ミズオ\ケ）」
- 「帯オ\ビ」9語：「赤ア\カ+→赤帯アカオビ」
「革カワ\+→革帯カワオビ（第2カワオ\ビ）」
「黒ク\ロ+→黒帯クロオビ」
「腰コシ+→腰帯コシオビ（第2コシオ\ビ）」
「下☉タ（第2☉タ\）+→下帯☉タオビ」
「白シ\ロ+→白帯シロオビ」
「夏ナツ\+→夏帯ナツオビ」
「腹ハラ\+→腹帯ハラオビ（第2ハラオ\ビ）」
「丸マル+→丸帯マルオビ」
- 「貝ガ\イ」5語：「青ア\オ+→青貝アオ\ガイ（第2アオガイ）」
「赤ア\カ+→赤貝アカ\ガイ」
「潮シオ\+→潮貝シオ\ガイ」
「鳥トリ+→鳥貝トリ\ガイ」
「水ミズ+→水貝ミズ\ガイ」
- 「牡蠣ガ\キ」1語：「生ナ\マ+→生牡蠣ナマ\ガキ（第2ナマガ\キ）（第2ナマガキ）」
- 「陰カ\ゲ」6語：「岩イワ\+→岩陰イワカゲ（第2イワカ\ゲ）」
「片カ\タ（第2カタ\）+→片陰カタカ\ゲ（第2カタカゲ）」
「下☉タ（第2☉タ\）+→下陰☉タカゲ」
「物モノ\（第2モノ）+→物陰モノカゲ（第2モノカ\ゲ）」
「藪ヤブ+→藪陰ヤブカゲ（第2ヤブカ\ゲ）」
「山ヤマ\+→山陰ヤマカゲ」
- 「影カ\ゲ」7語：「島シマ\+→島影シマカゲ」
「月☉キ\+→月影☉キカゲ（第2☉キカ\ゲ）」
「鳥トリ+→鳥影トリカゲ」
「人☉ト+→人影☉トカゲ」
「星ホシ+→星影ホ☉カゲ（第2ホ☉カ\ゲ）」
「松マ\ツ+→松影マ☉カ\ゲ」
「タユー（第2ユ\ー）+→タ影ユーカーカゲ（第2ユーカー\ゲ）」
- 「笠カ\サ」4語：「松マ\ツ+→松笠マ☉カサ（第2マ☉カ\サ）」

- 「蓑ミ\ノ+→蓑笠ミ\ノカサ」
「菅スゲ+→菅笠スゲガサ (第2 スゲガ\サ)」
「花ハナ\+→花笠ハナガサ (第2 ハナガ\サ) (第2 ハナ\ガサ)」
- 「櫛カ\シ」1 語：「赤ア\カ+→赤櫛アカガシ」
- 「粕カ\ス」2 語：「酒サケ+→酒粕サケカス」
「豆マメ\+→豆粕マメカス (第2 マメカ\ス)」
- 「数カ\ズ」2 語：「品シナ (第2 シナ\)+→品数シナカズ」
「人㊦ト+→人数㊦トカズ」
- 「肩カ\タ」2 語：「襟エリ\+→襟肩エリ\カタ」
「右ミ\ギ (第2 ミギ)+→右肩ミギカタ」
- 「角カ\ド」4 語：「岩イワ\+→岩角イワカド (第2 イワカ\ド)」
「街マチ\+→街角マ㊦カド」
「三つミツ\+→三つ角ミ㊦カド」
「四つヨ\ツ+→四つ角ヨ㊦カド」
- 「上カ\ミ」3 語：「浦ウラ\+→浦上ウラカミ」
「川カワ\+→川上カワカミ」
「股マタ\+→股上マタガミ」
- 「神カ\ミ」3 語：「氏ウ\ジ+→氏神ウジガミ (第2 ウジ\ガミ) (第2 ウジガ\ミ)」
「鬼オニ\+→鬼神オニ\ガミ (第2 オニガミ)」
「年トシ\+→年神トシガミ」
- 「亀カ\メ」5 語：「鶴ツ\ル+→鶴亀ツ\ルカメ」
「石イシ\+→石亀イシガメ」
「海ウ\ミ+→海亀ウミガメ」
「銭ゼ\ニ+→銭亀ゼニガメ」
「蓑ミ\ノ+→蓑亀ミノガメ」
- 「鴨カ\モ」1 語：「間ア\イ+→間鴨アイガモ」
- 「絹キ\ヌ」3 語：「綾アヤ\+→綾絹アヤギ\ヌ (第2 アヤギヌ)」
「白シ\ロ+→白絹シロギヌ (第2 シロギ\ヌ)」
「平ヒ\ラ+→平絹ヒラギヌ (第2 ヒラギ\ヌ)」
- 「衣キ\ヌ」1 語：「肩カ\タ+→肩衣カタ\ギヌ」
- 「杭ク\イ」1 語：「橋ハシ\+→橋杭ハシグイ」
- 「籤ク\ジ」2 語：「空カラ\+→空籤カラクジ (第2 カラク\ジ)」
「富ト\ミ+→富籤トミクジ (第2 トミ\クジ)」
- 「屑ク\ズ」5 語：「糸イ\ト+→糸屑イトク\ズ (第2 イトクズ)」
「紙カミ\+→紙屑カミク\ズ」
「粉コナ\+→粉屑コナク\ズ」
「星ホシ+→星屑ホ㊦クズ (第2 ホ㊦ク\ズ)」
「綿ワタ\+→綿屑ワタク\ズ」
- 「雲ク\モ」8 語：「黒ク\ロ+→黒雲クロクモ」
「鯖サバ+→鯖雲サバグモ」
「筋ス\ジ+→筋雲スジグモ」
「夏ナツ\+→夏雲ナツグモ」
「夕ユー (第2 ユ\ー)+→夕雲ユীগモ」
「雪ユキ\+→雪雲ユキグモ」

- 「横ヨコ⁺→横雲ヨコグモ」
「綿ワタ[\]⁺→綿雲ワタグモ (第2ワタグ[\]モ)」
「蜘蛛ク[\]モ」3語：「朝ア[\]サ⁺→朝蜘蛛アサグモ (第2アサグ[\]モ)」
「土[㊦]チ[\]⁺→土蜘蛛[㊦]チグモ (第2[㊦]チグ[\]モ)」
「平ヒ[\]ラ⁺→平蜘蛛ヒラグモ」
- 「黒ク[\]ロ」5語：「白シ[\]ロ⁺→白黒シロクロ」
「白シ[\]ロ⁺→白黒シ[\]ロクロ」
「真^っマツ⁺→真^っ黒マツク[\]ロ」
「色イロ[\]⁺→色黒イログロ」
「中ナ[\]カ⁺→中黒ナカグロ」
- 「恋コ[\]イ」2語：「色イロ[\]⁺→色恋イロ[\]コイ」
「片カ[\]タ (第2カタ[\]) ⁺→片恋カタコイ」
- 「声コ[\]エ」6語：「歌ウタ[\]⁺→歌声ウタゴエ (第2ウタゴ[\]エ)」
「裏ウラ[\]⁺→裏声ウラゴエ」
「錆サビ[\]⁺→錆声サビゴ[\]エ (第2サビゴエ)」
「高タカ[\] (第2タ[\]カ) ⁺→高声タカゴエ (第2タカゴ[\]エ)」
「鼻ハナ⁺→鼻声ハナゴエ (第2ハナゴ[\]エ)」
「人[㊤]ト⁺→人声[㊤]トゴエ」
- 「昆布コ[\]ブ」1語：「鱈タ[\]ラ⁺→鱈昆布タラコ[\]ブ (第2タラコブ)」
- 「駒コ[\]マ (第2コマ)」2語：「間ア[\]イ⁺→間駒アイゴマ」
「春ハ[\]ル⁺→春駒ハル[\]ゴマ (第2ハルゴマ) (第2ハルゴ[\]マ)」
- 「頃コ[\]ロ」8語：「何時イ[\]ツ⁺→何時頃イツゴロ」
「今イ[\]マ⁺→今頃イマゴロ」
「先サキ⁺→先頃サキ[\]ゴロ (第2サキゴ[\]ロ)」
「年トシ[\]⁺→年頃トシゴロ」
「年トシ[\]⁺→年頃トシ[\]ゴロ」
「中ナ[\]カ⁺→中頃ナカゴロ (第2ナカ[\]ゴロ)」
「春ハ[\]ル⁺→春頃ハルゴ[\]ロ」
「昼ヒル[\]⁺→昼頃ヒルゴ[\]ロ」
- 「鮭サ[\]ケ」3語：「塩シオ[\]⁺→塩鮭シオザ[\]ケ」
「白シ[\]ロ⁺→白鮭シロザ[\]ケ (第2シロザケ)」
「紅ベ[\]ニ⁺→紅鮭ベニザケ (第2ベニザ[\]ケ)」
- 「鮭シャ[\]ケ」1語：「塩シオ[\]⁺→塩鮭シオジャ[\]ケ」
- 「猿サ[\]ル」1語：「山ヤマ[\]⁺→山猿ヤマザル」
- 「汁シ[\]ル」5語：「芋イモ[\]⁺→芋汁イモジル (第2イモジ[\]ル)」
「糟カ[\]ス⁺→糟汁カスジル (第2カスジ[\]ル)」
「出汁ダシ[\]⁺→出汁汁ダシジル (第2ダシジ[\]ル)」
「鼻ハナ⁺→鼻汁ハナジル」
「闇ヤミ[\]⁺→闇汁ヤミジ[\]ル」
- 「白シ[\]ロ」4語：「黒ク[\]ロ⁺→黒白ク[\]ロシロ」
「月[㊦]キ[\]⁺→月白[㊦]キシロ」
「真^っマツ⁺→真^っ白マツシ[\]ロ」
「色イロ[\]⁺→色白イロジロ」
- 「杖ツ[\]エ」2語：「側ソ[\]バ⁺→側杖ソバズエ (第2ソバズ[\]エ)」

- 「鳩ハ\ト+→鳩杖ハトズ\エ (第2ハト\ズエ)」
- 「筋ス\ジ」 10 語：「青ア\オ+→青筋アオスジ」
「家イエ\+→家筋イエスジ」
「粋イキ+→粋筋イ[㊤]スジ (第2イ[㊤]\スジ) (第2イ[㊤]ス\ジ)」
「川カワ\+→川筋カワスジ」
「首クビ+→首筋クビスジ」
「太刀タ\チ+→太刀筋タチ\スジ」
「球タマ\+→球筋タマスジ」
「鼻ハナ+→鼻筋ハナスジ」
「町マチ\+→町筋マ[㊤]スジ」
「道ミチ+→道筋ミ[㊤]スジ」
- 「妻ツ\マ」 1 語：「人[㊤]ト+→人妻[㊤]トズマ」
- 「隅ス\ミ」 1 語：「片カ\タ (第2カタ\) +→片隅カタスミ (第2カタ\スミ)」
- 「外ソ\ト」 1 語：「内ウチ+→内外ウ[㊤]ソ\ト」
- 「園ソ\ノ」 1 語：「花ハナ\+→花園ハナゾノ」
- 「蕎麦ソ\バ」 2 語：「笹ザル\+→笹蕎麦ザルソバ」
「藪ヤブ+→藪蕎麦ヤブソバ」
- 「空ソ\ラ」 10 語：「青ア\オ+→青空アオゾ\ラ」
「秋ア\キ+→秋空アキゾ\ラ (第2アキゾラ)」
「高タカ\ (第2タ\カ) +→高空タカゾ\ラ」
「梅雨ツユ+→梅雨空ツユゾラ (第2ツユゾ\ラ)」
「中ナ\カ+→中空ナカゾ\ラ」
「夏ナツ\+→夏空ナツゾラ (第2ナツゾ\ラ)」
「初ハツ\+→初空ハツゾ\ラ」
「冬フユ\+→冬空フユゾラ (第2フユゾ\ラ)」
「星ホシ+→星空ホシゾ\ラ (第2ホシゾラ)」
「雪ユキ\+→雪空ユキゾ\ラ (第2ユキゾラ)」
- 「橿ソ\リ」 1 語：「犬イヌ\+→犬橿イヌゾリ」
- 「鯛タ\イ」 4 語：「石イシ\+→石鯛イシ\ダイ (第2イシダイ)」
「黒ク\ロ+→黒鯛クロダイ (第2クロ\ダイ)」
「縞シマ\+→縞鯛シマ\ダイ」
「茅淳チ\ヌ+→茅淳鯛チヌ\ダイ」
- 「蛸タ\コ」 1 語：「飯イ\+→飯蛸イーダコ」
- 「太刀タ\チ」 1 語：「助[㊤]ケ (第2[㊤]ケ\) +→助太刀[㊤]ケダチ」
- 「種タ\ネ」 4 語：「寿司スシ\ (第2ス\シ) +→寿司種スシダネ」
「艶ツヤ+→艶種ツヤダネ」
「物モノ\ (第2モノ) +→物種モノダネ」
「粃モミ+→粃種モミダネ (第2モミダ\ネ)」
- 「束タ\バ」 2 語：「花ハナ\+→花束ハナ\タバ (第2ハナタ\バ)」
「藁ワ\ラ+→藁束ワラタ\バ」
- 「足袋タ\ビ」 3 語：「靴[㊤]ツ\+→靴足袋[㊤]ツタ\ビ (第2[㊤]ツタビ)」
「黒ク\ロ+→黒足袋クロタビ」
「白シ\ロ+→白足袋シロタビ」
- 「球タ\マ」 1 語：「四つヨ\ツ+→四つ球ヨツダマ」

「民タ\ミ」1語：「国クニ+→国民クニタミ」

「鱈タ\ラ」1語：「塩シオ\+→塩鱈シオダラ（第2シオダ\ラ）」

「唾ツ\バ（第2ツバ\）」1語：「生ナ\マ+→生唾ナマツバ（第2ナマ\ツバ）」

「粒ツ\ブ」4語：「粟ア\ワ+→粟粒アワツ\ブ」
「米コメ\+→米粒コメツ\ブ」
「豆マメ\+→豆粒マメツ\ブ」
「飯メシ\+→飯粒メ[㊦]ツ\ブ（第2メ[㊦]ツブ）」

「露ツ\ユ」3語：「朝ア\サ+→朝露アサ\ツユ（第2アサツユ）」
「雨ア\メ+→雨露ア\メツユ（第2アメ\ツユ）」
「下[㊦]タ（第2[㊦]タ\）+→下露[㊦]タツユ（第2[㊦]タツ\ユ）」

「殿ド\ノ」3語：「相ア\イ+→相殿アイドノ」
「高タカ\（第2タ\カ）+→高殿タカドノ」
「夢ユメ\+→夢殿ユメドノ」

「苗ナ\エ」1語：「花ハナ\+→花苗ハナナエ」

「中ナ\カ」4語：「只タ\ダ+→只中タダ\ナカ（第2タダナカ）」
「月[㊦]キ\+→月中[㊦]キナカ（第2[㊦]キナ\カ）」
「昼ヒル\+→昼中ヒルナカ」
「山ヤマ\+→山中ヤマナカ」

「無しナ\シ」8語：「親オヤ\+→親無しオヤナシ」
「形カタ\+→形無しカタナシ」
「底ソコ+→底無しソコナシ」
「種タ\ネ+→種無しタネナシ」
「縁ヘリ\+→縁無しヘリナシ」
「骨ホネ\+→骨無しホネナシ」
「宿ヤ\ド+→宿無しヤドナシ」
「故ユエ\+→故無しユエ\ナシ（第2ユエナ\シ）」

「茄子ナ\ス」2語：「赤ア\カ+→赤茄子アカナス」
「秋ア\キ+→秋茄子アキナス（第2アキナ\ス）」

「鍋ナ\ベ」3語：「鳥トリ+→鳥鍋トリナベ」
「平ヒ\ラ+→平鍋ヒラナベ」
「もつモ\ツ+→もつ鍋モツナベ」

「主ヌ\シ」5語：「家イエ\+→家主イエ\ヌシ（第2イエヌシ）」
「馬ウマ\+→馬主ウマ\ヌシ」
「株カブ+→株主カブ\ヌシ（第2カブヌシ）」
「小屋コヤ\（第2コヤ）+→小屋主コヤ\ヌシ」
「宿ヤ\ド+→宿主ヤド\ヌシ」

「葱ネ\ギ」2語：「青ア\オ+→青葱アオネギ」
「玉タマ\+→玉葱タマネ\ギ」

「猫ネ\コ」6語：「犬イヌ\+→犬猫イヌネコ（第2イヌネ\コ）」
「親オヤ\+→親猫オヤネコ」
「黒ク\ロ+→黒猫クロネコ」
「野良ノラ\+→野良猫ノラネコ」
「三毛ミ\ケ+→三毛猫ミケネコ」
「山ヤマ\+→山猫ヤマネコ」

「鋸ノ\コ」2語：「糸イ\ト+→糸鋸イトノコ」
「帯オ\ビ+→帯鋸オビノコ」

「鑿ノ\ミ」1語：「丸マル+→丸鑿マルノミ」

「馬鹿バ\カ」1語：「親オヤ\+→親馬鹿オヤバカ」

「萩ハ\ギ（第2ハギ）（第2ハギ\）」1語：「溝ミゾ+→溝萩ミゾハギ」

「嘴ハ\シ」1語：「鶴ツ\ル+→鶴嘴ツル\ハシ」

「箸ハ\シ」2語：「杉スギ+→杉箸スギバ\シ」
「竹タケ+→竹箸タケバシ」

「肌ハ\ダ」10語：「赤ア\カ+→赤肌アカハダ」
「片カ\タ（第2カタ\）+→片肌カタハダ」
「鮫サメ+→鮫肌サメハダ」
「鳥トリ+→鳥肌トリハダ」
「鍋ナ\ベ+→鍋肌ナベハダ」
「人㊦ト+→人肌㊦トハダ」
「餅モチ+→餅肌モチハダ」
「山ヤマ\+→山肌ヤマハダ」
「柔ヤ\ワ+→柔肌ヤワハダ」
「雪ユキ\+→雪肌ユキハダ」

「鳩ハ\ト」3語：「家イエ\+→家鳩イエバト」
「雉キジ+→雉鳩キジバト」
「山ヤマ\+→山鳩ヤマバト（第2ヤマバ\ト）」

「早ハ\ヤ」1語：「足アシ\+→足早アシバヤ」

「原ハ\ラ」8語：「葦ア\シ+→葦原アシハラ」
「草㊦サ\+→草原㊦サハラ」
「笹ササ+→笹原ササハラ」
「篠シ\ノ（第2シノ\）+→篠原シノ\ハラ」
「芝シバ+→芝原シバハラ」
「砂スナ+→砂原スナハラ」
「殿ト\ノ+→殿原トノ\バラ」
「松マ\ツ+→松原マツ\バラ」

「針ハ\リ」3語：「鉤カギ\+→鉤針カギ\バリ（第2カギバ\リ）」
「絹キ\ヌ+→絹針キヌバ\リ（第2キヌ\バリ）」
「紵㊦ケ+→紵針㊦ケバ\リ（第2㊦ケバリ）（第2㊦ケ\バリ）」

「春ハ\ル」1語：「初ハツ\+→初春ハ㊦ハル」

「襞ヒ\ダ」2語：「山ヤマ\+→山襞ヤマヒダ」
「横ヨコ+→横襞ヨコヒダ」

「雛ヒ\ナ」2語：「紙カミ\+→紙雛カミビ\ナ」
「初ハツ\+→初雛ハツビナ（第2ハツビ\ナ）」

「姫ヒ\メ」1語：「歌ウタ\+→歌姫ウタ\ヒメ」

「火矢ヒ\ヤ」1語：「石イシ\+→石火矢イシビヤ（第2イシビ\ヤ）」

「平ビ\ラ」1語：「真っマツ+→真っ平マツピ\ラ」

「河豚フ\グ」1語：「虎トラ+→虎河豚トラフグ」

「鮎フ\ナ」1語：「籠ヘ\ラ（第2ヘラ\）+→籠鮎ヘラブナ」

「船フ\ネ」9語：「黒ク\ロ+→黒船クロフネ」

- 「網アミ\+→網船アミブネ」
「親オヤ\+→親船オヤブネ」
「牡蠣カ\キ+→牡蠣船カキブネ (第2カキブ\ネ)」
「空カラ\+→空船カラブネ (第2カラブ\ネ)」
「川カワ\+→川船カワブネ (第2カワブ\ネ)」
「早ハ\ヤ+→早船ハヤブネ」
「水ミズ+→水船ミズブネ」
「屋根ヤ\ネ+→屋根船ヤネブ\ネ (第2ヤネブネ)」
- 「舟フ\ネ」3語：「笹ササ+→笹舟ササブネ」
「苫ト\マ+→苫舟トマブ\ネ (第2トマブネ)」
「箱ハコ+→箱舟ハコブネ」
- 「鱒ブ\リ」1語：「塩シオ\+→塩鱒シオブ\リ」
- 「紅ベ\ニ」2語：「口㊦チ+→口紅㊦チベニ」
「頬ホ\ー+→頬紅ホーベニ (第2ホーベ\ニ)」
- 「蛇へ\ビ」3語：「海ウ\ミ+→海蛇ウミヘビ」
「縞シマ\+→縞蛇シマヘビ」
「藪ヤブ+→藪蛇ヤブヘビ」
- 「籠へ\ラ (第2へ\ラ)」2語：「靴㊦ツ\+→靴籠㊦ツベ\ラ (第2㊦ツベラ)」
「竹タケ+→竹籠タケベラ」
- 「前マ\エ」8語：「板イ\タ+→板前イタマエ」
「腕ウデ\+→腕前ウデマエ (第2ウデマ\エ)」
「江戸エド+→江戸前エドマエ」
「口㊦チ+→口前㊦チマエ」
「人㊦ト+→人前㊦トマエ」
「昼ヒル\+→昼前ヒルマ\エ」
「右ミ\ギ (第2ミギ) +→右前ミギマエ」
「飯メシ\+→飯前メシマ\エ」
- 「松マ\ツ」8語：「赤ア\カ+→赤松アカ\マツ (第2アカマツ)」
「市イ\チ+→市松イチマツ」
「蝦夷エ\ヅ+→蝦夷松エヅ\マツ」
「笠カ\サ+→笠松カサ\マツ」
「門カ\ド+→門松カド\マツ (第2カドマツ)」
「黒ク\ロ+→黒松クロマツ (第2クロ\マツ)」
「榎ト\ド+→榎松トド\マツ」
「姫ヒ\メ+→姫松ヒメ\マツ」
- 「窓マ\ド」2語：「北㊦タ (第2㊦タ\) +→北窓㊦タマド」
「円マル+→円窓マルマド」
- 「繭マ\ユ」4語：「屑ク\ズ+→屑繭クズマユ (第2クズ\マユ)」
「生ナ\マ+→生繭ナママユ」
「初ハツ\+→初繭ハツマユ」
「山ヤマ\+→山繭ヤママユ」
- 「蓑ミ\ノ」1語：「腰コシ+→腰蓑コシミノ」
- 「婿ム\コ」2語：「姉アネ+→姉婿アネム\コ」
「花ハナ\+→花婿ハナ\ムコ (第2ハナム\コ)」

「鯪ム\ツ」1語：「黒ク\ロ+→黒鯪クロムツ」
「鶯モ\チ」1語：「鳥トリ+→鳥鶯トリモチ（第2トリモ\チ）」
「股モ\モ」2語：「内ウチ+→内股ウチモモ」
「高タカ\」（第2タ\カ）+→高股タカモモ」
「靄モ\ヤ」1語：「タユ一（第2ユ\一）+→タ靄ユ一モヤ」
「奴ヤ\ツ」1語：「何ナニ（第2ナ\ニ）+→何奴ナニヤツ」
「宿ヤ\ド」1語：「相ア\イ+→相宿アイヤド（第2アイヤ\ド）」
「屋根ヤ\ネ」4語：「板イ\タ+→板屋根イタヤネ」
「草㊦サ\+→草屋根㊦サヤネ（第2㊦サヤ\ネ）」
「丸マル+→丸屋根マルヤネ」
「藁ワ\ラ+→藁屋根ワラヤネ（第2ワラヤ\ネ）」
「木綿ユ\一」1語：「浜ハマ\+→浜木綿ハマ\ユ一」
「四つヨ\ツ」2語：「相ア\イ+→相四つアイヨツ」
「右ミ\ギ（第2ミギ）+→右四つミギヨツ（第2ミギヨ\ツ）」
「栗鼠リ\ス」1語：「縞シマ\+→縞栗鼠シマリス」
「藁ワ\ラ」1語：「麦ム\ギ+→麦藁ムギワラ（第2ムギワ\ラ）」
「悪ワ\ル」2語：「口㊦チ+→口悪㊦チワル」
「人㊦ト+→人悪㊦トワル」

後部要素が起伏式の尾高型の150項目があり、計651語である。

「垢アカ\」3語：「襟エリ\+→襟垢エリアカ（第2エリアカ\）」
「水ミズ+→水垢ミズアカ」
「耳ミミ\+→耳垢ミミアカ（第2ミミアカ\）」
「顎アゴ\」1語：「下㊦タ（第2㊦タ\）+→下顎㊦タアゴ」
「痣アザ\」1語：「青ア\オ+→青痣アオアザ」
「足アシ\」14語：「後ア\ト+→後足アト\アシ」
「襟エリ\+→襟足エリアシ（第2エリ\アシ）」
「片カ\タ（第2カタ\）+→片足カタアシ」
「雲ク\モ+→雲足クモアシ（第2クモアシ\）」
「潮シオ\+→潮足シオアシ」
「蛸タ\コ+→蛸足タコアシ（第2タコ\アシ）」
「球タマ\+→球足タマアシ」
「泥ドロ\+→泥足ドロアシ（第2ドロ\アシ）」
「並ナミ+→並足ナミアシ」
「猫ネ\コ+→猫足ネコアシ」
「早ハ\ヤ+→早足ハヤ\アシ」
「人㊦ト+→人足㊦トアシ」
「前マ\エ+→前足マエ\アシ（第2マエアシ）（第2マエア\シ）」
「右ミ\ギ（第2ミギ）+→右足ミギアシ」
「穴アナ\」10語：「岩イワ\+→岩穴イワアナ」
「鰓エラ+→鰓穴エラアナ」
「鍵カギ\+→鍵穴カギアナ」
「縦タ\テ+→縦穴タテアナ」
「塚㊦カ\+→塚穴㊦カアナ」

- 「人㊦ト＋→人穴㊦トアナ」
「節㊦シ\＋→節穴㊦シアナ」
「洞ホラ\ (第2ホ\ラ) ＋→洞穴ホラアナ」
「雪ユキ\＋→雪穴ユキアナ」
「横ヨコ＋→横穴ヨコアナ」
- 「醬蝦アミ\」 1語：「沖オキ＋→沖醬蝦オキアミ」
「網アミ\」 5語：「鯛タ\イ＋→鯛網タイアミ」
「攪タ\モ＋→攪網タモアミ (第2タモ\アミ)」
「壺ツボ＋→壺網ツボアミ」
「鳥トリ＋→鳥網トリアミ」
「餅モチ＋→餅網モチアミ」
- 「綾アヤ\」 1語：「杉スギ＋→杉綾スギアヤ」
「池イケ\」 3語：「溝ドブ＋→溝池ドブイケ」
「蓮ハス＋→蓮池ハスイケ」
「古フ\ル＋→古池フルイケ」
- 「石イシ\」 4語：「玉タマ\＋→玉石タマ\イシ」
「庭ニワ＋→庭石ニワイシ」
「墓ハカ\＋→墓石ハカイシ」
「屋根ヤ\ネ＋→屋根石ヤネイシ (第2ヤネ\イシ)」
- 「芋イモ\」 8語：「赤ア\カ＋→赤芋アカイモ」
「親オヤ\＋→親芋オヤイモ」
「菊㊦ク\ (第2㊦ク) ＋→菊芋㊦クイモ」
「栗クリ\＋→栗芋クリイモ」
「里サト＋→里芋サトイモ」
「種タ\ネ＋→種芋タネイモ」
「水ミズ＋→水芋ミズイモ」
「山ヤマ\＋→山芋ヤマイモ」
- 「色イロ\」 27語：「藍ア\イ＋→藍色アイイロ」
「青ア\オ＋→青色アオイロ」
「赤ア\カ＋→赤色アカイロ」
「飴アメ＋→飴色アメイロ」
「顔カオ＋→顔色カオイロ」
「柿カキ＋→柿色カキイロ」
「樺カ\バ＋→樺色カバイロ」
「草㊦サ\＋→草色㊦サイロ」
「栗クリ\＋→栗色クリイロ」
「苔コケ\＋→苔色コケイロ」
「錆サビ\＋→錆色サビイロ」
「煤ス\ス (第2スス\) ＋→煤色ススイロ」
「墨スミ\＋→墨色スミイロ」
「空ソ\ラ＋→空色ソライロ」
「土㊦チ\＋→土色㊦チイロ」
「鶉ト\キ＋→鶉色トキイロ」
「鳶ト\ビ＋→鳶色トビイロ」

- 「七ナ\ナ (第2 ナナ\) +→七色ナナ\イロ」
「旗ハタ\+→旗色ハタイロ (第2 ハタイロ\)」
「肌ハ\ダ+→肌色ハダイロ (第2 ハダイロ\)」
「花ハナ\+→花色ハナイロ」
「薔薇バラ+→薔薇色バライロ」
「鶉ヒ\ワ+→鶉色ヒワイロ」
「藤フジ+→藤色フジイロ」
「紅ベ\ニ+→紅色ベニイロ」
「水ミズ+→水色ミズイロ」
「桃モモ+→桃色モモイロ」
- 「唄ウタ\」 3 語：「陰カ\ゲ+→陰唄カゲ\ウタ」
「鄙ヒ\ナ+→鄙唄ヒナ\ウタ」
「馬子マ\ゴ+→馬子唄マゴ\ウタ」
- 「腕ウデ\」 2 語：「片カ\タ (第2 カタ\) +→片腕カタウデ (第2 カタウデ\)」
「右ミ\ギ (第2 ミギ) +→右腕ミギウデ」
- 「馬ウマ\」 7 語：「穴アナ\+→穴馬アナウマ」
「縞シマ\+→縞馬シマウマ」
「尻シリ\+→尻馬シリウマ (第2 シリウマ\)」
「白シ\ロ+→白馬シロウマ」
「竹タケ+→竹馬タケウマ」
「種タ\ネ+→種馬タネウマ (第2 タネ\ウマ)」
「早ハ\ヤ+→早馬ハヤウマ (第2 ハヤ\ウマ)」
- 「午ウマ\」 1 語：「初ハツ\+→初午ハツウマ」
- 「裏ウラ\」 6 語：「麻アサ\+→麻裏アサウラ」
「足アシ\+→足裏アシウラ」
「襟エリ\+→襟裏エリウラ (第2 エリウラ\)」
「袖ソデ+→袖裏ソデウラ」
「共トモ+→共裏トモウラ」
「屋根ヤ\ネ+→屋根裏ヤネウラ」
- 「襟エリ\」 5 語：「裏ウラ\+→裏襟ウラエリ」
「白シ\ロ+→白襟シロエリ」
「共トモ+→共襟トモエリ」
「丸マル+→丸襟マルエリ」
「三つミツ\+→三つ襟ミツエリ」
- 「雄オス\」 1 語：「雌メス\+→雌雄メス\オス (第2 メスオス)」
- 「音オト\」 10 語：「足アシ\+→足音アシオ\ト (第2 アシオト\)」
「川カワ\+→川音カワオト」
「靴ツ\+→靴音ツオト (第2 ツオト)」
「槌ツチ\+→槌音ツチオト\ (第2 ツチオト) (第2 ツチオ\ト)」
「筒ツツ (第2 ツツ\) +→筒音ツツオト」
「弦ツル\ (第2 ツ\ル) +→弦音ツルオト (第2 ツルオト\)」
「波ナミ\+→波音ナミオト (第2 ナミオト\)」
「鑿ノ\ミ+→鑿音ノミオ\ト (第2 ノミオト\) (第2 ノミオト)」
「水ミズ+→水音ミズオト」

- 「物モノ\ (第2モノ) + → 物音モノオ\ト (第2モノオト\)」
- 「親オヤ\」 6語：「片カ\タ (第2カタ\) + → 片親カタオヤ」
「仮カリ + → 仮親カリオヤ」
「里サト + → 里親サトオヤ」
「父㊦\チ (第2㊦チ\) + → 父親㊦チオヤ」
「母ハ\ハ + → 母親ハハオヤ」
「宿ヤ\ド + → 宿親ヤドオヤ」
- 「垣カキ\」 9語：「石イシ\ + → 石垣イシガキ」
「笹ササ + → 笹垣ササガキ」
「柴シバ + → 柴垣シバ\ガキ」
「杉スギ + → 杉垣スギガキ (第2スギ\ガキ)」
「袖ソデ + → 袖垣ソデガキ」
「竹タケ + → 竹垣タケガキ」
「玉タマ\ + → 玉垣タマ\ガキ」
「友ト\モ + → 友垣トモ\ガキ」
「姫ヒ\メ + → 姫垣ヒメ\ガキ」
- 「嵩カサ\」 1語：「年トシ\ + → 年嵩ト㊦カサ」
- 「枷カセ\ (第2カ\セ)」 2語：「足アシ\ + → 足枷ア㊦カセ (第2ア㊦カ\セ)」
「首クビ + → 首枷クビカセ」
- 「方カタ\」 16語：「相ア\イ + → 相方アイカタ (第2アイカタ\)」
「牛ウシ + → 牛方ウ㊦カタ」
「裏ウラ\ + → 裏方ウラカタ」
「親オヤ\ + → 親方オヤカ\タ (第2オヤカタ\) (第2オヤカタ)」
「里サト + → 里方サトカタ」
「父㊦\チ (第2㊦チ\) + → 父方㊦チカタ」
「母ハ\ハ + → 母方ハハカタ」
「町マ㊦\ + → 町方マ㊦カタ」
「跡ア\ト + → 跡形アトカタ」
「朝ア\サ + → 朝方アサガタ」
「奥オ\ク + → 奥方オクガタ (第2オク\ガタ)」
「上カ\ミ + → 上方カミガタ」
「今朝ケ\サ + → 今朝方ケサガタ (第2ケサ\ガタ)」
「殿ト\ノ + → 殿方トノガタ (第2トノ\ガタ)」
「西ニシ + → 西方ニシガタ」
「タユー (第2ユ\ー) + → 夕方ユーガタ」
- 「形カタ\」 17語：「足アシ\ + → 足形アシガタ」
「髪カミ\ + → 髪形カミガタ」
「紙カミ\ + → 紙形カミガタ」
「櫛㊦シ\ + → 櫛形㊦シガタ」
「雲ク\モ + → 雲形クモガタ」
「鋏クワ + → 鋏形クワガタ」
「銭ゼ\ニ + → 銭形ゼニガタ」
「波ナミ\ + → 波形ナミガタ」
「花ハナ\ + → 花形ハナガタ (第2ハナ\ガタ)」

- 「羽根ハネ＋→羽根形ハネガタ」
「菱㊦シ＋→菱形㊦シガタ」
「人㊦ト＋→人形㊦トガタ」
「升マス\＋→升形マスガタ」
「丸マル＋→丸形マルガタ」
「山ヤマ\＋→山形ヤマガタ」
「雪ユキ\＋→雪形ユキガタ」
「弓ユミ\＋→弓形ユミガタ」
- 「型カタ\」 4 語：「縦タ\テ＋→縦型タテガタ」
「梅雨ツユ＋→梅雨型ツユガタ」
「雛ヒ\ナ＋→雛型ヒナガタ (第2ヒナ\ガタ)」
「冬フユ\＋→冬型フユガタ」
- 「髪カミ\」 4 語：「黒ク\ロ＋→黒髪クロカミ (第2クロ\カミ)」
「襟エリ\＋→襟髪エリガミ (第2エリ\ガミ)」
「前マ\エ＋→前髪マエガミ」
「水ミズ＋→水髪ミズガミ」
- 「紙カミ\」 14 語：「赤ア\カ＋→赤紙アカガミ」
「板イ\タ＋→板紙イタガミ」
「色イロ\＋→色紙イロ\ガミ」
「帯オ\ビ＋→帯紙オビガミ」
「型カタ\＋→型紙カタガミ」
「壁カベ＋→壁紙カベガミ」
「皺シワ＋→皺紙シワガミ」
「種タ\ネ＋→種紙タネガミ」
「千代チ\ヨ＋→千代紙チヨ\ガミ」
「塵チリ＋→塵紙チリガミ」
「慰斗ノシ\＋→慰斗紙ノシ\ガミ」
「箸ハ\シ＋→箸紙ハシ\ガミ」
「鼻ハナ＋→鼻紙ハナガミ」
「藁ワ\ラ＋→藁紙ワラ\ガミ (第2ワラガ\ミ) (第2ワラガミ\)」
- 「甕カメ\」 1 語：「水ミズ＋→水甕ミズガメ」
- 「殻カラ\」 3 語：「貝カ\イ＋→貝殻カイガ\ラ (第2カイガラ)」
「蕎麦ソ\バ＋→蕎麦殻ソバガラ」
「紅ベ\ニ＋→紅殻ベニガラ」
- 「革カワ\」 2 語：「紐ヒモ＋→紐革ヒモカワ」
「赤ア\カ＋→赤革アカガワ」
- 「皮カワ\」 6 語：「裏ウラ\＋→裏皮ウラガワ」
「鹿㊦カ (第2㊦カ\) ＋→鹿皮㊦カガワ」
「鱧ワ\ニ＋→鱧皮ワニガワ」
「帯オ\ビ＋→帯皮オビカワ」
「杉スギ＋→杉皮スギカワ」
「生ナ\マ＋→生皮ナマカワ」
- 「川カワ\」 6 語：「山ヤマ\＋→山川ヤマ\カワ」
「枝エダ＋→枝川エダガワ」

- 「滝タキ＋→滝川タキガワ」
「谷タニ\＋→谷川タニガワ」
「溝ドブ＋→溝川ドブガワ」
「山ヤマ\＋→山川ヤマガワ」
- 「菊㊦ク\ (第2㊦ク)」 2語：「蝦夷エ\ゾ＋→蝦夷菊エゾ\ギク」
「雛ヒ\ナ＋→雛菊ヒナ\ギク」
- 「肝キモ\」 1語：「砂スナ＋→砂肝スナギモ」
「布キレ\」 1語：「端ハシ＋→端布ハシギレ」
「際キワ\」 5語：「壁カベ＋→壁際カベギワ」
「瀬戸セ\ト＋→瀬戸際セトギワ」
「窓マ\ド＋→窓際マドギワ」
「水ミズ＋→水際ミズギワ」
「山ヤマ\＋→山際ヤマギワ」
- 「草㊦サ\」 14語：「餅モチ＋→餅草モチグサ」
「青ア\オ＋→青草アオ㊦サ」
「秋ア\キ＋→秋草アキ㊦サ (第2アキ\㊦サ)」
「下㊦タ (第2㊦タ\) ＋→下草㊦タ㊦サ」
「民タ\ミ＋→民草タミ\㊦サ」
「露ツ\ユ＋→露草ツユ\㊦サ (第2ツユ㊦サ)」
「蔓ツル\ (第2ツ\ル) ＋→蔓草ツル\㊦サ (第2ツル㊦サ)」
「夏ナツ\＋→夏草ナツ㊦サ」
「七ナ\ナ (第2ナナ\) ＋→七草ナナ\㊦サ」
「庭ニワ＋→庭草ニワ㊦サ」
「春ハ\ル＋→春草ハル\㊦サ」
「冬フユ\＋→冬草フユ㊦サ」
「水ミズ＋→水草ミズ㊦サ」
「道ミチ＋→道草ミチ㊦サ」
- 「串㊦シ\」 1語：「玉タマ\＋→玉串タマ\グシ」
「櫛㊦シ\」 2語：「花ハナ\＋→花櫛ハナ\グシ」
「横ヨコ＋→横櫛ヨコグシ」
- 「癖㊦セ\」 4語：「口㊦チ＋→口癖㊦チグセ」
「足アシ\＋→足癖アシ㊦セ」
「酒サケ＋→酒癖サケグセ」
「七ナ\ナ (第2ナナ\) ＋→七癖ナナ\㊦セ」
- 「糞㊦ソ\」 5語：「鼻ハナ＋→鼻糞ハナ㊦ソ」
「下手ヘタ\＋→下手糞ヘタ㊦ソ\ (第2ヘタ㊦ソ)」
「襠褌ボ\ロ＋→襠褌糞ボロ㊦ソ」
「耳ミミ\＋→耳糞ミミ㊦ソ (第2ミミ\㊦ソ)」
「胸ムネ\＋→胸糞ムネ㊦ソ (第2ムネ㊦ソ\)」
- 「靴㊦ツ\」 6語：「赤ア\カ＋→赤靴アカグツ」
「赤ア\カ＋→赤靴アカグツ」
「革カワ\＋→革靴カワグツ」
「黒ク\ロ＋→黒靴クログツ」
「下㊦タ (第2㊦タ\) ＋→下靴㊦タグツ」

- 「泥ドロ\+→泥靴ドログツ (第2ドロ\グツ)」
- 「隈クマ\ (第2ク\マ)」 1語：「筋ス\ジ+→筋隈スジグマ」
- 「熊クマ\ (第2ク\マ)」 6語：「黒ク\ロ+→黒熊クロクマ」
- 「白シ\ロ+→白熊シロクマ」
- 「赤ア\カ+→赤熊アカグマ」
- 「穴アナ\+→穴熊アナグマ」
- 「親オヤ\+→親熊オヤグマ」
- 「母ハ\ハ+→母熊ハハグマ」
- 「蔵クラ\」 3語：「穴アナ\+→穴蔵アナグラ」
- 「金カネ+→金蔵カネグラ」
- 「米コメ\+→米蔵コメグラ」
- 「栗クリ\」 2語：「柴シバ+→柴栗シバ\グリ」
- 「生ナ\マ+→生栗ナマ\グリ」
- 「肥コエ\」 6語：「秋ア\キ+→秋肥アキゴエ」
- 「金カネ+→金肥カネゴエ」
- 「下シモ\+→下肥シモゴエ」
- 「春ハ\ル+→春肥ハルゴエ」
- 「水ミズ+→水肥ミズゴエ」
- 「元モ\ト (第2モト) +→元肥モトゴエ」
- 「苔コケ\」 4語：「青ア\オ+→青苔アオゴケ」
- 「杉スギ+→杉苔スギゴケ」
- 「花ハナ\+→花苔ハナ\ゴケ」
- 「水ミズ+→水苔ミズゴケ」
- 「莫塵ゴザ\」 1語：「花ハナ\+→花莫塵ハナゴザ」
- 「事コト\」 7語：「粹イキ+→粹事イキ\ゴト (第2イキゴト)」
- 「色イロ\+→色事イロ\ゴト (第2イロゴト)」
- 「唯タ\ダ+→唯事タダゴト」
- 「艶ツヤ+→艶事ツヤゴト」
- 「何ナニ (第2ナ\ニ) +→何事ナニゴト」
- 「真似マネ+→真似事マネゴト」
- 「物モノ\ (第2モノ) +→物事モノ\ゴト」
- 「塵ゴミ\」 1語：「生ナ\マ+→生塵ナマ\ゴミ (第2ナマゴミ)」
- 「米コメ\」 3語：「赤ア\カ+→赤米アカゴメ」
- 「生ナ\マ+→生米ナマゴメ (第2ナマ\ゴメ)」
- 「陳ヒ\ネ+→陳米ヒネゴメ」
- 「小屋コヤ\ (第2コヤ)」 7語：「犬イヌ\+→犬小屋イヌゴヤ」
- 「牛ウシ+→牛小屋ウシゴヤ」
- 「馬ウマ\+→馬小屋ウマゴヤ」
- 「仮カリ+→仮小屋カリゴヤ」
- 「鳥トリ+→鳥小屋トリゴヤ」
- 「豚ブタ+→豚小屋ブタゴヤ」
- 「山ヤマ\+→山小屋ヤマゴヤ」
- 「竿サオ\」 4語：「竹タケ+→竹竿タケザオ」
- 「鳥トリ+→鳥竿トリザオ」

- 「旗ハタ\+→旗竿ハタザオ」
「籾モ\チ+→籾竿モチザオ (第2モチ\ザオ)」
- 「坂サカ\」 1語：「山ヤマ\+→山坂ヤマ\サカ」
「錆サビ\」 1語：「赤ア\カ+→赤錆アカサビ」
「様サマ\」 13語：「上ウエ (第2ウエ\)+→上様ウ\エサマ」
「上ウエ (第2ウエ\)+→上様ウ\エサマ (第2ウエ\サマ)」
「奥オ\ク+→奥様オ\㊦サマ」
「伯母オバ+→伯母様オバサマ」
「神カ\ミ+→神様カ\ミサマ」
「先サキ+→先様サ㊧サマ」
「直ス\グ+→直様ス\グサマ」
「殿ト\ノ+→殿様トノサマ」
「何ナニ (第2ナ\ニ)+→何様ナニサマ」
「人㊨ト+→人様㊩ト\サマ」
「皆ミナ\+→皆様ミナ\サマ」
「宮ミヤ+→宮様ミヤサマ」
「横ヨコ+→横様ヨコザマ」
- 「沢サワ\」 2語：「歌ウタ\+→歌沢ウタザワ」
「塩シオ\+→塩沢シオザワ」
- 「潮シオ\」 7語：「赤ア\カ+→赤潮アカシオ」
「渦ウ\ズ+→渦潮ウズシオ」
「親オヤ\+→親潮オヤシオ」
「黒ク\ロ+→黒潮クロシオ」
「高タカ\ (第2タ\カ)+→高潮タカシオ」
「初ハツ\+→初潮ハ㊪シオ」
「タユ一 (第2ユ\一)+→夕潮ユ一シオ」
- 「塩シオ\」 1語：「山ヤマ\+→山塩ヤマ\ジオ」
「舌㊫タ\」 1語：「猫ネ\コ+→猫舌ネコジタ (第2ネコ\ジタ)」
「下㊬タ\ (第2㊭タ)」 7語：「上ウエ (第2ウエ\)+→上下ウエ\㊮タ」
「靴㊯ツ\+→靴下㊰ツ\㊮タ (第2㊱ツ㊮タ)」
「白シ\ロ+→白下シロ㊲タ」
「軒ノキ+→軒下ノキ㊳タ」
「幕マク\+→幕下マク㊴タ (第2マク㊵タ\)」
「股マタ\+→股下マタ㊶タ (第2マタ㊷タ\)」
「床ユカ+→床下ユカ㊸タ」
- 「渋シブ\」 1語：「柿カキ+→柿渋カ㊹シブ」
「縞シマ\」 3語：「滝タキ+→滝縞タキジマ」
「縦タ\テ+→縦縞タテジマ」
「横ヨコ+→横縞ヨコジマ」
- 「下シモ\」 1語：「上カ\ミ+→上下カミ\シモ (第2カ\ミシモ)」
「霜シモ\」 3語：「初ハツ\+→初霜ハ㊺シモ」
「早ハ\ヤ+→早霜ハヤジモ」
「タユ一 (第2ユ\一)+→夕霜ユ一ジモ」
- 「尻シリ\」 3語：「糸イ\ト+→糸尻イトジリ (第2イト\ジリ)」

- 「幕マク\+→幕尻マクジリ (第2マクジリ\)」
「眉マ\ユ+→眉尻マユジリ (第2マユ\ジリ)」
「代シロ\」 2語: 「形カタ\+→形代カタシロ (第2カタ\シロ)」
「糊ノリ\+→糊代ノリシロ (第2ノリ\シロ)」
「塚ツカ\」 5語: 「蟻アリ+→蟻塚アリズカ」
「首クビ+→首塚クビズカ」
「筆フデ+→筆塚フデズカ」
「藁ワ\ラ+→藁塚ワラズカ (第2ワラ\ズカ)」
「貝カ\イ+→貝塚カイズガ (第2カ\イズガ)」
「月ツキ\」 3語: 「菊ク\ (第2ク) +→菊月ク\ズキ」
「文フ\ミ (第2フミ\)+→文月フミ\ズキ」
「タユ一 (第2ユ\一)+→タ月ユ一ズキ」
「寿司シ\ (第2シ\シ)」 3語: 「鯖サバ+→鯖寿司サバ\ズシ (第2サバズシ)」
「鮒フ\ナ+→鮒寿司フナ\ズシ」
「鱒マス\+→鱒寿司マス\ズシ (第2マスズシ)」
「槌ツチ\」 1語: 「相ア\イ+→相槌アイズチ (第2アイズチ\ (第2アイズ\チ))」
「伝ツテ\」 2語: 「口ツチ+→口伝ツチズテ」
「人ト+→人伝トズテ」
「苞ツト\ (第2ツト)」 1語: 「家イエ\+→家苞イエズト」
「綱ツナ\」 3語: 「臚ト\モ (第2トモ\)+→臚綱トモズナ」
「鼻ハナ+→鼻綱ハナズナ」
「横ヨコ+→横綱ヨコズナ」
「墨スミ\」 4語: 「烏賊イカ+→烏賊墨イカスミ」
「靴ツ\+→靴墨ツズミ (第2ツ\ズミ)」
「鍋ナ\ベ+→鍋墨ナベズミ (第2ナベ\ズミ)」
「眉マ\ユ+→眉墨マユ\ズミ」
「炭スミ\」 3語: 「枝エダ+→枝炭エダズミ」
「粉コナ\+→粉炭コナ\ズミ」
「散バ\ラ+→散炭バラ\ズミ (第2バラズミ)」
「面ツラ\」 6語: 「内ウチ+→内面ウチズラ」
「馬ウマ\+→馬面ウマズラ」
「川カワ\+→川面カワズラ」
「外ソ\ト+→外面ソトズラ」
「鼻ハナ+→鼻面ハナズラ」
「髭ヒゲ+→髭面ヒゲズラ」
「咳セキ\」 2語: 「空カラ\+→空咳カラセキ」
「空カラ\+→空咳カラゼキ」
「高タカ\ (第2タ\カ)」 8語: 「背セ\一+→背高セータカ」
「鼻ハナ+→鼻高ハナタカ」
「山ヤマ\+→山高ヤマタカ」
「金カネ+→金高カネダカ」
「腰コシ+→腰高コシダカ」
「先サキ+→先高サキダカ」
「中ナ\カ+→中高ナカダカ」

- 「元モ\ト (第2モト) +→元高モト\ダカ (第2モトダ\カ)」
- 「丈タケ\」 5語：「襟エリ\+→襟丈エリ\タケ」
「草㊦サ\+→草丈㊦サ\タケ (第2㊦サタケ)」
「袖ソデ+→袖丈ソデ\タケ」
「桁ユキ+→桁丈ユキ㊦\タケ (第2ユキ㊦タ\ケ)」
「脇ワキ\+→脇丈ワキ㊦\タケ」
- 「蟬ダニ\」 1語：「家イエ\+→家蟬イエダニ」
- 「旅タビ\」 1語：「股マタ\+→股旅マタタビ」
- 「弾タマ\」 1語：「散バ\ラ+→散弾バラダマ」
- 「玉タマ\」 10語：「味アジ+→味玉アジタマ」
「蟹カニ+→蟹玉カニタマ」
「水ミズ+→水玉ミズタマ」
「藍ア\イ+→藍玉アイダマ」
「飴アメ+→飴玉アメダマ」
「親オヤ\+→親玉オヤダマ」
「肝キモ\+→肝玉キモダマ\ (第2キモダマ)」
「繭マ\ユ+→繭玉マユダマ」
「槍ヤリ+→槍玉ヤリダマ」
「雪ユキ\+→雪玉ユキダマ」
- 「月ツキ\」 2語：「霜シモ\+→霜月シモ\ツキ」
「年トシ\+→年月トシ\ツキ」
- 「土ツチ\」 7語：「赤ア\カ+→赤土アカツチ」
「壁カベ+→壁土カベツチ」
「黒ク\ロ+→黒土クロツチ」
「底ソコ+→底土ソコツチ」
「床トコ+→床土トコツチ」
「泥ドロ\+→泥土ドロツチ」
「庭ニワ+→庭土ニワツチ」
- 「棲ツマ\」 2語：「江戸エド+→江戸棲エドズマ」
「辻ツジ+→辻棲ツジツマ」
- 「寺テラ\」 4語：「尼ア\マ+→尼寺アマ\デラ (第2アマデラ)」
「古フ\ル+→古寺フルデラ (第2フル\デラ)」
「壬生ミブ+→壬生寺ミブデラ」
「山ヤマ\+→山寺ヤマ\デラ」
- 「時トキ\」 8語：「今イ\マ+→今時イマドキ」
「潮シオ\+→潮時シオドキ (第2シオドキ\)」
「梅雨ツユ+→梅雨時ツユドキ」
「何ナ\ン+→何時ナンドキ」
「花ハナ\+→花時ハナドキ (第2ハナドキ\)」
「昼ヒル\+→昼時ヒルドキ」
「飯メシ\+→飯時メシドキ」
「八つヤツ\+→八つ時ヤツドキ」
- 「年トシ\」 2語：「裏ウラ\+→裏年ウラドシ (第2ウラ\ドシ)」
「雪ユキ\+→雪年ユキ\ドシ」

- 「泥ドロ」 1 語：「溝ドブ→溝泥ドブドロ」
- 「風ナギ」 2 語：「朝ア\サ→朝風アサナギ」
「タユ（第2ユ\ー）→夕風ユーナギ」
- 「夏ナツ」 1 語：「初ハツ\→初夏ハツナツ」
- 「波ナミ」 8 語：「徒アダ\→徒波アダナミ」
「川カワ\→川波カワナミ」
「高タカ\（第2タ\カ）→高波タカナミ」
「年トシ\→年波トシナミ（第2トシ\ナミ）」
「人㊦ト→人波㊦トナミ」
「藤フジ→藤波フジナミ」
「タユ（第2ユ\ー）→夕波ユーナミ」
「横ヨコ→横波ヨコナミ」
- 「形ナリ」 4 語：「菱㊦シ→菱形㊦シナリ」
「道ミチ→道形ミチナリ」
「山ヤマ\→山形ヤマナリ」
「弓ユミ\→弓形ユミナリ」
- 「縄ナワ」 7 語：「麻アサ\→麻縄アサナワ」
「鉤カギ\→鉤縄カギナワ」
「腰コシ→腰縄コシナワ」
「注連シメ\→注連縄シメナワ（第2シメ\ナワ）」
「墨スミ\→墨縄スミナワ（第2スミ\ナワ）」
「泥ドロ\→泥縄ドロナワ」
「藁ワ\ラ→藁縄ワラナワ」
- 「糠ヌカ」（第2ヌカ） 2 語：「米コメ\→米糠コメヌカ」
「粃モミ→粃糠モミヌガ」
- 「沼ヌマ」 1 語：「泥ドロ\→泥沼ドロヌマ」
- 「海苔ノリ」 2 語：「青ア\オ→青海苔アオ\ノリ（第2アオノリ）」
「岩イワ\→岩海苔イワノリ（第2イワ\ノリ）」
- 「糊りノリ」 1 語：「姫ヒ\メ→姫糊りヒメ\ノリ」
- 「刷毛ハケ」 1 語：「糊ノリ\→糊刷毛ノリバケ（第2ノリ\バケ）」
- 「恥ハジ」 1 語：「赤ア\カ→赤恥アカハジ」
- 「橋ハシ」 4 語：「八つヤツ\→八つ橋ヤツ\ハシ」
「石イシ\→石橋イシバシ」
「板イ\タ→板橋イタバシ」
「仮カリ→仮橋カリバシ」
- 「旗ハタ」 2 語：「赤ア\カ→赤旗アカハタ」
「白シ\ロ→白旗シロハタ」
- 「鉢ハチ」（第2ハチ） 1 語：「梅ウメ→梅鉢ウメバチ（第2ウメ\バチ）」
- 「花ハナ」 5 語：「初ハツ\→初花ハ㊦ハナ」
「徒アダ\→徒花アダバナ」
「草㊦サ\→草花㊦サ\バナ」
「塩シオ\→塩花シオ\バナ（第2シオバナ）」
「餅モチ→餅花モチバナ」
- 「浜ハマ」 1 語：「砂スナ→砂浜スナハマ」

- 「腹ハラ」 10 語：「裏ウラ\+→裏腹ウラハラ」
「下㊦タ (第 2㊦タ\)+→下腹㊦タハラ」
「後ア\ト+→後腹アトバラ」
「粥カユ+→粥腹カユバラ」
「里サト+→里腹サトバラ」
「皺シワ+→皺腹シワバラ」
「豚ブタ+→豚腹ブタバラ」
「水ミズ+→水腹ミズバラ」
「横ヨコ+→横腹ヨコバラ」
「脇ワキ\+→脇腹ワキバラ」
- 「肘ヒジ」 2 語：「肩カ\タ+→肩肘カ\タヒジ」
「片カ\タ (第 2 カタ\)+→片肘カタヒジ」
- 「昼ヒル」 2 語：「早ハ\ヤ+→早昼ハヤヒル (第 2 ハヤヒ\ル)」
「夜ヨ\ル+→夜昼ヨ\ルヒル」
- 「鱧ヒレ」 3 語：「鱧㊦カ (第 2㊦カ\)+→鱧鱧㊦カヒレ」
「臀シリ\+→臀鱧シリビレ」
「腹ハラ\+→腹鱧ハラビレ」
- 「房フサ」 4 語：「青ア\オ+→青房アオブサ」
「赤アカ+→赤房アカブサ」
「白シ\ロ+→白房シロブサ」
「花ハナ\+→花房ハナ\ブサ」
- 「節㊦シ」 2 語：「亀カ\メ+→亀節カメブシ」
「骨ホネ\+→骨節ホネブシ」
- 「冬フユ」 1 語：「初ハツ\+→初冬ハ㊦フユ」
- 「風呂フロ」 8 語：「朝ア\サ+→朝風呂アサブロ」
「石イシ\+→石風呂イシブロ」
「岩イワ\+→岩風呂イワブロ」
「内ウチ+→内風呂ウチブロ」
「桶オ\ケ+→桶風呂オケブロ」
「砂スナ+→砂風呂スナブロ」
「外ソ\ト+→外風呂ソトブロ」
「水ミズ+→水風呂ミズブロ」
- 「下手ヘタ」 1 語：「口㊦チ+→口下手㊦チベタ」
- 「部屋ヘヤ」 2 語：「相ア\イ+→相部屋アイベヤ」
「角カ\ド+→角部屋カドベヤ」
- 「縁ヘリ」 1 語：「川カワ\+→川縁カワベリ」
- 「骨ホネ」 6 語：「親オヤ\+→親骨オヤボネ」
「筋ス\ジ+→筋骨スジボネ」
「中ナ\カ+→中骨ナカボネ」
「膝ヒザ+→膝骨ヒザボネ」
「頬ホ\ー+→頬骨ホーボネ (第 2 ホ\ーボネ)」
「腰コシ+→腰骨コシボネ」
- 「堀ホリ」 3 語：「内ウチ+→内堀ウチボリ」
「空カラ\+→空堀カラボリ」

- 「外ソ\ト+→外堀ソトボリ」
- 「幕マク\」 4 語：「内ウチ+→内幕ウチマク」
「黒ク\ロ+→黒幕クロマク」
「袖ソデ+→袖幕ソデマク」
「中ナ\カ+→中幕ナカ\マク（第2ナカマク）」
- 「孫マゴ\」 4 語：「内ウチ+→内孫ウチマゴ」
「外ソ\ト+→外孫ソトマゴ」
「初ハツ\+→初孫ハツマゴ（第2ハ\ツマゴ）」
「曾㊦コ（第2㊦コ\）+→曾孫㊦コマゴ（第2㊦コ\マゴ）」
- 「鱒マス\」 4 語：「国クニ+→国鱒クニマス」
「虹ニジ+→虹鱒ニジマス（第2ニジ\マス）」
「姫ヒ\メ+→姫鱒ヒメマス（第2ヒメ\マス）」
「紅ベ\ニ+→紅鱒ベニマス（第2ベニ\マス）」
- 「股マタ\」 4 語：「内ウチ+→内股ウチマタ」
「蟹ガニ+→蟹股ガニマタ」
「猿サ\ル+→猿股サルマタ」
「外ソ\ト+→外股ソトマタ」
- 「町マチ\」 4 語：「色イロ\+→色町イロ\マチ」
「裏ウラ\+→裏町ウラマチ（第2ウラ\マチ）」
「下㊦タ（第2㊦タ\）+→下町㊦タマチ」
「室ムロ\+→室町ムロ\マチ」
- 「街マチ\」 1 語：「花ハナ\+→花街ハナ\マチ」
- 「豆マメ\」 7 語：「青ア\オ+→青豆アオマメ（第2アオ\マメ）」
「枝エダ+→枝豆エダマメ」
「黒ク\ロ+→黒豆クロマメ」
「莢サ\ヤ+→莢豆サヤ\マメ」
「塩シオ\+→塩豆シオ\マメ」
「白シ\ロ+→白豆シロマメ」
「錠ナタ+→錠豆ナタマメ（第2ナタ\マメ）」
- 「店ミセ\」 1 語：「床トコ+→床店トコミセ」
- 「耳ミミ\」 3 語：「空ソ\ラ+→空耳ソラミミ」
「初ハツ\+→初耳ハツミミ」
「早ハ\ヤ+→早耳ハヤミミ（第2ハヤ\ミミ）」
- 「胸ムネ\」 1 語：「鳩ハ\ト+→鳩胸ハトムネ（第2ハト\ムネ）」
- 「群れムレ\」 1 語：「人㊦ト+→人群れ㊦ト\ムレ」
- 「室ムロ\」 2 語：「石イシ\+→石室イシムロ」
「岩イワ\+→岩室イワムロ」
- 「飯メシ\」 14 語：「朝ア\サ+→朝飯アサメシ」
「粟ア\ワ+→粟飯アワメシ（第2アワ\メシ）」
「烏賊イカ+→烏賊飯イカメシ」
「牡蠣カ\キ+→牡蠣飯カキメシ」
「釜カマ+→釜飯カマメシ」
「粟クリ\+→粟飯クリメシ」
「寿司スシ\（第2ス\シ）+→寿司飯スシメシ」

「鯛タ\イ+→鯛飯タイムシ」
 「鳥トリ+→鳥飯トリメシ」
 「早ハ\ヤ+→早飯ハヤメシ (第2 ハヤ\メシ)」
 「稗ヒエ (第2 ヒ\エ) +→稗飯ヒエメシ (第2 ヒエ\メシ)」
 「昼ヒル\+→昼飯ヒルメシ」
 「麦ム\ギ+→麦飯ムギメシ」
 「タユ一 (第2 ユ\一) +→タ飯ユ一メシ」
 「保モチ\」 1 語：「腹ハラ\+→腹保ハラモチ (第2 ハラモチ\)」
 「本モト\ (第2 モト)」 3 語：「網アミ\+→網本アミモト (第2 アミモト\)」
 「富ト\ミ+→富本トミ\モト」
 「旗ハタ\+→旗本ハタモト」
 「物モノ\ (第2 モノ)」 41 語：「青ア\オ+→青物アオ\モノ」
 「秋ア\キ+→秋物アキモノ」
 「糸イ\ト+→糸物イト\モノ」
 「色イロ\+→色物イロモノ (第2 イロ\モノ)」
 「色イロ\+→色物イロ\モノ」
 「数カ\ズ+→数物カズ\モノ」
 「柄ガラ+→柄物ガラモノ」
 「傷キズ+→傷物キズモノ」
 「絹キ\ヌ+→絹物キヌ\モノ」
 「際キワ\+→際物キワモノ」
 「屑ク\ズ+→屑物クズ\モノ (第2 クズモノ)」
 「小間コ\マ (第2 コマ) +→小間物コマモノ (第2 コマ\モノ)」
 「棹サオ\+→棹物サオ\モノ (第2 サオモノ)」
 「先サキ+→先物サキモノ」
 「塩シオ\+→塩物シオ\モノ」
 「品シナ (第2 シナ\)+→品物シナモノ」
 「縞シマ\+→縞物シマ\モノ (第2 シマモノ)」
 「汁シ\ル+→汁物シルモノ (第2 シル\モノ) (第2 シルモ\ノ)」
 「代シロ\+→代物シロモノ」
 「瀬戸セ\ト+→瀬戸物セトモノ」
 「種タ\ネ+→種物タネ\モノ (第2 タネモノ)」
 「艶ツヤ+→艶物ツヤモノ」
 「汁ツ\ユ+→汁物ツユ\モノ」
 「夏ナツ\+→夏物ナツモノ」
 「何ナニ (第2 ナ\ニ) +→何物ナニモノ」
 「鍋ナ\ベ+→鍋物ナベ\モノ」
 「生ナ\マ+→生物ナマ\モノ」
 「並ナミ+→並物ナミモノ」
 「偽ニセ+→偽物ニセモノ」
 「鉢ハチ\ (第2 ハチ) +→鉢物ハチモノ (第2 ハチ\モノ)」
 「初ハツ\+→初物ハツモノ」
 「花ハナ\+→花物ハナ\モノ」
 「母ハ\ハ+→母物ハハモノ」

- 「春ハ\ル+→春物ハルモノ (第2ハル\モノ)」
「疋㊦キ\+→疋物㊦キ\モノ」
「蓋㊦タ+→蓋物㊦タモノ」
「冬フユ\+→冬物フユモノ」
「古フ\ル+→古物フルモノ」
「髻マゲ+→髻物マゲモノ」
「水ミズ+→水物ミズモノ」
「業ワザ\+→業物ワザモノ」
「脂ヤニ\」 1語：「松マ\ツ+→松脂マツヤニ」
「山ヤマ\」 23語：「石イシ\+→石山イシヤマ」
「岩イワ\+→岩山イワヤマ」
「海ウ\ミ+→海山ウ\ミヤマ」
「裏ウラ\+→裏山ウラヤマ」
「奥オ\ク+→奥山オクヤマ」
「肩カ\タ+→肩山カタヤマ」
「北㊦タ (第2㊦タ\)+→北山㊦タヤマ」
「黒ク\ロ+→黒山クロヤマ」
「先サキ+→先山サキヤマ」
「里サト+→里山サトヤマ」
「砂スナ+→砂山スナヤマ」
「袖ソデ+→袖山ソデヤマ」
「床トコ+→床山トコヤマ」
「夏ナツ\+→夏山ナツヤマ」
「螺子ネ\ジ+→螺子山ネジヤマ」
「禿ハゲ\+→禿山ハゲヤマ」
「針ハリ\+→針山ハリヤマ」
「人㊦ト+→人山㊦トヤマ」
「冬フユ\+→冬山フユヤマ」
「松マ\ツ+→松山マツヤマ」
「桃モモ+→桃山モモヤマ」
「雪ユキ\+→雪山ユキヤマ」
「四方ヨ\モ+→四方山ヨモヤマ」
「闇ヤミ\」 2語：「タユ一 (第2ユ\一)+→タ闇ユ一ヤミ」
「宵ヨイ+→宵闇ヨイヤミ」
「指ユビ\」 3語：「親オヤ\+→親指オヤユビ」
「中ナ\カ+→中指ナカ\ユビ」
「三つミツ\+→三つ指ミツユビ」
「弓ユミ\」 1語：「石イシ\+→石弓イシユミ」
「夢ユメ\」 3語：「徒アダ\+→徒夢アダユメ」
「空ソ\ラ+→空夢ソラユメ」
「初ハツ\+→初夢ハツユメ」
「脇ワキ\」 1語：「片カ\タ (第2カタ\)+→片脇カタワキ (第2カタワキ\)」
「柀ワク\」 6語：「糸イ\ト+→糸柀イトワク」
「内ウチ+→内柀ウチワク」

「型カタ\+→型枠カタワク」
「黒ク\ロ+→黒枠クロワク」
「外ソ\ト+→外枠ソトワク」
「窓マ\ド+→窓枠マドワク」
「技ワザ\」2語：「足アシ\+→足技アシワザ」
「裏ウラ\+→裏技ウラワザ」
「業ワザ\」2語：「神カ\ミ+→神業カミワザ」
「早ハ\ヤ+→早業ハヤワザ（第2ハヤワザ\）」
「綿ワタ\」3語：「石イシ\+→石綿イシワタ（第2イシワ\タ）」
「裾スソ+→裾綿スソワタ」
「中ナ\カ+→中綿ナカワタ」

2 拍漢語+2 拍和語

前部要素語彙別

前部要素が 129 項目あり、前部要素の平板型と起伏式を分けて分析を行う。

前部要素が平板型の 29 項目があり、合計 56 語である。

- 「格カク」2 語：「+上ウエ→格上カクウエ」
「+下㊦タ→（第 2㊦タ）→格下カク㊦タ」
- 「額ガク」2 語：「+皿サラ→額皿ガクザラ」
「+縁㊦チ→額縁ガクブチ」
- 「学ガク（第 2 ガ\ク）」1 語：「+割ワリ→学割ガクワリ」
- 「寒カン（第 2 カ\ン）」5 語：「+菊㊦ク→（第 2㊦ク）→寒菊カ\ンギク」
「+肥コエ→寒肥カンゴエ（第 2 カ\ンゴエ）」
「+鮒フ\ナ→寒鮒カンブナ（第 2 カンブ\ナ）」
「+紅ベ\ニ→寒紅カンベ\ニ」
「+餅モチ→寒餅カ\ンモチ（第 2 カンモチ）」
- 「客キヤク」2 語：「+足アシ\→客足キヤクアシ」
「+種タ\ネ→客種キヤクダネ」
- 「逆ギヤク」2 語：「+足アシ\→逆足ギヤクアシ」
「+鞞サ\ヤ→逆鞞ギヤクザヤ」
- 「下駄ゲタ」1 語：「+箱ハコ→下駄箱ゲタバコ」
- 「後家ゴケ」1 語：「+蜘蛛ク\モ→後家蜘蛛ゴケグモ」
- 「胡麻ゴマ」2 語：「+塩シオ\→胡麻塩ゴマシオ」
「+粒ツ\ブ→胡麻粒ゴマツ\ブ（第 2 ゴマツブ）」
- 「昨サク」1 語：「+タユ→（第 2 ユ\）→昨タサクユ→」
- 「札サツ」1 語：「+束タ\バ→札束サツタバ（第 2 サツタバ）」
- 「雑ザツ（第 2 ザ\ツ）」1 語：「+株カブ→雑株ザツカブ」
- 「棕欄シュロ（第 2 シュ\ロ）」1 語：「+縄ナワ\→棕欄縄シュロナワ」
- 「錠ジョー」1 語：「+前マ\エ→錠前ジョーマエ」
- 「情ジョー」1 語：「+無しナ\シ→情無しジョーナシ」
- 「禅ゼン（第 2 ゼ\ン）」1 語：「+寺テラ\→禅寺ゼンデラ」
- 「痰タン」2 語：「+唾ツ\バ（第 2 ツバ\）→痰唾タンツバ（第 2 タンツ\バ）」
「+壺ツボ→痰壺タンツボ（第 2 タンツ\ボ）」
- 「対ツイ」1 語：「+丈タケ\→対丈ツイタケ」
- 「敵テキ」1 語：「+方カタ\→敵方テキガタ」
- 「鉄テツ」4 語：「+板イ\タ→鉄板テツイタ」
「+色イロ\→鉄色テツイロ」
「+鍋ナ\ベ→鉄鍋テツナベ」
「+屑ク\ズ→鉄屑テツクズ（第 2 テツク\ズ）」
- 「銅鑼ドラ（第 2 ド\ラ）」1 語：「+声コ\エ→銅鑼声ドラゴエ（第 2 ドラゴ\エ）」
- 「灰ハイ」2 語：「+色イロ\→灰色ハイイロ」
「+皿サラ→灰皿ハイザ\ラ（第 2 ハイザラ）」
- 「晩バン」3 語：「+方カタ\→晩方バンガタ」
「+菊㊦ク→（第 2㊦ク）→晩菊バンギク」
「+飯メシ\→晩飯バンメシ」

- 「別ベツ」4語：「+口㊦チ→別口ベツ㊦チ」
「+棟ムネ\ (第2ムネ) →別棟ベツムネ」
「+物モノ\ (第2モノ) →別物ベツモノ」
「+杵ワク\ →別杵ベツワク」
- 「棒ボー」4語：「+杭ク\イ→棒杭ボーグイ」
「+先サキ→棒先ボーサキ」
「+縞シマ\ →棒縞ボージマ」
「+鱈タ\ラ→棒鱈ボーダラ」
- 「盆ボン (第2ボ\ン)」2語：「+唄ウタ\ →盆唄ボ\ンウタ」
「+前マ\エ→盆前ボンマ\エ」
- 「無駄ムダ」5語：「+足アシ\ →無駄足ムダアシ」
「+金カネ→無駄金ムダガネ」
「+口㊦チ→無駄口ムダグチ」
「+花ハナ\ →無駄花ムダバナ」
「+飯メシ\ →無駄飯ムダメシ」
- 「翌ヨク (第2ヨ\ク)」1語：「+朝ア\サ→翌朝ヨクアサ」
- 「瑠璃ルリ (第2ル\リ)」1語：「+色イロ\ →瑠璃色ルリイロ (第2ル\リイロ)」

前部要素が起伏式の頭高型の85項目があり、計179語である。

- 「悪ア\ク」1語：「+玉タマ\ →悪玉アクダマ」
- 「亜麻ア\マ」1語：「+色イロ\ →亜麻色アマイロ」
- 「暗ア\ン」2語：「+箱ハコ→暗箱アンバコ」
「+幕マク\ →暗幕アンマク」
- 「餡ア\ン」1語：「+餅モチ→餡餅ア\ンモチ (第2アンモチ)」
- 「伊勢イ\セ」1語：「+蝦エビ→伊勢蝦イセ\エビ」
- 「印イ\ン」1語：「+箱ハコ→印箱インバコ」
- 「駅エ\キ」1語：「+前マ\エ→駅前エ\キマエ (第2エキマエ)」
- 「円エ\ン」1語：「+高タカ\ (第2タ\カ) →円高エンダカ」
- 「縁エ\ン」3語：「+側ガワ→縁側エンガワ」
「+先サキ→縁先エンサキ (第2エンサ\キ)」
「+端ハ\ナ→縁端エンバナ (第2エンバナ\)」
- 「王オ\ー」1語：「+様サマ\ →王様オーサマ」
- 「角カ\ク (第2カク)」6語：「+石イシ\ →角石カクイシ」
「+襟エリ\ →角襟カクエリ」
「+帯オ\ビ→角帯カクオビ」
「+形カタ\ →角形カクガタ」
「+皿サラ→角皿カクザラ」
「+袖ソデ→角袖カ㊦ソデ」
- 「菓子カ\シ」3語：「+皿サラ→菓子皿カシ\ザラ」
「+箱ハコ→菓子箱カシ\バコ」
「+鉢ハチ\ (第2ハチ) →菓子鉢カシ\バチ」
- 「棺カ\ン」1語：「+桶オ\ケ→棺桶カンオ\ケ」
- 「雁ガ\ン」1語：「+首クビ→雁首ガンクビ (第2ガンク\ビ)」
- 「擬餌ギ\ジ」1語：「+針ハ\リ→擬餌針ギジバリ (第2ギジバ\リ)」

「伽羅キ\ャラ (第2 キャラ)」1 語：「+ 蔞㊦キ→伽羅蔞キャラブキ」

「旧キュ\ー」2 語：「+ 仮名カナ→旧仮名キューカナ」
「+ 株カブ→旧株キュ\ーカブ」

「牛ギユ\ー」3 語：「+ 革カワ\→牛革ギューガワ」
「+ 鍋ナ\ベ→牛鍋ギューナベ」
「+ 飯メシ\→牛飯ギューメシ」

「綺羅キ\ラ」1 語：「+ 星ホシ→綺羅星キラ\ボシ」

「金キ\ン」9 語：「+ 色イロ\→金色キンイロ」
「+ 紙カミ\→金紙キ\ンガミ」
「+ 側ガワ→金側キンガワ」
「+ 口㊦チ→金口キングチ」
「+ 高タカ\ (第2 タ\カ) →金高キンダカ (第2 キンダ\カ)」
「+ 鏝ツ\バ→金鏝キンツバ」
「+ 時トキ\→金時キ\ントキ」
「+ 縁㊦チ\→金縁キンブチ」
「+ 星ホシ→金星キ\ンボシ」

「銀ギ\ン」9 語：「+ 色イロ\→銀色ギンイロ」
「+ 紙カミ\→銀紙ギ\ンガミ」
「+ 側ガワ→銀側ギンガワ」
「+ 鮭サ\ケ→銀鮭ギンザ\ケ (第2 ギンザケ)」
「+ 鱈タ\ラ→銀鱈ギンダラ」
「+ 蠅ハエ→銀蠅ギ\ンバエ」
「+ 縁㊦チ\→銀縁ギンブチ」
「+ 星ホシ→銀星ギ\ンボシ」
「+ 幕マク\→銀幕ギンマク」

「芸ゲ\ー」2 語：「+ 事コト\→芸事ゲーゴト (第2 ゲーゴト\ (第2 ゲーゴ\ト))」
「+ 無しナ\シ→芸無しゲーナシ」

「下座ゲ\ザ」1 語：「+ 唄ウタ\→下座唄ゲザ\ウタ」

「劍ケ\ン」3 語：「+ 先サキ→劍先ケンサキ (第2 ケンサキ\)」
「+ 玉タマ\→劍玉ケンダマ」
「+ 菱㊦シ→劍菱ケ\ンビシ」

「甲コ\ー」2 語：「+ 烏賊イカ→甲烏賊コ\ーイカ」
「+ 高タカ\ (第2 タ\カ) →甲高コーダカ」

「香コ\ー」1 語：「+ 箱ハコ→香箱コーバコ」

「業ゴ\ー (第2 ゴー)」1 語：「+ 腹ハラ\→業腹ゴーハラ (第2 ゴーハラ\)」

「極ゴ\ク」1 語：「+ 早稲ワ\セ→極早稲ゴクワセ」

「御所ゴ\ショ」1 語：「+ 柿カキ→御所柿ゴショ\ガキ」

「紺コ\ン」2 語：「+ 色イロ\→紺色コンイロ」
「+ 足袋タ\ビ→紺足袋コンタビ (第2 コンタ\ビ)」

「在ザ\イ」1 語：「+ 方カタ\→在方ザイカタ (第2 ザイカタ\)」

「棧サ\ン」1 語：「+ 橋ハシ\→棧橋サンバシ」

「残ザ\ン」2 語：「+ 菊㊦ク\ (第2 ㊦ク) →残菊ザ\ンギク」
「+ 高タカ\ (第2 タ\カ) →残高ザ\ンダカ (第2 ザンダカ)」

「事務ジ\ム」1 語：「+ 方カタ\→事務方ジムカタ」

「修羅シュ\ラ」1語：「+物モノ\ (第2モノ) →修羅物シュラモノ (第2 シュラ\モノ)」

「性ショ\ー」1語：「+悪ワ\ル→性悪ショーワル」

「上ジョ\ー」2語：「+玉タマ\→上玉ジョーダマ」
「+物モノ\ (第2モノ) →上物ジョーモノ」

「食ショ\ク」1語：「+紅ベ\ニ→食紅ショクベニ」

「所作ショ\サ (第2 ショサ\)」 「+事コト\→所作事ショサ\ゴト (第2 ショサゴト)」

「新シ\ン」6語：「+顔カオ→新顔シンガオ」
「+型カタ\→新型シンガタ」
「+株カブ→新株シ\ンカブ」
「+海苔ノリ\→新海苔シンノリ」
「+店ミセ\→新店シンミセ」
「+道ミチ→新道シンミチ (第2 シ\ンミチ)」

「陣ジ\ン」2語：「+笠カ\サ→陣笠ジンガサ (第2 ジンガ\サ) (第2 ジ\ンガサ)」
「+幕マク\→陣幕ジ\ンマク」

「髓ズ\イ」1語：「+虫ムシ→髓虫ズ\イムシ」

「席セ\キ」1語：「+札フダ→席札セキフダ (第2 セキ\フダ)」

「先セ\ン」1語：「+口㊦チ→先口セン㊦チ」

「善ゼ\ン」1語：「+玉タマ\→善玉ゼンダマ」

「象ゾ\ー」2語：「+亀カ\メ→象亀ゾーガメ」
「+虫ムシ→象虫ゾ\ームシ」

「台ダ\イ」4語：「+網アミ\→台網ダイアミ」
「+石イシ\→台石ダイイシ」
「+尻シリ\→台尻ダイジリ」
「+無しナ\シ→台無しダイナシ」

「短タ\ン」1語：「+靴㊦ツ\→短靴タングツ」

「反タ\ン」1語：「+物モノ\ (第2モノ) →反物タンモノ」

「段ダ\ン」3語：「+鼻ハナ→段鼻ダンバナ (第2 ダ\ンバナ)」
「+幕マク\→段幕ダンマク (第2 ダ\ンマク)」
「+物モノ\ (第2モノ) →段物ダンモノ\ (第2 ダンモ\ノ) (第2 ダンモノ)」

「中チュ\ー」6語：「+型カタ\→中型チューガタ」
「+腰コシ→中腰チューゴシ」
「+皿サラ→中皿チューザラ」
「+幅ハバ→中幅チューハバ」
「+古フ\ル→中古チューブル」
「+物モノ\ (第2モノ) →中物チューモノ」

「蝶チョ\ー」2語：「+貝カ\イ→蝶貝チョ\ーガイ」
「+鮫サメ→蝶鮫チョーザメ」

「猪牙チョ\キ」1語：「+船フ\ネ→猪牙船チョキブ\ネ (第2 チョキブネ)」

「天テ\ン」3語：「+汁ツ\ユ→天汁テンツユ」
「+幕マク\→天幕テ\ンマク」
「+窓マ\ド→天窓テンマド」

「胴ド\ー」6語：「+金カネ→胴金ドーガネ」
「+亀カ\メ→胴亀ドーガ\メ」

「+中ナ\カ→胴中ドーナカ\ (第2ドーナカ) (第2ドーナ\カ)」
 「+骨ホネ\→胴骨ドーボネ (第2ドーボネ\)」
 「+丸マル→胴丸ドーマル」
 「+元モト (第2モ\ト) →胴元ドーモト」
 「同ド\ー」1語:「+型カタ\→同型ドーガタ」
 「銅ド\ー」1語:「+鉢ハチ\ (第2ハチ) →銅鉢ドーバチ (第2ド\ーバチ)」
 「土佐ト\サ」1語:「+節㊦シ\→土佐節トサブシ」
 「難ナ\ン」1語:「+癖㊦セ\→難癖ナン㊦セ (第2ナン㊦セ\)」
 「乳ニュ\ー」1語:「+鉢ハチ\ (第2ハチ) →乳鉢ニュ\ーバチ」
 「馬車バ\シャ」1語:「+馬ウマ\→馬車馬バシャウマ」
 「版ハ\ン」2語:「+下㊦タ\ (第2㊦タ) →版下ハン㊦タ (第2ハン㊦タ\)」
 「+元モト (第2モ\ト) →版元ハンモト (第2ハンモト\)」
 「半ハ\ン」9語:「+襟エリ\→半襟ハンエリ」
 「+口㊦チ→半口ハン㊦チ」
 「+袖ソデ→半袖ハンソデ (第2ハンソデ\)」
 「+月㊦キ\→半月ハン㊦キ\」
 「+時トキ\→半時ハントキ\」
 「+年トシ\→半年ハントシ\」
 「+生ナ\マ→半生ハンナマ」
 「+幅ハバ→半幅ハンハバ」
 「+道ミチ→半道ハンミチ\ (第2ハ\ンミチ) (第2ハンミチ)」
 「番バ\ン」3語:「+傘カ\サ→番傘バンガサ (第2バンガ\サ)」
 「+数カ\ズ→番数バンカズ」
 「+小屋コヤ\ (第2コヤ) →番小屋バンゴヤ」
 「富士フ\ジ」1語:「+絹キ\ヌ→富士絹フジギヌ (第2フジギ\ヌ)」
 「法螺ホ\ラ」1語:「+貝カ\イ→法螺貝ホラ\ガイ」
 「本ホ\ン」11語:「+雨ア\メ→本雨ホンアメ」
 「+革カワ\→本革ホンガワ」
 「+腰コシ→本腰ホンゴシ」
 「+筋ス\ジ→本筋ホンスジ」
 「+棚タナ→本棚ホンダナ」
 「+床トコ→本床ホンドコ」
 「+箱ハコ→本箱ホンバコ」
 「+丸マル→本丸ホンマル」
 「+道ミチ→本道ホンミチ」
 「+元モト (第2モ\ト) →本元ホンモト」
 「+物モノ\ (第2モノ) →本物ホンモノ」
 「万マ\ン」1語:「+筋ス\ジ→万筋マ\ンスジ」
 「味噌ミ\ソ」2語:「+汁シ\ル→味噌汁ミソシ\ル」
 「+豆マメ\→味噌豆ミソマメ (第2ミソ\マメ)」
 「蜜ミ\ツ」2語:「+蜂ハチ→蜜蜂ミツ\バチ」
 「+豆マメ\→蜜豆ミツマメ」
 「美濃ミ\ノ」1語:「+紙カミ\→美濃紙ミノガミ (第2ミノ\ガミ)」
 「明ミョ\ー (第2ミョー)」1語:「+朝ア\サ→明朝ミョ\ーアサ」

- 「武者ム\シヤ」1語：「+窓マ\ド→武者窓ムシヤマド（第2ムシヤマ\ド）」
- 「文字モ\ジ」1語：「+面ツラ\→文字面モジズラ」
- 「文モ\ン」1語：「+無しナ\シ→文無しモンナシ」
- 「紋モ\ン」1語：「+下㊦タ\（第2㊦タ）→紋下モン㊦タ（第2モン㊦タ\）」
- 「椰子ヤ\シ」1語：「+蟹カニ→椰子蟹ヤシガニ（第2ヤシ\ガニ）」
- 「洋ヨ\ー」3語：「+傘カ\サ→洋傘ヨーガ\サ（第2ヨーガサ）」
「+凧タ\コ→洋凧ヨーダコ」
「+梨ナシ\（第2ナシ）→洋梨ヨーナシ」
- 「用ヨ\ー」1語：「+無しナ\シ→用無しヨーナシ（第2ヨーナシ\）」
- 「乱ラ\ン」2語：「+菊㊦ク\（第2㊦ク）→乱菊ラ\ンギク」
「+杭ク\イ→乱杭ラングイ」
- 「両リョ\ー」8語：「+足アシ\→両足リョーアシ」
「+腕ウデ\→両腕リョーウデ（第2リョ\ーウデ）」
「+側ガワ→両側リョーガワ」
「+端ハシ→両端リョーハシ（第2リョーハ\シ）」
「+端ハジ→両端リョーハジ」
「+肘ヒジ\→両肘リョーヒジ」
「+耳ミミ\→両耳リョーミミ（第2リョーミ\ミ）」
「+脇ワキ\→両脇リョーワキ」
- 「蠟ロ\ー」1語：「+紙カミ\→蠟紙ロ\ーガミ」
- 「路地ロ\ジ」1語：「+裏ウラ\→路地裏ロジウラ」
- 「露地ロ\ジ」1語：「+物モノ\（第2モノ）→露地物ロジモノ（第2ロジ\モノ）」
- 「論ロ\ン」1語：「+無しナ\シ→論無しロンナシ」

前部要素が起伏式の尾高型の15項目があり、計28語である。

- 「関伽アカ\」2語：「+桶オ\ケ→関伽桶アカオ\ケ」
「+棚タナ→関伽棚アカダナ」
- 「意地イジ\」1語：「+悪ワ\ル→意地悪イジ\ワル」
- 「骨コツ\」2語：「+箱ハコ→骨箱コツバコ（第2コツ\バコ）」
「+壺ツボ→骨壺コツツボ（第2コツ\ツボ）（第2コツツ\ボ）」
- 「軸ジク\」2語：「+足アシ\→軸足ジクアシ（第2ジク\アシ）」
「+物モノ\（第2モノ）→軸物ジク\モノ（第2ジクモノ）」
- 「質㊦チ\」1語：「+札フダ→質札㊦チ\フダ（第2㊦チフダ）」
- 「実ジツ\」2語：「+事コト\→実事ジツゴト」
「+株カブ→実株ジツカブ」
- 「世話セワ\」1語：「+物モノ\（第2モノ）→世話物セワモノ（第2セワ\モノ）」
- 「時トキ\」1語：「+無しナ\シ→時無しトキナシ」
- 「毒ドク\」3語：「+口㊦チ→毒口ドク\グチ」
「+虫ムシ→毒虫ドク\ムシ」
「+蛇ヘ\ビ→毒蛇ドク\ヘビ」
- 「肉ニク\」3語：「+色イロ\→肉色ニクイロ」
「+月㊦キ\→肉月ニク\ズキ」
「+鍋ナ\ベ→肉鍋ニクナベ」
- 「撥バチ\」2語：「+音オト\→撥音バチオト（第2バチオト\）」

- 「+胼胝タ\コ→撥胼胝バチダ\コ (第2バチダコ)」
 「福㊦ク\」3語:「+助㊦ケ (第2㊦ケ\)\ →福助㊦ク\㊦ケ」
 「+豆マメ\ →福豆㊦ク\マメ」
 「+耳ミミ\ →福耳㊦クミミ (第2㊦ク\ミミ)」
 「厄ヤク\」1語:「+年トシ\ →厄年ヤク\ドシ」
 「役ヤク\」2語:「+高タカ\ (第2タ\カ) →役高ヤク\ダカ」
 「+割ワリ →役割ヤクワリ (第2ヤクワ\リ) (第2ヤクワリ\)」
 「余所ヨソ\ (第2ヨ\ソ)」2語:「+事コト\ →余所事ヨソゴト (第2ヨソ\ゴト)」
 「+様サマ\ →余所様ヨソ\サマ」

後部要素語彙別

後部要素が136項目あり、後部要素の平板型と起伏式を分けて分析を行う。

後部要素が平板型の38項目があり、合計80語である。

- 「烏賊イカ」1語:「甲コ\ー+ →甲烏賊コ\ーイカ」
 「上ウエ」1語:「格カク+ →格上カクウエ」
 「蝦エビ」1語:「伊勢イ\セ+ →伊勢蝦イセ\エビ」
 「顔カオ」1語:「新シ\ン+ →新顔シンガオ」
 「柿カキ」1語:「御所ゴ\シヨ+ →御所柿ゴシヨ\ガキ」
 「仮名カナ」1語:「旧キュ\ー+ →旧仮名キューカナ」
 「蟹カニ」1語:「椰子ヤ\シ+ →椰子蟹ヤシガニ (第2ヤシ\ガニ)」
 「金カネ」2語:「胴ド\ー+ →胴金ドーガネ」
 「無駄ムダ+ →無駄金ムダガネ」
 「株カブ」4語:「旧キュ\ー+ →旧株キュ\ーカブ」
 「雑ザツ (第2ザ\ツ) + →雑株ザ㊦カブ」
 「実ジツ\ + →実株ジ㊦カブ」
 「新シ\ン+ →新株シ\ンカブ」
 「側ガワ」4語:「縁エ\ン+ →縁側エンガワ」
 「金キ\ン+ →金側キンガワ」
 「銀ギ\ン+ →銀側ギンガワ」
 「両リョ\ー+ →両側リョーガワ」
 「口㊦チ」6語:「金キ\ン+ →金口キングチ」
 「毒ドク\ + →毒口ドク\グチ」
 「無駄ムダ+ →無駄ロムダグチ」
 「先セ\ン+ →先口セン㊦チ」
 「半ハ\ン+ →半口ハン㊦チ」
 「別ベツ+ →別口ベツ㊦チ」
 「首クビ」1語:「雁ガ\ン+ →雁首ガンクビ (第2ガンク\ビ)」
 「腰コシ」2語:「中チュ\ー+ →中腰チューゴシ」
 「本ホ\ン+ →本腰ホンゴシ」
 「先サキ」3語:「縁エ\ン+ →縁先エンサキ (第2エンサ\キ)」
 「剣ケ\ン+ →剣先ケンサキ (第2ケンサキ\)」
 「棒ボー+ →棒先ボーサキ」
 「鮫サメ」1語:「蝶チョ\ー+ →蝶鮫チョーザメ」
 「皿サラ」5語:「角カ\ク (第2カク) + →角皿カクザラ」

- 「額ガク＋→額皿ガクザラ」
「菓子カ\シ＋→菓子皿カシ\ザラ」
「中チュ\ー＋→中皿チューザラ」
「灰ハイ＋→灰皿ハイザ\ラ (第2ハイザラ)」
- 「助㊦ケ (第2㊦ケ\)」 1語：「福㊦ク\＋→福助㊦ク\㊦ケ」
「袖ソデ」 2語：「角カ\ク (第2カク) ＋→角袖カ㊦ソデ」
「半ハ\ン＋→半袖ハンソデ (第2ハンソデ\)」
- 「棚タナ」 2語：「閼伽アカ\＋→閼伽棚アカダナ」
「本ホ\ン＋→本棚ホンダナ」
- 「壺ツボ」 2語：「骨コツ\＋→骨壺コ㊦ツボ (第2コ㊦\ツボ) (第2コ㊦ツ\ボ)」
「痰タン＋→痰壺タンツボ (第2タンツ\ボ)」
- 「床トコ」 1語：「本ホ\ン＋→本床ホンドコ」
「蠅ハエ」 1語：「銀ギ\ン＋→銀蠅ギ\ンバエ」
「箱ハコ」 7語：「暗ア\ン＋→暗箱アンバコ」
「印イ\ン＋→印箱インバコ」
「菓子カ\シ＋→菓子箱カシ\バコ」
「下駄ゲタ＋→下駄箱ゲタバコ」
「香コ\ー＋→香箱コーバコ」
「骨コツ\＋→骨箱コツバコ (第2コツ\バコ)」
「本ホ\ン＋→本箱ホンバコ」
- 「端ハン」 2語：「両リョ\ー＋→両端リョーハシ (第2リョーハ\シ)」
「両リョ\ー＋→両端リョーハジ」
- 「蜂ハチ」 1語：「蜜ミ\ツ＋→蜜蜂ミツ\バチ」
「鼻ハナ」 1語：「段ダ\ン＋→段鼻ダンバナ (第2ダ\ンバナ)」
「幅ハバ」 2語：「中チュ\ー＋→中幅チューハバ」
「半ハ\ン＋→半幅ハンハバ」
- 「菱㊦シ」 1語：「劍ケ\ン＋→劍菱ケ\ンビシ」
「蔀㊦キ」 1語：「伽羅キャ\ラ (第2キャラ) ＋→伽羅蔀キャラブキ」
「札フダ」 2語：「質㊦チ＋→質札㊦チ\フダ (第2㊦チフダ)」
「席セ\キ＋→席札セキフダ (第2セキ\フダ)」
- 「星ホシ」 3語：「綺羅キ\ラ＋→綺羅星キラ\ボシ」
「金キ\ン＋→金星キ\ンボシ」
「銀ギ\ン＋→銀星ギ\ンボシ」
- 「丸マル」 2語：「胴ド\ー＋→胴丸ドーマル」
「本ホ\ン＋→本丸ホンマル」
- 「道ミチ」 3語：「新シ\ン＋→新道シンミチ (第2シ\ンミチ)」
「半ハ\ン＋→半道ハンミチ\ (第2ハ\ンミチ) (第2ハンミチ)」
「本ホ\ン＋→本道ホンミチ」
- 「虫ムシ」 3語：「髓ズ\イ＋→髓虫ズ\イムシ」
「象ゾ\ー＋→象虫ゾ\ームシ」
「毒ドク\＋→毒虫ドク\ムシ」
- 「餅モチ」 2語：「餡ア\ン＋→餡餅アンモチ (第2アンモチ)」
「寒カン (第2カ\ン) ＋→寒餅カンモチ (第2カンモチ)」
- 「元モト (第2モ\ト)」 3語：「胴ド\ー＋→胴元ドーモト」

「版ハ\ン+→版元ハンモト (第2ハンモト\)」
「本ホ\ン+→本元ホンモト」
「タユー (第2ユ\ー)」 1語:「昨サク+→昨夕サクユー」
「割ワリ」 2語:「学ガク (第2ガ\ク) +→学割ガクワリ」
「役ヤク\+→役割ヤクワリ (第2ヤクワ\リ) (第2ヤクワリ\)」

後部要素が起伏式の頭高型の44項目があり、計65語である。

「朝ア\サ」 2語:「明ミョ\ー (第2ミョー) +→明朝ミョ\ーアサ」
「翌ヨク (第2ヨ\ク) +→翌朝ヨクアサ」
「雨ア\メ」 1語:「本ホ\ン+→本雨ホンアメ」
「板イ\タ」 1語:「鉄テツ+→鉄板テツイタ」
「桶オ\ケ」 2語:「閼伽アカ\+→閼伽桶アカオ\ケ」
「棺カ\ン+→棺桶カンオ\ケ」
「帯オ\ビ」 1語:「角カ\ク (第2カク) +→角帯カクオビ」
「貝カ\イ」 2語:「蝶チョ\ー+→蝶貝チョ\ーガイ」
「法螺ホ\ラ+→法螺貝ホラ\ガイ」
「笠カ\サ」 1語:「陣ジ\ン+→陣笠ジンガサ (第2ジンガ\サ) (第2ジ\ンガサ)」
「傘カ\サ」 2語:「番バ\ン+→番傘バンガサ (第2バンガ\サ)」
「洋ヨ\ー+→洋傘ヨーガ\サ (第2ヨーガサ)」
「数カ\ズ」 1語:「番バ\ン+→番数バンカズ」
「亀カ\メ」 2語:「象ゾ\ー+→象亀ゾーガメ」
「胴ド\ー+→胴亀ドーガ\メ」
「絹キ\ヌ」 1語:「富士フ\ジ+→富士絹フジギヌ (第2フジギ\ヌ)」
「杭ク\イ」 2語:「棒ボー+→棒杭ボーグイ」
「乱ラ\ン+→乱杭ラングイ」
「屑ク\ズ」 1語:「鉄テツ+→鉄屑テツクズ (第2テツク\ズ)」
「蜘蛛ク\モ」 1語:「後家ゴケ+→後家蜘蛛ゴケグモ」
「声コ\エ」 1語:「銅鑼ドラ (第2ド\ラ) +→銅鑼声ドラゴエ (第2ドラゴ\エ)」
「鮭サ\ケ」 1語:「銀ギ\ン+→銀鮭ギンザ\ケ (第2ギンザケ)」
「鞆サ\ヤ」 1語:「逆ギャク+→逆鞆ギャクザヤ」
「汁シ\ル」 1語:「味噌ミ\ソ+→味噌汁ミソシ\ル」
「筋ス\ジ」 2語:「本ホ\ン+→本筋ホンスジ」
「万マ\ン+→万筋マ\ンスジ」
「胼胝タ\コ」 1語:「撥バチ\+→撥胼胝バチダ\コ (第2バチダコ)」
「凧タ\コ」 1語:「洋ヨ\ー+→洋凧ヨードコ」
「種タ\ネ」 1語:「客キヤク+→客種キヤクダネ」
「束タ\バ」 1語:「札サツ+→札束サツタバ (第2サツタバ)」
「足袋タ\ビ」 1語:「紺コ\ン+→紺足袋コンタビ (第2コンタ\ビ)」
「鱈タ\ラ」 2語:「銀ギ\ン+→銀鱈ギンダラ」
「棒ボー+→棒鱈ボーダラ」
「鏝ツ\バ」 1語:「金キ\ン+→金鏝キンツバ」
「唾ツ\バ (第2ツバ\)」 1語:「痰タン+→痰唾タンツバ (第2タンツ\バ)」
「粒ツ\ブ」 1語:「胡麻ゴマ+→胡麻粒ゴマツ\ブ (第2ゴマツブ)」
「汁ツ\ユ」 1語:「天テ\ン+→天汁テンツユ」

「中ナ\カ」1語：「胴ド\ー→胴中ドーナカ\ (第2ドーナカ) (第2ドーナ\カ)」

「無しナ\シ」7語：「芸ゲ\ー→芸無しゲーナシ」
「情ジョ\ー→情無しジョーナシ」
「台ダ\イ→台無しダイナシ」
「時トキ\→時無しトキナシ」
「文モ\ン→文無しモンナシ」
「用ヨ\ー→用無しヨーナシ (第2ヨーナシ\)」
「論ロ\ン→論無しロンナシ」

「鍋ナ\ベ」3語：「牛ギユ\ー→牛鍋ギューナベ」
「鉄テツ\→鉄鍋テツナベ」
「肉ニク\→肉鍋ニクナベ」

「生ナ\マ」1語：「半ハ\ン→半生ハンナマ」

「端ハ\ナ」1語：「縁エ\ン→縁端エンバナ (第2エンバナ\)」

「針ハ\リ」1語：「擬餌ギ\ジ→擬餌針ギジバリ (第2ギジバ\リ)」

「鮒フ\ナ」1語：「寒カン (第2カ\ン) →寒鮒カンブナ (第2カンブ\ナ)」

「船フ\ネ」1語：「猪牙チョ\キ→猪牙船チョキブ\ネ (第2チョキブネ)」

「古フ\ル」1語：「中チュ\ー→中古チューブル」

「紅ベ\ニ」2語：「寒カン (第2カ\ン) →寒紅カンベ\ニ」
「食ショ\ク→食紅ショクベニ」

「蛇へ\ビ」1語：「毒ドク\→毒蛇ド⑦へビ」

「前マ\エ」3語：「駅エ\キ→駅前エ\キマエ (第2エキマエ)」
「錠ジョ\ー→錠前ジョーマエ」
「盆ボン (第2ボ\ン) →盆前ボンマ\エ」

「窓マ\ド」2語：「天テ\ン→天窓テンマド」
「武者ム\シャ→武者窓ムシャマド (第2ムシャマ\ド)」

「早稲ワ\セ」1語：「極ゴ\ク→極早稲ゴクワセ」

「悪ワ\ル」2語：「意地イジ\→意地悪イジ\ワル」
「性ショ\ー→性悪ショーワル」

後部要素が起伏式の尾高型の54項目があり、計118語である。

「足アシ\」5語：「客キヤク\→客足キヤクアシ」
「逆ギヤク\→逆足ギヤクアシ」
「軸ジ\ク\→軸足ジクアシ (第2ジク\アシ)」
「無駄ムダ\→無駄足ムダアシ」
「両リョ\ー\→両足リョーアシ」

「網アミ\」1語：「台ダ\イ\→台網ダイアミ」

「石イシ\」2語：「角カ\ク (第2カク) \→角石カクイシ」
「台ダ\イ\→台石ダイイシ」

「色イロ\」8語：「亜麻ア\マ\→亜麻色アマイロ」
「金キ\ン\→金色キンイロ」
「銀ギ\ン\→銀色ギンイロ」
「紺コ\ン\→紺色コンイロ」
「鉄テツ\→鉄色テツイロ」
「肉ニク\→肉色ニクイロ」

「灰ハイ＋→灰色ハイイロ」
「瑠璃ルリ（第2ル\リ）＋→瑠璃色ルリイロ（第2ル\リイロ）」
「唄ウタ\」2語：「下座ゲ\ザ＋→下座唄ゲザ\ウタ」
「盆ボン（第2ボ\ン）＋→盆唄ボ\ンウタ」
「腕ウデ\」1語：「両リョ\ー＋→両腕リョーウデ（第2リョ\ーウデ）」
「馬ウマ\」1語：「馬車バ\シャ＋→馬車馬バシャウマ」
「裏ウラ\」1語：「路地ロ\ジ＋→路地裏ロジウラ」
「襟エリ\」2語：「角カ\ク（第2カク）＋→角襟カクエリ」
「半ハ\ン＋→半襟ハンエリ」
「音オト\」1語：「撥バチ\＋→撥音バチオト（第2バチオト\）」
「方カタ\」4語：「在ザ\イ＋→在方ザイカタ（第2ザイカタ\）」
「事務ジ\ム＋→事務方ジムカタ」
「敵テキ＋→敵方テキガタ」
「晩バン＋→晩方バンガタ」
「形カタ\」1語：「角カ\ク（第2カク）＋→角形カクガタ」
「型カタ\」3語：「新シ\ン＋→新型シンガタ」
「中チュ\ー＋→中型チューガタ」
「同ド\ー＋→同型ドーガタ」
「紙カミ\」4語：「金キ\ン＋→金紙キ\ンガミ」
「銀ギ\ン＋→銀紙ギ\ンガミ」
「美濃ミ\ノ＋→美濃紙ミノガミ（第2ミノ\ガミ）」
「蠟ロ\ー＋→蠟紙ロ\ーガミ」
「革カワ\」2語：「牛ギユ\ー＋→牛革ギューガワ」
「本ホ\ン＋→本革ホンガワ」
「菊㊦ク\（第2㊦ク）」4語：「寒カン（第2カ\ン）＋→寒菊カ\ンギク」
「残ザ\ン＋→残菊ザ\ンギク」
「晩バン＋→晩菊バンギク」
「乱ラ\ン＋→乱菊ラ\ンギク」
「癖㊧セ\」1語：「難ナ\ン＋→難癖ナン㊧セ（第2ナン㊧セ\）」
「靴㊨ツ\」1語：「短タ\ン＋→短靴タングツ」
「肥コエ\」1語：「寒カン（第2カ\ン）＋→寒肥カンゴエ（第2カ\ンゴエ）」
「事コト\」4語：「芸ゲ\ー＋→芸事ゲーゴト（第2ゲーゴト\）（第2ゲーゴ\ト）」
「実ジツ\＋→実事ジツゴト」
「所作ショ\サ（第2ショサ\）＋→所作事ショサ\ゴト（第2ショサゴト）」
「余所ヨソ\（第2ヨ\ソ）＋→余所事ヨソゴト（第2ヨソ\ゴト）」
「小屋コヤ\（第2コヤ）」1語：「番バ\ン＋→番小屋バンゴヤ」
「様サマ\」2語：「王オ\ー＋→王様オーサマ」
「余所ヨソ\（第2ヨ\ソ）＋→余所様ヨソ\サマ」
「塩シオ\」1語：「胡麻ゴマ＋→胡麻塩ゴマシオ」
「下㊩タ\（第2㊩タ）」3語：「格カク＋→格下カク㊩タ」
「版ハ\ン＋→版下ハン㊩タ（第2ハン㊩タ\）」
「紋モ\ン＋→紋下モン㊩タ（第2モン㊩タ\）」
「縞シマ\」1語：「棒ボー＋→棒縞ボージマ」
「尻シリ\」1語：「台ダ\イ＋→台尻ダイジリ」

- 「月㊦キ」 2語：「肉ニク\+→肉月ニク\ズキ」
「半ハ\ン+→半月ハン㊦キ」
- 「面ツラ」 1語：「文字モ\ジ+→文字面モジズラ」
- 「高タカ」 (第2タ\カ) 5語：「円エ\ン+→円高エンダカ」
「金キ\ン+→金高キンダカ (第2キンダ\カ)」
「甲コ\ー+→甲高コーダカ」
「残ザ\ン+→残高ザ\ンダカ (第2ザンダカ)」
「役ヤク\+→役高ヤク\ダカ」
- 「丈タケ」 1語：「対ツイ+→対丈ツイタケ」
- 「玉タマ」 4語：「悪ア\ク+→悪玉アクダマ」
「劍ケ\ン+→劍玉ケンダマ」
「上ジョ\ー+→上玉ジョーダマ」
「善ゼ\ン+→善玉ゼンダマ」
- 「寺テラ」 1語：「禅ゼン (第2ゼ\ン) +→禅寺ゼンデラ」
- 「時トキ」 2語：「金キ\ン+→金時キ\ントキ」
「半ハ\ン+→半時ハントキ」
- 「年トシ」 2語：「半ハ\ン+→半年ハントシ」
「厄ヤク\+→厄年ヤク\ドシ」
- 「梨ナシ」 (第2ナシ) 1語：「洋ヨ\ー+→洋梨ヨーナシ」
- 「縄ナワ」 1語：「棕欄シュロ (第2シュ\ロ) +→棕欄縄シュロナワ」
- 「海苔ノリ」 1語：「新シ\ン+→新海苔シンノリ」
- 「橋ハシ」 1語：「棧サ\ン+→棧橋サンバシ」
- 「鉢ハチ」 (第2ハチ) 3語：「菓子カ\シ+→菓子鉢カシ\バチ」
「銅ド\ー+→銅鉢ドーバチ (第2ド\ーバチ)」
「乳ニュ\ー+→乳鉢ニュ\ーバチ」
- 「花ハナ」 1語：「無駄ムダ+→無駄花ムダバナ」
- 「腹ハラ」 1語：「業ゴ\ー (第2ゴー) +→業腹ゴーハラ (第2ゴーハラ)」
- 「肘ヒジ」 1語：「両リョ\ー+→両肘リョーヒジ」
- 「節㊦シ」 1語：「土佐ト\サ+→土佐節トサブシ」
- 「縁㊦チ」 3語：「額ガク+→額縁ガクブチ」
「金キ\ン+→金縁キンブチ」
「銀ギ\ン+→銀縁ギンブチ」
- 「骨ホネ」 1語：「胴ド\ー+→胴骨ドーボネ (第2ドーボネ)」
- 「幕マク」 5語：「暗ア\ン+→暗幕アンマク」
「銀ギ\ン+→銀幕ギンマク」
「陣ジ\ン+→陣幕ジンマク」
「段ダ\ン+→段幕ダンマク (第2ダ\ンマク)」
「天テ\ン+→天幕テンマク」
- 「豆マメ」 3語：「福㊦ク\+→福豆㊦ク\マメ」
「味噌ミ\ソ+→味噌豆ミソマメ (第2ミソ\マメ)」
「蜜ミ\ツ+→蜜豆ミツマメ」
- 「店ミセ」 1語：「新シ\ン+→新店シンミセ」
- 「耳ミミ」 2語：「福㊦ク\+→福耳㊦クミミ (第2㊦ク\ミミ)」
「両リョ\ー+→両耳リョーミミ (第2リョーミ\ミ)」

「棟ムネ\ (第2 ムネ)」1 語：「別ベツ+→別棟ベツムネ」
「飯メシ\」3 語：「牛ギユ\ー+→牛飯ギューメシ」
「晩バン+→晩飯バンメシ」
「無駄ムダ+→無駄飯ムダメシ」
「物モノ\ (第2 モノ)」10 語：「軸ジク\+→軸物ジク\モノ (第2 ジクモノ)」
「修羅シュ\ラ+→修羅物シュラモノ (第2 シュラ\モノ)」
「上ジョ\ー+→上物ジョーモノ」
「世話セワ\+→世話物セワモノ (第2 セワ\モノ)」
「反タ\ン+→反物タンモノ」
「段ダ\ン+→段物ダンモノ\ (第2 ダンモ\ノ) (第2 ダンモノ)」
「中チュ\ー+→中物チューモノ」
「別ベツ+→別物ベツモノ」
「本ホ\ン+→本物ホンモノ」
「露地ロ\ジ+→露地物ロジモノ (第2 ロジ\モノ)」
「脇ワキ\」1 語：「両リョ\ー+→両脇リョーワキ」
「枠ワク\」1 語：「別ベツ+→別枠ベツワク」

2 拍外来語＋2 拍和語

前部要素語彙別

前部要素が9項目あり、前部要素を頭高型とその他のものと分けて分析を行う。

前部要素が頭高型の「ガ\ス」「ゴ\ム」「ド\ル」「パ\ン」「ピ\ザ」「ビ\ル」「ペ\ン」の合計8項目があり、合計16語である。

複合語が平板型の場合

- 「ガ\ス」3語：「＋釜カマ→ガス釜ガスガマ」
「＋風呂ブロ\→ガス風呂ガスブロ」
「＋糸イ\ト→ガス糸ガスイト」
「ピ\ザ」1語：「＋窯カマ→ピザ窯ピザガマ」
「ビ\ル」1語：「＋風カゼ→ビル風ビル\カゼ」
「ラ\シャ」1語：「紙カミ\→ラシャ紙ラシャガミ」

複合語が平板型と中高型と共存する場合

- 「ゴ\ム」4語：「＋紐ヒモ→ゴム紐ゴム\ヒモ（第2ゴムヒモ）」
「＋靴ツ\→ゴム靴ゴム\グツ」
「＋糊りノリ\→ゴム糊りゴム\ノリ」
「＋鞣マリ\→ゴム鞣ゴム\マリ」
「ド\ル」2語：「＋箱ハコ→ドル箱ドルバコ」
「＋高タカ\（第2タ\カ）→ドル高ドルダカ」
「パ\ン」2語：「＋窯カマ→パン窯パンガマ」
「＋種タ\ネ→パン種パンダネ（第2パンダ\ネ）」
「ペ\ン」2語：「＋胼胝タ\コ→ペン胼胝ペンダコ（第2ペンダ\コ）」
「＋先サキ→ペン先ペンサ\キ（第2ペンサキ\）」

前部要素が尾高型の場合、「羅宇ラオ\（第2ラ\オ）」の1項目1語がある。複合語は中高型である。

複合語が中高型の場合

- 「羅宇ラオ\（第2ラ\オ）」1語：「＋竹タケ→羅宇竹ラオ\ダケ」

後部要素語彙別

後部要素が9項目あり、後部要素の平板型と起伏式を分けて分析を行う。

後部要素が平板型の場合、「風カゼ」「釜カマ」「窯カマ」「先サキ」「竹タケ」「箱ハコ」「紐ヒモ」の7項目8語がある。

複合語が平板型の場合

- 「窯カマ」2語：「パ\ン＋→パン窯パンガマ」
「ピ\ザ＋→ピザ窯ピザガマ」
「釜カマ」1語：「ガ\ス＋→ガス釜ガスガマ」
「箱ハコ」1語：「ド\ル＋→ドル箱ドルバコ」

複合語が中高型の場合

「風カゼ」1語：「ビ\ル+→ビル風ビル\カゼ」

「竹タケ」1語：「羅宇ラオ\ (第2ラ\オ) +→羅宇竹ラオ\ダケ」

複合語が平板型と中高型と共存する場合

「紐ヒモ」1語：「ゴ\ム+→ゴム紐ゴム\ヒモ (第2ゴムヒモ)」

複合語が中高型と尾高型と共存する場合

「先サキ」1語：「ペ\ン+→ペン先ペンサ\キ (第2ペンサキ\)」

後部要素が頭高型の語は、「糸イ\ト」「種タ\ネ」「胼胝タ\コ」の3項目3語である。

複合語が平板型の場合

「糸イ\ト」1語：「ガ\s+→ガス糸ガスイト」

複合語が平板型と中高型と共存する場合

「種タ\ネ」1語：「パ\ン+→「パン種パンダネ (第2パンダ\ネ)」

「胼胝タ\コ」1語：「ペ\ン+→ペン胼胝ペンダコ (第2ペンダ\コ)」

後部要素が尾高型の場合、「紙カミ\」「靴㊦ツ\」「高タカ\ (第2タ\カ)」「糊りノリ\」「風呂フロ\」「鞠マリ\」の6項目6語がある。

複合語は平板型の場合

「紙カミ\」1語：「ララ\シャ+→ラシャ紙ラシャガミ」

「高タカ\ (第2タ\カ)」1語：「ド\ル+→ドル高ドルダカ」

「風呂フロ\」1語：「ガ\s+→ガス風呂ガスフロ」

複合語は中高型の場合

「靴㊦ツ\」1語：「ゴ\ム+→ゴム靴ゴム\グツ」

「糊りノリ\」1語：「ゴ\ム+→ゴム糊りゴム\ノリ」

「鞠マリ\」1語：「ゴ\ム+→ゴム鞠ゴム\マリ」

3 拍以上語＋1 拍和語

後部要素語彙別

後部要素が平板型の場合は、14 項目 107 語がある。

- 「場バ」34 語：「上がりアガリ＋→上がり場アガリバ」
「遊びアソビ＋→遊び場アソビバ」
「洗いアライ＋→洗い場アライバ」
「踊りオドリ＋→踊り場オドリバ」
「温泉オンセン＋→温泉場オンセンバ」
「加工カコー＋→加工場カコーバ」
「火葬カソー＋→火葬場カソーバ」
「紙漉きカミ㊦キ＋→紙漉き場カミ㊦キバ」
「稽古ケーコ＋→稽古場ケーコバ」
「下足ゲソク＋→下足場ゲソクバ」
「工事コージ＋→工事場コージバ」
「殺しコロシ＋→殺し場コロシバ」
「細工サイク＋→細工場サイクバ（第2サイクバ\）」
「盛りサカリ＋→盛り場サカリバ」
「作業サギョー＋→作業場サギョーバ」
「仕置きシオキ＋→仕置き場シオキバ」
「仕事シゴト＋→仕事場シゴトバ」
「愁嘆シュータン＋→愁嘆場シュータンバ」
「炊事スイジ＋→炊事場スイジバ」
「洗濯センタク＋→洗濯場センタクバ」
「大弓ダイキュー＋→大弓場ダイキューバ（第2ダイキューバ\）」
「溜りタマリ＋→溜り場タマリバ」
「手水チョーズ＋→手水場チョーズバ」
「出入りデイリ＋→出入り場デイリバ」
「湯治トージ＋→湯治場トージバ」
「渡船トセン＋→渡船場トセンバ」
「流しナガシ＋→流し場ナガシバ」
「普請㊦シン＋→普請場㊦シンバ」
「秣マグサ＋→秣場マグサバ」
「物置モノオキ＋→物置場モノオキバ」
「物干しモノホシ＋→物干し場モノホシバ」
「料理リョーリ＋→料理場リョーリバ」
「渡しワタシ＋→渡し場ワタシバ」
「紅葉モミジ＋→紅葉場モミジ\バ」
「戸ト」7 語：「庭木ニワキ＋→庭木戸ニワキド」
「ガラスガラス＋→ガラス戸ガラス\ド（第2ガラスド）」
「格子コーシ＋→格子戸コーシ\ド」
「葺み㊦トミ＋→葺み戸㊦トミ\ド」
「開きヒラキ＋→開き戸ヒラキ\ド」
「筵ムシロ＋→筵戸ムシロ\ド（第2ムシロド）」

- 「鎧ヨロイ＋→鎧戸ヨロイ\ドロ (第2ヨロイドロ)」
- 「間マ」1語：「応接オーセツ＋→応接間オーセツマ」
- 「毛ケ」3語：「後れオクレ＋→後れ毛オクレゲ」
「命イノチ＋→命毛イノチ\ゲ」
「解れホツレ＋→解れ毛ホツレ\ゲ (第2ホツレゲ)」
- 「名ナ」3語：「源氏ゲンジ＋→源氏名ゲンジ\ナ」
「通りトーリ＋→通り名トーリ\ナ」
「許シユルシ＋→許し名ユルシ\ナ」
- 「日ヒ (第2ヒ\)」26語：「祝いイワイ＋→祝い日イワ\イビ (第2イワイ\ビ)」
「火曜カヨー＋→火曜日カヨ\ービ」
「記念キネン＋→記念日キネ\ンビ」
「施行☺コー＋→施行日☺コ\ービ」
「土曜ドヨー＋→土曜日ドヨ\ービ」
「開会カイカイ＋→開会日カイカ\イビ」
「休業キューギョー＋→休業日キューギョ\ービ」
「給料キューリョー＋→給料日キューリョ\ービ」
「月給ゲツキュー＋→月給日ゲツキュ\ービ」
「公休コーキュー＋→公休日コーキュ\ービ」
「小春コハル＋→小春日コハル\ビ (第2コハルビ)」
「最終サイシュー＋→最終日サイシュ\ービ」
「支払いシハライ＋→支払い日シハラ\イビ」
「誕生タンジョー＋→誕生日タンジョ\ービ」
「定休テーキュー＋→定休日テーキュ\ービ」
「投票トーヒョー＋→投票日トーヒョ\ービ」
「特異トクイ＋→特異日トクイ\ビ」
「日曜ニチヨー＋→日曜日ニチヨ\ービ」
「発行ハッコー＋→発行日ハッコ\ービ」
「真夏マナツ＋→真夏日マナツ\ビ」
「真冬マフユ＋→真冬日マフユ\ビ」
「面会メンカイ＋→面会日メンカ\イビ」
「猛暑モーショ＋→猛暑日モーショ\ビ」
「安息アンソク＋→安息日アンソク\ビ」
「書き入れカキイレ＋→書き入れ日カキイレ\ビ」
「締め切りシメキリ＋→締め切り日シメキリ\ビ」
- 「喪モ」1語：「宮中キューチュー＋→宮中喪キューチュ\ーモ」
- 「身ミ」4語：「脂アブラ＋→脂身アブラミ (第2アブラ\ミ)」
「変わりカワリ＋→変わり身カワリミ」
「独り㊦トリ＋→独り身㊦トリミ (第2㊦トリ\ミ)」
「一つ㊦トツ＋→一つ身㊦ト\ツミ」
- 「蚊カ」：「藪ヤブツ＋→藪蚊ヤブツカ」
- 「血チ」：「返りカエリ＋→返り血カエリチ (第2カエリ\チ)」
- 「葉ハ」：「蓮ハ㊦ツ＋→蓮葉ハ㊦ツパ」
- 「音ネ」：「忍びシノビ＋→忍び音シノビネ (第2シノビ\ネ)」
- 「値ネ」5語：「卸オロシ＋→卸値オロシ\ネ (第2オロシネ)」

「終オワリ＋→終値オワリ\ネ」
「小売コウリ＋→小売値コウリ\ネ」
「仕入れシイレ＋→仕入れ値シイレ\ネ」
「始ハジメ＋→始値ハジメ\ネ」

「子コ」19語：「苛めっイジメッ＋→苛めっ子イジメッコ」
「江戸っエドッ＋→江戸っ子エドッコ」
「踊りオドリ＋→踊り子オドリコ」
「鍵っカギッ＋→鍵っ子カギッコ」
「末っスエッ＋→末っ子スエッコ」
「連れっツレッ＋→連れっ子ツレッコ」
「土地っト[㊦]ッ＋→土地っ子ト[㊦]ッコ」
「微塵ミジン＋→微塵子ミジンコ」
「一人っ[㊧]トリッ＋→一人っ子[㊧]トリ\ッコ」
「娘っムスメッ＋→娘っ子ムスメ\ッコ」
「悪戯っイタズラッ＋→悪戯っ子イタズラ\ッコ」
「教えオシエ＋→教え子オシエゴ（第2オシエ\ゴ）」
「貰いモライ＋→貰い子モライゴ」
「貰いっモライッ＋→貰いっ子モライッゴ」
「落としオトシ＋→落とし子オトシ\ゴ」
「乙女オトメ＋→乙女子オトメ\ゴ」
「隠しカ[㊨]シ＋→隠し子カ[㊨]シ\ゴ」
「迷いマヨイ＋→迷い子マヨイ\ゴ」
「親無しオヤナシ＋→親無し子オヤナシ\ゴ」

後部要素が頭高型の場合は、21項目 212語がある。

「菜ナ\」6語：「芥子カラシ＋→芥子菜カラシナ」
「小松コマツ＋→小松菜コマツナ」
「摘みツマミ＋→摘み菜ツマミナ」
「野沢ノザワ＋→野沢菜ノザワナ（第2ノザワ\ナ）」
「油アブラ＋→油菜アブラ\ナ（第2アブラナ）」
「間引きマビキ＋→間引き菜マビキ\ナ（第2マビキナ）」
「歯ハ\」4語：「一本イッポン＋→一本歯イッポ\ンバ」
「乱杭ラングイ＋→乱杭歯ラング\イバ」
「鋸ノコギリ＋→鋸歯ノコギリ\バ」
「味噌っミソッ＋→味噌っ歯ミソ\ツパ」
「代ヨ\（第2ヨ）」1語：「万ヨロズ＋→万代ヨロズ\ヨ」
「地ジ\（第2ヨ）」1語：「袴ハカマ＋→袴地ハカマジ」
「端パ\」1語：「下っ[㊩]タッ＋→下っ端[㊩]タッパ」
「粉コ\」9語：「饅頭ウドン＋→饅頭粉ウドンコ」
「蚊遣カヤリ＋→蚊遣粉カヤリコ」
「カレーカレー＋→カレー粉カレーコ」
「小麦コムギ＋→小麦粉コムギコ」
「晒しサラ[㊪]＋→晒し粉サラ[㊪]コ」
「磨きミガ[㊫]＋→磨き粉ミガ[㊫]コ」

「微塵ミジン＋→微塵粉ミジンコ」
「白玉シラタマ＋→白玉粉シラタマ\コ (第2シラタマコ)」
「歯磨きハミガ㊦＋→歯磨き粉ハミガ㊦\コ (第2ハミガ\㊦) (第3コハミガ㊦コ)」

「根ネ\」1語：「心ココロ＋→心根ココロネ」

「火ヒ\」11語：「迎えムカエ＋→迎え火ムカエビ」

「貰いモライ＋→貰い火モライビ (第2モラ\イビ) (第3モライ\ビ)」

「不審㊧シン＋→不審火㊧シ\ンビ」

「炉イロリ＋→炉火イロリ\ビ」

「送りオクリ＋→送り火オクリ\ビ (第2オクリビ)」

「篝カガリ＋→篝火カガリ\ビ」

「蚊遣カヤリ＋→蚊遣火カヤリ\ビ (第2カヤリビ)」

「狐㊨ツネ＋→狐火㊨ツネ\ビ」

「残りノコリ＋→残り火ノコリ\ビ」

「裸ハダカ＋→裸火ハダカ\ビ」

「螢ホタル＋→螢火ホタル\ビ」

「江エ\」1語：「濁りニゴリ＋→濁り江ニゴリ\エ」

「津ツ\」2語：「常磐トキワ＋→常磐津トキワズ」

「難波ナニワ＋→難波津ナニワズ (第2ナニワ\ズ)」

「木キ\」9語：「止まりトマリ＋→止まり木トマリギト (第2マリ\ギ)」

「網代アジロ＋→網代木アジロ\ギ」

「鰹カツオ＋→鰹木カツオ\ギ」

「播り粉スリコ＋→播り粉木スリコ\ギ」

「常磐トキワ＋→常磐木トキワ\ギ (第2トキワギ)」

「流れナガレ＋→流れ木ナガレ\ギ」

「拍子ヒョーシ＋→拍子木ヒョーシ\ギ」

「枕マクラ＋→枕木マクラ\ギ (第2マクラギ)」

「宿りヤドリ＋→宿り木ヤドリ\ギ (第2ヤドリギ)」

「目メ\」34語：「上がりアガリ＋→上がり目アガリメ」

「当たりアタリ＋→当たり目アタリメ」

「変わりカワリ＋→変わり目カワリメ」

「素人シロート＋→素人目シロートメ (第2シロート\メ) (第3シロートメ\)」

「畳みタタミ＋→畳み目タタミメ」

「崇りタタリ＋→崇り目タタリメ (第2タタリメ\)」

「爛れタダレ＋→爛れ目タダレメ (第2タダレ\メ)」

「違いチガイ＋→違い目チガイメ (第2チガイメ\)」

「番いツガイ＋→番い目ツガイメ (第2ツガイメ\)」

「疲れ㊩カレ＋→疲れ目㊩カレメ (第2㊩カレ\メ)」

「繋ぎツナギ＋→繋ぎ目ツナギメ」

「流しナガシ＋→流し目ナガシメ (第2ナガシ\メ)」

「狙いネライ＋→狙い目ネライメ」

「秤りバカリ＋→秤り目バカリメ (第2バカリメ\)」

- 「最眞ヒーキ＋→最眞目ヒーキメ (第2ヒーキ\メ)」
「封じフージ＋→封じ目フージメ (第2フージメ\)」
「二つ㊦タツ＋→二つ目㊦タツメ」
「曲がりマガリ＋→曲がり目マガリメ」
「結びムスビ＋→結び目ムスビメ」
「破れヤブレ＋→破れ目ヤブレメ (第2ヤブレメ\)」
「汚れヨゴレ＋→汚れ目ヨゴレメ」
「弱りヨワリ＋→弱り目ヨワリメ (第2ヨワリ\メ)」
「境サカイ＋→境目サカイメ\ (第2サカイメ)」
「2代ニダイ＋→2代目ニダイメ\ (第2ニダイメ)」
「一つ㊧トツ＋→一つ目㊧トツメ\」
「2つ㊦タツ＋→2つ目㊦タツメ\」
「1年イチネン＋→1年目イチネンメ\」
「1番イチバン＋→1番目イチバンメ\」
「3代サンダイ＋→3代目サンダイメ\ (第2サンダイメ)」
「100年ヒャクネン＋→100年目ヒャクネンメ\」
「1時間イチジカン＋→1時間目イチジカンメ\」
「一番イチバン＋→一番目イチバ\ンメ」
「下がりサガリ＋→下がり目サガリ\メ」
「流行りハヤリ＋→流行り目ハヤリ\メ」
- 「刃ハ\」 2語：「付け焼き㊨ケヤキ＋→付け焼き刃㊨ケヤ\キバ」
「柳ヤナギ＋→柳刃ヤナギ\バ (第2ヤナギバ)」
- 「矢ヤ\」 1語：「流れナガレ＋→流れ矢ナガレ\ヤ」
- 「手テ\」 21語：「送りオクリ＋→送り手オクリテ」
「教えオシエ＋→教え手オシエテ」
「踊りオドリ＋→踊り手オドリテ」
「抱えカカエ＋→抱え手カカエテ」
「語りカタリ＋→語り手カタリテ」
「決まりキマリ＋→決まり手キマリテ」
「使い㊩カイ＋→使い手㊩カイテ」
「望みノゾミ＋→望み手ノゾミテ」
「運びハコビ＋→運び手ハコビテ」
「働きハタラ㊪＋→働き手ハタラ㊪テ」
「話しハナ㊫＋→話し手ハナ㊫テ (第2ハナ㊫テ\)」
「引き取り㊬キトリ＋→引き取り手㊬キトリテ (第2㊬キトリテ\)」
「左ヒダリ＋→左手ヒダリテ」
「封じフージ＋→封じ手フージテ (第2フージ\テ)」
「貰いモライ＋→貰い手モライテ」
「後ろウシロ＋→後ろ手ウシロデ (第2ウシロ\デ)」
「男オトコ＋→男手オトコデ」
「女オンナ＋→女手オンナデ」
「柏カシワ＋→柏手カシワデ」
「使い㊩カイ＋→使い手㊩カイデ」
「懐㊭トコロ＋→懐手㊭トコロデ」

- 「湯ユ」 9 語：「上がりアガリ＋→上がり湯アガリユ（第2アガリユ）」
「男オトコ＋→男湯オトコユ（第2オトコユ）」
「女オンナ＋→女湯オンナユ（第2オンナユ）」
「仕舞いシマイ＋→仕舞い湯シマイユ（第2シマイユ）」
「貰いモライ＋→貰い湯モライユ」
「掛かりカカリ＋→掛かり湯カカリユ」
「薬㊦スリ＋→薬湯㊦スリユ」
「桜サクラ＋→桜湯サクラユ」
「菖蒲ショーブ＋→菖蒲湯ショーブユ」
- 「田タ」 1 語：「隠しカクシ＋→隠し田カクシダ（第2カクシダ）」
- 「屋ヤ」 92 語：「当たりアタリ＋→当たり屋アタリヤ」
「暑がりアツガリ＋→暑がり屋アツガリヤ」
「荒物アラモノ＋→荒物屋アラモノヤ」
「鋳掛けイカケ＋→鋳掛け屋イカケヤ」
「印刷インサツ＋→印刷屋インサツヤ」
「植木ウエキ＋→植木屋ウエキヤ」
「饅頭ウドン＋→饅頭屋ウドンヤ」
「鰻ウナギ＋→鰻屋ウナギヤ」
「御田オデン＋→御田屋オデンヤ」
「玩具オモチャ＋→玩具屋オモチャヤ」
「飾りカザリ＋→飾り屋カザリヤ」
「貸本カシホン＋→貸本屋カシホンヤ」
「金物カナモノ＋→金物屋カナモノヤ」
「頑張りガンバリ＋→頑張り屋ガンバリヤ」
「乾物カンブツ＋→乾物屋カンブツヤ」
「技術ギジュツ＋→技術屋ギジュツヤ」
「気取りキドリ＋→気取り屋キドリヤ」
「牛乳ギューニユー＋→牛乳屋ギューニユーヤ」
「経師キョージ＋→経師屋キョージヤ」
「金魚キンギョ＋→金魚屋キンギョヤ」
「食べ物クイモノ＋→食べ物屋クイモノヤ」
「薬㊦スリ＋→薬屋㊦スリヤ」
「果物クダモノ＋→果物屋クダモノヤク（第2ダモノヤ）」
「口入れ㊦チイレ＋→口入れ屋㊦チイレヤ」
「車クルマ＋→車屋クルマヤ」
「芸者ゲーシャ＋→芸者屋ゲーシャヤ」
「下宿ゲシュク＋→下宿屋ゲシュクヤ」
「氷コーリ＋→氷屋コーリヤ」
「骨董コッター＋→骨董屋コッターヤ」
「小鳥コトリ＋→小鳥屋コトリヤ」
「呉服ゴ㊦ク＋→呉服屋ゴ㊦クヤ」
「殺しコロシ＋→殺し屋コロシヤ」
「声色コワイロ＋→声色屋コワイロヤ」
「魚サカナ＋→魚屋サカナヤ」

「雑貨ザッカ＋→雑貨屋ザッカヤ」
「散髪サンパツ＋→散髪屋サンパツヤ」
「仕出しシダシ＋→仕出し屋シダシヤ」
「始末シマツ＋→始末屋シマツヤ」
「締めシマリ＋→締め屋シマリヤ」
「写真シャシン＋→写真屋シャシンヤ」
「周旋シューセン＋→周旋屋シューセンヤ」
「情報ジョーホー＋→情報屋ジョーホーヤ」
「汁粉シルコ＋→汁粉屋シルコヤ」
「素人シロート＋→素人屋シロートヤ（第2シロート\ヤ）」
「新聞シンブン＋→新聞屋シンブンヤ」
「澄ましスマシ＋→澄まし屋スマシヤ」
「製本セーホン＋→製本屋セーホンヤ」
「瀬戸物セトモノ＋→瀬戸物屋セトモノヤ」
「洗濯センタク＋→洗濯屋センタクヤ」
「総会ソーカイ＋→総会屋ソーカイヤ」
「葬儀ソーギ＋→葬儀屋ソーギヤ」
「染め物ソメモノ＋→染め物屋ソメモノヤ」
「駄菓子ダガシ＋→駄菓子屋ダガシヤ」
「畳タタミ＋→畳屋タタミヤ」
「健具タテグ＋→健具屋タテグヤ」
「たばこタバコ＋→たばこ屋タバコヤ」
「食べ物タベモノ＋→食べ物屋タベモノヤ」
「反物タンモノ＋→反物屋タンモノヤ」
「提灯チョーチン＋→提灯屋チョーチンヤ」
「漬物㊦ケモノ＋→漬物屋㊦ケモノヤ」
「出しゃばりデシャバリ＋→出しゃばり屋デシャバリヤ」
「電気デンキ＋→電気屋デンキヤ」
「道具ドーグ＋→道具屋ドーグヤ」
「東西トーザイ＋→東西屋トーザイヤ」
「豆腐トーフ＋→豆腐屋トーフヤ」
「時計トケー＋→時計屋トケーヤ」
「握りニギリ＋→握り屋ニギリヤ」
「運びハコビ＋→運び屋ハコビヤ」
「旅籠ハタゴ＋→旅籠屋ハタゴヤ」
「はにかみハニカミ＋→はにかみ屋ハニカミヤ」
「布団㊦トン＋→布団屋㊦トンヤ」
「古着フルギ＋→古着屋フルギヤ」
「古道具フルドーグ＋→古道具屋フルドーグヤ」
「古本フルホン＋→古本屋フルホンヤ」
「文房具ブンボーグ＋→文房具屋ブンボーグヤ」
「ペンキペンキ＋→ペンキ屋ペンキヤ」
「弁当ベントー＋→弁当屋ベントーヤ」
「便利ベンリ＋→便利屋ベンリヤ」

「曲がりマ加里＋→曲がり屋マ加里ヤ」
 「むつつりムツツリ＋→むつつり屋ムツツリヤ」
 「銘酒メーシュ＋→銘酒屋メーシュヤ」
 「洋服ヨー㊦ク＋→洋服屋ヨー㊦クヤ」
 「予想ヨソー＋→予想屋ヨソーヤ」
 「万ヨロズ＋→万屋ヨロズヤ」
 「理屈リ㊦ツ＋→理屈屋リ㊦ツヤ」
 「利権リケン＋→利権屋リケンヤ」
 「両替リョーガエ＋→両替屋リョーガエヤ (第2リョーガエ\ヤ)」
 「東アズマ＋→東屋アズマ\ヤ (第2アズマヤ)」
 「料理リョーリ＋→料理屋リョーリ\ヤ」
 「生薬キグスリ＋→生薬屋キグスリ\ヤ」
 「小料理コリョーリ＋→小料理屋コリョーリ\ヤ」
 「指し物サシモノ＋→指し物屋サシモノ\ヤ」
 「香カ\ (第2カ)」 2語：「移りウツリ＋→移り香ウツリ\ガ (第2ウツリガ)」
 「残りノコリ＋→残り香ノコリ\ガ」
 「夜ヨ\」 1語：「朧オボロ＋→朧夜オボロ\ヨ」
 「酢ス\」 3語：「穀物コクモ㊦＋→穀物酢コクモ㊦\ス」
 「三杯サンバイ＋→三杯酢サンバ\イズ」
 「橙ダイダイ＋→橙酢ダイダ\イズ」

3 拍以上語+2 拍和語

後部要素語彙別

後部要素が平板型の場合は、79 項目 363 語がある。

「百合ユリ」1 語：「鉄砲テッポー+→鉄砲百合テッポ\ユリ」

「鼻ハナ」4 語：「団子ダンゴ+→団子鼻ダンゴ\バナ」

「獅子っシシッ+→獅子っ鼻シシ\ッパナ (第2 シシッパナ)」

「あぐらっアグラッ+→あぐらっ鼻アグラ\ッパナ」

「団子っダンゴッ+→団子っ鼻ダンゴ\ッパナ」

「筆フデ」1 語：「面相メンソー+→面相筆メンソ\ーフデ」

「壁カベ」1 語：「海鼠ナマコ+→海鼠壁ナマコ\カベ」

「餅モチ」14 語：「重ねカサネ+→重ね餅カサネ\モチ」

「辛味カラミ+→辛味餅カラミ\モチ」

「供えソナエ+→供え餅ソナエ\モチ」

「霰アラレ+→霰餅アラレ\モチ」

「鏡カガミ+→鏡餅カガミ\モチ」

「柏カシワ+→柏餅カシワ\モチ」

「桜サクラ+→桜餅サクラ\モチ」

「力㊦カラ+→力餅㊦カラ\モチ」

「海鼠ナマコ+→海鼠餅ナマコ\モチ」

「蓬ヨモギ+→蓬餅ヨモギ\モチ」

「山葵ワサビ+→山葵餅ワサビ\モチ」

「蕨ワラビ+→蕨餅ワラビ\モチ」

「大福ダイ㊧ク+→大福餅ダイ㊧ク\モチ」

「鶯ウグイス+→鶯餅ウグイス\モチ」

「側ガワ」8 語：「後ろウシロ+→後ろ側ウシロガワ」

「表オモテ+→表側オモテガワ」

「防御ボーギョ+→防御側ボーギョガワ」

「東ヒガシ+→東側ヒガシガワ」

「左ヒダリ+→左側ヒダリガワ」

「向かいムカイ+→向かい側ムカイガワ」

「南ミナミ+→南側ミナミガワ」

「向こうムコー+→向こう側ムコーガワ」

「蟬セミ」2 語：「油アブラ+→油蟬アブラ\ゼミ」

「法師ホーシ+→法師蟬ホーシ\ゼミ」

「虫ムシ」16 語：「草履ゾーリ+→草履虫ゾーリ\ムシ」

「油アブラ+→油虫アブラ\ムシ」

「根切りネキリ+→根切り虫ネキリ\ムシ」

「轡㊨ツワ+→轡虫㊨ツワ\ムシ」

「黄金コガネ+→黄金虫コガネ\ムシ」

「真田サナダ+→真田虫サナダ\ムシ」

「鋏ハサミ+→鋏虫ハサミ\ムシ」

「裸ハダカ+→裸虫ハダカ\ムシ」

「草鞋ワラジ+→草鞋虫ワラジ\ムシ (第2 ワラ\ジムシ)」

- 「馬追ウマオイ＋→馬追虫ウマオ\イムシ」
「鉄砲テッポー＋→鉄砲虫テッポ\ームシ」
「南京ナンキン＋→南京虫ナンキ\ンムシ」
「点取りテントリ＋→点取り虫テントリ\ムシ」
「貝殻カイガラ＋→貝殻虫カイガラ\ムシ」
「機織りハタオリ＋→機織り虫ハタオリ\ムシ」
「針金ハリガネ＋→針金虫ハリガネ\ムシ」
- 「床トコ」3語：「髪結いカミュイ＋→髪結い床カミュイドコ（第2カミュ\イドコ）
（第3カミュイ\ドコ）」
「浮世ウキヨ＋→浮世床ウキヨ\ドコ（第2ウキヨドコ）」
「袋㊦クロ＋→袋床㊦クロ\ドコ（第2㊦クロドコ）」
- 「道ミチ」14語：「使い㊦カイ＋→使い道㊦カイミチ」
「帰りカエリ＋→帰り道カエリ\ミチ」
「田ん圃タンボ＋→田ん圃道タンボ\ミチ」
「田舎イナカ＋→田舎道イナカ\ミチ」
「電車デンシャ＋→電车道デンシャ\ミチ」
「通りトーリ＋→通り道トーリ\ミチ」
「獣ケモノ＋→獣道ケモノ\ミチ」
「曲がりマガリ＋→曲がり道マガリ\ミチ（第2マガリミチ）」
「並木ナミキ＋→並木道ナミキ\ミチ」
「回りマワリ＋→回り道マワリ\ミチ（第2マワリミチ）」
「畑ハタケ＋→畑道ハタケ\ミチ」
「戻りモドリ＋→戻り道モドリ\ミチ」
「一本イッポン＋→一本道イッポ\ンミチ」
「一筋㊦トスジ＋→一筋道㊦トスジ\ミチ」
- 「笛フエ」1語：「鶯ウグイス＋→鶯笛ウグイス\ブエ（第2ウグイスブ\エ）」
- 「底ソコ」1語：「二重ニジュー＋→二重底ニジュ\ーズコ（第2ニジューゾコ）」
- 「釘クギ」1語：「隠しカ㊦シ＋→隠し釘カ㊦シ\クギ」
- 「端ハタ」2語：「炉イロリ＋→炉端イロリバタ」
「往来オーライ＋→往来端オーライバタ」
- 「仮名カナ」2語：「送りオクリ＋→送り仮名オクリガナ」
「万葉マンヨー＋→万葉仮名マンヨ\ーガナ（第2マンヨーガナ）」
- 「風カゼ」10語：「空っカラッ＋→空っ風カラッカゼ（第2カラ\ッカゼ）」
「東ヒガ㊦＋→東風ヒガ㊦カゼ（第2ヒガ㊦\カゼ）」
「南ミナミ＋→南風ミナミカゼ（第2ミナミ\カゼ）」
「隙間㊦キマ＋→隙間風㊦キマ\カゼ」
「山背ヤマセ＋→山背風ヤマセ\カゼ」
「流行りハヤリ＋→流行り風ハヤリ\カゼ」
「向かいムカイ＋→向かい風ムカイ\カゼ（第2ムカイカゼ）」
「臆病オクビョー＋→臆病風オクビョ\ーカゼ」
「大尽ダイジン＋→大尽風ダイジ\ンカゼ」
「役人ヤクニン＋→役人風ヤクニ\ンカゼ」
- 「風邪カゼ」1語：「阿多福オタ㊦ク＋→阿多福風邪オタ㊦ク\カゼ」
- 「蜂ハチ」3語：「女王ジョオー＋→女王蜂ジョオ\ーバチ」

- 「雀スズメ＋→雀蜂スズメ\バチ」
「働きハタラキ＋→働き蜂ハタラキ\バチ」
- 「幅ハバ」5語：「木綿モメン＋→木綿幅モメ\ンハバ」
「後ろウシロ＋→後ろ幅ウシロ\ハバ」
「ダブルダブル＋→ダブル幅ダブル\ハバ」
「延長エンチャー＋→延長幅エンチャ\ーハバ」
「引き上げ㊦キアゲ＋→引き上げ幅㊦キアゲ\ハバ」
- 「釜カマ」3語：「加熱カネツ＋→加熱釜カネツ\ガマ（第2カネツガマ）」
「電気デンキ＋→電気釜デンキ\ガマ」
「圧力アツリョク＋→圧力釜アツリョク\ガマ」
- 「蓋フタ」3語：「二重ニジュー＋→二重蓋ニジュ\ーブタ（第2ニジューブタ）」
「落としオトシ＋→落とし蓋オトシ\ブタ」
「硯スズリ＋→硯蓋スズリ\ブタ」
- 「櫃㊦ツ」1語：「鎧ヨロイ＋→鎧櫃ヨロイ\ビツ」
- 「海老エビ」1語：「桜サクラ＋→桜海老サクラ\エビ」
- 「壺ツボ」3語：「油アブラ＋→油壺アブラ\ツボ」
「インクイン㊦＋→インク壺イン㊦\ツボ」
「火消し㊦ケ㊦＋→火消し壺㊦ケ㊦\ツボ（第2㊦ケ\㊦ツボ）」
- 「灰ハイ」3語：「火山カザン＋→火山灰カザ\ンバイ」
「懐炉カイロ＋→懐炉灰カイロ\バイ」
「ソーダソーダ＋→ソーダ灰ソーダ\バイ」
- 「鶏トリ」3語：「尾長オナガ＋→尾長鶏オナガ\ドリ」
「風見カザミ＋→風見鶏カザミ\ドリ」
「一番イチバン＋→一番鶏イチバ\ンドリ」
- 「鮫サメ」6語：「小判コバン＋→小判鮫コバ\ンザメ」
「撞木シュモク＋→撞木鮫シュモク\ザメ」
「深海シンカイ＋→深海鮫シンカ\イザメ」
「甚平ジンペー＋→甚平鮫ジンベ\ーザメ」
「鋸ノコギリ＋→鋸鮫ノコギリ\ザメ」
「頬白ホージロ＋→頬白鮫ホージロ\ザメ」
- 「金カネ」8語：「端ハ㊦タ＋→端金ハ㊦タガネ（第2ハ㊦タ\ガネ）」
「尾錠ビジョー＋→尾錠金ビジョ\ーガネ」
「下ろしオロシ＋→下ろし金オロシ\ガネ（第2オロシガネ）」
「烏カラス＋→烏金カラス\ガネ」
「腐れ㊦サレ＋→腐れ金㊦サレ\ガネ」
「包み㊦ツミ＋→包み金㊦ツミ\ガネ」
「弾きハジキ＋→弾き金ハジキ\ガネ」
「臍繰りヘソクリ＋→臍繰り金ヘソクリ\ガネ」
- 「酒サケ」11語：「祝いイワイ＋→祝い酒イワ\イザケ（第2イワイ\ザケ）」
「茶碗チャワン＋→茶碗酒チャワ\ンザケ」
「卵タマゴ＋→卵酒タマゴ\ザケ」
「コップコップ＋→コップ酒コップ\ザケ」
「梯子ハシゴ＋→梯子酒ハシゴ\ザケ」
「蝮マムシ＋→蝮酒マムシ\ザケ」

「濁りニゴリ＋→濁り酒ニゴリ\ザケ」
 「花見ハナミ＋→花見酒ハナミ\ザケ」
 「祭りマツリ＋→祭り酒マツリ\ザケ (第2 マツリザケ)」
 「迎えムカエ＋→迎え酒ムカエ\ザケ (第2 ムカ\エザケ) (第3 ムカエザケ)」
 「雪見ユキミ＋→雪見酒ユキミ\ザケ」
 「鷲ワシ」1語：「冠カンムリ＋→冠鷲カンムリ\ワシ」
 「口㊦チ」29語：「表オモテ＋→表口オモテグチ (第2 オモテ\グチ)」
 「一人㊦トリ＋→一人口㊦トリグチ (第2㊦トリ\グチ)」
 「勤め㊦トメ＋→勤め口㊦トメグチ (第2㊦トメ\グチ)」
 「働きハタラキ＋→働き口ハタラキグチ (第2 ハタラキ\グチ)」
 「登山トザン＋→登山口トザ\ングチ」
 「非常ヒジョー＋→非常口ヒジョ\ーグチ」
 「勝手カッテ＋→勝手口カッテ\グチ (第2 カッテグチ)」
 「烏カラス＋→烏口カラス\グチ」
 「通いかヨイ＋→通いかヨイ\グチ」
 「降車コーシャ＋→降車口コーシャ\グチ」
 「差し出サシデ＋→差し出口サシデグチ」
 「二人㊦タリ＋→二人口㊦タリ\グチ」
 「乗車ジョーシャ＋→乗車口ジョーシャ\グチ」
 「港ミナト＋→港口ミナト\グチ」
 「出入りデイリ＋→出入り口デイリ\グチ (第2 デイリグチ)」
 「電話デンワ＋→電話口デンワ\グチ (第2 デンワグチ)」
 「儲けモーケ＋→儲け口モーケ\グチ (第2 モーケグチ)」
 「玄関ゲンカン＋→玄関口ゲンカ\ングチ」
 「昇降ショーコー＋→昇降口ショーコ\ーグチ」
 「冗談ジョーダン＋→冗談口ジョーダ\ングチ」
 「奉公ホーコー＋→奉公口ホーコ\ーグチ (第2 ホーコーグチ)」
 「改札カイサツ＋→改札口カイサツ\グチ」
 「汲み取りクミトリ＋→汲み取り口クミトリ\グチ (第2 クミトリグチ)」
 「仲人ナコード＋→仲人口ナコード\グチ」
 「就職シューショク＋→就職口シューショク\グチ (第2 シューショクグチ)」
 「出札シュッサツ＋→出札口シュッサツ\グチ」
 「取り入れトリエレ＋→取り入れ口トリエレ\グチ」
 「語りカタリ＋→語り口カタリ㊦チ (第2 カタリ\㊦チ)」
 「話しハナシ＋→話し口ハナシ㊦チ」
 「籠カゴ」2語：「買い物カイモノ＋→買い物籠カイモノ\カゴ」
 「紙屑カミクズ＋→紙屑籠カミクズ\カゴ」
 「鹿㊦カ (第2㊦カ\)」2語：「麝香ジャコー＋→麝香鹿ジャコ\ージカ」
 「日本ニホン＋→日本鹿ニホ\ンジカ」
 「鰻コテ」1語：「半田ハンダ＋→半田鰻ハンダ\ゴテ (第2 ハンダゴ\テ)」
 「梅ウメ」1語：「零れコボレ＋→零れ梅コボレ\ウメ」
 「梅雨ツユ」3語：「菜種ナタネ＋→菜種梅雨ナタネ\ズユ」

- 「走りハシリ＋→走り梅雨ハシリ\ズユ」
「戻りモドリ＋→戻り梅雨モドリ\ズユ」
- 「内ウチ」1語：「仲間ナカマ＋→仲間内ナカマウチ」
- 「鳥トリ」6語：「阿房アホー＋→阿房鳥アホ\ードリ」
「埜ネグラ＋→埜鳥ネグラ\ドリ」
「都ミヤコ＋→都鳥ミヤコ\ドリ」
「渡りワタリ＋→渡り鳥ワタリ\ドリ」
「ほろほろホロホロ＋→ほろほう鳥ホロホロ\ドリ」
「長鳴きナガナキ＋→長鳴き鳥ナガナキ\ドリ」
- 「牛ウシ」1語：「国産コ㊦サン＋→国産牛コ㊦サ\ンウシ」
- 「紐ヒモ」3語：「おんぶオンブ＋→おんぶ紐オンブ\ヒモ」
「真田サナダ＋→真田紐サナダ\ヒモ」
「抱っこダッコ＋→抱っこ紐ダッコ\ヒモ」
- 「棚タナ」10語：「葡萄ブドー＋→葡萄棚ブドーダナ」
「精霊ショーリョー＋→精霊棚ショーリョーダナ（第2ショーリョ\ーダナ）」
「夕顔ユーガオ＋→夕顔棚ユーガオダナ（第2ユーガオ\ダナ）」
「違いチガイ＋→違い棚チガ\イダナ（第2チガイダナ）」
「縁起エンギ＋→縁起棚エンギ\ダナ（第2エンギダナ）」
「飾りカザリ＋→飾り棚カザリ\ダナ（第2カザリダナ）」
「袋㊦クロ＋→袋棚㊦クロ\ダナ」
「食器ショッキ＋→食器棚ショッキ\ダナ」
「大陸タイリク＋→大陸棚タイリク\ダナ（第2タイリクダナ）」
「陳列チンレツ＋→陳列棚チンレツ\ダナ（第2チンレツダナ）」
- 「槍ヤリ」1語：「一本イッポン＋→一本槍イッポ\ンヤリ」
- 「髻マゲ」3語：「銀杏イチョー＋→銀杏髻イチョーマゲ（第2イチョ\ーマゲ）」
「唐子カラコ＋→唐子髻カラコ\マゲ（第2カラコマゲ）」
「島田シマダ＋→島田髻シマダ\マゲ」
- 「人㊦ト（第2㊦ト\）」4語：「天下テンカ＋→天下人テンカ\ビト」
「雲上ウンジョー＋→雲上人ウンジョ\ービト」
「大宮オーミヤ＋→大宮人オーミヤ\ビト」
「捕らわれトラワレ＋→捕らわれ人トラワレ\ビト（第2トラワレビト）」
- 「砂スナ」2語：「磨きミガキ＋→磨き砂ミガキズナ」
「桐生キリユ－＋→桐生砂キリユ\ーズナ」
- 「杉スギ」4語：「秋田ア㊦タ＋→秋田杉ア㊦タ\スギ」
「吉野ヨシノ＋→吉野杉ヨシノ\スギ」
「一本イッポン＋→一本杉イッポ\ンスギ」
「神代ジンダイ＋→神代杉ジンダ\イスギ」
- 「傷キズ」2語：「向こうムコー＋→向こう傷ムコ\ーキズ」
「刀カタナ＋→刀傷カタナ\キズ」
- 「柿カキ」2語：「大和ヤマト＋→大和柿ヤマト\ガキ」
「吊るしツルシ＋→吊るし柿ツルシ\ガキ」
- 「首クビ」3語：「白髪シラガ＋→白髪首シラガ\クビ」
「晒しサラ㊦＋→晒し首サラ㊦\クビ」
「轆轤ロクロ＋→轆轤首ロクロ\クビ」

- 「水ミズ」13語：「漱いウガイ＋→漱い水ウガ\イミズ」
「砂糖サトー＋→砂糖水サト\ーミズ」
「貰いモライ＋→貰い水モラ\イミズ（第2モライミズ）（第3モライ\ミズ）」
「誘いサソイ＋→誘い水サソイ\ミズ」
「溜りタマリ＋→溜り水タマリ\ミズ」
「濁りニゴリ＋→濁り水ニゴリ\ミズ」
「氷コーリ＋→氷水コーリ\ミズ」
「力㊦カラ＋→力水㊦カラ\ミズ」
「迎えムカエ＋→迎え水ムカエ\ミズ（第2ムカ\エミズ）（第3ムカエミズ）」
「日向ヒナタ＋→日向水ヒナタ\ミズ」
「鉄砲テッポー＋→鉄砲水テッポ\ーミズ」
「苗代ナワシロ＋→苗代水ナワシロ\ミズ」
「雪解けユキドケ＋→雪解け水ユキドケ\ミズ」
- 「藤フジ」3語：「上がりアガリ＋→上がり藤アガリ\フジ」
「葛ツズラ＋→葛藤ツズラ\フジ」
「下がりサガリ＋→下がり藤サガリ\フジ」
- 「渾パナ」2語：「青っアオッ＋→青っ渾アオッパナ」
「水っミズッ＋→水っ渾ミズッパナ」
- 「桐キリ」1語：「油アブラ＋→油桐アブラ\ギリ」
- 「丸マル」1語：「2重ニジュー＋→2重丸ニジュ\ーマル」
- 「味アジ」1語：「隠しカ㊦シ＋→隠し味カ㊦シ\アジ」
- 「蚊帳カヤ」1語：「枕マクラ＋→枕蚊帳マクラ\ガヤ」
- 「烏賊イカ」3語：「鯛スルメ＋→鯛烏賊スルメ\イカ」
「蛸ホタル＋→蛸烏賊ホタル\イカ」
「大王ダイオー＋→大王烏賊ダイオ\ーイカ」
- 「蝦エビ」1語：「車クルマ＋→車蝦クルマ\エビ」
- 「先サキ」17語：「移転イテン＋→移転先イテンサキ」
「送りオクリ＋→送り先オクリサキ」
「使い㊦カイ＋→使い先㊦カイサキ」
「勤め㊦トメ＋→勤め先㊦トメサキ」
「転居テンキョ＋→転居先テンキョサキ」
「得意トクイ＋→得意先トクイサキ」
「届けトドケ＋→届け先トドケサキ」
「旅行リョコー＋→旅行先リョコーサキ」
「一寸イッスン＋→一寸先イッスンサキ（第2イッスンサキ）」
「落ち着きオ㊦㊦キ＋→落ち着き先オ㊦㊦キサキ」
「玄関ゲンカン＋→玄関先ゲンカンサキ」
「就職シューショ㊦＋→就職先シューショ㊦サキ」
「立ち退きタチノキ＋→立ち退き先タチノキサキ」
「注文チューモン＋→注文先チューモンサキ」
「取引トリ㊦キ＋→取引先トリ㊦キサキ」
「奉公ホーコー＋→奉公先ホーコーサキ」

- 「訪問ホーモン＋→訪問先ホーモンサキ」
- 「箱ハコ」 22 語：「当たりアタリ＋→当たり箱アタリバコ（第2アタリ\バコ）」
- 「衣裳イショー＋→衣裳箱イショ\バコ」
- 「化粧ケショー＋→化粧箱ケショ\バコ」
- 「貯金チョコキン＋→貯金箱チョコキ\ンバコ」
- 「蜜柑ミカン＋→蜜柑箱ミカ\ンバコ」
- 「玩具オモチャ＋→玩具箱オモチャ\バコ」
- 「鏡カガミ＋→鏡箱カガミ\バコ」
- 「薬㊦スリ＋→薬箱㊦スリ\バコ」
- 「通いかヨイ＋→通い箱かヨイ\バコ（第2カヨ\イバコ）」
- 「硯りスズリ＋→硯り箱スズリ\バコ」
- 「道具ドーグ＋→道具箱ドーグ\バコ」
- 「流しナガシ＋→流し箱ナガシ\バコ」
- 「乱れミダレ＋→乱れ箱ミダレ\バコ」
- 「御払いオハライ＋→御払い箱オハラ\イバコ（第2オハライバコ）」
- 「救急キューキュー＋→救急箱キューキュー\バコ」
- 「賽銭サイセン＋→賽銭箱サイセ\ンバコ」
- 「千両センリョー＋→千両箱センリョ\バコ」
- 「投票トーヒョー＋→投票箱トーヒョ\バコ」
- 「弁当ベントー＋→弁当箱ベント\バコ」
- 「郵便ユービン＋→郵便箱ユービ\ンバコ」
- 「びっくりビックリ＋→びっくり箱ビックリ\バコ」
- 「段ボールダンボール＋→段ボール箱ダンボール\バコ」
- 「蟹カニ」 6 語：「兜カブト＋→兜蟹カブト\ガニ」
- 「松葉マツバ＋→松葉蟹マツバ\ガニ」
- 「平家へーけ＋→平家蟹へーけ\ガニ」
- 「越前エチゼン＋→越前蟹エチゼ\ンガニ」
- 「上海シャンハイ＋→上海蟹シャンハ\イガニ」
- 「花咲ハナサキ＋→花咲蟹ハナサキ\ガニ」
- 「星ホシ」 3 語：「一つ㊤トツ＋→一つ星㊤トツ\ボシ」
- 「流れナガレ＋→流れ星ナガレ\ボシ」
- 「一番イチバン＋→一番星イチバ\ンボシ」
- 「袖ソデ」 2 語：「七分㊦チブ＋→七分袖㊦チブ\ソデ」
- 「元禄ゲンロ㊦＋→元禄袖ゲンロ㊦\ソデ（第2ゲンロ\㊦ソデ）」
- 「鬚ヒゲ」 1 語：「鯨クジラ＋→鯨鬚クジラ\ヒゲ」
- 「顔カオ」 15 語：「恵比寿エビス＋→恵比寿顔エビスガオ（第2エビス\ガオ）」
- 「手柄テガラ＋→手柄顔テガラガオ（第2テガラ\ガオ）」
- 「思案シアン＋→思案顔シアンガオ」
- 「子細㊧サイ＋→子細顔㊧サイガオ」
- 「写真シャシン＋→写真顔シャシンガオ」
- 「尖りトガリ＋→尖り顔トガリガオ（第2トガリ\ガオ）」
- 「得意トクイ＋→得意顔トクイガオ」
- 「舞台ブタイ＋→舞台顔ブタイガオ」
- 「笑いワライ＋→笑い顔ワライガオ」

- 「心得ココロエ+→心得顔ココロエガオ」
「ここにこニコニコ+→ここにこ顔ニコニコガオ」
「心配シンパイ+→心配顔シンパイガオ」
「慰めナグサメ+→慰め顔ナグサメガオ (第2 ナグサメガ\オ)」
「分別フンベツ+→分別顔フンベツガオ」
「物知りモノシリ+→物知り顔モノシリガオ」
- 「腰コシ」5語：「喧嘩ケンカ+→喧嘩腰ケンカゴシ」
「柳ヤナギ+→柳腰ヤナギゴシ」
「粘りネバリ+→粘り腰ネバリゴシ」
「払いバライ+→払い腰バラ\イゴシ」
「ぎっくりギックリ+→ぎっくり腰ギックリ\ゴシ」
- 「窯カマ」1語：「炭焼きスミヤキ+→炭焼き窯スミヤキ\ガマ」
- 「飴アメ」5語：「晒しサラシ+→晒し飴サラシ\アメ」
「千歳㊦トセ+→千歳飴㊦トセ\アメ」
「梅干しウメボシ+→梅干し飴ウメボシ\アメ」
「太白タイハク+→太白飴タイハク\アメ」
「打っ切りブッキリ+→打っ切り飴ブッキリ\アメ」
- 「蟻アリ」2語：「収穫シューカク+→収穫蟻シューカク\アリ」
「働きハタラキ+→働き蟻ハタラキ\アリ」
- 「魚ウオ」3語：「出世シュッセ+→出世魚シュッセ\ウオ」
「山椒サンショ+→山椒魚サンショ\ウオ」
「蛞蝓ナメクジ+→蛞蝓魚ナメクジ\ウオ」
- 「元モト (第2モ\ト)」6語：「太夫タユー+→太夫元タユーモト」
「勝手カッテ+→勝手元カッテモト」
「勸進カンジン+→勸進元カンジンモト」
「製造セーゾー+→製造元セーゾーモト」
「発売ハツバイ+→発売元ハツバイモト」
「枕マクラ+→枕元マクラ\モト」
- 「札フダ」5語：「下足ゲソ㊦+→下足札ゲソ㊦フダ」
「貸家カシヤ+→貸家札カシヤ\フダ」
「迷子マイゴ+→迷子札マイゴ\フダ」
「守りマモリ+→守り札マモリ\フダ」
「番号バンゴ+→番号札バンゴ\フダ」
- 「鉦カネ」1語：「叩きタタキ+→叩き鉦タタキ\ガネ」
- 「芝シバ」2語：「羽口ハグ㊦+→羽口芝ハグ㊦\シバ (第2ハグ㊦シ\バ)」
「人工ジンコー+→人工芝ジンコ\シバ」
- 「粥カユ」3語：「小豆アズキ+→小豆粥アズキガ\ユ (第2アズキ\ガユ) (第3アズキガユ)」
「中華チューカ+→中華粥チューカガ\ユ」
「七草ナナ㊦サ+→七草粥ナナ㊦サ\ガユ」
- 「皺シワ」3語：「曇みタタミ+→曇み皺タタミジワ」
「笑いワライ+→笑い皺ワライジワ」
「縮緬チリメン+→縮緬皺チリメンジワ」
- 「株カブ」19語：「投資ト一㊦+→投資株ト一㊦カブ」

「資産シサン+→資産株シサ\ンカブ」
 「浮動フドー+→浮動株フド\ーカブ」
 「無償ムショー+→無償株ムショ\ーカブ」
 「頭アタマ+→頭株アタマ\カブ」
 「値嵩ネガサ+→値嵩株ネガサ\カブ」
 「権利ケンリ+→権利株ケンリ\カブ」
 「主力シュリョ㊦+→主力株シュリョ㊦\カブ (第2 シュリョ\㊦カブ)」
 「商社ショーシャ+→商社株ショーシャ\カブ」
 「投機ト一㊧+→投機株ト一㊧\カブ」
 「銀行ギンコー+→銀行株ギンコ\ーカブ」
 「採算サイサン+→採算株サイサ\ンカブ」
 「上場ジョージョー+→上場株ジョージョ\ーカブ」
 「成長セーチョー+→成長株セーチョ\ーカブ」
 「店頭テントー+→店頭株テント\ーカブ」
 「幽霊ユウレー+→幽霊株ユウレ\ーカブ」
 「品薄シナウ㊨+→品薄株シナウ㊨\カブ」
 「注目チューモ㊩+→注目株チューモ㊩\カブ」
 「年寄トシヨリ+→年寄株トシヨリ\カブ」
 「竹タケ」1語：「衣紋エモン+→衣紋竹エモ\ンダケ」
 「髭ヒゲ」2語：「泥鰯ドジョー+→泥鰯髭ドジョ\ーヒゲ」
 「輪ナマズ+→輪髭ナマズ\ヒゲ」

後部要素が頭高型の場合は、82項目 290語がある。

「白シ\ロ」1語：「三盆サンボン+→三盆白サンボンジロ (第2 サンボ\ンジロ)」
 「板イ\タ」13語：「下見㊪タミ+→下見板㊪タミイタ (第2㊪タミイ\タ)」
 「ベニヤベニヤ+→ベニヤ板ベニヤ\イタ (第2 ベニヤイ\タ)」
 「天井テンジョー+→天井板テンジョ\ーイタ (第2 テンジョーイ\タ)」
 「歩ミアユミ+→歩み板アユミイ\タ (第2 アユミ\イタ)」
 「仕切り㊫キリ+→仕切り板㊫キリイ\タ (第2㊫キリ\イタ)」
 「トタントタン+→トタン板トタンイ\タ」
 「流しナガシ+→流し板ナガシイ\タ (第2 ナガシ\イタ)」
 「鏡カガミ+→鏡板カガミイ\タ (第2 カガミ\イタ)」
 「海鼠ナマコ+→海鼠板ナマコイ\タ (第2 ナマコ\イタ)」
 「鎧ヨロイ+→鎧板ヨロイイ\タ」
 「渡りワタリ+→渡り板ワタリイ\タ」
 「裁ち物タチモノ+→裁ち物板タチモノ\イタ (第2 タチモノイ\タ)」
 「洗濯センタク+→洗濯板センタクイ\タ」
 「貝カ\イ」9語：「鸚鵡オーム+→鸚鵡貝オーム\ガイ」
 「烏カラス+→烏貝カラス\ガイ」
 「桜サクラ+→桜貝サクラ\ガイ」
 「蜆シジミ+→蜆貝シジミ\ガイ」
 「平タイラ+→平貝タイラ\ガイ」
 「蛸ホタル+→蛸貝ホタル\ガイ」

- 「真珠シンジュ＋→真珠貝シンジュ\ガイ」
「帆立てホタテ＋→帆立て貝ホタテ\ガイ」
「紫ムラサキ＋→紫貝ムラサキ\ガイ」
- 「鵜モ\チ」1語：「要カナメ＋→要鵜カナメ\モチ」
- 「雛ヒ\ナ」5語：「変わりカワリ＋→変わり雛カワリビ\ナ」
「夫婦ミョート＋→夫婦雛ミョートビ\ナ（第2ミョート\ビナ）」
「夫婦メオト＋→夫婦雛メオトビ\ナ（第2メオト\ビナ）」
「内裏ダイリ＋→内裏雛ダイリビ\ナ」
「流しナガシ＋→流し雛ナガシビ\ナ」
- 「船フ\ネ」10語：「篝カガリ＋→篝船カガリブ\ネ」
「鯉カツオ＋→鯉船カツオブ\ネ」
「宝タカラ＋→宝船タカラブ\ネ（第2タカラ\ブネ）」
「舩ハシケ＋→舩船ハシケブ\ネ」
「助けタ⊗ケ＋→助け船タ⊗ケブ\ネ（第2タ⊗ケ\ブネ）」
「繋ぎツナギ＋→繋ぎ船ツナギブ\ネ」
「泊まりトマリ＋→泊まり船トマリブ\ネ」
「舩いモヤイ＋→舩い船モヤイブ\ネ」
「遊山ユサン＋→遊山船ユサンブ\ネ」
「乗合ノリアイ＋→乗合船ノリアイブ\ネ」
- 「窓マ\ド」10語：「明かりアカリ＋→明かり窓アカリマ\ド」
「飾りカザリ＋→飾り窓カザリマ\ド（第2カザリ\マド）」
「ガラスガラス＋→ガラス窓ガラスマ\ド」
「格子コーシ＋→格子窓コーシマ\ド」
「覗きノゾキ＋→覗き窓ノゾキマ\ド（第2ノゾキ\マド）」
「無双ムソー＋→無双窓ムソーマ\ド」
「回転カイテン＋→回転窓カイテンマ\ド（第2カイテ\ンマド）」
「掃き出しハキダシ＋→掃き出し窓ハキダシマ\ド」
「張り出しハリダシ＋→張り出し窓ハリダシマ\ド」
「肘掛けヒジカケ＋→肘掛け窓ヒジカケマ\ド」
- 「葱ネ\ギ」1語：「白髪シラガ＋→白髪葱シラガネ\ギ」
- 「帯オ\ビ」14語：「扱きシゴキ＋→扱き帯シゴキオ\ビ」
「昼夜チューヤ＋→昼夜帯チューヤオ\ビ」
「男オトコ＋→男帯オトコオ\ビ」
「名古屋ナゴヤ＋→名古屋帯ナゴヤオ\ビ」
「女オンナ＋→女帯オンナオ\ビ」
「鬘カツラ＋→鬘帯カツラオ\ビ」
「鬘カツラ＋→鬘帯カツラオ\ビ」
「博多ハカタ＋→博多帯ハカタオ\ビ」
「鯨クジラ＋→鯨帯クジラオ\ビ」
「単衣㊦トエ＋→単衣帯㊦トエオ\ビ」
「袋㊧クロ＋→袋帯㊧クロオ\ビ」
「浴衣ユカタ＋→浴衣帯ユカタオ\ビ」
「半幅ハンハバ＋→半幅帯ハンハバオ\ビ」
「腹合わせハラアワセ＋→腹合わせ帯ハラアワセオ\ビ」

- 「鯛タ\イ」2語：「雀スズメ+→雀鯛スズメ\ダイ」
「笛吹フェ㊦キ+→笛吹鯛フェ㊦キ\ダイ」
- 「端ハ\ナ」2語：「上がりアガリ+→上がり端アガリバナ」
「帰りカエリ+→帰り端カエリバナ」
- 「盾タ\テ」1語：「後ろウシロ+→後ろ盾ウシロダテ」
- 「瓜ウ\リ」1語：「烏カラス+→烏瓜カラス\ウリ」
- 「鍋ナ\ベ」8語：「社会シャカイ+→社会鍋シャカイナ\ベ」
「中華チューカ+→中華鍋チューカナ\ベ (第2チューカ\ナベ)」
「フライフライ+→フライ鍋フライナ\ベ」
「泥鰯ドジョー+→泥鰯鍋ドジョーナ\ベ」
「圧力アツリョク+→圧力鍋アツリョク\ナベ (第2アツリョクナ\ベ)」
「石狩イ㊦カリ+→石狩鍋イ㊦カリナ\ベ (第2イ㊦カリ\ナベ)」
「柳川ヤナガワ+→柳川鍋ヤナガワナ\ベ」
「行平ユ㊦ヒラ+→行平鍋ユ㊦ヒラナ\ベ」
- 「海胆ウ\ニ」1語：「馬糞バフン+→馬糞海胆バフ\ンウニ」
- 「汗ア\セ」1語：「脂アブラ+→脂汗アブラア\セ (第2アブラ\アセ)」
- 「鶴ツ\ル」1語：「丹頂タンチョー+→丹頂鶴タンチョーズ\ル」
- 「肌ハ\ダ」6語：「勇みイサミ+→勇み肌イサミ\ハダ」
「学者ガ㊦シャ+→学者肌ガ㊦シャ\ハダ」
「親分オヤブン+→親分肌オヤブ\ンハダ」
「乾燥カンソー+→乾燥肌カンソ\ーハダ」
「敏感ビンカン+→敏感肌ビンカ\ンハダ」
「名人メージン+→名人肌メージ\ンハダ」
- 「跡ア\ト」1語：「屋敷ヤ㊦キ+→屋敷跡ヤ㊦キア\ト」
- 「肩カ\タ」3語：「五十ゴジュー+→五十肩ゴジュ\ーカタ」
「四十シジュー+→四十肩シジュ\ーカタ」
「怒りイカリ+→怒り肩イカリ\ガタ (第2イカリガタ)」
- 「角カ\ド」1語：「曲がりマガリ+→曲がり角マガリカド (第2マガリカ\ド)」
- 「筋ス\ジ」11語：「御堂ミド+→御堂筋ミド\ースジ」
「大手オーテ+→大手筋オーテ\スジ」
「最頂ヒー㊦+→最頂筋ヒー㊦\スジ (第2ヒー㊦ス\ジ)」
「権威ケンイ+→権威筋ケンイ\スジ (第2ケンイス\ジ)」
「政府セー㊦+→政府筋セー㊦\スジ (第2セー㊦ス\ジ)」
「外交ガイコー+→外交筋ガイコ\ースジ」
「関係カンケー+→関係筋カンケ\ースジ」
「官辺カンペン+→官辺筋カンペ\ンスジ (第2カンペンス\ジ)」
「道中ドーチュー+→道中筋ドーチュ\ースジ」
「消息ショーソ㊦+→消息筋ショーソ㊦\スジ (第2ショーソ\㊦スジ)」
「素人シロート+→素人筋シロート\スジ」
- 「井戸イ\ド」2語：「車クルマ+→車井戸クルマイ\ド」
「掘り抜きホリヌキ+→掘り抜き井戸ホリヌキイ\ド」
- 「鳩ハ\ト」1語：「軍用グンヨー+→軍用鳩グンヨーバ\ト」

「絹キ\ヌ」1語：「篩いフルイ+→篩い絹フルイギ\ヌ」

「空ソ\ラ」1語：「曇りクモリ+→曇り空クモリゾ\ラ」

「藍ア\イ」1語：「天然テンネン+→天然藍テンネンア\イ」

「鯉コ\イ」1語：「錦ニ㊦キ+→錦鯉ニ㊦キ\ゴイ（第2ニ㊦キゴ\イ）」

「栗鼠リ\ス」2語：「日本ニホン+→日本栗鼠ニホンリ\ス」
「台湾タイワン+→台湾栗鼠タイワンリ\ス」

「笠カ\サ」3語：「網代アジロ+→網代笠アジロガ\サ」
「檜ヒノキ+→檜笠ヒノキガ\サ」
「饅頭マンジュ+→饅頭笠マンジュガ\サ」

「粒ツ\ブ」1語：「御飯ゴハン+→御飯粒ゴハンツ\ブ」

「鎌カ\マ」2語：「鎖㊦サリ+→鎖鎌㊦サリ\ガマ（第2㊦サリガ\マ）（第3㊦サリガマ）」
「草刈り㊦サカリ+→草刈り鎌㊦サカリ\ガマ（第2㊦サカリガ\マ）」

「螺子ネ\ジ」1語：「プラスプラス+→プラス螺子プラスネ\ジ」

「猫ネ\コ」3語：「麝香ジャコー+→麝香猫ジャコーネ\コ（第2ジャコ\ーネコ）」
「袋㊦クロ+→袋猫㊦クロネ\コ」
「泥棒ドロボー+→泥棒猫ドロボーネ\コ」

「眉マ\ユ」1語：「虫蜒ゲジゲジ+→虫蜒眉ゲジゲジマ\ユ」

「糸イ\ト」3語：「紬ツムギ+→紬糸ツムギイ\ト（第2ツムギ\イト）」
「木綿モメン+→木綿糸モメンイ\ト（第2モメ\ンイト）」
「紡績ボーセキ+→紡績糸ボーセキイ\ト」

「苗ナ\エ」1語：「ポットポット+→ポット苗ポットナ\エ（第2ポット\ナエ）」

「鮎ア\ユ」1語：「下りクダリ+→下り鮎クダリア\ユ」

「粕カ\ス」1語：「油アブラ+→油粕アブラカ\ス」

「籤ク\ジ」3語：「宝タカラ+→宝籤タカラ\クジ（第2タカラク\ジ）」
「当たりアタリ+→当たり籤アタリ\クジ（第2アタリク\ジ）」
「貧乏ビンボー+→貧乏籤ビンボ\ークジ（第2ビンボーク\ジ）」

「前マ\エ」9語：「当たりアタリ+→当たり前アタリマエ」
「男オトコ+→男前オトコマエ」
「左ヒダリ+→左前ヒダリマエ（第2ヒダリ\マエ）」
「一人㊦トリ+→一人前㊦トリマエ」
「一人イチニン+→一人前イチニンマエ」
「後ろウシロ+→後ろ前ウシロ\マエ」
「夜明けヨアケ+→夜明け前ヨアケマ\エ」
「朝飯アサメシ+→朝飯前アサメシマ\エ」
「嫁入りヨメイリ+→嫁入り前ヨメイリマ\エ」

「銭ゼ\ニ」2語：「泡アブク+→泡銭アブクゼ\ニ（第2アブク\ゼニ）」
「端ハ㊦タ+→端銭ハ㊦タゼ\ニ」

「蕎麦ソ\バ」13語：「油アブラ+→油蕎麦アブラソ\バ（第2アブラ\ソバ）」
「三十日ミソカ+→三十日蕎麦ミソカソ\バ」
「夜鷹ヨタカ+→夜鷹蕎麦ヨタカソ\バ」
「御膳ゴゼン+→御膳蕎麦ゴゼンソ\バ」
「中華チャーカ+→中華蕎麦チャーカソ\バ」
「月見㊦キミ+→月見蕎麦㊦キミソ\バ」

- 「手打ちテウ㊦→手打ち蕎麦テウ㊦ソ\バ」
「夜鳴きヨナギ→夜鳴き蕎麦ヨナギソ\バ」
「沖繩オキナワ→沖繩蕎麦オキナワソ\バ」
「更科サラシナ→更科蕎麦サラシナソ\バ」
「天ぶらテンプラ→天ぶら蕎麦テンプラソ\バ」
「年越シト㊦コ㊦→年越し蕎麦ト㊦コ㊦ソ\バ」
「引っ越し㊦ッコシ→引っ越し蕎麦㊦ッコシソ\バ」
- 「琴コ\ト」 1 語：「大正タイショー→大正琴タイショーゴ\ト (第 2 タイショ\ーゴト)」
- 「頃コ\ロ」 5 語：「片身カタミ→片身頃カタミ\ゴロ」
「夜中ヨナカ→夜中頃ヨナカゴ\ロ」
「夜半ヤハン→夜半頃ヤハンゴ\ロ」
「夜明けヨアケ→夜明け頃ヨアケゴ\ロ」
「明け方アケガタ→明け方頃アケガタゴ\ロ」
- 「萩ハ\ギ (第 2 ハギ) (第 3 ハギ\)」 1 語：「盗人ヌスビト→盗人萩ヌスビト\ハギ」
- 「球タ\マ」 2 語：「隠シカ㊦シ→隠シ球カ㊦シダマ」
「狙いネライ→狙い球ネライダマ」
- 「傘カ\サ」 3 語：「破れヤブレ→破れ傘ヤブレガ\サ」
「蝙蝠コーモリ→蝙蝠傘コーモリガ\サ」
「ビニールビニール→ビニール傘ビニールガ\サ (第 2 ビニール\ガサ)」
- 「上カ\ミ」 1 語：「枕マクラ→枕上マクラ\ガミ」
- 「蛇ヘ\ビ」 4 語：「烏カラス→烏蛇カラスヘ\ビ」
「錦ニ㊦キ→錦蛇ニ㊦キヘ\ビ (第 2 ニ㊦キ\ヘビ)」
「眼鏡メガネ→眼鏡蛇メガネヘ\ビ」
「がらがらガラガラ→がらがら蛇ガラガラヘ\ビ (第 2 ガラガラ\ヘビ)」
- 「申サ\ル」 1 語：「未㊦ツジ→未申㊦ツジサ\ル」
- 「神カ\ミ」 5 語：「守りマモリ→守り神マモリ\ガミ」
「臆病オクビョ→臆病神オクビョ\ーガミ」
「貧乏ビンボー→貧乏神ビンボ\ーガミ (第 2 ビンボーガ\ミ)」
「疫病ヤクビョ→疫病神ヤクビョ\ーガミ」
「産土ウブスナ→産土神ウブスナ\ガミ」
- 「声コ\エ」 15 語：「唸りウナリ→唸り声ウナリゴ\エ」
「呻きウメキ→呻き声ウメキゴ\エ」
「涙ナミダ→涙声ナミダゴ\エ」
「叫びサケビ→叫び声サケビゴ\エ」
「忍びシノビ→忍び声シノビゴ\エ」
「湿りシメリ→湿り声シメリゴ\エ」
「作り㊦クリ→作り声㊦クリゴ\エ」
「尖りトガリ→尖り声トガリゴ\エ」
「話しハナシ→話し声ハナシゴ\エ」
「含み㊦クミ→含み声㊦クミゴ\エ」
「震えフルエ→震え声フルエゴ\エ (第 2 フルエゴエ)」
「笑いワライ→笑い声ワライゴ\エ」

- 「おろおろオロオロ＋→おろおろ声オロオロゴ\エ」
「きいきいきー＋→きいきいき声きーきーゴ\エ」
「塩辛シオカラ＋→塩辛声シオカラゴ\エ」
- 「市イ\チ」2語：「見本ミホン＋→見本市ミホ\ンイチ」
「青物アオモノ＋→青物市アオモノ\イチ」
- 「黍キ\ビ」1語：「砂糖サトー＋→砂糖黍サト\ーキビ」
- 「数カ\ズ」2語：「頭アタマ＋→頭数アタマカズ（第2アタマ\カズ）（第3アタマカ\ズ）」
「言葉コトバ＋→言葉数コトバカズ（第2コトバカ\ズ）」
- 「四つヨ\ツ」1語：「喧嘩ケンカ＋→喧嘩四つケンカヨツ」
- 「松マ\ツ」5語：「五葉ゴヨー＋→五葉松ゴヨ\ーマツ」
「夫婦ミョート＋→夫婦松ミョート\マツ（第2ミョートマ\ツ）」
「夫婦メオト＋→夫婦松メオト\マツ（第2メオトマ\ツ）」
「一本イツボン＋→一本松イツボ\ンマツ」
「根上がりネアガリ＋→根上がり松ネアガリマ\ツ」
- 「宿ヤ\ド」2語：「温泉オンセン＋→温泉宿オンセ\ンヤド（第2オンセンヤ\ド）」
「旅人リョジン＋→旅人宿リョジンヤ\ド」
- 「桶オ\ケ」3語：「飼い葉カイバ＋→飼い葉桶カイバオ\ケ（第2カイバ\オケ）」
「天水テンスイ＋→天水桶テンスイオ\ケ（第2テンス\イオケ）」
「用水ヨースイ＋→用水桶ヨースイオ\ケ（第2ヨース\イオケ）」
- 「文フ\ミ（第2フミ\）」3語：「御告げオツゲ＋→御告げ文オツゲブミ」
「結びムスピ＋→結び文ムスピブミ」
「落としオトシ＋→落とし文オトシ\ブミ（第2オトシブミ）（第3オトシブ\ミ）」
- 「屋根ヤ\ネ」7語：「ガラスガラス＋→ガラス屋根ガラスヤ\ネ」
「トタントタン＋→トタン屋根トタンヤ\ネ」
「瓦カワラ＋→瓦屋根カワラヤ\ネ」
「板葺イタブキ＋→板葺屋根イタブキヤ\ネ」
「茅葺カヤブキ＋→茅葺屋根カヤブキヤ\ネ」
「草葺のサブキ＋→草葺屋根のサブキヤ\ネ」
「藁葺ワラブキ＋→藁葺屋根ワラブキヤ\ネ」
- 「屑ク\ズ」1語：「鉋カンナ＋→鉋屑カンナク\ズ」
- 「婿ム\コ」2語：「娘ムスメ＋→娘婿ムスMEM\コ」
「妹イモート＋→妹婿イモートム\コ」
- 「鱈タ\ラ」1語：「助惣㊦ケソー＋→助惣鱈㊦ケソ\ーダラ（第2㊦ケソーダ\ラ）」
- 「鱧エ\イ」1語：「鋸ノコギリ＋→鋸鱧ノコギリ\エイ」
- 「影カ\ゲ」1語：「夕日ユー㊦＋→夕日影ユー㊦カ\ゲ（第2ユー㊦\カゲ）」
- 「雨ア\メ」6語：「通りトーリ＋→通り雨トーリ\アメ（第2トーリア\メ）」
「俄かニワカ＋→俄か雨ニワカ\アメ（第2ニワカア\メ）」
「小糠コスカ＋→小糠雨コスカア\メ」
「日照りヒデリ＋→日照り雨ヒデリア\メ（第2ヒデリ\アメ）」
「涙ナミダ＋→涙雨ナミダア\メ（第2ナミダ\アメ）」
「放射能ホーシャノー＋→放射能雨ホーシャノーア\メ」
- 「原ハ\ラ」1語：「若殿ワカトノ＋→若殿原ワカトノバラ」

- 「猿サ\ル」1語：「尾長オナガ+→尾長猿オナガザ\ル（第2オナガ\ザル）」
- 「雲ク\モ」11語：「鯛イワシ+→鯛雲イワシグ\モ」
「鱗ウロコ+→鱗雲ウロコグ\モ」
「茸キノコ+→茸雲キノコグ\モ」
「原子ゲンシ+→原子雲ゲンシグ\モ」
「羊㊦ツジ+→羊雲㊦ツジグ\モ」
「斑マダラ+→斑雲マダラグ\モ」
「日照りヒデリ+→日照り雲ヒデリグ\モ」
「雷カミナリ+→雷雲カミナリグ\モ」
「入道ニュード+→入道雲ニュードグ\モ（第2ニュード\グモ）」
「飛行機㊦コーキ+→飛行機雲㊦コーキグ\モ」
「夕立ユウダチ+→夕立雲ユウダチグ\モ」
- 「杖ツ\エ」4語：「仕込み㊦コミ+→仕込み杖㊦コミズ\エ」
「松葉マツバ+→松葉杖マツバズ\エ」
「撞木シュモク+→撞木杖シュモクズ\エ」
「金剛コンゴ+→金剛杖コンゴズ\エ」
- 「針ハ\リ」2語：「印シルシ+→印針シルシバ\リ」
「木綿モメン+→木綿針モメンバ\リ」
- 「凧タ\コ」2語：「奴ヤッコ+→奴凧ヤッコダ\コ（第2ヤッコ\ダコ）」
「引っ張り㊦ツパリ+→引っ張り凧㊦ツパリダ\コ」
- 「汁シ\ル」10語：「潮ウシオ+→潮汁ウシオジ\ル」
「蜆シジミ+→蜆汁シジミジ\ル」
「狸タヌキ+→狸汁タヌキジ\ル」
「泥鰯ドジョ+→泥鰯汁ドジョージ\ル」
「薯蕷トロロ+→薯蕷汁トロロジ\ル」
「薩摩サツマ+→薩摩汁サツマジ\ル」
「澄ましスマシ+→澄まし汁スマシジ\ル」
「煮出しニダシ+→煮出し汁ニダシジ\ル」
「レモンレモン+→レモン汁レモンジ\ル」
「巻織ケンチン+→巻織汁ケンチンジ\ル」
- 「蜘蛛ク\モ」3語：「袋㊦クロ+→袋蜘蛛㊦クログ\モ」
「斑マダラ+→斑蜘蛛マダラグ\モ」
「女郎ジョロー+→女郎蜘蛛ジョローグ\モ」
- 「種タ\ネ」4語：「変わりカワリ+→変わり種カワリダネ（第2カワリダ\ネ）」
「新聞シンブン+→新聞種シンブンダネ（第2シンブンダ\ネ）」
「零れコボレ+→零れ種コボレダ\ネ」
「一粒㊦トツブ+→一粒種㊦トツブダ\ネ」
- 「仲ナ\カ」1語：「夫婦フーフ+→夫婦仲フーフ\ナカ（第2フーフナ\カ）」
- 「舟フ\ネ」2語：「丸木マルキ+→丸木舟マルキブ\ネ」
「渡しワタシ+→渡し舟ワタシブ\ネ」
- 「主ヌ\シ」14語：「雇用コヨー+→雇用主コヨ\ヌシ」
「事業ジギョ+→事業主ジギョ\ヌシ」
「所帯ショタイ+→所帯主ショタ\イヌシ」

「世帯セタイ＋→世帯主セタ\イヌシ」
 「願いネガイ＋→願い主ネガ\イヌシ (第2ネガイ\ヌシ)」
 「雇いヤトイ＋→雇い主ヤト\イヌシ (第2ヤトイ\ヌシ)」
 「預けアズケ＋→預け主アズケ\ヌシ」
 「送りオクリ＋→送り主オクリ\ヌシ」
 「落としオトシ＋→落とし主オトシ\ヌシ」
 「抱えカカエ＋→抱え主カカエ\ヌシ (第2カカ\エヌシ)」
 「救い㊦クイ＋→救い主㊦クイ\ヌシ (第2㊦ク\イヌシ)」
 「営業エーギョー＋→営業主エーギョ\ーヌシ」
 「興行コーギョー＋→興行主コーギョ\ーヌシ」
 「広告コーコク＋→広告主コーコク\ヌシ」
 「箸ハ\シ」2語：「祝いイワイ＋→祝い箸イワ\イバシ」
 「移りウツリ＋→移り箸ウツリ\バシ (第2ウツリバ\シ)」
 「錐キ\リ」1語：「三つ目ミツメ＋→三つ目錐ミツメ\ギリ (第2ミツメギ\リ)」

後部要素が尾高型の場合は、107項目578語がある。

「闇ヤミ\」2語：「五月サ㊦キ＋→五月闇サ㊦キヤミ」
 「暁アカ㊦キ＋→暁闇アカ㊦キ\ヤミ (第2アカ㊦キヤミ)」
 「岸㊦シ\」1語：「向こうムコー＋→向こう岸ムコーギシ」
 「坂サカ\」4語：「女オンナ＋→女坂オンナザカ」
 「下りクダリ＋→下り坂クダリザカ」
 「男オトコ＋→男坂オトコ\ザカ (第2オトコザカ)」
 「だらだらダラダラ＋→だらだら坂ダラダラ\ザカ」
 「唄ウタ\」1語：「木挽コビキ＋→木挽唄コビキ\ウタ」
 「波ナミ\」2語：「土用ドヨー＋→土用波ドヨ\ーナミ」
 「三角サンカク＋→三角波サンカク\ナミ」
 「鉢ハチ\ (第2ハチ)」6語：「当たりアタリ＋→当たり鉢アタリ\バチ (第2アタリ
 バチ)」
 「植木ウエキ＋→植木鉢ウエキ\バチ」
 「金魚キンギョ＋→金魚鉢キンギョ\バチ」
 「手水チョーズ＋→手水鉢チョーズ\バチ」
 「手洗いテアライ＋→手洗い鉢テアラ\イバチ」
 「井ドンブリ＋→井鉢ドンブリ\バチ」
 「部屋ヘヤ\」4語：「子供コドモ＋→子供部屋コドモベヤ」
 「仕事シゴト＋→仕事部屋シゴトベヤ」
 「御囃子オハヤシ＋→御囃子部屋オハヤシベヤ」
 「勉強ベンキョー＋→勉強部屋ベンキョーベヤ」
 「蔵クラ\」1語：「宝タカラ＋→宝蔵タカラグラ (第2タカラ\グラ)」
 「草クサ\」8語：「翁オキナ＋→翁草オキナ\グサ」
 「未㊦ツジ＋→未草㊦ツジ\グサ」
 「螢ホタル＋→螢草ホタル\グサ」
 「手向けタムケ＋→手向け草タムケ\グサ」
 「眠りネムリ＋→眠り草ネムリ\グサ」
 「ぺんぺんペンペン＋→ぺんぺん草ペンペ\ングサ」

- 「徒然ツレズレ＋→徒然草ツレズレ\グサ」
「心太トコロテン＋→心太草トコロテ\ングサ」
- 「潮シオ\」 1 語：「向かいムカイ＋→向かい潮ムカイ\シオ (第2 ムカイシオ)」
- 「塵ゴミ\」 2 語：「資源シゲン＋→資源塵シゲ\ングミ」
「不燃フネン＋→不燃塵フネ\ングミ」
- 「池イケ\」 3 語：「養魚ヨーギョ＋→養魚池ヨーギョ\イケ」
「産卵サンラン＋→産卵池サンラ\ンイケ」
「用水ヨースイ＋→用水池ヨース\イケ」
- 「槌ヅチ\」 1 語：「向こうムコー＋→向こう槌ムコーズチ」
- 「村ムラ\」 3 語：「選手センシュ＋→選手村センシュムラ」
「隣トナリ＋→隣村トナリムラ」
「東海トーカイ＋→東海村トーカIMUMラ」
- 「島シマ\」 1 語：「離れハナレ＋→離れ島ハナレ\ジマ」
- 「店ミセ\」 2 語：「屋台ヤタイ＋→屋台店ヤタ\イミセ」
「小間物コマモノ＋→小間物店コマモノ\ミセ」
- 「町マチ\」 6 語：「宿場シュクバ＋→宿場町シュクバ\マチ」
「城下ジョーカ＋→城下町ジョーカ\マチ」
「屋敷ヤヅキ＋→屋敷町ヤヅキ\マチ」
「港ミナト＋→港町ミナト\マチ」
「門前モンゼン＋→門前町モンゼ\ンマチ」
「片側カタカワ＋→片側町カタカワ\マチ」
- 「豆マメ\」 6 語：「鶉ウズラ＋→鶉豆ウズラ\マメ」
「碗豆エンドー＋→碗豆豆エンド\マメ」
「南京ナンキン＋→南京豆ナンキ\ンマメ」
「蓬萊ホーライ＋→蓬萊豆ホーラ\イマメ」
「阿多福オタヅク＋→阿多福豆オタヅク\マメ」
「金時キントキ＋→金時豆キントキ\マメ」
- 「耳ミミ\」 2 語：「地獄ジゴク＋→地獄耳ジゴク\ミミ (第2 ジゴクミミ)」
「袋ヅクロ＋→袋耳ヅクロ\ミミ」
- 「髪カミ\」 11 語：「洗いアライ＋→洗い髪アライガミ」
「後ろウシロ＋→後ろ髪ウシロガミ (第2 ウシロ\ガミ)」
「額ヱタイ＋→額髪ヱタイガミ」
「散らしチラシ＋→散らし髪チラシガミ」
「日本ニホン＋→日本髪ニホンガミ」
「底し◎サシ＋→底し髪◎サシガミ」
「結びムスビ＋→結び髪ムスビガミ」
「引っ詰め◎ツツメ＋→引っ詰め髪◎ツツメガミ (第2 ◎ツツメ\ガミ)」
「茶筌チャセン＋→茶筌髪チャセ\ンガミ (第2 チャセンガミ)」
「乱れミダレ＋→乱れ髪ミダレ\ガミ」
「切り下げキリサゲ＋→切り下げ髪キリサゲ\ガミ」
- 「飯メシ\」 6 語：「五目ゴモク＋→五目飯ゴモク\メシ (第2 ゴモクメシ)」
「鰻ウナギ＋→鰻飯ウナギ\メシ (第2 ウナギメシ)」
「握りニギリ＋→握り飯ニギリ\メシ (第2 ニギリメシ)」

- 「一膳イチゼン＋→一膳飯イチゼンメシ」
「筍タケノコ＋→筍飯タケノコメシ（第2タケノコメシ）」
「丼ドンブリ＋→丼飯ドンブリメシ（第2ドンブリメシ）」
- 「方カタ」 21 語：「表オモテ＋→表方オモテカタ」
「囃子ハヤ＋→囃子方ハヤカタ」
「使いカイ＋→使い方カイカタ」
「道具ドーグ＋→道具方ドーグカタ」
「並びナラビ＋→並び方ナラビカタ」
「料理リョーリ＋→料理方リョーリカタ」
「狂言キョーゲン＋→狂言方キョーゲンカタ」
「作りクリ＋→作り方クリカタ（第2クリカタ）」
「綴りツズリ＋→綴り方ツズリカタ（第2ツズリカタ）」
「話しハナ＋→話し方ハナカタ（第2ハナカタ）（第3ハナカタ）」
「考えカンガエ＋→考え方カンガエカタ（第2カンガエカタ）」
「東ヒガシ＋→東方ヒガシカタ」
「日暮れヒグレ＋→日暮れ方ヒグレカタ」
「夜明けヨアケ＋→夜明け方ヨアケカタ」
「夕暮れユウグレ＋→夕暮れ方ユウグレカタ」
「大道具オードグ＋→大道具方オードグカタ」
「上ウエツ＋→上つ方ウエツカタ（第2ウエツカタ）」
「皆さんミナサン＋→皆さん方ミナサンカタ」
「貴アナタ＋→貴方アナタカタ（第2アナタカタ）」
「皆様ミナサマ＋→皆様方ミナサマカタ」
「先生センセー＋→先生方センセーカタ（第2センセーカタ）」
- 「糞ソ」 1 語：「袂タモト＋→袂糞タモトソ」
- 「風呂フロ」 6 語：「貰いモライ＋→貰い風呂モライフロ（第2モライフロ）」
「鉄砲テッポー＋→鉄砲風呂テッポーフロ（第2テッポーフロ）」
「浮世ウキヨ＋→浮世風呂ウキヨフロ（第2ウキヨフロ）」
「家族カゾク＋→家族風呂カゾクフロ（第2カゾクフロ）」
「野天ノテン＋→野天風呂ノテンフロ（第2ノテンフロ）」
「露天ロテン＋→露天風呂ロテンフロ」
- 「敷キ」 1 語：「河川カセン＋→河川敷カセンキ」
- 「腹ハラ」 9 語：「下りクダリ＋→下り腹クダリバラ」
「太鼓タイコ＋→太鼓腹タイコバラ」
「布袋ホテー＋→布袋腹ホテーバラ」
「下ッタツ＋→下ッ腹タツバラ」
「下ッタツ＋→下ッ腹タツバラ」
「横ッヨコッ＋→横ッ腹ヨコッバラ」
「横ッヨコッ＋→横ッ腹ヨコッバラ」
「中ッチューツ＋→中ッ腹チューツバラ」
「土手ッドテツ＋→土手ッ腹ドテツバラ」
- 「竿サオ」 3 語：「秤バカリ＋→秤竿バカリザオ（第2バカリザオ）」
「衣紋エモン＋→衣紋竿エモンザオ」

- 「物干しモノホシ＋→物干し竿モノホシ\ザオ」
- 「綱ツナ\」 2 語：「碇イカリ＋→碇綱イカリ\ズナ」
「命イノチ＋→命綱イノチ\ズナ」
- 「高タカ\ (第 2 タ\カ)」 17 語：「表オモテ＋→表高オモテダカ」
「歩合ブアイ＋→歩合高ブア\イダカ (第 2 ブアイ\ダカ)」
「上がりアガリ＋→上がり高アガリ\ダカ (第 2 アガリダカ)」
「稼ぎカセギ＋→稼ぎ高カセギ\ダカ (第 2 カセギダカ)」
「原油ゲンユ＋→原油高ゲンユ\ダカ」
「物価ブッカ＋→物価高ブッカ\ダカ」
「交換コーカン＋→交換高コーカ\ンダカ (第 2 コーカンダカ)」
「生産セーサン＋→生産高セーサ\ンダカ」
「売買バイバイ＋→売買高バイバ\イダカ」
「発行ハッコー＋→発行高ハッコ\ーダカ」
「受取ウケトリ＋→受取高ウケトリ\ダカ」
「売上ウリアゲ＋→売上高ウリアゲ\ダカ」
「鼻高ハナタカ＋→鼻高高ハナタカ\ダカ (第 2 ハナタカダ\カ)」
「産出サンシュツ＋→産出高サンシュツ\ダカ」
「取引トリ㊦キ＋→取引高トリ㊦キ\ダカ」
「割引ワリビキ＋→割引高ワリビキ\ダカ」
「取扱トリア㊦カイ＋→取扱高トリア㊦カ\イダカ」
- 「縞シマ\」 5 語：「格子コーシ＋→格子縞コーシジマ」
「碁盤ゴバン＋→碁盤縞ゴバンジマ」
「結城ユーキ＋→結城縞ユーキジマ」
「段だらダンダラ＋→段だら縞ダンダラジマ」
「ベンガラベンガラ＋→ベンガラ縞ベンガラジマ」
- 「革カワ\」 2 語：「鞣しナメシ＋→鞣し革ナメシガワ (第 2 ナメシ\ガワ)」
「調ベシラベ＋→調ベ革シラベ\ガワ」
- 「弓ユミ\」 1 語：「梓アズサ＋→梓弓アズサ\ユミ」
- 「鉤カギ\」 1 語：「自在ジザイ＋→自在鉤ジザ\イカギ」
- 「股マタ\」 1 語：「蛙カエル＋→蛙股カエルマタ」
- 「骨ホネ\」 3 語：「肋アバラ＋→肋骨アバラボネ (第 2 アバラ\ボネ)」
「屋台ヤタイ＋→屋台骨ヤタイボネ (第 2 ヤタ\イボネ)」
「貝殻カイガラ＋→貝殻骨カイガラボネ」
- 「咳セキ\」 1 語：「百日ヒャクニチ＋→百日咳ヒャクニチ\ゼキ」
- 「海苔ノリ\」 2 語：「味付けアジツケ＋→味付け海苔アジツケ\ノリ」
「浅草アサ㊦サ＋→浅草海苔アサ㊦サ\ノリ」
- 「花ハナ\」 8 語：「返りカエリ＋→返り花カエリバナ」
「麴コージ＋→麴花コージバナ」
「彼岸ヒガン＋→彼岸花ヒガ\ンバナ」
「小米コゴメ＋→小米花コゴメ\バナ」
「桜サクラ＋→桜花サクラ\バナ」
「枕マクラ＋→枕花マクラ\バナ」
「造り㊦クリ＋→造り花㊦クリ\バナ」

- 「白粉オシロイ＋→白粉花オシロイバナ」
- 「技ワザ」 2 語：「捻りヒネリ＋→捻り技ヒネリワザ」
「関節カンセツ＋→関節技カンセツワザ」
- 「際キワ」 4 語：「帰りカエリ＋→帰り際カエリギワ」
「額◎タイ＋→額際◎タイギワ」
「土俵ドヒョー＋→土俵際ドヒョーギワ」
「往生オージョー＋→往生際オージョーギワ」
- 「節◎シ」 7 語：「鰹カツオ＋→鰹節カツオブシ」
「豊後ブンゴ＋→豊後節ブンゴブシ」
「追分オイワケ＋→追分節オイワケブシ」
「富本トミモト＋→富本節トミモトブシ」
「新内シンナイ＋→新内節シンナイブシ」
「法界ホーカイ＋→法界節ホーカイブシ」
「骨っホネッ＋→骨っ節ホネッブシ」
- 「襟エリ」 1 語：「糸瓜ヘチマ＋→糸瓜襟ヘチマエリ」
- 「脛スネ」 1 語：「向こうムコー＋→向こう脛ムコーズネ」
- 「菊◎ク」 (第 2◎ク) 2 語：「食用シヨクヨー＋→食用菊シヨクヨウギク」
「矢車ヤグルマ＋→矢車菊ヤグルマギク」
- 「尻シリ」 1 語：「言葉コトバ＋→言葉尻コトバジリ」
- 「殻カラ」 1 語：「石炭セ◎タン＋→石炭殻セ◎タンガラ」
- 「堀ホリ」 1 語：「用水ヨースイ＋→用水堀ヨースイボリ」
- 「裏ウラ」 3 語：「浅葱アサギ＋→浅葱裏アサギウラ」
「舞台ブタイ＋→舞台裏ブタイウラ」
「天井テンジョー＋→天井裏テンジョーウラ」
- 「栗クリ」 1 語：「丹波タンバ＋→丹波栗タンバグリ」
- 「旅タビ」 1 語：「1 人◎トリ＋→1 人旅◎トリタビ」
- 「馬ウマ」 2 語：「裸ハダカ＋→裸馬ハダカウマ」
「アラビアアラビア＋→アラビア馬アラビアウマ」
- 「綿ワタ」 4 語：「布団◎トン＋→布団綿◎トウワタ (第 2◎トンワタ)」
「木綿モメン＋→木綿綿モメウワタ」
「青梅オーメ＋→青梅綿オーメウワタ」
「含み◎クミ＋→含み綿◎クミウワタ」
- 「面ツラ」 8 語：「痘痕アバタ＋→痘痕面アバタズラ」
「向こうムコー＋→向こう面ムコーズラ」
「帳面チョーメン＋→帳面面チョーメンズラ」
「鼻っハナッ＋→鼻っ面ハナツツラ」
「髭っヒゲッ＋→髭っ面ヒゲツツラ」
「横っヨコッ＋→横っ面ヨコツツラ」
「泣きっナキッ＋→泣きっ面ナキツツラ」
「向こうムコーッ＋→向こう面ムコーツツラ」
- 「墨スミ」 2 語：「油煙ユエン＋→油煙墨ユエンズミ (第 2 ユエウズミ)」
「油アブラ＋→油墨アブラズミ」
- 「幕マク」 9 語：「化粧ケショー＋→化粧幕ケショウマク」
「返しカエシ＋→返し幕カエシマク」

- 「浅黄アサギ＋→浅黄幕アサギ\マク (第2 アサギマク)」
「霞カスミ＋→霞幕カスミ\マク」
「鯨クジラ＋→鯨幕クジラ\マク」
「斑マダラ＋→斑幕マダラ\マク」
「横断オーダン＋→横断幕オーダ\ンマク」
「映写エーシャ＋→映写幕エーシャ\マク」
「水引ミズ㊦キ＋→水引幕ミズ㊦キ\マク」
- 「年トシ\」 4 語：「閏ウルー＋→閏年ウル\ードシ」
「当たりアタリ＋→当たり年アタリ\ドシ (第2 アタリドシ)」
「生まれウマレ＋→生まれ年ウマレ\ドシ (第2 ウマレドシ)」
「数えカゾエ＋→数え年カゾエ\ドシ (第2 カゾエ\エドシ)」
- 「皮カワ\」 1 語：「表オモテ＋→表皮オモテガワ」
- 「癖㊦セ\」 3 語：「遊びアソビ＋→遊び癖アソビグセ」
「女オンナ＋→女癖オンナグセ」
「盗みヌスミ＋→盗み癖ヌスミグセ」
- 「棲ツマ\」 1 語：「左ヒダリ＋→左棲ヒダリズ\マ (第2 ヒダリズマ) (第3 ヒダリ\ズマ)」
- 「旗ハタ\」 1 語：「筵ムシロ＋→筵旗ムシロ\バタ (第2 ムシロバタ)」
- 「鯨㊦シ\ (第2㊦\シ)」 3 語：「雀スズメ＋→雀鯨スズメ\ズシ」
「五目ゴモク＋→五目鯨ゴモク\ズシ」
「回転カイテン＋→回転鯨カイテ\ンズシ」
- 「橋ハシ\」 5 語：「二重ニジュー＋→二重橋ニジュ\ーバシ」
「丸木マルキ＋→丸木橋マルキ\バシ」
「眼鏡メガネ＋→眼鏡橋メガネ\バシ」
「太鼓タイコ＋→太鼓橋タイコ\バシ (第2 タイコバシ)」
「一本イツボン＋→一本橋イツボ\ンバシ」
- 「親オヤ\」 4 語：「男オトコ＋→男親オトコオヤ」
「名づけナズケ＋→名づけ親ナズケオヤ (第2 ナズケ\オヤ)」
「女オンナ＋→女親オンナオヤ」
「鎧ヨロイ＋→鎧親ヨロイオヤ」
- 「乳㊦チ\ (第2㊦\チ)」 1 語：「貰いモライ＋→貰い乳モライジチ (第2 モラ\イジチ)」
- 「色イロ\」 41 語：「臙脂エンジ＋→臙脂色エンジイロ」
「青磁セージ＋→青磁色セージイロ」
「代赭タイシャ＋→代赭色タイシャイロ」
「茜アカネ＋→茜色アカネイロ」
「小豆アズキ＋→小豆色アズキイロ」
「木賊ト㊦サ＋→木賊色ト㊦サイロ」
「納戸ナンド＋→納戸色ナンドイロ」
「狐㊦ツネ＋→狐色㊦ツネイロ」
「黄蘗㊦ハダ＋→黄蘗色㊦ハダイロ」
「黄蘗㊦ハダ＋→黄蘗色㊦ハダイロ」
「黄蘗キワダ＋→黄蘗色キワダイロ」
「黄金コガネ＋→黄金色コガネイロ」

- 「小麦コムギ＋→小麦色コムギイロ」
「桜サクラ＋→桜色サクライロ」
「雀スズメ＋→雀色スズメイロ」
「董スミレ＋→董色スミレイロ」
「卵タマゴ＋→卵色タマゴイロ」
「葡萄ブドー＋→葡萄色ブドーイロ」
「千草チグサ＋→千草色チグサイロ」
「蜥蜴トカゲ＋→蜥蜴色トカゲイロ」
「鉛ナマリ＋→鉛色ナマリイロ」
「鼠ネズミ＋→鼠色ネズミイロ」
「松葉マツバ＋→松葉色マツバイロ」
「緑ミドリ＋→緑色ミドリイロ」
「駱駝ラクダ＋→駱駝色ラクダイロ」
「オレンジオレンジ＋→オレンジ色オレンジイロ」
「クリームクリーム＋→クリーム色クリームイロ」
「赤銅シャクドー＋→赤銅色シャクドーイロ」
「石竹セキ㊦ク＋→石竹色セキ㊦クイロ」
「銅アカガネ＋→銅色アカガネイロ」
「鶯ウグイス＋→鶯色ウグイスイロ」
「薄紅ウスベニ＋→薄紅色ウスベニイロ」
「濃鼠コネズミ＋→濃鼠色コネズミイロ」
「橙ダイダイ＋→橙色ダイダイイロ」
「玉虫タマムシ＋→玉虫色タマムシイロ」
「生壁ナマカベ＋→生壁色ナマカベイロ」
「紫ムラサキ＋→紫色ムラサキイロ」
「羊糞ヨーカン＋→羊糞色ヨーカンイロ」
「山鳩ヤマバト＋→山鳩色ヤマバトイロ」
「山蔭ヤマブキ＋→山蔭色ヤマブキイロ」
- 「山ヤマ\」 1 語：「雑木ゾーキ＋→雑木山ゾーキヤマ」
- 「縄ナワ\」 2 語：「釣瓶ツルベ＋→釣瓶縄ツルベナワ」
「一筋㊥トスジ＋→一筋縄㊥トスジナワ（第 2㊥トスジ\ナワ）」
- 「石イシ\」 7 語：「鸚鵡オーム＋→鸚鵡石オーム\イシ」
「硯りスズリ＋→硯り石スズリ\イシ」
「トルコトルコ＋→トルコ石トルコ\イシ」
「大谷オーヤ＋→大谷石オーヤ\イシ」
「カ㊦カラ＋→カ石㊦カラ\イシ」
「蛍ホタル＋→蛍石ホタル\イシ」
「沓脱ぎ㊦ツヌギ＋→沓脱ぎ石㊦ツヌギ\イシ」
- 「時トキ\」 6 語：「時分ジブン＋→時分時ジブンドキ」
「田植エタウエ＋→田植え時タウエドキ（第 2 タウエ\ドキ）」
「花見ハナミ＋→花見時ハナミドキ」
「書き入れカキイレ＋→書き入れ時カキイレドキ」
「霜枯れシモガレ＋→霜枯れ時シモガレドキ（第 2 シモガレ\ドキ）」
「黄昏タソガレ＋→黄昏時タソガレドキ」

- 「事コト」 20 語：「遊びアソビ＋→遊び事アソビゴト」
「祝いイワイ＋→祝い事イワイゴト」
「思いオモイ＋→思い事オモイゴト (第 2 オモイゴト)」
「隠しカ⑦シ＋→隠し事カ⑦シゴト (第 2 カ⑦シゴト)」
「綺麗キレー＋→綺麗事キレーゴト (第 2 キレーゴト)」
「悩みナヤミ＋→悩み事ナヤミゴト」
「勝負ショーブ＋→勝負事ショーブゴト (第 2 ショーブゴト)」
「作りツクリ＋→作り事ツクリゴト (第 2 ツクリゴト)」
「内緒ナイショ＋→内緒事ナイショゴト」
「習いナライ＋→習い事ナライゴト (第 2 ナライゴト)」
「願いネガイ＋→願い事ネガイゴト (第 2 ネガイゴト)」
「笑いワライ＋→笑い事ワライゴト」
「杯サカズキ＋→杯事サカズキゴト (第 2 サカズキゴト)」
「考えカンガエ＋→考え事カンガエゴト (第 2 カンガエゴト)」
「心配シンパイ＋→心配事シンパイゴト (第 2 シンパイゴト)」
「私ワタ⑦シ＋→私事ワタ⑦シゴト」
「取り込みトリコミ＋→取り込み事トリコミゴト」
「慰みナグサミ＋→慰み事ナグサミゴト」
「約束ヤ⑦ソク＋→約束事ヤ⑦ソクゴト」
「喜びヨロコビ＋→喜び事ヨロコビゴト (第 2 ヨロコビゴト)」
- 「室ムロ」 1 語：「麴コージ＋→麴室コージムロ」
- 「寿司⑧シ」 (第 2 ⑧シ) 5 語：「稲荷イナリ＋→稲荷寿司イナリズシ」
「散しチラシ＋→散し寿司チラシズシ」
「手巻きテマキ＋→手巻き寿司テマキズシ」
「握りニギリ＋→握り寿司ニギリズシ」
「大阪オーサカ＋→大阪寿司オーサカズシ」
- 「刷毛ハケ」 2 語：「洗いアライ＋→洗い刷毛アライバケ」
「牡丹ボタン＋→牡丹刷毛ボタンバケ」
- 「霜シモ」 1 語：「別れワカレ＋→別れ霜ワカレジモ」
- 「寺テラ」 3 語：「檀那ダンナ＋→檀那寺ダンナデラ」
「駆け込みカケコミ＋→駆け込み寺カケコミデラ」
「清水キヨミズ＋→清水寺キヨミズデラ」
- 「弾タマ」 1 語：「流れナガレ＋→流れ弾ナガレダマ」
- 「炭スミ」 1 語：「佐倉サクラ＋→佐倉炭サクラズミ」
- 「畑ハタ」 (第 2 ハタ) 1 語：「切り替えキリカエ＋→切り替え畑キリカエバタ」
- 「土ツチ」 1 語：「鹿沼カヌマ＋→鹿沼土カヌマツチ」
- 「網アミ」 10 語：「落としオトシ＋→落とし網オトシアミ」
「囲いカコイ＋→囲い網カコイアミ (第 2 カコイアミ)」
「地引きジビキ＋→地引き網ジビキアミ (第 2 ジビキアミ)」
「定置テーチ＋→定置網テーチアミ (第 2 テーチアミ)」
「手繰りテグリ＋→手繰り網テグリアミ (第 2 テグリアミ)」
「流しナガシ＋→流し網ナガシアミ (第 2 ナガシアミ)」
「霞カスミ＋→霞網カスミアミ (第 2 カスミアミ)」
「四つ手ヨツデ＋→四つ手網ヨツデアミ」

「巾着キンチャク＋→巾着網キンチャク\アミ」
 「底引きソコビキ＋→底引き網ソコビキ\アミ」
 「物モノ\ (第2モノ)」94語：「上がりアガリ＋→上がり物アガリモノ」
 「預けアズケ＋→預け物アズケモノ (第2アズケモノ\)」
 「余りアマリ＋→余り物アマリモノ」
 「洗いアライ＋→洗い物アライモノ」
 「急ぎイソギ＋→急ぎ物イソギモノ (第2イソギモノ\)」
 「祝いイワイ＋→祝い物イワイモノ (第2イワイモノ\)」
 「謡ウタイ＋→謡物ウタイモノ」
 「写しウツシ＋→写し物ウツシモノ (第2ウツシモノ\)」
 「絵巻エマキ＋→絵巻物エマキモノ (第2エマキ\モノ) (第3エマキモノ\ノ)」
 「縁起エンギ＋→縁起物エンギモノ」
 「納めオサメ＋→納め物オサメモノ (第2オサメモノ\)」
 「落としオトシ＋→落とし物オトシモノ」
 「飾りカザリ＋→飾り物カザリモノ」
 「語りカタリ＋→語り物カタリモノ」
 「呉服ゴク＋→呉服物ゴクモノ」
 「壊れコワレ＋→壊れ物コワレモノ」
 「細工サイク＋→細工物サイクモノ (第2サイクモノ\)」
 「時代ジダイ＋→時代物ジダイモノ」
 「仕立てタテ＋→仕立て物タテモノ」
 「調べシラベ＋→調べ物シラベモノ」
 「廃りタリ＋→廃り物タリモノ」
 「戦記センキ＋→戦記物センキモノ」
 「供えソナエ＋→供え物ソナエモノ (第2ソナエモノ\)」
 「使いツカイ＋→使い物ツカイモノ」
 「作りツクリ＋→作り物ツクリモノ (第2ツクリモノ\)」
 「続きツズキ＋→続き物ツズキモノ」
 「包みツツミ＋→包み物ツツミモノ (第2ツツミモノ\)」
 「摘みツマミ＋→摘み物ツマミモノ」
 「器ウツワ＋→器物ウツワモノ」
 「届けトドケ＋→届け物トドケモノ」
 「直しナオシ＋→直し物ナオシモノ (第2ナオシモノ\)」
 「男オトコ＋→男物オトコモノ」
 「女オンナ＋→女物オンナモノ」
 「日本ニホン＋→日本物ニホンモノ」
 「残りノコリ＋→残り物ノコリモノ (第2ノコリモノ\)」
 「生世話キゼワ＋→生世話物キゼワモノ」
 「離れハナレ＋→離れ物ハナレモノ (第2ハナレモノ\)」
 「流行りハヤリ＋→流行り物ハヤリモノ (第2ハヤリモノ\)」
 「払いハラヒ＋→払い物ハラヒモノ (第2ハラヒモノ\)」
 「半端ハンパ＋→半端物ハンパモノ」
 「光りヒカリ＋→光り物ヒカリモノ (第2ヒカリモノ\)」

「浸し㊦タシ＋→浸し物㊦タシモノ (第2㊦タシモノ\)」
 「宝タカラ＋→宝物タカラモノ (第2 タカラモノ\ノ) (第3 タカラモノ\)」
 「婦人フジン＋→婦人物フジンモノ」
 「紛いマガイ＋→紛い物マガイモノ」
 「見切りミキリ＋→見切り物ミキリモノ」
 「貢ぎミツギ＋→貢ぎ物ミツギモノ」
 「囃子ハヤシ＋→囃子物ハヤシモノ」
 「単衣㊦トエ＋→単衣物㊦トエモノ (第2㊦トエモノ\) (第3㊦トエモノ\ノ)」
 「袋㊦クロ＋→袋物㊦クロモノ (第2㊦クロ\モノ)」
 「儲けモーケ＋→儲け物モーケモノ (第2 モーケモノ\)」
 「木綿モメン＋→木綿物モメンモノ (第2 モメ\ンモノ)」
 「貰いモライ＋→貰い物モライモノ」
 「野菜ヤサイ＋→野菜物ヤサイモノ」
 「土産ミヤゲ＋→土産物ミヤゲモノ」
 「許しユルシ＋→許し物ユルシモノ (第2 ユルシモノ\)」
 「汚れヨゴレ＋→汚れ物ヨゴレモノ」
 「渡りワタリ＋→渡り物ワタリモノ」
 「笑いワライ＋→笑い物ワライモノ」
 「商いアキナイ＋→商い物アキナイモノ (第2 アキナイモノ\)」
 「預かりアズカリ＋→預かり物アズカリモノ」
 「誂えアツラエ＋→誂え物アツラエモノ」
 「御使いオ㊦カイ＋→御使い物オ㊦カイモノ」
 「怪談カイダン＋→怪談物カイダンモノ」
 「懐中カイチュー＋→懐中物カイチューモノ」
 「考えカンガエ＋→考え物カンガエモノ (第2 カンガエモノ\)」
 「近海キンカイ＋→近海物キンカイモノ」
 「興行コーギョー＋→興行物コーギョーモノ」
 「拵えコシラエ＋→拵え物コシラエモノ」
 「骨董コットー＋→骨董物コットーモノ」
 「差し入れサシイレ＋→差し入れ物サシイレモノ」
 「三尺サンジャク＋→三尺物サンジャクモノ」
 「精進ショージン＋→精進物ショージンモノ」
 「新作シンサク＋→新作物シンサクモノ」
 「心中シンジュー＋→心中物シンジューモノ」
 「スリラースリラー＋→スリラー物スリラーモノ」
 「洗濯センタク＋→洗濯物センタクモノ」
 「創作ソーサク＋→創作物ソーサクモノ」
 「頂戴チョーダイ＋→頂戴物チョーダイモノ」
 「到来トーライ＋→到来物トーライモノ」
 「大業オーワザ＋→大業物オーワザモノ (第2 オーワザ\モノ)」
 「一幕㊦トマク＋→一幕物㊦トマクモノ」
 「北海ホッカイ＋→北海物ホッカイモノ」

「施しホドコシ＋→施し物ホドコシモノ（第2ホドコシモノ\）」
 「翻訳ホンヤク＋→翻訳物ホンヤクモノ」
 「井ドンブリ＋→井物ドンブリモノ」
 「生臭ナマグサ＋→生臭物ナマグサモノ」
 「並幅ナミハバ＋→並幅物ナミハバモノ」
 「股旅マタタビ＋→股旅物マタタビモノ」
 「まやかしまヤカシ＋→まやかし物マヤカシモノ（第2マヤカシモノ\）」
 「柔らかヤワラカ＋→柔らか物ヤワラカモノ」
 「取り合わせトリアワセ＋→取り合わせ物トリアワセモノ」
 「習いナライ＋→習い物ナライモノ\（第2ナライモノ\ノ）」
 「毛織ケオリ＋→毛織物ケオリ\モノ（第2ケオリモノ）」

「下シタ\（第2シタ）」8語：「トツトツ＋→トツ下トツシタ」
 「名題ナダイ＋→名題下ナダイシタ」
 「鬘カツラ＋→鬘下カツラ◎タ」
 「櫓ヤグラ＋→櫓下ヤグラ◎タ」
 「ガードガード＋→ガード下ガード◎タ（第2ガード\◎タ）」
 「化粧ケショー＋→化粧下ケショー◎タ（第2ケショ\ー◎タ）」
 「羽織ハオリ＋→羽織下ハオリ◎タ」
 「白粉オシロイ＋→白粉下オシロイ◎タ」

「下手ヘタ\」1語：「話しハナシ＋→話し下手ハナシベタ」

「小屋コヤ\（第2コヤ）」7語：「兎ウサギ＋→兎小屋ウサギゴヤ」
 「家畜カ④ク＋→家畜小屋カ④クゴヤ」
 「芝居シバイ＋→芝居小屋シバイゴヤ」
 「水車スイシャ＋→水車小屋スイシャゴヤ」
 「見せ物ミセモノ＋→見せ物小屋ミセモノゴヤ」
 「炭焼きスミヤキ＋→炭焼き小屋スミヤキゴヤ」
 「物置モノオキ＋→物置小屋モノオキゴヤ」

「脇ワキ\」1語：「道路ドーロ＋→道路脇ドーロワキ」

「形カタ\」11語：「鱗ウロコ＋→鱗形ウロコガタ」
 「扇オーギ＋→扇形オーギガタ」
 「女オンナ＋→女形オンナガタ」
 「轡◎ツワ＋→轡形◎ツワガタ」
 「海鼠ナマコ＋→海鼠形ナマコガタ」
 「自由ジュー＋→自由形ジューガタ」
 「娘ムスメ＋→娘形ムスメガタ」
 「蒲鋒カマボコ＋→蒲鋒形カマボコガタ」
 「三日月ミカズキ＋→三日月形ミカズキガタ」
 「短冊タンザク＋→短冊形タンザクガタ」
 「空手カラテ＋→空手形カラテ\ガタ」

「型カタ\」9語：「抱えカカエ＋→抱え型カカエガタ」
 「手札テフダ＋→手札型テフダガタ」
 「直下チョッカ＋→直下型チョッカガタ」

- 「名刺メーシ＋→名刺型メーシガタ」
「理想リソー＋→理想型リソーガタ」
「血液ケツエキ＋→血液型ケツエキガタ」
「最新サイシン＋→最新型サイシンガタ」
「標準ヒョージュン＋→標準型ヒョージュンガタ」
「北欧ホクオー＋→北欧型ホクオーガタ」
- 「熊クマ\ (第2ク\マ)」2語：「マレーマレー＋→マレー熊マレ\ーグマ (第2マレ
ーグ\マ)」
「洗アライ＋→洗熊アライ\グマ」
- 「靴ツ\」5語：「スキー⊗キー＋→スキー靴⊗キ\ーグツ」
「安全アンゼン＋→安全靴アンゼ\ングツ」
「運動ウンドー＋→運動靴ウンド\ーグツ」
「半長ハンナガ＋→半長靴ハンナ\ガグツ (第2ハンナガ\グツ)」
「編み上げアミアゲ＋→編み上げ靴アミアゲ\グツ」
- 「穴アナ\」3語：「一つ⊕トツ＋→一つ穴⊕ト\ツアナ」
「落としオトシ＋→落とし穴オトシ\アナ」
「覗きノゾキ＋→覗き穴ノゾキ\アナ (第2ノゾキアナ)」
- 「岩イワ\」2語：「屏風ビョーブ＋→屏風岩ビョーブ\イワ」
「一枚イチマイ＋→一枚岩イチマ\イイワ」
- 「様サマ\」24語：「憚りハバカリ＋→憚り様ハバカリサマ」
「不動フドー＋→不動様フ\ドーサマ」
「仏ホトケ＋→仏様ホトケサマ\ (第2ホトケサ\マ)」
「恵比寿エビ⊗＋→恵比寿様エビ⊗サマ\ (第2エビ⊗サ\マ)」
「地藏ジゾー＋→地藏様ジゾーサマ\」
「内裏ダイリ＋→内裏様ダイリサマ\ (第2ダイリサ\マ)」
「布袋ホテー＋→布袋様ホテーサマ\ (第2ホテーサ\マ)」
「ごろごろゴロゴロ＋→ごろごろ様ゴロゴロサマ\ (第2ゴロゴロ
サ\マ)」
「観音カンノン＋→観音様カンノンサマ\ (第2カンノンサ\マ)」
「権現ゴンゲン＋→権現様ゴンゲンサマ\ (第2ゴンゲンサ\マ)」
「金毘羅コンピラ＋→金毘羅様コンピラサマ\ (第2コンピラサ\
マ)」
「神明シンメー＋→神明様シンメーサマ\ (第2シンメーサ\マ)」
「大黒ダイコ⊗＋→大黒様ダイコ⊗サマ\ (第2ダイコ⊗サ\マ)」
「大仏ダイブ⊗＋→大仏様ダイブ⊗サマ\ (第2ダイブ⊗サ\マ)」
「天神テンジン＋→天神様テンジンサマ\ (第2テンジンサ\マ)」
「弁天ベンテン＋→弁天様ベンテンサマ\ (第2ベンテンサ\マ)」
「明神ミョージン＋→明神様ミョージンサマ\ (第2ミョージンサ
\マ)」
「貴方アナタ＋→貴方様アナ\タサマ」
「仁王ニオー＋→仁王様ニオ\ーサマ」
「乙姫オトヒメ＋→乙姫様オト\ヒメサマ」
「八幡ハチマン＋→八幡様ハチマ\ンサマ (第2ハチ\マンサマ)」
「旦那ダンナ＋→旦那様ダンナサ\マ (第2ダンナサマ)」

- 「七夕タナバタ＋→七夕様タナバタサ\マ (第2 タナバタサマ\)」
「仰向けアオムケ＋→仰向け様アオムケザマ」
- 「業ワザ\」 3 語：「離れハナレ＋→離れ業ハナレワザ」
「力㊦カラ＋→力業㊦カラワザ (第2㊦カラワザ\)」
「人間ニンゲン＋→人間業ニンゲンワザ」
- 「玉タマ\」 11 語：「首っクビツ＋→首っ玉クビツタマ」
「肝っキモツ＋→肝っ玉キモツタマ\ (第2 キモツタマ\)」
「シャボンシャボン＋→シャボン玉シャボンダマ」
「トルコトルコ＋→トルコ玉トルコダマ」
「結びムスビ＋→結び玉ムスビダマ」
「癩癩カンシャク＋→癩癩玉カンシャクダマ」
「蒟蒻コンニャク＋→蒟蒻玉コンニャクダマ」
「鉄砲テッポー＋→鉄砲玉テッポーダマ」
「南京ナンキン＋→南京玉ナンキンダマ」
「風船フーセン＋→風船玉フーセンダマ」
「大目オーメ＋→大目玉オーメ\ダマ」
- 「芋イモ\」 7 語：「薩摩サツマ＋→薩摩芋サツマイモ」
「薯蕷トロロ＋→薯蕷芋トロロ\イモ (第2 トロロイモ)」
「大和ヤマト＋→大和芋ヤマト\イモ」
「乾燥カンゾー＋→乾燥芋カンゾ\ーイモ」
「石焼きイシヤキ＋→石焼き芋イシヤキ\イモ」
「蒟蒻コンニャク＋→蒟蒻芋コンニャク\イモ」
「大学ダイガク＋→大学芋ダイガク\イモ」
- 「垣カキ\」 1 語：「四つ目ヨツメ＋→四つ目垣ヨツメ\ガキ」
- 「縁ヘリ\」 1 語：「畳タタミ＋→畳縁タタミベリ」
- 「月㊦キ\」 6 語：「閏ウルー＋→閏月ウル\ーズキ」
「生まれウマレ＋→生まれ月ウマレ\ズキ (第2 ウマレズキ)」
「朧オボロ＋→朧月オボロ\ズキ (第2 オボロズ\キ)」
「花見ハナミ＋→花見月ハナミ\ズキ」
「片割れカタワレ＋→片割れ月カタワレ\ズキ」
「弓張りユミハリ＋→弓張り月ユミハリ\ズキ」
- 「熨斗ノシ\」 2 語：「昆布コンブ＋→昆布熨斗コンブ\ノシ」
「蕨ワラビ＋→蕨熨斗ワラビ\ノシ」
- 「織オリ\」 1 語：「博多ハカタ＋→博多織ハカタオリ」
- 「指ユビ\」 2 語：「後ろウシロ＋→後ろ指ウシロ\ユビ (第2 ウシロユビ)」
「薬㊦スリ＋→薬指㊦スリ\ユビ」
- 「紙カミ\」 21 語：「障子ショージ＋→障子紙ショージガミ (第2 ショージ\ガミ)」
「奉書ホーショ＋→奉書紙ホーショガミ (第2 ホーショ\ガミ)」
「ボールボール＋→ボール紙ボールガミ」
「縮緬チリメン＋→縮緬紙チリメンガミ (第2 チリメ\ンガミ)」
「懐㊦トコロ＋→懐紙㊦トコロガミ」
「新聞シンブン＋→新聞紙シンブンガミ」
「畳タトー＋→畳紙タト\ーガミ」
「化粧ケショー＋→化粧紙ケショ\ーガミ (第2 ケショーガミ)」

- 「移りウツリ＋→移り紙ウツリ\ガミ」
「油アブラ＋→油紙アブラ\ガミ」
「板目イタメ＋→板目紙イタメ\ガミ（第2イタメガミ）」
「落としオトシ＋→落とし紙オトシ\ガミ」
「桜サクラ＋→桜紙サクラ\ガミ」
「力㊦カラ＋→力紙㊦カラ\ガミ」
「襖㊧スマ＋→襖紙㊧スマ\ガミ」
「枕マクラ＋→枕紙マクラ\ガミ」
「鑢ヤスリ＋→鑢紙ヤスリ\ガミ」
「吉野ヨシノ＋→吉野紙ヨシノ\ガミ」
「包み㊨ツミ＋→包み紙㊨ツミ\ガミ」
「桐油トーユ＋→桐油紙トーユ\ガミ（第2トーユガミ）」
「漉き入れ㊩キイレ＋→漉き入れ紙㊩キイレ\ガミ」
- 「塚㊪カ\」 2語：「庚申コーシン＋→庚申塚コーシンズカ」
「比翼ヒヨク＋→比翼塚ヒヨク\ズカ」
- 「珠タマ\」 1語：「算盤ソロバン＋→算盤珠ソロバنداマ」
- 「足アシ\」 18語：「左ヒダリ＋→左足ヒダリアシ」
「煽リアオリ＋→煽り足アオリ\アシ」
「勇みイサミ＋→勇み足イサミ\アシ（第2イサミアシ）」
「急ぎイソギ＋→急ぎ足イソギ\アシ」
「刻みキザミ＋→刻み足キザミ\アシ」
「探りサグリ＋→探り足サグリ\アシ（第2サグリアシ）」
「忍びシノビ＋→忍び足シノビ\アシ」
「脂アブラ＋→脂足アブラ\アシ」
「後ろウシロ＋→後ろ足ウシロ\アシ（第2ウシロアシ）」
「盗みヌスミ＋→盗み足ヌスミ\アシ」
「運びハコビ＋→運び足ハコビ\アシ」
「力㊦カラ＋→力足㊦カラ\アシ」
「千鳥チドリ＋→千鳥足チドリ\アシ」
「鳶トンビ＋→鳶足トンビ\アシ」
「乱れミダレ＋→乱れ足ミダレ\アシ」
「戻りモドリ＋→戻り足モドリ\アシ」
「1本イッポン＋→1本足イッポ\ンアシ」
「踏み切りフミキリ＋→踏み切り足フミキリ\アシ」
- 「杵ワク\」 2語：「捕獲ホカク＋→捕獲杵ホカク\ワク」
「融資ユーシ＋→融資杵ユーシ\ワク」
- 「鱒マス\」 1語：「桜サクラ＋→桜鱒サクラ\マス」

付録 ローゼン連濁語彙

pp232-237

Appendix A. Comnounds with N1 or N2 greater than 2mora 215 words

Words are arranged alphabetically by English gloss of N2

+ 「袋」

hotaru-bukuro "firefly bag" "a plant"

karni-bukuro "paper bag"

kawa-bukuro "hide bag"

nuka-buk-uro "rice.bran bag"

nuno-bukuro "cloth bag"

sumi-bukuro "ink bag"

sunu-bukuro "sand bag"

+ 「鉢巻」

siro-hatimaki "white bandana"

+ 「床」

hukuro-doko "bag bed"

+ 「蜂」

suzume-bati sparrow bee "a type of bee"

+ 「腹」

onna-bars woman belly "woman who only bears girls"

otoko-bara male belly "woman who only bears boys"

+ 「鳥」

miiyako-dori "capital bird"

+ 「刀」

yama-gatana "mountain blade"

+ 「船」

katuo-bune "mackerel boat"

takara-bune "treasure boat"

+ 「堺」

kuni-zakai "country border"

sio-zakai "tide border"

+ 「箱」

kagami-bako "mirror box"

kusuri-bako "medicine box"

suzuri-bako "ink.slab box"

+ 「汁」

tanuki-ziru raccoon broth "a broth"

usio-ziru saltwater broth "Japanese bouillabaise"

inaka-ziru "hometown broth"

sizimi-ziru "corbicula broth"

+ 「仏」

ara-botoke new Buddha "newButhe"

nodo-botoke throat Buddha "boneinthethroat"
 isi-botoke "stone Buddha"
 + 「腰」
 yanagi-gosi "willow buttocks"
 + 「曆」
 hasira-goyomi "pillar calendar"
 + 「車」
 tuzi-guruma, crossroads car "an old car"
 + 「鯉」
 nisiki-goi "brocade carp"
 + 「車」
 ito-guruma thread cart
 Yoko-guruma side cart "interference"
 kata-guruma "shoulder cart"
 kaza-guruma "wind cart"
 kosi-guruma "loins cart"
 mizu-guruma "water cart"
 usi-guruma "ox cart"
 + 「桜」
 ito-zakura thread cherry "a plant"
 kuzu-zakura lcuzu cherry "a cherry"
 siba-zakura brushwood cherry "a plant"
 yama-zakura "mountain cherry"
 + 「櫃」
 yoroi-bitu "armour chest"
 + 「雲」
 hituzi-gumo "sheep cloud"
 iwasi-gumo "sardine cloud"
 madara-gumo "spots cloud"
 uroko-gumo "fish.scale cloud"
 + 「曇り」
 haru-gumori "spring cloudiness"
 yuki-gumori "snow cloudiness"
 + 「柱」
 maru-basira "cylindrical column"
 + 「蓋」
 suzuri-buta "inlc.slab cover"
 + 「蟹」
 kabuto-gani "helmet crab"
 + 「鴉」
 tabi-garasu trip crow "wanderer"
 + 「冠」
 yama-kanmuri "mountain crown"
 + 「机」

waki-zukue "site desk"
+ 「紙」
husuma-gami "sliding door paper"
+ 「油粕」
abura-kasu oil dregs "oil dregs"
+ 「埃」
wata-bokori "cotton dust"
+ 「庇」
yuki-bisasi "snow eaves"
+ 「端」
irori-bata "hearth edge"
+ 「敵」
koi-gataki "love enemy"
+ 「口」
minato-guti "port entrance"
omote-guff "face entrance"
+ 「畑」
kuri-batake "chestnut field"
kuwa-batake "mulberry field"
magi-batake "barley field"
negi-batake "green.onion field"
+ 「魚」
ao-zakana green fish " a bluish fish"
nama-zakana "raw fish"
sio-zakana "salt fish"
+ 「旗」
musiro-bata "straw.mat flag"
+ 「花」
makura-bana "pillow flower"
+ 「額」
neko-bitai "cat forehead"
+ 「林」
kuri-bayasi "chestnut forest"
matu-bayasi "pine forest"
su-bayasi "cedar forest"
take-bayasi "bamboo forest"
+ 「羽織」
natu-baori summer fonnal.coat "summer coat"
+ 「框」
mado-kamati "tree framework"
+ 「蛙」
ama-gaeru rainfrog "a small, green frog"
ao-gaeru green frog "green frog"
+ 「袋」

nosi-bukuro "wrapped gift"
 + 「神」
 malcura-gami "pillow god"
 + 「袴」
 huzi-bakama wisteria gown "a plant"
 kawa-bakama hide gown
 + 「衣」
 isi-goromo "stone gown"
 + 「袴」
 kosi-bakama "loins gown"
 + 「衣」
 natu-goromo "summer gown"
 + 「袴」
 yuki-bakama "snow gown"
 + 「草」
 hotaru-gusa firefly grass "a plant"
 hituzi-gusa "sheep grass"
 + 「癖」
 onna-guse "woman habit"
 + 「髮」
 usiro-gamii rear hair "hair at back of head"
 + 「頭」
 sio-gasira salt head
 hata-gasira "flag head"
 nami-gasira "wave head"
 + 「心」
 hito-gokoro person heart
 hotoke-gokoro Buddha heart "a heart as kind as Buddha"
 musume-gokoro daughter heart "young girl"
 oya-gokoro "parent heart "
 sato-gokoro hometown heart "missing one's hometown"
 sita-gokoro under heart "concealed plans"
 sozoro-gokoro involuntary heart "restless heart"
 tana-gokoro shelf heart
 lcane-dokoro "money heart"
 koi-gokoro "love heart"
 mizu-gokoro "water heart"
 nasake-gokoro "sentiment heart"
 onna-gokoro "woman heart"
 otoko-gokoro "male heart"
 otome-gokoro "woman heart"
 tabi-gokoro "trip heart"
 uo-gokoro "fish heart"
 uta-gokoro "song heart"

yamato-gokoro "Japan heart"
+ 「墨」
abura-zumii oil ink "an ink"
+ 「懷」
yama-hutokoro mountain inside
+ 「凧」
yakko-dako samurai.steward kite "a type of kite"
+ 「節」
katuo-busi mackerel knot "dried mackerel"
narnari-busi lead knot "a food"
+ 「梯子」
nawa-basigo "rope ladder"
+ 「蟬」
abura-zemi oil locust "an insect"
+ 「藥」
abura-gusuri oil medicine "oil medicine"
miizu-gusuri "water medicine"
ugai-gusuri "gargle medicine"
+ 「金」
karasu-gane crow metal
+ 「申」
hituzi-saru sheep monkey "a zodiacal sign"
+ 「茸」
nezumi-dake mouse mushroom "a plant"
+ 「鴉」
yabu-garasi "bush mustard"
+ 「隣」
mata-donari next next.door "two doors away"
saki-donari tip next-door
hidari-donari "left next-door"
higasi-donari "east next-door"
migi-donari "right next.door"
+ 「柱」
hana-basira "bridge of nose"
+ 「紙」
abura-gami oil paper "oil paper"
tikara-gami "strength paper"
yasuri-gami "file(tool) paper"
+ 「桐」
abura-giri oil paulownia "a tree"
+ 「柿」
yamato-gaki "Japan persimmon"
+ 「柱」
ho-basira sail pillar "mast"

kai-basira seashell pillar "adductor muscle"
 maki-basira pine pillar "gold-covered woodwork"
 mizu-basira water pillar "waterspout"
 oya-basira parent pillar "main pillar of house"
 simo-basira frost pillar "ice-needles"
 ka-basira "mosquito pillar"
 miya-basira "shrine pillar"
 naka-basira "middle pillar"
 sode-basira "sleeve pillar"
 waki-basira "side pillar"
 + 「所」
 kome-dokoro "rice place"
 soba-dokoro "buckwheat place"
 uti-butokoro "inside pocket"
 + 「粥」
 azuki-gayu red.bean porridge "rice porridge with beans"
 + 「川」
 izumi-gawa "spring river"
 + 「綱」
 ikari-zuna "anchor rope"
 inoti-zuna "life rope"
 + 「柱」
 hito-basira "human sacrifice"
 + 「侍」
 ao-zamurai green samurai "young samurai"
 inaka-zamurai hometown samurai "unsophisticated samurai"
 kuni-zamurai "country samurai"
 + 「方」
 musume-gata daughter shape "young girl"
 onna-gata woman shape "male kabuki actor who plays women"
 + 「形」
 kami-katati "hair shape"
 kao-katati "face shape"
 + 「型」
 namako-gata "sea_cucumber shape"
 uroko-gata "fish.scale shape"
 + 「棚」
 hukuro-dana "ban shelf "
 + 「貝」
 hotaru-gai firefly shell "a shellfish"
 karasu-gai crow shell "a shell"
 sizimi-gai corbicula shell "a shellfish"
 taira-gai "flat shell"
 + 「側」

minami-gawa "south side "
hidari-gawa "left side"
higasi-gawa "east side"
omote-gawa "face side"
usiro-gawa "rear side"
+ 「印」
tuna-zirusi "horse sign"
+ 「絹」
hurui-ginu "sieve silk"
+ 「皮」
omote-gawa "face skin"
+ 「褌」
hidari-zuma "left skirt"
+ 「坂」
onna-zaka "woman slope"
otoko-zaka "male slope"
+ 「煙」
mizu-kemuri "water smoke"
sio-kemuri "salt smoke"
suna-kemuri "sand smoke"
yuld-icemuri "snow smoke"
yuu-kemuri "hot-water smoke"
+ 「事」
sozoro-goto involuntary speech "relationship"
+ 「蜘蛛」
hulcuro-gumo "bag spider"
+ 「梯子」
hito-basigo person stairs
+ 「俵」
kome-dawara rice straw.bag "bag of ice"
sumi-dawara "ink straw.bag"
+ 「力」
soko-zikara "bottom strength"
ude-zikara "arm strength"
+ 「寿司」
suzume-zusi sparrow susi "a type of sushi"
+ 「畳」
ao-datami green tatami "fresh tatami"
isi-datami stone tatami "cobblestone road"
iwa-datami "rock tatami"
sode-datami "sleeve tatami"
toko-datami "bed tatami"
yabu-datami "bush tatami"
+ 「葺」

kawara-buki "roof.tile thatch"

+ 「瓦」

namalco-gawara "sea-cucumber tile"

oni-gawara "ogre tile"

+ 「木」

tokiwa-gi everlasting tree "evergreen"

+ 「声」

ibiki-goe "snore voice"

namida-goe "tear voice"

+ 「蔵」

takara-gura "treasure warehouse"

pp238-241

Appendix B:N1:2mora N2:1mora:133 words

Words are listed alphabetically by the English gloss of N2.

+ 「背」

yama-se "mountain back"

+ 「斑」

sira-hu "white blemish"

+ 「？」

kuro-ho "white cheek"

+ 「子」

ami-ko net child

ana-go hole child "conger eel"

mizu-go water child "newborn"

sato-go hometown child "adopted child"

sira-ko white child "albino"

sun-a-go sand child "sand"

kami-ko "paper child"

naka-go "middle child"

oni-go "ogre child"

saka-go "inverse child"

tera-ko "temple child"

uzi-ko "household child"

+ 「日」

hata-bi "flag day"

huyu-bi "winter day"

mono-bi "thing day"

naka-bi "middle day"

natu-bi "summer day"

+ 「戸」

ama-do "rain door"

ami-do "net door"

ita-do "board door"

iwa-to "rock door"

tuma-do "wife door"

+ 「端」

tosi-ha year edge "very young"

+ 「田」

iwa-ta rock field (personal family name)

sima-da island field (family name)

ao-ta "green field"

doro-ta "mud field"

mizu-ta "water field"

tana-da "shelf field"

yama-da "mountain field"
 + 「火」
 hana-bi flower fire "fireworks"
 kado-bi corner fire
 kuti-bi mouth fire "pilot light"
 mata-bi crotch fire
 sita-bi "lower fire"
 sumi-bi "charcoal fire"
 tane-bi "seed fire"
 + 「粉」
 siru-ko soup flour "red bean soup"
 ao-ko "green flour"
 isi-ko "stone flour"
 kuzu-ko "arrowroot flour"
 mugi-ko "barley flour"
 soba-ko "buckwheat flour"
 + 「砥」
 ara-to "chaff grindstone"
 + 「毛」
 ao-ge green hair "hair the colour of horses"
 kuse-ge habit hair "unmanageable hair"
 eda-ge "branch hair"
 huyu-ge "winter hair"
 kuri-ge "chestnut hair"
 mayu-ge "eyebrow hair"
 muda-ge "useless hair"
 natu-ge "summer hair"
 saka-ge "inverse hair"
 sira-ga "white hair"
 tora-ge "tiger hair"
 wata-ge "cotton hair"
 + 「手」
 hito-de person hand "starfish"
 kara-te empty hand "karate"
 kuma-de bear hand "gardening tool"
 kumo-de cloud hand
 mote-de origin hand "(financial) capital"
 oku-te interior hand "a child slow to grow up"
 uwa-te upper hand "more qualified person"
 yama-te mountain hand "sickle"
 asa-de "shallow hand"
 hira-te "palm hand"
 iwa-te "rock hand"
 migi-te "right hand"

saka-te "sake hand"
simo-te "lower hand"
sita-te "lower hand"
ura-te "rear hand"
yoko-te "side hand" (also yoko-de)
+ 「葉」
koto-ba speak leaf "word"
ao-ba "green leaf"
eda-ha "branch leaf"
matu-ba "pine leaf"
sita-ba "lower leaf"
uwa-ba "upper leaf"
+ 「簣」
take-su "bamboo mat"
+ 「蚊」
yabu-ka "bush mosquito"
+ 「瀬」
asa-se "shallow rapids"
+ 「餉」
asa-ge morning rice "breakfast"
+ 「田」
wase-da "early rice field"
+ 「帆」
sira-ho "white sail"
+ 「蚕」
haru-go "spring silkworm"
natu-go "summer silkworm"
+ 「氣」
iro-ke colour spirit "sexy"
kana-ke metal spirit "metal"
mizu-ke water spirit "moisture"
musi-ke insect spirit "insect"
sio-ke salt spirit "salty"
siru-ke soup spirit "watery"
+ 「氣」
uti-ki "inside spirit"
yama-gi "mountain spirit"
yama-ke "mountain spirit"
+ 「日」
asa-hi "morning sun"
nisi-bi "western sun"
+ 「洲」
sira-su "white tidal area"
+ 「瀬」

sio-ze "current tide"
+ 「齒」
musi-ba insect tooth "decayed tooth"
oni-ba "ogre tooth"
sita-ba "lower tooth"
uwa-ba "upper tooth"
+ 「木」
hizi-ki elbow tree "a seaweed"
kubi-ki neck tree
yana-gi fish.weir tree "willow"
ao-ki "green tree"
kazi-ki "rudder tree"
maru-ld "circle tree"
moto-ld "original tree"
nama-ki "live tree"
nami-ki "row tree"
oya-ki "parent tree"
sira-ki "white tree"
ude-gi "arm tree"
ume-ki "plum tree"
ura-ki "rear tree"
yoko-gi "side tree"
+ 「酢」
musi-su insect vinegar
+ 「砥」
kawa-to "leather whetstone"
+ 「羽」
sira-ha "white wing"
+ 「木」
ara-ki "rough wood"
+ 「黄」
asa-gi "pale yellow"

+ 「上」
kaza-kami wind above "windward"
+ 「灰」
isi-bai "stone ash"
wara-bai "straw ash"
+ 「玉」
mayu-dama "cocoon ball"
oya-dama parent ball "boss"
huna-darna "boat ball"
yuki-dama "snow ball"
mizu-tama "water ball"
kimo-dama wind ball "spirit"
kani-tama "crab ball"
+ 「竹」
oya-dake "parent bamboo"
sino-dake bamboo bamboo "a bamboo"
ao-dake "green bamboo "
sao-dake "pole bamboo"
+ 「筐」
kuma-zasa "bear bamboo.grass"
tama-zasa "ball bamboo.grass"
+ 「笠」
suge-gasa "sedge bamboo.hat"
+ 「型」
huyu-gata winter basis "winter"
yama-gata mountain basis
+ 「風呂」
uti-buro "inside bath"
asa-buro "morning bath"
oke-buro "bucket bath"
mizu-buro "water bath"
soto-buro "outside bath"
musi-buro insect bath "steam"
suna-buro "sand bath"
iwa-buro "rock bath"
+ 「浜」
suna-hama "sand beach"
hasi-geta "bridge beam"
+ 「熊」
ana-guma "hole bear"
+ 「床」

kana-toko "metal bed"
 nuka-doko "bran bed"
 + 「蜂」
 ume-bati "plum bee"
 kuma-bati "bear bee"
 + 「腹」
 kayu-bara "porridge belly"
 huna-bara "boat belly"
 yoko-bara "side belly"
 sita-hara "lower belly (also -tiara, -para)"
 sato-bara hometown belly
 wald-bara "side belly"
 mizu-bara "water belly"
 + 「橋」
 tutu-hasi "crane bridge"
 + 「鳥」
 natu-dori "summer bird"
 koma-dori "shoogi.piece bird"
 huyu-dori "winter bird"
 mizu-tori "water bird"
 niwa-tori garden bird "chicken"
 tuni-dori "sea bird"
 yama-dori "mountain bird"
 oya-dori "parent bird"
 + 「船」
 mizu-bune "water boat"
 yane-bune "roof boat"
 halco-tune box boat "ark"
 saka-bune "opposite boat"
 ami-bune "net boat"
 oya-bune "parent boat"
 kaki-bune "oyster boat"
 sasa-bune "bamboo.gass boat"
 + 「骨」
 hiza-bone "knee bone"
 kosi-bone "hip bone"
 naka-bone "middle bone"
 muda-bone useless bone "useless effort"
 + 「靴」
 yuki-gutu "snow boots"
 ama-gutu "rain boots"
 sita-gutu "lower boots"
 doro-gutu "mud boots"
 wara-gutu "straw boots"

uwa-gutu "upper boots"
 kawa-gutu "leather boots"
 kana-gutu "metal boots"
 + 「底」
 kutu-zoko "boots bottom"
 ito-zoko "thread bottom"
 nabe-zoko "pan bottom"
 huna-zoko "boat bottom"
 naka-zoko "middle bottom"
 yunii-zuru "bow bowstring"
 + 「箱」
 kusi-bako "skewer box"
 hari-bako needle box "sewing box"
 kami-bako "paper box"
 geta-bako "geta box"
 esa-bako bait box "feeding box"
 kugi-bako "nail box"
 kara-bako "empty box"
 buta-bako pig box "jail"
 kuzu-bako "trash box"
 kane-bako "metal box"
 + 「橋」
 isi-basi "stone bridge"
 ita-basi board bridge "bridge"
 + 「際」
 kabe-giwa "wall side"
 yama-giwa "mountain side"
 mizu-giwa "shrine side"
 mado-giwa "window side"
 + 「縁」
 huna-beri "boat side"
 + 「尻」
 mayu-ziri "eyebrow buttocks"
 nawa-ziri "rope buttocks"
 + 「恋」
 iro-koi colour love "love"
 + 「城」
 yama-ziro "mountain castle "
 hira-ziro "flat castle"
 + 「墨」
 maym-zumi "eyebrow charcoal "eyebrow pencil"
 + 「炭」
 eda-zumi "branch charcoal"
 + 「栗」

nama-guri "raw chestnut"
siba-guri "brushwood chestnut"
+ 「櫃」
mesi-bitu "food chest,tub"
+ 「箸」
sugi-basi "cedar bridge"
take-basi "bamboo chopsticks"
+ 「爪」
koto-zume "harp claw"
+ 「裾」
yama-suso mountain cliff "foot.of.mtn"
+ 「絹」
kata-ginu shoulder clothing (different morheme than kinu "
+ 「雲」
mura-kumo "clump cloud"
natu-gumo "summer cloud"
yami-kumo dark cloud "blindly"
kaza-gumo "wind cloud"
hata-gumo "flag cloud"
asa-gumo "morning cloud"
yoko-gumo "side cloud"
yuki-gumo "snow cloud"
wata-gumo "cotton cloud"
ama-gumo "rain clouds"
+ 「楡」
yoko-gusi "side comb"
+ 「国」
yama-guni "mountain country"
yuki-guni "snow country"
kita-guni "north country"
sima-guni "island country"
+ 「蟹」
yasi-gani "palm crab"
sawa-gani "swamp crab"
ebi-gani "shrimp crab"
+ 「蔓」
imo-zuru "potato vine"
nabe-zuru pan crane "handle"
+ 「螻」
musi-kera insect cricket "worthless insect"
+ 「筒」
take-zutu "bamboo cylinder" (pipe=tutu)
+ 「露」
ame-tuyu "rain dew"

asa-tuyu "morning dew"
 + 「皿」
 hira-zara "flat dish"
 isi-zara "stone dish"
 + 「粕」
 mame-kasu "bean dregs"
 + 「糞」
 mune-kuso "breast dung"
 boro-kuso rag dung "disparaging"
 mimi-kuso ear dung "ear wax"
 + 「土」
 doro-tuti "mud earth"
 kabe-tuti "wall earth"
 toko-tuti "bed earth"
 niwa-tuti "garden earth"
 soko-tuti "bottom earth"
 + 「面」
 uma-zura "horse face"
 soto-zura "outside face"
 yoko-tura side face "side of face"
 + 「顔」
 asa-gao morning face "morning glory"
 maru-gao "round face"
 yoko-gao "side face"
 + 「面」
 hige-zura beard factura "unshaven face"
 + 「垣」
 siba-gaki "brushwood fence"
 tama-gaki "ball fence"
 isi-gaki "stone fence"
 take-gaki "bamboo fence"
 sugi-gaki "cedar fence"
 sode-gaki "sleeve fence"
 tomo-gaki companion fence "friend"
 hime-gaki "princess fence"
 + 「原」
 siba-hara "brushwood field"
 + 「端」
 yama-bata "mountain side"
 + 「原」
 suna-hara "sand field"
 sino-hara "bamboo field"
 mate-bara "pine field "
 kuwa-bara "mulberry field"

sasa-hara "bamboo.grass field"
 + 「簾」
 siri-bire "buttock fin"
 + 「端」
 miti-bata "path side"
 huna-bata "boat side"
 urni-bata "sea side"
 + 「花」
 kusa-bana "grass flower"
 sio-bana "salt flower"
 muda-bana "useless flower"
 + 「笛」
 mugi-bue "barley flute"
 musu-bue "insect flute"
 yoko-bue "side flute"
 kusa-bue grass flute "reed pipe"
 kizi-bue "pheasant flute"
 siba-bue "brushwood flute"
 asi-bue foot flute "reed"
 nodo-bue throat flute "throat"
 sino-bue "bamboo flute"
 tuno-bue "horn flute"
 kuti-bue mouth flute "whistle"
 yubi-bue "finger flute"
 + 「蠅」
 ao-bae "green fly "
 uma-bae "horse fly"
 + 「下」
 kaza-simo wind frost "wind"
 + 「園」
 hana-zono "flower garden"
 + 「神」
 oni-gami "ogre god"
 uzi-gami "family god"
 + 「草」
 turu-kusa "vine grass"
 ao-kusa "green grass"
 ume-kusa "plum grass"
 mizu-kusa "water grass"
 sita-kusa "under grass"
 miti-kusa "path grass"
 huyu-kusa "winter grass"
 haru-kusa "spring grass"
 buta-kusa "pig grass"

nana-kusa "seven grass"
 natu-kusa "summer grass"
 tami-kusa "people grass"
 + 「癖」
 kami-kuse "hair habit"
 sake-guse "sake habit"
 asi-kuse foot habit "way of walking"
 kuti-guse mouth habit "way of speaking"
 nana-kuse "seven habit"
 + 「髮」
 eri-gami collar hair "collar"
 mizu-gami water hair
 + 「銚」
 yama-boko "mountain halberd"
 lcama-boko bullrush halberd "a food"
 + 「槌」
 kana-zuti "metal hammer" tutu.-hammer
 + 「側」
 ura-gawa "rear side"
 vrani-gawa "crocodile hide"
 obi-kawa "belt hide"
 turn-kawa "claw hide"
 narna-lcawa "raw hide"
 + 「塚」
 wara-zuka straw hillock "tomb or mound"
 kubi-zuka "neck hillock"
 + 「柄」
 kine-zuka "mallet hilt"
 + 「腰」
 mono-gosi thing hip "mariner"
 ebi-gosi "shrimp hip"
 kinu-gosi "silk hip"
 maru-gosi "circle hip"
 + 「櫃」
 komee-bitu "rice chest"
 + 「里」
 mura-zato "village hometown"
 hito-zato "person hometown"
 yarna-zato "mountain hometown"
 ura-zato "rear hometown"
 iro-zato colour hometown "prostitute district"
 + 「殼」
 kai-gara "seashell husk"
 momi-gara "unhulled.rice husk"

wara-zuto "straw husk"
+ 「墨」
nabe-zumi pan ink "charcoal"
+ 「仮名」
hira-gana flat kana "syllabary"
+ 「窯」
sumi-gama "charcoal kiln"
+ 「節」
hone-busi "bone knot"
+ 「彦」
yama-biko mountain lad "echo"
+ 「蓋」
naka-butā "middle lid"
nabe-butā "pan lid"
ura-butā "rear lid"
+ 「肝」
suna-gimo "sand liver"
ara-gimo "rough liver"
+ 「蟬」
natu-zemi "summer locust"
yuu-zemi "evening locust"
haru-zemi "spring locust"
+ 「肥」
moto-goe "origin manure"
kane-goe metal manure "fat"
haru-goe "spring manure"
mizu-goe water manure "fat"
sabi-goe rust manure
+ 「代」
nori-siro paste materials "overlap width in margin"
saka-siro sake materials "money for sake"
+ 「殻」
soba-gara soba materials "husks"
+ 「丈」
waki-take "side measure"
sode-take "sleeve measure"
+ 「金」
muda-gane useless metal "money"
obi-gane "belt metal"
ara-gane "green metal"
ura-gane rear metal "dishonest money"
ara-gane chaff metal
sita-gane "under metal"
hari-gane needle metal "wire"

kuti-gane mouth metal
tubo-gane "pot metal"
hizi-gane elbow metal
+ 「霧」
asa-giri "morning mist"
yuu-giri "evening mist"
+ 「猿」
yama-zaru "mountain monkey"
+ 「月」
simo-tuki frost moon "eleventh month"
yuu-zuki "evening moon "
+ 「苔」
sugi-goke "cedar moss"
ao-goke "green moss"
mizu-goke "water moss"
+ 「口」
uma-guti horse mouth
yama-guti "mountain entrance"
kizu-guti "wound mouth"
kado-guti "corner entrance"
muda-guti "useless mouth"
wani-guti crocodile mouth "wallet"
mado-guti "window entrance"
mise-guti "shop entrance"
kata-guti shoulder mouth
ura-guti "rear entrance"
ito-guti "thread entrance"
sode-guti "sleeve entrance"
tutu-guti "pipe entrance"
koi-guti carp mouth
kaza-guti "wind entrance"
+ 「茸」
matu-take "pine mushroom"
+ 「漬」
ao-bana "green nasal.discharge"
mizu-bana "water nasal.discharge;tear"
+ 「針」
kagi-bari key needle "crochet hook"
kinu-bari "silk needle"
+ 「鼻」
kagi-bana key nose "hooked nose"
+ 「口」
kage-guti key mouth "talking behind someone's back"
+ 「蠣」

nama-gaki "raw oyster"
 + 「紙」
 kasa-gami "umbrella paper"
 iro-gami "colour paper"
 hari-gami "paste paper"
 tane-gami "seed paper"
 tiri-gami dust paper "tissue"
 yoko-gami "side paper"
 wara-gami "straw paper"
 ita-gami "board paper"
 ao-gami "green paper"
 uwa-gami "upper paper"
 kata-gami "type paper"
 hasi-gami "dried paper"
 nosi-gami dried.sea_ear.ceremonially.attached.to.gifk.wrap paper
 kabe-gami "wall paper"
 obi-gami "belt paper"
 + 「崎」
 miya-zaki shrine peninsula (placename)
 tani-zaki valley peninsula (placename)
 + 「民」
 kuni-tami "country people "
 + 「柿」
 kusi-gaki skewer persimmon "persimmons dried on skewers"
 taru-gaki "barrel persimmon"
 + 「人」
 miya-bitō shrine person "courtier"
 sato-bitō "hometown person"
 yama-bitō "mountain person"
 huna-bitō "boat person"
 tumi-bitō "sin person"
 tabi-bitō "trip person"
 koi-bitō love person "lover"
 mura-bitō "village person"
 uta-bitō "song person"
 + 「瓣」
 hana-bira "flower petal"
 + 「鳩」
 kizi-bato "pheasant pigeon"
 yama-bato "mountain pigeon"
 + 「竿」
 hata-zao "flag pole"
 take-zao "bamboo pole"
 tori-zao "bird pole"

+ 「粥」
 asa-gayu "morning porridge"
 imo-gayu "potato porridge"
 + 「杭」
 hasi-gui "bridge post"
 + 「釜」
 sio-gama "salt pot"
 soto-gama "outside pot"
 + 「姫」
 uta-hime "somg princess"
 + 「薦」
 wara-gomo "straw reed.for.matting"
 ara-gomo "rough reed.used.for.matting"
 + 「米」
 nama-gome "raw rice"
 + 「川」
 yana-gawa "willow side"
 naka-gawa "middle side"
 eda-gawa "branch side"
 yodo-gawa muddy river (placename)
 isi-kawa stone river (proper name)
 tani-gawa "valley river"
 yama-gawa "mountain river"
 + 「綱」
 yoko-zuna side rope "sumo champion"
 + 「酒」
 asa-zake "morning sake"
 uma-zalce "horse sake"
 nama-zake "raw sake"
 masu-zake "measure sake"
 taru-zake "barrel sake"
 sio-zake "salt salmon"
 + 「塩」
 yama-zio "mountain salt"
 + 「種」
 momi-dane "unhulled.rice seed"
 mono-dane thing seed
 imo-dane "potato seed"
 tuya-dane dew seed
 + 「枷」
 kubi-kase neck shackles
 asi-kase "foot shackles"
 + 「笠」
 matu-kasa "pine shade"

+ 「型」

yama-gata "mountain shape"
kuwa-gata hoe shape "an insect"
kasa-gata umbrella shape
nami-gata "wave shape"
hana-gata flower shape "floral pattern"
masu-gata "measure shape"
kusi-gata "skewer shape"
asi-gata "foot shape"
maru-gata "circle shape"
yumi-gata "bow shape"
kumo-gata "bear shape"
hizi-gata "elbow shape"

+ 「鮫」

wani-zame "crocodile shark"

+ 「莢」

kinu-saya "silk sheath"

+ 「店」

ura-dana "rear shelf"
kami-dana "god shelf"
iwa-dana "rock shelf"
ami-dana "net shelf"
huzi-dana "wisteria shelf"

+ 「貝」

tori-gai bird shell "a shellfish"
mizu-gai "water shell"
ao-gai "green shell"
sio-gai "salt shell"
hora-gai cave shell "lie"

+ 「方」

eri-kata collar shoulder

+ 「側」

migi-gawa "right side"
uti-gama "inside side"
soto-gawa "outside side"
nisi-gawa "west side"
kita-gawa "north side "
uwa-gawa "upper side"
ura-gawa "rear side"

+ 「紫蘇」

ao-ziso "green siso"

+ 「串」

tama-gusi "ball skewer"
kana-gusi "metal skewer"

+ 「皮」
 ara-kawa "chaff skin"
 sugi-kawa "cedar skin"
 momi-gawa "unhulled.rice skin"
 uwa-kawa "upper skin"
 huno-kawa "cord skin"
 + 「空」
 hosi-zora star sky "starry sky"
 ao-zora "blue sky"
 ama-zora "rainy sky"
 natu-zora "summer sky"
 + 「坂」
 yama-saka "mountain slope"
 + 「汁」
 buta-ziru "pork soup"
 imo-ziru "potato soup"
 miso-siru "miso soup"
 + 「籠」
 take-bera "bamboo spatula"
 kutu-bera shoe spatula "shoehorn"
 + 「事」
 hito-goto person thing "stranger's business"
 sora-goto "empty thing"
 + 「靈」
 koto-dama thing spirit
 + 「杖」
 soba-zue "side staff=tue"
 + 「星」
 nuka-bosi bran star
 + 「莖」
 mizu-guki water stem
 + 「倉」
 kama-kura sickle storehouse (placename)
 iwa-kura rock storehouse {placename}
 huna-gura "boat storehouse"
 kane-gum "metal storehouse"
 ana-gura "hole storehouse"
 saka-gura "sake storehouse"
 kome-gura "rice storehouse"
 + 「紐」
 kawa-himo "leather string"
 kutu-himo boots string "shoelace"
 + 「縞」
 yoko-zima "side stripe"

taki-zima "waterfall stripe"
 + 「寿司」
 huna-zusi "flatfish sushi"
 + 「沢」
 uta-zawa song swamp
 sio-zawa "salt swamp"
 kana-zawa metal swamp (placename)
 + 「？」
 kome-kami rice temple (of head)
 + 「寺」
 yama-dera "mountain temple"
 + 「葺」
 kaya-buki "grass thatch"
 + 「事」
 ara-goto "rough thing"
 iro-goto colour thing "romantic"
 mono-goto thing thing "thing"
 tuya-goto dew thing "sexual"
 + 「潮」
 oya-sio parent tide "Kurile Current"
 yuu-sio "evening tide"
 + 「時」
 hana-doki "flower time "flowering season"
 hiru-doki "noon time"
 mesi-doki "food time"
 sio-doki salt time "chance, fortuitous timing"
 + 「先」
 asi-saki "foot tip"
 haru-saki "spring tip"
 kata-saki "shoulder tip"
 sio-saki "salt tip"
 sita-saki "tongue tip"
 tabi-saki "trip tip"
 yubi-saki "finger tip"
 tuki-zue "moon tip"
 mise-saki "shop tip"
 kado-saki "corner tip"
 truna-saki "claw tip"
 kuti-saki "mouth tip"
 tutu-saki "pipe tip"
 + 「房」
 ao-busa "green tuft"
 hana-busa flower tuft "bunch of flowers"
 + 「龜」

wino-game "straw.raincoat turtle"
doro-game "mud turtle"
umi-game "sea turtle"
isi-game "stone turtle"
mizu-game "water turtle"
+ 「傘」
ama-gasa "rain umbrella"
ami-gasa "net umbrella"
+ 「底」
tani-s/zoko "valley bottom"
+ 「声」
uta-goe "song voice"
ura-goe "rear voice"
hito-goe "person voice"
+ 「妻」
hito-zuma person wife "someone else's wife"
+ 「花」
kaza-h/bana "wind flower"
+ 「文」
koi-bumi love word "love letter"
+ 「年」
ura-dosi rear year
yuld-dosi snow year
+ 「年」 ?
momo-tose "hundred years"

pp254-256

Appendix D: Compounds with second members that never experience voicing:(Include for reference are some compounds with long first members.)

+ 「上」

kami "above"

kaza kami wind above "windward"

ura-kami rear upper (part of larger compound)

+ 「恋」

koi "love"

iro koi colour love

+ 「裾」

suso "cliff"

yama suso mountain cliff,foot.of.mtn

+ 「螻」

kera "cricket"

musi kera insect cricket

+ 「露」

tuyu "dew"

ame tuyu rain dew

+ 「糟」

kasu "dregs"

maame kasu bean dregs

bura kasu oil dregs

+ 「糞」

kuso "dung"

mune kuso breast dung

boro kuso rag dung

mimi kuso ear dung "ear wax"

+ 「土」

tuti "earth"

doro tuti mud earth

kabe tuti wall earth

toko tuti bed earth

niwa tuti garden earth

soko tuti bottom earth

+ 「代」

siro "materials"

nori siro paste materials "overlap width in margin"

saka siro sake materials

+ 「丈」

take "measure"

waki take side measure

sode take sleeve measure

+ 「茸」

take "mushroom"
 matu take pine mushroom
 ami-gasa-take morel mushroom;
 anzu-take chanterelle mushroom;
 doku-take a mushroom;
 enold-take a mushroom
 + 「民」
 tami "people"
 kuni tami country people
 + 「姫」
 hime "princess"
 uta hime song princess
 + 「枷」
 kase "shackles"
 kubi kase neck shackles
 asi kase foot shackles
 + 「笠」
 kasa "shade"
 matu kasa pine shade
 + 「肩」
 kata "shoulder"
 eri kata collar shoulder
 + 「紐」
 himo "string"
 kawa himo leather string
 kutu himo boots string "shoelace"
 + 「潮」
 sio "tide"
 oya sio parent tide Kurile Current
 yuu sio evening tide
 + 「先」
 said "tip"
 asi saki foot tip
 haru saki spring tip
 kata said shoulder tip
 sio said salt tip
 sita said tongue tip
 tabi saki trip tip
 yubi said finger tip
 mise said shop tip
 kado said corner tip
 tuma said claw tip
 kuti said mouth tip
 tutu said pipe tip

pp257-277

Appendix E. Compounds whose second member usually or always voices.

+ 「灰」

hai "ash"

isi bai stone ash

wars bai straw ash

+ 「鱗」

hire "fin"

siri bire buttock fin

+ 「竹」

take "bamboo"

oya dake parent bamboo

sino dake bamboo bamboo

ao dake green bamboo

sao dake pole bamboo

ma dake long-jointed bamboo

+ 「筐」

sasa "bamboo grass"

kuma zasa bear bamboo.grass

tama zasa ball bamboo.grass

+ 「笠」

kasa "bamboo hat"

suge gasa sedge bamboo.hat

+ 「型」

kata "basis"

huyu gata winter basis

yama gata mountain basis

+ 「風呂」

huro "bath"

uti buro inside bath

asa buro morning bath

oke buro bucket bath

mizu buro water bath

soto bum outside bath

musi buro insect bath

sum buro sand bath

iwa buro rock bath

otoko bum bath for men

sio bum saltwater bath

also non-Yamato:

roten buro open.air bath

toruko bum Turkish bath "brothel"

+ 「桁」

keta "beam"
hasi geta bridge beam
+ 「熊」
kuma "bear"
ana guma hole bear "badger"

non-noun and non-Yamato:

arai-guma badger
hokkyoku guma polar bear
kuro g/kuma black bear
yae guma layers of clouds (same kanji?)

+ 「蜂」

hati "bee"
ume bad plum bee
kuma bad bear bee
suzume bad sparrow bee

+ 「腹」

hara "belly"
kayu bara porridge belly
hung bars boat belly
yoko barn side belly
sato bara hometown belly
waki bara side belly
mizu bara water belly
sita b/b/para lower belly (variable outputs)
otoko bara male belly
alma bara woman belly

+ 「船」

hune "boat"
mizu bune water boat
yane bune roof boat
hako bune box boat "ark"
saka bune sake boat
ami bune net boat
oya buns parent boat
kaki bune oyster boat
sasa bune bamboo.grass boat
katuo bune mackerel boat
takara bune treasure boat
yo bune night boat

NAME:kuro hune black ships
lira-kawa yo-hune to be fast asleep and oblivious
+ 「骨」

hone "bone"
hiza bone knee bone
kosi bone hip bone
naka bone middle bone
muds, bone useless bone "waste of time"
abara bone rib bone
ago bone jawbone
hoo bone cheekbone
karigane bone shoulder blade
se bone spine

yatai bone framework

+ 「靴」

kutu "boot, shoe"

yuki gutu snow boots

ama gutu rain boots

sita gutu lower boots

doro gutu mud boots

wara gutu straw boots

uwa gutu upper boots

kawa guts leather boots

kana gutu metal boots

nonnoun

amiage guts high lace shoes

huru gutu old shoes

han guts low shoes

hannaga gutu fairly high shoes

+ 「底」

soko "bottom"

kutu zoko boots bottom

ito zoko thread bottom

nabe zoko pan bottom

huna zoko boat bottom

naka zoko middle bottom

yumi zuru bow bowstring=turu

tani koko valley bottom

huna zoko ship's bottom

hira zoko plain botom "flat botom"

mare zoko circle botom "round bottom"

non-Yamato noun

ni-zyuu zoko twenty botom double sole

don zoko very bottom
+ 「箱」
hako "box"
buta bako pig box "police cell"
esa bako bait box
geta bako gets box "shoe rack"
gomi-bako garbage box
hari bako needle box "sewing box"
Nude-bako pencil box
kami bako paper box
kane bako metal box
kara bako empty box
kugi bako nail box
kusi bako skewer box
kusuri-bako medicine box
kuzu bako trash box
su-bako nest box, hive
takara-bako treasure box "strong box"
to-bako hand box "small box for valuables"
uwa-bako outer box
suzuri bako ink slab box
kusuri bako medicine box
kagami bako mirror box
Id bako woden box
sigoto bako work box

non Yamato etc.

zeni bako cash box
yuubinsisyo bako mailbox
sinkoku bako suggestion box
bentoo bako lunch box
tyokin bako savings box
hon bako bookcase
in bako seal box
zizen bako charity box
zyuu bako nest of boxes
kesyoo bako cosmetics box
+ 「橋」
hasi "bridge"
keta base girder bridge
maru-ki basi log bridge
isi basi stone bridge
ita basi board bridge "bridge"

huna hasi pontoon
 + 「際」
 kiwa "brink"
 kabe giwa wall brink
 yama giwa montain brink
 mizu giwa water brink
 mado giwa window brink
 hac giwa receding hairine
 nami-uti giwa beach
 te giwa hand brink "skill"
 + 「縁」
 heri "brink"
 huna bed boat brink
 + 「尻」
 siri "buttocks"
 mayu ziri eyebrow buttocks
 nawa ziri rope buttocks
 + 「城」
 siro "castle"
 yama ziro mountain castle (But placename rama-siro north of the ancient capital Nara)
 hira ziro palm castle
 + 「炭」
 sumi "charcoal"
 mayu zumi eyebrow charcoal
 eda zumi branch charcoal
 + 「栗」
 kurt "chestnut"
 nama gun raw chestnut
 siba gun brushwood chestnut
 + 「櫃」
 hitu "chest, tub"
 mesi bitu food chest,tub
 + 「箸」
 hasi "chopsticks"
 sugi basi cedar chopsticks
 take basi bamboo chopsticks
 hi basi tongs
 + 「爪」
 tume "claw"
 koto zume harp claw=tume
 + 「絹」
 kinu "silk"
 kata ginu shoulder clothing *different kanji than silk

+ 「櫛」
 kusi "comb"
 yoko gusi side comb
 + 「国」
 kuni "country"
 yama guni mountain country
 yuki guni snow country
 kita guni north country
 sima guni island country
 waga kuni our land
 + 「蟹」
 kani "crab"
 yasi gani palm crab
 sawa gani swamp crab
 ebi gani shrimp crab
 + 「鶴」
 turu "crane" (bird)
 imo zuru potato crane
 nabe zuru pan crane=turu
 + 「筒」
 tutu "pipe"
 take zutu bamboo cylinder,pipe=tutu
 + 「皿」
 sara "dish"
 hira zara palm dish
 isi zara stone dish
 + 「顔」
 kao "face"
 asa gao morning face "morning glory"
 mutt gao circle face
 yoko gao side face
 + 「垣」
 kaki "fence"
 siba gaki brushwood fence
 tama gaki ball fence
 isi gaki stone fence
 take gaki bambo fence
 sugi gall cedar fence
 code gaki sleeve fence
 tomo gall companion fence
 hime gaki princess fence
 + 「鱗」 (重複例)
 hire "fin"
 siri hire buttock fin

+ 「旗」
 hata "flag"
 mid bata path flag
 huna bata boat flag
 umi bata sea flag
 + 「花」
 hana "flower"
 kusa bana grass flower
 sio bana salt flower
 muda bana useless flower
 kaza h/bana wind flower
 sakura-bana cherry flower
 beni-bana rouge flower "safflower"
 ada bana non fruit bearing flower
 hi bana spark
 me bana female flower
 + 「笛」
 hue "flute"
 mugj bue barley flute
 musj bue insect flute
 yoko bue side flute
 kusa bue grass flute "reed pipe"
 kizi bue pheasant flute
 siba bue brushwood flute
 asi bue foot flute
 nodo bue throat flute
 sino bue bambo flute
 tuno bue horn -flute
 kuti bue mouth flute
 yubi bue finger flute
 + 「蠅」
 hae "fly"
 ao bae green fly
 uma bae horse fly
 + 「園」
 sono "garden"
 hana zono flower garden
 + 「神」
 kami "god"
 oni gami ogre god
 uzi gami family god
 + 「髮」
 kami "hair"
 eri gami collar hair

mizu gami water hair
 + 「鋸」
 hoko "halberd"
 yama boko mountain halberd
 kama boko bullrush halberd
 + 「槌」
 tuti "hammer"
 kana zuti metal hamme tuti=hammer
 + 「塚」
 tuka "hillock"
 wara zuka straw hillock=tuka (suff?)
 kubi zuka neck hillock=tuka (zuka listed as suffix)
 + 「柄」
 tuka "hilt"
 kine zuka mallet hiltuka
 + 「腰」
 kosi "hip"
 mono gosi thing hip
 ebi gosi shrimp hip
 kinu gosi silk hip
 mare gosi circle hip
 yanagi gosi willow hip
 + 「櫃」 (前にめし櫃)
 hitu" chest,coffer,tub"
 kome bitu rice
 + 「里」
 sato "hometown"
 mum zato village hometown
 hito zato person hometown
 yama zato mountain hometown
 ura zato rear hometown
 iro zato colour hometown
 + 「殻」
 kara "husk"
 kai gara seashell husk kara=husk
 momi gara unhulled.rice husk
 boo "husk"
 + 「苞」
 wara zuto straw husk=tuto
 + 「墨」
 sumi "ink"
 nabe zumi pan ink
 + 「仮名」
 kana "script"

hira gana palm kana
 + 「窯」
 kama "kiln"
 sumi gams charcoal kiln
 + 「節」
 husi "knot" (in grain of wood)
 hone busi bone knot
 + 「彦」
 hiko "lad"
 yama biko mountain lad
 + 「蓋」
 huta "lid"
 nalca buta middle lid
 nabe buta pan lid
 ura buta rear lid
 + 「肝」
 Idmo "liver"
 suna gimo sand liver
 ara gimo rough liver
 + 「蟬」
 semi "locust"
 natu zemi summer locust
 yuu zemi evening locust
 ham zemi spring locust
 + 「肥」
 koe "manure, compost"
 moto goe origin manure
 kane goe metal manure
 haru goe spring manure
 mizu goe water manure
 sabi goe rust manure
 + 「穀」(重複?)
 kara "materials"
 soba gars soba materials
 + 「金」
 kane "metal"
 muda gane useless metal
 obi gane belt metal
 ura gane rear metal
 ara gane chaff metal
 sita gane white metal
 hari gane needle metal
 kuti gane mouth metal
 tubo gane pot metal

hizi gane elbow metal
+ 「霧」
kiri "mist"
asa gin morning mist
yuu giri evening mist
+ 「猿」
saru "monkey"
yama zaru mountain monkey
+ 「苔」
koke "moss"
sugi goke cedar moss
ao goke green moss
mizu goke water moss
+ 「口」
kuti "mouth"
uma guti horse mouth
yama guti mountain mouth
izu guti wound mouth
kado guti corner mouth
muda guti useless mouth
wani guti crocodile mouth
mado guti window mouth
mise guti shop mouth
kata guti shoulder mouth
ura guti rear mouth
ito guti thread mouth
sode guti sleeve mouth
tutu guti pipe mouth
koi guti carp mouth
kaza guti wind mouth
+ 「洩」
hana "nasal discharge"
ao bana green nasal.discharge
mizu bana water nasal.discharge;tear
+ 「針」
hari "needle"
kagi ban key needle
kinu bari silk needle
+ 「鼻」
hana "nose"
kagi bans key nose
+ 「口」 (重複?)
kuti "mouth"
kage guti key mouth

+ 「牡蠣」

kaki "oyster"

nama gall raw oyster

+ 「紙」

kami "paper"

kasa gami umbrella paper

iro gami colour paper

hari gami needle paper

tane gami seed paper

tiri gami dust paper

yoko gami side paper

wara gami straw paper

ita gami board paper

ao gami green paper

uwa gami upper paper

kata gami type paper

hasi gami chopsticks paper

nosi ami dried-sea-ear paper

kabe gami wall paper

obi gami belt paper

husuma gami sliding door paper

hana gami tissue paper

+ 「埼」

saki "peninsula"

miya zaki shrine peninsula

tarsi zaki valley peninsula (pnxn.)

+ 「柿」

kaki "persimmon"

kusi gaki skewer persimmon "persimmons dried on skewers"

taro gaki barrel persimmon

+ 「人」

hito "person"

miya bito shrine person

sato bito hometown person

yama bito mountain person

huna bito boat person

tumi bito sin person

tabi bito trip person

koi bito love person lover

mura bito village person

uta bito song person

+ 「片」

Kira "petal"

hana bira flower petal

+ 「鳩」
 hato "pigeon"
 kizi bato pheasant pigeon
 yama bato mountain pigeon
 + 「竿」
 sao "pole"
 hata zao flag pole
 take zao bamboo pole
 tori zao bird pole
 + 「粥」
 kayo "porridge"
 asa gayu morning porridge
 imo gayu potato porridge
 + 「杭」
 kui "post"
 hasi gui bridge post
 + 「釜」
 kama "pot"
 sio gama salt pot
 soto gama outside pot
 + 「薦」
 komo "straw reed.for.matting"
 warn gomo straw reed.for.matting
 ara gomo rough reed.used.for.matting
 + 「米」
 korne "rice"
 nama gome raw rice
 + 「川」
 kawa "river"
 yana gawa willow river
 naka gawa middle river
 eda gawa branch river
 yodo gawa muddy river placename
 tarsi gawa valley river
 yama gawa mountain river
 + 「綱」
 tuna "rope"
 yoko zuna side rope
 + 「酒」
 sake "sake"
 asa zake morning sake
 uma zake horse sake
 nama zake raw sake
 masu zake measure sake

tam zake barrel sake
sio zake salt salmon
+ 「塩」
sio "salt"
yamazio mountain salt
+ 「種」
tane "seed"
momi dane unhulled.rice seed
mono dane thing seed
imo dane potato seed
tuya dane dew seed
+ 「形」
kata (shortened form of katati "shape")
yama gata mountain shape
kuwa gata hoe shape
kasa gata umbrella shape
nami gata wave shape
hana gata flower shape "floral pattern"
masu gata measure shape
kusi gata skewer shape
asi gata foot shape
mare gata circle shape
yumi gata bow shape
kumo gata bear shape
hizi gata elbow shape
+ 「鮫」
same "shark"
wani zame crocodile shark
+ 「棚」
tana "shelf"
ura dana rear shelf house in alley
kami dana god shelf
iwa dana rock shelf
ami dana net shelf
huzi dana wisteria shelf
kami dana household shrine
to dana cupboard
iwa tana rock shelf "ledge"
+ 「貝」
kai "seashell"
tori gai bird shell
mizu gai water shell
ao gai green shell
sio gai salt shell

hors gai cave shell (not clear if this is the right hora)

+ 「側」

kawa "side"

migi gawa right side

uti gams inside side

soto gawa outside side

nisi gawa west side

kita gawa north side

uwa gawa upper side

ura gawa rear side

+ 「紫蘇」

siso "siso" (a leaf used in cooking)

ao ziso green siso

kat "skewer"

tarna gusi ball skewer

kana gusi metal skewer

+ 「空」

sora "sky"

ao zora blue sky

ama zora rainy sky

natu zora summer sky

huyu zora

hosi zora

naka zora

yo zora night sky

+ 「籠」

hera "spatula"

take bera bamboo spatula

kutu bera shoe spatula "shoehorn"

+ 「言」

koto "speech"

hito goto person speech

sora goto sky speech

+ 「靈」

tama "spirit"

koto dama speech spirit

+ 「杖」

tue "staff"

soba zue side staff=tue

+ 「星」

host "star"

nuka bosu bran star

+ 「茎」

kuki "stem"

mizu guki water stem
+ 「倉」
kura "storehouse"
huna gura boat storehouse
kane gura metal storehouse
ana gura hole storehouse cellar
saka gura sake storehouse
kome gura rice storehouse]

(rendaku blocked in the following two placenames:)

kama kura sickle storehouse (placename)
iwa kura rock storehouse {placename}
+ 「縞」
sima "stripe"
yoko zima side stripe
taki zima waterfall stripe
+ 「鯨」
susi "sushi"
huna zusi boat sushi
+ 「沢」
sawa "swamp"
yone zawa hulled.rice swamp (prt of larger compd)
uta zawa song swamp
sio zawa salt swamp
kana zawa metal swamp (placename)
+ 「寺」
tern "temple"
yama dera mountain temple
+ 「葺」
huki "thatch"
kaya buki grass thatch
+ 「事」
koto "thing"
ara goto rough thing
iro goto colour thing
mono goto thing thing
tuya goto dew thing
+ 「時」
toki "time"
hana doki flower time "flowering season"
hiru doki noon time
mesi doki food time
sio doki salt time

+ 「房」

husa "tuft"

ao busa green tuft

Nana busa flower tuft "bunch of flowers"

+ 「亀」

kame "turtle"

mino game straw.raincoat turtle

doro game mud turtle

umi game sea turtle

isi game stone turtle

mizu game water turtle

+ 「妻」

tuma "wife"

hito zuma person wife

+ 「文」

humi "word"

koi humi love word humi=word

+ 「年」

tosi "year"

ura dosi rear year

yuki dosi snow year

(but rendaku blocked in the related form tose:

momo tose hundred years

+ 「玉」

tama"ball"

mizu tama water ball

kani tama crab ball

mayu dama cocoon ball

oya dama parent ball "boss"

huna dama boat ball

yuki dama snow ball

kimo dama wind ball

+ 「雲」

kumo "cloud"

mum kumo clump cloud

yami kumo dark cloud

natu gumo summer cloud

kaza gumo wind cloud

hata gumo flag cloud

asa gumo morning cloud

yoko gumo side cloud

yuki gumo snow cloud

wata gumo cotton cloud
ama gumo rain clouds
uroko gumo fish.scale cloud
iwasi gumo sardine cloud
hituzi gumo sheep cloud
madara gismo spots cloud
+ 「鳥」
tori "bird"
mizu tori water bird
niwa tori garden bird "chicken" one K one morph?
koma dori shoogi.piece bird
huyu diri winter bird
umi dori sea bird
yama dori mountain bird
oya dori parent bird
miyako dori shrine bird
+ 「汁」
siru "soup, broth"

miso siru miso soup

sizimi ziru torbicula broth
inaka ziru hometown broth
tanulci ziru raccoon broth
usio ziru saltwater broth
buta ziru pig soup
imo ziru potato soup

pp278-279

Appendix F. Compounds with second members that resist voicing:

+ 「原」

hara "field"

siba hara brushwood field

sunahara sand field

sino hara bamboo field

no-hara field field

sasahara bamboo.grass field

hagihara reedy field

una-bara ocean field

tono-bars nobility field

matu-bara pine field "pine grove"

kuwabaraberry field

+ 「草」

kusa "grass"

ao kusa green grass

butakusa pig grass

hamkusa spmg grass

huyukusa winter grass

ira-icusa thorn-grass nettle

karakusa Chinese grass arabesque

mitikusa path grass

mizukusa waer grass

nanakusa seven grass

natukusa summer grass

sibakusa brushwood grass lawn

sirakusa white grass

sitakusa under grass "undergrowth"

tamikusa people grass

turnkusa vine grass

umekusa plum grass

hituzigusa sheep grass

hotarugusa firefly grass

no-gusa wild grasses

mo-gusa duckweed-grass water plants

+ 「癖」

kuse "habit"

kamikuse hair habit

sakekuse sake habit

asi kuse foot habit "way of walking"
nana kuse seven habit

kuti buse mouth habit

+ 「皮」

kawa "skin"

ara kawa chaff skin

sugi kawa cedar skin

uwa kawa upper skin

hint kawa cord skin

momi gawa unhulled.rice skin

tilcara-gawa leather stirrup

Nana-gawa nose leather "toe cover for clogs"

ke-gawa hair leather "pelt"

付録 アクセント調査用紙

母語：

母方言：

以下は外国人の方のみ記入：

日本語の学習歴： 年 ヶ月 日本語レベル： JLPT N

(なお、知らない単語がある場合には、
後の「知らない単語チェック」の□に✓お入れてください)

日本語標準語（方言で問題に答えないでください）についての質問である：

問題一 次の名詞は、後の（ ）にアクセントが表示されている。他の名詞と複合して複合名詞（下線部分）になると、複合名詞のアクセントは、選択肢の A, B, C, D のどれになるか。あなたが適切だと思うすべての選択肢に○をつけてください（複数選択可）。各選択肢は2回ずつ発音する。

(アクセント記号について： = は 平板型、音の高さの下がり目がない

┘ は アクセント核位置、音の高さが下がる場所)

「知らない単語チェック」

(知らない場合、✓を入れてください)

例：文明（ぶんめい=） → 古代文明

Ⓐ. こだいぶ┘んめい B. こだいぶんめ┘い C. こだいぶんめい=

①御田（おで┘ん） → 味噌おでん

A. みそお┘でん B. みそおで┘ん C. みそおでん=

②男（おとこ┘） → 雨男

A. あめお┘とこ B. あめおと┘こ C. あめおとこ=

③油（あぶら=） → ごま油

A. ごまあ┘ぶら B. ごまあぶ┘ら C. ごまあぶら=

④化粧（けしよ┘う） → 薄化粧

A. うすげ┘しょう B. うすげしよ┘う C. うすげしょう=

⑤蛤（はま┘ぐり） → 焼き蛤

A. やきは┘まぐり B. やきはま┘ぐり
C. やきはまぐ┘り D. やきはまぐり=

⑥焼酎（しょうちゆ┘う） → 芋焼酎

A. いもじよ┘うちゆう B. いもじょうちゆ┘う
C. いもじょうちゆう=

- ⑦大臣 (だ ー いじん) → 総理大臣
- A. そうりだ ー いじん B. そうりだいじ ー ん
C. そうりだいじん＝
- ⑧月夜 (つき ー よ) → 星月夜
- A. ほしづ ー きよ B. ほしづき ー よ C. ほしづきよ＝
- ⑨一つ (ひと ー つ) → 今一つ
- A. いまひ ー とつ B. いまひと ー つ C. いまひとつ＝
- ⑩カリフォルニア (カリフォルニア＝) → 南カリフォルニア
- A. みなみカ ー リフォルニア B. みなみカリフォル ー ニア
C. みなみカリフォルニア＝
- ⑪日本 (にほ ー ん) → 西日本
- A. にしに ー ほん B. にしにほ ー ん C. にしにほん＝
- ⑫針師 (はり ー し) → 女針師
- A. おんなは ー りし B. おんなはり ー し C. おんなはりし＝
- ⑬先生 (せんせ ー い) → 校長先生
- A. こうちょうせ ー んせい B. こうちょうせんせ ー い
C. こうちょうせんせい＝
- ⑭申請 (しんせい＝) → 加盟申請
- A. かめいし ー んせい B. かめいしんせ ー い
C. かめい＝・しんせい＝
- ⑮撫子 (なで ー しこ) → 大和撫子
- A. やまとな ー でしこ B. やまとなで ー しこ
C. やまとなでし ー こ D. やまとなでしこ＝
- ⑯地獄 (じごく ー) → 受験地獄
- A. じゅけんじ ー ごく B. じゅけんじご ー く
C. じゅけんじごく＝
- ⑰神宮 (じんぐ ー う) → 明治神宮
- A. めいじじ ー んぐう B. めいじじんぐ ー う
C. めいじじんぐう＝
- ⑱カルシウム (カルシ ー ウム) → 塩化カルシウム
- A. えんかカ ー ルシウム B. えんかカルシ ー ウム
C. えんかカルシウム＝

- ⑱ 沢山 (たくさ ㄱ ㄴ) → 盛り沢山
- A. もりだ ㄱ ㄴ さん B. もりだ ㄱ ㄴ さん C. もりだ ㄱ ㄴ さん
D. もりだ ㄱ ㄴ さん =
- ⑲ 歯車 (はぐ ㄱ ㄴ ㄹ ㅁ) → 内歯車
- A. うち は ㄱ ㄴ ㄹ ㅁ B. うち は ㄱ ㄴ ㄹ ㅁ C. うち は ㄱ ㄴ ㄹ ㅁ
D. うち は ㄱ ㄴ ㄹ ㅁ =
- ⑳ 砂糖 (さと ㄱ ㄴ ㄹ) → 黒砂糖
- A. ㄱ ㄴ ㄹ ㅁ B. ㄱ ㄴ ㄹ ㅁ C. ㄱ ㄴ ㄹ ㅁ =
- ㉑ 点睛 (てんせい =) → 画竜点睛
- A. ㄱ ㄴ ㄹ ㅁ B. ㄱ ㄴ ㄹ ㅁ C. ㄱ ㄴ ㄹ ㅁ =
D. ㄱ ㄴ ㄹ ㅁ =
- ㉒ 提灯 (ちょうち ㄱ ㄴ) → 絵提灯
- A. え ㄱ ㄴ ㄹ ㅁ B. え ㄱ ㄴ ㄹ ㅁ C. え ㄱ ㄴ ㄹ ㅁ =
- ㉓ 生活 (せいかつ =) → 共同生活
- A. ㄱ ㄴ ㄹ ㅁ B. ㄱ ㄴ ㄹ ㅁ C. ㄱ ㄴ ㄹ ㅁ =
D. ㄱ ㄴ ㄹ ㅁ =
- ㉔ 団扇 (うち ㄱ ㄴ ㄹ) → 岐阜団扇
- A. ㄱ ㄴ ㄹ B. ㄱ ㄴ ㄹ C. ㄱ ㄴ ㄹ =
- ㉕ 図書館 (としょ ㄱ ㄴ) → 市立図書館
- A. しりつ と しょ ㄱ ㄴ B. しりつ と しょ ㄱ ㄴ
C. しりつ と しょ ㄱ ㄴ =
- ㉖ 試験 (しけ ㄱ ㄴ) → 模擬試験
- A. もぎ し ㄱ ㄴ B. もぎ し ㄱ ㄴ C. もぎ し ㄱ ㄴ =
- ㉗ 眼鏡 (め ㄱ ㄴ ㄹ ㅁ) → 虫眼鏡
- A. む し め ㄱ ㄴ ㄹ ㅁ B. む し め ㄱ ㄴ ㄹ ㅁ C. む し め ㄱ ㄴ ㄹ ㅁ =
- ㉘ 境 (さか ㄱ ㄴ ㄹ) → 国境
- A. ㄱ ㄴ ㄹ B. ㄱ ㄴ ㄹ C. ㄱ ㄴ ㄹ =
- ㉙ 取引 (とり ㄱ ㄴ ㄹ ㅁ) → 現金取引
- A. ㄱ ㄴ ㄹ ㅁ B. ㄱ ㄴ ㄹ ㅁ C. ㄱ ㄴ ㄹ ㅁ =
D. ㄱ ㄴ ㄹ ㅁ =
- ㉚ 茶飯事 (さは ㄱ ㄴ ㄹ ㅁ) → 日常茶飯事
- A. に ㄱ ㄴ ㄹ ㅁ B. に ㄱ ㄴ ㄹ ㅁ

C. にちじょうさはんじ＝

問題二 次の名詞のアクセントは、選択肢の a, b のどれになるか。複合した後の複合名詞（下線部分）のアクセントは選択肢の A, B, C, D のどれになるか。あなたが適切だと思うすべての選択肢に○をつけてください（複数選択可）。各選択肢は2回ずつ発音する。

（知らない場合、✓を入れてください）

例：普請（a. ふしん＝、b. ふし ㄱん） → 仮普請

A. かりぶ ㄱしん B. かりぶし ㄱん C. かりぶしん＝

①心（a. ここ ㄱろ、b. こころ ㄱ） → 親心

A. おやご ㄱころ B. おやごこ ㄱろ C. おやごころ＝

②機関（a. き ㄱかん、b. きか ㄱん） → 交通機関

A. こうつうき ㄱかん B. こうつうきか ㄱん C. こうつうきかん＝

③年寄り（a. としよ ㄱり、b. としより ㄱ） → 奥年寄

A. おくど ㄱしより B. おくどし ㄱより

C. おくどしよ ㄱり D. おくどしより＝

④若布（a. わ ㄱかめ、b. わか ㄱめ） → 新若布

A. しんわ ㄱかめ B. しんわか ㄱめ C. しんわかめ＝

⑤鋏（a. はさみ ㄱ、b. はさ ㄱみ） → 紙鋏

A. かみば ㄱさみ B. かみばさ ㄱみ C. かみばさみ＝

⑥正直（a. しょうじ ㄱき、b. しょうじき ㄱ） → ばか正直

A. ばかしょ ㄱうじき B. ばかしょうじ ㄱき

C. ばかしょうじき＝

⑦剃刀（a. かみそ ㄱり、b. かみそり ㄱ） → 電気剃刀

A. でんきか ㄱみそり B. でんきかみ ㄱそり

C. でんきかみそ ㄱり D. でんきかみそり＝

⑧巾着（a. きんちゃ ㄱく、b. きんちゃく ㄱ） → 腰巾着

A. こしぎ ㄱんちゃく B. こしぎんちゃ ㄱく C. こしぎんちゃく＝

⑨卵（a. たま ㄱご、b. たまご＝） → 温泉卵

A. おんせんた ㄱまご B. おんせんたま ㄱご C. おんせんたまご＝

⑩地方（a. ちほ ㄱう、b. ち ㄱほう） → 関東地方

A. かんとうち ㄱほう B. かんとうちほ ㄱう C. かんとうちほう＝

⑪所帯 (a. しょた 〕い、b. しょ 〕たい) → 新所帯
 A. しんじょ 〕たい B. しんじょた 〕い C. しんじょたい=

⑫金持ち (a. かねも 〕ち、b. かねもち 〕) → 大金持ち
 A. おおが 〕ねもち B. おおがね 〕もち
 C. おおがねも 〕ち D. おおがねもち=

⑬海原 (a. うなばら=、b. うな 〕ばら) → 大海原
 A. おおう 〕なばら B. おおうな 〕ばら
 C. おおうなば 〕ら D. おおうなばら=

アクセントに関する知識

- アクセントの記号は見たことがあるか。
 A. ある B. ない
- 単語の発音を聞いて、あなたは正確なアクセント記号をつけられるだろうか。
 A. できる B. まあまあできる C. あまりできない D. できない
- 後部要素が 3・4 拍の複合名詞のアクセント規則を書いてください。音はどこで下がるか、下がる場所を考えてください。あなたが正しいと思うすべての選択肢に○を付けてください。(複数選択可)
 (アクセント記号について：= は 平板型、音の高さの下がり目がない
 〕 は アクセント核位置、音の高さが下がるどころ)

後部要素のアクセント

複合名詞アクセント

- | | | | | |
|--------|-------------|-------------|-------------|------------|
| ○ 〕○○ | A. ~+○ 〕○○ | B. ~+○○ 〕○ | C. ~+○○○= | |
| ○○ 〕○ | A. ~+○ 〕○○ | B. ~+○○ 〕○ | C. ~+○○○= | |
| ○○○ 〕 | A. ~+○ 〕○○ | B. ~+○○ 〕○ | C. ~+○○○= | |
| ○○○= | A. ~+○ 〕○○ | B. ~+○○ 〕○ | C. ~+○○○= | |
| ○ 〕○○○ | A. ~+○ 〕○○○ | B. ~+○○ 〕○○ | C. ~+○○○ 〕○ | D. ~+○○○○= |
| ○○ 〕○○ | A. ~+○ 〕○○○ | B. ~+○○ 〕○○ | C. ~+○○○ 〕○ | D. ~+○○○○= |
| ○○○ 〕○ | A. ~+○ 〕○○○ | B. ~+○○ 〕○○ | C. ~+○○○ 〕○ | D. ~+○○○○= |
| ○○○○ 〕 | A. ~+○ 〕○○○ | B. ~+○○ 〕○○ | C. ~+○○○ 〕○ | D. ~+○○○○= |
| ○○○○= | A. ~+○ 〕○○○ | B. ~+○○ 〕○○ | C. ~+○○○ 〕○ | D. ~+○○○○= |

4. 後部要素が 3・4 拍の複合名詞のアクセント規則について、ほかに何かアクセント規則を知っていれば、自由に書いてください：